

授業名	総合基礎演習 x a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	自ら考え・自ら調べ・自ら対話し、他者とのコミュニケーションをはかる。							
学習成果到達目標	1) 学習の方法と基礎学力の向上を図る。 2) 関心や目的意識を喚起することを目標とする。 3) 自分の考えていることを他者に伝えることができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	担当教員が授業中に提示する。							
参考書	『第12回京都検定 問題と解説』 『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』 週刊朝日百科『新発見 日本の歴史』全50冊							
留意事項	日本史・京都の歴史を研究する2年間であるという目的意識をもって授業にのぞむこと。 歴史学研究の基礎を学ぶ。そのため漢字辞書・国語辞書・歴史辞典、古語辞典などを必ず用いること。インターネットの情報には頼らないこと(ネットの情報は間違いが多いため)。							
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		総合基礎演習 x a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンスと自己紹介	(内 容) この授業の狙いを説明する (必要な準備) シラバスを熟読すること(15分)。	
第2回	第12回京都検定3級試験問題 歴史・史跡・神社・寺院・建築・庭園・美術・芸術・文化・祭り と行事	(内 容) 第12回京都検定3級試験問題 前半 (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第3回	第12回京都検定3級試験問題 京料理と京菓子 ・京都のならわし・言葉と伝説・京都の地名・自然 と観光	(内 容) 第12回京都検定3級試験問題 後半 (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第4回	第12回京都検定3級試験問題の実施	(内 容) 試験の実施と答え合わせ (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第5回	縄文・弥生・古墳時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第6回	飛鳥時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第7回	飛鳥時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第8回	奈良時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第9回	平安時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第10回	鎌倉時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第11回	室町時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第12回	戦国史研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第13回	江戸時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第14回	近現代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第15回	合同ゼミ事前学習	(内 容) グループ毎に研修先の事前学習をする。 (必要な準備) グループで研修先の下調べをしておく(60分)。	

授 業 名	総合基礎演習 x b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	土井 哲治			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	<p>華頂短期大学で学ぶための基礎能力を修得するために、資料や文献の集め方、読み方、レジメの作成方法、及び発表・討議の仕方を学ぶ。材料としては、年中行事を取り上げる。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 学習方法の基本が分かっている。 2) 年中行事について十分な知識を得て説明できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック							
参 考 書	授業時に適宜紹介する。							
留 意 事 項	発表担当の時は、十分に調べ発表用資料も各自で用意する。非担当の時も、テーマについて事前学習をし、発言できるようにしておく。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に適宜知らせる。							

授 業 名		総合基礎演習 x b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入 京都検定学習 1	(内 容) 授業概要の説明と京都検定学習 1 (必要な準備) 入学前学習の総括	
第2回	京都検定学習 2	(内 容) 京都検定 3 級の内容について学習する。 (必要な準備) テキスト該当箇所の予習	
第3回	京都検定学習 3	(内 容) 京都検定 3 級の内容について学習する。 (必要な準備) テキスト該当箇所の予習	
第4回	京都検定模擬試験	(内 容) 京都検定 3 級の内容について試験する。 (必要な準備) 出題範囲の予習	
第5回	年中行事について	(内 容) 学習材料について説明すると共に、調べ方及び発表内容と方法について講義し、担当を決める。 (必要な準備) 配付資料を通覧しておく。	
第6回	葵祭について	(内 容) 葵祭について発表し討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第7回	夏越しの払えについて	(内 容) 夏越しの払えについて発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第8回	尽日について	(内 容) 尽日について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第9回	上巳について	(内 容) 上巳について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第10回	端午について	(内 容) 端午について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第11回	七夕について 1 日本由来	(内 容) 七夕について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第12回	七夕について 2 中国由来	(内 容) 七夕について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第13回	祇園祭について	(内 容) 祇園祭について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第14回	秋学期研修前学習合同ゼミ 1	(内 容) 秋学期研修にむけた事前学習を 2 回生と合同で行う。 (必要な準備) 配付資料の精読	
第15回	秋学期研修前学習合同ゼミ 2 まとめ	(内 容) 秋学期研修にむけた事前学習を 2 回生と合同で行うと共に、春学期の授業を総括する。 (必要な準備) 必要事項の下調べ	

授業名	総合基礎演習 A			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	乳幼児期の教育と保育にかかわる教材研究をとおして、専門知識の習得と主体的に学ぶ姿勢を身につけ課題解決のための方法を知る。							
学習成果到達目標	1) 専門的知識の習得と実践的能力の育成に努める。 2) 人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	随時紹介する							
留意事項	積極的な学習参加を期待する							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合基礎演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要の説明を聞く。自己紹介行う。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)	
第2回	教材研究 地域社会を知る	(内 容) 動物園に見学に行く。保育者としての動物園見学の重要性を考える。 動物をスケッチし観察する能力を養う。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(30分)	
第3回	教材研究 動物園をテーマに壁面製作	(内 容) グループで話し合い、色画用紙を使った壁面製作をする。 (必要な準備) 壁面飾りについて調べておく。(30分)	
第4回	学生研修会	(内 容) 絵本作成の注意点の説明を受ける。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(20分)	
第5回	教材研究 自然観察	(内 容) 鴨川の自然を観察する。 (必要な準備) 研修会レポートを作成しておく。鴨川に生息する生き物を調べておく。(30分)	
第6回	教材研究 劇遊び 声合わせ	(内 容) 台本を気持ちを含めて読んでみる。全員で立ちまわりなどを考える。 (必要な準備) 劇遊びについて調べておく。(30分)	
第7回	教材研究 劇遊び 本番	(内 容) 劇を行う。 (必要な準備) 劇に必要なものを準備をしておく。(60分)	
第8回	教材研究 資料収集	(内 容) 必要な資料収集の方法を知る。図書館見学を行う。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第9回	教材研究 絵本(内容)	(内 容) 保育者の視点をもって絵本を読む。絵本の内容をまとめ資料を作成する。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第10回	教材研究 絵本(絵)	(内 容) 絵の効果について考えながら絵本を読む。絵本の内容をまとめ資料を作成する。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第11回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 保育場面を設定し、絵本をみんなの前で読む。 (必要な準備) 使用する絵本の選定と読み聞かせの練習を行う。(30分)	
第12回	絵本作り(絵本の作り方)	(内 容) 絵本の作り方を説明を聞き、構想をねる。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第13回	絵本作り(内容と絵の構図)	(内 容) 絵本の内容と絵の構図を考え、下書きをする。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第14回	絵本の構想発表	(内 容) 各自絵本の構想発表をする。 (必要な準備) 資料を作成する。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期を振り返り、今後の課題をたてる。 レポート課題の説明を聞く。 (必要な準備) 春学期の振り返りレポートを作成する。(60分)	

授業名	総合基礎演習 B			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	幼児期における音楽との関わりを考察し、また幼児教育での音楽の基礎知識を習得し、自分で表現できる力を養う。							
学習成果到達目標	1) 計画的に練習を行うことができる。 2) 練習の成果を人前でも緊張することなく表現できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (チームワーク	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	実習や、将来保育現場で役立つような実践的な授業を行う中で、特にコミュニケーション能力を付けられるように各自努力すること。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合基礎演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期の授業計画説明 (必要な準備) シラバス・時間割	
第2回	合奏の準備	(内 容) 合奏について説明 (必要な準備) 合奏したい曲を考える。(15分)	
第3回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第4回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第5回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第6回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第7回	動物園見学予定	(内 容) 保育の現場で園児を動物園へ引率することを想定する。 (必要な準備) おたより作成 保育者になったことを考え保護者に出すおたよりを作成(120分)	
第8回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを各自調べてきて歌ってみる。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分) 京都のわらべうたを調べる。(15分)	
第9回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第10回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第11回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第12回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第13回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第14回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第15回	合奏、合唱まとめ	(内 容) 春学期に演奏した曲を発表する。 (必要な準備) すべて練習しておく(120分)	

授 業 名	総合基礎演習 C			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	合奏や合唱の体験を通して、他者と協力・協調しながら物事を達成することを学ぶ。また、子どもに音楽の楽しさを伝えるためには、まず大人が楽しむことが大切であることを身をもって体験する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 合奏・合唱の練習を計画的に行うことができる。 2) 合奏・合唱の練習において、他者と協力することができ、また必要な協議をすることができる。 3) 計画的かつ継続的な練習の結果、合奏曲及び合唱曲の演奏を完成することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると思います。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合基礎演習 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 自己紹介 ゼミの仲間と知り合う。 春学期の授業計画について説明を受け、ゼミとはどのような学びをする授業なのかを学ぶ。 (必要な準備) 自己紹介を考えておく。
第2回	合奏体験への導入	(内 容) 春学期で取り組む合奏について説明する。 演奏曲を決める。 (必要な準備) 合奏してみたい曲を考えておく。
第3回	合奏体験：担当楽器を決める	(内 容) 合奏で用いる様々な楽器に触れる。 担当楽器を決める。 (必要な準備) 担当したい楽器を考えておく。
第4回	合奏体験：パート練習	(内 容) 各パートごとに練習する。教員が見回って各パートを指導する。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第5回	合奏体験：パート練習と合奏	(内 容) 各パートごとに練習した後、全体で合わせてみる。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第6回	合奏体験：パート練習と合奏	(内 容) 各パートごとに練習した後、全体で合わせる。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第7回	学外授業：動物園見学予定	(内 容) 京都市動物園を見学し、子どもの視点に立って生命に触れる意義を考える。 (必要な準備) 幼稚園や保育園で動物園を訪れる意義を考えておく。 動きやすい服装で授業に臨む。
第8回	・京都のわらべ歌を知る ・合奏体験：前々回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌について各自調べ発表する ・合奏練習(前々回からの続き) (必要な準備) 京都のわらべ歌について調べておく。
第9回	・京都のわらべ歌を歌う ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・前回調べた京都のわらべ歌をいくつか歌ってみる ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第10回	・京都のわらべ歌の練習 ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌をさらに歌いこみ、その世界に馴染む。 ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第11回	・京都のわらべ歌の練習：前回からの続き ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌を繰り返し練習する。 ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第12回	歌と合奏を完成させていく。	(内 容) 京都のわらべ歌と合奏を、全体で繰り返し合わせていく。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第13回	歌と合奏の完成度を高める。	(内 容) 京都のわらべ歌と合奏をさらに練習し、完成度を高める。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第14回	歌と合奏を完成させる。	(内 容) 春学期に取り組んできた、京都のわらべ歌と合奏を人前で発表できるように完成させる。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第15回	歌と合奏のまとめ	(内 容) 春学期に取り組んだ歌と合奏を振り返り演奏する。 (必要な準備) 春学期に取り組んだ合唱と合奏をすべて復習しておく。

授業名	総合基礎演習 D			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	子どもの遊びや文化を身近に感じ、自らも体験する中で、乳幼児教育に興味を持って考え学ぶ機会とする。また、ゼミ生同士の交流を図り、お互いに学び合う。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の保育内容を体験し、遊びを通じた学びについて理解することができる。 2) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養い、豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につけることができる。 4) 絵本の制作過程を体験し、保育実践力の1つとして活用できるようになる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業は配布資料や教材を使ってすすめる。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	自らすすんで行動し、コミュニケーションを図り、経験の幅を広げてほしい。							
オフィス アワー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合基礎演習 D	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションと自己紹介	(内 容) ゼミの目的について共通理解し、ゼミ員同士の交流をする。 (必要な準備) シラバスを読んでくる。(20分)	
第2回	子どもの遊びについて	(内 容) 遊びの経験について意見交換し、遊びの種類や内容を学ぶ。 (必要な準備) 幼少期に経験した遊びを思い出し、好きな遊び・知っている遊びをまとめる。(30分)	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 配布資料を読んでくる。(20分)	
第4回	絵本の講座	(内 容) 絵本の魅力、絵本の構成、絵本の作り方について学ぶ。 (必要な準備) 図書館や書店などで絵本を調べる。(60分)	
第5回	絵本の読み聞かせ 1	(内 容) 選んだ絵本について各自紹介し、読み聞かせを行う。 (必要な準備) 絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。(30分)	
第6回	絵本の読み聞かせ 2	(内 容) 選んだ絵本について各自紹介し、読み聞かせを行う。 (必要な準備) 絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。(30分)	
第7回	フィールドワーク	(内 容) 園外保育のスポットに出かけ、体験する。 (必要な準備) 行き先について調べてくる。(20分)	
第8回	仲良し遊び1 教材研究	(内 容) 仲良し遊びについて教材研究をする。 (必要な準備) 仲良し遊びの教材を調べてくる。(60分)	
第9回	仲良し遊び2 演習教材を選ぶ	(内 容) グループに分かれ、演習教材を選び、保育の進め方を考える。 (必要な準備) 選んだ教材・資料を選んでくる。(30分)	
第10回	仲良し遊び3 演習の計画	(内 容) グループ毎に演習の計画表を作成する。 (必要な準備) 計画表を各自考えてくる。(30分)	
第11回	仲良し遊び4 グループ発表	(内 容) グループ毎に遊びを紹介し、全員で演習を行う。 (必要な準備) 配布資料の作成(60分)	
第12回	制作と遊び1 教材制作	(内 容) 保育をイメージしながら、遊びに使う教材を制作する。 (必要な準備) 教材を調べて、材料を準備する。(30分)	
第13回	制作と遊び2 制作教材を使った遊び	(内 容) 作った教材を使って遊ぶ体験をする。 (必要な準備) 遊び方について調べてくる。(30分)	
第14回	絵本の制作1	(内 容) 絵本づくりの取り組みを理解する。ストーリーと場面展開を考える。 (必要な準備) 絵本のストーリーを考えてくる。(90分)	
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期の演習を振り返り、秋学期の取り組みを考える。 (必要な準備) 春学期の内容についてまとめておく。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 E			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	乳幼児期の子どもの遊びや文化（主として絵本）について主体的に考えいく。フィールドワークを通して直接体験の重要性について学ぶ。レポート作成やプレゼンテーションの方法を身につけるとともにゼミ生間の交流を図りコミュニケーション能力を高める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組む姿勢を持つこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合基礎演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的・内容および進め方についての共有化をはかる。 (必要な準備) シラバス・キャンパスライフを読んでおくこと(10分)	
第2回	大学での学びを理解する	(内 容) 学生生活の目標、2年間の学習計画を明確にする。学内散策をし生活環境を把握する。 (必要な準備) 学びの計画と目標を考えておくこと(30分)	
第3回	資格について考える 偏愛マップの作成方法を知る	(内 容) 取得する資格免許について考える。偏愛マップの方法や目的を理解し作成する。 (必要な準備) 将来設計をイメージしておく 週単位の生活を書く(30分)	
第4回	自己紹介・他者と交流する	(内 容) 偏愛マップをもとにコミュニケーションをはかる。他者に関心をもちお互いを理解する。 (必要な準備) 筆記用具。偏愛マップを作成しておく(30分)	
第5回	フィールドワーク (自然環境)	(内 容) 学校周辺を散策し自然を感じる。 (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する。	
第6回	フィールドワーク、偏愛マップの体験を交流する	(内 容) 直接体験について意見交流を行う。 (必要な準備) フィールドワーク、編愛マップ交流についての感想をレポートにまとめておく(30分)	
第7回	フィールドワーク(動物園見学)	(内 容) 動物園へ行き動物とのかかわりを体験する。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第8回	直接体験について	(内 容) 動物園での体験について意見交流を行う。 (必要な準備) 動物園見学・直接体験の意義についてレポートをまとめる(30分)	
第9回	バタバタ絵本制作	(内 容) バタバタ絵本を制作し実践する (必要な準備) 筆記用具・色鉛筆・はさみを持参する。	
第10回	絵本について	(内 容) 絵本の種類、分類について理解する。図書館の絵本について知る。 (必要な準備) 自分の周囲の絵本環境を調べておく(30分)	
第11回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 選んできた絵本を紹介し読み聞かせを行う。選んだ理由やその絵本とのかかわりについて発表する。 (必要な準備) よい絵本を考えて持ってくる。選んだ理由やかかわりをまとめておく。絵本の下読みをしておく(30分)	
第12回	絵本制作のテーマを考える	(内 容) 絵本制作のテーマについて考え、創作絵本の全体構想を考える。 (必要な準備) 筆記用具	
第13回	個人面談 1	(内 容) 学生生活全般について相談する。 (必要な準備) 自分の現状について、将来について考えまとめておく(30分)	
第14回	個人面談 2	(内 容) 学生生活全般について相談する。 (必要な準備) 自分の現状について、将来について考えまとめておく(30分)	
第15回	まとめ・秋学期の課題	(内 容) 春学期の演習を振り返り、秋学期に向けての課題を考える (必要な準備) 春学期を振り返り、秋学期に向けて各自の課題を明確にしておく(60分)	

授業名	総合基礎演習 F			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	名賀 亨			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>新入生が、ゼミは安全で安心できる大学での学びのベース（居場所）であることを確認し、ゼミを拠点にしながら大学生を送るとともに、大学での学びを深めていく。</p> <p>また、子どもの感性や知性の発達を支え育てることのできる人間性豊かな幼児教育者を目指して、人間関係やコミュニケーションあるいはグループワークなどを学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>「自己覚知」「他者認識」「他者との関係性」の意味と重要性を理解することができる。</p> <p>保育の実践現場で活用できる絵本の構想を完成させることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	アクティブラーニングを意識したワークショップ形式で授業を進めていくので、一人ひとりが主体的かつ積極的に参加すること。							
オフィスアワー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合基礎演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 大学で学ぶことの意味について理解する (必要な準備) 高校と大学の授業の違いを整理しておく(30分)	
第2回	ガイダンス	(内 容) ゼミでの学習と実践内容の理解するとともに学習目標を設定する。 (必要な準備) 大学生活の達成目標を考えておく(30分)	
第3回	自己紹介とつながり	(内 容) メンバーの自己紹介を通して関係を創る (必要な準備) 自分自身の特性を整理しておく(30分)	
第4回	ワークショップ 他者との関係性の理解	(内 容) ゼミでの人間関係を通して、他者との関係性について学ぶ (必要な準備) 大学での自分の位置を整理しておく(30分)	
第5回	ワークショップ 自己覚知と価値観の理解	(内 容) 他者との関係性をベースに一人ひとりの違いについて学ぶ。 (必要な準備) 違うということの意味について整理しておく(30分)	
第6回	ワークショップ コミュニケーションの理解	(内 容) 人間関係の基本となるコミュニケーションについて学ぶ (必要な準備) コミュニケーションの意味を整理しておく(30分)	
第7回	ワークショップ グループアプローチの理解	(内 容) グループアプローチやそこに内在する相互作用について学ぶ (必要な準備) グループワークやワークショップを整理しておく(30分)	
第8回	ワークショップ 価値の明確化	(内 容) 価値観の相違について学ぶ。 (必要な準備) 異質な他者との協働について整理しておく(30分)	
第9回	絵本を作成することの意味について	(内 容) ゼミを通して保育実践で利用できる絵本を制作し、未来のこども絵本対象に応募するにあたって、絵本を制作することの意味を学ぶ。 (必要な準備) 興味のある絵本を集めるなどして、その内容などを整理しておく(60分)	
第10回	教員との個別面談 1	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる。 (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第11回	教員との個別面談 2	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第12回	教員との個別面談 3	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第13回	個人発表とディスカッション	(内 容) 絵本の内容と制作方法について発表し共有するとともにメンバーで共有化する。 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく(30分)	
第14回	個人発表とディスカッション	(内 容) 絵本の内容と制作方法について発表し共有するとともにメンバーで共有化する。 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく(30分)	
第15回	春学期の振り返りと夏休みの課題出題	(内 容) 春学期の学びについてリフレクションシートを使って振り返る。合わせて夏休みの課題を説明する。 (必要な準備) 春学期の自分自身の学びについて整理しておく。(30分)	

授業名	総合基礎演習 G			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	1回生春学期のゼミであり、建学の精神に基づき人類に共通する多様なテーマや社会全体に関わる課題を任意に設定し、学生の課題探求に対する主体性・創造性を育むとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の向上をめざすことを目標とする。さらに、導入教育として担当教員と受講学生相互の交流を図りながら、興味・関心・課題をもって大学で学ぶことへの動機付けを図る。							
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力と豊かな人間性を伸ばすことをめざします。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、プリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(50%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(25%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合基礎演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	チームビルディング	(内 容)	学友や同僚など、一緒に学んだり、働いたりする仲間との関係性を向上させるために、コミュニケーションゲームを通して、互いの人となりを知る。 (必要な準備) 自己紹介ができるように他の受講生に知っておいてほしいことをまとめてくる。
第2回	大学の授業やキャンパスライフ	(内 容)	高校から大学へ、授業の形式や学校生活の変化に円滑に適応するため、授業や試験の受け方、学修のための大学の支援体制について理解を深める (必要な準備) シラバス、キャンパスライフ
第3回	短期大学2年間の学び	(内 容)	短期大学の2年間の学びを概観し、資格免許の取得と就職にむけて、自身の学びの方向性を定める。今学期の目標などをワークシートにまとめる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	絵本製作の意義、方法について	(内 容)	学年で取り組む「未来のこども絵本大賞」の概要と絵本作りから学ぶ保育士者の資質に学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	子どもとメディア メディアの特徴	(内 容)	日常見聞きする「メディア」の意味を理解し、21世紀を生きる子どもたちに求められるメディアを活用する力についてその概要を把握する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	子どもとメディア 絵本・児童書 歴史と変遷	(内 容)	子どもたちに最も身近なメディアとしての絵本・児童書の歴史と今日までの変遷を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	子どもとメディア 絵本・児童書 教育・保育の効果	(内 容)	子どもたちの遊びや生活がより豊かになるために、絵本や児童書がもつ力を、受講生の実体験をふりかえりながら、考えを深める。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	子どもとメディア テレビ・テレビゲーム 変遷と特徴	(内 容)	日本の幼児や児童を対象とした教育テレビの経過を理解するとともに、1980年代から普及したテレビゲームによる子どもの遊びや生活の変化について検討する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第9回	子どもとメディア ポータブルゲーム機 どうして子どもが夢中になるのか？ 子どもの健康面への影響は？	(内 容)	使用開始や所持開始時期の低年齢化が進むポータブルゲーム機の特徴を具体的な例を挙げながら、または、受講生の実体験を踏まえながら、ともに考え、意見を共有する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	子どもとメディア スマートフォン 子どもとスマートフォンの関係	(内 容)	ポータブルゲーム機と同様に使用開始や所持開始が低年齢化するスマートフォンが子どもの発達や仲間関係に与える良い面と課題点を具体的な事例を用いながらディスカッションする。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	子どもとメディア スマートフォン 保護者とスマートフォンの関係	(内 容)	携帯電話やスマートフォンの使用の浸透によって子育てにおいても情報通信機器とどのように付き合っていくかが課題となっている。関連するニュースや記事をもとに、その付き合い方を検討していく。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	子どもとメディア 教育保育の現場では 幼児へのメディアに関連する教育保育	(内 容)	これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育施設における幼児へのメディアに関連する教育保育について、具体例を挙げながら、そのねらいや効果を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	子どもとメディア 教育保育の現場では 児童へのメディアに関連する教育保育	(内 容)	これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育施設における児童へのメディアに関連する教育保育について、具体例を挙げながら、そのねらいや効果を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	グループ発表 子どもとメディアについて(前半)	(内 容)	子どもとメディアについて、授業の内容を踏まえ、自分たちが興味をもって調べたテーマについて発表する(1グループあたり発表時間約20分)。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	グループ発表 子どもとメディアについて(後半)	(内 容)	子どもとメディアについて、授業の内容を踏まえ、自分たちが興味をもって調べたテーマについて発表する(1グループあたり発表時間約20分)。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授業名	総合基礎演習 H			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	様々な造形材料の体験・研究を通して、造形的な表現力や自ら工夫できる能力を養う。 学生がその活動からコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。							
学習成果到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。							

授 業 名		総合基礎演習 H	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第2回	学内フィールドワーク	(内 容) 学内を歩く(図書館見学) (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第3回	課題研究・発表	(内 容) 私の推薦絵本 (必要な準備) 事前にレジュメを作成、提出する(30分程度)	
第4回	学外フィールドワーク	(内 容) 学校周辺の自然 (必要な準備) 事前に地図等で予習しておく(30分程度)	
第5回	学外フィールドワーク	(内 容) 学校周辺のギャラリー (必要な準備) 記録の準備をしておく(30分程度)	
第6回	材料研究	(内 容) 研究する材料を決める (必要な準備) 使いそうな材料について調べておく(30分程度)	
第7回	材料研究	(内 容) 材料についてのアイデアを話し合う (必要な準備) 材料について考えておく(30分程度)	
第8回	材料研究	(内 容) 材料についての実験 (必要な準備) 材料の特性を理解する(30分程度)	
第9回	材料研究	(内 容) 材料をつかった課題を考える (必要な準備) 子どもの造形について調べておく(30分程度)	
第10回	研究発表	(内 容) 材料研究のまとめと意見交換 (必要な準備) 友達の取り組みやまとめから学ぶ(30分程度)	
第11回	学外フィールドワーク	(内 容) 展覧会を見る (必要な準備) 事前に地図等で予習しておく(30分程度)	
第12回	壁面制作	(内 容) チームで壁面を制作する (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第13回	壁面制作	(内 容) 壁面の制作 (必要な準備) 様々な表現方法について考える(30分程度)	
第14回	秋学期に向けて	(内 容) 秋学期の取り組みについて(絵本の制作) (必要な準備) 絵本づくりについて調べておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 授業の振り返り (必要な準備) 自分の学習成果と今後の課題について考える(30分程度)	

授業名	総合基礎演習 I			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>大学で学ぶ姿勢を確立するために保育や幼児教育に関する実践的演習を中心に、子供の生活や食育に関する学びを行う。 また、「未来のこども絵本大賞」で創作絵本の制作を行う</p>							
学習成果到達目標	<p>乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識が理解できる。 幅広い教養教育について理解ができる。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない							
留意事項	積極的に参加すること							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する。							

授 業 名		総合基礎演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 大学で学ぶことの理解 (必要な準備) 自己紹介の準備	
第2回	子どもを取り巻く食環境について	(内 容) 目標設定と共有化 (必要な準備) 身近の食に関しての問題点を考えておく	
第3回	研究課題の設定	(内 容) 研究テーマをきめ、研究計画をたてる (必要な準備) 研究テーマを考えておく	
第4回	フイ ルドワーク	(内 容) 大学周辺を散策し、春の季節を感じる (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第5回	情報収集(図書館やインターネットの利用)	(内 容) インターネットや図書館を活用して必要な情報を集める (必要な準備) 集めた資料をよく読んでおく	
第6回	教材研究(新聞記事)	(内 容) 新聞記事や雑誌から資料を集める (必要な準備) 資料をよく読んでおく	
第7回	教材研究資料の整理	(内 容) 資料の整理 (必要な準備) 資料をよく読んでおく	
第8回	絵本のテーマを考える	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 資料について、考えをまとめておく	
第9回	絵本のテーマを決める	(内 容) 収集した資料の整理 (必要な準備) 資料について、考えをまとめておく	
第10回	発表と討論	(内 容) 研究発表を行い、検討する。 (必要な準備) 研究発表の準備をしておく	
第11回	情報の収集	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 資料の整理	
第12回	発表と討論	(内 容) 研究発表を行う (必要な準備) 研究発表の準備をしておく	
第13回	レポートの提出	(内 容) レポート発表 (必要な準備) 収集した資料をまとめ、レポートを完成する	
第14回	教員との個別面談	(内 容) 目標の新捗状況確認と軌道修正 (必要な準備) 目標を整理しておく	
第15回	教員との個別面談	(内 容) 夏休みの課題説明 (必要な準備) 夏休みの過ごし方を考えておく	

授業名	総合基礎演習 x a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	他者とコミュニケーションを深め、自ら考え・調べ・聞く・話す力を身につける。 読解力を身につける。							
学習成果 到達目標	1) 課題に取り組み、分析し、まとめることができる。 2) 自分の考えていることを正しく他者に伝えることができる。 3) 他者と積極的にコミュニケーションを取ることができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	特になし。							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		総合基礎演習 x a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	1・2回生学外合同ゼミ	(内 容) 1・2回生学外合同ゼミ実施 (必要な準備) 事前学習の復習(60分)	
第2回	1・2回生学外合同ゼミ	(内 容) 1・2回生学外合同ゼミ実施 (必要な準備) 事前学習の復習(60分)	
第3回	アンケート調査の準備	(内 容) 京都をフィールドにした観光客実態調査を学ぶ。 (必要な準備) 「平成27年 京都観光総合調査について」を読んでおく(60分)。	
第4回	1・2回生学外合同ゼミ事後学習	(内 容) 学外合同ゼミを振り返る。 (必要な準備) 資料や写真を整理しておく(60分)。	
第5回	アンケート項目を作成する。	(内 容) 知恩院を訪れる観光客を対象にしたアンケート項目を作成する。 (必要な準備) 知恩院にとって有益なアンケート項目を考えておく(60分)。	
第6回	知恩院の歴史	(内 容) 知恩院の歴史を学ぶ (必要な準備) 自分なりに知恩院の歴史を調べておく(60分)。	
第7回	アンケート調査実施1回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査1回目 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第8回	アンケート調査実施2回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査2回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第9回	アンケート調査実施3回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査3回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第10回	卒業研究中間発表会	(内 容) 卒業研究中間発表会に参加し質問する (必要な準備) 他者の意見をしっかり聴く心構えを持つ(0分)。	
第11回	アンケート調査実施4回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査4回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第12回	アンケート調査集計	(内 容) 集めたサンプルを集計する (必要な準備) どのような集計の仕方があるか考えておく(60分)。	
第13回	アンケート調査分析	(内 容) 集計結果を分析する。 (必要な準備) 授業のつづきをおこなう(60分)	
第14回	分析結果の口頭発表準備	(内 容) グループ毎に原稿作成・リハーサルをする (必要な準備) グループ毎の準備(60分)	
第15回	分析結果の発表	(内 容) グループ毎に発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習・発表準備(60分)	

授業名	総合基礎演習 x b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>春学期の発展であるこのゼミでは、基礎力を学んだ上で各自が実際に調査したことをまとめ上げ、資料を作成し、発表・討議する。具体的には学校周辺の著名人の墓地を材料とし、最終的には各自の成果を持ち寄って、本学周辺著名人墓地地図を作成する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 自分の調査した事項を資料にまとめ、発表できる。 2) 質疑に応えられる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	授業時に適宜紹介する。							
留意事項	講義中は、必ず発言すること。学外フィールドワークも行う。							
オフィスアワー	授業時に適宜伝える。							

授 業 名		総合基礎演習 x b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期研修	(内 容) 秋学期研修に参加する。 (必要な準備) 事前学習の復習	
第2回	秋学期研修	(内 容) 秋学期研修に参加する。 (必要な準備) 事前学習の復習	
第3回	秋学期研修事後学習	(内 容) 研修結果をまとめる。 (必要な準備) 研修内容の整理	
第4回	学校周辺の著名人の墓地について	(内 容) 概説すると共に、担当を決める。 (必要な準備) 事前配布資料の通覧	
第5回	真如堂・金戒光明寺の墓について事前学習	(内 容) 斎藤利三、海北友松、海保青陵、八橋検校、山崎闇斎等々について事前学習する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第6回	真如堂・金戒光明寺フィールドワーク	(内 容) 真如堂・金戒光明寺に出かけ墓地を探索する。 (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第7回	真如堂・金戒光明寺フィールドワーク	(内 容) 真如堂・金戒光明寺に出かけ墓地を探索する。 (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第8回	卒業研究中間発表会	(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 資料に目を通し発言できるように準備する。	
第9回	卒業研究中間発表会	(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 資料に目を通し発言できるように準備する。	
第10回	真如堂・金戒光明寺の墓について事後学習	(内 容) フィールドワーク結果を入れた資料を作成し発表討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第11回	法然院の墓について事前学習	(内 容) 法然院にある著名人の墓地について事前学習する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第12回	法然院フィールドワーク	(内 容) 法然院に出かけ墓地を探索する (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第13回	法然院フィールドワーク	(内 容) 法然院に出かけ墓地を探索する (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第14回	各自で調査	(内 容) 学校周辺の寺等にある著名人の墓を各自で調査し、発表討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第15回	まとめ	(内 容) 学校周辺著名人地図を作成する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	

授業名	総合基礎演習 A			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	創作絵本の制作を通して言葉や表現に豊かな感性を身につける。また、教材研究を通して保育の実践に向けての行動力を養う。							
学習成果到達目標	1) 絵本の制作過程を通して絵本に対する認識を深める。 2) 絵本を完成させ、保育の現場で活用できるようにする。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	積極的な態度で臨むことを期待する。							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合基礎演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 秋学期の授業内容の確認と各自の取り組みについて理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(20分)	
第2回	絵本の制作 1 (構図を考える)	(内 容) 下絵をもとに構図を考える。 (必要な準備) 絵本の構想を持ってくる。(30分)	
第3回	絵本の制作 2 (絵を描く)	(内 容) 適当な画材を用いて絵本の作成を行う。 (必要な準備) 配色を考えておく。(30分)	
第4回	絵本の制作 3 (色を塗る)	(内 容) 適当な画材を用いて絵に色を塗っていく。 (必要な準備) 絵本を作成する。(60分)	
第5回	絵本の制作 4 (表紙・裏表紙を描く)	(内 容) 効果的な表紙・裏表紙を描く。 (必要な準備) 文書の配置を考えておく。(30分)	
第6回	絵本の制作 5 (文章書き入れる)	(内 容) 絵本の文書を書き入れる。 (必要な準備) 絵を完成させておく。(60分)	
第7回	学外見学	(内 容) 地域の施設を見学する。 (必要な準備) 地図を用意する。(30分)	
第8回	学外見学 レポート発表	(内 容) 見学してきた結果を発表する。 (必要な準備) レポートの作成を行う。(60分)	
第9回	教材研究と制作 1 (構想を練る)	(内 容) 保育実習に向けて、教材研究を行う。用いる材料の検討や段取りなどを考える。 (必要な準備) 教材に関する資料を収集しておく。(60分)	
第10回	教材研究と制作 2 (制作)	(内 容) 教材制作を行う。 (必要な準備) 必要な材料を用意する。(30分)	
第11回	教材研究 制作 3 (実践)	(内 容) 制作した教材を各自発表する。 (必要な準備) 教材を完成させておく。(60分)	
第12回	創作絵本発表	(内 容) 創作絵本を読む。 (必要な準備) 絵本を読み、読み聞かせの練習をしておく。(30分)	
第13回	学生研究会(絵本大賞)	(内 容) 絵本作成についての振り返り。講演を聞く。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(20分)	
第14回	教材研究 伝承遊び	(内 容) かるた遊び、羽根つき、凧揚げなど冬の伝承遊びについて体験し、保育現場の実践について考える。 (必要な準備) 冬に行う伝承遊びについて調べておく。(30分)	
第15回	絵本の製本	(内 容) 絵本の製本を行う。 (必要な準備) 1年をふり返るレポートを作成する。(60分)	

授業名	総合基礎演習 B			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	を更に発展させ、グループ発表・個別発表を通して幼児教育指導者としての能力を身につける。							
学習成果到達目標	1)人前で発表することで緊張しても最後までやり遂げる力をつける。 2)個々の音楽的スキルをあげるとともにグループとしても曲の調和に気をつけて演奏する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (チームワーク・リーダーシップ)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力		()
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	グループ指導と個別指導を多用する。将来の保育者としての自覚を持つ。							
オフィス アワー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合基礎演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 絵本製作の準備として各自絵本を人前で読む。 (必要な準備) 絵本を選んでおく。読む練習。(15分)	
第2回	12月のミニコンサートについて	(内 容) コンサートの曲を選ぶ。 配役を決める。 (必要な準備) 各自曲目を考えておくこと。	
第3回	コンサートの衣装及び小道具製作	(内 容) コンサートに必要な衣装や小道具を作る。 (必要な準備) 必要なものを考える。	
第4回	コンサートの衣装及び小道具製作	(内 容) コンサートに必要な衣装や小道具を作る。 (必要な準備) 必要なものを考える。 楽譜を読む。(30分)	
第5回	絵本について	(内 容) 今回のテーマで絵本のお話を考える。 (必要な準備) 各自絵本の内容について考えておくこと。	
第6回	絵本製作	(内 容) テーマに沿った絵を描く。 (必要な準備) 構図を考えてくる。	
第7回	絵本製作	(内 容) テーマに沿った絵を描く。 (必要な準備) 構図を考えてくる。	
第8回	絵本製作	(内 容) 絵本を仕上げる。 (必要な準備) 必要に応じて授業外でも描く。	
第9回	コンサートの練習	(内 容) 歌及び台詞、動きもつけながら練習 (必要な準備) 練習する事。(60分)	
第10回	コンサートの練習	(内 容) 仕上げ。 (必要な準備) 練習する事。(60分)	
第11回	コンサート	(内 容) ミニコンサート (必要な準備) 各自パート練習。	
第12回	コンサート	(内 容) ミニコンサート (必要な準備) 各自パート練習。	
第13回	コンサートの反省会	(内 容) 反省会。 (必要な準備) 反省点について考えること。	
第14回	絵本の製本	(内 容) 描いた絵本を製本する。 (必要な準備) 製本の準備。	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返って春の実習への目標・意気込みなどを一人ずつ発表。 (必要な準備) 実習の目標・意気込みをまとめてくる。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 C			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	様々な絵本や、季節感のある物事・音楽などに触れ、幼児期の生身の体験とその感動を思い出す。絵本製作を通して、子どもの成長における絵本の役割を学ぶ。また、それらの学びを通して、子どもの目線になって考えたり感じたりすることの大切さを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 聞き手(子ども)の様子を想像しながら、絵本の読み聞かせをすることができる。 2) 絵本制作のテーマに沿った物語を考え、読み手を想像しながら描き方を工夫し、絵本を完成することができる。 3) 総合基礎演習 ・ を通して学んだことをレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると思います。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合基礎演習 C	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	イントロダクション	(内 容)	秋学期の授業計画について説明する。 特に、絵本制作についての説明と、第2回～第4回にかけて実施する絵本の読み聞かせ体験についての説明をする。 (必要な準備) 絵本大賞のテーマを確認しておく。
第2回	絵本の読み聞かせ	(内 容)	順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第3回	絵本の読み聞かせ(続き)	(内 容)	順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第4回	・絵本の読み聞かせ(続き) ・絵本制作 : テーマの確認	(内 容)	・順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 ・絵本大賞のテーマと絵本づくりのルールを確認する。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第5回	絵本制作 : 作業の開始	(内 容)	絵本のあらすじを考える。 (必要な準備) 絵本の内容を考えておく。
第6回	絵本制作 : 作業	(内 容)	絵本を制作する。 (必要な準備) あらすじを完成させておく。
第7回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第8回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第9回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第10回	絵本製作: 絵本の完成	(内 容)	絵本を完成させ、提出する。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第11回	クリスマスの制作	(内 容)	クリスマスの壁面制作をする。 (必要な準備) クリスマスの壁面を調べてくる。
第12回	クリスマスの音楽	(内 容)	クリスマスの音楽を演奏する。 (必要な準備) 楽譜を読んでくる。
第13回	絵本大賞結果発表と講演会	(内 容)	絵本大賞の授賞式に参加する。 絵本についての講演を受講する。 (必要な準備) 絵本制作について振り返っておく。
第14回	絵本の製本	(内 容)	制作した絵本を製本する。 (必要な準備) 制作した絵本を持参する。
第15回	1年のまとめ	(内 容)	1年を振り返り、感想、気づいたこと、来年度に向けての課題などを発表し共有する。 (必要な準備) 発表する内容を考えておく。

授 業 名	総合基礎演習 D			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 の経験をもとに、子どもの遊びや文化や生活全般から、各自課題を決めて取り組み、学びを深める。また、学科企画の創作絵本の制作に組み、絵本に対する造詣を深める。活動の中で、ゼミ生同士の交流を深め、協力しながらお互いに学び合う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の保育内容を体験し、遊びを通じた学びについて理解することができる。 2) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養い、豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につけることができる。 4) 絵本の制作過程を体験し、保育実践力の1つとして活用できるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	授業は配布資料や教材を使ってすすめる。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	自らすすんで行動し、コミュニケーションを図り、経験を積み重ねてほしい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合基礎演習 D	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	絵本の制作2 下書	(内 容) 絵本の下書を始める。 (必要な準備) ストーリーとコマ割りを考えてくる。(60分)	
第2回	フィールドワーク	(内 容) 園外保育のスポットに出かけて保育者の視点で考える。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第3回	遊びの企画と制作1 企画と役割分担	(内 容) アイデアを出し合い協力しながら、役割を分担し、教材を準備する。 (必要な準備) 必要な材料や用具を調達する。(60分)	
第4回	遊びの企画と制作2 教材作り	(内 容) アイデアを出し合い協力しながら教材制作をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第5回	遊びの企画と制作3 遊びコーナーの設置	(内 容) 子どもたちが遊びやすいように遊びコーナーの環境構成をする。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して準備する。(60分)	
第6回	絵本の制作3 清書	(内 容) 絵本の清書をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第7回	絵本の制作4 清書	(内 容) 絵本の清書をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第8回	絵本の制作5 仕上げ	(内 容) 絵本を仕上げて提出する。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第9回	フィールドワーク	(内 容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第10回	体を動かす遊び1 リズム遊び・表現遊び	(内 容) リズム遊びや表現遊びを体験し、保育のポイントを考える。 (必要な準備) 知っている遊びをまとめる。(30分)	
第11回	体を動かす遊び2 鬼ごっこ・ゲーム	(内 容) 鬼ごっこやゲームなどを体験し、保育のポイントを考える。 (必要な準備) 知っている遊びをまとめる。(30分)	
第12回	行事の遊び	(内 容) クリスマスや正月の遊びを体験し、保育の中の行事の意味を考える。 (必要な準備) 制作に必要なものを準備しておく。(20分)	
第13回	絵本の講座	(内 容) 未来の絵本大賞受賞式と絵本の講演会に参加する。 (必要な準備) 授業全体の振り返りレポートを記述する。(60分)	
第14回	絵本の製本	(内 容) 制作した絵本を製本して仕上げる。 (必要な準備) 絵本の講座のレポートを記述する。(40分)	
第15回	絵本の発表	(内 容) 制作した絵本の読み聞かせをする。 (必要な準備) 発表の準備をする。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 E			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 に引き続き、乳幼児期の子どもの遊びや文化（主として絵本）についてさらに興味関心を深める。絵本制作に取り組み、完成した絵本を製本化して紹介し読み聞かせの発表をする。絵本制作を通して絵本の役割について考えることで探求心を養う機会にする。またゼミ生で協力したり、意見交流をする中で学び合うことの大切さを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組む姿勢を持つこと。絵本制作は製本して完成させること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合基礎演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 秋学期の進め方について 意見交換 (必要な準備) 夏期休暇中の課題をまとめてくる(30分)	
第2回	絵本制作 対象年齢・タイトルを考える	(内 容) 対象年齢を決めテーマについて考えながらストーリーを作る。 (必要な準備) 対象年齢、登場人物などを決定し、制作絵本の完成全体像をイメージしておく(60分)	
第3回	絵本制作 ストーリー作り	(内 容) 創作絵本のストーリー作りとストーリーの検討をする。題名、総頁数を決定し下書きを完成させる。 (必要な準備) ストーリー・下絵を描いておく(90分)	
第4回	絵本制作 下絵をもとに本絵を描く	(内 容) ケント紙(画用紙)に本絵を描く。 (必要な準備) 本絵を描く描画材料(クレパス・水彩絵具・色鉛筆・コンテなど)を考えて持って来る(15分)	
第5回	絵本制作 本絵の仕上げ	(内 容) 本絵に合わせてストーリーを再考して書き入れ完成させる。 (必要な準備) 本絵を仕上げてくる。ストーリーを再考しておく(60分)	
第6回	絵本制作 創作絵本 提出	(内 容) 創作絵本を仕上げて表紙、裏表紙を描き完成させて提出する。制作意図を記入する。 (必要な準備) 表紙、裏表紙を描き創作絵本を仕上げておく(120分)	
第7回	フィールドワーク 1	(内 容) 世界文化遺産である清水寺に行き、秋の自然に親しむ。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第8回	フィールドワーク 2	(内 容) グループごとに小規模保育園見学に行く。 (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する。	
第9回	フィールドワーク 3	(内 容) 秋の自然教材(まつぼっくり)を探しに行く。 (必要な準備) まつぼっくりについて種類や名前を調べてレポートにまとめる(60分)	
第10回	教材研究と制作 1	(内 容) パネルシアター制作をする。下絵を書く。 (必要な準備) 制作する題材を選んでコピーをとり用意しておく(30分)。鉛筆(4B)はさみPペーパーを持って来る	
第11回	教材研究と制作 2	(内 容) パネルシアター制作をする。仕上げ、ふちどりをする。 (必要な準備) 下絵を書きあげておく(60分) 水筆、ポスターカラー、Pペーパーを準備しておく(ポスカも可)	
第12回	教材研究と制作 3	(内 容) クリスマスの制作をする。 (必要な準備) クリスマスツリーの飾りを考えておく(15分)飾りやグルーガンなど必要な材料を用意する(15分)	
第13回	創作絵本大賞 講演会	(内 容) 創作絵本の講演会に参加し、絵本の見方、絵本作家の思い等を聴講して学ぶ。 (必要な準備) 筆記用具	
第14回	創作絵本の製本化と発表	(内 容) 創作絵本に文を書き入れ製本化する。製本した絵本の読み聞かせを行う。 (必要な準備) 創作絵本に文を書き入れ読み聞かせの練習をしておく(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返り発表する。 (必要な準備) 1年間の取り組みや学びをまとめておく(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 F			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	子どもの感性や知性の発達を支え育てることのできる人間性豊かな幼児教育者のスキルアップを目指して、グループワークやレクリエーションなどを学ぶ。また、実際に保育の現場で活用できる絵本を完成させる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	グループワークやレクリエーションの意義を理解し、ワーカーとしてその役割に沿った適切な援助ができる。自己が興味や関心を持ち設定した絵本を完成させる。発表などの場面でプレゼンテーションが適切にできるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	プリント・資料等を適宜配布する。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	秋学期の目標として、全体活動と個人研究活動の2点について取り組みを、アクティブラーニングの手法に則って進めて行く。主体的かつ積極的な参加を期待する							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合基礎演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期の目標設定	(内 容) 年間目標の進捗状況を振り返り、秋学期の目標を再整理する。 (必要な準備) 年間の目標を再確認し、春学期の学びの状況を整理しておく。秋学期に達成させるべく目標を考えておく。(60分)	
第2回	夏休みの課題発表 1	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第3回	夏休みの課題発表 2	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第4回	夏休みの課題発表 3	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第5回	絵本の作成 1	(内 容) 絵本の仕上げをする (必要な準備) 絵本作成に必要な準備しておく(60分)	
第6回	絵本の校正	(内 容) 出来上がりつつある絵本をプレゼンテーションして、相互に意見交換をしながら校正をし仕上げる。 (必要な準備) 発表に必要な準備を進める(60分)	
第7回	絵本の作製 3	(内 容) 絵本の仕上げをする (必要な準備) 絵本作成に必要な準備しておく(60分)	
第8回	グループワークトレーニング 1	(内 容) グループワークトレーニングの実践を通して、チームワークについて学ぶ (必要な準備) チームワークの意味を整理しておく。(30分)	
第9回	グループワークトレーニング 2	(内 容) グループワークトレーニングの実践を通して、価値の違いと意思決定について学ぶ。 (必要な準備) 人の価値観とその違いについて整理しておく(30分)	
第10回	保育実習に向けて 1 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ 出会いとコミュニケーション (必要な準備) 子供向けのレクリエーションに関して整理しておく(30分)	
第11回	保育実習に向けて 2 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ コミュニケーションとスキンシップ (必要な準備) スキンシップの必要性に関して整理しておく(30分)	
第12回	保育実習に向けて 3 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ コミュニケーションとマスゲーム (必要な準備) マスゲームの有効性について整理しておく(30分)	
第13回	保育実習に向けて 4 心構え	(内 容) 保育実習に向けて実習指導などの授業で学んだことをベースに、心構えを作り上げる (必要な準備) 実習に向けて大切なことを整理しておく(30分)	
第14回	ゼミ全体のリフレクション	(内 容) それぞれが設定した学習目標の到達度を各自まとめて発表する。 (必要な準備) 発表のためのパワーポイントを制作しておく(60分)	
第15回	ゼミ全体のリフレクション	(内 容) それぞれが設定した学習目標の到達度を各自まとめて発表する。 (必要な準備) 発表のためのパワーポイントを制作しておく(60分)	

授業名	総合基礎演習 G			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	1回生秋学期のゼミであり、総合基礎演習 に引き続き、学生と教員の交流を基盤にし、大学で学ぶことへの興味・関心をさらに掘り下げ、学習・研究方法に関する基礎的な知識を得るための各種資料の収集方法や文献の探索方法等について、ゼミでの発表を通して実際に学んでいく。設定された課題に対してレポートを作成し、諸課題の設定のプロセスから課題探求に至るまでをゼミで発表し、ゼミ学生が 相互に質疑応答等、発表スキルも身に付けながら、自らの興味・関心をさらに深め、今後の大学での課題研究に活かしていく素地を作る。							
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、春学期からのさらなる成長をめざし、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力と豊かな人間性を伸ばすことをめざします。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(50%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(25%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合基礎演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期のふりかえりと反省 秋学期の目標設定	(内 容) 授業の目的と取り組み内容について学ぶ (必要な準備) 春学期のふりかえりと反省	
第2回	絵本の創作(イメージ)	(内 容) 学年で取り組む「未来のこども絵本大賞」の作品づくりをスタートする。 絵本の創作を通して、保育者の資質を高める。一回目は、創作する絵本のイメージを深め、登場人物や風景など書き溜める。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第3回	絵本の創作(物語)	(内 容) 自分のなかのイメージを、登場人物やあらすじなど、文字化する。 子どもの発達段階に応じた語彙などの特徴を踏まえたものをめざす。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第4回	絵本の創作(下書き)	(内 容) 創作絵本の下書きをおこなう。その際、子どもが夢中になる絵本をめざして、図書館の絵本などをさまざまな作者の作風や特徴を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第5回	絵本の創作(色ぬり)	(内 容) 創作絵本の色ぬりをおこなう。絵本の物語を意識した色使いやぬり方の技法を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第6回	絵本の創作(仕上げ)	(内 容) 未来のこども絵本大賞への提出締切に合わせて提出ができるように、創作した絵本を完成させる。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第7回	創作絵本のプレゼンテーション資料づくり	(内 容) 完成した創作絵本のゼミメンバー内で共有するために、プレゼンテーション用の資料を作成する。創作した絵本の工夫した点やアピールポイントなどをわかりやすく伝える工夫を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第8回	創作した絵本の発表(前半)	(内 容) 作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介を全員おこなう。そのなかで、自己評価、相互評価をおこなう。発表時間1人あたり8～10分。90分では全員が発表できないため、次の週も発表時間にあてる。 (必要な準備) 作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介をおこない、自己評価	
第9回	創作した絵本の発表(後半)	(内 容) 作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介を全員おこなう。そのなかで、自己評価、相互評価をおこなう。発表時間1人あたり8～10分。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第10回	季節をテーマにした保育を考える	(内 容) 東山での散策を通して、季節を感じる保育につなげる素材をスケッチしたり、収集してくる。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第11回	季節をテーマにした保育を計画する	(内 容) 東山の散策から集めた素材をもとに季節を楽しむ保育をグループになって計画する。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第12回	季節をテーマにした保育を実践する	(内 容) 計画した保育を実践する。各グループの持ち時間は25分。発表グループが保育者役で、発表者以外は子ども役となり、簡単な設定保育を経験する。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第13回	絵本大賞の結果発表、絵本についての講演	(内 容) 受賞作品と自らの創作した絵本を比較しながら、子どもと絵本の関係について、自らの考察を深める。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第14回	絵本製作(製本)	(内 容) 自らが創作した絵本を製本化する。製本する技術を習得する。 (必要な準備) 前回のショートレポート	
第15回	学習のまとめ	(内 容) 学習の総括を行う。 (必要な準備) 前回のショートレポート	

授業名	総合基礎演習 H			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	絵本や造形作品の制作活動を通して、造形的な表現力を養う。また、様々な素材から造形活動を展開できる方法について考える。学生が相互の関わりからコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。							
学習成果到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。							

授 業 名		総合基礎演習 H	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 絵本の制作について (必要な準備) 事前にシラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	絵本の制作	(内 容) 作る絵本の構想を練る (必要な準備) 絵本などを見ておく(30分程度)	
第3回	絵本の制作	(内 容) ストーリーを決める (必要な準備) ストーリーに関する資料を用意する(30分程度)	
第4回	絵本の制作	(内 容) 原画制作 (必要な準備) 特に必要な道具や材料があれば持参する(30分程度)	
第5回	絵本の制作	(内 容) 文字部分の制作 (必要な準備) 文字部分の制作に必要なものを用意する(30分程度)	
第6回	絵本の制作	(内 容) ページ貼り合わせ 表紙制作 (必要な準備) 特に使いたい道具や材料があれば持参する(30分程度)	
第7回	絵本の制作	(内 容) 製本完成 (必要な準備) 自分の本としての工夫を考える(30分程度)	
第8回	絵本制作のまとめ	(内 容) 絵本の発表、制作の振り返り (必要な準備) 取り組みについてまとめておく(30分程度)	
第9回	教材研究	(内 容) 材料(自然物など)を集める (必要な準備) 指導事例などを調べておく(30分程度)	
第10回	教材研究	(内 容) 集めた材料の加工をする (必要な準備) 自分で使ってみたい材料があれば持参する(30分程度)	
第11回	教材研究	(内 容) 材料を組み合わせ作品を完成させる (必要な準備) 作品の活用について考える(30分程度)	
第12回	造形遊び	(内 容) 造形遊びについて (必要な準備) 子どもの遊びについて調べておく(30分程度)	
第13回	造形遊び	(内 容) 造形で遊ぶ (必要な準備) 自分の取り組みについて調べておく(30分程度)	
第14回	フィールドワーク	(内 容) 展覧会見学 (必要な準備) 展覧会について調べておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授 業 名	総合基礎演習 I			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 で学んだことを基礎に、食育についての計画・指導・展開を学ぶ。また、ゼミを拠点にしながら大学生活を送るとともに、大学での学びを深めていく。そのため、ゼミを完全に独自のものとして位置づけるのではなく、全体で連携をもち協力しながら到達目標を目指してアクティブラーニング形式で進めていく。また、春学期に続き、「未来のこども絵本大賞」に応募するための創作絵本の制作と作品の製本過程を学習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識が理解でき、実践的指導ができる。 人間性豊かな幼児教育者として、感性を身につける。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	積極的に参加すること							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回の授業で提示する。							

授 業 名		総合基礎演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	夏休みの課題発表	(内 容) 目標の達成に向けた進捗状況報告 (必要な準備) 発表の準備	
第2回	学内フィールドワーク	(内 容) 学校周辺の自然 (必要な準備) 動きやすい靴、服装の着用	
第3回	学外フィールドワーク	(内 容) 自然との触れ合いの中で絵本や研究テーマ資料を探す (必要な準備) 絵本や研究テーマを考えておく	
第4回	絵本の創作準備	(内 容) 絵本のテーマを考え、制作計画をたてる (必要な準備) 絵本のテーマとストーリーを考えておく	
第5回	絵本の創作	(内 容) 原画制作。 (必要な準備) 絵具や画用紙の準備	
第6回	絵本の創作	(内 容) 文字部分の制作 (必要な準備) 文字部分の制作に必要なものを準備する	
第7回	絵本の創作	(内 容) ページ貼り合わせ、表紙を制作 (必要な準備) 必要な材用を準備する	
第8回	絵本の創作	(内 容) 製本完成 (必要な準備) 工夫する箇所を考えておく	
第9回	絵本製作のまとめ	(内 容) 絵本の発表 (必要な準備) 発表の準備	
第10回	研究レポートのテーマを決める	(内 容) 資料の収集 (必要な準備) 資料を整理して、よく読んでおく	
第11回	資料収集	(内 容) テーマの資料を集めておく (必要な準備) 資料を読んでおく	
第12回	資料の整理	(内 容) 問題点を検討し修正する (必要な準備) 不足している資料を集め整理する	
第13回	研究レポートの経過発表	(内 容) 研究レポートの発表準備 (必要な準備) パワーポイントなどの準備	
第14回	研究レポートの発表	(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 発表の準備	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返る (必要な準備) 取り組んだ内容についてまとめておく	

授 業 名	総合基礎演習 z a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	介護2回生			
授業の概要	日々の生活の中で発生する様々な出来事に関心を持ち、フィールドへでて、社会や地域の施策にふれ課題について考察する。そのことを通して、一人の社会人、さらには良き援助者としての態度と視点を育てて行く。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 自己に興味や関心を持ち設定したテーマに対する一連の活動が主体的にできる。 2) 自己の研究活動に対する成果をまとめ、発表することができる。 3) 自己覚知ができる。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	プリント・資料等を適宜配布する。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	フィールドワークと個人研究活動の2点について取り組みを進めて行きます。積極的・主体的に活動してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しておきます							

授 業 名		総合基礎演習 z a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の進め方と留意について理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	コミュニケーション方法(手話)を学ぶ	(内 容) 手話を学ぶ 指文字を覚える (必要な準備) テキスト指文字を予習しておく	
第3回	コミュニケーション方法(手話)の文法を学ぶ	(内 容) 手話を学ぶ 手話と指文字の違いを知る (必要な準備) テキストp10～48を予習しておく	
第4回	連携と協働 フィールドワークについて考える	(内 容) フィールドワークの意義と目的を知る 自己覚知を行う (必要な準備) 活動テーマを考えておく	
第5回	地域連携と協働 フィールドワークのすすめ	(内 容) テーマに沿ったフィールドワークの事前オリエンテーション (必要な準備) 活動テーマに沿った目標を計画しておく	
第6回	地域連携と協働 フィールドワークの実際	(内 容) フィールドワークへでかけ、自己覚知を行う (必要な準備) 計画したポイントを再度見直しておく	
第7回	地域連携を協働 発表準備	(内 容) フィールドワークで得たことをまとめ発表資料の作成 (必要な準備) 実施した活動について誰がみてもわかるようにまとめておく	
第8回	地域連携を協働 発表	(内 容) フィールドワークで得たことをまとめ発表 (必要な準備) 発表原稿を作成しておく、質問に対する回答を吟味しておく	
第9回	地域連携と協働 地域を知る	(内 容) フィールドワークの事前オリエンテーション (必要な準備) ディスカッションをうけて、不足部分の整理を行う	
第10回	地域連携と協働 地域で学ぶ	(内 容) フィールドワークへでかけ地域の課題を知る (必要な準備) オリエンテーションで計画したポイントを再度見直しておく	
第11回	地域連携と協働 発表の準備	(内 容) 発表資料の作成 (必要な準備) 発表内容を検討しておく	
第12回	地域連携と協働 発表	(内 容) 地域の課題と自己覚知について発表する (必要な準備) 発表練習を行っておく、質問に対する回答を吟味しておく	
第13回	手話への理解 単語と指文字	(内 容) 手話で単語を学ぶ (必要な準備) 前回の復習をしておく テキストを参考に予習しておく	
第14回	手話への理解 日常会話	(内 容) 手話で単語を学ぶ イラストやDVDで日常会話を学ぶ (必要な準備) テキストを参考に予習しておく	
第15回	手話への理解 発表	(内 容) 手話で自己紹介を行う (必要な準備) 自己紹介ができるように練習しておく	

授業名	人間と仏教 a・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹			対象学生	歴史1回生、幼児教育1yf～yh			
授業の概要	本演習は仏教の起源である開祖ブツダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブツダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブツダの生涯」「ブツダの教え」という4つのテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブツダの生涯、ブツダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。							
学習成果到達目標	1) 建学の理念を理解する。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解する。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『ブツダの教え』 佛教大学仏教学科 編 (佛教大学通信教育部)							
参考書	使用しない。							
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。							

授業名	人間と仏教 a・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	(内 容) 日本人の宗教観について共に考える。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「宗教とは何か」	(内 容) 宗教の目的と意義について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第3回	「宗教とは何か」	(内 容) 宗教の分類と「仏教」の位置付けについて概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第4回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第5回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第6回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第7回	「ブッダの生涯」	(内 容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第8回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの出家の経緯について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第9回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの出家・修行時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第10回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの「さとり」を中心として種々なエピソードを含めつつ概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第11回	「ブッダの教え」	(内 容) ブッダの教説「四諦説」の苦聖諦・苦集聖諦を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第12回	「ブッダの教え」	(内 容) 「四諦説」の苦滅聖諦・苦滅道聖諦と八正道について概説する (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第13回	「ブッダの教え」	(内 容) 「縁起説」について概説し、ブッダの教説が現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第14回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。(90分)

授業名	人間と仏教 b・c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yi～yj			
授業の概要	<p>宗教は生身の人間にとって生きる指針を示すものでなければならない。 本講では人がどう生きればよいのかを問うた、仏教の開祖ゴータマ・ブッダ（釈迦牟尼仏）の生涯を見つめ、仏教思想に学ぶことをねらいとする。</p>							
学習成果到達目標	<p>仏教を含む宗教がなぜ人間にとって必要不可欠なのかについて理解し自ら考える。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)		
テキスト	<p>佛教大学・編『ブッダの教えと生涯』（佛教大学通信教育学部）</p>							
参考書	<p>参考プリント類は講師が手配する。</p>							
留意事項	<p>講義に関連した小テストを行う。評価基準にもなるので心して受講すること。 講義中の私語および携帯・スマホの使用厳禁。</p>							
オフィスアワー	<p>第1回目の講義にて伝える。</p>							

授 業 名		人間と仏教 b・c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	宗教とは	(内 容) 宗教とは何かについて考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第2回	仏教以前の社会と宗教 他者の発見	(内 容) ブッダ誕生以前のインド社会について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第3回	仏教以前の社会と宗教 他者とのつながり	(内 容) ブッダ誕生以前のインド社会について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第4回	ブッダの誕生	(内 容) ブッダの誕生について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第5回	ブッダの青年時代	(内 容) ブッダが修行にいたるまでの過程を学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第6回	ブッダの修行	(内 容) ブッダが行ったさまざまな修行について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第7回	ブッダの成道	(内 容) さとりを得たブッダについて学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第8回	ブッダの死	(内 容) ブッダの死について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第9回	ブッダの死後	(内 容) ブッダの死後について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第10回	ブッダが説いた教え 縁起	(内 容) 縁起について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第11回	ブッダが説いた教え 四諦(したい)	(内 容) 四諦について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第12回	ブッダが説いた教え 八正道	(内 容) 八正道について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第13回	ブッダが説いた教え 八正道	(内 容) 八正道について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第14回	大乘仏教について	(内 容) 大乘仏教について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第15回	まとめ	(内 容) 今後の仏教と自分の関わり方を考える。 (必要な準備) 自ら考えてみよう。	

授業名	人間と仏教 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	榎本 正明			対象学生	幼児教育1yd～ye、yf～yh			
授業の概要	本演習は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。							
学習成果到達目標	1) 建学の理念を理解する。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『法然上人のご生涯とその教え』 佛教大学 編 (佛教大学通信教育部)							
参考書	使用しない。							
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。							

授業名		人間と仏教 c・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「浄土教とは」	(内 容) ブツガ亡き後の仏教教団の形成について概説する。 (必要な準備) 人間と仏教 のノートを読み返しておくこと。(60分)	
第2回	「浄土教とは」	(内 容) 部派仏教から大乘仏教成立までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第3回	「浄土教とは」	(内 容) 浄土教思想の誕生と形成を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第4回	「浄土教とは」	(内 容) 中国での浄土教思想の発展を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第5回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 日本への仏教伝来から奈良仏教までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第6回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 平安時代の仏教を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第7回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 日本での浄土教思想の展開を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第8回	「法然上人の生涯」	(内 容) 誕生から出家・修学時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第9回	「法然上人の生涯」	(内 容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第10回	「法然上人の教え」	(内 容) 阿弥陀仏の本願について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第11回	「法然上人の教え」	(内 容) 往生と成仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第12回	「法然上人の教え」	(内 容) 本願念仏から選択本願念仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第13回	「法然上人の教え」	(内 容) 念仏のこころ、患者の自覚について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第14回	「法然上人の生涯」	(内 容) 念仏の興隆と法難、法然上人以後の展開について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 全14回授業のノートを読み返しておくこと。(90分)	

授業名	人間と仏教 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	浄土宗の開祖である法然上人の生涯と教えを学ぶことにより、私たち人間としてのあり方を考える。							
学習成果到達目標	(1) 建学の理念を理解する。 (2) 法然上人が説かれた念仏の教えを自分たちの問題として理解する。 (3) 法然上人が説かれた「愚者の自覚」について自分たちの問題として理解する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義内での小テスト)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)		
テキスト	佛教大学 編『法然上人のご生涯とその教え』(佛教大学通信教育部)							
参考書								
留意事項	講義中の私語・スマホの使用は厳禁。 講義中に小テストを行う。なお、評価基準にもなるので心して受講すること。							
オフィス アワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		人間と仏教 a・b・e	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期の復習。 (必要な準備) 春学期に学んだ Buddha の教えについて復習しておくこと(30分)。	
第2回	仏教伝来	(内 容) 日本に仏教がいつ伝わったのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第3回	浄土教とは	(内 容) 浄土教の思想の誕生について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第4回	浄土教とは	(内 容) 中国浄土教の思想について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第5回	浄土教とは	(内 容) 日本での浄土教思想について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第6回	法然上人の生涯	(内 容) 法然上人の誕生から出家・修学時代について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第7回	法然上人の生涯	(内 容) 求道と浄土宗開宗にいたるまでについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第8回	法然上人の思想	(内 容) 阿弥陀仏について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第9回	法然上人の思想	(内 容) 往生と成仏について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第10回	法然上人の思想	(内 容) 『選択本願念仏集』について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第11回	法然上人の教え	(内 容) 『選択本願念仏集』に説かれた法然上人の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第12回	法然上人の教え	(内 容) 前回授業と同じく『選択本願念仏集』に説かれた法然上人の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第13回	法然上人の教え	(内 容) 念仏と患者の自覚について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第14回	法然上人の教え	(内 容) 法然の教えを引き継いだ弟子の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 私たちが法然上人から学ぶべきことを自ら考える。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。	

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションを目的としたレクリエーション (必要な準備)
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールを理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第7回	講義1	(内 容) 健康と体力について (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておく
第8回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第9回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第10回	講義2	(内 容) 体力評価 (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べておく
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第13回	卓球1	(内 容) 基本技術の習得・卓球の試合 (必要な準備) 卓球のルールを調べておく
第14回	卓球2	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球の戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye、yf～yh			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションワーク (必要な準備)
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールを理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第7回	講義1	(内 容) 健康の意義について1 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと
第8回	講義2	(内 容) 健康の意義について2 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと
第9回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第10回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第13回	バドミントン3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第14回	バドミントン4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィスアワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康づくりのための運動について (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第3回	講義 2	(内 容) 体力づくりのための運動について (必要な準備) 体力づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第7回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第11回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールを調べる
第12回	バスケットボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第14回	バスケットボール 4	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye・yf～yh			
授業の概要	本講では運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康成立のための条件について (必要な準備)
第3回	講義 2	(内 容) 健康とスポーツ、体育及びレクリエーション活動において (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルール理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第7回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第11回	バドミントン 4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第12回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール 2	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第14回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>まずは、基本文法をしっかり身につけながらリーディング、ライティング、リスニングの力を少しずつのばしていきたい。小テストは毎回行いますので予習、復習はしておくこと。歴史専攻であるので、日本史や日本文化について英語で読みだり話したりすることも取り入れたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 多読、英会話のために必要な文法の基礎を身につける。 2) 文法は特に現在形、過去形、未来形を使えるようにする。 3) 歴史専攻であるので、自分の興味ある歴史上の人物や事柄について簡単に英語で説明できるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社							
参考書	特になし							
留意事項	<p>テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。</p>							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション Unit 1 英語と日本語の大きな違い	(内 容)	アルファベットの歌を歌う。 主語・述語の語順確認 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 名詞・代名詞?	(内 容)	名詞・代名詞とその単数・複数 (必要な準備) テキスト pp. 10-13の予習
第3回	Unit 3 形容詞・副詞?	(内 容)	形容詞・副詞の形や使い方の練習 (必要な準備) テキスト pp. 14-17の予習
第4回	Unit 4 前置詞?	(内 容)	さまざまな前置詞をフレーズで覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 18-21の予習
第5回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)	(内 容)	be動詞と一般動詞 不規則動詞の過去形を覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 22-25の予習
第6回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)の復習	(内 容)	Unit 5の復習として英語基本時制の演習 不規則動詞過去形の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 22-25の復習
第7回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型	(内 容)	比較的短い分で5文型をしっかりと理解する。 (必要な準備) テキスト pp. 26-29の予習
第8回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型の復習	(内 容)	長い文で5文型の演習 文型の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 26-29の復習
第9回	Unit 7 特別な 'it' と 'there'?	(内 容)	~があります・いますの文を作ってみる。 文型の確認 (必要な準備) テキスト pp. 30-33の予習
第10回	Unit 8 意外と役立つ基本動詞?	(内 容)	基本動詞 get, have, make, takeの例文を覚える。 それぞれの過去形の確認 (必要な準備) テキスト pp. 34-37の予習
第11回	Unit 9 単語よりフレーズが大事?	(内 容)	単語ひとつひとつでなく、フレーズを意識して音読してみる。 (必要な準備) テキスト pp. 38-41の復習
第12回	Unit 10 それって正しいの?	(内 容)	さまざまな和製英語を正しい英語にして覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 42-45の予習
第13回	Unit 11 働きが異なる動詞ing形?	(内 容)	現在分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 46-49の予習
第14回	Unit 12 形容詞の働きをする動詞?	(内 容)	過去分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 50-53の予習
第15回	春学期の復習	(内 容)	特に基本時制と現在分詞・過去分詞の復習 (必要な準備) 不規則動詞の過去形・過去分詞形をよく覚えておくこと。

授業名	英語・コミュニケーション b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	幼児教育1ya~yc			
授業の概要	英語4領域（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の基礎英語コミュニケーション力を養成する。インプット（リーディングとリスニング）には、異文化理解にもつながる多読・多聴を取り入れ、英語を英語のまま理解する練習を行う。また、アウトプット（スピーキング、ライティング）には、将来を見据えたスピーキング練習とライティング練習を行う。							
学習成果到達目標	1) 短文の英語表現を使用して、身近な内容について少しやりとりすることができる。 2) 平易な英語絵本・英語本の内容を英語のまま理解することができる。 3) 保育現場で使用する文書の一つ英語で作成することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	プリント配布							
参考書	保育英語検定受験予定者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を使用して、学習に取り組むことを強く望みます。 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,900円＋税 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定4級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,524円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定3級問題集）』 本の泉社 1,363円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定4級問題集）』 本の泉社 850円＋税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン b
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	家庭調査票	(内 容) 多読紹介、家庭調査票に関する英単語・作成方法を学ぶ (必要な準備) 図書館にある英語本を5冊読み記録する、練習プリント1
第3回	私の周りの人々	(内 容) 単語テスト1、多読、ファミリーツリー作成、周囲の人々の呼び方を知る (必要な準備) 本読み300単語以上、練習プリント2
第4回	保育英語を使ったワークショップ (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する (必要な準備) 本読み500単語以上、ワークショップで使用する物の準備
第5回	園に必要な物	(内 容) 単語テスト2、家庭調査票提出、多読、園に必要な物の名前を知る (必要な準備) 本読み500単語以上、家庭調査票作成、練習プリント3
第6回	学校周辺案内	(内 容) 単語テスト3、多読、学校周辺案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、練習プリント4
第7回	道案内1：表現方法	(内 容) 単語テスト4、園に必要な物のリスト提出、多読、道案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、園に必要な物のリスト作成、練習プリント5
第8回	運動会への案内状	(内 容) 単語テスト5、多読、運動会への案内状を読む (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント6
第9回	道案内2：練習	(内 容) 単語テスト6、多読、道案内の練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント7
第10回	英語の歌	(内 容) 単語テスト7、運動会への案内状提出、多読、英語の歌を練習する (必要な準備) 本読み1,000単語以上、運動会への案内状作成、練習プリント8
第11回	チャンツ	(内 容) 単語テスト8、多読、チャンツを知る (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント9
第12回	絵本読み	(内 容) 単語テスト9、多読、絵本読みの練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント10
第13回	街角英会話	(内 容) 街に出て英語で会話にチャレンジする。 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項の復習と英会話の練習
第14回	遊び	(内 容) 単語テスト10、多読、英語の遊びを知る (必要な準備) 本読み1,500単語以上
第15回	復習	(内 容) 多読、復習 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項で復習が必要な箇所の確認

授業名	英語・コミュニケーション c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication c・e			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	早瀬 和栄			対象学生	幼児教育1yd~ye・yi~yj			
授業の概要	保育現場における外国人の子供や保護者とのコミュニケーションの基礎習得を目標とする。基本語彙、文法、会話表現を学習し、また英語のアクセント・ストレスを練習することができる子供向けのチャンツや歌、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 保育園や幼稚園での登園、室内遊びに関する簡単な指示を英語で行うことができる。 2) 子ども向けの歌を英語で歌うことができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)							
参考書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円							
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む	
第2回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) pp. 6-8の予習、英作文の練習問題をしておく	
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 子供達への語りかけ (必要な準備) pp. 9-11の予習	
第4回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 教室内のこどもの遊び (必要な準備) pp12-14の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第5回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 子供達への語りかけ 英語で「きらきら星」を歌う (必要な準備) pp. 15-17の予習	
第6回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) 地図を使ってディスカッション (必要な準備) pp. 18-20の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) リスニング 英語のなぞなぞ (必要な準備) pp.21-23の予習	
第8回	グループディスカッション	(内 容) 今までの復習 リスニング (必要な準備) テキストの見直しをしておく。	
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) プールでの英語表現 (必要な準備) pp.24-26の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第10回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) ベア英会話 英語で遊戯歌「桑の木をまわろう」を歌う。 (必要な準備) pp.27-29の予習	
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) 料理で使う英語表現 (必要な準備) pp. 30-32の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第12回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) ホットケーキのレシピを英語で読む 19世紀の英国詩人クリスティーナ・ロセッティの詩を聴く。 ケーキを作る手遊び唄を歌う。 (必要な準備) pp.33-35の予習	
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) 絵本の読み聞かせの英語表現 (必要な準備) pp. 36-38の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第14回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) ベア英会話 リスニング問題 「マクドナルドおじさん」を英語で歌う。 (必要な準備) pp. 39-41 の予習	
第15回	総復習	(内 容) 日常表現 (必要な準備) テキストの見直し	

授業名	英語・コミュニケーション d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。 2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。 3) 図書館にある多読用の本に触れる習慣を通して英語に親しみ、各自で楽しみながら読んでいく。							
学習成果到達目標	1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。 2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。 3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参考書	特になし							
留意事項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとChapter 1 Prepositions 1 . Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明と Atの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	Atの使い方とオリエンテーション	(内 容) Atの演習の続きとオリエンテーション (必要な準備) テキスト pp. 4-5の予習 (60分)	
第3回	2 . Byの使い方	(内 容) Byの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 6-9の予習 (60分)	
第4回	3 . Forの使い方	(内 容) Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 10-14の予習 (60分)	
第5回	For、4 . Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 15-18予習 (60分)	
第6回	5 . Inの使い方	(内 容) Inの演習 (必要な準備) テキスト pp. 19-24の予習 (60分)	
第7回	In、6 . Ofの使い方	(内 容) Inの演習の続きとOfの演習 (必要な準備) テキスト pp. 25-29の予習 (60分)	
第8回	Of、7 . Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習 (60分)	
第9回	On、8 . Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習 (必要な準備) テキスト pp. 36-40の予習 (60分)	
第10回	To、9 . Withの使い方	(内 容) Toの演習の続きとWithの演習 (必要な準備) テキスト pp. 41-46の予習 (60分)	
第11回	With、Chapter 2 Verbs 1. Bringの使い方	(内 容) Withの演習の続きとBringの演習 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第12回	Bringの使い方	(内 容) Bringの演習 (必要な準備) 前回の予習の見直し (30分)	
第13回	2 . Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 52-55の予習 (60分)	
第14回	3 . Doの使い方	(内 容) Doの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 56-61の予習 (60分)	
第15回	4 . Getの使い方と春学期のまとめ	(内 容) Getの演習全体とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 62-67の予習 (60分)	

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	春学期と同様、基本文法はしっかりと身につけます。リーディング、ライティング、リスニングの教材もさらに加えています。日本史や日本文化の情報を讀んだり話したりすることも取り入れます。							
学習成果到達目標	1) 多読、会話につながるような必要な文法の基礎を身につける。 2) 現在形、過去形、未来形、現在完了形を用いて、自分のことを簡単に伝える。 3) 自分の興味ある歴史上の人物、事柄を簡単に英語で説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社 春学期に使用したテキストの続きをします。							
参考書	特になし							
留意事項	後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーションと 動詞の時制の復習	(内 容) 動詞の時制および文型の練習問題 (必要な準備) 動詞の過去形、文型の復習をしておくこと
第2回	Unit 13 過去分詞のもう1つの働き? 受動態	(内 容) 過去分詞のおさらい 能動態から受動態へ書き換える練習 (必要な準備) テキスト pp. 54-57の予習
第3回	Unit 14 YES/NOとNOT 疑問文	(内 容) 疑問文、否定文の作り方。 実際に作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 58-61の予習
第4回	Unit 15 'When', 'Who', 'Where' and 'What'	(内 容) YES/NO疑問文の復習 Wh-疑問文の作成 (必要な準備) テキスト pp. 62-65の予習
第5回	Unit 16 思いを伝える助動詞?	(内 容) 助動詞の使い方。否定文、疑問文。 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習
第6回	Unit 17 過去を表さない'would'と'could'	(内 容) Unit 16助動詞の復習 丁寧な依頼文を作る。 (必要な準備) テキストpp. 70-73の予習
第7回	Unit 18 名詞の働きをする動詞? 動名詞・不定詞	(内 容) 名詞の働きを確認。 動名詞・不定詞の使い方。 (必要な準備) テキスト pp. 74-77の予習
第8回	Unit 19 形容詞・副詞の働きをする動詞? 不定詞	(内 容) 形容詞・副詞の役割の確認 形容詞的用法・副詞的用法の不定詞の演習 (必要な準備) テキストpp. 78-81の予習
第9回	Unit 20 'Hand in hand'の意味? 接続詞	(内 容) 等位接続詞の演習 (必要な準備) テキスト pp. 82-85の予習
第10回	Unit 21 「いつ」でない'when'?	(内 容) 等位接続詞の復習 その他の接続詞を使って文を作る。 (必要な準備) テキスト pp. 86-89の予習
第11回	Unit 22 'Good', 'Gooder', 'Goodest'?	(内 容) 比較級の練習。 例文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 90-93の予習
第12回	Unit 23 「誰が」でない'who'& 「どれ」でない' which'	(内 容) 関係代名詞の理解と演習 (必要な準備) テキスト pp. 94-97の予習
第13回	Unit 24 過去と現在のつながりを表す?	(内 容) 関係代名詞の復習 現在完了形の理解と演習 不規則動詞の変化の確認 (必要な準備) テキスト pp. 98-101の予習
第14回	Unit 24 現在完了形の復習	(内 容) 現在完了形を含む時制の復習 小テスト (必要な準備) テキスト pp. 98-101の復習
第15回	秋学期の復習	(内 容) まとめの小テスト (必要な準備) 疑問文の作り方、時制、関係代名詞をしっかりと復習しておくこと。

授業名	英語・コミュニケーション b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1ya~yc			
授業の概要	<p>1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。</p> <p>2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。</p> <p>3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。</p> <p>2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。</p> <p>3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Getting Back To Basics』 中村良廣 著 (松柏社) 2008年							
参考書	特になし							
留意事項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読用の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとUnit 1 Prepositions 1. Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明とAtの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	At、2. By、3. Forの使い方	(内 容) Atの演習の続きとBy、Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 4-10の予習 (60分)	
第3回	For、4. Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 11-17の予習 (60分)	
第4回	5. In、6. Ofの使い方	(内 容) In、Ofの演習 (必要な準備) テキスト pp. 18-23の予習 (60分)	
第5回	Of、7. Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 23-28の予習 (60分)	
第6回	On、8. Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 28-34の予習 (60分)	
第7回	9. Withの使い方	(内 容) Withの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 35-38の予習 (60分)	
第8回	Unit 2 Verbs 1. Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 39-42の予習 (60分)	
第9回	2. Get、3. Giveの使い方	(内 容) GetとGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 43-47の予習 (60分)	
第10回	Give、4. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第11回	5. Have、6. Keepの使い方	(内 容) HaveとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 52-56の予習 (60分)	
第12回	Keep、7. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 57-60の予習 (60分)	
第13回	8. Make、9. Sayの使い方	(内 容) MakeとSayの演習 (必要な準備) テキスト pp. 61-65の予習 (60分)	
第14回	Say、10. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習の続きとSeeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習 (60分)	
第15回	11. Take、「定型表現」の使い方と秋学期のまとめ	(内 容) Takeの演習全体と「定型表現」に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 70-73と「定型表現」のプリントの予習 (60分)	

授業名	英語・コミュニケーション c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	早瀬 和栄			対象学生	幼児教育1yd~ye・yi~yj			
授業の概要	春学期の授業をさらに発展させた形で、実際のコミュニケーションの場で多用される口語表現を身につけ、相互交流的な英会話能力を伸ばす。リスニングとライティング。							
学習成果到達目標	1) 基本単語・基本構文の習得 2) リスニングの習得 3) 英語によるコミュニケーション能力の向上							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)							
参考書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円							
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	役立つ日常会話	(内 容) 保育英語について考える (必要な準備) シラバスを読む	
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) 日本の年中行事に関する英語表現 (必要な準備) pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第3回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) デザートについてのペア英会話 (必要な準備) pp.45-47の予習	
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での英語表現 (必要な準備) pp.48-50の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第5回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での遊び 「なわとび唄」を英語で歌う。 (必要な準備) pp.51-53の予習	
第6回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 英国圏の国における子供の遊び文化 (必要な準備) pp.54-56の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第7回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 園児へのグラウンドでの遊びをうながす語りかけ (必要な準備) pp.57-59の予習	
第8回	復習	(内 容) テキストの復習 グループディスカッション (必要な準備) テキストの見直しをしておく。	
第9回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃん保育での英語表現 (必要な準備) pp.60-62の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第10回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃんへの語りかけ 英語の子守唄を歌う (必要な準備) pp.63-65の予習	
第11回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) 歯磨き指導の英語表現 (必要な準備) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第12回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) ペア英会話 妖精の詩を読みます。 (必要な準備) pp.69-71の予習	
第13回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) お遊戯会での英語表現 (必要な準備) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第14回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) ペア英会話 リスニング (必要な準備) pp.75-77の予習	
第15回	総復習	(内 容) 日常で使える英語表現 (必要な準備) テキストの見直し	

授業名	英語・コミュニケーション d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	<p>1) 春学期と同じように文法の「基礎」を確認していくが、テキストの最後のChapterにかけては、「会話設定」の問題で力が試されるので、その演習に対応できるようになることをめざす。</p> <p>2) 「会話表現」においても、「応用」できるようにする。</p> <p>3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。</p> <p>2) 「動詞」の使い方と「会話の定型表現」を理解する。</p> <p>3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参考書	特になし							
留意事項	今学期もテキストの演習を中心に授業を進めていく。予習では春学期よりも正確な文を作れるよう取り組んでほしい。テキストと辞書を忘れないことや授業に集中して臨むことは、春学期と同様である。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーションと5. Giveの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業に関する説明とGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 68-73の予習 (60分)
第2回	Give、6. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習 (必要な準備) テキスト pp. 74-80の予習 (60分)
第3回	Go、7. Haveの使い方	(内 容) Goの演習の続きとHaveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 81-86の予習 (60分)
第4回	Have、8. Keepの使い方	(内 容) Haveの演習の続きとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 87-92の予習 (60分)
第5回	Keep、9. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習 (必要な準備) テキスト pp. 93-96の予習 (60分)
第6回	Look、10. Makeの使い方	(内 容) Lookの演習の続きとMakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 97-101の予習 (60分)
第7回	Make、11. Putの使い方	(内 容) Makeの演習の続きとPutの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 102-106の予習 (60分)
第8回	12. Say、13. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習全体とSeeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 107-115の予習 (60分)
第9回	See、14. Takeの使い方	(内 容) Seeの演習の続きとTakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 116-121の予習 (60分)
第10回	Take、15. Wantの使い方とChapter 3 Formulaic Expressions 1. A)挨拶をかわす	(内 容) Takeの演習の続き、Wantと1. A)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 122-128の予習 (60分)
第11回	1. B) 紹介をする 2. A) 質問をする B) 聞き返す C) 道を尋ねる	(内 容) 1. B)、2. A)、B)、C)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 129-135の予習 (60分)
第12回	3. A) 提案する B) 感謝する	(内 容) 3. A)の演習全体とB)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 136-141の予習 (60分)
第13回	3. B)、C) 謝る D) 依頼する	(内 容) 3. B)の演習の続き、C)の演習全体とD)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 141-146の予習 (60分)
第14回	3. D)、E) 断る F) ほめる	(内 容) 3. D)の演習の続き、E)の演習全体とF)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 146-152の予習 (60分)
第15回	3. F)、G) 電話をかける Chapter 4 Other Useful Expressionsと秋学期のまとめ	(内 容) 3. F)の演習の続き、G)の演習全体、Chapter 4の演習に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 153-164の予習 (60分)

授業名	日本語表現法 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya～yb			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力を習得する 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法を習得する							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自己表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回到提示する。							

授 業 名		日本語表現法 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について学ぶ。ノートをとることの必要性を理解し、ノートの取り方を練習する。 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと。(10分)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの基本を復習する。原稿用紙の使用方を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(20分)	
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習を行う。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。	
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。(30分)	
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について学ぶ。 (必要な準備) 課題を完成させる。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習を行う。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。(30分)	

授業名	日本語表現法 c			開講学年	1回生	単位数		
英文名	Japanese Writing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	幼児教育1yc~yd			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自由表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的にとりくむことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回到提示する。							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 C
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの説明をする。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安の説明。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを説明する (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を説明する。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を説明する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習をする。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について説明する。 (必要な準備) 課題を完成させる。
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。

授業名	日本語表現法 d・e・f			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	土井 哲治			対象学生	幼児教育1ye~yf、yg~yh、yi~yj			
授業の概要	短期大学で授業を受けたり、社会で活躍したりするのに必要な日本語能力を修得するため、日本語に関して不足している知識と、未整理のままでも有効活用できていない知識を、体系的に整理して講義し、講義内容の理解を練習問題で確認する。併せて、定型文の学習と語彙訓練を行い、日本語能力の基本を完成する。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	配布プリント							
参考書	使用しない。							
留意事項	当然のことながら、国語辞書を持参するとより効果的な学習ができる。							
オフィス アワー	金曜日午後12から15時まで							

授 業 名		日本語表現法 d・e・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要と日本語能力の問題点の纏説。国語力診断小テスト。 (必要な準備)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 内閣総理大臣告示に基づいた仮名遣いの学習。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 内閣官房長官通知に基づいた表記の目安の学習。敬語力診断小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第4回	動詞の尊敬・語彙練習 1	(内 容) 動詞の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第5回	動詞の謙譲語 ・語彙練習 2	(内 容) 動詞の謙譲語 の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第6回	動詞の聞手尊敬・語彙練習 3	(内 容) 動詞の聞手尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第7回	動詞の特殊な敬語・語彙練習 4	(内 容) 動詞の特殊な敬語の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第8回	ラ変型活用の語の尊敬・語彙練習 5	(内 容) 形容詞等の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第9回	ラ変型活用の語の丁寧・語彙練習 6	(内 容) 形容詞等の丁寧の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第10回	敬語的表現・語彙練習 7	(内 容) 婉曲表現等の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第11回	手紙文・語彙練習 8	(内 容) 手紙文の形式とマナーの講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第12回	手紙文課題練習	(内 容) 手紙文を作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第13回	事務的文章・語彙練習 9	(内 容) 事務的文章の形式の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第14回	事務的文章課題練習	(内 容) 事務的文章の作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答。 (必要な準備) 質問の用意	

授業名	人権と社会 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。</p> <p>2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。</p> <p>3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業時に資料を配布する							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		人権と社会 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)
第2回	人に備わる利他性	(内 容) 心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきちやのか考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第3回	差別と偏見 --「行動」から「心」を探る	(内 容) 我々が普段おこなう選択と選好の問題に関して考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第4回	差別と偏見 --市場理論からの分析	(内 容) 市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第5回	差別と偏見 --エスニシティに関する住民の独立意向を考察する	(内 容) スコットランドやカナダのケベック州の独立運動について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第6回	ジェンダーの視点について	(内 容) ジェンダーの視点について考察する (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第7回	男女の行動の違いについて --リスクの取り方に性差あり?	(内 容) リスクの取り方の性差について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第11回	男女の行動の違いについて --性差を超えた取り組みを	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項(60分)

授業名	人権と社会 b・c			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	向出 佳司			対象学生	幼児教育1ya～ye、yf～yj			
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>							
学習成果 到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	授業時に資料を配布する							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		人権と社会 b・c	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)	
第2回	人権の概念	(内 容) 社会権・平等権・自由権について考察する。 (必要な準備) 日本国憲法の人権条項を準備する。	
第3回	人権侵害の概念	(内 容) 尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (必要な準備) 世界人権宣言を準備する。	
第4回	障害者問題	(内 容) 障害者との共生・共育の3つの理念について理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第5回	高齢者問題	(内 容) 高齢社会下における高齢者の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第6回	子ども・家族の問題	(内 容) 少子社会における子ども・家族の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第7回	性の問題	(内 容) 男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習。	
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習	
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第11回	性差を超えた取り組み	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習。	
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項。	

授業名	情報処理 a・b・c・d・f			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yb、yc~yd、ye~yf、yi~yj			
授業の概要	<p>情報化社会において、適切に情報や情報機器を取り扱える人材育成をめざし、その基本的な情報技術や知識を習得することを目的とする。本科目では主に文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの操作方法を、大学での学習や就職先での実践を想定した課題に取り組むことにより習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる。 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (I Tリテラシ-	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名	情報処理 a・b・c・d・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンスとPCの基本操作	(内 容) 授業内容の確認をする。Gmailの使用方法を理解し、メールの送受信を行う。 (必要な準備) パスワードを持参する。シラバスを読んでおく。(20分)
第2回	PowerPointの基本操作 1 イラストの作成	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。図形を用いたイラストを挿入する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第3回	PowerPointの基本操作 2 表の作成・写真の挿入	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。表や写真を挿入する。 (必要な準備) 自己紹介用の写真を用意する。(20分)
第4回	PowerPointによるプレゼンテーション	(内 容) PowerPointで作成した自己紹介用の資料を用い、プレゼンテーションを行う。 (必要な準備) 自己紹介用の資料を完成させておく。(60分)
第5回	Wordの基本操作 (文書作成と整形)	(内 容) 要旨の作成を通して、Wordによる文書作成と整形を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第6回	Wordの基本操作 (表の作成)	(内 容) 複数の表の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第7回	Wordによる案内文の作成	(内 容) 案内文の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第8回	Wordによるはがきの作成	(内 容) 年賀状又は暑中見舞いのはがきを作成する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第9回	Excelの基本操作	(内 容) 合計や平均など基本的関数の操作を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第10回	Excelによる表、グラフの作成	(内 容) データ入力、表・グラフの作成を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第11回	Excelによるデータベースの活用	(内 容) データベース機能を理解し、データベースの活用を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第12回	Excelとワードの活用 課題作成 内容の検討	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第13回	Excelとワードの活用 課題作成 完成	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。図や写真などを挿入し、完成させる。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第14回	学習成果の発表	(内 容) 課題を発表する。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)
第15回	WordとExcelの活用	(内 容) データを連結させる。宛名ラベルの作成を行う。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)

授業名	情報処理 e			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	岩佐 真代			対象学生	幼児教育1yg～yh			
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。また、インターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。							
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実践力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		情報処理 e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Windowsの基本操作	(内 容) フォルダ作成、Gメールの送受信など (必要な準備) IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話(スマートフォン等)の契約内容(データ通信量、料金形態等)を確認しておく シラバスの内容を確認する(30分)
第2回	Word 1(基本操作)	(内 容) USBメモリ使用上の注意 コピー&貼り付け、書式設定、文字カウントなど (必要な準備) USBメモリの準備 前回の復習(30分)
第3回	Word 2(文書作成と整形)	(内 容) 文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど (必要な準備) 前回の復習(30分)
第4回	Word 3(図入りの文書の作成)	(内 容) 図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Toolの使い方など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第5回	Word 4(表作成)	(内 容) 単純な表、複雑な表の作成 (必要な準備) 前回の復習(30分) 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5(総復習)	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第7回	Excel 1(基本操作)	(内 容) セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第8回	Excel 2(表計算)	(内 容) 合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー (必要な準備) 前回の復習(30分)
第9回	Excel 3(作表と印刷設定)	(内 容) 罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第10回	Excel 4(グラフ)	(内 容) 棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク (必要な準備) 前回の復習(30分)
第11回	Excel 5(総復習)	(内 容) 分析とグラフ作成の実践 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第12回	PowerPoint 1(基本操作)	(内 容) スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第13回	PowerPoint 2(Word、Excelとの連携)	(内 容) グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第14回	PowerPoint 3(総復習) インターネット・リテラシー	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する (必要な準備) 前回の復習(30分)
第15回	PowerPoint 4(プレゼンテーション)	(内 容) PowerPointを使用したプレゼンテーションの実際 (必要な準備) プレゼンテーションの準備 前回の復習(30分)

授業名	日本語表現法 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日本語表現法 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく	
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意	
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ	
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解	
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考	
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読	
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査	
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意	
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削	
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集	
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査	
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認	

授業名	日本語表現法 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。							
学習成果到達目標	1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日本語表現法 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく	
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意	
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ	
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解	
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考	
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読	
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査	
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意	
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削	
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集	
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査	
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認	

授業名	日本語表現法 C			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	読み手にとって分かりやすい文章を書くための方法を学び、添削指導によって訓練する。また、文章を読むことを通じて書き手の言いたいことを読み取れる力を養う。							
学習成果到達目標	1) 読み手に内容が伝わる文章を書ける 2) 文章の大まかな意味を読み取れることができる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	随時提示する							
留意事項	課題は必ず全て提出すること。							
オフィス アワー	初回の授業で提示する							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 C
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	文章の書くための準備	(内 容) 文章を書く前の準備を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第3回	文章を書くための注意点 語法	(内 容) わかりやすい文章を書くための語法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第4回	文章を書くための注意点 接続詞	(内 容) わかりやすい文章を書くための接続詞の使用方法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第5回	文章を書くための注意点 表現	(内 容) わかりやすい文章を書くための表現法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第6回	文章を書くための注意点 感情表現	(内 容) 感情表現を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第7回	読み手を説得する方法	(内 容) 帰納法、演繹法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第8回	文章の推敲	(内 容) 推敲における注意点を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第9回	要約 新聞記事	(内 容) 要約の方法を理解する。新聞記事を読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第10回	要約 エッセイ	(内 容) エッセイを読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第11回	要約 小説	(内 容) 小説を読み要約する。要約を通して読解力を養う。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第12回	小論文の準備	(内 容) 小論文を作成のための内容の組み立てを考える。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	いのちの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Life Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	生命進化を生化学的に概観するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。 1. 生命の科学的定義。 2. 生命進化 3. 地球の環境変化 4. 個体発生 5. 発生過程の生化学的変化							
学習成果到達目標	1) 生命に対する科学的概念が確立できる。 2) 生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。 3) 個体発生過程を理解できる。 4) 最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	プリントを配布します。							
参考書	ニュートン 「生命の誕生と進化の38億年」((株)ニュートンプレス)、視覚でとらえるフォトサイエンス 「生物図鑑」鈴木孝仁監修 数研出版、NHKプロジェクト 『地球大進化』(NHK出版)。							
留意事項	生物学、化学、地学などの学問領域にこだわることなく、最新の知見に基づき総合的に思考、理解して欲しい。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		いのちの科学 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	生命とは	(内 容) 生命の科学的定義 (必要な準備) 生命について考えておく	
第2回	進化タンパク質	(内 容) たん白質に残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) タンパク質について調べておく	
第3回	進化とDNA	(内 容) DNAに残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) DNAについて調べておく	
第4回	宇宙の誕生過程	(内 容) 宇宙のフラストレーションとビックバン (必要な準備) 宇宙の誕生について調べておく	
第5回	地球の歴史	(内 容) 太陽および地球の誕生過程 (必要な準備) 地球の歴史について調べておく	
第6回	地球上の大陸移動	(内 容) 大陸移動およびそのエネルギー源 (必要な準備) 大陸移動について調べておく	
第7回	地球の凍結	(内 容) 全球凍結による大量絶滅 (必要な準備) 地球の凍結について調べておく	
第8回	地球上の生物の発生と進化	(内 容) 生物の進化 (必要な準備) カンブリア爆発について調べておく	
第9回	ヒトの起源	(内 容) 哺乳類およびヒトの誕生 (必要な準備) ヒトへの進化について調べておく	
第10回	ヒトの起源(ヒトが地球上に拡散した過程)	(内 容) ヒトがアフリカから地球上に拡散した過程 (必要な準備) ミトコンドリア・イヴ説などを調べておく	
第11回	日本人の起源	(内 容) 日本人の構成 (必要な準備) 日本人の起源について調べておく	
第12回	個体発生(受精過程)	(内 容) 精子と卵子の受精から着床まで (必要な準備) 受精の課程について調べておく	
第13回	個体発生(妊娠過程)	(内 容) 受精卵の着床から出産まで (必要な準備) 妊娠の課程について調べておく	
第14回	バイオテクノロジーについて	(内 容) クローン羊の意義、遺伝子組み換え技術による農作物 (必要な準備) バイオテクノロジーについて調べておく	
第15回	再生医療	(内 容) ES細胞、iPS細胞の意義 (必要な準備) 再生医療について調べておく	

授業名	こころの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Science			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>心理学の基礎を学び、人の心のはたらきや行動について理解を深める。また、心理学は生活や社会と密接に結びついた内容が研究されており、日常的な現象について心理学の理論や実験を通して理解をすすめる。心理学を学ぶことで、自己理解・他者理解をすすめる、発達していく人間の可能性を認識し、社会でより良く生きるための知見を得る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 知覚や認知のしくみ・パーソナリティー・記憶について科学的に分析し、人の行動を理解することにつなげる。 2) 生涯発達の観点のもと、乳幼児期と青年期の発達や心の理論の発達について理解する。 3) 集団生活や社会の中での人の心のはたらきや行動の解明に活用されている心理学、対人援助分野に活用されている心理学について学び、今後の仕事や生活に活かす。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室前に掲示する)							

授 業 名		こころの科学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 心理学の歴史と方法 心理学の専門分野	(内 容) 講義の目的と学習の流れ 心理学の歴史 心理学の専門分野と各分野の関係 (必要な準備) 専用のファイルを準備する。	
第2回	心理学入門1 知覚と認知の理解	(内 容) 感覚・知覚・認知の定義 錯覚 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第3回	心理学入門2 パーソナリティーの追究	(内 容) パーソナリティーの定義 パーソナリティー特性 パーソナリティー検査 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第4回	心理学入門3 記憶の不思議	(内 容) 記憶のしくみとプロセス 忘却 記憶の研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第5回	発達心理学1 発達と青年期	(内 容) 発達の定義 発達段階と発達課題 生涯発達の観点 青年期の心理的特徴 (必要な準備) 心理学入門1～3の復習(90分)	
第6回	発達心理学2 心の理論	(内 容) 心の理論の研究とその展開 心の理解の土台づくり (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第7回	発達心理学3 赤ちゃん・乳児の能力	(内 容) 赤ちゃんの能力 赤ちゃん・乳児研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第8回	社会心理学1 社会的認知の理解	(内 容) 他者や集団の受けとめ方 印象形成 ステレオタイプ 帰属 バランス理論と認知的不協和理論 (必要な準備) 発達心理学1～3の復習(90分)	
第9回	社会心理学2 社会的影響の理解	(内 容) 集団内での影響作用 援助行動 意思決定 リーダーシップ (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第10回	中間まとめ	(内 容) 前半の講義の振り返りとレポートの作成 (必要な準備) 社会心理学1～2の復習(90分)	
第11回	臨床心理学1 無意識と防衛機制	(内 容) フロイトの精神分析理論 心の構造 自我の防衛機制 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第12回	臨床心理学2 カウンセリング	(内 容) ロジャーズの来談者中心療法 自己概念 共感と傾聴の態度 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第13回	臨床心理学3 教育現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第14回	臨床心理学4 福祉現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第15回	全体のまとめ	(内 容) 講義全体の振り返りとまとめ (必要な準備) 臨床心理学1～4の復習(90分)	

授業名	人生と哲学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Life and Philosophy			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西本 明央			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「哲学」とはあらゆる対象に、常にその真の姿を求める行為である。批判的に捉え直したり、自ら考えたりする姿勢である。自ら主体的に考え、また共に考え合うことによって、新たな視点を見出すことを目的とする。「哲学」は我々の日常への深い洞察から始まるものである。そこで、我々に身近なテーマを毎回取り上げ、共に再考する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 情報をただ受け取るだけでなく、自ら主体的に考えて、自らのものとしてすることができる。 2) あらゆることに対し、批判的に考え直し、それを表現することができる。 3) 自らの人生観・世界観を意識し、表現することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	講義を中心として行う。テキストは特定しないが、種々に考える題材を提供することにより、自分自身の考えをまとめ、ノートを作るよう努力して下さい。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。							

授 業 名		人生と哲学 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「哲学」とは	(内 容) 「哲学」という学問の原点について概説する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「philosophia」とは	(内 容) 「philosophia=知を愛すること」とは如何なることが共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第3回	「哲学」の意義とは	(内 容) 「哲学」の存在意義について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第4回	「行為とその選択」とは	(内 容) 「行為」を選択する自由と、「選択」する基準について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第5回	「科学」とは	(内 容) 「科学」とは何か共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第6回	「哲学」と「科学」とは	(内 容) 「哲学」と「科学」は補い合うことを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第7回	「価値」とは	(内 容) 「価値」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第8回	「目的」とは	(内 容) 「目的」を決めるものは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第9回	「常識」とは	(内 容) 「常識」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第10回	「法律」とは	(内 容) 「法律」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第11回	「自然」とは	(内 容) 「自然」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第12回	「環境」とは	(内 容) 「環境」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第13回	「言葉」とは	(内 容) 「言葉」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第14回	「認識」・「概念」とは	(内 容) 「認識」・「概念」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、我々の日常への新たな視点について共に考える。 (必要な準備) 全14回授業のノートを読み返し再考する。(90分)

授業名	くらしと法律			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Law and Our Living			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>私たちは、さまざまなルールにしたがって日々の生活を送っている。法は、これらのルールの一つであり、国家・社会そして個人のあり方を方向づけるものとして、他ならぬ私たち自身がつくり出したものである。本授業では、人生の各段階における法との出会いを学ぶことを通して、法の社会生活における役割や働きなどを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 具体的な例をもとにして、日々の生活と法との関わりを学ぶことにより、法を身近な事柄として理解できる。 2) 身に付けた知識を、日常生活の中で活用できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	市民生活と法 [第4版] [法律文化社]							
参考書	法律用語辞典 [第4版] [有斐閣]、六法全書 ・ [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所(各章など)を熟読して授業に臨むことが必須である。							
オフィス アワー	質問・相談などは、担当授業終了後にも受け付けます。							

授業名	くらしと法律	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	法学入門 1 (現代日本法の特徴)	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成 (必要な準備) テキストの入手。はしがき・目次の一読。
第2回	法学入門 2 (社会生活と法)	(内 容) 法の性格、法の目的、法の実在形式、法の分類、法に特有の原則 (必要な準備) テキスト序章を熟読しておく。
第3回	親子と法	(内 容) 法的な人格、出生、親子法理念、実親子、養親子 (必要な準備) テキスト第1章を熟読しておく。
第4回	職場と法	(内 容) 労働法の意義、労働を取り巻く環境の変化、労働に関する基本ルール、非正規という働き方 (必要な準備) テキスト第3章を熟読しておく。
第5回	婚姻と法	(内 容) 婚姻、婚姻の効果、婚姻の解消、離婚の効果 (必要な準備) テキスト第4章を熟読しておく。
第6回	消費生活と法	(内 容) 日常生活における取引の原則と消費者問題、市民の生活を守る「消費者法」ほか (必要な準備) テキスト第5章を熟読しておく。
第7回	住居と法	(内 容) 住居の多様性、自己所有住居の場合(1)(2)、他者所有住居の場合 (必要な準備) テキスト第6章を熟読しておく。
第8回	事故と法	(内 容) 事故の種類と法、市民生活上生じる事故、事故被害の救済制度 (必要な準備) テキスト第7章を熟読しておく。
第9回	情報と法	(内 容) 情報化社会、情報公開、プライバシーの権利、財産的情報 (必要な準備) テキスト第8章を熟読しておく。
第10回	環境と法	(内 容) 環境問題の動向、環境法における基本原則、循環型社会の形成、地球温暖化防止にむけて他 (必要な準備) テキスト第9章を熟読しておく。
第11回	地域社会と法	(内 容) 私たちのくらしと地方自治、地方公共団体の組織と運営、住民自治の権利 (必要な準備) テキスト第10章を熟読しておく。
第12回	犯罪と法	(内 容) 犯罪と刑罰、刑法の一般原理、個別の犯罪類型 (必要な準備) テキスト第11章を熟読しておく。
第13回	裁判と法	(内 容) 裁判の種類、裁判所の種類と構成、裁判官その他の裁判所職員・検察官・弁護士、刑事裁判他 (必要な準備) テキスト第12章を熟読しておく。
第14回	高齢社会と法	(内 容) 高齢化社会と法律、新たな成年後見制度の概要、扶養、高齢者問題に関する最近の動き (必要な準備) テキスト第13章を熟読しておく。
第15回	死亡と法	(内 容) 人の死亡とそれに関わる法、相続の意義、現行相続制度、相続人と相続分他 (必要な準備) テキスト第14章を熟読しておく。

授業名	くらしと経済 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Economics and Our Living			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 博子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	当然と思いきらしている日々の消費生活を通して「経済」の基礎を学び、経済を支えるビジネスや政府の経済活動が、私たちの生活とどう関わっているのかを具体的に見ていく。 さらに経済のグローバル化によって、これからの経済活動の変化や国際社会のかかえる課題の解決策も考える。							
学習成果到達目標	1) 経済の基礎知識を習得し、経済的社会的正義に基づいたライフスタイルを実践できる。 2) 若者を取り巻く消費者問題や雇用環境を理解し、説明することができる。 3) 倫理、社会、経済、環境面を考慮した消費者行動ができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『くらしの豆知識』国民生活センター編							
参考書	蔵研也『18歳から考える 経済と社会の見方』春秋社							
留意事項	新聞やTV、インターネットなどのニュースに関心を持ち、さまざまな文献や公的機関のHPを積極的に読んでみる。関連する記事はクリッピングしておくこと。復習をしっかりと行うこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	くらしと経済 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 「私たちの生活と経済」	(内 容) 「経済」とは何か (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	経済のしくみとビジネス	(内 容) 「経済を支えるビジネス」や「経済活動の基本的な考え方」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第3回	経済活動と流通	(内 容) 「流通の役割と働き」「流通機構と流通経路」について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第4回	市場経済の機能と限界	(内 容) 市場における「価格」の役割、「市場メカニズム」、「消費行動と意思決定」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第5回	金融のしくみと機能	(内 容) お金と銀行の役割、「日銀のしごと」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第6回	金融サービスと法律	(内 容) 「クレジットカード」、「電子マネー」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第7回	現代社会と消費者問題	(内 容) 「消費者市民」社会、消費者の権利と責任について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第8回	若者の消費者トラブルと消費者行政	(内 容) 若者を取り巻く消費者トラブル事例と解決策 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第9回	契約の基礎知識	(内 容) 「契約とは」「契約の成立と無効・取消」、 「未成年者の契約」 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第10回	情報をクリティカルに読み解く	(内 容) 誇大広告や不当表示(景品表示法)について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第11回	雇用と労働問題	(内 容) 労働をめぐる制度・法律、現代の雇用問題と対策について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第12回	若者の雇用環境	(内 容) 若者の雇用環境の変化とその対策、ブラックバイトについて (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第13回	貿易と外国為替	(内 容) 現代の貿易と日本企業、外国為替と円高・円安のしくみ、経済のグローバル化について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第14回	国際NGOと国際機関、国際会議のいろいろ	(内 容) 国連をはじめ、さまざまな国際機関や国際会議について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第15回	グローバル社会のエシカル消費、まとめ	(内 容) 社会を良くする「エシカル消費」とは、「フェアトレード」の社会的意義について。これまでの授業内容の復習と補足 (必要な準備) テキスト、配布資料を読み直しておく。

授業名	京都の歴史と文化 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History and Culture of Kyoto			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	京都にはどのような歴史と文化が息づいてきたのかについて学ぶ。							
学習成果到達目標	京都の歴史と文化について、様々な視点から京都に関する知識と理解を深め、各自、京都の文化に対する好奇心と実践を養う。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)	
テキスト	担当教員が資料を準備する。配布資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	講義中の私語・スマホの使用は厳禁。 講義中に行う小テストも評価基準となる。							
オフィス アワー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		京都の歴史と文化 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 講義の注意点を良く聞くこと(90分)	
第2回	平安京の誕生	(内 容) 現在の京都市が平安京に選ばれた理由について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第3回	京都の祭 葵祭	(内 容) 京都を代表する祭のうち、葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	京都の祭 祇園祭	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	京都のお寺・神社参り	(内 容) 寺社参りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第6回	京都の「お守り」	(内 容) 寺社に置かれている「お守りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第7回	京の昔話	(内 容) 京に伝わる昔話について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第8回	京の怪異話	(内 容) 京に伝わる怪異話について知る。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第9回	京の信仰生活	(内 容) 京都に住む人々の信仰生活について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第10回	京ことば	(内 容) 「京ことば」を聞く・話す。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと。	
第11回	京の花街	(内 容) 花街で生きる女性(舞妓・芸妓)について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第12回	京の食生活 京の行事食	(内 容) 京の行事食について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第13回	京の食生活 京菓子里にいたるまで	(内 容) 菓子の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第14回	京の路地(ろおじ)	(内 容) 京都の路地(ろおじ)について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 講義についてのふり返り。 (必要な準備) これまでの講義内容について復習すること。	

授業名	日本の文学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Literature			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>普段読まない、日本の有名な古典作品を味読することで、古い時代の日本人の姿に関する知識を増やし、優れた古人のいろいろな感性やものの考え方に接していただき、それらを通して、日常あまり考えないことを考える手懸かりともしていただきたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 『徒然草』について語ることができる。 2) 普段考えない方面のことを十分考えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理展開力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (文章理解力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫)小川剛生・訳注(角川書店)							
参考書								
留意事項	<p>毎回テキストの現代語訳を読んでくること。 レポート作成時に欠席した場合は、必ず授業内容を確認して提出すること。</p>							
オフィスアワー	月曜日午後12時から午後15時まで							

授 業 名		日本の文学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要について (必要な準備)	
第2回	三・七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第3回	九・十二段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第4回	十九・二十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第5回	三十・三十一段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第6回	三十二・三十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第7回	四十一・四十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第8回	五十・五十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第9回	五十六・五十九段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第10回	七十一・七十三段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第11回	七十五・八十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第12回	百四・百七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第13回	百十二・百十七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第14回	百二十八・百五十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題について説明。 (必要な準備) 質問の用意	

授業名	ジェンダー論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Gender Studies			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)ほか、随時紹介する。							
留意事項	講義のほか、ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められる。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容) 概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容) 男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第3回	男女二分法について	(内 容) 二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容) 性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容) 性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第6回	文化とジェンダー	(内 容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第7回	幼児期の性役割の社会化	(内 容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容) 映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)	
第9回	メディアがジェンダー形成に与える影響	(内 容) メディアが与える影響を考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)	
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第13回	男女雇用機会均等法	(内 容) 男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第14回	男女共同参画社会をめざして	(内 容) 各領域でのジェンダー平等の実態について (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめ (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)	

授業名	基礎・現代社会			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Contemporary Society			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	戦後日本の子どもをとりまく現状を理解し、子どもの育ち方について影響を与えている多様な要因を考察する。あわせて子どもの成長・発達における文化の重要性を理解できるようにする。							
学習成果到達目標	1) 戦後の日本社会の変化を子どもを取り巻く「モノ」の変化からとらえ、子どもの成長・発達に及ぼす多様な要因を挙げることができる。 2) 各回の講義テーマの内容に関して、自分の生活経験に照らして社会的意義を理解して他人に説明できる。 3) 現代社会の社会事象のうち、自分の興味・関心を持ったテーマを深く考えていく態度を持つことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	毎回の当該テーマについては、受講生の興味・関心により柔軟に対応することもある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する等							

授 業 名		基礎・現代社会	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス：戦後日本の社会の変化と子どもの生活	(内 容) 本講義の授業内容と進め方。戦後日本の社会史と家族史・個人史を理解できる (必要な準備) シラバスで授業の流れを確認する。(10分)	
第2回	子どもを取り巻く社会(1)少子化	(内 容) ヒトが人間になるための社会・文化的環境について理解できる。 (必要な準備) 少子化について調べてくる。(20分)	
第3回	子どもを取り巻く社会(2)超少子化	(内 容) 超少子化とはどういうことか、これからの社会の現状を理解できる。 (必要な準備) 前回の要点を箇条書きでまとめてくる。(15分)	
第4回	子どもを取り巻く社会(3)高齢化	(内 容) 高齢化が子どもの育ちに与える影響を理解できる。 (必要な準備) 高齢化について調べてくる。(20分)	
第5回	子どもを取り巻く社会(4)おもちゃの変遷	(内 容) 現代のおもちゃの変遷を知り、子どもの育ちへの影響を理解できる。 (必要な準備) 自分の幼少期に遊んだ遊びについて箇条書きで書いてくる。(20分)	
第6回	子どもと大人(1)育児書	(内 容) 育児書前史、1950年代から60年代、子育ての実用書、80年代から90年代への育児書、これからの育児書を理解できる (必要な準備) 授業の要点を箇条書きでまとめる。(15分)	
第7回	子どもと大人(2)居住環境	(内 容) 大人や子どもにとっての居住環境の意義を理解することができる (必要な準備) 子ども部屋について考えたことを書いてくる。(15分)	
第8回	中間まとめ	(内 容) 子どもの育ちに影響を与える社会・文化的要因についてまとめる。 (必要な準備) これまで学んだ内容を活用し、自分史・家族史をまとめてくる(60分)	
第9回	子どもと文化(1)写真	(内 容) 子ども時代を記録するもの、家族アルバム、子どもの写真が理解できる (必要な準備) 自分にとって、思い出となる一枚の写真について考えてくる。(20分)	
第10回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡	(内 容) 子どもの口ずさむモノ、子どもの宇宙、「唱歌と童謡」を通じて、わらべ唄が理解できる (必要な準備) 自分の知っているわらべ唄を発表できるようにしておく(40分)	
第11回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡の発表	(内 容) 自分の知っているわらべ唄や童謡を発表することで、多様な伝承文化を理解する (必要な準備) 1枚の用紙にまとめてくる。(60分)	
第12回	子どもと文化(3)おやつ	(内 容) 駄菓子屋、西洋菓子の進出、おやつ、甘いお菓子など、おやつの歴史が理解できる (必要な準備) 各自、好きなおやつを考えてくる。あわせてその理由も書いてくる。(20分)	
第13回	身体をつくる(1)母乳とミルク	(内 容) 人生初期の食べ物について：ヒトはほ乳類であることを理解する。母乳や人工乳についての意義・役割を理解できる。 (必要な準備) 母乳の役割について調べてくる。(40分)	
第14回	身体をつくる(2)食生活	(内 容) 日常の食生活の意義が理解できる。多様な食生活が子どもの育ちに与える影響を理解するとともに、食生活の変遷を知る。 (必要な準備) 各自、食生活について大切にしていることを中心に振り返る。(20分)	
第15回	まとめと次に繋げる課題の明確化	(内 容) 現代社会が子どもの育ちについて影響を与えている多様な要因を検討し、今後のあり方を考えることができる (必要な準備) これまでのまとめと次に繋げる課題を考えてくる。(60分)	

授 業 名	基礎・数学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Basic Mathematics			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	高等学校までに学習した数学を再び学ぶ。数学の意味を数式、幾何をとおして把握させる。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験をおこない、学力の確認をする。定期試験にくわえて、小テストを毎回実施する。予習復習を義務づける。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 基礎的な数学の問題を解くことに加えて、その手法を習得することを到達目標とする。 2) 最低限の数学の基礎学力を得ることを到達目標とする。 3) 数学を解くことの楽しさを体験することで、より数学に親しむことを目標とする。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	授業中プリントを配布							
参 考 書	適宜参考書を紹介する。							
留 意 事 項	小テストを毎回実施する。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験あり							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		基礎・数学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	数学の美とガイダンス	(内 容) 数学の美しさ、ならびにガイダンス (必要な準備) 数学のイメージをしておくこと	
第2回	中学校3年レベル数学検定試験実施	(内 容) 中学校3年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第3回	数と式1	(内 容) 方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第4回	数と式2	(内 容) 連立方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第5回	幾何学1	(内 容) 図形・基本・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第6回	幾何学2	(内 容) 図形・三角形・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第7回	幾何学3	(内 容) 図形・円・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第8回	高等学校2年レベル数学検定試験実施	(内 容) 高等学校2年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第9回	三角法	(内 容) 三角法・小テスト実施 (必要な準備) プリントを読んでおくこと	
第10回	代数	(内 容) 確率について学ぶ。小テスト実施 (必要な準備) プリントを読んでおくこと	
第11回	統計	(内 容) 統計・小テスト実施 (必要な準備) プリントを読んでおくこと	
第12回	確率	(内 容) 確率・小テスト実施 (必要な準備) プリントを読んでおくこと	
第13回	総合演習(1)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第14回	総合演習(2)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第15回	総合演習(3)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	

授業名	基礎・化学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Chemistry			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	私たちの生活の中に起こっている様々な事象は、化学と深く関連している。化学を基礎から学ぶことは、物質の本質を知り生命を理解するうえで重要である。授業では、基礎的な項目である元素記号からはじめ、化学反応や有機化合物や無機化合物について解説する。							
学習成果到達目標	1) 化学の基礎的な項目を理解できる。 2) 生活の中での事象を化学的に捉えることができる。 3) 的確な判断を下し有効に化学の知識を活用できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	わかる化学 松井・小野著 科学同人							
参考書	授業中に指摘する。							
留意事項	教科書やノートで予習と復習をすること。							
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		基礎・化学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	元素の周期表	(内 容) 元素記号と周期表の意味 (必要な準備) 教科書中の元素の周期表を一読しておく	
第2回	原子、分子、イオン	(内 容) 原子、分子、イオンの質量 (必要な準備) p.19 - 25を一読しておくこと	
第3回	物質の成り立ちと構成元素	(内 容) 人や食品を構成する物質 (必要な準備) 教科書p.1 - 7を一読しておくこと	
第4回	化学結合	(内 容) 結合の種類と特徴について (必要な準備) 教科書p.8 - 18を一読しておくこと	
第5回	物質の三態	(内 容) 固体、液体、気体 (必要な準備) 教科書p.29 - 36	
第6回	コロイド化学	(内 容) コロイド粒子や溶液の特徴 (必要な準備) 教科書p.36 - 39を一読しておくこと	
第7回	化学エネルギー	(内 容) 生体エネルギーと食品中のエネルギー (必要な準備) 教科書p.43 - 48を一読しておくこと	
第8回	化学反応と化学反応式	(内 容) 物質の変化を示す化学式。酸と塩基との反応 (必要な準備) 教科書p.49 - 55を一読しておくこと	
第9回	酸化と還元	(内 容) 身の回りの酸化と還元 (必要な準備) 教科書p.55 - 64を一読しておくこと	
第10回	溶液の濃度とその表し方	(内 容) パーセント濃度、モル濃度、規定濃度 (必要な準備) 教科書p.65 - 78を一読しておくこと	
第11回	有機化合物(三大栄養素)	(内 容) 糖質、タンパク質、脂質 (必要な準備) 教科書p.73 - 86を一読しておくこと	
第12回	有機化合物(生命活動を担う物質)	(内 容) 核酸、遺伝、酵素 (必要な準備) 教科書p.86 - 100を一読しておくこと	
第13回	無機化合物の種類	(内 容) 多量元素と微量元素 (必要な準備) 教科書p.101 - 106を一読しておくこと	
第14回	無機化合物の働き	(内 容) 必須ミネラル (必要な準備) 教科書p.107 - 108を一読しておくこと	
第15回	生活と化学	(内 容) 生活の中での化学的な現象 (必要な準備) 具体的な事象について考えておくこと	

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	「文法」の復習をしつつ、会話に必要なリスニングとスピーキングの力をつけていきます。また、異文化について知ることができるよう随時読み物も加えていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 会話を聞き取れるようにする。また、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Switch』 Robert Hickling・白倉美里 金星堂							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使用するので必ず購入し持参してください。授業の流れが止まらないよう予習、復習をしっかりとしておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション Pre-Unit Unit 1 Jobs and Careers	(内 容)	品詞と語順 5文型の演習 現在時制の演習 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 Entertainment	(内 容)	Unit 1の復習 可算名詞・不加算名詞の確認 (必要な準備) テキスト pp.12-17の予習
第3回	Unit 3 Work Schedule	(内 容)	色々な前置詞の意味 前置詞を含むフレーズを意識して音読 (必要な準備) テキスト pp. 24-29の予習
第4回	Unit 4 Health and Fitness	(内 容)	過去時制の演習 不規則動詞の変化を覚える (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習
第5回	Unit 5 Shopping	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在・過去進行形の使い方 (必要な準備) テキストpp. 36-41の予習
第6回	Unit 6 Business Meeting	(内 容)	名詞・代名詞の確認 加算・不加算名詞の復習 (必要な準備) テキスト pp. 42-47の予習
第7回	Unit 7 Recruitment	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在完了形の演習 不規則動詞の過去形・過去分詞形 (必要な準備) テキスト pp. 48-53の予習
第8回	Unit 8 Customer Needs	(内 容)	色々な接続詞の意味、使い方 実際に文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 54-59の予習
第9回	Unit 9 Business Trip	(内 容)	現在形・過去形・現在完了形の復習 未来形の作り方 (必要な準備) テキスト pp .60-65の予習
第10回	Unit 10 Advertising	(内 容)	比較級・最上級の理解 (必要な準備) テキスト pp. 66-71の予習
第11回	Unit 11 Factory Tour	(内 容)	過去分詞の確認 能動態から受動態に書き換える。 (必要な準備) テキスト pp. 72-77の予習
第12回	Unit 12 Money Matters	(内 容)	名詞の役割確認 動名詞・不定詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 78-83の予習
第13回	Unit 13 Leisure	(内 容)	助動詞の意味と英作 (必要な準備) テキスト pp. 84-89 の予習
第14回	Unit 14 Environment	(内 容)	現在分詞・過去分詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 90-95の予習
第15回	Unit 15 Business Trip 春学期の復習	(内 容)	関係詞節の演習 総復習 (必要な準備) テキスト pp. 96-101の予習

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	文法をしっかり復習しつつ、会話に必要なリスニング、スピーキングの力をつけていきます。異文化理解を目的として読み物も随時取り入れていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 簡単な会話を聞き取り、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Keep Talking』村田和代・大谷麻美・村田奏美・重光由加 桐原書店							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使うので必ず、購入し持参すること。授業の流れが止まらないように予習、復習はしっかりとしておいてください。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Unit 1 Hi, is this seat taken?	(内 容)	オリエンテーション 初めて会った人と話す。 Small talk (必要な準備) テキストpp.2-5の予習
第2回	Unit 2 That's a lovely T-shirt.	(内 容)	一言ほめるテクニックを覚える。 (必要な準備) テキストpp.6-9の予習
第3回	Unit 3 Pardon?	(内 容)	相手の言ったことが聞き取れない時どうするか。 丁寧に尋ねる。 (必要な準備) テキストpp.10-13の予習
第4回	Unit 4 I really enjoyed it.	(内 容)	過去形の復習 Short Answerだけでなく一言加えてみる。 (必要な準備) テキスト pp.14-17の予習
第5回	Unit 5 Is that right?	(内 容)	相手の話を黙って聞いているだけでなくあいづちを打つ。 (必要な準備) テキスト pp.18-21の予習
第6回	Unit 6 How about you?	(内 容)	相手の話に興味を持って聞いていることをうまく伝える。 (必要な準備) テキストpp.22-25の予習
第7回	Unit 7 Thank you so much!	(内 容)	大切な一言、お礼の言い方を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.26-29の予習
第8回	Unit 8 Excuse me, but...	(内 容)	上手に苦情を言う。 (必要な準備) テキストpp.30-33の予習
第9回	Unit 9 This is my fault.	(内 容)	上手に謝罪する。 (必要な準備) テキストpp.34-37の予習
第10回	Unit 10 I'd rather not say.	(内 容)	答えたくない質問に上手に対処してみる。 (必要な準備) テキストpp.38-41の予習
第11回	Unit 11 Could you tell me the way to the station?	(内 容)	助動詞などを使って丁寧に頼んでみる。 (必要な準備) テキスト pp.42-45の予習
第12回	Unit 12 How about next Sunday?	(内 容)	イベントなどに誘ってみる。 (必要な準備) テキストpp.46-49の予習
第13回	Unit 13 I'll think about it.	(内 容)	失礼にならないよう上手に断る。 (必要な準備) テキスト pp.50-53の予習
第14回	Unit 14 That's a good idea, but...	(内 容)	口調を和らげる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.54-57の予習
第15回	Unit 15 I'd better be going.	(内 容)	別れるときの会話を切り上げる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.58-61の予習

授 業 名	中国語		開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Chinese		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	大西 あゆみ		対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生				
授業の概要	この講座では前期・後期の一年を通して、自己紹介や買い物といったやさしくかつ実用的な中国語会話を学習することが目的になる。前期では特にピンインの読み方や発音、日本語との文法の違いなどを重点的に説明していく予定である。なお、実際に中国人を教室に招いてのコミュニケーション練習も行う予定。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 中国人と初歩的なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 簡単な中国語が読めるようになること。 3) ピンインを見て正しい発音ができるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	特になし							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授業名	中国語	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	中国語の特徴	(内 容) 中国語と日本語の違いを紹介し、発音を練習 (必要な準備) 特になし
第2回	L1 . 自己紹介	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 前回の発音を復習しておく
第3回	L1 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第4回	L2 . これは何ですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第5回	L2 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第6回	中国人との実地コミュニケーション	(内 容) 学習した中国語で中国人と会話する (必要な準備) 使う文型を暗記しておく
第7回	L3 . これはいかがですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第8回	L3 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第9回	L4 . いくらですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第10回	L4 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第11回	L5 . どこにありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第12回	L5 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第13回	L6 . 何がありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第14回	L6 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第15回	L1 ~ L6 . 総復習	(内 容) プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 前期の学習内容をノートにまとめる

授 業 名	中国語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Chinese			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	大西 あゆみ			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	前期の続き。レベルはあまり高くないが、いきなり途中から学び始めるのはやや難しいかもしれない。前期を受講しなかった人は、テキストや付属のCDを活用して自分なりの基礎作りを平行して行ってほしい。なお、後期にも機会があれば中国人との実地コミュニケーション練習を取り込む予定。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 中国人とやや複雑なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 自分で既習語を応用した文章を作れるようになること。 3) 既習語を応用した文章を耳で聞いて理解できるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	前期授業を取らなかった人は、自分でテキストの前半部の単語・文法をノート等にまとめて学習しておくのが望ましい。CDも聞いておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		中国語	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	L7．予約しましたか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第2回	L7．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第3回	L8．何時に行きますか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第4回	L8．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第5回	L9．AからBまでどれくらいかかりますか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第6回	L9．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第7回	中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業)	(内 容)	中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業) (必要な準備) 使う文型を暗記しておく
第8回	L10．着てみてもいいですか	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第9回	L10．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第10回	L11．ちょっと修理してください	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第11回	L11．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第12回	L12．財布を落としたんです	(内 容)	新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第13回	L12．トレーニング・練習問題	(内 容)	練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第14回	L7～L9．総復習	(内 容)	プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく
第15回	L10～L12．総復習	(内 容)	プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく

授 業 名	ハングル			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Hangul			開 講 時 期	春学期	必 修 ・ 選 択	選 択	
担 当 者	韓 亨 模			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授 業 の 概 要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	特になし。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (必要な準備)	
第2回	基礎・第2課 基本母音	(内 容) 10の基本母音、あいさつ (必要な準備) 前回の復習	
第3回	基礎・第3課 基本子音	(内 容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第4回	基礎・第4課 複合母音	(内 容) 11の複合母音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	基礎・第5課 バッチム	(内 容) 代表子音、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	復習	(内 容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (必要な準備) これまでの復習	
第9回	第1課 私は浅井ゆかりです	(内 容) ~は / ~です (必要な準備) これまでの復習	
第10回	第2課 出身はソウルですか	(内 容) ~が / ~ですか (必要な準備) 前回の復習	
第11回	第3課 図書館ではありません	(内 容) ~ではありません / ~ではありませんか (必要な準備) 前回の復習	
第12回	第4課 時間がありますか	(内 容) います・あります / いません・ありません (必要な準備) 前回の復習	
第13回	第5課 インターネットをします	(内 容) します・しますか / 何 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第6課 貿易会社で働いています	(内 容) (打ちとけた) します・しますか/います・いません (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	ハングル			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	ハングルが読めることが望ましい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (必要な準備)	
第2回	第7課 東大門市場に行きます	(内 容) (かしまった)です・ます (必要な準備) 前回の復習	
第3回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) ヨ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (必要な準備) 前回の復習	
第4回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	第9課 それは1万ウォンです	(内 容) 漢数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 時間 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 固有数詞、助数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	第11課 日本語を話されますか	(内 容) 尊敬語 (必要な準備) 前回の復習	
第9回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) 用言の否定 (必要な準備) 前回の復習	
第10回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) ~するといいです (必要な準備) 前回の復習	
第11回	復習	(内 容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (必要な準備) これまでの復習	
第12回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 過去形 (必要な準備) これまでの復習	
第13回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 変則用言の過去形 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第14課 民俗村に一緒に行きましょう	(内 容) 勧誘の表現(～しましょう / ～しよう) (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	健康スポーツ科学			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山岡 憲二			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	健康スポーツ科学 ・ で学んだ基礎知識を基に、その応用として生涯にわたるスポーツ活動と健康活動を実現できるよう積極的にスポーツ活動を実践する。本授業での実施種目はバスケットボールとバレーボールで、球技としての特性を活かし仲間とのコミュニケーションを大切にしながらゲームを中心に授業を展開する。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	プリントを使用する。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに アイスブレイキング	(内 容) 本講に関するオリエンテーション・コミュニケーションワーク (必要な準備)	
第2回	ソフトバレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 簡易ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールのルールを調べる	
第3回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第4回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第5回	ソフトバレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第6回	バレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールのル - ルを調べおく	
第7回	バレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第8回	バレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第9回	バレーボール	(内 容) リ - グ戦 (必要な準備) バレ - ボールのルールを調べる	
第10回	バスケットボール	(内 容) グル - ビング・グループ練習・簡易ゲーム (必要な準備) バスケットボールのル - ルを調べておく	
第11回	バスケットボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第12回	バスケットボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第13回	バドミントン	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンのル - ルを調べておく	
第14回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	
第15回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム・レボ - ト提出 (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	

授業名	歴史学概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to History			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	「歴史」はいつ誕生したのだろうか、また歴史学はいつごろから語られ、その地位を確固たるものとしたのだろうかについて学ぶことを目的とする。							
学習成果到達目標	単に「歴史が好き」だけでなく、そもそも歴史とは何か？歴史学はいつ誕生したのかなどの様々な諸問題について理解することはもちろんのこと、各自が歴史問題について興味を抱き、調査、考察していく力をつけることを目標とする。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		()
テキスト	教員が資料を準備し随時配布する。配付資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	質問や不明な点がある場合は必ず質問すること。講義中の私語やスマホの使用は厳禁。ディスカッションも評価基準となるので真摯な姿勢で講義に取り組んでほしい。							
オフィスアワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方等について。 (必要な準備) 特になし。	
第2回	歴史の誕生	(内 容) 「歴史」とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第3回	歴史学の誕生	(内 容) 歴史学という分野がいつ誕生したのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第4回	歴史学の誕生	(内 容) 歴史学という分野がいつ誕生したのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第5回	史料と資料	(内 容) 史料と資料の違いについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第6回	歴史と自然環境	(内 容) 自然環境が与えた人間への刺激 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第7回	歴史と時間	(内 容) 時間がある社会とない社会の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第8回	国家意識とグローバリズム	(内 容) 国家社会の一員という考えの誕生と地球社会という考えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第9回	身体と病と生死	(内 容) 身体・病・生死との関わり合い方を歴史的に学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第10回	家族の誕生	(内 容) 家族とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第11回	比較という見方	(内 容) 比較史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第12回	政治とは何か	(内 容) 政治史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第13回	暴力の歴史	(内 容) 暴力とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第14回	戦争とは何か	(内 容) 戦争の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第15回	過去 語るができないということ まとめ	(内 容) 歴史学を学ぶ上で大切なことは何かについて各自考察する。 (必要な準備) これまでの講義の復習(90分)	

授業名	日本史概説			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Overview of Japanese History			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	坪井 剛			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古代から中世にかけての京都で創建された様々な寺院や神社を「歴史」の観点から紹介することにより、京都で独自に育まれてきた様々な宗教文化の諸相について学ぶ。また、多くの史・資料を提示・解釈することにより、「歴史学」がどういった学問か、理解する。							
学習成果到達目標	1) 「歴史学」の方法論について、説明できるようになる 2) 京都の寺院や神社の歴史が、どのような根拠に基づいて説明されているか、理解できるようになる 3) 様々な問題に対して、主体的に探求する姿勢を身につける							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (発想構想力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()			課題発見・解決能力 ()	
テキスト	毎回レジュメを配布する							
参考書	特になし							
留意事項	各回、リアクションペーパーを配布するので、授業の感想や疑問に思ったことを記すこと							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		日本史概説	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 「歴史学」とはどのような学問か、理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	歴史学の方法論	(内 容) 「歴史史料」の重要性を理解する (必要な準備) 第1回配布のレジユメを読んでおく	
第3回	神話は歴史史料となるか？上賀茂・下鴨神社	(内 容) 上賀茂・下鴨神社の創建伝承から、神話に書かれる内容をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 上賀茂・下鴨神社について、辞書で調べておく	
第4回	神話は歴史史料となるか？木嶋神社	(内 容) 秦氏にまつわる伝承から、神話が新たな伝承を生み出すことを理解する。 (必要な準備) 木嶋神社について、辞書で調べておく	
第5回	寺院縁起は正しい情報か？六角堂	(内 容) 六角堂の創建伝承から、寺院縁起をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 六角堂について、辞書で調べておく	
第6回	文献史料は常に正しいか？北野天満宮	(内 容) 菅原道真に関わる諸史料から、史料批判の必要性について、理解する (必要な準備) 北野天満宮について、辞書で調べておく	
第7回	神社境内は昔から変わらないか？北野天満宮その2	(内 容) 北野天満宮境内図の観察から、神社境内が時代とともに変化していることを理解する (必要な準備) 北野天満宮の境内図を観察しておく	
第8回	極楽浄土の光景は？平等院・浄瑠璃寺	(内 容) 当麻曼荼羅の観察から、浄土庭園の宗教性について理解する (必要な準備) 平等院・浄瑠璃寺について、辞書で調べておく	
第9回	肖像画から読み取れる情報は？知恩院	(内 容) 法然の肖像画から、時代とともに祖師の捉え方が変化していることを理解する (必要な準備) 知恩院について、辞書で調べておく	
第10回	託宣は信用できるか？東福寺	(内 容) 『比良山古人霊託』から、託宣史料をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 東福寺について、辞書で調べておく	
第11回	伽藍配置図から読み取れる情報は？東福寺その2	(内 容) 東福寺伽藍図の観察から、禅宗の国際性について理解する (必要な準備) 東福寺の伽藍図を観察しておく	
第12回	絵図から読み取れる情報は？天龍寺	(内 容) 複数の絵図の観察から、絵図をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 天龍寺について、辞書で調べておく	
第13回	絵図に描かれる地形は変化する？天龍寺	(内 容) 嵯峨地域を描いた絵図の観察から、嵯峨地域の発展について、理解する (必要な準備) 事前に配布する絵図を観察しておく	
第14回	絵巻物から読み取れる情報は？八坂神社	(内 容) 『年中行事絵巻』の観察から、絵巻物をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 八坂神社・祇園祭について、辞書で調べておく	
第15回	まとめ	(内 容) 「歴史史料」の重要性について、改めて理解する (必要な準備) これまでの講義の総括を書いてくる	

授業名	古文書学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Paleography			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古文書（こもんじょ）の様式・かたちを学び、読解のための必要な基礎的文字にふれてみよう。わからないところは友達と相談してもかまいません。							
学習成果到達目標	1) 漢字の部品として、へん、つくり、かんむり、あし、かまえを識別できるようになること。 2) 数字、単位、人名、地名が読めるようになること。 3) 老舗の看板ぐらいを読めるようになること。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業中に配布します。							
参考書	児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版）があればのぞましい。							
留意事項	日ごろの予習・復習が大事です。適宜小テストも行います。							
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		古文書学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	古文書とは	(内 容) 古文書の定義を説明します。 (必要な準備) 参加する意欲(0分)	
第2回	古文書のかたち	(内 容) 様々なかたちの古文書を紹介します。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおく(60分)	
第3回	くずし字の特徴 へん にんべん・きへん・さんずいへんなど	(内 容) なじみのあるへんがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと(60分)	
第4回	くずし字の特徴 へん てへん・かねへん・ごんべんなど	(内 容) なじみのあるへんがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第5回	くずし字の特徴 つくり りっとう・おおがい・ぼくづくりなど	(内 容) なじみのあるつくりがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第6回	くずし字の特徴 かんむり くさかんむり・たけかんむり・あめかんむりなど	(内 容) なじみのあるかんむりがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第7回	くずし字の特徴 あし・かまえ ころろ・れっか・さらなど	(内 容) なじみのあるあし・かまえがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第8回	数字・単位 お米の単位	(内 容) 今では使われない単位や数字を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第9回	数字・単位 お金の単位	(内 容) 今では使われない数字・単位を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第10回	単位・数字 その他	(内 容) 今では使われない数字・単位を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第11回	江戸時代の人名 右衛門・左衛門	(内 容) 江戸時代の人名に読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第12回	江戸時代の人名 兵衛	(内 容) 江戸時代の人名を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第13回	江戸時代の人名 その他	(内 容) 江戸時代の人名を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第14回	譲り状を読む	(内 容) 実際の古文書を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第15回	譲り状を読む	(内 容) 実際の古文書を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	

授業名	日本文化総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Outline of Japanese Culture			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古代から現代まで、中央と地域といった地域文化、信仰、宗教、といった精神文化、衣食住などの生活文化などの文化領域を歴史的、相対的な視点を踏まえ日本文化について考察する。							
学習成果到達目標	1) 学生が、日本文化の特色とは何かを自らの見解として提示できるようにする。 3) 学生自らによる新たな文化価値の発見につながるようにする。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に小テストを行う。)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	担当教員が随時配布する。配布した資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語、携帯電話使用は厳禁。 ・学生の本分は勉強にあることを常に念頭においておくこと。 ・小テストも評価基準対象になる。 							
オフィスアワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		日本文化総論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) ガイダンス内容を聞いておくこと(90分)	
第2回	文化とは何か	(内 容) 「文化」の誕生について学ぶ。 (必要な準備) 講義を聞いておくこと(90分)	
第3回	古代ー古墳	(内 容) 古墳文化について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	古代ー飛鳥文化	(内 容) 飛鳥文化の特色と古代朝鮮とのつながりについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	古代ー天平文化	(内 容) 天平文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第6回	古代ー弘仁・貞観文化	(内 容) 弘仁・貞観文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第7回	院政期文化	(内 容) 院政時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第8回	鎌倉・室町文化	(内 容) 鎌倉時代と室町時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第9回	安土・桃山文化	(内 容) 安土・桃山時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第10回	安土・桃山文化	(内 容) 安土・桃山時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第11回	キリシタンと日本文化	(内 容) 宣教師からみた日本文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第12回	元禄文化	(内 容) 元禄時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第13回	近代の文化ー世界的戦争	(内 容) 世界的な文化の転換について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第14回	東北と琉球	(内 容) 日本文化は1つかについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまで講義したことを総括する。 (必要な準備) 全体の講義をふり返ること(90分)	

授業名	史料講読			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Historical Material Reading			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	史料読解のための基礎的な学力を身につける。							
学習成果到達目標	1) ひとりで辞書がひけるようになること。 2) 声に出して読めるようになること。 3) 歴史を学ぶ上で基礎作業となる史料の読解を通じて、現代語訳が正確にできるようになること。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	随時資料を配布する。							
参考書	朝尾直弘・他編『角川新版日本史辞典 最新版』（角川学芸出版）、漢和辞典（出版社は問わない）。							
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		史料講読
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 近世史料の読み方について テキスト配布 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(15分)
第2回	ひっくり返って読む文字 助動詞	(内 容) 返って読む助動詞を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習(60分)
第3回	ひっくり返って読む文字 動詞	(内 容) 返って読む動詞を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第4回	いろいろな助詞	(内 容) 史料上の「てにをは」を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第5回	いろいろな定型句	(内 容) 頻出する定型句を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第6回	旧字・異体字・略字・当て字	(内 容) 現在使わない文字のいろいろを学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第7回	慣用句・熟語・歴史用語など	(内 容) 史料に頻出する (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第8回	暦・方角・時間・単位など	(内 容) 史料を読む上で必要な単位を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第9回	古代の史料を読む	(内 容) 代表的な古代の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第10回	古代の史料を読む	(内 容) 代表的な古代の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第11回	中世の史料を読む	(内 容) 代表的な中世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第12回	中世の史料を読む	(内 容) 代表的な中世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第13回	近世の史料を読む	(内 容) 代表的な近世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第14回	近世の史料を読む	(内 容) 代表的な近世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業内容のまとめ (必要な準備) 全体の復習(90分)

授 業 名	歴史学演習 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	History Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	卒業研究論文の完成。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 卒業研究テーマを設定し、調査を行う。 2) 卒業研究論文とは何かについて徹底的に学ぶ。 3) 卒業研究の骨格を考える。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題発表	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	学生は自らの研究課題について積極的に取り組むこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学演習 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 各自卒業研究テーマ発表について考えること(90分)
第2回	卒業研究のテーマについて発表	(内 容) 各自の卒業研究テーマ(以下、研究と略記する)について発表すること。 (必要な準備) 研究テーマの発表準備を行う(90分)
第3回	研究論文の計画書作成	(内 容) 計画書作成を行う。 (必要な準備) 具体的な計画書作成を行う(90分)
第4回	研究論文計画書作成	(内 容) 計画書作成を行う。 (必要な準備) 具体的な計画書作成を行う(90分)
第5回	計画書口頭発表	(内 容) 研究計画書について発表。 (必要な準備) 口頭発表準備(90分)
第6回	計画書口頭発表	(内 容) 研究計画書について発表 (必要な準備) 口頭発表準備(90分)
第7回	研究テーマ再考	(内 容) 前回の口頭発表をとおして、研究テーマの再考を行う。 (必要な準備) 口頭発表後に気づいた点などを考察しておくこと(90分)
第8回	史料について	(内 容) 研究論文執筆時に欠かせない史料について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第9回	文献資料の探し方	(内 容) 文献資料の探し方について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第10回	史料を集める	(内 容) 各自の研究にそった史料を探し集める。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第11回	参考文献資料を探す	(内 容) 各自の研究にそった文献資料を探し集める。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第12回	参考文献資料をまとめる	(内 容) 参考文献資料1点を読み各自まとめてみる。 (必要な準備) 参考文献資料を読み要点をまとめる(90分以上)
第13回	研究テーマ再考	(内 容) 各自の研究テーマについて再考する。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第14回	卒業研究の書き方	(内 容) 卒業研究論文の記述法について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第15回	合同ゼミ 事前学習	(内 容) 秋学期の合同ゼミの事前学習を1回生とともに行う。 (必要な準備) 事前学習の準備(90分)

授業名	歴史学演習 a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	各自卒業研究論文を書く。							
学習成果到達目標	1) 各自設定した卒業研究に取り組み論文としてまとめる。 2) 自ら学ぶ認識を深める。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (発表を行う)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない							
留意事項	講義外の時間でも個々の指導にあたる。							
オフィス アワー	第1回の講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学演習 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 合同ゼミの事前学習	(内 容) 講義の進め方について説明を行う。 合同ゼミの事前学習を行う。 (必要な準備) 研究の夏期休暇中の進捗状況について各自把握しておくこと(90分) 合同ゼミの事前学習準備を行う(90分)	
第2回	合同ゼミ実施	(内 容) 合同ゼミの実施。 (必要な準備) 事前学習(90分)	
第3回	合同ゼミ事後学習	(内 容) 合同ゼミの事後学習を行う。 (必要な準備) 合同ゼミのまとめについて準備する(90分)	
第4回	合同ゼミ事後学習	(内 容) 合同ゼミの事後学習を行う。 (必要な準備) 合同ゼミのまとめについて準備する(90分)	
第5回	卒業研究中間報告準備	(内 容) 卒業研究中間報告会準備。 (必要な準備) 卒業研究中間報告会の準備を各自行う(90分)	
第6回	卒業研究中間報告	(内 容) 各自、卒業研究中間報告を行う。 (必要な準備) 発表準備を各自行う(90分)	
第7回	卒業研究中間報告	(内 容) 中間報告会を行う。 (必要な準備) 発表準備を各自行う(90分)	
第8回	報告会の振り返り	(内 容) 卒業研究の見直しを行う。 (必要な準備) 卒業研究の見直しや訂正、考察点を深める(90分)	
第9回	卒業研究中間発表会の準備	(内 容) 卒業研究中間発表会の準備 (必要な準備) 卒業研究中間発表会の準備を行う(90分以上)	
第10回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) 必ずゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分以上)	
第11回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分)	
第12回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分以上)	
第13回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 研究論文の作成を行う(90分以上)	
第14回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 チェック後、研究論文の作成を行う(90分以上)	
第15回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 研究論文の作成を行う(90分以上)	

授 業 名	社会史			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Social History			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	社会史とは、歴史的な事件や出来事など特定の対象を学ぶ歴史ではなく、女性や民衆、家族、人々の心性、深層など、人と人との関係が織り成す歴史を考えるとともに、その当時の社会的な背景を考える学際的な学問である。この講義では、社会史とは何かという方法論をアナル学派や阿部謹也から学び、主として日本の心の深層に焦点を当てたい。社会史を学ぶことで、歴史の見方が広がって欲しい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 社会史の視点を把握し歴史観を広げる。 2) 社会史が歴史学に与えた影響を把握する。 3) 社会史を通して現在を考える。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	社会史の方法を把握すること。わからないことは講義後に聞くこと。現代的な価値観で歴史をみないこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		社会史
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 社会史とは、何かを調べておく(30分)。
第2回	社会史の方法	(内 容) アナール学派とは何か、アナール学派の歴史と方法 (必要な準備) アナール学派について調べておく(30分)。
第3回	社会史の対象	(内 容) アナール学派の事例研究 (必要な準備) 方法論を復習しておく(60分)。
第4回	刑罰の社会史ー前近代の刑罰	(内 容) 刑罰の歴史 (必要な準備) 身体刑を調べておく(30分)。
第5回	刑罰の社会史ー近代以降の刑罰	(内 容) 監獄の誕生 (必要な準備) 現在の刑について考えておくこと(60分)。
第6回	切腹の社会史ー江戸時代以前	(内 容) 切腹の意義を考える (必要な準備) 切腹のイメージについて考えておく(30分)。
第7回	切腹の社会史ー江戸時代以後	(内 容) 日本文化としての切腹 (必要な準備) 配布史料を読んでおく(30分)。
第8回	戦国時代の社会史ー奴隷	(内 容) 戦国時代の民衆 (必要な準備) 戦国時代の籠城戦について理解しておく(60分)。
第9回	戦国時代の社会史ー大坂の陣	(内 容) 大坂夏の陣にみる民衆 (必要な準備) 大坂夏の陣布陣図の特徴を考えておく(60分)。
第10回	家族の社会史ー前近代と近代	(内 容) 近代家族の誕生 (必要な準備) 家族のイメージ、家族とは何かを考えておく(30分)。
第11回	家族の社会史ー近代以降	(内 容) 近代家族と現在の家族 (必要な準備) 家族はどうなっていくのかを考えておく(60分)。
第12回	恋愛の社会史ー恋愛の誕生	(内 容) 近代的な恋愛とは (必要な準備) 恋愛に関する配布資料を読んでおく(30分)。
第13回	恋愛の社会史ー近代以降の恋愛	(内 容) 現代の恋愛とは (必要な準備) 恋愛はどうなっていくのかを考えておく(60分)。
第14回	結婚の社会史ー前近代	(内 容) 結婚の歴史 (必要な準備) 結婚に関する配布資料を読んでおく(30分)。
第15回	結婚の社会史ー近代以降	(内 容) 結婚の歴史と未来 (必要な準備) 恋愛はどうなっていくのかを考えておく(60分)。

授業名	日本美術史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Art History			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	縄文時代から近代に至るまでの美術史の流れを概説し、それらが制作されてきた時代背景、あるいは使用されている技法・技術などについても解説を加える。							
学習成果到達目標	1) 日本美術史の流れを理解し、それを説明できるようになる。 2) さまざまな美術工芸品が制作されてきた時代背景や技法について、考えることができるようになる。 3) 新たな文化的価値を見つけられるようになる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		日本美術史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 「日本美術史」のはじまり	(内 容) 授業の概要について説明し、「美術」という言葉の誕生と、「日本美術史」の始まりについて説明する。 (必要な準備) シラバスを確認しておくこと。	
第2回	縄文・弥生・古墳時代の美術	(内 容) 縄文・弥生・古墳時代の造形感覚を概観する。 (必要な準備) 土偶について調べておくこと。(30分)	
第3回	飛鳥・奈良時代の美術	(内 容) 飛鳥・奈良時代の仏教美術を概観する。 (必要な準備) 仏教の伝来について調べておくこと。(30分)	
第4回	正倉院宝物	(内 容) 正倉院宝物の成立と宝物の具体例を説明する。 (必要な準備) 聖武天皇について調べておくこと。(30分)	
第5回	密教美術	(内 容) 密教のほとけたちとその美術を概観する。 (必要な準備) 京都の密教寺院について調べておくこと。(30分)	
第6回	浄土教の美術	(内 容) 浄土教美術について概説する。 (必要な準備) 末法思想について調べておくこと。(30分)	
第7回	鎌倉彫刻	(内 容) 鎌倉時代の彫刻について概観する。 (必要な準備) 仏像の各部名称を覚えておくこと。(30分)	
第8回	絵巻	(内 容) 絵巻物の基礎知識と具体例をみる。 (必要な準備) どのような絵巻があるかを調べておく。(30分)	
第9回	装飾経	(内 容) 装飾された経典の意味と技法について説明する。 (必要な準備) どのような装飾経があるかを調べておく。(30分)	
第10回	禅の美	(内 容) 禅宗が伝えた美術を概説する。 (必要な準備) 京都の禅宗寺院について調べておく。(30分)	
第11回	狩野派の絵師たち	(内 容) 狩野派の絵師とその作品を概説する。 (必要な準備) 「障壁画」とは何かを調べておくこと。(30分)	
第12回	琳派とその作品	(内 容) 琳派の流れとその作品を概観する。 (必要な準備) 「オマージュ」という言葉について調べておくこと。(30分)	
第13回	奇想の画家	(内 容) 伊藤若冲、曾我蕭白、長澤蘆雪の生涯と画業について概説する。 (必要な準備) 伊藤若冲、曾我蕭白、長澤蘆雪の生涯を調べておくこと。(30分)	
第14回	浮世絵	(内 容) さまざまな浮世絵を紹介する。 (必要な準備) どのような浮世絵師が存在したのかを調べておくこと。(30分)	
第15回	近代の洋画壇	(内 容) 江戸時代に始まる絵画の西洋化について説明したのち、近代の洋画壇について京都洋画壇を中心に概説する。 (必要な準備) 明治時代の京都で活躍した洋画家にはどのような人がいたのかを調べておくこと。(30分)	

授業名	古文書学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Paleography			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京都の町に残された古文書の原本をテキストにして、江戸時代の京都に住んだ人々の暮らしに触れる。							
学習成果到達目標	1) 江戸時代のテキストを原文で読むことができる。 2) 江戸時代京都の人々の暮らしに親しむことができる。 3) 現在の場所と比較することができる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	原文書のコピーを配布します。							
参考書	本気で読むには辞書が必要です。演習室にある『くずし字用例辞典』(東京堂出版)がおすすめです。							
留意事項	学芸員補習得を目指す人は受講して下さい。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		古文書学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイドンス	(内 容) テキストの配布と説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)	
第2回	蛸薬師通姥柳町について	(内 容) 古文書が伝来した姥柳町について (必要な準備) 姥柳町がどこにあるか地図で調べてそこに行く(60分)	
第3回	近江屋清兵衛の譲り状 前半	(内 容) 近江屋清兵衛の譲り状の前半を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第4回	近江屋清兵衛の譲り状 後半	(内 容) 近江屋清兵衛の譲り状の後半を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第5回	近江屋いしの譲り状	(内 容) 近江屋いしの譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第6回	近江屋清治郎の譲り状	(内 容) 近江屋清治郎の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第7回	大黒屋すえの譲り状	(内 容) 大黒屋すえの譲り状読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第8回	橘屋卯兵衛の譲り状	(内 容) 橘屋卯兵衛の譲り状読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第9回	大坂屋亀三郎の譲り状	(内 容) 大坂屋亀三郎の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第10回	伊勢屋寛之助の譲り状	(内 容) 伊勢屋寛之助の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第11回	山形屋武兵衛の譲り状	(内 容) 山形屋武兵衛の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第12回	丹後屋くらの譲り状	(内 容) 丹後屋くらの譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第13回	机上調査	(内 容) これまで読んだ内容を地図上にまとめる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第14回	現地調査 1回目	(内 容) テキストで読んだ場所を訪ずれる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第15回	現地調査 2回目	(内 容) テキストで読んだ場所を訪れる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	

授業名	史料講読			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Historical Material Reading			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>まず、比較的解読しやすい江戸時代の版本の翻字練習を行い、最低限平仮名は読めるようになることを目指す。次に、翻字された仮名文書と漢字仮名交じり史料を講読し、理解方法に習熟してゆき、最後に複製版の仮名書き及び漢字仮名交じりの史料を講読する。併せて、公家の日記を読み、基本文献について使い方を習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 仮名のくずし字が読め、一部の漢字のくずし字も読める。 2) 史料として理解することができる。 3) 古記録を読むときの調べ方が分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (調査方法の習熟度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	配布プリント・『字典かな』笠間影印叢刊行会(笠間書院)							
参考書	『仮名手引き』(柏書房) 『古文書はこんなにおもしろい』(柏書房)							
留意事項								
オフィス アワー	木曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		史料講読	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 概要と用語の説明。テキスト配布。 (必要な準備)	
第2回	おあむ物語 1・一オウ 実隆公記大永七年一月一日前半	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。	
第3回	おあむ物語 2・二オウ 実隆公記大永七年一月一日後半	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第4回	おあむ物語 3・三オ・四ウ 実隆公記大永七年一月二日三日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第5回	おあむ物語 4・五オ六ウ 実隆公記大永七年一月四日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第6回	おあむ物語 5・七オ八ウ 実隆公記大永七年一月五日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第7回	おあむ物語 6・九オウ 実隆公記大永七年一月六日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第8回	おきく物語 1・一オウ二オ 実隆公記大永七年一月七日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。	
第9回	おきく物語 2・二ウ三オウ 実隆公記大永七年一月八日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第10回	おきく物語 3・四オ五ウ六オ 実隆公記大永七年一月九日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第11回	おきく物語 4・六ウ七オウ 実隆公記大永七年一月十日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第12回	おきく物語 5・八オウ九オ 実隆公記大永七年一月十一日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第13回	おきく物語 6・十ウ十一オウ 実隆公記大永七年一月十二日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第14回	おきく物語 7・十二オウ十三オウ 実隆公記大永七年一月十三日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。	
第15回	類似史料の紹介と解説・まとめ	(内 容) 標記の講義 (必要な準備) 指示事項の下調べ	

授業名	考古学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Archeology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	廣瀬 時習			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	考古学は、遺跡・遺構・遺物を通して、地域と暮らした人々の営みを考える学問です。この授業では、京都、日本の歴史、そして世界の歴史を、先人達が残した物質資料を通して考えます。							
学習成果到達目標	1) 考古学に親しみ、物質資料を様々な視点から観察し、記録することを学ぶ。 2) 自分たちの暮らす地域を、日本を遺物・遺構・遺跡を通して考える。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	なし(授業中にプリント配布)							
参考書	松藤和人・門田誠一編著2010『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房							
留意事項	プリント・映像などを使用して講義を中心に進めます。時間を作って、博物館等を見学してください。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	考古学	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	考古学を学ぶ 地域・歴史・文化	(内 容) 考古学とその考え方を学ぶ (必要な準備) 歴史の資料とは何かを考えてください
第2回	人類の誕生と日本列島の旧石器時代	(内 容) 人類の出現と東アジアの旧石器時代 (必要な準備) 地球儀を思い出しておこう
第3回	縄文文化の特質と変遷 食料資源と獲得戦略	(内 容) 縄文時代の生活と食料資源を考える (必要な準備) 旧石器時代と地球環境を復習
第4回	弥生時代の成立と社会 ムラからクニへ	(内 容) 弥生時代時代の成立と社会、展開 (必要な準備) 縄文時代の変遷と社会の変化について復習
第5回	弥生社会のハードウェアとその特質	(内 容) 弥生文化を彩る各種の道具と特質を考える (必要な準備) 弥生時代の展開を振り返っておこう
第6回	古墳時代とはなにか 前方後円墳の誕生	(内 容) 古墳と古墳時代を考える (必要な準備) 自分生活圏に古墳を探してみよう
第7回	古墳時代の社会と文化 巨大古墳の世紀	(内 容) 巨大前方後円墳と社会の変化 (必要な準備) 古墳時代の開始について復習
第8回	古代国家への歩み	(内 容) 飛鳥時代の宮と文字の歴史 (必要な準備) 高校までの日本史で学んだ古代を考える
第9回	考古学に親しむ 博物館の展示と資料	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) これまでに行った博物館について
第10回	考古学に親しむ 考古資料を観察する	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) ノートなどの詳しく観察記録を書く
第11回	都城の考古学 都市の誕生と展開	(内 容) 都城の考古学 藤原京から平安京へ (必要な準備) 奈良・京都の古都について下調べ
第12回	平安京の成立 平安京成前史とその影響	(内 容) 奈良時代以前の京都盆地とその展開 (必要な準備) 京都の地理を再確認しておく
第13回	京都 - 平安京と洛東の遺跡と歴史	(内 容) 平安京と洛東の歴史を学ぶ (必要な準備) 大学周辺の史跡を調べておこう
第14回	中世・近世と考古学 都市と文化	(内 容) 平安京から京都への変化と社会 (必要な準備) 中・近世の歴史事象を復習しておこう
第15回	まとめ(2) - 考古学に歴史を読む	(内 容) 授業のまとめ (必要な準備) 秋学期の内容の復習

授業名	考古学演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Archeology Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	廣瀬 時習			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	この授業では、遺跡・遺構・遺物を通して人々の営みの深層に迫ります。世界と日本の考古学について物質資料を通して考えてみましょう。							
学習成果到達目標	1) テーマ学習を通して時代を通した歴史を考えよう。 2) 考古資料を学び触れることによって、物質資料の特徴を学ぼう。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題を調べる能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	なし(授業中にプリント配布)							
参考書	松藤和人・門田誠一編著2010『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房							
留意事項	プリント・映像などを使用して講義を行うほか、実際に出土した考古資料に触れて、観察し考古学の基本的な記録作業を実習します。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		考古学演習	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 考古学とその広がりを考える (必要な準備)	
第2回	日本と世界の考古学 外国考古学入門	(内 容) 国境を超える考古学 (必要な準備) 日本と世界の歴史を年表で確認しよう	
第3回	テーマ研究(1) 弥生時代	(内 容) 弥生文化特論 青銅器とまつり (必要な準備) 弥生文化の特徴を思い出す	
第4回	テーマ研究(2) 古墳時代	(内 容) 古墳文化特論 埴輪と古代人の衣装 (必要な準備) 日本文化と衣服の歴史を調べてみよう	
第5回	中間まとめ	(内 容) これまでの授業のまとめと補足 (必要な準備) これまでの復習をしておこう	
第6回	考古資料とその特徴	(内 容) 考古資料の種類や特徴を学ぶ (必要な準備) 考古資料とは何かを考えておこう	
第7回	考古資料実習(1) 遺物に触れる	(内 容) 考古資料を手にとって観察 (必要な準備) 考古資料の特性について復習しておこう	
第8回	考古資料実習(2) 遺物を観察する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(1) (必要な準備) 前回授業の復習	
第9回	考古資料実習(3) 遺物を記録する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(2) (必要な準備) 前回授業の復習	
第10回	考古資料実習(4) 遺物を記録する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(2) (必要な準備) 前回授業の復習	
第11回	考古学に親しむー博物館の展示と資料	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) これまでに行った博物館について	
第12回	考古学に親しむー考古資料を観察する	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) ノートなどの詳しく観察記録を書く	
第13回	テーマ研究(3) 古代の祭祀を考える	(内 容) 弥生・古墳時代の祭祀、儀礼 (必要な準備) 古代日本の宗教を調べてみよう	
第14回	テーマ研究(4) 日本文化を考古資料に読む	(内 容) 各時代の考古資料を通して歴史を俯瞰 (必要な準備) 各時代の考古資料を思い出しておこう	
第15回	まとめ	(内 容) 授業の総括・補足説明 (必要な準備)	

授業名	民俗学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Folklore			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	この講義は、民俗という視点から「いま」のわたしたちの生活を再考することを目的とする。民俗学は簡単にいうと民間伝承を研究する学問といえるが、それは同時にわたしたちの日常生活を振り返る学問ともいえる。また、民俗学自体が農村から都市を対象、研究する流れをも把握して欲しい。この講義を通して、様々な視点から自らの民俗を考えて欲しいと思う。							
学習成果到達目標	1) 民俗学の考え方を習得する。 2) 自らの地域の民俗を考える。 3) 現代での民俗の変化を習得する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘。							
留意事項	わからないことは講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		民俗学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 民俗学の概念について調べておく(30分)。	
第2回	民俗学とは何か	(内 容) 民俗学の考え方 (必要な準備) 民俗学の対象について調べておく(30分)。	
第3回	柳田国男の民俗学	(内 容) 柳田国男の方法 (必要な準備) 柳田国男に関する配布資料を読んでおく(60分)。	
第4回	民俗学と「一国知」	(内 容) 民俗学と国家 (必要な準備) 民俗学と「一国知」に関する配布資料を読んでおく(60分)。	
第5回	一つ目小僧－伝承	(内 容) 一つ目小僧の説話 (必要な準備) 一つ目小僧について調べておく(30分)。	
第6回	一つ目小僧－民俗学的解釈	(内 容) 一つ目小僧とは誰か (必要な準備) 地域の一つ目小僧の伝承について調べておく(60分)。	
第7回	人身御供－伝承	(内 容) 人身御供 (必要な準備) イケニエについて調べておく(30分)。	
第8回	人身御供－民俗学的解釈	(内 容) 人身御供は過去のものか (必要な準備) 『今昔物語』の配布資料を読んでおく(30分)。	
第9回	都市民俗学の試み	(内 容) うわさ (必要な準備) うわさの伝播について調べておく(30分)。	
第10回	都市民俗学の方法と対象	(内 容) 都市伝説 (必要な準備) 身近な都市伝説を調べておく(60分)。	
第11回	差別の民俗学－昔話から考える	(内 容) 昔話にみる差別 (必要な準備) 昔話の配布資料を読んでおく(30分)	
第12回	差別の民俗学－民俗の中の差別	(内 容) 民俗の中の差別 (必要な準備) 過去の民俗と差別の関係について調べておく(60分)。	
第13回	フィールドワーク	(内 容) 周辺の民俗を探る (必要な準備) 該当地域の地名を調べておく(60分)。	
第14回	「世間」と日本人	(内 容) 「世間」とは何か (必要な準備) 「世間」がどのように使われているのかを調べておく(60分)。	
第15回	「空気」と日本人	(内 容) 「空気」と社会 (必要な準備) 「空気」がどのように使われているのかを調べておく(60分)。	

授 業 名	日本思想史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	History of Japanese Thought			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	日本思想史を通して、近・現代の日本を考えたい。この講義では、近代に影響を与えた国学や水戸学、幕末の思想に注目し、現在日本の原型である近代日本を考える。近代日本については、主として同時代に生きた夏目漱石の視点から考えてみる。漱石が、同時代に対して如何に格闘し、近代日本をどのように見ていたのかを把握してもらいたい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現在にも通底する思想を捉え、日本とは何かを考える。 2) 人々の思想に触れることで、どのように当時の社会と格闘したのかを理解する。 3) 講義で触れた思想を基にして現代社会を考えるきっかけを掴む。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『漱石文明論集』(岩波文庫)。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	日本の思想を学ぶ講義であるので、部分であるが中心的な思想の資料を配布し、それに基づいた講義を行う。思想の背景にある歴史を抑えておくこと。また、史料の輪読、グループワークを取り入れる予定である。わからない箇所は講義後に聞くこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		日本思想史
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 日本思想史とは何か。この講義の進め方 (必要な準備) 日本思想史の対象を調べておく(30分)。
第2回	日本思想史の方法	(内 容) 日本思想史をどのように学ぶのか (必要な準備) 日本思想史とは何かの復習(30分)。
第3回	本居宣長と国学	(内 容) 本居宣長の「日本」発見 (必要な準備) 本居宣長についての基礎知識を理解しておく(60分)。
第4回	水戸学とは	(内 容) 水戸学の不思議さ (必要な準備) 水戸藩と水戸学について調べておく(60分)。
第5回	会沢正志斎の「国体」	(内 容) 近代国家の構想 (必要な準備) 会沢正志斎について調べておく(60分)。
第6回	近代日本へのまなざしー夏目漱石と近代日本	(内 容) 夏目漱石が見た近代日本 (必要な準備) 夏目漱石について基本的な理解をしておく。テキストの「解説」を読んでおく(60分)。
第7回	近代日本へのまなざしー開化とは何か	(内 容) 夏目漱石の思想的格闘 (必要な準備) テキストの指示箇所(8-25ページ)を一読しておく(60分)。
第8回	近代日本へのまなざしー開化の影響	(内 容) 夏目漱石の近代批判 (必要な準備) テキストの指示箇所(25-38ページ)を一読しておく(60分)。
第9回	夏目漱石の『こころ』	(内 容) DVD鑑賞 (必要な準備) 『こころ』の概要を把握しておく(60分)。
第10回	夏目漱石の『こころ』から思想を考える	(内 容) 『こころ』を思想的に考える (必要な準備) 前回の感想文(60分)。
第11回	『こころ』のグループワーク	(内 容) 『こころ』をグループで考える (必要な準備) 『こころ』についての配布資料を読んでおく(30分)。
第12回	夏目漱石の個人主義ー他人本位と自己本位	(内 容) 夏目漱石の「個人主義」について (必要な準備) 個人主義とは何かを調べておく。テキストの指示箇所(98-117ページ)を一読しておく(60分)。
第13回	夏目漱石の個人主義ー個人の難しさ	(内 容) 日本で個人主義は可能か (必要な準備) テキストの指示箇所(117-127ページ)を一読しておく(60分)。
第14回	夏目漱石の個人主義ー個人主義の寂しさ	(内 容) 個人主義は孤独なのか (必要な準備) テキストの指示箇所(127-138ページ)を一読しておく(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 近代人の運命とは (必要な準備) 学んだ思想についての自己の考えをまとめておく(30分)。

授業名	人物史			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History of Great People			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	この講義では、歴史上の人物の中から京都に関係の深い人物を選び、その人物から当時の社会を確認し、歴史的、文化的な意義を考えたい。本講義では「敗れた」人物や悲劇の人物について考えたい。そして取り上げる人物を巡る様々な人物を対置させ、「敗れた」人物や悲劇の人物の目指した理想や理念を考える。「敗れた」人物や悲劇の人物に焦点を当てるのは、その人物の持つ可能性や意義を考えることで、多様な歴史観、あるいは現在に通じることを学べるからである。							
学習成果到達目標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴む。 2) 何故、人々は人物に「共感」するのかを考える。 3) 時代と人物との関係を把握する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘する。							
留意事項	わからない箇所は、講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		人物史
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 人物史とは何か (必要な準備) 自身の好きな歴史的人物について調べておく(30分)。
第2回	人物史の方法	(内 容) 人物から歴史を考える (必要な準備) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく(60分)。
第3回	平氏と源氏を巡る人々－源頼朝	(内 容) 平家と源氏の盛衰と両者の理想を考える (必要な準備) 頼朝の基本的な理解をしておく(60分)。
第4回	平氏と源氏を巡る人々－平維盛と重衡	(内 容) 人物から平氏政権の特徴と滅亡を考える (必要な準備) 平維盛と重衡の基本的な理解をしておく(60分)。
第5回	北条高時の悲劇	(内 容) 高時は本当に愚か者なのか (必要な準備) 高時の基本的な理解をしておく(60分)。
第6回	北条高時と鎌倉炎上	(内 容) 高時の教訓 (必要な準備) 鎌倉滅亡に至る『太平記』の配布史料を一読しておく(60分)。
第7回	足利義教－くじ引き将軍	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 義教についての基礎的な理解をしておく(60分)。
第8回	足利義教－恐怖政治	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく(60分)。
第9回	近代人、織田信長	(内 容) 信長の世界観 (必要な準備) 信長の基礎的な理解をしておく(30分)。
第10回	織田信長と本能寺の変－光秀は犯人ではない	(内 容) 信長を殺したのは誰か (必要な準備) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく(60分)。
第11回	織田信長と本能寺の変－黒幕の存在	(内 容) 信長を殺しを巡る人々 (必要な準備) 信長と明智光秀について基礎的な理解をしておく(60分)。
第12回	豊臣秀次	(内 容) 秀次は、本当に「殺生関白」なのか (必要な準備) 秀次についての基本的な理解をしておく(30分)。
第13回	豊臣秀次、フィールドワーク	(内 容) 豊臣秀次の墓地 (必要な準備) 秀次の死についての理解(30分)。
第14回	幕末の京都を巡る人々－新撰組	(内 容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (必要な準備) 幕末水戸藩についての理解(60分)。
第15回	幕末の京都を巡る人々－新撰組と会津藩	(内 容) 会津藩と新撰組。彼らは、何故京都人から嫌われたのか (必要な準備) 京都守護職を理解しておく(30分)。

授業名	女性史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History of Women			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	近世から戦後にいたる女性の社会的位置づけの変遷について学ぶ。さらに、戦後の女性にかかわる社会環境の変化と女性の社会的位置づけについて概観し、現代社会における課題について考える。							
学習成果到達目標	1) 女性の社会的位置づけの変遷と問題の所在を説明することができる。 2) 現在社会における女性の社会的位置づけと課題を指摘することができる。							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	随時指示する。							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		女性史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 女性史の歴史と女性史を学ぶ意義について学ぶ。 (必要な準備) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の生活の歴史について振り返る。(30分)	
第2回	近世社会と女性1: 「女大学」とは	(内 容) 「女大学」の概要を理解する。 (必要な準備) 「女大学」について調べてくる。(30分)	
第3回	近世社会と女性2: 『女大学宝箱』を読む	(内 容) 『女大学宝箱』の記述内容を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第4回	近世社会と女性3: 『女大学宝箱』にみる女性像	(内 容) 『女大学宝箱』にみる女性の役割について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んで考えおく。(30分)	
第5回	近世社会と女性4: 家父長制と女性	(内 容) 家父長制と女性に求められる役割について学ぶ。 (必要な準備) 家父長制について調べてくる。(30分)	
第6回	近代社会と女性1: 良妻賢母教育	(内 容) 近代社会と女性の役割について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでくる。(30分)	
第7回	近代社会と女性2: 家政書にみる女性像	(内 容) 『家政学』の概要を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第8回	近代社会と女性3: 近代の女性観	(内 容) 近世と近代の女性観の違いについて学ぶ。 (必要な準備) 女性観の違いについて考えてくる。(30分)	
第9回	近代社会と女性4: 明治民法と女性	(内 容) 明治民法における女性の位置づけについて学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第10回	近代社会と女性5: 女性と社会運動	(内 容) 婦人参政権運動等の社会活動について学ぶ。 (必要な準備) 婦人参政権運動について調べておく。(30分)	
第11回	現代社会と女性1: 戦後の女性の生活	(内 容) 戦後の女性の生活について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第12回	現代社会と女性2: 女性と教育	(内 容) 戦後から現代までの女性に対する教育の変遷を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第13回	現代社会と女性2: 女性差別撤廃条約	(内 容) 女性差別撤廃条約について知る。 (必要な準備) 女性差別撤廃条約について調べておく。(30分)	
第14回	現代社会と女性3: 男女共同参画社会	(内 容) 男女共同参画社会について学ぶ。 (必要な準備) 男女共同参画社会について調べておく。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの内容をまとめ、今後の課題について理解する。 (必要な準備) これまでの授業内容を振り返る。(30分)	

授業名	日本史特論(1) < 古代～中世 >			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 1: Ancient - Medieval			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	本講義では、文字史料と絵画史料を用いて各史料を解説し、どのように史料読解が出来るのかについて学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 主に古代・中世の歴史史料から同時代の人々の理解と考察する見方を深めることを目標とする。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義に対する意欲)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (小レポートを課す)	課題発見・解決能力			
テキスト	担当教員側で資料を準備する。配付資料は忘失しないこと。							
参考書	史料を読むので各自、国語辞典・漢和辞典・古語辞典・日本史辞典などは揃えておくこと。電子辞書でも可。							
留意事項	史料に基づいた講義となるので、予習復習は必ず行うこと。講義中の議論や小レポートも成績評価に入るので、真摯な姿勢で講義を受けて欲しい。							
オフィスアワー	第1回の講義で指示する。							

授 業 名		日本史特論(1) < 古代 ~ 中世 >	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 特になし。	
第2回	『平家物語』巻第五「奈良炎上」	(内 容) 『平家物語』と巻五「奈良炎上」について学ぶ。 (必要な準備) 『平家物語』の基本的知識を予習しておくこと(60分)	
第3回	『平家物語』巻第五「奈良炎上」	(内 容) 「奈良炎上」に記された南都仏教と南都寺院について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第4回	『玉葉』にみる南都焼討	(内 容) 他の文献史料では南都焼討(奈良炎上)についてどのように記述しているか古記録史料から調べる。 (必要な準備) 『玉葉』について調べておくこと(90分)	
第5回	『平家物語』巻第十二「重衡被斬」	(内 容) 武家と仏教信仰について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(30分) 史料の訓読と現代語訳ができるようにすること(60分)	
第6回	『平家物語』巻第十二「重衡被斬」	(内 容) 武家と仏教信仰について学ぶ。 (必要な準備) 殺生を行うことが運命づけられている武士と仏教との関わりについて前回講義の復習もかねて各自考察すること(90分)	
第7回	「重衡被斬」と法然	(内 容) 平重衡の往生観と法然について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第8回	『道成寺縁起』を読む	(内 容) 絵画史料を史料として読むということについて学ぶ。 (必要な準備) 『道成寺縁起』とはどのような縁起絵巻かについて調べること(90分)	
第9回	『道成寺縁起』を読む	(内 容) 縁起絵巻とはなにかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第10回	『道成寺縁起』を読む	(内 容) 絵画を見る。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)	
第11回	『道成寺縁起』を読む	(内 容) 『道成寺縁起』をどう読んだのかについて考える。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分) 各自、『道成寺縁起』から何が読みとれたかについてまとめること(90分)	
第12回	『餓鬼草紙』・『地獄草紙』を読む	(内 容) 『餓鬼草紙』・『地獄草紙』について学ぶ。 (必要な準備) 『餓鬼草紙』と『地獄草紙』について調べておくこと(90分)	
第13回	『餓鬼草紙』・『地獄草紙』を読む	(内 容) 描かれた絵画を見る。 (必要な準備) 各自絵画から何が読みとれるか考えること(90分)	
第14回	文献史料読解	(内 容) 文献史料読解について考える。 (必要な準備) 様々な史料があることを確認しつつ、これまでの講義について自ら考えること。	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの講義のまとめ。 (必要な準備) 講義の復習(60分)	

授業名	日本史特論(2) < 中世 ~ 近世 >			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 2: Medieval - Early Modern			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	織田信長と豊臣秀吉研究の最新研究成果を紹介します。							
学習成果到達目標	1) 小説や読み物などで描かれた信長像ではなく、史料に基づいた信長像・秀吉像を形成すること。 2) 信長や秀吉の行ったことがその後どのような影響を与えたかを考えるきっかけになること。 3) 信長と秀吉とで何がどう違うのかを理解すること。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『岩波講座 日本歴史』第10巻 近世1							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		日本史特論（２）＜中世～近世＞	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）授業の進め方の説明とテキストの配布 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと（15分）	
第2回	織田政権論 1 武家の権力編成	（内 容）テキスト第1章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第3回	織田政権論 2 宗教勢力との戦い	（内 容）テキスト第2章1・2の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第4回	織田政権論 2 宗教勢力との戦い	（内 容）テキスト第2章3の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第5回	織田政権論 3 天皇と朝廷との関係	（内 容）テキスト第3章1・2の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第6回	織田政権論 3 天皇と朝廷との関係	（内 容）テキスト第3章3の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第7回	織田政権論 まとめ	（内 容）これまでのまとめ （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第8回	豊臣政権論 1 織田政権の継承と国制の選択	（内 容）テキスト第1章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第9回	豊臣政権論 2 中国仕置きと九州平定	（内 容）テキスト第2章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第10回	豊臣政権論 3 国制の確立	（内 容）テキスト第3章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第11回	豊臣政権論 4 天下統一の完成	（内 容）テキスト第4章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第12回	豊臣政権論 5 「唐入り」と秀次事件	（内 容）テキスト第5章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第13回	豊臣政権論 まとめ	（内 容）まとめ （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第14回	京都における信長関連地見学	（内 容）京都に残る信長関連史跡を見学する。 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第15回	京都における秀吉関連地見学	（内 容）京都に残る秀吉関連史跡を見学する。 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	

授業名	日本史特論(3) <近世~近代>			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 3: Early Modern - Modern			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	通史的な歴史理解を前提にして、より専門的な近世期から近代期の歴史を学ぶ。特に、近世から近代の歴史の変換期は京都を抜きにしては語れない。また、天皇との関係を抜きにして歴史を語ることはできないであろう。戦国期からの権力者と天皇との関係、幕末の京都を中心としたテーマで多角的な視点から京都をとりまく歴史と日本の国家としての形を考えてみたい。							
学習成果到達目標	1) 将軍にとって、何故天皇が必要であったのかを把握する。 2) 幕末京都の歴史的な意義を捉える。 3) 民衆の政治的な視線を把握する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない							
参考書	授業中に紹介する。							
留意事項	史料を輪読する。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		日本史特論（3）＜近世～近代＞	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）この講義の方向性 （必要な準備）近世、近代の歴史的位置付を概括的に把握しておく（30分）。	
第2回	信長政権と天皇	（内 容）信長の天皇観 （必要な準備）安土城天守閣の世界観を調べておく（60分）。	
第3回	豊臣政権と天皇	（内 容）秀吉の天皇観 （必要な準備）豊臣秀吉の官位の変遷について調べておく（30分）。	
第4回	徳川幕府の誕生と天皇	（内 容）家康の天皇観 （必要な準備）家康と豊臣秀頼の関係について調べておく（60分）。	
第5回	徳川政権の朝廷政策	（内 容）禁中並公家諸法度と紫衣事件 （必要な準備）禁中並公家諸法度と紫衣事件について調べておく（60分）。	
第6回	光格天皇の朝廷復権	（内 容）光格天皇の理想 （必要な準備）光格天皇について基本的な理解をしておく（30分）。	
第7回	幕末の尊王攘夷運動	（内 容）尊王攘夷運動の影響 （必要な準備）尊王攘夷運動について基本的な理解をしておく（30分）。	
第8回	孝明天皇と將軍	（内 容）一会桑政権 （必要な準備）一会桑について調べておく（30分）。	
第9回	長州藩の藩論	（内 容）尊王攘夷運動を主導する長州藩 （必要な準備）尊王攘夷運動に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第10回	尊王攘夷運動と長州藩	（内 容）尊王攘夷の実施 （必要な準備）外国船砲撃事件に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第11回	幕末京都と水戸藩	（内 容）本圀寺党 （必要な準備）水戸藩の基礎的な理解をしておく（30分）。	
第12回	長楽寺と水戸藩	（内 容）京に眠る水戸藩士について （必要な準備）長楽寺に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第13回	学外学習	（内 容）長楽寺にある水戸藩士のお墓 （必要な準備）長楽寺についての知識（30分）。	
第14回	幕末京都の天誅	（内 容）天誅の流行と被害 （必要な準備）天誅の有効性を考えておく（30分）。	
第15回	幕末京都の民衆観	（内 容）京都の民衆の政治意識 （必要な準備）民衆意識に関する史料を読んでおく（60分）。	

授業名	京都の歴史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History of Kyoto			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	京都で育まれた歴史と文化を学んで、京都検定3級合格程度の知識を身につけ、社会に出た後の基礎的教養とする。							
学習成果到達目標	1) 教養として知っておくべき歴史知識を獲得することができる。 2) 獲得した知識・内容を他の人に説明できる。 3) 京都検定3級合格程度の歴史知識を発展的に獲得することができる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』(2016 淡交社)							
参考書	京都市史編纂所編『京都の歴史』全10巻							
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		京都の歴史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス・平安時代以前の京都	(内 容) 授業の進め方の説明とテキストの解説 (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第2回	平安時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第3回	鎌倉時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第4回	室町時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第5回	学外授業 銀閣寺	(内 容) 銀閣寺の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(50分)	
第6回	学外授業 大文字山	(内 容) 大文字山の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第7回	江戸時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第8回	近現代の京都	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第9回	学外授業 平安神宮	(内 容) 平安神宮の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第10回	近世の史跡と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第11回	学外授業 二条城	(内 容) 二条城の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第12回	幕末・近代の史跡と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第13回	学外授業 木屋町幕末維新遺跡	(内 容) 木屋町幕末維新遺跡の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第14回	学外授業 疎水・有鄰庵・疎水記念館	(内 容) 疎水・有鄰庵・疎水記念館の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第15回	京都検定第12回・13回京都検定2級・3級過去問	(内 容) 過去の問題にチャレンジ (必要な準備) これまでの復習(60分)	

授業名	京の服装文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Culture of Kyoto Clothing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	現在の和服が形成されるまでの歴史を学ぶ。さらに、服装に用いられた様々な染織技法について理解する。 1. 古代の貴族の服装と染織技法 2. 中世の武家の服装と染織技法 3. 近世の町人の服装と染織技法							
学習成果到達目標	1) 和服がどのように形成されてきたのかを説明することができる。 2) 服装に用いられてきた染織技法の概略を説明することができる。							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない							
参考書	随時指示する							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		京の服装文化
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 本講義の目標 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	奈良時代までの服装文化	(内 容) 奈良時代までの服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第3回	平安時代の服装文化：文化の特色と服装	(内 容) 平安時代の社会の概要について理解する。 (必要な準備) 平安時代について調べる。(30分)
第4回	平安時代の服装文化：男性の服装	(内 容) 平安時代の貴族男性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第5回	平安時代の服装文化：女性の服装	(内 容) 平安時代の貴族女性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第6回	平安時代の服装文化：色と文様	(内 容) 平安貴族の服装の色と文様の特色について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第7回	染色技法の解説	(内 容) 天然染料を用いた染色技法の基礎を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第8回	鎌倉・室町時代の服装文化	(内 容) 中世の武家の服装文化を学ぶ。 (必要な準備) 中世の文化について調べる。(30分)
第9回	桃山時代の服装文化	(内 容) 桃山時代の特色と服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 桃山時代の文化について調べる。(30分)
第10回	近世社会の概要	(内 容) 近世社会の概要を学ぶ。 (必要な準備) 近世の文化について調べる。(30分)
第11回	江戸時代の服装文化：江戸時代前期の服装	(内 容) 江戸時代前期の小袖の特色を学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第12回	江戸時代の服装文化：染織技法	(内 容) 江戸時代に用いられた染織技法を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第13回	江戸時代の服装文化：友禅染の開発	(内 容) 友禅染開発の経緯とその特徴を理解する。 (必要な準備) 友禅染について調べる。(30分)
第14回	江戸時代の服装文化：身分と服装	(内 容) 武家の服飾と町人の服飾の違いを学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 全体の総括 (必要な準備) これまでの講義内容を振り返る。(30分)

授業名	京都体験実習（1）			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Practical Experience in Kyoto 1			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>夏季休暇中に行う職業体験を通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。そのために、主として就業体験に向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される。就業体験は、相手先の時間を割り受け入れてもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) プレゼンテーション能力、探究心を養う。 2) 自己分析をできるようにする。 3) 職業体験を通して、社会への理解、職業意識を高める。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基礎の社会人力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	秋学期の「京都体験実習（2）」と連続する講義である。必ず通年で単位登録し、夏季休暇中に行う職業体験に参加すること。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		京 都 体 験 実 習 (1)
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	ガイダンス	(内 容) 職業体験の意義・目的 (必要な準備) 各自にとって働くこととは何かを考えておく(30分)。
第2回	職業体験報告	(内 容) 2回生による職業体験報告会 (必要な準備) 報告に対する意見や質問を考えておく(30分)。
第3回	グループワークとは	(内 容) グループワークの重要性と課題に対するグループワークの準備 (必要な準備) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく(60分)。
第4回	グループワークの実践	(内 容) 課題に対するグループワーク (必要な準備) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく(60分)。
第5回	グループワークの実践と復習	(内 容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (必要な準備) 配布資料を読んでおく。自身の考え、反省点をまとめておく(60分)。
第6回	会社見学の準備	(内 容) 会社見学先の仕事内容を把握 (必要な準備) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく(60分)。
第7回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考えておく(30分)。
第8回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考えておく(30分)。
第9回	会社見学のまとめ	(内 容) 会社見学の振り返り (必要な準備) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジюме作成(60分)。
第10回	就業体験先の確認	(内 容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (必要な準備) 必要書類を作成しておく(30分)。
第11回	就業体験の準備	(内 容) 就業体験先企業分析 (必要な準備) 就業体験先企業についての資料、情報収集(30分)。
第12回	就業体験の事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。
第13回	就業体験の事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。
第14回	職業体験事前説明	(内 容) 職業体験の心構えと準備 (必要な準備) 『就業体験の手引き』を読んでおく(30分)。
第15回	就業体験に向けて	(内 容) 就業体験先企業の最終確認と諸注意 (必要な準備) 就業体験に向けての自身の抱負を考えておく(30分)。

授業名	京都体験実習(2)			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Practical Experience in Kyoto 2			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>春季休暇中に行う職業体験を通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。体験や講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 自身の職業適性を把握する。 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据える。 3) 社会人を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基礎社会人力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	京都体験実習(1)を合わせて受講していること。この授業のみの受講は認められない。春休みに実施する職業体験に必ず参加していること。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		京都体験実習（２）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備)	
第2回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第3回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第4回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第5回	希望就職先の事前研究	(内 容) 企業研究 (必要な準備) 該当企業の情報、資料収集(60分)。	
第6回	希望就職先の研究発表	(内 容) 企業研究発表 (必要な準備) 該当企業の研究成果レジюме(60分)。	
第7回	会社見学事前学習	(内 容) 会社見学先の仕事内容を把握 (必要な準備) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく(60分)。	
第8回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考慮しておく(30分)。	
第9回	会社見学事後学習	(内 容) 会社見学の振り返り (必要な準備) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジюме作成(60分)。	
第10回	経営者による講演	(内 容) 外部経営者による講演 (必要な準備) 講演先企業の研究。意見や質問を考慮しておく(60分)。	
第11回	経営者による講演	(内 容) 外部経営者による講演 (必要な準備) 講演先企業の研究。意見や質問を考慮しておく(60分)。	
第12回	学外授業	(内 容) 大阪企業家ミュージアム見学 (必要な準備) 大阪企業ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考慮しておく(30分)。	
第13回	就業体験の準備	(内 容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (必要な準備) 必要書類を作成しておく(30分)。	
第14回	職業体験事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。	
第15回	職業体験事前説明	(内 容) 職業体験の心構えと準備 (必要な準備) 『就業体験の手引き』を読んでおく(30分)。	

授業名	京の文学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Literature of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	比較的平易な古語で書かれた、説話と噺本の中から京を舞台とする話を精読し、活き活きとした京の人々の姿や思いも掛けない姿を、理解して貰おう。							
学習成果到達目標	1) 生身の京に生きた人々の姿を十分理解し、説明することができる。 2) 各時代の人々の物の考え方を説明できる。 3) 古語をある程度理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	配布プリント							
参考書								
留意事項	毎回の講義の終了時に次回の教材を配布するので、必ず予習しておくこと。							
オフィス アワー	水曜日御前10時から12時まで							

授 業 名		京の文学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 授業の概要と評価方法について (必要な準備)
第2回	説話を読む・偷盗	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第3回	説話を読む・信仰	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第二十三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第4回	説話を読む・夢	(内 容) 『宇治拾遺物語』第五巻・第一話と第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第5回	説話を読む・庶民生活	(内 容) 『宇治拾遺物語』第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第6回	説話を読む・利口	(内 容) 『十訓抄』第一巻・第十八話と第四十一話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第7回	説話を読む・好色	(内 容) 『古本説話集』第六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第8回	説話を読む・英知	(内 容) 『古本説話集』第六十六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第9回	説話を読む・優れた女	(内 容) 『古今著聞集』巻第十二・第四三三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第10回	説話を読む・したたかな女	(内 容) 『古今著聞集』巻第八・第三二二話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第11回	説話を読む・強い女	(内 容) 『古今著聞集』巻第五・第一九〇話と巻第八・第三一九話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第12回	噺本を読む・笑話	(内 容) 『醒睡笑』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第13回	噺本を読む・信長	(内 容) 『きのふはけふの物語』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第14回	噺本を読む・批判精神	(内 容) 『一休咄』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題への取り組み方についての説明。 (必要な準備) 質問の用意。

授業名	京の食生活			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Dietary Life of Kyoto			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	饗庭 照美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>京都は、千年余り都がおかれていたこと、そして水にも恵まれ、土壌も肥沃であったこと、さらに四方を山に囲まれた盆地という風土から、他には例を見ない食文化を成立させてきた。この授業では、まず、京料理、おばんざいについて学び、またその料理を支えてきた食材についても学ぶ。さらに、今日にまで伝わる伝統食について学びながら、京都の食文化の特色と魅力を理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 京の食文化の特徴を理解する。 2) 1) が作り上げられてきた要因を理解する。 3) 現在の京の食文化の問題点を理解する。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	()	()	課題発見・解決能力	()
テキスト	京都商工会議所編『京都・観光文化検定試験 公式テキストブック』(2010 淡交社)							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	調理実習や学外授業等を予定しているが(エプロン、三角巾、ハンドタオルを持参すること)、受講人数等によって変更の可能性あることもご了承ください。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		京の食生活
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	日本料理の歴史	(内 容) 授業の概要の説明、日本料理の歴史を学ぶ (必要な準備) 日本料理について考えておく、シラバスを読んでおく(30分)
第2回	京料理とは	(内 容) 京料理とは何かを考える (必要な準備) テキストp.237～238を読んでおく(30分)
第3回	京都の伝統加工食品	(内 容) 京都の伝統加工食品について (必要な準備) 伝統加工食品について調べておく(30分)
第4回	京野菜	(内 容) どのようなものを京野菜というのか学ぶ (必要な準備) テキストp.238～246を読んでおく(30分)
第5回	京の食 - 北前船が運んできたもの	(内 容) 北前船が運んできた海の幸について (必要な準備) 北前船が運んできたものを調べておく(30分)
第6回	京の食 - 魚	(内 容) 若狭もの、川魚、ハモ 等について。おばんざいがどのように成立したのか。 (必要な準備) おばんざいにはどのようなものがあるか調べておく(30分)
第7回	おばんざい(講義)	(内 容) おばんざいについて学ぶ (必要な準備) おばんざいについて調べておく(30分)
第8回	おばんざい(調理実習)	(内 容) 代表的なおばんざいを調理する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第9回	精進料理(講義)	(内 容) 各種の精進料理について学ぶ (必要な準備) 精進料理について調べておく(30分)
第10回	精進料理(調理実習)	(内 容) 代表的な精進料理を調理する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第11回	季節の行事と和菓子(講義)	(内 容) 京都の季節の行事と和菓子について学ぶ (必要な準備) テキストp.247～254を読んでおく(30分)
第12回	京の行事と和菓子(調理実習)	(内 容) 京の行事と和菓子について学ぶ (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第13回	京のお茶(講義)	(内 容) お茶の産地、茶道、懐石料理について学ぶ (必要な準備) テキストp.190～192を読んでおく(30分)
第14回	京のお茶と茶道の和菓子(実習)	(内 容) お茶の入れ方と茶道の和菓子について学ぶ (必要な準備) お茶の入れ方について調べておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) まとめ (必要な準備) これまでの授業全体をふりかえる(30分)

授業名	京の年中行事			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Annual Events of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京の年中行事にはどのようなものがあるのか、またその由来について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 京都の年中行事を学び、京都の歴史や文化への理解を深める。 2) 京都の年中行事について語れるようになる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	())
テキスト	担当教員が資料を準備する。配布された資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	毎回担当者を決めて発表してもらう。							
オフィスアワー	金曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		京の年中行事
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 特になし
第2回	年中行事はなぜ行われるのか	(内 容) 年中行事の必要性について考える。 (必要な準備) 年中行事の語句について各自調べるように(30分)
第3回	1月 修正会	(内 容) 修正会について学ぶ。 (必要な準備) 「修正会」を辞書で調べておくこと(15分)
第4回	2月 節分	(内 容) 京都の節分について学ぶ。 (必要な準備) 「節分」を辞書で調べておくこと(15分)
第5回	3月 京のひな祭り	(内 容) 京のひな祭りについて学ぶ。 (必要な準備) 「人形」を辞書で調べておくこと(15分)
第6回	4月 やすらい祭	(内 容) やすらい祭について学ぶ。 (必要な準備) 「やすらい祭」を辞書で調べておくこと(15分)
第7回	5月 葵祭	(内 容) 葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 「葵祭」を辞書で調べておくこと(15分)
第8回	6月 夏越祓	(内 容) 夏越祓について学ぶ。 (必要な準備) 「祓」を辞書で調べておくこと(15分)
第9回	7月 祇園御霊会	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 「御霊」を辞書で調べておくこと(15分)
第10回	8月 京の地藏盆	(内 容) 京の地藏盆について学ぶ。 (必要な準備) 「地藏」「盆」を辞書で調べておくこと(30分)
第11回	9月 重陽の節句	(内 容) 京の重陽行事について学ぶ。 (必要な準備) 「重陽」を辞書で調べておくこと(15分)
第12回	10月 京の火祭り	(内 容) 京で行われる火祭りについて学ぶ。 (必要な準備) 「鞍馬の火祭」を調べておくこと(30分)
第13回	11月 亥子祭	(内 容) 宮中行事「御玄猪」について学ぶ。 (必要な準備) 「護王神社」を調べておくこと(15分)
第14回	12月 大晦日	(内 容) 八坂神社の大晦日行事について学ぶ。 (必要な準備) 大晦日の行事を調べておくこと(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 講義内容についてまとめる。 (必要な準備) 講義の復習

授業名	京の伝統芸術			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Traditional Arts of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京都に都が移されて千二百有余年。この年月の間に醸成された有形あるいは無形の伝統文化、伝統産業に触れる事により、そこから昇華した伝統芸術について見ていく。日本文化の中心として古き良きものを継承しつつ、新たな文化をも創生していった京都の伝統芸術を実際に体験を交えながら探究していく。							
学習成果到達目標	1) 京に生まれた伝統文化・伝統芸術を見ていく事で、京都の歴史や伝統の重みを知る。 2) 伝統の大切さを知る。 3) 京都検定2級合格を目指す。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』(淡交社)							
参考書	使用しない。							
留意事項	京都検定2級を受けることが望ましい。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		京の伝統芸術	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方の説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)。	
第2回	京の伝統工芸 西陣織	(内 容) 西陣織について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第3回	京の伝統工芸 友禅染	(内 容) 友禅染について学ぶ (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第4回	京の伝統工芸 漆芸・螺鈿・七宝	(内 容) 蒔絵・螺鈿・七宝について学ぶ (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第5回	学外授業 友禅染の体験	(内 容) 友禅染を体験する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第6回	京の竹工芸	(内 容) 竹工芸について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第7回	京の伝統工芸 京焼・清水焼	(内 容) 京焼・清水焼について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第8回	学外授業 清水焼絵付け体験	(内 容) 清水焼の絵付け体験をする (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第9回	京都迎賓館	(内 容) 京都迎賓館にある伝統工芸について学ぶ。 (必要な準備) 迎賓館について調べておく(60分)	
第10回	学外授業 京都迎賓館	(内 容) 京都迎賓館について学ぶ。 (必要な準備) これまでの復習(60分)	
第11回	茶道 薄茶	(内 容) 薄茶について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第12回	茶道 濃茶	(内 容) 濃茶について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第13回	茶道 茶室	(内 容) 茶室について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第14回	学外授業 西陣織会館	(内 容) 西陣織会館を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を復習しておく(60分)	
第15回	学外授業 茶道資料館	(内 容) 抹茶体験 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	

授 業 名	京都の観光産業			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Tourist Industry in Kyoto			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	京都の観光産業について、歴史・文化・年中行事・伝統から総合的に理解する。観光産業として、歴史的にいかにかに成立してきたのかを理解し、現在、観光産業としての京都の位置付けを考えてみる。さらに、未来の観光産業として京都が何をアピールできるのかを考えてみる。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 環境産業としての京都について、表面的ではなく、どのように成り立っているのかを歴史や経済の観点から学習する。 2) 京都の観光産業についてデータから把握し、その意味を知ることが到達目標とする。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	京都の観光産業について、観光だけではなく産業としてどのように成立しているのかを常に念頭においておく。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		京都の観光産業	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備)	
第2回	観光都市京都1	(内 容) 歴史にみる京都観光 (必要な準備) イメージ	
第3回	観光都市京都2	(内 容) 現在にみる京都観光 (必要な準備) 旅行業者のパンフレット	
第4回	京都の観光資源1	(内 容) 京都の観光資源について (必要な準備) 京都のガイドブック	
第5回	京都の観光資源2	(内 容) 京都の観光資源について (必要な準備) 京都のガイドブック	
第6回	京都の観光戦略1	(内 容) 京都の「売り」 (必要な準備) 京都のイメージ	
第7回	京都の観光戦略2	(内 容) 京都の「売り」 (必要な準備) 京都のイメージ	
第8回	京都の観光産業1	(内 容) 産業としての観光 (必要な準備) 京都の代表的な観光産業の理解	
第9回	京都の観光産業2	(内 容) 産業としての観光 (必要な準備) 京都の代表的な観光産業の理解	
第10回	フィールドワーク	(内 容) 京都を代表する観光産業フィールドワーク (必要な準備) 行き先の事前学習	
第11回	事後学習	(内 容) 観光産業としての京都タワー (必要な準備) レジュメ	
第12回	発表・討論1	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第13回	発表・討論2	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第14回	発表・討論3	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備)	

授業名	京都観光マーケティング			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Tourist Marketing of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京都観光について、関わる各事業ごとのマーケティング戦略を検証し、理解させる。実際に京都観光のマーケティングについてのフィールドワークもおこない、各自がレポートとしてまとめ、発表をおこなう。京都観光に関するフィールドワークを実施する。							
学習成果到達目標	1) 京都観光におけるマーケティングの役割について理解することを目標とする。 2) 京都観光の実態をマーケティングの観点から把握することを目標とする。 3) 今後の京都観光マーケティングの提案をおこなうことを目標とする。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	未定							
参考書	山上徹『京都観光学』法律文化社、『京都観光学のススメ』人文書院							
留意事項	現地フィールドワークを実施する							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		京都観光マーケティング	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 半年間のスケジュールとオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	京都観光とマーケティング戦略	(内 容) 京都観光とマーケティング戦略について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第3回	京都観光の文化的戦略	(内 容) 京都観光の文化的戦略について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第4回	京都観光の地域観光事業	(内 容) 京都観光と地域観光事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第5回	京都観光のリゾート事業	(内 容) 京都観光のリゾート事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第6回	京都観光のテーマパーク事業	(内 容) 京都観光のテーマパーク事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第7回	京都観光のツーリズム事業	(内 容) 京都観光のツーリズム事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第8回	京都観光の宿泊事業	(内 容) 京都の宿泊事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第9回	京都観光のイベント事業	(内 容) 京都観光のイベント事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第10回	京都観光の運輸事業	(内 容) 京都観光の運輸事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第11回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(1)	(内 容) 観光のマーケティングのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習	
第12回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(2)	(内 容) 観光のマーケティングのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習	
第13回	プレゼンテーション(1)	(内 容) リサーチした観光マーケティングの発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布	
第14回	プレゼンテーション(2)	(内 容) リサーチした観光マーケティングの発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布。	
第15回	レポートの提出	(内 容) リサーチした観光マーケティングのレポート提出 (必要な準備)	

授業名	博物館概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Museum			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	博物館に関する基本的知識の講義を行う。それに加えて、高齢社会における生涯教育の中での博物館の役割などについても講義する。							
学習成果到達目標	1) 学芸員としての基礎知識をマスターする。 2) 人にも博物館とは何かを説明できるようにする。 3) 新しい博物館の魅力を発見できるようにする。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜配布します。							
参考書								
留意事項	出来るだけ数多くの博物館を見学してほしい。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		博 物 館 概 論
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 概略説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)
第2回	博物館の歴史	(内 容) 世界と日本の博物館的施設の紹介 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと(60分)。
第3回	博物館における収集	(内 容) 博物館の機能のうち収集について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第4回	博物館における展示	(内 容) 博物館の機能のうち展示について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第5回	博物館における資料の整理と情報化	(内 容) 博物館の機能のうち資料について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第6回	博物館資料の保存と活用	(内 容) 博物館の機能のうち資料の保存と活用について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第7回	博物館における教育	(内 容) 博物館の機能のうち教育について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第8回	博物館に関する法律	(内 容) 博物館法をはじめ博物館に関連する法律について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第9回	文化財保護法と望ましいあり方	(内 容) 文化財保護法や博物館の設置および運営上の望ましいあり方について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第10回	地域コミュニティと博物館	(内 容) 地域コミュニティにおける博物館の役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第11回	文化遺産と博物館	(内 容) 文化遺産を守る上で果たす博物館の役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第12回	記憶と博物館	(内 容) 歴史的な記憶を次世代に引き継いでいくうえで博物館が果たす役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第13回	デジタル技術とミュージアム	(内 容) デジタル技術の発展が博物館に与える影響について学ぶ(60分) (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。
第14回	フォーラムとしてのミュージアム	(内 容) 展示する人、展示の対象となっている人、そしてそれを見る人を結ぶ場としての博物館の役割を学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第15回	博物館の現状と課題 見学	(内 容) 漢字博物館・図書館の見学 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)

授 業 名	図書館概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 図書館の概略を把握し、基本的な専門用語を覚えること。図書館司書資格を習得するための基礎的な知識を習得する。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について理解すること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『図書館概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズ 1）、塩見昇、日本図書館協会、2012年							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館とは	(内 容) 図書館の定義、種類について概説する。 (必要な準備) テキストP.13～P.20をよく読んでおくこと。	
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	(内 容) 「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (必要な準備) テキストP.57～P.64をよく読んでおくこと。	
第4回	図書館の自由について考える	(内 容) 図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65～ P.67)を読んでおくこと。	
第5回	図書館法規と行政	(内 容) 公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (必要な準備) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(内 容) 欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (必要な準備) テキストP.225～P.228をよく読んでおくこと。	
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(内 容) 日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (必要な準備) テキストP.229～P.232をよく読んでおくこと。	
第8回	公共図書館の制度と機能	(内 容) 「図書館法」の構成と性格を理解する。 (必要な準備) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。	
第9回	公共図書館のサービス	(内 容) 公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (必要な準備) テキストP.146～P.150をよく読んでおくこと。	
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(内 容) 公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	学校図書館の制度と機能	(内 容) 学校図書館の役割と機能について概説する。 (必要な準備) テキストP.161～P.168をよく読んでおくこと。	
第12回	大学図書館の制度と機能	(内 容) 大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (必要な準備) テキストP.177～P.183をよく読んでおくこと。	
第13回	専門図書館の制度と機能	(内 容) 専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.190～P.193をよく読んでおくこと。	
第14回	国立図書館の制度と機能	(内 容) 国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.203～211をよく読んでおくこと。	
第15回	出版文化と図書館	(内 容) 出版文化と図書館の貸出サービスとの関係について考察する。 (必要な準備) テキストP.45～P.48をよく読んでおくこと。	

授 業 名	生涯学習概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Introduction to Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	歴史1回生		
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在である。学びが多ければ多いほど人は自らをより高めることができ、豊かな人生を送ることができる。講義形式の授業によって生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、生涯学び続ける女性を目指すとともに、学びを支える側の立場や考え方も知り、生涯学習の意義と重要性をまなび、自らの生活に生かしていける視点を与えることを目的とする。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生涯学習の理念、現状と課題、推進方策について理解できる。 2) だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を提示することができる。 3) 教育を学校教育に限定するのではなく、成人や高齢者を対象とするインフォーマルな学習なども含めた全ての教育活動を支援・推進する方策を提示することができる。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	授業中に指示する。						
参 考 書	授業中に指示する。						
留 意 事 項	授業中に与えられた課題については主体的に取り組むこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		生涯学習概論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	生涯学習とは何か	(内 容) 生涯学習の理念について概説する。 (必要な準備) 身近なところで、生涯学習に関わることを調べてくる。(20分)
第3回	人間形成と生涯学習	(内 容) 人間形成と学ぶことの意味について考察する。 (必要な準備) 学習することの意味について考えてくる。(20分)
第4回	生涯発達と発達課題	(内 容) 人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について考察する。 (必要な準備) 人間の発達について調べてくる。(20分)
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(内 容) 生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について解説する。 (必要な準備) 前回までの復習をしておくこと。(30分)
第6回	ラングランの生涯教育論	(内 容) ラングランの提唱した生涯教育の理念について解説する。 (必要な準備) プリントを読んでおくこと。(20分)
第7回	ハッチンスの学習社会論	(内 容) ハッチンスの学習社会論について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第8回	フォール報告にみる学習観	(内 容) フォール報告にみる学習観、人間観について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第9回	OECDのリカレント教育	(内 容) OECDのリカレント教育について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第10回	我が国における生涯教育論の展開	(内 容) 学習社会論や生涯教育論から生涯学習論への展開について概説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第11回	我が国における生涯学習の必要性和各種審議会答申について	(内 容) 社会教育審議会、中央教育審議会等に見られる生涯教育の理念と具体案について整理する。 (必要な準備) プリントを読んでおくこと。(20分)
第12回	生涯学習社会における家庭教育について	(内 容) 生涯学習社会における家庭教育の役割について考察する。 (必要な準備) 家庭教育の具体的内容について考えておくこと。(20分)
第13回	生涯学習社会における学校教育について	(内 容) 生涯学習社会における学校教育の役割について考察する。 (必要な準備) 学校教育と生涯学習の関わりについて調べておくこと。(40分)
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(内 容) 生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (必要な準備) 社会教育の具体的内容について調べておくこと。(40分)
第15回	生涯学習の事例発表	(内 容) 各地域社会での生涯学習の取り組みについて調査し、その内容を発表する。 (必要な準備) 発表用資料を準備する。(60分)

授業名	風土と文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Climate and Culture			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	風土とは、単に土地、地域の気候・地味・地勢など自然状態だけでなく、歴史的、文化的な環境を指す。つまり、人間は風土との関係を相互的に持っているのである。この講義では、日本の風土と文化の関係を様々な視点から理解し人間への影響について考えたみたい。また、特に京都や大阪の風土と文化の関係や相違点を考えたい。							
学習成果到達目標	1) 風土と人間の関係について考える。 2) 文化と人間の関係について考える。 3) 身近な風土、文化について理解する。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テキスト	なし							
参考書	講義内で紹介							
留意事項	わからないことは講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		風土と文化	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方と留意事項 (必要な準備) 風景と風土の違いを調べておく(30分)。	
第2回	風土とは?	(内 容) 風土の概念理解 (必要な準備) 風土とは何かを調べておく(30分)。	
第3回	文化とは?	(内 容) 文化の概念理解 (必要な準備) 文化とは何かを調べておく(30分)。	
第4回	人間と日本の風土と文化ー日本列島の特徴	(内 容) 日本列島の自然と気象、文化の相互作用 (必要な準備) 日本地図の用意と自然や気候の特徴について調べておく(60分)。	
第5回	人間と日本の風土と文化ー地域性を考える	(内 容) 地域性みる人間と風土、文化の相互作用 (必要な準備) 概括的に地域の特色について調べておく(60分)。	
第6回	日本の風土と文化の歴史ー日本とは	(内 容) 日本の風土と文化の歴史の変遷 (必要な準備) 日本の歴史的、地理的な変遷を抑えておく(60分)。	
第7回	日本の風土と文化の歴史ー失われたもの	(内 容) 歴史的な変遷の中で失われた風土と文化を考える (必要な準備) 自身の住んでいる地域で失われたものについて調べてくる(60分)。	
第8回	江戸時代の京都観光	(内 容) 名所図会から見る京都 (必要な準備) 自身の該当箇所の『名所図会』を読んでおく(30分)。	
第9回	京都らしさとは	(内 容) 京都の風土と文化について理解する (必要な準備) 京都らしさとは、について考えておく(30分)。	
第10回	観光地としての京都	(内 容) 観光都市京都の特徴 (必要な準備) 京都観光に関する配布統計資料を読んでおく(60分)。	
第11回	学外学習	(内 容) 博物館見学 (必要な準備) 博物館で何を学ぶのかを考えておく(30分)。	
第12回	江戸時代の大坂観光	(内 容) 名所図会から見る大坂 (必要な準備) 自身の該当箇所の『名所図会』を読んでおく(30分)。	
第13回	大阪らしさ	(内 容) 大阪の風土と文化について理解する (必要な準備) 大阪らしさとは、について考えておく(30分)。	
第14回	大阪の観光	(内 容) 観光地大阪の特徴 (必要な準備) 大阪観光に関する配布統計資料を読んでおく(60分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 今学期のまとめ (必要な準備) 京都と大阪について学んだことをまとめてくる(60分)。	

授 業 名	日本仏教の歴史		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	History of Buddhism in Japan		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	伊藤 真昭		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	日本仏教の流れと、京都との関わり。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 日本仏教の歴史についての理解を深める。 2) 京都の寺院を通じて仏教がもたらした文化・思想について学ぶ。 3) 京都検定2級程度の知識を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験 公式テキストブック』(2016 淡交社)							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		日本仏教の歴史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方を説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)	
第2回	仏教伝来 飛鳥時代・奈良時代の仏教	(内 容) 仏教伝来～奈良時代までの仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第3回	平安時代の仏教	(内 容) 平安時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第4回	学外授業 永観堂	(内 容) 永観堂を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第5回	鎌倉時代の仏教	(内 容) 鎌倉時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第6回	学外授業 青蓮院青龍殿	(内 容) 青蓮院青龍殿を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第7回	学外授業 建仁寺	(内 容) 建仁寺を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第8回	室町時代の仏教	(内 容) 室町時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第9回	学外授業 南禅寺・金地院	(内 容) 南禅寺・金地院を見学する (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第10回	戦国時代・安土桃山時代の仏教	(内 容) 戦国・安土桃山時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第11回	学外授業 高台寺	(内 容) 高台寺を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第12回	学外授業 寺町を歩く	(内 容) 寺町を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第13回	江戸時代の仏教	(内 容) 江戸時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第14回	学外授業 知恩院・円山公園	(内 容) 知恩院を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) 授業のまとめ。 (必要な準備) これまでの復習(60分)	

授業名	史跡調査探訪			開講学年	1・2回生	単位数	1単位	
英文名	Research Visits to Historical Sites			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生、歴史2回生			
授業の概要	<p>本学周辺の史跡を探訪し、それらの史跡を歴史的価値、宗教的価値、観光価値、文化的価値などを、現代社会の中で確認していきたい。そのためには事前調査として探訪先の史跡に関する予備知識を各自が所持し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどを事後学習で発表報告する形態をとる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 計画力、企画力を身につける。 2) フィールドワークを通して、歴史・文化的知識を身に付ける。 3) フィールドワークを通して、自身の課題を見つけ解決する。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	何の為に、目的地へ行くのかという問題意識をもつこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		史跡調査探訪	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方 (必要な準備) 行き先の希望地と理由を考えておく(30分)。	
第2回	フィールドワークの事前調査-愛宕山	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査-愛宕山 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第3回	フィールドワークの実施-愛宕山	(内 容) 現地調査-愛宕山 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第4回	フィールドワークの事後学習-愛宕山	(内 容) グループによる調査内容の発表-愛宕山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第5回	フィールドワークの予備調査-学生希望地	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第6回	フィールドワークの実施-学生希望地	(内 容) 現地調査-学生希望地 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第7回	フィールドワークの事後学習-学生希望地	(内 容) グループによる調査内容の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第8回	フィールドワークの事前調査-奈良	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査の発表-奈良 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第9回	フィールドワークの実施-奈良	(内 容) 現地調査-奈良 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第10回	フィールドワークの事後学習-奈良、事前学習-学生希望地	(内 容) グループによる調査内容の発表-奈良、行先の確認と事前調査の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ。グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第11回	フィールドワークの実施-学生希望地	(内 容) 現地調査 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第12回	フィールドワークの事後学習-学生希望地、事前学習-比叡山	(内 容) グループによる調査内容の発表-学生希望地、行先の確認と事前調査の発表-比叡山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ。グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第13回	フィールドワークの実施-比叡山	(内 容) 現地調査-比叡山 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第14回	フィールドワークの事後学習-比叡山	(内 容) グループによる調査内容の発表-比叡山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第15回	春学期のまとめ	(内 容) 全体の講評 (必要な準備) 過去のレジュメを再読しておく(60分)。	

授 業 名	史跡調査探訪			開 講 学 年	1・2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Research Visits to Historical Sites			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史1回生、歴史2回生			
授業の概要	主として本学周辺の史跡を探訪し、京都内を実地調査する。それらの史跡を歴史的、宗教的、観光的、文化的価値などから、現代社会の中での意味を考える。秋学期では、より春学期で行ってきたことを深化させるために、個人的単位で調査、発表を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 実地調査を通じて、京都や当該地域を深く考える。 2) 京都について日本での位置づけを学ぶ。 3) フィールドワークを通じて、自己の課題を発見し解決する。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	何の為に、目的地へ行くのかという問題意識をもつこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		史跡調査探訪
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 行き先の希望地と理由を考えておく(30分)。
第2回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。
第3回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。
第4回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。
第5回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。
第6回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。
第7回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。
第8回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。
第9回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。
第10回	フィールドワークの事後学習、事前学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表、行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ。個人による事前調査のレジュメ(60分)。
第11回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。
第12回	フィールドワークの事後学習、事前学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表、行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ。個人による事前調査のレジュメ(60分)。
第13回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。
第14回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 全体の講評 (必要な準備) 過去のレジュメを再読しておく(60分)。

授業名	西洋史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Western History			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	坂井 聡			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	ヨーロッパの歴史を、現生人類がヨーロッパに登場した時代から、近代世界の開始時期である大航海時代まで概観する。主として、人類史発展の節目となった時期を示しつつ講義を行う。さらに先端科学が解き明かした最新の過去の姿も紹介していく。DVDなどビジュアル性のある教材を積極的に使用する。							
学習成果到達目標	1) ヨーロッパ史の歴史的な流れが把握出来る。 2) 先端科学が解き明かす最新の歴史像に対する興味が深まる。 3) 考古学や科学技術の歴史など関連分野に関しての理解が深まる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (人類史の節目の理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	特に指定しない。							
参考書	授業のテーマ毎に授業時に指示する。授業内容に沿った便利な参考文献として『大学で学ぶ西洋史』南川高志他編、ミネルヴァ書房を挙げておく。							
留意事項	授業中に指定する参考書を読み、レポート作成に備えておこう。授業の要点をまとめたリアクションペーパーをほぼ毎回提出してもらいます。正当な理由なく5回以上欠席した場合は単位を認定いたしません。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授業名	西洋史	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	現生人類の起源を考える	(内 容) 現在地球上に住むすべての人類の先祖の出現について学ぶ。 (必要な準備) 参考文献を読んで学習を深める。 人類とは何かを、これまで習ったことを中心に考えておく。
第2回	中近東における農耕の成立	(内 容) 中近東における農耕の成立について。 (必要な準備) 参考文献を読んで学習を深める。 食糧生産を始めることの重要性について、考えておく。
第3回	オリエントにおける文明の成立 - 文字の発明	(内 容) メソポタミアとエジプトにおける古代文明の成立を学ぶ。 (必要な準備) 文字成立とその意義についての学習を深める。
第4回	ギリシア世界の発展とヘレニズム文明	(内 容) ギリシアのポリスの社会と民主政治の関係、並びにヘレニズム文明の特徴について学んでいく。 (必要な準備) 古代と現代の民主制の違いについて理解を深める。 現代の民主政治とは何かを事前に理解しておく。
第5回	元首政成立までのローマの歴史	(内 容) ローマによる地中海世界の征服と、共和政ローマの政治的特徴を学ぶ。 (必要な準備) ローマの発展を把握するための復習。
第6回	ローマ都市文明の社会基盤	(内 容) ローマ都市文明をスライドを使い学習。 (必要な準備) ローマ都市文明の様相を視覚的に把握する。 ポンペイ遺跡を例として取り上げるので、事前にどのような遺跡かを調べておく。
第7回	ローマ帝国の衰退とキリスト教の発展	(内 容) 古代都市の衰退の様相と、ローマ帝国へのキリスト教の浸透を学び、時代の転換について考える。 (必要な準備) 古代が変化していく時代を理解する。 キリスト教とはどのような宗教かについて、基本的なことを理解しておく。
第8回	中世ヨーロッパの成立	(内 容) ヨーロッパ中世史の起点を、相次ぐ異民族侵入などの時代背景から考えるとともに、その結果として生まれた封建制度を解説する。 (必要な準備) 日本史と比較しての封建制度に関する理解を深める。
第9回	中世ヨーロッパ社会の発展	(内 容) 農業を中心とした技術の発展と、その結果の中世ヨーロッパの発展の様相について理解する。 (必要な準備) ヨーロッパ中世の発展期を技術という側面から理解する。麦作という農業の特徴を事前に調べておく。
第10回	ヨーロッパ中世都市の成立	(内 容) イタリアを中心にヨーロッパ中世発展の基礎となった都市の成立について講義する。 (必要な準備) 中世都市とは何かを、日本史の場合との比較で考えてみる。
第11回	イスラーム文明とヨーロッパ	(内 容) 十字軍遠征を通じてこの両文明の衝突を通じて、キリスト教とイスラーム教の歴史的関係について学ぶ。 (必要な準備) イスラームの歴史と文化についての予習復習が必要。
第12回	黒死病とヨーロッパ中世史の転期	(内 容) 黒死病の衝撃と中世世界の転換を学ぶ。 (必要な準備) 病気と社会・歴史との関係についても理解を深める。 モンゴル帝国の歴史を事前に把握しておく。
第13回	フランスとイギリスにおける国家の発展	(内 容) 近世以降西欧の中核となっていく英仏の中世史を学び、近代国家の起源を考える。 (必要な準備) イギリスとフランスについて、どのような国であるかを調べておく。
第14回	イタリア・ルネサンスの社会と文化	(内 容) 美術・建築史上重要なルネサンス文化を学ぶ。 (必要な準備) 絵画・建築・文学の各分野に関して、興味ある事項を事前に学習。
第15回	大航海時代と近代世界の成立	(内 容) 新大陸・アジアへの西欧の進出とその影響を解説する。 (必要な準備) 近代世界の成立としての、ヨーロッパの世界的進出という時期についての理解を深める。ヨーロッパ人到来以前の大陸の文明について、あらかじめ知識を得ておく。

授 業 名	比較文化論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Comparative Culture			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	<p>本講義では、文化現象は社会状況と密接であり、外部からの影響や内側からの気運によって変化するものであることを取り上げる。主要なトピックとして、明治期における西欧文化の受容と、現代日本文化の推移を取り上げ、社会と文化の連動性を具体的に把握することを目指す。また、自文化の相対化から感得することのできる文化的ステレオタイプへの批判的視点など、文化について包括的に考察するための材料を提示したい。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 文化概念を理解し、明治期と現代の日本文化について記述できるようになる。 2) 異文化を理解し自文化を相対化するための視点を身につける。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	座席は指定する。(小プリント類返却のため)							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。							

授 業 名		比較文化論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義スケジュール (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)	
第2回	文化とグローバリゼーション	(内 容) 文化の定義・文化概念 (必要な準備) 文化について考えてくる(30分)	
第3回	明治期の日本文化 江戸期からの変化	(内 容) 江戸と明治の連続性と分断 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第4回	明治期の日本文化 欧米からの影響	(内 容) 芸術分野における西欧の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第5回	明治期の日本文化 紹介された日本文化	(内 容) 日本から海外への影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第6回	植民地主義と文化侵略	(内 容) アフリカにおける植民地主義の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第7回	文化の画一化	(内 容) アメリカニゼーション (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第8回	現代日本文化 高度成長期以降	(内 容) 1980年代前半までの現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第9回	現代日本文化 バブル経済期以降	(内 容) 1990年代までの現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第10回	現代日本文化 インターネット大衆化以降	(内 容) 1990年代末期以降の現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第11回	現代日本文化 通時的比較	(内 容) 社会状況と大衆文化の関係 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第12回	文化交流・文化発信	(内 容) 日本の海外広報への取り組み (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第13回	海外文化とステレオタイプ	(内 容) 文化的偏見 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第14回	文化の相対化 自文化を客観的に見る	(内 容) 文化の客体化・相対化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 総合レポート (必要な準備) 総復習・レポートの内容を考えてくる(1時間)	

授業名	古典研究			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Classic Research			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	昔の人の教養として不可欠とされた八代集の和歌の中から、人口に膾炙したものを取り上げて教材とし、語義と文法を厳密に抑え、昔の人のものの考え方や常識、宗教観、自然観、恋愛観、生活等々の表現の背景となっている事柄を正確に理解した上で、厳密に読んでいき、古典研究の基本たる解釈の在り方を理解する。							
学習成果到達目標	1) 古典研究の基本たる解釈の在り方を理解して、日本文化の中の和歌の存在感を理解する。 2) 著名な和歌を、その和歌にまつわる昔の人の常識等を理解して、語らじる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業時に配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	担当箇所以外もよく予習すること。 多くの和歌を暗記する努力を怠らないこと。							
オフィス アワー	木曜日午後12時から午後15時まで							

授 業 名		古典研究	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 講義予定と勅撰集の構造について説明。 (必要な準備)	
第2回	春の和歌・上 古今	(内 容) 春の和歌の熟読と勅撰集の約束事の説明。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第3回	春の和歌・中 後撰～後拾遺	(内 容) 春の和歌の熟読と基本文献の説明。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第4回	春の和歌・下 金葉～新古今	(内 容) 春の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第5回	夏の和歌	(内 容) 夏の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第6回	秋の和歌・上 古今・後撰	(内 容) 秋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第7回	秋の和歌・下 拾遺～新古今	(内 容) 秋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第8回	冬の和歌	(内 容) 冬の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第9回	恋の和歌・上 古今	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第10回	恋の和歌・中 後撰～後拾遺	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第11回	恋の和歌・下 金葉～新古今	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第12回	雑の和歌・上 古今・後撰	(内 容) 雑の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第13回	雑の和歌・下 拾遺～新古今	(内 容) 雑の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第14回	その他の和歌	(内 容) その他の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第15回	まとめと質疑応答	(内 容) 講義内容の総括と課題に関する質疑応答。 (必要な準備) 下調べに基づく質問事項の用意	

授 業 名	地域文化特論（１）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Local Culture 1			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	京都の染織工芸品について学ぶ。近代以降京都の染織工芸品がどのように評価され、どのように位置づけられてきたのかを学ぶ。さらに、興味をもった工芸品について調べ、技法や文様について理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 近代から現代にいたる京都の染織工芸品について説明することができる。 2) 染織工芸品の文様や技法について説明することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時指示する							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		地域文化特論（１）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）講義の進め方 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）	
第2回	近代 近代化と染織工芸	（内 容）近代に社会がどのように変化したのかを理解する。 （必要な準備）近代社会について調べる。（30分）	
第3回	近代 明治政府の美術工芸政策	（内 容）明治政府の美術工芸政策について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第4回	近代 博覧会と染織工芸品	（内 容）近代の万国博覧会と日本が出品した染織工芸品について学ぶ。 （必要な準備）万国博覧会について調べる。（30分）	
第5回	近代 工芸品の評価	（内 容）海外での日本の染織工芸品の評価について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第6回	近代 染織文様の近代化	（内 容）染織文様の近代化の過程を理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第7回	現代 文化財保護法と工芸	（内 容）戦後の文化財保護法について学ぶ。 （必要な準備）文化財保護法について調べる。（30分）	
第8回	現代 伝産法	（内 容）伝産法について学ぶ。 （必要な準備）伝産法について調べる。（30分）	
第9回	現代 現代の西陣	（内 容）西陣の現状について理解する。 （必要な準備）西陣について調べる。（30分）	
第10回	京都の染織工芸品	（内 容）現代京都の染織工芸品を知る。 （必要な準備）京都の工芸について調べる。（30分）	
第11回	京都の工芸品の歴史について調べる	（内 容）京都の工芸品について調べる （必要な準備）京都の工芸に関する資料を読む。（30分）	
第12回	染織工芸品の文様と技法について調べる	（内 容）京都の染織工芸品の文様と技法について知る。 （必要な準備）染織工芸に関する資料を読む。（30分）	
第13回	発表A班	（内 容）染織工芸についてまとめたことを発表する。 （必要な準備）発表のための資料を作成する。（30分）	
第14回	発表B班	（内 容）染織工芸についてまとめたことを発表する。 （必要な準備）発表のための資料を作成する。（30分）	
第15回	まとめ	（内 容）総括 （必要な準備）これまでの授業内容を整理する。（30分）	

授業名	地域文化特論(2)			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Local Culture 2			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>言語は最も端的に文化を反映するものである。当然各地の方言には千年以上にもわたる地域文化が反映されている。その方言に刻印されている文化を考察し、地域文化の特性を検討してゆく。最後に京言葉について学習し、京都文化の特性を理解する一助とする。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 出身地の方言を通して地元文化を語れる。 2) 京言葉を通して京都文化を語れる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	物類称呼							
留意事項								
オフィス アワー	水曜日12時から15時							

授 業 名		地域文化特論（２）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	（内 容） 講義概要と進め方を説明する。 （必要な準備）
第2回	方言概説	（内 容） 方言について種々の観点から講義する。 （必要な準備） 配布資料の下読み
第3回	調査課題の設定	（内 容） 各自で調査する課題を設定する。 （必要な準備） 地元方言の下調べ
第4回	調査結果発表1 語彙について	（内 容） 各自で調査した語彙に関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第5回	調査結果発表2 アクセントについて	（内 容） 各自で調査したアクセントに関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第6回	調査結果発表3 消えた方言について	（内 容） 各自で調査した消えた方言に関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第7回	関西方言について	（内 容） 関西弁について特徴と現状を講義する。 （必要な準備） 数箇所に関西方言を調べてくる。
第8回	簡易関西方言地図の作成準備	（内 容） 作成項目について討議して決定する。 （必要な準備） 各自の調査結果を検討してくる。
第9回	簡易関西方言地図の作成	（内 容） 調査結果と追加調査により、方言地図を作成する。 （必要な準備） 調査欠落地域の方言調査
第10回	簡易関西方言地図の文化的考察	（内 容） 方言地図を利用しているいろいろな文化の特徴を考察する。 （必要な準備） 深日の逆さ言葉を調べてくる。
第11回	物類称呼を使った簡易関西方言地図	（内 容） 江戸時代にさかのぼって方言地図を作る。 （必要な準備） 物類称呼の精読
第12回	京言葉	（内 容） 京言葉について講義する。 （必要な準備） 参考資料の精読
第13回	京言葉調査	（内 容） 各自で種々の京言葉を調査し討議する。 （必要な準備） 京言葉の調査
第14回	京言葉と京都人気質	（内 容） 前回の結果を基に深化した考察を行う。 （必要な準備） 追加考察
第15回	まとめと質問	（内 容） 講義を総括し、定期試験の課題について説明する。 （必要な準備） 総復習

授業名	観光英会話			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Travel English			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松尾 章子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要とされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 身近な場では会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ナチュラルスピードの英語に慣れ、相手が求めている情報は何かを理解することができる。 3) ファストフード店やレストランの簡単な対応を行うことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	工藤多恵著 『すぐに使える！ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2000円＋税							
参考書	観光英検センター編 『新・観光英検3級の過去問題』 三修社							
留意事項	テキストの会話表現を授業外で何回も声に出して読み練習してください。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示するので、確認してください。							

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction Unit 10: 道案内	(内 容) 本授業の到達目標、進め方の説明、pp. 85-88 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 10: 道案内	(内 容) pp. 91-92 (必要な準備) pp. 91-92の問題、前回学習箇所の表現練習
第3回	Unit 9: 旅行者への観光案内	(内 容) pp. 81-82 (必要な準備) pp. 81-82の問題、前回学習箇所の表現練習
第4回	Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供	(内 容) pp. 93-98 (必要な準備) pp. 93-98の問題、前回学習箇所の表現練習
第5回	Unit 1: ファストフード店での注文対応	(内 容) pp. 9-14 (必要な準備) pp. 9-14の問題、前回学習箇所の表現練習
第6回	学外学習1(道案内 時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して道案内にトライ! (必要な準備) Unit 10の表現練習
第7回	Unit 2: レストランでの来客対応	(内 容) pp. 17-22 (必要な準備) pp. 17-22の問題、前回学習箇所の表現練習
第8回	Unit 3: レストランでの接客サービス	(内 容) pp. 25-30 (必要な準備) pp. 25-30の問題、前回学習箇所の表現練習
第9回	Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス	(内 容) pp. 33-38 (必要な準備) pp. 33-38の問題、前回学習箇所の表現練習
第10回	学外学習2(観光案内 時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して観光案内にトライ! (必要な準備) Units 9-11の表現練習
第11回	Unit 5: 買い物や飲食の会計	(内 容) pp. 41-46 (必要な準備) pp. 41-46の問題、前回学習箇所の表現練習
第12回	Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応	(内 容) pp. 49-54 (必要な準備) pp. 49-54の問題、前回学習箇所の表現練習
第13回	Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付	(内 容) pp. 61-66 (必要な準備) pp. 61-66の問題、前回学習箇所の表現練習
第14回	Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内	(内 容) pp. 69-74 (必要な準備) pp. 69-74の問題、前回学習箇所の表現練習
第15回	Unit12: 券売機や電化製品の使用方法の説明	(内 容) pp. 101-106 (必要な準備) pp. 101-106の問題、前回学習箇所の表現練習

授業名	観光英会話			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Travel English			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松尾 章子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	リーディングとスピーキング、観光や旅行の際に必要なとされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 観光に関連するシチュエーションで、最低限必要とされる事柄を英語で伝えることができる。 2) 自信を持って道案内をすることができる。 3) 外国人の視点から日本を見ることで新しい気づきを持つことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	工藤多恵著 『すぐに使える！ニッポン案内』 センゲージラーニング株式会社 2,000円＋税							
参考書	観光英検センター編 『新・観光英検3級の過去問題』 三修社							
留意事項	テキストの会話表現を授業外で何回も声に出して読み練習してください。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示するので、確認してください。							

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction Unit 10: Turn right at the first intersection.	(内 容) 本授業の到達目標、進め方の説明、pp. 89-90 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.	(内 容) pp. 77-80 (必要な準備) pp. 77-80の問題、前回学習箇所の表現練習
第3回	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.	(内 容) pp. 83-84 (必要な準備) pp. 83-84の問題、前回学習箇所の表現練習
第4回	Unit 11: Take the subway to Hommachi.	(内 容) pp. 99-100 (必要な準備) pp. 99-100の問題、前回学習箇所の表現練習
第5回	Unit 1: For here or to go?	(内 容) pp. 15-16 (必要な準備) pp. 15-16の問題、前回学習箇所の表現練習
第6回	学外実習1 (道案内一時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して道案内にトライ! (必要な準備) Unit 10の表現練習
第7回	Unit 2: How many are in your party?	(内 容) pp. 23-24 (必要な準備) pp. 23-24の問題、前回学習箇所の表現練習
第8回	Unit 3: I'll be right back.	(内 容) pp. 31-32 (必要な準備) pp. 31-32の問題、前回学習箇所の表現練習
第9回	Unit 4: Would you like me to heat this up?	(内 容) pp. 39-40 (必要な準備) pp. 39-40の問題、前回学習箇所の表現練習
第10回	学外実習2 (観光案内一時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して観光案内にトライ! (必要な準備) Units 9-11の表現練習
第11回	Unit 5: Your total comes to 3,240 yen.	(内 容) pp. 47-48 (必要な準備) pp. 47-48の問題、前回学習箇所の表現練習
第12回	Unit 6: I'm truly sorry for the trouble.	(内 容) pp. 55-56 (必要な準備) pp. 55-56の問題、前回学習箇所の表現練習
第13回	Unit 7: Do you have a reservation?	(内 容) pp. 67-68 (必要な準備) pp. 67-68の問題、前回学習箇所の表現練習
第14回	Unit 8: Wi-Fi is available in this area.	(内 容) pp. 75-76 (必要な準備) pp. 75-76の問題、前回学習箇所の表現練習
第15回	Unit 12: First, put money in the machine.	(内 容) pp. 107-108 (必要な準備) pp. 107-108の問題、前回学習箇所の表現練習

授業名	教育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Education			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしぐみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をともに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。							
学習成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業に対する興味・関心	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『やさしい教育原理』(新版補訂版)、田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著							
参考書	適宜指示する。							
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。							
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		教育原理 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) 筆記用具
第2回	教育とは何か	(内 容) 教育とは何かについて、その概念と性格について考察する。 (必要な準備) テキストp.1-11をよく読んでおくこと。
第3回	学ぶことと教えること	(内 容) 「学び」と「教え」について考察する。 (必要な準備) テキストp.12-26をよく読んでおくこと。
第4回	教育・教化と形成	(内 容) 教育と教化と形成の違いについて考察する。 (必要な準備) テキストp.27-37をよく読んでおくこと。
第5回	学校とは何か	(内 容) なぜ学校が登場したのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.39-47をよく読んでおくこと。
第6回	近代学校の特徴	(内 容) なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.48-55をよく読んでおくこと。
第7回	日本の教育の歩み	(内 容) 日本の教育の変遷について概説する。 (必要な準備) テキストp.68-86をよく読んでおくこと。
第8回	身体の発達と道徳	(内 容) 教育と発達に関する理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.99-110をよく読んでおくこと。
第9回	教育における言葉と文化	(内 容) パーンシュタインの言語コード理論をもとに保育に必要な「ことばかけ」が子どもにどのような影響を与えているのかについて理解する。 (必要な準備) テキストp.111-115をよく読んでおくこと。
第10回	教育評価を考える	(内 容) 評価の理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.133-149をよく読んでおくこと。
第11回	理論と実践のつながりを考える	(内 容) 保育の五領域や総合的な学流の時間について概観し、理論と実践のつながりについて理解する。 (必要な準備) テキストp.159-173をよく読んでおくこと。
第12回	教師の仕事	(内 容) 教師の社会的意義について考える。 (必要な準備) テキストp.178-193をよく読んでおくこと。
第13回	青少年と教育との関係	(内 容) 若者が教育とどのようなつながりがあるのか、理解する。 (必要な準備) テキストp.204-217をよく読んでおくこと。
第14回	教育の権利について考える	(内 容) 知識基盤社会における子どもの権利について考える。 (必要な準備) テキストp.233-248をよく読んでおくこと。
第15回	教育改革の動向とまとめ	(内 容) 現代の教育改革がどのように進んでいるのか、総括を行う。 (必要な準備) これまでの授業の振り返り。

授 業 名	保育原理 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj		
授業の概要	<p>人格形成の基礎が培われる幼児期の保育の重要性を認識し、保育の基礎的知識を習得する。保育の意義、目的を学び保育者の役割を理解する。保育所、幼稚園、認定こども園における目標、目的、内容、方法、計画について学ぶ。保育の基本から専門的知識までを習得し保育を通して社会の一員としての役割を果たせるようになる。保育の専門家として知識と感性を身につけることができるように実践的な内容も組み入れて学ぶ。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育の本質や目的、保育制度、保育の歴史の変遷を学び保育の基本を理解する。 2) 保育内容と方法を学び保育計画の必要性を理解する。 3) 保育専門職として確かな知識持ち子どもの発達過程に応じた支援ができる保育者としての社会的責任を果たせるようになる。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育原理』谷田貝公昭編（一藝社）・『新版 保育用語辞典』（一藝社）						
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省（フレール館）						
留 意 事 項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。プリントは事前事後に熟読し、予習復習も積極的に行うこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください						

授 業 名		保育原理 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。到達目標について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。テキスト、ノートを準備する。
第2回	保育の意義 1 保育の概念・理念と制度	(内 容) 保育とは、子どもとは、保育の基本的用語、基本的な法律について理解する。保育所、幼稚園、認定こども園の保育制度を理解し、共通点と相違点を理解する。 (必要な準備) 保育用語辞典を持ってくる。テキスト第1章を読んでまとめておく(60分)
第3回	保育の意義 2 子どもの最善の利益・社会的役割	(内 容) 子どもの最善の利益と保護者との協働、保育者の役割を理解する。 (必要な準備) テキスト第3章読んでまとめておく(60分)
第4回	保育の基本 1	(内 容) 保育の原理を理解し、養護と教育の一体性について理解する。 (必要な準備) テキスト第1章を再度読んでおく(30分) 保育所保育指針を持ってくる
第5回	保育の基本 2 環境を通して行う保育	(内 容) 環境、環境構成、環境整備について目的、意味を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでまとめておく(60分)、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む。
第6回	発達に応じた保育 1 (3歳未満児)	(内 容) 0歳から3歳の心身の発達や情緒的安定、社会性の育ちについて学び適切な発達援助の方法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持ってくる。
第7回	発達に応じた保育 2 (3歳以上児)	(内 容) 3歳から6歳の運動発達、言葉や社会性の発達を学び思考力や自立心が身につくような発達援助を理解する。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持ってくる。
第8回	保育の視点 子ども理解	(内 容) ビデオを視聴し、保育の基本を理解する。子どもとともに生活することについて理解する (必要な準備) 保育用語辞典を持ってくる
第9回	子どもの生活と遊び	(内 容) 子ども理解、発達過程、遊びとの関連はわかり、遊びを通して保育することの重要性や遊びの意義を理解する。 (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第10回	保育の思想と歴史の変遷 1	(内 容) 諸外国の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第14章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第11回	保育の思想と歴史の変遷 2	(内 容) 日本の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第13章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第12回	保育計画と評価	(内 容) 保育計画と保育実践との関係を理解する。PDCAの意味を理解する。 (必要な準備) テキスト第12章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第13回	保育の現状と課題	(内 容) 小1プロブレムの問題とそれを予防する方策を学び、保幼小の連携について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第15章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典をもってくる
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育の専門性を生かした保護者支援、職員間の連携、倫理観について理解を深める。 (必要な準備) テキスト第7章を読んでまとめておく(60分)
第15回	自らの学びを振り返り、今後に繋がる課題を把握する	(内 容) 専門職としての保育者の質の向上を目標として自らの課題を明らかにする (必要な準備) これまでの授業を振り返る(30分)

授業名	保育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Child Care			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育原理 を踏まえ保育の意義や目的が保育内容や保育方法、保育形態などどのように関連するのかを理解し、年齢や発達過程に応じた保育計画（指導案）が立案できるようになる。							
学習成果到達目標	1) 保育の歴史、思想、諸制度について理解できる。 2) 保育計画が作成でき、保育方法や評価について理解できる。 3) 保育者の専門性について理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	春学期のテキストを継続して使用します。(『保育原理』谷田貝公昭編・『新版 保育用語辞典』)							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省(フレーベル館)							
留意事項								
オフィスアワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		保 育 原 理 a ・ b
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方を理解し学習計画をたてる (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	保育(教育)の目標・目的	(内 容) 保育所、幼稚園、認定子ども園の目的、目標について再確認する。 (必要な準備) 保育原理 の内容、教科書第1章を読んでおく。
第3回	保育の歴史 1	(内 容) 諸外国の思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第13章、保育用語辞典を読んでおく
第4回	保育の歴史 2	(内 容) 日本の保育思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第14章、保育用語辞典を読んでおく
第5回	保育の特性	(内 容) 養護とは、教育とは、養護と教育の一体性とは、について正確に説明できるようになる (必要な準備) 保育用語辞典を読んでおく(10分)
第6回	保育計画 1	(内 容) 保育実践のビデオを視聴し、保育活動のねらい、内容、保育計画(指導計画)について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第7回	保育計画 2	(内 容) 保育計画の意義、保育課程(教育課程)と指導計画の関係について理解する (必要な準備) テキスト第12章を読んでおく(30分)
第8回	保育計画 3	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(乳幼児の活動と環境構成) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第9回	保育計画 4	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(保育者の援助の考え方) (必要な準備) 指導案をもって来る、配布プリントを読んでおく(10分)
第10回	保育計画 5	(内 容) ビデオを視聴して指導計画を実際に書く (必要な準備) 指導案の形式を書いてくる(10分)、定規を持って来る
第11回	保育計画 6 グループワーク	(内 容) グループで指導計画を立案し完成させる (必要な準備) 保育活動を考えて指導計画を作成してみる(60分)
第12回	保育計画 7 グループワーク	(内 容) グループで完成させた指導計画を発表する (必要な準備) 指導計画を完成させてもってくる(60分)
第13回	保育実践	(内 容) 保育実践について学ぶ (必要な準備) 筆記用具、折り紙、はさみ、新聞紙をもって来る
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育者の専門性について具体的に理解する (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) ノート、テキストを読み返しわからない点を明確にしておく(30分)

授業名	保育の心理学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	発達心理学の基礎知識を習得し、その知識を用いて子ども理解を深めていく。また、心理学の具体的な話題や幼児教育・保育現場の事例を紹介し、発達過程と保育実践を関連づけながら講義をすすめる。							
学習成果到達目標	1) 子どもの発達に関する心理学の基礎知識を習得することができる。 2) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめる、発達過程と保育実践を関連づけて理解することができる。 3) 乳幼児期の経験の重要性を認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (75 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (25 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
留意事項	復習をしっかり行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 心理学とは何か、保育と心理学の関係について学ぶ。 (必要な準備) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。(20分)	
第2回	保育における発達心理学の意義と役割	(内 容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	「発達」とは何か 1 発達段階と発達課題	(内 容) 発達段階、発達課題、遺伝と環境の影響について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	「発達」とは何か 2 発達のしくみ	(内 容) 発達のしくみ、初期経験の重要性、発達と保育内容について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	身体機能と運動機能の発達	(内 容) 身体機能・運動機能の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	情緒と自我の発達	(内 容) 情緒と自我の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第7回	社会性の発達	(内 容) 社会性の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	知覚と認知の発達	(内 容) 知覚と認知の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 授業の内容を振り返ってまとめる。 (必要な準備) 第8回までの授業の復習をしておく。(60分)	
第10回	言葉の発達 1 コミュニケーションと言葉	(内 容) 言葉の発達の土台となる力や特徴について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第11回	言葉の発達 2 思考と言葉	(内 容) 思考のための言葉や読み書きの発達について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	遊びの発達	(内 容) 遊びの発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	発達障がいの理解	(内 容) 発達障がいや発達検査について基礎的な内容を知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達に応じた援助	(内 容) 保育事例より、子どもの発達や心身の状態をとらえて援助を考える。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第15回	児童期・青年期の発達	(内 容) 児童期・青年期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授業名	教育心理学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	乳幼児期は、遊びや生活体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを経験し、学ぶ態度の基礎を育む時期である。本授業では、学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解し、保育実践に活かせる力を身につける。講義が中心ではあるが、保育・教育現場の事例や学生の実習体験のエピソードや視聴覚教材などを随時取り入れながら、具体的に学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解することができる。 2) 教育心理学の知識を用いて子ども理解を深め、子どもに合った指導方法を考えることができる。 3) 保育者は継続して研修をする必要があることを認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業は配布資料を使ってすすめる。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
留意事項	小テストや課題レポートを随時実施する。主体的に学びを積み重ねてほしい。							
オフィスアワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		教育心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	保育と教育心理学	(内 容) 教育心理学の目的 発達と学びのかかわり 保育者の教育観 (必要な準備) 保育の心理学 ・ の復習をしておく。(60分)	
第2回	学びにかかわるこころの働き1 学習のしくみ	(内 容) 学習の定義 成熟と学習 条件づけ学習 観察学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	学びにかかわるこころの働き2 学習の意欲	(内 容) 動機づけの定義 内発的動機づけ (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	学びにかかわるこころの働き3 内発的動機づけ	(内 容) 知的好奇心 達成動機 コンピテンス動機づけ 自己決定感 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	学びにかかわるこころの働き4 学ぶ楽しさ	(内 容) 原因帰属 学習性無力感 幼児期の学びの特徴 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	学びにかかわるこころの働き5 記憶のしくみ	(内 容) 記憶の過程 長期記憶と短期記憶 忘却 記憶能力の発達 (必要な準備) 第1回から第5回の内容をまとめておく。(90分)	
第7回	学びにかかわるこころの働き6 思考の発達	(内 容) 思考とは 認知・思考の発達 心の理論 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	保育者・教員の倫理観	(内 容) 保育場面における倫理的な判断 保育者の職業倫理 (必要な準備) 第6・7回の内容をまとめておく。(60分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 実習事例を通してレポートを作成する。 (必要な準備) テーマにそって実習事例を考えてくる。(60分)	
第10回	幼児期における文字の学習・数の学習	(内 容) 遊びや生活の中で獲得する読み書き・数概念 (必要な準備) 復習プリントの記入(60分)	
第11回	学びの支援1 指導法	(内 容) プログラム学習 発見学習 有意味受容学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	学びの支援2 保育のねらいと環境設定	(内 容) 適性処遇交互作用 発達の最近接領域 T T 縦割り保育 グループ編成の方法 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	学びの支援3 学ぶこころを育てる人間関係	(内 容) 親子関係と意欲 学ぶこころを育てる保育者のかかわり (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達とこころの問題への支援1 保育カウンセラーとカウンセリングマインド	(内 容) 共感と傾聴の態度 カウンセリングマインド 保育カウンセラーの役割と実践 (必要な準備) 第11回から第13回の内容をまとめておく。(60分)	
第15回	発達とこころの問題への支援2 気になる子ども・発達障がいの子どもの支援	(内 容) 個別の支援が必要な子どもの理解とチーム援助 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授業名	総合演習 A			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	少子高齢化、情報化、国際化の進む現代において、幼児と自然や人とのかかわりは様変わりし、子ども自身の遊びや幼児の人格も変化している。家庭、地域、幼稚園・保育園に問われる子どもの育ちについて調べたり遊びの教材研究をしたりし、発表・討議・分析を通じ、幼児教育についての理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	演習形式で、直接体験を学生自身が自ら計画・実践し、グループ研究を土台に、積極的に発言、意見交換し、各自が課題意識をもちながらすすめる。日頃より、幼児教育及び乳幼児と環境との関連について関心をもつことが望ましい。							
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに 自己紹介 演習の目標と方法	(内 容) 演習の目標と方法について話をする。 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	課題についての問題意識の発見と計画	(内 容) 目標と方法について話し合い課題についての問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 新聞記事等を切り抜いて持参すること	
第3回	子どもの育ちと環境(絵本を読んで創作絵本, パネルシアター、エプロンシアターを考える)	(内 容) 話し合い活動を通して、自分の問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 自分の得意な活動をひとつ考えておくこと	
第4回	子どもの育ちと環境	(内 容) 幼児の大切なことを話し合い、計画を立てる。 (必要な準備) 5領域に即した指導計画を考える	
第5回	体験学習による事例研究か教材研究 制作	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 必要なものは準備、個人での必要物は個人で準備	
第6回	体験学習による事例研究か教材研究 リズム遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽器や製作楽器など、音の鳴るもの	
第7回	体験学習による事例研究か教材研究 音楽	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽譜や音楽用テキスト	
第8回	体験学習による事例研究か教材研究 ゲーム	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 教育実習で使用しようとしている指導案	
第9回	体験学習による事例研究か教材研究 素話	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) いくつかの絵本をピックアップしておくこと	
第10回	体験学習による事例研究か教材研究 集団遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 伝承遊びを中心に集団で遊べるものを用意しておく	
第11回	体験学習による事例研究か教材研究 早期教育	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。発表の仕方の練習 (必要な準備) 図書館等で早期教育に関する資料を集めておくこと	
第12回	具体的事例か教材研究の発表・討議 造形	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 子どもたちに作らせる予定の教材を用意する	
第13回	具体的事例か教材研究の発表・討議 人間関係	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 筆記用具	
第14回	具体的事例か教材研究の発表・討議 言葉	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する (必要な準備) 自分の読みたい絵本をいくつか用意しておくこと	
第15回	まとめ	(内 容) 研究したり製作したことについて反省する。 (必要な準備) 半年間の振り返りに必要なものを用意しておくこと	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自のテーマを見つけ1年間を通して主体的に取り組む。</p> <p>2、幼児に関する現代的なトピックスに関心を持ち、文献の収集、レポートの作成に取り組む。</p> <p>3、卒業研究に向けて各自、準備を行う。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1、乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を育成する。</p> <p>2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につける。</p> <p>3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	なし							
参 考 書	適宜提示する。							
留 意 事 項	積極的な授業へのかかわりを重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(内 容) 授業の進め方などについて説明・自己紹介。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	学生生活を充実させるため知識や学びの姿勢を深める。	(内 容) 自然観察・地域社会への理解を深める。 (必要な準備) 見学先の下調べをしておく。	
第3回	文献の収集、インターネットやPCの活用力を高める。	(内 容) 関心のあるテーマの内容を詳しく調べる。 (必要な準備) 実習をふり返る。	
第4回	学外授業	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第5回	卒業研究の意義を学び各自のテーマを決める。	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第6回	卒業研究に向けて学習スケジュールを立てる。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第7回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第8回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 実習に向けて保育の現状を理解し、各自の問題意識を高める。 (必要な準備) プリントを読んでおく。	
第9回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第10回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第11回	学外授業	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第12回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第13回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第14回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第15回	まとめ、春学期の振り返り、夏期休業中の課題。	(内 容) 授業をふりかえり、今後の課題を検討する。 (必要な準備)	

授 業 名	総合演習 C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	様々な楽器や子どものうた等、手遊びも交え音楽表現を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	卒業研究のテーマを各自決める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期授業内容の説明。 (必要な準備) シラバス
第2回	保育実習反省会	(内 容) 春休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習をふりかえっておく。
第3回	卒業研究テーマ	(内 容) 卒業研究のテーマを決める。 (必要な準備) 各自考えること。(120分)
第4回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第5回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第6回	教育実習準備	(内 容) 実習園で弾くピアノ伴奏などのアドバイス。 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第7回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第8回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第9回	楽器指導	(内 容) 楽器の使い方。 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第10回	楽器指導	(内 容) 合奏 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第11回	楽器指導	(内 容) 発表 (必要な準備) 発表の練習・準備をしておく。楽譜を読む(60分)
第12回	指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて指導の仕方を実践。 (必要な準備) 練習(120分)
第13回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第14回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期の反省 (必要な準備)

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	秋学期終了時に提出する卒業研究レポートに向けて、卒業研究のテーマを考え、情報を収集する方法を知り、卒業研究レポートにふさわしい書き方を学ぶ。どのように研究テーマを絞り込み、どのように研究に取り組むのか、全員でディスカッション等しながら学ぶ。必要に応じて、音楽や制作の体験も取り入れ、体験的な取り組みをレポートにまとめる方法を考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 卒業研究に向けて、幼児教育・保育に関することで、各自興味のあるテーマを設定することができる。 2) 卒業研究のテーマについて、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究の中間報告をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	適宜資料を配布する							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	2回生のゼミでは、1年かけて自分が特に興味を持っている事柄について、卒業研究として取り組みます。自主的・積極的な取り組みが大切です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合演習 D
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 自己紹介・ゼミの仲間と知り合う。 2回生ゼミで取り組む卒業研究についての説明をする。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。
第2回	卒業研究で取り組むテーマを考える(グループワーク)	(内 容) 幼児教育や保育に関する卒業研究のテーマとしてどのようなものが考えられるか、グループごとに考え、発表する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマはどのようなものが考えられるか考えてくる。
第3回	卒業研究で取り組む大まかなテーマを決める	(内 容) 前回のグループワークを元に、自分自身が取り組みたいテーマを考え、小レポートにまとめる。この時点ではまだ、大まかなテーマで良い。 (必要な準備) 自分が取り組みたいテーマを考えてくる。
第4回	文章の書き方の基本ルールを学ぶ	(内 容) 卒業研究レポートにふさわしい文章の基本的な表記法について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第5回	自分で調べる方法を学ぶ	(内 容) 学術書やインターネット等から、卒業研究に必要な情報を収集する方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第6回	レポートをメールで送る方法を学ぶ	(内 容) ワードファイルを添付してメールで送る方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。 パソコンの操作の仕方を復習しておく。
第7回	プレゼンテーションの準備と方法を学ぶ	(内 容) プレゼンテーションの目的・方法・準備について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第8回	研究テーマの絞り方を学ぶ	(内 容) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマから、今回の卒業研究にふさわしい規模に研究テーマを絞る。 (必要な準備) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマの中で、具体的に研究したいことを考えておく。
第9回	個別指導 -1: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第10回	個別指導 -2: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第11回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第12回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第13回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第14回	個別指導 -1: 中間報告レポートの進捗状況と指導	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。
第15回	個別指導 -2: 中間報告レポートの進捗条項と指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>実習を経験して見えてきた自分自身の課題について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を、より確実に身につける。2年間の学びの中から各自がテーマを選び、卒業研究に取り組む。ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団のひとりとしての自覚をもって活動する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 各自の興味関心に基づいて研究テーマを設定し、創造的に学びをすすめる。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	実習や就職・進路に向けて、落ち着いて臨めるように、随時面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) ゼミの目的や卒業研究について理解する。 (必要な準備) 1回生ゼミの内容を振り返る。(30分)	
第2回	卒業研究に向けて1 概要	(内 容) 取り組みの概要を理解する。 (必要な準備) 取り組みたい内容を考えてくる。(60分)	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第4回	卒業研究に向けて2 テーマの検討	(内 容) テーマを発表し、検討し合う。 (必要な準備) 取り組みたい内容を再検討してくる。(60分)	
第5回	卒業研究に向けて3 テーマの決定と計画	(内 容) テーマを決定し、計画書をつくる。(60分) (必要な準備) テーマと目的をまとめる。(60分)	
第6回	保育内容の研修1	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)	
第7回	フィールドワーク	(内 容) 遠足のスポットを体験し、保育者の視点で考える。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第8回	保育内容の研修2	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究の進め方をまとめる。(60分)	
第9回	教育実習での取り組み1	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第10回	教育実習での取り組み2	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第11回	実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)	
第12回	卒業研究の取り組み1	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第13回	卒業研究の取り組み2	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第14回	卒業研究の中間発表(前半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	
第15回	卒業研究の中間発表(後半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	

授 業 名	総合演習 F			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児の保育活動を実践的にイメージし保育者としての資質を向上させる。 様々な角度から子どもを取り巻く環境について体験を通して考える機会をもつ。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に参加してください							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス・自己紹介	(内 容) 講義内容の説明と相互交流をする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	フィールドワーク	(内 容) 自然環境をリサーチする (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する
第3回	グループワーク 1	(内 容) 偏愛マップを使用して相互交流をする (必要な準備) 偏愛マップを作成する(30分)
第4回	グループワーク 2	(内 容) 偏愛マップを使用した相互交流について意見交換をする (必要な準備) 偏愛マップによる相互交流についてまとめてくる(30分)
第5回	保育実践 1	(内 容) 牛乳パックを使った制作をする (必要な準備) 牛乳パックを集めて持ってくる、色鉛筆を持ってくる
第6回	保育実践 2	(内 容) 牛乳パック制作を個人発表する (必要な準備) 牛乳パック制作を完成させる(60分)
第7回	保育実践発表	(内 容) 保育実践の個人課題を発表し資料をさがす、準備をする (必要な準備) 保育実践課題を考えてくる、必要な材料や資料を準備してくる
第8回	フィールドワーク (動物園見学)	(内 容) 春の遠足先である動物園へ行く (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第9回	保育実践課題に取り組む 1	(内 容) 保育実践課題を決定し進める (必要な準備) 資料収集をして準備をする、材料等を考えて持ってくる(30分)
第10回	保育実践課題に取り組む 2	(内 容) 保育実践課題に取り組む (必要な準備) 材料、資料など必要なものを持ってくる
第11回	保育実践課題に取り組む 3	(内 容) 保育実践課題を完成させる (必要な準備) 完成に必要な材料など必要なものを持ってくる
第12回	保育実践課題 発表 1	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)
第13回	保育実践課題 発表 2	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)
第14回	個別面談	(内 容) 個別面談をする (必要な準備) 将来について考えてくる(30分)
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期を振り返り秋学期に向けての研究課題を考える (必要な準備) 自分の意見を考えてまとめておく(15分)

授 業 名	総合演習 G			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	History Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) ありたい自分になるために具体的な取り組みを始めており言語化できるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	適宜、資料等を配布する。							
参 考 書	必要に応じて紹介する。							
留 意 事 項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言等を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容)	授業の進め方について相談、共有する。また、自己紹介や関係作りのワークを適宜実施する。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。
第2回	ありたい自分について考える(1) 望む将来像	(内 容)	ワークシートを使って各自が望む将来像を整理し、口頭で報告する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について自分なりに考えメモを作成しておく。
第3回	ありたい自分について考える(2) 自己覚知	(内 容)	「人生株式市況」や「価値観の競売」等のワークを使い、自分自身の価値観や他者との違いについて考える。 (必要な準備) 前週の内容を復習しておく。
第4回	ありたい自分について考える(3) 理想の保育者像	(内 容)	ブレーストーミングとKJ法の手法を用い、保育者に必要な要素について整理、共有する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について各自で考えメモを作成しておく。
第5回	研究発表のテーマ選定	(内 容)	これまでの演習内容を踏まえ、ワークシートを使い研究テーマと研究概要を整理する。ワークシートは授業後に提出する。 (必要な準備) これまでの演習内容を復習しておく。
第6回	グループ発表の準備(1) グループの編成と研究の進め方	(内 容)	全集作成した個人シートをもとに小グループを編成し、グループごとで、グループ発表のテーマ、研究の進め方、発表の仕方などを協議する。 (必要な準備) 自分の研究テーマ、課題を口頭で説明出来るようになっておく。
第7回	グループ発表の準備(2) 発表資料の作成と発表方法の決定	(内 容)	事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を作成すると共に発表の手順について相談する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第8回	グループ発表の準備(3) 発表資料の完成	(内 容)	事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を完成する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第9回	グループ発表(1)	(内 容)	発表が当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 発表資料を完成し、指定された期日までにGmailで提出する。
第10回	グループ発表(2)	(内 容)	発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第11回	グループ発表(3)	(内 容)	発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第12回	個人研究テーマの再整理	(内 容)	前週までの発表内容を踏まえ、整理シートを使って個人研究テーマを再検討する。 (必要な準備) 全ての発表内容にもう一度目を通しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第13回	個人研究テーマの共有	(内 容)	一人あたり持ち時間4~5分程度で個人研究テーマの発表、質疑応答を実施する。 (必要な準備) 個人研究テーマ(前週の整理シート)の概要を3分程度で説明できるように準備しておく。
第14回	個人レポートの作成	(内 容)	今学期の内容を振り返り、個人レポートを作成する。 (必要な準備) 今学期の演習内容を復習しておく。
第15回	個人レポート及び夏期休暇の課題と総括	(内 容)	個人レポート及び各休暇中の課題について発表する。また、今学期の総括を行う。 (必要な準備) 個人レポートの内容を見直し、口頭で発表できるように準備しておく。

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 2年間の学びの集大成として学生各自のテーマに沿って「卒業研究」を行う。 「卒業研究」は教員の指導を受けて、各自が1600文字程度のレポートとして完成させる。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を身につけることができる。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力)	プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組み、学習成果を発表する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 総合演習の目的を理解し、学習の進め方を理解する。 (必要な準備) シラバスを読み授業内容を理解しておく。
第2回	1年間の学習計画と卒業制作について	(内 容) 総合演習で取り組む卒業研究の意味やその取り組み方法について学ぶとともに年間を通した学習計画を立てる。 (必要な準備) 年間の学習内容を整理しておく。
第3回	卒業研究のテーマの検討と設定	(内 容) 卒業研究のテーマ案や方法案についてこれまでの学びをベースに検討する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマや方法について1回生時の学びから整理しておく。(60分)
第4回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第5回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第6回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第7回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第8回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第9回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する。 (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第10回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる。 (必要な準備) 研究執筆に向けて仮説を立て、研究方法を考えておく。
第11回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる (必要な準備) 最終的な分析方法とレポートの構成を考えておく。
第12回	卒業研究テーマの発表と共有	(内 容) 各自が考えた卒業研究のテーマとその内容を発表し、質疑応答を通してその内容を深め共有する。 (必要な準備) テーマと発表内容をまとめて提示資料を作成しておく
第13回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第14回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第15回	春学期総合演習の振り返り	(内 容) 春学期の授業全体を振り返り、秋学期に向けた学習の方向性を整理し、夏季休暇中の活動を考える。 (必要な準備) 春学期の授業を振り返り、学びの内容や目標の到達度などを整理しておく。(30分)

授業名	総合演習 I			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上にむけて、一人ずつテーマを設定する課題解決的な学び、共通の問題意識をもったグループでの協調的な学び、ゼミ生全員で取り組む各種活動を通して、子どもへの理解を深め、保育者としての実践力を、より確実に身につける。その過程で、ほかのゼミ生への学びの貢献によって相互に高める関係づくりを通して、現場で求められる同僚性を獲得する。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	チームビルディング	(内 容)	新しいゼミメンバーのひとりとなりを理解するために、前年度の学修経験を互いに共有する (必要な準備) 1年生時の学修と春休みにおこなった実習のふりかえりと反省を考えてくる
第2回	卒業研究のテーマを浮かべる	(内 容)	ブレイン・ストーミングにより課題発見 (必要な準備) 卒業研究の大きなテーマとして創作おもちゃ、伝統文化、情報教育の三つについて情報を収集してくる
第3回	卒業研究のテーマを練る	(内 容)	マインドマップによる問題意識の整理 (必要な準備) 書籍やインターネットを使って浮かび上がってきた課題を追究
第4回	研究テーマの明確化	(内 容)	ワールド・カフェ形式で見直しをもつ (必要な準備) 完成したマインドマップ
第5回	テーマごとのグループ学習	(内 容)	卒業研究の3つのテーマのうち、もっとも関心のあるものを選択する。同じテーマを選択したもの同士、互いに問題意識を共有する (必要な準備) 卒業研究の見直し
第6回	テーマ別グループ発表の準備	(内 容)	問題意識の近い者でグループになり資料を集め、書籍やインターネットから保育現場で実際におこなわれているテーマに沿った活動をプレゼンテーション用の資料にまとめる (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート
第7回	テーマ別グループ発表（創作おもちゃ）	(内 容)	創作おもちゃの保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第8回	テーマ別グループ発表（伝統文化）	(内 容)	伝統文化の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第9回	テーマ別グループ発表（情報教育）	(内 容)	情報教育の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第10回	グループ発表のふりかえり	(内 容)	3回にわかって実施したグループ発表の自己評価、相互評価、教員からの指導助言 (必要な準備) グループ発表の感想
第11回	グループ発表の成果をもとに個人の研究テーマの選定	(内 容)	グループ発表の成果をまとめ、自分の卒業研究テーマにつなげる (必要な準備) 個人の研究テーマのしぼりこみ
第12回	個人の研究テーマに基づいて教材研究	(内 容)	書籍やインターネットや試作をしながら、卒業研究テーマに沿った保育案を考える (必要な準備) 個人の研究テーマに関連した既存の保育案
第13回	卒業研究の中間報告に向けてレポート作成	(内 容)	研究テーマに沿った保育案とそのねらい (必要な準備) 自ら作成した保育案
第14回	卒業研究の中間報告（前半）	(内 容)	1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。 お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書
第15回	卒業研究の中間報告（後半）	(内 容)	(前回からの続き) 1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書

授 業 名	総合演習 J			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	山部 泰司			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>パネルシアターなどの劇表現や壁面構成によって造形力、表現の力を身につける。 また、教材研究として造形関連の指導案、作品制作などを行う。 お互いのよいところに気付き、集団で活動するためのコミュニケーション能力を高める。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どものためのストーリー、表現等をよく考え、制作して演じる力を身につける。 2) 造形材料、色や形から教材研究する力をつける。 3) 仲間の取り組みから学び、それぞれの表現の良さを発見する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	必要に応じて指示する。							
留 意 事 項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)
第2回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの構想を練る (必要な準備) 劇表現にするアイデアを考えておく(30分程度)
第3回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を始める (必要な準備) 制作に必要な資料を持参する(30分程度)
第4回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を進める (必要な準備) 新たに必要なものを持参する(30分程度)
第5回	劇表現の取り組み	(内 容) 人形を仕上げ、発表練習などをする (必要な準備) 大まかな時間の流れを考えておく(30分程度)
第6回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの発表と鑑賞 (必要な準備) 発表練習をしておく(30分程度)
第7回	実習報告会	(内 容) 教育実習の反省・報告 (必要な準備) 自分の実習について振り返っておく(30分程度)
第8回	フィールドワーク	(内 容) ギャラリーをまわる (必要な準備) 地図を確認し下調べをしておく(30分程度)
第9回	フィールドワーク	(内 容) 作品についてのレポート (必要な準備) つくる人の言葉をインタビューする(30分程度)
第10回	教材研究	(内 容) テーマの設定 (必要な準備) 材料、技法を調べておく(30分程度)
第11回	教材研究	(内 容) 参考作品の制作 (必要な準備) 細部のアイデアを考えておく(30分程度)
第12回	教材研究	(内 容) 指導案づくり (必要な準備) 仕上がりの様子を考えておく(30分程度)
第13回	教材研究	(内 容) 発表会(作品の鑑賞 取り組みの評価) (必要な準備) 自分の作品や取り組みについてまとめる(30分程度)
第14回	秋学期の取り組みに向けて	(内 容) 自分の研究したいテーマを探す (必要な準備) 事前に考えておく(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期授業の振り返り (必要な準備) 授業で学んだことをまとめておく(30分程度)

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上を図る。特に、食を通じて健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す能力を養う必要がある。食嗜好や朝食の欠食、咀嚼力の低下等の多様な問題点を理解し、解決するため保育者としての実践力を習得する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材を養成できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回課題を設定し提出してもらおう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	発表(1)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第3回	発表(2)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第4回	フィールドワーク	(内 容) 大学周辺を散策する (必要な準備) 大学周辺の地図を確認しておく	
第5回	研究課題の検討	(内 容) 興味ある課題を考えておく (必要な準備) ホームページなどで情報収集	
第6回	資料収集	(内 容) 問題意識の近い者でグループになり資料集め (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート	
第7回	資料整理	(内 容) 集めた資料を整理し発表の役割分担 (必要な準備) 前時に収集した資料	
第8回	発表資料の作成	(内 容) 役割分担に基づきグループ発表資料作成 (必要な準備) 前時にまとめた工程表	
第9回	子どもの遊びを考える	(内 容) 子どものさまざまな遊びを全体で研究 (必要な準備) 遊びの提案	
第10回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第11回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第12回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第13回	映像から子ども理解を深める	(内 容) 映像教材をみて子どもの視点をまとめる (必要な準備) グループ発表のふりかえりシート	
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今期追究したテーマをレポートにまとめる (必要な準備) これまでの研究ノート	
第15回	レポート発表と総括	(内 容) 各自の研究成果に対する総括 (必要な準備) 個人発表資料	

授業名	総合演習 A			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	総合演習 で学んだことを基礎に、子育てと環境とのかかわりについて、自分が問題とする課題のもと研究をすすめる。その間、中間発表をしながら討議・分析を重ね、課題について、幼児の人間としての育ちを援助するための方法・技術を考え、保育者としての役割の重要性を自覚する。最後に卒業研究としてレポートを作成する。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	課題にそってグループ研究を進め、レポートとしてまとめ発表する。授業への積極的参加を求めます。							
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	休暇中の課題の発表と討議	(内 容) 休暇中の課題の発表と討議 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	各自の課題の絞り込み 資料の収集	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) 課題をまとめたレジメを作成すること	
第3回	各自の課題の絞り込み パワーポイント作成	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) パワーポイント作成に必要な資料	
第4回	課題による研究・実践 実習での課題	(内 容) 課題による研究・実践をするための教材の計画や準備をする。 (必要な準備) 各自教材・資料を持参する。	
第5回	課題による研究・実践 子どもたちの支援	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 子ども支援に焦点を当てた資料を用意すること	
第6回	課題による研究・実践 早期教育の功罪	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 早期教育に関する資料を用意すること	
第7回	課題による研究・実践 教材研究	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第8回	課題による研究・実践 環境構成と発達	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 環境や発達に関する資料	
第9回	課題による研究・実践 制作と遊び	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した指導案	
第10回	課題による研究・実践 人間関係の構築	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第11回	課題の発表・討議 ディベート	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 設題に沿った資料	
第12回	課題の発表・討議 KJ法を用いた要約	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 筆記用具・付箋紙・模造紙	
第13回	課題の発表・討議 シンポジウム形式の発表	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 限られた時間で発表するための資料	
第14回	課題の発表・討議 幼児教育の方向性	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 幼児教育に関する資料	
第15回	レポート作成にむけて	(内 容) レポートを作成するための留意点について解説する。 (必要な準備) これまでの発表資料を持参すること。	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自の卒業研究のテーマを深める。 2、卒業研究に必要な資料や新聞記事、文献の収集、レポートの作成に取り組む。 3、卒業研究を仕上げ、各自がゼミの中で発表し互いに講評し合う。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1、卒業研究をまとめることで文章力を高め、PCの活用や情報処理の方法に習熟する。 2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につけて実践力のある保育者に育つ。 3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) ()
テ キ ス ト	なし							
参 考 書	適宜提示する							
留 意 事 項	積極的な態度を重視する							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス夏期休業中の課題についての提出、確認。秋学期の学習の目標を立てる。	(内 容)	授業の進め方などについて説明する (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	課題の検討、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	関心のある事柄について、概要を調べる (必要な準備) プリントを読んでおく
第3回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	決定したテーマを発表する (必要な準備) テーマの検討
第4回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。学外授業	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第5回	茶道の基本を学び実践する。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第6回	季節に応じた保育内容を学ぶ(春から夏)	(内 容)	芸術に親しみ、感性を養う (必要な準備) 見学先の予習
第7回	季節に応じた保育内容を学ぶ(秋から冬)	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第8回	外国の幼児教育を学び視野を広げる	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第9回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第10回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	レポートの組み立てについて個別に指導する (必要な準備) レポートの組み立てを考える
第11回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第12回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第13回	各自の卒業研究を仕上げ提出する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第14回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第15回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	レポートを完成させて提出する (必要な準備)

授 業 名	総合演習 C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所などでは様々な行事が行われるが、生活発表もその中で重要な位置を占める。最近では園外での合奏 発表なども盛んである。そこでこの授業では、どの楽器をどのように使えば有効かなど、曲選び・アレンジを中心に、保育現場での実践的な指導を研究する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	自分たちだけが合奏を楽しむのではなく、合奏することの楽しさを、いかに子どもたちに伝えるかを各自考察してほしい。そして何より保育現場で役立つように。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、実習反省会、合奏指導実践準備	(内 容) 授業内容の説明、夏休みに行った実習の反省会。 合奏練習。 (必要な準備) 実習の感想を考えてくる。(30分)	
第2回	実習反省会、合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第3回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第4回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第5回	個別相談	(内 容) 就活の相談 (必要な準備)	
第6回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第7回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第8回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 練習(60分)	
第9回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第10回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第11回	コンサート	(内 容) コンサート (必要な準備) 練習(60分)	
第12回	合奏指導の基礎知識	(内 容) 生活発表での選曲・アレンジ・記譜法・指揮法。 (必要な準備) 各自曲を考える。	
第13回	卒業研究個別相談	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第14回	卒業研究提出	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第15回	卒業研究発表	(内 容) 短大2年間で学んだこと。 (必要な準備)	

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	各自が設定したテーマについて、卒業研究を進める。各自の研究に必要なフィールドワーク・ワークショップ・資料購読などを進め、卒業研究レポートとしてまとめる。中間発表等を通して、ゼミ全体で学びを深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自身の卒業研究に必要な情報を自主的に調べ、必要があればフィールドワークやワークショップを計画・調整することができる。 2) 卒業研究について、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	自主的・積極的・計画的な取り組みが重要です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授業名	総合演習 D	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	卒業研究についての確認	(内 容) 秋学期の授業計画について説明する。 各自の卒業研究の進捗状況について報告する。 (必要な準備) 各自の卒業研究のテーマを確認しておく。
第2回	卒業研究の計画書の作成	(内 容) 卒業研究レポートを提出するまでの計画を立てる。 (必要な準備) 卒業研究レポート提出までの計画を考えておく。
第3回	個別指導：卒業研究計画書の内容について	(内 容) 前回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第4回	個別指導：卒業研究計画書の内容について（前回からの続き）	(内 容) 前々回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第5回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第6回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第7回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第8回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第9回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第10回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第11回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第12回	卒業研究レポートの執筆を開始する	(内 容) 卒業研究レポートを書き始める。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートの書き方を復習しておく。
第13回	卒業研究レポートを執筆する	(内 容) 卒業研究レポートを執筆する。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートを進めておく。
第14回	卒業研究レポートを完成させる	(内 容) 卒業研究レポートを完成し、教員に提出前の最後の指導を受ける。 (必要な準備) 卒業研究レポートを完成させておく。
第15回	卒業研究のプレゼンテーション	(内 容) 各自が1年かけて取り組んできた卒業研究を発表し、ゼミのメンバーで共有する。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	すべての実習を終えて見えてきた自分自身の課題や、保育現場の課題、子育てをめぐる社会状況などを総合的にとらえ、課題意識をもって卒業研究に取り組みまとめる。ゼミ生同士が交流を深め、積極的に意見を交換しながら高め合い、集団作りを担う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 設定した研究テーマに取り組み、課題意識をもって創造的に学びを深める。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	卒業研究で設定した課題に向けて自主的に取り組むこと。必要に応じて個人面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)	
第2回	卒業研究の取り組み3	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)	
第3回	特別企画と制作1 企画	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第4回	特別企画と制作2 取り組み	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第5回	特別企画と制作3 まとめ	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第6回	卒業研究の取り組み4	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第7回	卒業研究の取り組み5	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第8回	卒業研究の取り組み6	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第9回	フィールドワーク	(内 容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第10回	卒業研究の取り組み7	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第11回	卒業研究まとめ1	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)	
第12回	卒業研究まとめ2	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)	
第13回	保育中の行事	(内 容) クリスマスや正月の行事に関する保育体験をする。 (必要な準備) 保育における行事の意味を考える。(30分)	
第14回	卒業研究の発表(前半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)	
第15回	卒業研究の発表(後半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)	

授業名	総合演習 F			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	2年間の学びのまとめを行う。現在の幼児教育に深い関心を持ち、卒業に向けた各自の研究課題を明確し、意見交流や資料収集を通して自分の考えをまとめる。さらに、子どもを取り巻く課題に気づき、将来に向けて保育実践力を向上させる。							
学習成果到達目標	1) 幼児教育・保育に関心を持ち課題について深く探求できる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない							
参考書	随時提示する							
留意事項	研究課題を期日内に仕上げなければなりません。計画性をもって取り組みましょう。							
オフィス アワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 総合演習の達成目標の確認をする (必要な準備) 春学期の総合演習で配布したプリントを読んでおく(5分)	
第2回	研究課題(テーマ) 設定	(内 容) 幼児教育に関連した研究課題(テーマ、保育実践、見学観察など)を設定する (必要な準備) 図書館や情報メディアを通して保育や子育ての問題に関心をもち具体的に考えてくる(60分)	
第3回	研究課題(テーマ) 検討	(内 容) 各自の研究課題(テーマ)について発表、意見交流、検討する。 (必要な準備) 研究課題(テーマ)作成のための参考資料を収集してもってくる(30分)	
第4回	研究課題(テーマ) 再検討	(内 容) 研究課題について個別指導 (必要な準備) 計画の見直し、問題関心をまとめておく、研究課題にそって資料収集を用意する(30分)	
第5回	個別指導 1	(内 容) 研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 研究課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第6回	個別指導 2	(内 容) 個人の研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第7回	研究課題 中間発表 1	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第8回	研究課題 中間発表 2	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第9回	フィールドワーク 1	(内 容) 保育施設を見学する (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する	
第10回	フィールドワーク 2	(内 容) 学外を散策する(自然環境について考える) (必要な準備) 動きやすい服装で来る	
第11回	研究課題 まとめ	(内 容) 研究課題を仕上げる、まとめる (必要な準備) 研究課題を最終確認してまとめておく(60分)	
第12回	研究課題 提出	(内 容) 卒業研究課題を指定の用紙を使用して完成させ提出する、最終確認を行う (必要な準備) プレゼンテーション(発表)の準備をする	
第13回	研究課題 発表 1	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第14回	研究課題 発表 2	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第15回	まとめ 自己評価	(内 容) 一年間のまとめ、自分自身の今後の課題を明確にする 学びのステップアップシートを作成する (必要な準備) 1年間を振り返っておく	

授 業 名	総合演習 G			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	History Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。また、期末には各自が研究レポートを作成し、ゼミ内で発表を行います。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) 興味のあるテーマについて自分の意見も含む研究レポートが完成している。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	適宜、資料等を配布する。							
参 考 書	必要に応じて紹介する。							
留 意 事 項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言、また研究レポートの内容を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について相談、共有する。また、卒業研究レポートを進めていくことをうながす。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。	
第2回	ありたい自分の確認	(内 容) 夏期休暇中の活動(実習や就職活動等)を踏まえ、また進路を見据えながら、ありたい自己を確認する。 (必要な準備) 学習内容に書いたことを口頭で説明できるようにしておく。	
第3回	わたし実現計画の作成(1)ありたい自己とニーズ整理	(内 容) ありたい自己(目指す保育者像、将来像)と、それに対応する現在の状況から、ありたい自己に近づくために必要なこと(ニーズ)を整理する。 (必要な準備) ありたい自己について、具体的に書き出せるように考えておく。	
第4回	わたし実現計画の作成(2)計画の作成	(内 容) 前週の演習で整理したニーズを満たすために、自分がすべきこと、整えるべき環境などを考え計画を作成する。 (必要な準備) ニーズ整理シートを完成させておく。	
第5回	わたし実現計画の発表と共有	(内 容) 小グループを作り、事前提出した実現計画を発表、質疑応答し、グループ内で共有する。また、個別面談中の課題について説明する。 (必要な準備) わたし実現シートを完成し、指定された期日までに事前提出する。	
第6回	個別面談(1)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第7回	個別面談(2)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第8回	個別面談(3)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第9回	卒業研究発表の準備	(内 容) 卒業研究発表について、役割分担、発表順、資料集の作成など準備を進める。 (必要な準備) 第5回に説明した課題を完成して事前提出する。	
第10回	卒業研究の発表(1)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第11回	卒業研究の発表(2)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第12回	卒業研究の発表(3)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第13回	卒業研究レポートの完成	(内 容) 自分の発表内容、他者の発表、メッセージシートを踏まえ、卒業研究レポートを見直し完成させる。 (必要な準備) 発表者へのメッセージシートを記入し事前提出する。	
第14回	卒業研究レポートの提出	(内 容) 持参した卒業研究レポートを提出しする。また、卒業や資格登録等について確認する。 (必要な準備) 卒業レポートを完成させて授業に持参する。	
第15回	1年間の振り返りと総括	(内 容) 1年間の演習内容、2年間の学生生活について振り返る。 (必要な準備) 1年間の授業内容を見直しておく。	

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 短大での学びの集大成として年間を通して個々のテーマに沿って研究し成果物を作成する 視野を広げ多様な保育や幼児教育にも関心を広げる。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼児期の教育、保育における環境の重要性について理解を深めることができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につけることができる。 3) 自らの興味関心に基づいた研究を進め成果物を完成することができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	アクティブラーニングの手法を用いて授業を実施するので、毎回の講義には主体的かつ積極的に取り組み学びを深める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 夏期休暇中の課題及び学習の成果を確認するとともに、秋学期の授業や研究についてその流れを確認する。 (必要な準備) 夏期休暇に向けて設定した課題の達成状況を整理しておく(30分)
第2回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第3回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第4回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第5回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第6回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第7回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第8回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第9回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の成果物を提示できるように用意する(30分)
第10回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第11回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第12回	研究レポートの作成	(内 容) 個別指導の内容を踏まえ、それぞれの研究の校正を進めレポートを仕上げる。 (必要な準備) 個別指導の指摘事項を整理し校正内容を確認しておく(60分)
第13回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第14回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第15回	2年間の学びの総括	(内 容) 短大2年間の学びを振り返り、卒業後の進路に生かすためにそれぞれの学びをまとめる。 (必要な準備) 2年間の学習内容を整理しておく(60分)

授業名	総合演習 I			開講学年	2年生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2年生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、それぞれのフィールドを設定し、実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。ゼミ全体での協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる多面的な力を伸ばす。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期のふりかきと反省 秋学期の目標を設定する	(内 容)	卒業にむけて、春学期の授業、また、実習での経験をふりかき、自らが成長した点とさらに伸ばす必要がある点を分析する。その上で、秋学期の学びの目標を明確にする。 (必要な準備) 春学期および実習のふりかきと反省
第2回	個人の研究テーマの再確認	(内 容)	卒業研究の個人々のテーマに沿って、夏休み中に進捗した状況をゼミのメンバーと共有する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第3回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 創作おもちゃに関する施設見学	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、創作おもちゃに関する施設見学をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 京都の伝統文化に触れる体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、伝統文化に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 情報教育に関する体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、情報教育に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	フィールドワークの結果の整理	(内 容)	フィールドワークで得た知見をワークシートにまとめ整理する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容)	ゼミ内でフィールドワークで得た知見を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	卒業研究の中間報告	(内 容)	卒業研究にまとめる内容のこれまでの成果を発表し、完成にむけた道筋をつける。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第9回	研究テーマの保育実践(創作おもちゃ)	(内 容)	創作おもちゃをテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	研究テーマの保育実践(伝統文化に触れる)	(内 容)	伝統文化をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	研究テーマの保育実践(情報通信機器との付き合い方)	(内 容)	情報通信機器との付き合い方をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	保育実践記録の共有	(内 容)	ゼミ内でそれぞれが選択したテーマに沿って実践した保育の結果を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	卒業研究の資料作成	(内 容)	卒業研究の提出にむけた資料を作成する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	卒業研究の完成と提出	(内 容)	総合演習での学びの成果を完成させ、時間内に、決められたフォーマットで提出する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	卒業研究の発表	(内 容)	各自の研究テーマに沿った成果を発表する。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授業名	総合演習 J			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>前半は絵本の共同制作や研究課題に取り組む。 また、職業選択にむけての面談やディスカッションの時間を持つ。 後半は設定したテーマで各自が卒業研究を完成させる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 集団で活動する力、リーダーシップの力を養う。 2) お互いの研究や表現から学び、他者の表現の良さを発見する。 3) 学んだ事、考察した事等を分かりやすく、美しくまとめることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 活動についてのディスカッション (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	絵本作り (構想)	(内 容) 共同でつくる絵本の構想を練る (必要な準備) テーマに沿ったアイデアを考えておく(30分程度)	
第3回	絵本作り (版画の体験)	(内 容) 全体の統一感をつくる工夫 (必要な準備) 下絵を考えておく(30分程度)	
第4回	絵本作り (版作り)	(内 容) 分担するページの版をつくる (必要な準備) 版づくりに必要な材料を持参する(30分程度)	
第5回	絵本作り (絵の刷り)	(内 容) 必要枚数を刷る (必要な準備) 色彩計画を立てる(30分程度)	
第6回	絵本作り (文字の刷り)	(内 容) 文字を刷り込む (必要な準備) 文字原稿を用意しておく	
第7回	絵本作り (ページ貼り合わせ)	(内 容) ページを貼り合わせる 表紙を制作する (必要な準備) 表紙に使う布を持参する	
第8回	絵本作り (製本仕上げ)	(内 容) 表紙とページを貼り合わせて仕上げる (必要な準備) 各自が所持する絵本の完成(30分程度)	
第9回	仕事についてのディスカッションなど	(内 容) 就職活動の情報交換 (必要な準備) 将来設計について考えておく(30分程度)	
第10回	卒業研究	(内 容) テーマを決める (必要な準備) テーマを考えておく(30分程度)	
第11回	卒業研究	(内 容) テーマについての調査 (必要な準備) 資料を調べておく(30分程度)	
第12回	卒業研究	(内 容) 研究計画をたてる (必要な準備) テーマに沿った応用例を調べておく(30分程度)	
第13回	卒業研究	(内 容) レポートの作成、データ化など (必要な準備) いろいろな可能性について考えておく(30分程度)	
第14回	卒業研究	(内 容) 研究発表会 (必要な準備) 発表の準備をしておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、食育を中心として、その実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。また、食育教育に必要な資料を制作する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育に関する食育などの専門的知識や実践的指導力の育成ができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成ができる</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回レポートを提出してもらう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と進め方。 (必要な準備)	
第2回	個人の研究テーマの確認	(内 容) 夏休み中に作成した課題の共有 (必要な準備) 作成した課題	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 秋の食材を調べる (必要な準備) 見学先の情報収集	
第4回	フィールドワークの結果の整理	(内 容) 資料を整理して食育のための制作物を考える (必要な準備) 資料の整理	
第5回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容) 中間発表 (必要な準備) 制作物の提出	
第6回	グループ研究(1)	(内 容) グループで研究課題を考える (必要な準備) 資料の収集	
第7回	グループ研究(2)	(内 容) グループで研究を進める (必要な準備) 課題と方法を考えておく	
第8回	グループ研究の発表と討論	(内 容) 発表と討論 (必要な準備) 制作物がレポートの提出	
第9回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第10回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第11回	中間発表	(内 容) 課題の発表と意見交換 (必要な準備) 発表の準備	
第12回	資料収集	(内 容) 資料の再収集 (必要な準備) 資料の整理	
第13回	個人の発表と討論(1)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第14回	個人の発表と討論(2)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第15回	まとめ	(内 容) 1年を振り返り、レポートを作成する (必要な準備) 1年間の総まとめをしておく	

授業名	保育者論 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child Care Worker			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西川 由紀子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育者の役割を、守るべき倫理や制度的位置づけを解説することによって理解し、さらに、その専門性が磨かれるためにどのようなことが求められるか、どのような人たちとの連携が行われているのかを解説していく。							
学習成果到達目標	1) 保育者の役割を理解する 2) 保育者が専門性を高めるために必要なことを理解する 3) 保育者がどんな人たちとの連携しているかを理解する							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	矢藤誠慈郎・天野珠路編 『保育者論』中央法規							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設ける。							

授 業 名		保育者論 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	保育者の役割	(内 容) 保育者の役割を解説する (必要な準備) 第1講を読んでくる(30分)	
第2回	保育者の倫理	(内 容) 全国保育士会倫理綱領の解説を行う (必要な準備) 第2講を読んでくる(30分)	
第3回	保育士と幼稚園教諭の特性	(内 容) 保育士と幼稚園教諭の職務について解説する (必要な準備) 第3講を読んでくる(30分)	
第4回	養護と教育の関係	(内 容) 養護と教育の関係を解説する (必要な準備) 第4講を読んでくる(30分)	
第5回	保育者としての資質と能力	(内 容) 保育者としての資質と能力をどう考えるかを解説する (必要な準備) 第5講を読んでくる(30分)	
第6回	専門的な知識・技術と判断	(内 容) どのような専門的な知識や技術が必要とされ、どのような判断を要求されるかを解説する (必要な準備) 第6講を読んでくる(30分)	
第7回	保育におけるPDCAサイクル	(内 容) 保育においてPDCAサイクルがどのように機能しているかを解説する (必要な準備) 第7講を読んでくる(30分)	
第8回	保育課程と保育の実際	(内 容) 保育課程と保育の実際の間を解説する (必要な準備) 第8講を読んでくる(30分)	
第9回	保育者の自己評価	(内 容) 保育者の自己評価について解説する (必要な準備) 第9講を読んでくる(30分)	
第10回	保育者連携	(内 容) 保育者連携について解説する (必要な準備) 第10講を読んでくる(30分)	
第11回	専門機関との連携	(内 容) 地域の療育施設との連携などさまざまな連携について解説する (必要な準備) 第11講を読んでくる(30分)	
第12回	保護者との連携	(内 容) 保護者との連携について解説する (必要な準備) 第12講を解説する(30分)	
第13回	家庭的保育	(内 容) 家庭的保育について解説する (必要な準備) 第13講を読んでくる(30分)	
第14回	保育者の専門性の向上	(内 容) 保育者がどのようにして専門性を向上させていくかを解説する (必要な準備) 第14講を読んでくる(30分)	
第15回	保育という仕事の魅力	(内 容) 保育という仕事の魅力を解説する (必要な準備) これまでの授業で学んだことを振り返っておく(30分)	

授業名	教育課程総論 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Outline of Curriculum			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	<p>1) 幼児教育の基本を学び、幼稚園・認定こども園・保育所の共通した部分と異なる部分について説明する。</p> <p>2) 各機関・施設での保育や教育の課程編成について理解し、指導計画を考える。</p> <p>3) 保育や教育課程の編成原理をふまえ、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルにもとづいた評価プロセスを説明する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 保育者の立場から、幼稚園、認定こども園、保育所における教育課程や保育課程について説明できる。</p> <p>2) 年間計画を想定したうえで、月案や週案など、長期的な保育指導計画について作成しようとする意欲を持つことができる。</p> <p>3) 活動計画を評価するための視点を提示することができる</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (計画する力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	京都教育大学大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』							
参考書	文部科学省編「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」							
留意事項	テキストにある事例をもとに授業を進めるため、毎回必ず持参すること。							
オフィス アワー	第1回目の授業で告知							

授 業 名		教育課程総論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション：子どもの現代的な教育課題	(内 容)	学校における教育課程の概要 (必要な準備) 「カリキュラム」について調べておくこと
第2回	幼児教育の基本(1)：遊びを通しての総合的な指導	(内 容)	教育課程の編成原理 (必要な準備) 「幼稚園教育要領」より遊びの効用について理解しておく
第3回	幼児教育の基本(2)：環境を通して行う教育	(内 容)	経験カリキュラムと教科カリキュラムの系譜 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より環境構成の箇所を読んでおくこと
第4回	幼稚園における教育：学校教育としての幼稚園	(内 容)	「幼稚園教育要領」「学習指導要領」 (必要な準備) 「幼稚園教育要領解説」より幼稚園の目的・意義について理解しておく
第5回	保育所における保育：「養護と教育の一体性」	(内 容)	「児童福祉法」 (必要な準備) 「保育所保育指針」より保育所の目的・意義について理解しておく
第6回	認定こども園における保育：「子育て支援機能」	(内 容)	子ども・子育て関連三法 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より現代の子育て支援機能について理解する
第7回	課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合	(内 容)	社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より育成すべき資質・能力について理解する
第8回	課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合	(内 容)	「深い学び」としてのアクティブ・ラーニング (必要な準備) アクティブ・ラーニングについてあらかじめ調べておくこと
第9回	課程編成と指導計画(3)：保育所の場合	(内 容)	保育課程の編成と指導計画の具体的な筋道 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育課程の編成について調べておく
第10回	課程編成と指導計画(4)：認定こども園の場合	(内 容)	「子育て支援機能」の実際 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より「子育て支援機能」について調べておく
第11回	幼児教育の評価の類型および第三者評価	(内 容)	ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より評価の分類について調べておく
第12回	事例研究(1)：幼稚園の場合	(内 容)	健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域の理解 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より5つの領域について調べておく
第13回	事例研究(2)：保育所の場合	(内 容)	保育所保育指針と指導計画 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育所における指導計画について読んでおくこと
第14回	事例研究(3)：認定こども園の場合	(内 容)	社会に開かれた教育課程 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、認定こども園でのカリキュラムについて理解する
第15回	まとめ 教育計画について考える	(内 容)	3年間のカリキュラムの計画立案について、どのような点に注目しなければならないのかについて考える (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、長期的な教育計画について考える

授 業 名	保育内容総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Outline of Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	乳幼児保育（教育）では、幼稚園教育要領・保育所保育指針が基本となり、保育内容のねらい・内容を理解し、実践することが求められる。つまり、子どもの生活＝遊びを通して、保育者が行うべき養護的内容と子ども自身の教育的側面としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域があることを理解する。また、養護と教育が相互に関連をもちながら総合的に展開されるものであること及び5領域の保育内容のねらいと内容を知り、実際の保育における具体的な援助の内容や方法について理解する。保育活動の総合的指導を視野に入れて実践し発表を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容の5領域についてねらいと内容を理解する。 2) 保育における指導計画の意義について理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育内容・保育方法総論の理論と活用』上野恭裕編著 保育出版社							
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館・『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館							
留 意 事 項	保育実践活動を実施する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名	保育内容総論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 「保育内容」とは何かをイメージする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	「保育内容」の定義	(内 容) 「保育」と「教育」の違い、「保育内容」「領域」と「教科」との違いから「保育内容」を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第3回	保育活動とは	(内 容) 保育所と幼稚園の保育内容の相違点を学ぶ (必要な準備) テキスト第2章を読んでおく(30分)
第4回	保育内容の歴史	(内 容) 戦前・戦後の保育内容を知る (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第5回	保育内容と保育方法の関連	(内 容) 個と集団、道徳性から保育内容を考える (必要な準備) テキスト第8章を読んでおく(30分)
第6回	保育活動と遊びの関連	(内 容) 遊びとは何か、遊びの重要性、保育者の援助について理解する (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(30分)
第7回	保育内容「環境」領域と保育活動	(内 容) 保育内容「環境」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 指示された材料を準備しておく
第8回	保育内容「健康」・「人間関係」と保育活動	(内 容) 保育内容「健康」「人間関係」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第9回	保育内容「言葉」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「言葉」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 絵本を選んでくる(10分)
第10回	保育内容「言葉」と保育活動 2	(内 容) 絵本の読み聞かせを实践する (必要な準備) 絵本を選んで下読みをしておく(20分)
第11回	保育内容「表現」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(造形)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 造形関係の材料を準備してくる(10分)
第12回	保育内容「表現」と保育活動 2	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(リズム)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第13回	保育内容「表現」と保育活動 3	(内 容) 保育内容「表現」の領域と保育活動(音楽)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 活動を考えておく
第14回	遊びを通しての総合的指導	(内 容) 保育活動の発表をする (必要な準備) 発表グループで準備練習しておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 保育内容および領域のねらい・内容について理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の5領域を読んでおく(60分)

授 業 名	児童福祉 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育1ya~ye・yf~yj			
授業の概要	1.少子化・保育・虐待など児童問題について 2.現代の子どもの生活について 3.諸外国の児童福祉について 4.児童福祉の法制度について							
学 習 成 果 到 達 目 標	1)社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2)保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3)児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4)児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (65 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	出席とレポートを重視する。積極的な発表も評価の対象となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。							

授 業 名		児童福祉 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく	
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第7回	児童福祉法について 2012～2016年の改正	(内 容) 近年の児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく	
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第13回	社会的養護について	(内 容) 里親ケアの実際について (必要な準備) テキスト10章を参照しておく	
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく	

授業名	養護原理 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山川 宏和			対象学生	幼児教育1ya~ye			
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。</p> <p>1. 社会的養護の概念と歴史的経過について 2. 社会的養護体系について 3. 施設によるケアについて 4. 里親によるケアについて</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 社会的養護の現状や、入所施設や里親に関する制度について説明できる。 2) 乳児院や児童養護施設等に入所している児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする保護者について、現状と支援が理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	吉田明弘編著 『保育士のための社会的養護』 [八千代出版]							
参考書	随時指示する。							
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。							
オフィス アワー	3号館に掲示してあるオフィスアワーを参照。							

授 業 名		養護原理 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 社会的養護の現状について (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと
第2回	児童虐待の理解	(内 容) 被虐待児の現状について (必要な準備) 児童虐待に関心をもってニュースなどを見る
第3回	家庭的養護について 里親	(内 容) 里親ケアの登録・委託・手当について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第4回	家庭的養護について 里子	(内 容) 里子の心理、当事者団体について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第5回	特別養子縁組	(内 容) 特別養子縁組の実際について (必要な準備) テキストp.138-139を読んでおく
第6回	施設養護 乳児院	(内 容) 乳児院の現状と課題について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第7回	施設養護 虐待対応	(内 容) 被虐待児の支援について (必要な準備) テキスト第7章第3節を読んでおく
第8回	施設養護 親子分離	(内 容) 児童養護施設に入所した家族について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第9回	施設養護 児童養護施設	(内 容) 児童養護施設のケアについて (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第10回	保護処分 少年院	(内 容) 少年非行と家庭裁判所について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第11回	保護処分 保護観察	(内 容) 児童自立支援施設、保護観察について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第12回	施設養護 自立援助ホーム	(内 容) 自立援助ホームの役割と機能について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第13回	施設養護 障害児通所支援	(内 容) 障害児通所支援施設を利用する児童について (必要な準備) 障害の定義を振り返っておく
第14回	アタッチメント障害	(内 容) アタッチメント(愛着)障害について (必要な準備) 保育における愛着を復習しておく
第15回	施設養護 児童心理治療施設	(内 容) 児童心理治療施設に入所する児童について (必要な準備) 児童心理治療施設の歴史を調べる

授業名	養護原理 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浦田 雅夫			対象学生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。</p> <p>1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 社会的養護の概念と歴史的経過、種類と役割について理解することができる。</p> <p>2) 乳児院や児童養護施設等に入所してくる児童の特徴や、背景を総合的に理解することができる。</p> <p>3) 里親によるケアの現状と課題を理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『保育士のための社会的養護』吉田明弘編 八千代出版							
参考書	随時指示する。							
留意事項	出席を怠らないこと。学習内容の順番は事前説明の上、変更することがある。							
オフィス アワー	非常勤講師のため授業外の質問はメールにて対応。初回講義時にメールアドレスを伝える。							

授 業 名		養護原理 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要、計画、評価などについて説明する。 (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと。
第2回	今日の子どもを取り巻く状況	(内 容) 子どもの貧困、要保護児童などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章を読んでおくこと。
第3回	社会的養護の歴史的経過	(内 容) 石井十次の養育観と実践について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第4回	子ども観の変遷と権利擁護の視点	(内 容) 権利の主体としての子ども観について考える。 (必要な準備) 子どもの権利条約を事前に読んでおくこと。
第5回	施設養護の基本原則	(内 容) ケアの基本原則を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第6回	施設養護の基本原則と実際	(内 容) ケアの展開過程について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第7回	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて	(内 容) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第8回	児童自立支援施設などについて	(内 容) 児童自立支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第9回	障害児・者施設などについて	(内 容) 障害のある子どもたちへのケアを考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第10回	施設養護と権利侵害	(内 容) 施設内虐待について考える。 (必要な準備) 各自でメディアから情報を集める。
第11回	小規模ケアの実際	(内 容) 小規模ケアについて考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第12回	里親による養育	(内 容) 里親による養育の現状と課題を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第13回	関係機関との連携	(内 容) 児童相談所や市町村などとの連携を考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第14回	社会的養護の今日的課題	(内 容) 社会的養護の今日的課題を整理する。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。
第15回	社会的養護の近未来	(内 容) 今後の社会的養護のあり方について考える。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。

授業名	保育の心理学 a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	保育の心理学 で学んだ内容を演習科目としてさらに深めていく。発達心理学の基礎知識を用いて、子ども理解を深め、遊びや生活を通じた学びの過程を理解する。幼児教育・保育の具体的な事例やビデオ映像などをもとに、子どもや保育について学生自身が考え実践力を身につけられるように、演習を取り入れていく。							
学習成果到達目標	1) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめ、心身の発達と保育実践を関連づけて理解することができる。 2) 乳幼児期に適した、遊びや生活を通じた学びの過程を理解することができる。 3) 保育における発達援助について学び、実践に活かすヒントを得ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『保育の心理学 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 井戸ゆかり編著 萌文書林							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	自分が保育者だったらどのように考え対応するかを想定しながら、主体的に学んでほしい。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 保育の心理学 と の 関 連 に つ い て 授 業 の ね ら い と 進 め 方 (必要準備) 保育の心理学 の 復 習 を し て お く 。 (60分)
第2回	保育における発達のとらえ方	(内 容) 子 ども 理 解 に 必 要 な 発 達 の 把 握 の 方 法 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 1 (30分)
第3回	個人差に応じた保育	(内 容) 個 人 差 の 基 本 的 な 考 え 方 と 個 人 差 に 応 じ た 保 育 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 2 (30分)
第4回	身体感覚を伴う経験と環境の相互作用	(内 容) 身 体 感 覚 や 知 覚 の 発 達 と 環 境 の 相 互 作 用 を 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 3 (30分)
第5回	環境としての保育者と子どもの発達	(内 容) 人 的 環 境 と し て の 保 育 者 が 子 ども や 保 護 者 に 及 ぼ す 影 響 を 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 4 (30分)
第6回	子ども相互のかかわりと関係づくり	(内 容) 社 会 性 ・ 道 徳 心 の 発 達 を 復 習 し 、 子 ども の 関 係 づ くり の 視 点 を 培 う 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 5 (30分)
第7回	自己主張と自己抑制	(内 容) 自 己 主 張 と 自 己 抑 制 の 発 達 や ト ラ ブ ル 対 応 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 6 (30分)
第8回	子ども集団と保育の環境	(内 容) 集 団 の 育 ち と ク ラ ス 経 営 を 意 識 し た 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 7 (30分)
第9回	ワーク1 自分を知らう	(内 容) ワークを通して自分自身を振り返る。 (必要準備) 第1回から第4回の内容をまとめる。(60分)
第10回	ワーク2 共通理解を図るために	(内 容) ワークを通して人間関係作りについて考える。 (必要準備) 第5回から第8回の内容をまとめる。(60分)
第11回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う1 生きる力とは	(内 容) 生 涯 発 達 の 視 点 か ら み た 生 き る 力 に つ い て 理 解 す る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の前半 (30分)
第12回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う2 保育者の役割	(内 容) 生 き る 力 を 育 む た め の 保 育 者 の 役 割 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の後半 (30分)
第13回	基本的生活習慣の獲得と発達援助	(内 容) 基 本 的 生 活 習 慣 の 獲 得 の 重 要 性 と 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 1 第11・12回の内容をまとめる。(60分)
第14回	自己の主体性の形成と発達援助	(内 容) 子 ども の 主 体 性 の 形 成 を 育 む 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 2 (30分)
第15回	発達の課題に応じた援助やかかわり	(内 容) 事 例 を も と に 子 ども 理 解 を す す め 、 個 別 の 対 応 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 3 (30分)

授 業 名	保育の心理学 b		開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Child Care Psychology		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	西川 由紀子		対 象 学 生	幼児教育1yf~yj				
授業の概要	子どもの発達を解説した上で、保育実践でその時期の子どもにどんな保育が行われているかを実践現場の資料で説明してゆく。子どもたちが集団の中でどんな力を培っていくのか、子どもたちの発達上のつまづきがみられたときどんな支援が必要なのかも解説したい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちの発達を援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かわりあって育つこどもたち』(かもがわ出版)							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		保育の心理学 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(内 容) 保育者になるために子どもの発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する (必要な準備) テキスト 1章を読んでくる(30分)	
第2回	0歳児の発達	(内 容) 0歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる(30分)	
第3回	0歳児の保育の実際	(内 容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる	
第4回	1歳児の発達	(内 容) 1歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第5回	1歳児の保育	(内 容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第6回	2歳児の発達	(内 容) 2歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第7回	2歳児の保育	(内 容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第8回	3歳児の発達	(内 容) 3歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第9回	3歳児の保育	(内 容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第10回	4歳児の発達	(内 容) 4歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第11回	4歳児の保育	(内 容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第12回	5歳児の発達	(内 容) 5歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第13回	5歳児の保育	(内 容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(内 容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 4章、5章、 2章を読んでくる(30分)	
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(内 容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 3.4 . 5章を読んでくる(30分)	

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	中村 洋子			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	子どもは未来へつながり、子どもは未来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期からだや心を健康に保つために、保育者や保護者は正しい知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 胎児期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2) どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を学ぶ。 3) 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	子どもの保健(診断と治療社)							
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健」(建帛社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社)							
留意事項	子供の健康については小児保健や医学の知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと							
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいるときは対応します。							

授 業 名		小児保健 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス・小児保健の目的と意義	(内 容) 本講義の目的と意義を理解する (必要な準備)	
第2回	小児保健の基本とは	(内 容) 基本となる小児の特徴やからだの仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第3回	胎児の成長と母体の健康	(内 容) 胎児の発育状況と母体の健康について (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)	
第4回	子供の身体発育と影響する因子	(内 容) 身体発育状況の推移・影響を及ぼす因子について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第5回	身体発育と評価方法	(内 容) 身体計測と評価方法について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第6回	からだの生理機能(ホメオスタシス等基本的生理機能)	(内 容) 基本的なからだの機能について、基礎を学ぶ。 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第7回	からだの生理機能(呼吸器・循環器)	(内 容) 呼吸器・循環器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第8回	からだの生理機能(感覚器・排泄器)	(内 容) 感覚器・排泄器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第9回	からだの生理機能(消化器・ホルモン等)	(内 容) 消化器・ホルモン系の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第10回	子どもの運動発達(新生児期・乳児期)	(内 容) 新生児期・乳児期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第11回	子どもの運動発達(幼児期・学童期)	(内 容) 幼児期・学童期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第12回	子どもの精神発達(神経系)	(内 容) 脳・自律神経等の仕組みと発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第13回	子どもの精神発達(言葉と情緒)	(内 容) 子どもの言葉や情緒の発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第14回	新生児・低出生体重児	(内 容) 新生児・低出生体重児の特徴と育て方 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第15回	子どもを取り巻く生活環境	(内 容) 子どもを取り巻く生活環境の現状・全体的なまとめ (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す(40分)	

授 業 名	小児保健 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 美也子			対 象 学 生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>1) 私たちはどのように成長してきたのかを振り返ることにより、小児の身体や心の発達を理解する。</p> <p>2) 将来“子どもの健やかな発達を支える一員”となるために、必要な知識や自分なりの“子ども観”を考える。</p> <p>3) 保育や健診、療育現場でのエピソードを交えながら、子どもの心身の保健について医学的・臨床発達心理学的に理解する</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもの発達を支え、見守るさまざまな環境について考える。</p> <p>2) 子どもの身体発達についての知識を学び、保育や子育てに結びつけて理解する。</p> <p>3) 子どもの精神発達について学び、近年の社会状況の中での保育を考える。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	「よくわかる子どもの保健」第3版 竹内義博、大矢紀昭編 (ミネルヴァ書房)							
参 考 書	「こどもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留 意 事 項	常に身の回りで起きている子どもの発達や保健に関するニュースや情報に気づき、興味や関心を持つ。 知識と自分の経験(将来も含む)を必ず結びつけて理解する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授 業 名		小児保健 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイドランス/子どもの保健という学問	(内 容) 本講義の目的と概要を理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの健康と保育	(内 容) 健康水準、保育、保健活動、福祉サービスについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp2～11を読んでおく。(30分)
第3回	母子保健	(内 容) 母子保健事業、保育所との連携について学ぶ。 (必要な準備) テキストp12～15を読んでおく。(30分)
第4回	身体発育と保健(発育の原則と測定)	(内 容) 身体発育の原則、測定について学ぶ。 (必要な準備) テキストp16～p27を読んでおく。(30分)
第5回	身体発育と保健(影響する要因)	(内 容) 身体発育のバランス、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p28～p33を読んでおく。(30分)
第6回	生理機能の発達と保健(自律神経・体温 他)	(内 容) 自律神経、循環・消化機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp33～p45を読んでおく。(30分)
第7回	生理機能の発達と保健(排泄・睡眠 他)	(内 容) 排泄、睡眠、感覚器官の発達、免疫について学ぶ。 (必要な準備) テキストp46～p53を読んでおく。(30分)
第8回	運動機能の発達と保健	(内 容) 新生児、乳児、幼児の運動機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp54～p61を読んでおく。(30分)
第9回	精神機能の発達と保健(言語・社会性・情緒)	(内 容) 言語、社会性、情緒の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp62～p67を読んでおく。(30分)
第10回	精神機能の発達と保健(発達の評価・影響要因)	(内 容) 発達の評価(発達検査)、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキストp68～p71を読んでおく。(30分)
第11回	子どもの精神保健(心身症・行動上の問題)	(内 容) 精神保健とは、心身症、行動上の問題について学ぶ。 (必要な準備) テキストp72～p81を読んでおく。(30分)
第12回	子どもの精神保健(発達障害を抱える子ども)	(内 容) 発達障害とその対応、保護者への寄添いについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp82～p85を読んでおく。(30分)
第13回	子どもの精神保健(慢性疾患の子どものかかえる問題)	(内 容) 慢性疾患、育児環境と精神保健について学ぶ。 (必要な準備) テキストp86～p89を読んでおく。(30分)
第14回	子どもの精神保健(虐待・親のメンタルヘルス)	(内 容) 虐待、地域精神保健活動について学ぶ。 (必要な準備) テキストp90～p97を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 総復習。振り返って考える。 (必要な準備) 関心を持ったテーマについて考えておく。(30分)

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	子どもが健康な体と健全な心をもって発育するためには、保健に関する知識や実践的技術が必要である。さらに、子どもの保健は、健康を増進する積極的な活動であり、医学の知識だけでなく日常生活で実践されるものである。すなわち、子どもの心身の問題や栄養、生活、母子関係、環境、社会の制度と施策などと関連づけて学ぶ。また、子どもにとって良い環境や感染症などの病気等についての基本的知識について学ぶ							
学習成果到達目標	日常生活の中や、保育の現場での子どもの保健に関する知識を理解し保健の実践ができる。 医学的基礎知識が理解できる。 子どもの健康増進対策ができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	子どもの保健 巷野悟朗編 診断と治療社							
参考書	授業中に紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		小児保健 a
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	母子保健の現状	(内 容) 子どもの出生率と死亡率 (必要な準備) 教科書p. 239 246を読んでおく
第2回	母子保健行政	(内 容) 母子保健対策と児童福祉対策 (必要な準備) 教科書p. 247 267を読んでおく
第3回	子どもの食事	(内 容) 子どもの栄養の特徴、栄養生理など (必要な準備) 教科書p. 65 73を読んでおく
第4回	乳汁栄養法	(内 容) 母乳栄養の人工栄養と混合栄養法特徴 (必要な準備) 教科書p. 73 - 83を読んでおく
第5回	離乳の意義	(内 容) 離乳の方法 (必要な準備) 教科書p. 83 86を読んでおく
第6回	幼児期、学齢、少年期の栄養	(内 容) 栄養の特徴と問題点 (必要な準備) 教科書p. 86 91を読んでおく
第7回	健康と病気、異常	(内 容) 健康の概念、病気の症状と看護 (必要な準備) 教科書p. 158 - 165を読んでおく
第8回	免疫とアレルギー、むし歯	(内 容) 免疫の成り立ち、アレルギーの原因と対応。むし歯の予防 (必要な準備) 教科書p. 166 171を読んでおく
第9回	事故と応急処置	(内 容) 子どもの事故の原因や応急処置 (必要な準備) 教科書p. 172 187を読んでおく
第10回	感染症と予防接種	(内 容) 感染症のに関する法律と予防接種 (必要な準備) 教科書p. 188 200を読んでおく
第11回	乳幼児期の病気	(内 容) ウイルス感染症と細菌感染症 (必要な準備) 教科書p. 201 207を読んでおく
第12回	発育と栄養障害、アレルギーの病気、消化器の病気	(内 容) 特徴と対応 (必要な準備) 教科書p. 207 216を読んでおく
第13回	呼吸器の病気、循環器の病気、血液の病気 泌尿器と生殖器の病気	(内 容) かぜ、先天性心疾患、貧血など (必要な準備) 教科書p. 217 222を読んでおく
第14回	代謝の病気、内分泌の病気、皮膚の病気など	(内 容) 糖尿病、クレチン病、アトピー性皮膚炎など (必要な準備) 教科書p. 222 230を読んでおく
第15回	悪性腫瘍など	(内 容) 脳腫瘍や川崎病など (必要な準備) 教科書p. 231 238を読んでおく

授業名	小児保健 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 美也子			対象学生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	<p>1) 子どもの疫病の特徴について理解し、保育の場での必要な対応を学ぶ。 2) 子どもの健やかな発育と安全な暮らしを保障するための環境や予防を考える。 3) 保育士自身も心身ともに元気に子ども達との暮らしを楽しむことについて考える。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもの発達と疾病についての基礎知識を理解する。 2) 子どもの病気の看護、予防や増進のための対応を学ぶ。 3) 保育の場で生じる私たち自身のストレス、自分に合ったメンタルヘルスを考える。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「小児保健」で使用したもの							
参考書	「子どもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留意事項	「小児保健」で学んだ“子どもの心身の発達”や“精神保健”を復習する。 常に実際の子どものイメージや自分の経験と結びつけて想像しながら学ぶ。							
オフィス アワー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授 業 名	小児保健 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健 の意義	(内 容) 小児保健 の目的と意義・授業の進め方について理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの生活と健康(乳児期の暮らし)	(内 容) 乳児、1.2歳児、3.4.5歳児の生活、発達の特徴について学ぶ。 (必要な準備) テキストp98～p109を読んでおく。(30分)
第3回	子どもの生活と健康(家庭と集団)	(内 容) 家庭生活の現状と集団(保育、教育)生活について学ぶ。 (必要な準備) テキストp110～p115を読んでおく。(30分)
第4回	子どもの疾病と保育(呼吸器・循環器、消化器)	(内 容) 子どもの疾病の特徴、各器官の疾病と症状、重要な感染症について学ぶ。 (必要な準備) テキストp116～p127を読んでおく。(30分)
第5回	子どもの疾病と保育(他器官、神経系、整形外科)	(内 容) 中枢神経系疾患、アレルギー疾患、その他の疾患について学ぶ。 (必要な準備) テキストp128～p143を読んでおく。(30分)
第6回	子どもの疾病と保育(保育の場、予防感染)	(内 容) 乳幼児突然死症候群、保育の場での感染症、予防接種について学ぶ。 (必要な準備) テキストp144～p151を読んでおく。(30分)
第7回	子どもの疾病と保育(身体障がい、健康診査)	(内 容) 身体障がい、健診の目的について学ぶ。 (必要な準備) テキストp152～p155を読んでおく。(30分)
第8回	子どもの疾病と保育(支援体制、療育)	(内 容) 疾病異常と支援体制、医療制度について学ぶ。 (必要な準備) テキストp156～p157を読んでおく。(30分)
第9回	保育環境整備と衛生管理	(内 容) 保育環境、衛生管理、感染症への対応と予防のための対策について学ぶ。 (必要な準備) テキストp158～p161を読んでおく。(30分)
第10回	子どもの事故の特徴と安全防止	(内 容) 事故と応急処置、事故防止について学ぶ。 (必要な準備) テキストp162～p169を読んでおく。(30分)
第11回	災害への備へ	(内 容) 災害への備え、救急措置について学ぶ。 (必要な準備) テキストp170～p175を読んでおく。(30分)
第12回	保健活動(計画)、連携と組織での取り組み	(内 容) 保健計画の作成、活用、評価、健康及び安全の実施について学ぶ。 (必要な準備) テキストp174～p179を読んでおく。(30分)
第13回	救急時の初期対応	(内 容) 症状の訴え、具体的な対応について学ぶ。 (必要な準備) テキストp180～p201を読んでおく。(50分)
第14回	保育士としての心身の健康	(内 容) 自己覚知、保育士として予想されるストレスと対応について考える。 (必要な準備) 自分の長所、短所について考えてみる。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 小児保健 、を通しての総復習 (必要な準備) 関心の持てた分野についてまとめる。(30分)

授 業 名	音楽 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・北村 陽子・木島 佳都子・小鍛治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・永峯 翠子・内藤 規子・福永 圭子・松村 佳			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（音楽専門教員による集団指導）を行う。							
学 習 成 果 達 到 目 標	1) 基礎的な音楽理論を理解できる。 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得することができる。 3) 基本的な歌唱法を習得することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的基礎能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（1回目の授業で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9（全16ステップ）まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授業名	音楽 a・b・c・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) レッソンの進め方についての説明・担当教員の紹介・各自のピアノ レッスン曲の決定 (必要な準備) ピアノ初心者及びバイエル練習中の学生は「バイエル」を持参する。 バイエルを終了している学生は、現在練習中の楽譜、または最後にレッスンを受けた楽譜を持参する。
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容) 「こどものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「こどものうた」の歌唱練習及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	音楽 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・木島 佳都子・北村 陽子・小銀治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・内藤 規子・永峯 翠子・服部 さやか・福永 圭子・松村 佳奈			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（声楽専門教員による集団指導）を行う。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いと、ブルグミュラー1番以上の曲を弾くことができる（バイエルは終了する）。 2) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけることができる。 3) 基礎的な音楽理論を理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（音楽 で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて（全16ステップ）終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容)	「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「子どものうた」小試験曲及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授業名	形象音楽 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Figurative Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	明山 婦美			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーを多く持つことが出来る。 3) 折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参考書	使用しない。							
留意事項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。							
オフィス アワー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b ・ c ・ d	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙等を用意する	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 コリ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第6回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく	
第7回	歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき	(内 容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (必要な準備) チラシを用意する	
第8回	歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第9回	歌唱・手遊び・折り紙 シャツ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第10回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作内容を考えておく	
第11回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作を仕上げる	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作を提出する	
第13回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手あそびをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊び・折り紙 あさがお	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作内容を考えておく	

授 業 名	形象音楽 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Figurative Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	明山 婦美			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。春学期に履修した音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現・創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させると共にイメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どものうた・手遊びのレパトリーを多く持つことが出来る。 2) 折り紙の折方を更に覚えることが出来る。 3) 創意工夫する能力を養うことが出来る。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (創意工夫能力)
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	意欲を持って授業に参加し、課題にも積極的に取り組むこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) これからの授業について 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に様々な楽器の演奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 歌詞を読みイメージを膨らませておく	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第6回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第7回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第8回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 しゅりけん	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第9回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第10回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第11回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 飾りつけ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る。 (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第13回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にリズム楽器で演奏する (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊びをグループで考える	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 手遊びを考えておく	

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	絵を描いたり、物をつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。							
学習成果到達目標	1) 様々な表現の方法を、体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 ? 吾 編著 (三晃書房)							
参考書	使用しない							
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) 教科書の全体に目を通しておく(30分程度) 必携教材を持参すること	
第2回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法(にじみ絵など) (必要な準備) 教科書の関連箇所18～19項を読んでおく(30分程度)	
第3回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(デカルコマニーなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所22項などを読んでおく(30分程度)	
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)	
第5回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(スタンピングなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所23項などを読んでおく(30分程度)	
第6回	水彩絵の具・パスによる表現	(内 容) 水彩絵の具・パスによる技法(パチックなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所55項などを読んでおく(30分程度)	
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所に目を通しておく(30分程度)	
第8回	パスによる表現	(内 容) パスによる技法(スクラッチなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所25項などを読んでおく(30分程度)	
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)	
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す)	(内 容) フロッタージュ(クーピーペンシルによる) (必要な準備) 教科書28～29項を読んでおく(30分程度)	
第11回	コラージュ(フロッタージュからの展開)	(内 容) コラージュの技法による個人の表現 (必要な準備) 自分の作品の構想を持つ(30分程度)	
第12回	フロッタージュ、コラージュ・作品のまとめ	(内 容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所29項などを読んでおく(30分程度)	
第13回	版による表現	(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく(30分程度)	
第14回	版による表現・作品のまとめ	(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所61項などを読んでおく(30分程度)	
第15回	まとめ・レポート	(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) 授業で学んだ事をまとめておく(30分程度)	

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用)							
参考書	使用しない。							
留意事項	第1回から7回の授業は、ゼミ単位のチームによる創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもデパート	(内 容) 子どもデパートのための課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく(30分程度)	
第2回	子どもデパート	(内 容) 課題についてのグループでの相談する (必要な準備) 配布プリントを読む(30分程度)	
第3回	子どもデパート	(内 容) 材料について理解し、工夫する (必要な準備) さまざまな素材を探しておく(30分程度)	
第4回	子どもデパート	(内 容) 展示の環境構成について工夫する (必要な準備) 子どもの動きと活動について考えておく(30分程度)	
第5回	子どもデパート	(内 容) 華頂祭での作品の準備と展示 (必要な準備) 展示作業などの予定を立てておく(30分程度)	
第6回	子どもデパートの発表	(内 容) 子どもと関わり、子どもを理解する (必要な準備) 子どもの発達について調べておく(30分程度)	
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(内 容) 課題が達成できたか。レポートと考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく(30分程度)	
第8回	指絵の具をつくる	(内 容) 指絵の具の制作と指絵の表現 (必要な準備) テキスト24項を読んでおく(30分程度)	
第9回	小麦粉粘土をつくる	(内 容) 小麦粉粘土の制作と遊び (必要な準備) テキスト33項を読んでおく(30分程度)	
第10回	張り子の制作 1	(内 容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (必要な準備) アイデアを考えておく	
第11回	張り子の制作 2	(内 容) 彩色とニス塗り (必要な準備) 前回の内容を完成させておく(30分程度)	
第12回	マーブリング 1	(内 容) マーブリング紙をつくる (必要な準備) テキスト27項を読んでおく(30分程度)	
第13回	マーブリング 2	(内 容) マーブリング紙で何かをつくる (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第14回	スライムをつくる	(内 容) スライムの制作と遊びへの展開 (必要な準備) テキスト32項を読んでおく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 自らの活動について考えておく(30分程度)	

授業名	小児体育 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Infant Physical Education			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	佐東 恒子・山本 武司			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj		
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	<p>幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房</p>						
参考書	<p>『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社</p>						
留意事項	<p>保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。</p>						
オフィスアワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>						

授 業 名		小児体育 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (必要な準備)
第2回	基本の運動	(内 容) 歩くと走るの違いについて知る。歩く・走る・ 跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (必要な準備) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。
第3回	リズム運動	(内 容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍 子のリズム遊び (必要な準備) どんなリズムが有るのか考えておく
第4回	リズムダンス	(内 容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子ども が楽しめるリズムダンス (必要な準備) 幼児の好きな曲を選曲しておく。
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・ などの遊びを行う。 (必要な準備) 少人数のボール遊びを考えておく
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に 楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (必要な準備) 子どものころに遊んだゲーム遊びを書き出す
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊び を行う。 (必要な準備) 色々なフープ遊びを考えておく。
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協 力する事を経験する。 (必要な準備) いろいろなゲーム遊びを考えておく
第9回	マット遊び	(内 容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む 、動物遊び) (必要な準備) いろいろな動物のうごきを考える
第10回	マット遊びの補助	(内 容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方 法を学ぶ。 (必要な準備) 補助で大事な事は何かを考える
第11回	体操をつくる	(内 容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年 齢に合った体操を考える (必要な準備) 何歳の体操を創るのかを決めて、曲を選んでおく。
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(内 容) 体操の動きを見直しより良い体操に仕上げる。 (必要な準備) 体操の動きの流れを見直す。
第13回	体操の発表	(内 容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。各自責任を持って 評価をする。 (必要な準備) 創作した体操を自分の動きとなるように練習。
第14回	パラバルーン遊び	(内 容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事 を知る (必要な準備) パラバルーンの遊びを調べる。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 幼児の運動遊びで大切な事をまとめておく。

授業名	小児体育			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Infant Physical Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	佐東 恒子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>幼児の発育発達に応じた運動や遊びを、安全に指導や援助が出来る知識と技術を学ぶ。運動指導のレパトリーを広げることができるように学ぶ。指導内容について話し合い振り返りを行うことで、各自の力を身につけていく。子どもが能動的に運動するには、適切な環境構成と適時な活動の提案が必要であることを学ぶ。集団遊びの指導ができる力を身につける。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子ども達の年齢にあった運動遊びを考え、指導と援助が出来るようにする。 2) 集団でのゲーム遊びの指導や、一人一人を理解し指導の出来る保育者になることを目標とする。 3) 手具を使って運動遊びを考え、子どもたちが楽しいと思える指導が出来るようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	<p>幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房</p>							
参考書	<p>『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社 『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著（萌文書林）</p>							
留意事項	<p>運動遊びを楽しむ心を持ち続けて、子ども達に遊びを提供出来る指導者を目指してもらいたい。 授業で学習した内容をノートにまとめておく。</p>							
オフィスアワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							

授 業 名		小児体育
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本授業のねらい等についてガイダンスを行う。授業の進め方について説明。 (必要な準備) 小児体育 の授業内容を振り返っておく。
第2回	基本の運動	(内 容) 歩く・走る・跳ぶからゲーム的な遊びに発展させ、ふれあい遊びと展開する。 (必要な準備) 基本の運動にはどんな動きがあるか調べる
第3回	リズム運動	(内 容) 2歳児から5歳児用のリズムダンスを行いリズムダンスの楽しさを知る。 (必要な準備) 知っているリズムダンスを調べておく
第4回	リズム遊びの指導	(内 容) リズムに乗って動く事の重要性を学ぶ。指導者と子ども役になって行う。 (必要な準備) リズムダンスの復習をしておく
第5回	用具を使用しない遊び	(内 容) 体のふれあい遊び・ジャンケン遊び(少人数の遊び・グループでの遊び) (必要な準備) ジャンケン遊びにはどんな遊びがあるかを調べておく
第6回	鬼遊び	(内 容) いろんな鬼遊びを行い、グループで鬼遊びを考え発表をする。 (必要な準備) 知っている鬼遊びを発表できるようにしておく
第7回	ウォーミングアップの学習	(内 容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるウォーミングアップの内容を考え実践していく。 (必要な準備) 各自動きを考えノートにまとめておく。
第8回	ウォーミングアップの指導	(内 容) 各自が考えたウォーミングアップを、それぞれが指導者になり、皆に指導をする。(指導案の作成) (必要な準備) ウォーミングアップの指導を出来るようにする。
第9回	サーキット遊び	(内 容) サーキット遊びの特性について理解する。サーキット遊びを実践して楽しさを知る。 (必要な準備) 配付したプリントを読んでおく
第10回	サーキット遊びを考える	(内 容) 各班で子どもの年齢にあったサーキット遊びを考え、用具のセッティングにも注意する。(発表する) (必要な準備) サーキットの内容を年齢別に考えてまとめておく。
第11回	用具を使っの遊び	(内 容) 各班で用具(フープ・ボール)を使って遊びを考える。 (必要な準備) 幼児の年齢に応じた遊びを考えておく。
第12回	用具を使ってリズム体操	(内 容) 用具を使って(ボール・フープ)リズム体操を考える。 (必要な準備) リズム体操にあう曲を選んでおく。
第13回	短縄遊び	(内 容) 短縄を使っているんな遊びを行う。短縄を使ってグループで遊びを考え発表する。 (必要な準備) 縄でどんな遊びが出来るか考えておく
第14回	長縄遊び	(内 容) 長縄を使っの遊び(縄くぐり・郵便屋さん・伝承遊び・いろんな跳び方をしてみよう。) (必要な準備) 長縄でどんな跳び方をして遊んでいたかまとめておく。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 自分が得意とする遊びをノートに書き出しておく。

授 業 名	保育内容・健康 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf・yg~yl			
授業の概要	子どもが健康で安全な生活を送ることが出来るよう、保育者が配慮すべき事項について学ぶ。子どもたちの運動量の減少と遊び体験の減少による運動不足からくる肥満児の増加や、空腹感や疲労感の減少からくる生活リズムの乱れの問題。家庭生活では孤食や夜型の生活が広がり、園生活に大きな影響を及ぼしつつある現状を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期における心身の健康に関する現状と健康生活に必要な生活習慣の形成やその確立の重要性が理解できる。 2) 身体の発育・発達に関する基礎的な知識を理解できる。 3) 子どもの安全のための保育者の携わり方について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	保育ライブラリー(保育内容健康) 北大路書房							
参 考 書	演習保育内容健康 建帛社							
留 意 事 項	自分自身は「健康」に関してどのような問題意識をもっているのか考えてみよう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		保育内容・健康 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 保育内容「健康」の内容について (必要な準備)
第2回	子どもの健康な生活とは	(内 容) 生活リズムの変化 (必要な準備) 健康な生活リズムについて考えをまとめておく
第3回	幼児の健康	(内 容) 幼児の健康状態の把握 (必要な準備) 教科書 P 14～ P 23を読んでおく
第4回	幼児の発達理解	(内 容) 乳幼児の体格と生理機能の発達 (必要な準備) 教科書 P 26～ P 39を読んでおく
第5回	運動機能の発達	(内 容) 子どもたちがどのような運動が出来るのか、どの程 度の能力があるのか把握する。 (必要な準備) 教科書 P 40～ P 52を読んでおく
第6回	心の発達と健康	(内 容) 子どものものの考え方・子どもの道徳判断 (必要な準備) 教科書 P 53～ P 64読んでおく。
第7回	幼児のあそびの発達	(内 容) あそびとは何か・あそびの発達過程 (必要な準備) 今のこどもはどんなあそびをしているのか調べる。
第8回	あそびを豊かにする保育者の役割	(内 容) 者の役割について理解する (必要な準備) 遊びを豊かにする方法を考える。
第9回	幼児の体格・運動能力測定法	(内 容) 運動能力の年代変化と問題 (必要な準備) 教科書 P 80～ P 86 P 103～ P 118読んでおく
第10回	幼児の生活スタイル	(内 容) 幼児の生活スタイルの現状と問題点 (必要な準備) 生活習慣の形成における保育者の役割を考える。
第11回	安全管理と安全教育	(内 容) 安全管理と安全教育の必要性 (必要な準備) 教科書 P 120～ P 130読んでおく
第12回	応急処置法	(内 容) 手当の順序・けがに対するてあて (必要な準備) 自分が経験した応急処置を書き出す。
第13回	保育における健康行事	(内 容) 保育における年間行事 (必要な準備) 幼稚園・保育園の年間行事の内容を調べる。
第14回	保育の計画と指導案	(内 容) 年間指導計画と短期の指導計画・保育評価 (必要な準備) 教科書 P 155～ P 165読んでおく
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の役割について確認する (必要な準備) 保育者の役割についてまとめておく

授業名	保育内容・人間関係 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Human Relations			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	鈴木 えり子・名賀 亨			対象学生	幼児教育1ya ~ ye			
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。							
学習成果到達目標	1) 保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。 2) 人間関係の発達過程を、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするための保育者の役割と課題を理解する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省（フレール館）							
留意事項	グループワークや発表があるので、自分自身が人とかかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと。							
オフィス アワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		保育内容・人間関係 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (必要な準備) シラバスを読んでおく・テキスト10p-13pを読んでおく	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキスト28p-29pを読みまともておく	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト30p-31pを読みまともておく	
第4回	人とかかわる力の発達 (0歳児)	(内 容) 0歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト34p-51pを読みまともておく	
第5回	人とかかわる力の発達 (1, 2歳児)	(内 容) 1.2歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト52p-69pを読みまともておく	
第6回	人とかかわる力の発達 (3歳児)	(内 容) 3歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト70p-87pを読みまともておく	
第7回	人とかかわる力の発達 (4歳児)	(内 容) 4歳児の発達課題と「ひと環境」を学ぶ。 (必要な準備) テキスト88p-103pを読みまともておく	
第8回	人とかかわる力の発達 (5歳児)	(内 容) 5歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト106p-123pを読みまともておく	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。 (必要な準備) テキスト104-105p、124pを読みまともておく	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト126p-139pを読みまともておく	
第11回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第12回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第13回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより・園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ。 (必要な準備) 園行事を振り返ってみる。	

授 業 名	保育内容・人間関係 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	浅田 瞳・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないのかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的な知識を説明できる。 2) 人間関係の発達過程を知り、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするために、保育者は何をすればよいのか、その役割と課題について説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社 『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』							
参 考 書	授業中に提示する。							
留 意 事 項	アクティブラーニングの要素を組込んだグループワークやワークショップ形式の授業を取り入れていくため、自分自身が人とかかわることを意識して積極的に授業に参加すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第 1 回目の授業で発表する							

授 業 名		保育内容・人間関係 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る (必要な準備) テキストpp.10-13を読むこと	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキストpp.28-29を読むこと	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容・注意事項について学ぶ (必要な準備) テキストpp.30-31を読むこと	
第4回	人とかかわる力の発達1 (0歳児)	(内 容) 0歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.34-51を読むこと	
第5回	人とかかわる力の発達2 (1~2歳児)	(内 容) 1~2歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.52-69を読むこと	
第6回	人とかかわる力の発達3 (3歳児)	(内 容) 3歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.70-87を読むこと	
第7回	人とかかわる力の発達4 (4歳児)	(内 容) 4歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.88-103を読むこと	
第8回	人とかかわる力の発達5 (5歳児)	(内 容) 5歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.106-123を読むこと	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個と集団の育ちの違いを理解する (必要な準備) テキストpp.104-105、p.124を読むこと	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ (必要な準備) テキストpp.126-139を読むこと	
第11回	人とのかかわりを実践する1	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第12回	人とのかかわりを実践する2	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第13回	人とのかかわりを実践する3	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく。	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する (必要な準備) 身近な規範や道徳に関する事例記事やインターネット記事を持ってくる	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより、園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ (必要な準備) これまで自分が体験した園行事について発表できるようにすること	

授 業 名	保育内容・環境 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春・秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf、yg～yl		
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心をもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心をもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて発表できる。 3) 環境を踏まえた活動指導案を作成・実践できる。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編 『生活事例からはじめる保育内容環境』(青踏社)						
参 考 書	文部科学省 『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省 『保育所保育指針』(フレーベル館)						
留 意 事 項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。						

授 業 名		保育内容・環境 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5	
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方	(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44	
第3回	子どもの環境と保育者	(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い	
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく	
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」	(内 容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第6回	園外活動によって育つもの	(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第7回	季節による保育活動	(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第8回	身近な動物と保育活動	(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども	(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第12回	領域「環境」指導上の問題点	(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく	
第13回	領域「環境」の留意事項	(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく	
第14回	領域「環境」における保育者の役割	(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく	

授業名	保育内容・言葉 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Language			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	遠藤 純			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～y 			
授業の概要	ことばと思考の関係について考えながら、乳幼児期のことばの発達をおさえて、ことばを育むことばがけ、あそび、児童文化財について考察する。							
学習成果到達目標	1) ことばを育むことの意味を知り、そのための手だてを習得する。 2) ことばと思考との関わりを理解し、子どもと言葉の関係について深く知る。 3) ことばをはぐくむ児童文化について理解を深め、その歴史や現状、特徴を理解する。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		保育内容・言葉 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼児教育におけることばの教育の意味	(内 容) 授業の目的と内容について解説する。 (必要な準備)	
第2回	ことばとは何か	(内 容) ことばとは何か (必要な準備) ことばと思考の関係について調べておく。	
第3回	乳幼児期のことばの発達 1	(内 容) 0, 1, 2 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どもの発したことばを振り返っておく。	
第4回	乳幼児期のことばの発達 2	(内 容) 3, 4, 5 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どものことばを振り返っておく。	
第5回	ことばが育つ環境と保育者の役割 聞くこと・話すことの指導	(内 容) 保育者のことばがけについて (必要な準備) 実習で子どもの対して発した保育者としてのことばについて振り返っておく。	
第6回	ことばが育つ環境と保育者の役割 ことばの発達と障がい	(内 容) 子どものことばの発達と障がいのある子どもへの指導について (必要な準備) ことばに発達のある子どもへの関わりについて考えをまとめておく。	
第7回	ことばが育つ環境と保育者の役割 保育者と園の役割	(内 容) 保育者と保護者、園の役割について (必要な準備) 子どもへの関わり方について、三者それぞれの役割について考えをまとめておく。	
第8回	ことばを育む保育教材 1	(内 容) 絵本とは何か 1 (必要な準備) 絵本の基本的な読み方について考えておく。	
第9回	ことばを育む保育教材 2	(内 容) 絵本とは何か 2 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。	
第10回	ことばを育む保育教材 3	(内 容) 童話、お話の歴史 (必要な準備) 童話とお話の違いについて調べておく。	
第11回	ことばを育む保育教材 4	(内 容) 児童文学の歴史 (必要な準備) 子どもの文学の歴史について調べておく。	
第12回	ことばを育む保育教材 5	(内 容) 紙芝居 (必要な準備) 紙芝居の特徴について考えておく。	
第13回	ことばを育む保育教材 6	(内 容) パネルシアター (必要な準備) パネルシアターの特徴について考えておく。	
第14回	文字指導	(内 容) 文字指導の内容と方法について (必要な準備) 文字指導の方法について考えておく。	
第15回	授業のまとめ	(内 容) 授業全体を通しての質疑応答 (必要な準備)	

授業名	保育内容・表現 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・服部 正志			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～yl			
授業の概要	感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって体験を記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法についての知識を深める。 2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさ、豊かさを実感する。 3) お互いの個性を理解し、協力しながら活動する力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使います)							
参考書	使用しない。							
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。 造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。							

授 業 名		保育内容・表現 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 「表現」領域のねらいとその内容を知る (必要な準備) テキスト35から37項を読んでおく(30分程度)
第2回	教室全体を使って落書きする	(内 容) 身体スケールを超えた空間を感じ表現する (必要な準備) テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	(内 容) 手に描く (必要な準備) 手の動きを観察しておく(30分程度)
第4回	大きなこいのぼりをつくる	(内 容) 身近な素材(新聞紙等)による集団での造形 季節の行事に関心を持つ (必要な準備) テキスト137から138項に目を読んでおく(30分程度)
第5回	クモの巣をつくる	(内 容) 身近な素材(ロープ、紐等)による空間造形 (必要な準備) テキスト119から120項に目を読んでおく(30分程度)
第6回	ケント紙で高さ比べ	(内 容) グループで背の高い構築物を作る (必要な準備) 造形の動機付けについて考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第7回	個性的な帽子をつくる	(内 容) 和紙、新聞紙による変身遊び (必要な準備) いろいろな帽子の作り方について調べる テキスト135項に目を読んでおく(30分程度)
第8回	リレー童話をつくる	(内 容) グループで創作童話を作る (必要な準備) 頭を柔軟にしておく(30分程度)
第9回	リレー童話の音読	(内 容) リレー童話を発表 (必要な準備) 童話の読み方を練習しておく テキスト94から95項に目を読んでおく(30分程度)
第10回	新聞紙で造形する	(内 容) テーマを決定する力を養う (必要な準備) コミュニケーション力を高めておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第11回	折りたたみシアターをつくる	(内 容) 折りたたみシアターの制作 (必要な準備) テーマやアイデアを考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第12回	折りたたみシアターの発表	(内 容) 折りたたみシアターを発表する (必要な準備) 模擬保育の場を想定しておく テキスト98から101項に目を読んでおく(30分程度)
第13回	季節の絵・「夏」	(内 容) 夏の子どもの生活を描く (必要な準備) 壁面制作について理解する(30分程度)
第14回	季節の絵・「秋」	(内 容) 秋の子どもの遊びを描く (必要な準備) 就職活動における造形課題について知る(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 授業での演習を復習、考察しておく(30分程度)

授 業 名	保育内容・表現 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Child Care : Expressions			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	小林 志保			対 象 学 生	幼児教育2ya～yc、yd～yf			
授業の概要	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。</p> <p>2) 保育実践に関する知識を理解し、指導のための基礎技能を習得し、自身の表現力や感性を養い、子どもが主体的に表現することを楽しむための働きかけについて学ぶ。</p> <p>3) 様々な身体表現の実習を通して、リズムによって動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現したり、演じたりする楽しさを学ぶ。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。</p> <p>2) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそびの指導・援助ができるようになる。</p> <p>3) 子どもの発育・発達に応じた身体表現活動の展開ができるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	必要に応じてプリントを配布する							
参 考 書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだで感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社							
留 意 事 項	積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		保育内容・表現 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容について	(内 容)	領域「表現」について学ぶ (必要な準備) 領域「表現」を読んでおく
第2回	心と体を動かすふれあいあそび	(内 容)	心と体をはぐくむふれあいあそびを学ぶ (必要な準備) 自分が小さいころにしていた動きやあそびなどを思い出しておく
第3回	心と体を巧みに動かす表現	(内 容)	体を操る・動かす、基本動作を学ぶ (必要な準備) 筋肉・骨格・神経系などの基礎知識を調べる
第4回	幼児体操とリズムあそび	(内 容)	幼児体操と種々のリズムあそびを学ぶ (必要な準備) リズムあそびについて調べる
第5回	リズムダンスの導入方法	(内 容)	種々のリズムあそびの導入方法を学ぶ (必要な準備) リズムあそびの工夫について調べる
第6回	リズムダンスの展開方法	(内 容)	種々のリズムあそびの展開方法を学ぶ (必要な準備) いろいろな工夫を考える
第7回	フォークダンス実習	(内 容)	子ども向けの楽しく簡単なフォークダンスを学ぶ (必要な準備) フォークダンスの背景、歴史、特徴などを調べる
第8回	チアダンス実習	(内 容)	チアダンスの基本を学ぶ。手具の活用方法を学ぶ。 (必要な準備) 表現としてのチアダンスについて考える
第9回	チアリーディング実習	(内 容)	チアリーディングの基本を学ぶ (必要な準備) チアダンスやチアリーディングを観る
第10回	組体操の導入方法	(内 容)	幼児のための組体操の基本を学ぶ (必要な準備) 組体操を観る
第11回	リズムダンス創作 創作に向けたねらいの確認	(内 容)	テーマに合った動きの工夫、楽しくなる工夫を学ぶ グループ編成 をする (必要な準備) 作品に合う音楽・効果音、小物を探しておく
第12回	リズムダンス創作 いろいろな工夫	(内 容)	様々な意見を出し合い、グループで考えて振りをつける (必要な準備) いろいろな工夫を考える(高低、強弱、方向)
第13回	リズムダンス創作 テーマを表現する	(内 容)	グループ練習を行い、仕上げる (必要な準備) テーマが表現されているか確認する
第14回	創作作品発表	(内 容)	創作した作品を発表する (必要な準備) 他人の創作を観て学ぶ
第15回	「表現あそび」についてのまとめ	(内 容)	授業を振り返り、表現あそびについて考える (必要な準備) 授業内容を振り返り、学んだ事を整理する

授業名	保育内容・表現 c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 満佐子			対象学生	幼児教育2yg~yi、2yj~yl		
授業の概要	保育現場で行われる器楽合奏について知り、打楽器の奏法を習得する。リズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさを、演習を通して学ぶ。						
学習成果到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。						
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	最新保育講座11 保育内容「表現」平田智久・小林紀子・砂上史子 編 ミネルヴァ書房						
参考書	『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社						
留意事項	合奏やアンサンブルなど、練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		保育内容・表現 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・評価の方法などを説明 (必要な準備) テキスト領域「表現」を読む	
第2回	表現遊び：幼児と歌あそび	(内 容) 手あそび 指あそび (必要な準備) 知っている手遊びが正確にできるようにする	
第3回	表現遊び：手あそび歌の創作	(内 容) 手あそび 指あそびの動きを考えよう (必要な準備) シートの記入	
第4回	表現遊び：発表会	(内 容) オリジナル手あそび歌の発表 (必要な準備) シートの仕上げ	
第5回	器楽合奏：奏法について	(内 容) 幼児向けの打楽器の奏法を知ろう (必要な準備) 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方を覚える	
第6回	器楽合奏：楽器のふりわけ	(内 容) 担当楽器を決めて演奏 (必要な準備) 打楽器の名称を覚え、奏法を習得する	
第7回	器楽合奏：音のバランス	(内 容) 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう (必要な準備) 自分のパートを練習する	
第8回	器楽合奏：曲想の表現	(内 容) 音楽の構成を考えて表現しよう (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第9回	小編成アンサンブル：小グループによる選曲	(内 容) 曲の選択：グループ分け (必要な準備) 自分のパートを理解する	
第10回	小編成アンサンブル：奏法の確認	(内 容) 創作活動 (必要な準備) スコア楽譜を正しく読み取る	
第11回	小編成アンサンブル：発表会	(内 容) 練習・仕上げ (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第12回	リズム表現：いろいろなステップ	(内 容) テーマに合わせた音と動きを考えよう (必要な準備) テキストP44 演習問題1をする	
第13回	リズム表現：ポーズのカノン	(内 容) 動きを創ってみよう (必要な準備) テキストP44 演習問題2をする	
第14回	リズム表現：速さとリズム	(内 容) 音を聞いて動いてみよう (必要な準備) テキストP79 演習問題2をする	
第15回	リズム表現：まとめ	(内 容) テーマに合わせて動いてみよう (必要な準備) テキストP144 演習問題1をする	

授業名	教育方法の研究 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Method Research			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	幼稚園教育にふさわしい教育方法について考える。幼児期に遊びや生活を通して心身の調和のとれた発達の基盤を培うことができるよう保育を計画できる能力養う。授業では、指導計画の要点と作成方法を学ぶ、多様な幼児教育を知る、を通して、これからの幼稚園教育の方法を考え、一人ひとりの教育実践につなげる。							
学習成果到達目標	1) 幼児の生活する姿や、幼児一人一人の幼児理解を深めつつ、幼児に必要な教育方法を考えることができる。 2) 幼児が集団生活の中で喜びと充実した学びの体験をしながら発達に必要な体験が積み重なっていく教育・保育計画を立案し、実践につなげることができる。 以上の2点から学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力の習得をめざす。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	担当者が作成したプリントを適宜配付する							
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館							
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、20%が授業でのグループ学習の成果、15%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献（発言、進行促進など）。成績評価に関連して以下の三点を守ってください。毎回の授業で記入を求めるコメントカードがきちんと提出できていることが出席を意味します。授業のなかでは、制作もおこないます。のり、はさみ、色ペンなど事前に必要なものを連絡します。授業のなかで、グループワークをおこないます。他人まかせにせず、知らないメンバーとも積極的に協力すること。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：1号館3階）							

授 業 名		教育方法の研究 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「教育方法の研究」の授業の流れ	(内 容) 「教育方法の研究」の授業の内容と進め方について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでくる	
第2回	【知識】環境構成について 【実践】4月を意識した保育	(内 容) 幼児教育での環境構成の意義を学ぶ (必要な準備) 2・3月の保育実習の設定保育のふりかり	
第3回	【知識】教育課程と指導計画 【実践】5月を意識した保育	(内 容) 教育課程と指導計画の関係を学ぶ (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第4回	【知識】子どもの様子(姿)の記述 【実践】6月を意識した保育	(内 容) 指導計画の子どもの様子(姿)がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第5回	【知識】指導計画の「ねらい・内容」 【実践】7月を意識した保育	(内 容) 指導計画の「ねらい・内容」がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第6回	【知識】指導計画の環境構成 【実践】8月を意識した保育	(内 容) 指導計画の環境構成がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第7回	【知識】子どもの活動と保育者の援助 【実践】9月を意識した保育	(内 容) 子どもの活動と保育者の援助がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第8回	【知識】保育の評価 【実践】10月を意識した保育	(内 容) 保育の評価の視点を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第9回	【知識】保育実践のふりかえり 【実践】11月を意識した保育	(内 容) 6月の保育実習のなかで部分保育のふりかえりから改善点を見つける (必要な準備) 6月実習で観察してきた各幼稚園の環境構成や援助の在り方	
第10回	【知識】年間指導計画 【実践】12月を意識した保育	(内 容) 年間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第11回	【知識】月間指導計画 【実践】1月を意識した保育	(内 容) 月間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第12回	【知識】週案の計画 【実践】2月を意識した保育	(内 容) 週案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第13回	【知識】日案の計画 【実践】3月を意識した保育	(内 容) 日案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第14回	【知識】異年齢クラスの保育方法 【実践】9月実習にむけて日案の作成	(内 容) 異年齢クラスの特徴を理解し保育方法を考えることができる (必要な準備) 日案を考える上で必要な資料	
第15回	【知識】幼小連携カリキュラム 【実践】9月実習にむけて日案の発表	(内 容) 幼小連携カリキュラムについて説明できる 9月実習にむけて日案を完成させ、自己評価、相互評価できる (必要な準備) 日案の提出	

授 業 名	保育相談 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。 2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。 3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。 2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。 3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日15:00から17:00							

授 業 名		保育相談 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容) 保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく	
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容) 保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。	
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容) 全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。	
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容) 保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容) 保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容) 対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容) 地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容) 「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関する事	(内 容) 基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。	
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容) 言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容) 子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容) 保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容) 養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容) 発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容) 虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。	

授 業 名	保育相談 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2yg～yl			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。</p> <p>2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。</p> <p>3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。</p> <p>2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。</p> <p>3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	<p>「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店</p>							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日・火曜日 12時10分から13時まで。							

授 業 名		保育相談 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容)	保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容)	保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容)	全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容)	保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容)	保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容)	対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容)	地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容)	「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関する事	(内 容)	基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容)	言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容)	子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容)	保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容)	養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容)	発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容)	虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。

授業名	子どもの食と栄養a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf			
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。							
学習成果到達目標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解できる。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得している。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	子どもの食と栄養演習第2版 小川雄二編著 建帛社							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容) 現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく(30分)	
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容) 食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストのp53-60を読んでおくこと。(30分)	
第3回	三大栄養素について	(内 容) 糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp11-16を読んでおくこと。(60分)	
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容) ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp16-22を読んでおくこと。(60分)	
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容) 消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp53-54,p60-70を読んでおくこと。(60分)	
第6回	一日の食事の考え方,バランスのとれた献立	(内 容) 食事摂取基準、食品の分類、食の安全、 献立について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp22-40を読んでおくこと。(60分)	
第7回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容) 授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp71-92を読んでおくこと。(60分)	
第8回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容) 離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp92-114を読んでおくこと。(60分)	
第9回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp114-138を読んでおくこと。(60分)	
第10回	学童期の栄養	(内 容) 学童期の食生活の特徴と注意点 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp139-143を読んでおくこと。(60分)	
第11回	食育の基本と内容	(内 容) 食育について、保育所における食育の実際について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp151-155を読んでおくこと。(60分)	
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容) 食育計画を考える (必要な準備) テキストのp156-164を読み、食育計画について考えておく。(60分)	
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の復習を行う。テキストのp172-182を読んでおくこと。(60分)	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp188-198を読んでおくこと。(60分)	
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病、障害のある子	(内 容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストの183-187を読んでおくこと。(60分)	

授業名	子どもの食と栄養 c			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	坂本 裕子			対象学生	幼児教育2yg~yi			
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	子どもの食と栄養演習(第3版) 小川雄二編著 建帛社							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 c	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容)	現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第3回	三大栄養素について	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容)	ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容)	消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第6回	一日の食事の考え方	(内 容)	食事摂取基準、食品の分類、食の安全について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第7回	バランスのとれた献立	(内 容)	献立のたて方、おいしさに関わる因子について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第8回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容)	授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第9回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育とは、保育所における食育 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。

授業名	子どもの食と栄養 d			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	猿渡 綾子			対象学生	幼児教育2yj～yl			
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。							
学習成果到達目標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	最新子どもの食と栄養第8版第3刷 飯塚美和子編集 学建書院							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの健康と食生活の意義	(内 容)	子どもの食生活の特徴と現状 世界の子どもの現状 (必要な準備) 教科書P2～10を事前に読んでおく(30分)
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	子どもの発育・発達の特徴 栄養状態の評価 (必要な準備) 教科書P66～76を事前に読んでおく(30分)
第3回	栄養に関する基本的知識(炭水化物・たんぱく質・脂質)	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の栄養学的特徴と消化・吸収について 食物繊維の役割について (必要な準備) 教科書P16～33、46～50を事前に読んでおく(60分)
第4回	栄養に関する基本的知識(ビタミン)	(内 容)	脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と機能について (必要な準備) 教科書P38～43を事前に読んでおく(30分)
第5回	栄養に関する基本的知識(ミネラル、水)	(内 容)	ミネラルの種類と機能について 水の種類と機能について (必要な準備) 教科書P34～38、43～45を事前に読んでおく(30分)
第6回	子どもの食生活(演習を含む)	(内 容)	食生活指針、食事摂取基準、食品の分類、食事バランスガイドについて 献立作成 (必要な準備) 教科書P51～64を事前に読んでおく(30分)
第7回	胎児期(妊娠期)の栄養	(内 容)	胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (必要な準備) 食事バランスガイド(3日分)を記入してくる 教科書P77～87を事前に読んでおく(60分)
第8回	乳児期の栄養:乳汁(実習を含む)	(内 容)	乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (必要な準備) 教科書P88～109を事前に読んでおく(30分)
第9回	乳児期の栄養:離乳(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (必要な準備) スプーン、タオル(小)を持参すること 教科書P110～119を事前に読んでおく(30分)
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 教科書P122～135を事前に読んでおく(30分)
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育基本法、食育推進計画 食育の内容、計画、および評価 (必要な準備) 教科書P168～180を事前に読んでおく(30分)
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える 食育の体験 食に関するお便りの作成 (必要な準備) 前回の講義を踏まえ、食に関するお便りを作成するためのプランを考えておく。必要な資料、筆記具等があれば持参する。(30分)
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の講義の課題を完成させ提出する 教科書P187～204を事前に読んでおく(30分)
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1 (食物アレルギー)	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 教科書P215～221を事前に読んでおく(30分)
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2 まとめ	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 教科書P206～215、221～230を事前に読んでおく(30分)

授業名	精神保健			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児期から高齢期まで各年代における心の健康について学ぶ。各年代別に見られる基本的な心理的特徴を理解する。その上で心理的な問題がどのように生じるかについて、主な問題の発生機序について学ぶ。心理的問題への対応や予防についても学び、精神保健の重要性について理解する。精神的な健康を維持するための方策についても考察する。							
学習成果到達目標	1) 保育者に必要な精神保健の基本的知識を習得する。 2) 心理的問題の予防について学び、メンタルヘルスの重要性を認識できる。 3) 心身の健康的な行動を増進する方法について説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	適宜プリントを配布する。							
留意事項	できるだけ事例を提示するので、自分に引き寄せて学んでほしい。 日頃から、内容を理解し、メンタルヘルスの基本知識を習得し、活用できるようにしておく。 授業は、学生の興味・関心に柔軟に対応する場合があるので、内容の順番を説明の上変更することがある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		精神保健	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目及び授業計画のガイダンス	(内 容) 精神保健の概要・授業の進め方 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	精神保健の歴史、精神保健の意義	(内 容) わが国の精神保健の流れと課題、こころの健康への基本的知識と理解 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第3回	E・H・エリクソンの理論の紹介 年代別のライフサイクル	(内 容) エリクソンのライフサイクル理論の紹介と年代別の心理的特徴を把握する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第4回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児の愛着形成の問題、情緒や行動上の問題を学び早期の関係性の重要性を理解する。 (必要な準備) 実習で経験した事例を書いてくる。(30分)	
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期の感情や社会性の育ちを理解し学童期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第6回	思春期・青年期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期の特徴と危機、アイデンティティの問題について理解を深める。青年期特有の対人不安を知りメンタルヘルスを保つ方策を知る。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第7回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 中年期に多いうつ病とその予防、うつ病への対応、バーンアウト等を学び問題解決を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第8回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 加齢による心理的变化や対象喪失について理解し老年期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第9回	ストレスとその対応	(内 容) ストレスの概念的定義、ストレス対応について学ぶ。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえりストレス対応への力を考える。(30分)	
第10回	脳科学から見たメンタルヘルス	(内 容) 脳と心と体との関係を学び脳の働きを理解する。脳の各部位の働きと心への影響について基本的知識を得る。 (必要な準備) 配布プリントを読み脳科学への理解を深める。(30分)	
第11回	食に関する問題とメンタルヘルス	(内 容) 過食、拒食など摂食障害と発症の要因、支援について学ぶ。 (必要な準備) 健康的な食生活について考えてくる。(20分)	
第12回	社会人基礎力の育成	(内 容) 社会人基礎力について知り意識的に育み、ストレスへの対応力や人間関係力を自ら育成する。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえる。(20分)	
第13回	対人援助職に見るメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職におけるメンタルヘルスを考え、バーンアウトを避ける手立てを習得する。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第14回	対象喪失の問題	(内 容) ト라우マやPTSDについて理解し、支援の方策を学ぶ。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第15回	これまでの振り返りおよび今後の課題を見出す	(内 容) 質疑応答などで、これまでの振り返りをして、要点を整理する。 (必要な準備) プリント等を読み返しておく。(60分)	

授業名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	開講学年	2回生	単位数	1単位			
英文名	Music	開講時期	春学期	必修・選択	選択			
担当者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子	対象学生	幼児教育2回生					
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どもの歌」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 「こどものうた」のレパートリーを拓げる。 2) 初見・伴奏付けの力をつける。 3) 人前で弾く、歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を養う。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参考書	使用しない。							
留意事項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いの出来る曲を増やすことが大事。							
オフィス アワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱	(内 容) 春学期授業計画・注意事項・初見 歌唱 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) 多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見 歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 (必要な準備) 「子どものうた」の練習(60分)
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見 歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第5回	春学期前半のまとめ、初見・歌唱	(内 容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 (必要な準備) 継続(120分)
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック、 歌唱指導の模範 (必要な準備) 継続(60分)
第7回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続、 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第8回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第10回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第11回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第12回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第13回	春学期後半のまとめ	(内 容) 初見 歌唱、伴奏付け (必要な準備) 継続(60分)
第14回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 幼・保就職で出題される曲を中心に (必要な準備) 伴奏付けの練習(60分)
第15回	第2回個人チェック	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (必要な準備) 個人チェックの課題曲の練習(120分)

授業名	音楽 a・b・c・d・e・f			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Music			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力。又幼稚園・保育園に就職する場合は、現場で役立つ実践的な能力を養うと同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
学習成果到達目標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を養う。 2) 現場で役立つ実践的な能力を養う。 3) 豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力)	課題発見・解決能力			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参考書	使用しない。							
留意事項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをする。							
オフィスアワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d・e・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト	
第2回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 就職試験のリハーサル (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第3回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第4回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第5回	第1回個人チェック	(内 容) 前半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲練習(60分)	
第6回	リズム変奏	(内 容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (必要な準備)	
第7回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第8回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第10回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第11回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第12回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第13回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第14回	合奏	(内 容) 合奏指導法 (必要な準備) 指揮の練習をしておく(15分)	
第15回	第2回個人チェック	(内 容) 後半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲の練習(120分)	

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1)ブルグミュラー・ソナチネを1曲でも多く弾くことができるようになる。 2)楽譜を正確に読むことができる。 3)ピアノの演奏技術を高めることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (演奏技術)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (詳細な読譜力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ等, 受講生個々の進度に合わせて, 随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	履修条件: 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)高科(担当授業終了後に実施) * 高科のレッスンを受ける学生は, 坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備) ・1回生の最後にレッスンを受けた曲の入っている楽譜集(ブルグミュラーもしくはソナチネ)を持参する。 ・1回生の最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	ピアノ実技（個人指導） a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。教則本だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲を練習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタなど、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 読譜力及びピアノの演奏技術をさらに高めることができる。 3) 幼稚園・保育所の就職試験に必要な、弾き歌いの技術・初見演奏能力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (初見力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	幼稚園・保育所の就職試験という緊張する場でも、ある程度の実力を発揮できるよう、普段からしっかり練習をして、余裕を持って弾けるようにする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）高科（担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい）							

授 業 名	ピアノ実技（個人指導） a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備) ・最後にレッスンを受けた曲の入った楽譜集（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）を持参する。最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。 ・幼稚園・保育所の就職試験の受験曲がある場合は持参する。
第2回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第3回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第4回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第5回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第6回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第7回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第8回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第9回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第10回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第11回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第12回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第13回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第14回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第15回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）

授業名	国語 a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Japanese			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	言葉とはどのようなものであるか、日本語とはどのような言語であるか、この二つを十分理解してもらい、教育に必要な国語能力を洗練する。併せて、昔話への理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 国語について基本的な説明ができる。 2) 昔話について語ることができる。 3) 方言について基本的な知識を持ち、地元の方言につてある程度語ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (真摯な取り組み姿勢	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィス アワー	月曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		国語 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業内容の概説 (必要な準備) シラバスを読んでくる。	
第2回	言葉とは・記号論	(内 容) 言葉と他の記号の違い (必要な準備) 言葉によるコミュニケーションについて考えてくる。	
第3回	「人」の読み方・訓読みと考察課題設定	(内 容) 単語の中の「人」の読み方 (必要な準備) 「人」の付く単語を書き出してくる。	
第4回	「人」の読み方・音読み	(内 容) グループ討議の後レポート作成 (必要な準備) 課題を取りまとめ考察してくる。	
第5回	方言・消えゆく方言と調査課題設定	(内 容) 消えゆく関西弁 (必要な準備) 祖父母等の方言を調査してくる。	
第6回	方言・我が家の場合	(内 容) 各自の地元の方言についてグループ討議 (必要な準備) 調査結果を整理してくる。	
第7回	方言・比較検討	(内 容) 調査結果の地域比較でレポート作成 (必要な準備) 前回討議からの考察をしてくる。	
第8回	五十音図	(内 容) 国語学の基本たる五十音図の講義 (必要な準備) 五十音の発音を表にしてくる。	
第9回	語源探求・事例と考察課題設定	(内 容) 語源について事例紹介と課題設定 (必要な準備) 指示された語を国語辞書で調べてくる。	
第10回	語源探求・考察結果のグループ別発表	(内 容) 調べた語源をグループで説明・共有 (必要な準備) 指示された語の語源を調査してくる。	
第11回	「浦島太郎」の歴史と昔話課題設定	(内 容) 浦島伝説の変遷の説明と昔話課題設定 (必要な準備) 巖谷小波について調べしてくる。	
第12回	地元の昔話の改作	(内 容) 昔話を今風に作り替える (必要な準備) 地元の昔話を選択してくる。	
第13回	絵本・絵巻	(内 容) 物語の享受方法と絵解き (必要な準備) 奈良絵本の画像を見てくる。	
第14回	昔話改作指導	(内 容) 改作個人指導 オフィスアワー併用 (必要な準備) 昔話を改作してくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答 (必要な準備) 質問の用意	

授 業 名	リズム			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Rhythm			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	心も体も開放させ様々なリズムに合わせて体を動かし、リズムによって動く楽しさを体験する。子どもを生き生きさせる重要な活動である事を知る。創造性豊かな保育者として、子どもの発達に応じたリズムダンスの指導と援助が出来るように学習する。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発育・発達を考えて、楽しいリズムダンスを子ども達に提供出来る指導者になる。 2) 自分でリズムダンスを創作できる能力を身に付ける。 3) リズムよく動ける体とイメージしたものを即興で表現できる体をつくる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	「リズムと動き」エルザ・フィンドレイ著 (全音楽譜出版社)							
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時のことを考えて、取り組んでもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		リズム	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	動ける体づくり(1)リズムに反応して動く	(内 容)	リズムに合わせて心と体を開放させて動く (必要な準備) ノートを作成(授業内容をまとめる)
第2回	動ける体づくり(2)速い曲に反応して動く	(内 容)	リズムエクササイズ(リズムの変化を体で感じる) (必要な準備) 前回の行った動きのリズムを思い出す
第3回	動きの変化	(内 容)	呼吸と動作について知る(呼吸の仕方できが変化することを体験する) (必要な準備) 復習をして身体反応をよくしておく。
第4回	リズム遊び(1)音符の体得	(内 容)	手や足で音符を表現する。発令された音符を素早く反応して身体で表現する。 (必要な準備) 呼吸と動きについて体験した動作の復習
第5回	リズム遊び(2)異なる音符の表現	(内 容)	いろんなリズムを体で感じ表現する (必要な準備) 前回の授業で行った復習をする
第6回	リズムパターンの体得	(内 容)	いろんなリズムパターンを行う 2人組でリズムパターンを行う(カノンで行う) (必要な準備) 前回のリズムパターンを体得しておく
第7回	音階とステップ	(内 容)	音階を体で表現しながら基本ステップを行う (必要な準備) 基本ステップの復習をしておく
第8回	子どものリズムエクササイズ	(内 容)	子どもが楽しむリズムエクササイズを行い動く。 (必要な準備) 動きを考えておく
第9回	子どものリズムエクササイズを作る	(内 容)	各自が考えた動きをつなげる 完成させる (必要な準備) 各自の動きを仕上げておく
第10回	リズムダンス	(内 容)	幼児のダンスを楽しく表現豊かに動いてみよう (必要な準備) 知っているダンスがあれば書き出しておく
第11回	創作	(内 容)	グループでリズムダンスを創作する (必要な準備) 曲をみつけて準備をしておく
第12回	創作	(内 容)	曲のリズムと動きがうまく合っているか考える (必要な準備) グループの人と話し合いをする
第13回	創作	(内 容)	リズムダンスの完成 気になるところの修正 (必要な準備) グループでまとめておく
第14回	発表	(内 容)	グループごと発表を行う 各自が評価する (必要な準備) 発表が出来るようにグループで作品の確認
第15回	まとめ	(内 容)	全体の授業の振り返り (必要な準備) 子どもの前で出来るダンスを用意しておく

授業名	子どもの造形			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Children's Art			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	「図画工作 ・ 」 「保育内容・表現 」などで学んだ内容をもとに、子どもの造形活動や造形表現についてさらに深く理解し、実践的に指導支援できる力を身につける。							
学習成果到達目標	1) 技法、材料による多様な造形的表現について研究する。 2) 子どもの意欲や興味関心に寄り添うテーマと課題の設定について考える。 3) 子どもの個性や発達に即した指導法・支援の計画が立てられる力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	プリントを配布する							
参考書	図書館にあるものを活用する 花篤實・岡田敬吾 編著 『新造形表現 実技編』(三晃書房) 1回生春学期に購入したもの							
留意事項	内容等については受講生の人数、学生の求める学習成果によって変更することがある。							
オフィス アワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		子どもの造形	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 導入 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第2回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) フィンガーペインティングによる表現 (必要な準備) 指絵の具について復習しておく(30分程度)	
第3回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) 市販の指絵の具と土粘土 (必要な準備) 何が指絵の具になるか考えておく(30分程度)	
第4回	技法研究・ローラーで遊ぶ	(内 容) ローラー遊びからの展開 (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第5回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 落ち葉や自然素材による表現 (必要な準備) つくりたい形を考えておく(30分程度)	
第6回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 自然素材による造形 (必要な準備) 季節感とテーマの設定について考える(30分程度)	
第7回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルについて学ぶ (必要な準備) つくりたい食べ物について調べておく(30分程度)	
第8回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルの彩色 (必要な準備) 彩色できるように作品を完成させて行く	
第9回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) テーマの設定(動く、飾る、変身) (必要な準備) 紙コップと紙皿を準備しておく(30分程度)	
第10回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) リサイクル素材について学ぶ (必要な準備) アイデアを練っておく(30分程度)	
第11回	材料研究・ストローをつかった造形	(内 容) ストローによる動くおもちゃ (必要な準備) 動くおもちゃについて調べておく(30分程度)	
第12回	頭足人を描く	(内 容) 描画の発達段階の理解 (必要な準備) 配布資料を読む(30分程度)	
第13回	レントゲン画を描く	(内 容) レントゲン画の理解 (必要な準備) 配布資料を読んでおく(30分程度)	
第14回	造形のための環境について	(内 容) 素材、道具の管理について学ぶ (必要な準備) 物的環境の整備について考えておく(30分程度)	
第15回	まとめ・記録のファイリング	(内 容) 授業全体の総括 (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授 業 名	介護概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Nursing Care			開 講 時 期	春学期	必 修 ・ 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	介護2回生			
授業の概要	用語の整理を行い、その後、介護福祉士養成における本講の位置づけを確認し、介護の意義やその役割ならびに専門性について学ぶ。次いで、介護サービスの利用者を生活者の視点から総合的に捉え、その尊厳の保持と自立支援に対する介護の専門性を学生個々が考え、理解できるよう演習を交えながら進める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 介護福祉に関わる事柄に関心を持ち、基本的知識を習得する。 2) 介護福祉士法誕生の背景及び改正ポイントを理解し、介護福祉士の定義と義務を理解する。 3) 支援者としての自己の専門性を育てることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	川井太加子、野中ますみ「介護の基本・介護過程」、日本介護福祉士養成施設協会編							
参 考 書	随時紹介するが、「社会福祉小六法」「介護福祉用語辞典」は必携。							
留 意 事 項	講義を中心に授業を行います。演習での発表や課題レポートの作成を指示します。テキスト以外に資料配布や視聴覚教材を使用します。介護福祉士を目指すみなさんにとって大切な科目のひとつです。欠席や遅刻のないように積極的な授業参加を期待します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します							

授 業 名		介 護 概 論
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	介護概論を学ぶ意義について	(内 容) 講義内容や成績評価の方法、受講上の留意点等について説明 介護に関わる用語について整理する (必要な準備) テキスト・ノート・参考書等の準備
第2回	介護と介護福祉士の歴史	(内 容) 介護及び介護福祉士の歴史を知る (必要な準備) 介護の歴史について年表をもとに調べてくること テキスト9～10
第3回	介護福祉士の法的根拠	(内 容) 介護福祉士の定義と義務、業務独占について理解する 介護福祉士養成制度と登録状況を知る (必要な準備) 社会福祉士及び介護福祉士法を調べてくること テキスト51～53を読んでくること
第4回	介護の理念	(内 容) 尊厳を支える介護の意味を「自立」「QOL」の意味とともに理解する (必要な準備) テキスト29～47まで読んでくること
第5回	介護サービス提供の場の特性 1 居宅	(内 容) 居宅介護サービスの特性を理解する (三本柱) (必要な準備) テキスト55～56を読んでくること
第6回	介護サービス提供の場の特性 2 地域	(内 容) 地域や社会の役割やあり方について理解する 社会における介護の課題を明確にする (必要な準備) テキスト54～55を読んでくること
第7回	介護サービス提供の場の特性 3 福祉施設	(内 容) 介護老人福祉施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方について理解する (必要な準備) 介護老人福祉施設のパフレットを何部か用意しておくこと
第8回	介護サービス提供の場の特性 4 保健施設	(内 容) 介護老人保健施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方について理解する (必要な準備) 介護老人保健施設のパフレットを何部か用意しておくこと
第9回	介護サービス提供の場の特性 5 医療施設	(内 容) 医療型障害児入所施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方や特性について理解する (必要な準備) 配布した資料を予習しておくこと
第10回	介護サービス提供の場の特性 6 生活保護施設	(内 容) 救護施設の実在意義を理解し、利用者の住まい方や特性を理解する (必要な準備) 配布した資料を予習しておくこと
第11回	介護問題の背景	(内 容) 居宅、施設、社会における介護問題を把握する (必要な準備) 新聞記事やメディアの資料から介護問題の背景について書かれている箇所を抜き出してくること
第12回	介護問題の理解	(内 容) 居宅、施設、社会における介護問題について発表する (必要な準備) 課題レポートの作成と提出
第13回	専門職能団体の活動	(内 容) 専門職集団としての役割、機能を理解する 倫理要領を理解する (必要な準備) テキスト18～28を読んでくること
第14回	多職種における連携	(内 容) 介護職と関係深い多職種の理解を行う 連携場面を考え、介護福祉士の専門性を理解する (必要な準備) テキスト60～67を読んでくること
第15回	まとめ	(内 容) 介護における社会的な課題を1つとりあげまとめる (必要な準備) 課題発表した内容をまとめてくること

授業名	介護概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Nursing Care			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	高岡 理恵			対象学生	介護2回生			
授業の概要	<p>介護概論は、介護の基盤となる教科である。 利用者を「生活する人」として受け止め、介護の思考過程を用い、その人の意向や生き方、生活習慣などを鑑み、その人らしさを大切にすることを学ぶ。さらに、介護従事者の侵しやすいリスクを知り、利用者及び自分自身のリスク管理を学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 介護の思考過程が展開できる 2) ライフスタイルから要介護者の生きてきた時代背景が理解できる 3) 介護事故につながる要因が理解できる 4) リスクマネジメントを理解できる</p>							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	川井太加子・野中ますみ、「介護の基本・介護過程」、日本介護福祉士養成施設協会							
参考書	随時 指示する。							
留意事項	介護の思考過程を学ぶためにも、テキストを読み予習をしておいてください。授業で配布した資料は毎回持参してください。							
オフィス アワー	研究室に掲示します							

授 業 名		学 習 内 容 ・ 課 題
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス 生活への視点	(内 容) 介護概論 の進めかた 生活とくらしの違いについて学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	人間の多様性・複雑性の理解 生活史や価値観	(内 容) 介護の思考過程を理解する 利用者主体の考え方をイメージする (必要な準備) テキスト p125～138を読んでおく
第3回	利用者理解 情報収集とアセスメント	(内 容) 情報収集の方法を身に着ける アセスメントの意味を理解する (必要な準備) 前回出した宿題をしておくこと
第4回	利用者理解 分析	(内 容) 人間科学及び自然科学の意味を理解する その方法を用い、分析する (必要な準備) テキスト p140～154を読んでおく
第5回	利用者理解 ニーズと目標	(内 容) ニーズの意味を理解する マズローの欲求段階を理解する (必要な準備) テキスト p155～154160を読んでおく
第6回	利用者理解 計画	(内 容) 個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開方法を考える (必要な準備) 前回出した宿題をしておくこと
第7回	利用者理解 評価の方法	(内 容) 評価基準と規準を理解する (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく
第8回	利用者理解 事例研究 1 分析 ニーズ設定	(内 容) 事例を通して科学的根拠をもとに課題を探す 事例を人間科学で読み解きながらその人理解を行う (必要な準備) 配布した事例に目をとめておく
第9回	利用者理解 事例研究 2 計画	(内 容) 課題から目標設定を行い計画を策定する その人に一番必要とされるニーズに対し計画を策定する (必要な準備)
第10回	利用者理解 事例研究 2 発表	(内 容) 科学的根拠からニーズ、目標設定、計画という一連の過程に対して 発表する (必要な準備) 発表できるよう資料を作成しておく 発表原稿を整えておく
第11回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 リスクとリスクマネジメント	(内 容) リスクとリスクマネジメントの意味を理解する 介護事故について調べる (必要な準備) テキスト p114～p116
第12回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 介護施設でおきやすい事故事例	(内 容) 介護事故が起きる原因と予防・対策について理解する (必要な準備) テキスト p117～p120を読んでおく 配布した資料に目を通しておく
第13回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 高齢者虐待の現状と課題	(内 容) 高齢者虐待の類型と現状を理解する 高齢者虐待の現状を新聞記事を使って知る (必要な準備) 高齢者虐待について新聞やメディアで取り扱われているものを収集 しておく
第14回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 感情労働と適応機制	(内 容) 感情労働である介護と起こりやすいリスクとの関連について学ぶ ストレスの意味について学ぶ ストレスをコントロールする方法の一つである適応機制について学 ぶ (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく
第15回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 記録の必要性	(内 容) 記録の意義と必要性について学ぶ 記録の書き方の留意について学ぶ (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく 総合基礎演習でまとめた記録をもってくる

授業名	高齢者福祉			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Welfare for Elderly People			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	介護2回生			
授業の概要	現代社会において高齢者のおかれている立場や、高齢期に特有のさまざまな障害や疾病について諸資料を参考に理解を深める。次いで、高齢者に関する法律や制度について歴史的な変遷過程を整理し、社会福祉問題となっている認知症や老老介護などの諸問題を取り上げながら、どのような対策がとられているのか、今後必要とされる多職種・機関との連携について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 高齢期特有の心身の変化について基礎的な知識を習得できる。 2) 高齢者福祉に関する制度の歴史的な展開過程を理解できる。 3) 高齢社会の現状と課題について理解し、説明できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜紹介する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	時事問題（新聞、福祉系機関誌ならびに雑誌等）に目を向けること。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授 業 名		高 齢 者 福 祉	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	はじめに ～「老い」への理解に向けて～	(内 容) 講義の進め方や評価方法の説明ならびに参考文献の紹介を行い、「老い」ということについて意見を出し合う。 (必要な準備) 「老い」への理解について考えておく。(30分)	
第2回	老人をめぐる語義について	(内 容) 高齢者の呼称から考える人権について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)	
第3回	少子高齢社会の現状と課題について	(内 容) 人口高齢化の問題と少子化の問題がもたらす社会への影響について考える。 (必要な準備) 『国民の福祉と介護の動向』を読む。(45分)	
第4回	高齢者の社会的理解について	(内 容) 高齢期の生活について事例に基づき考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(45分)	
第5回	社会的弱者としての高齢者について	(内 容) 高齢者の安全と差別について考える。 (必要な準備) 「災害弱者」について調べる。(45分)	
第6回	高齢者の身体的・精神的理解について	(内 容) 高齢期の心身機能の低下とその特徴について理解を深めていく。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)	
第7回	特定疾病と難病について	(内 容) 高齢期特有の疾病の呼称ならびに病状について理解を深めていく。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)	
第8回	高齢者の社会生活における諸問題について	(内 容) 高齢期における社会生活上の諸問題について考える。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)	
第9回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～高度経済成長期に至るまで～	(内 容) 戦後より老人福祉法制定までの高齢者福祉制度について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第10回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～老人福祉法制定からゴールドプランまで～	(内 容) 老人福祉法の成立からゴールドプランまでを考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第11回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～1990年代の制度再編と介護保険法制定まで～	(内 容) 介護保険法の制定とその背景について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第12回	介護保険制度の基本的枠組みについて	(内 容) 制度の目的・理念や最近の動向について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第13回	介護保険制度の仕組みとサービスの質について	(内 容) 要介護認定の仕組みと地域支援事業の意義について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第14回	介護保険サービスの体系について	(内 容) 居宅サービスと施設サービスの種類と諸課題について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)	
第15回	まとめにかえて ～「老い」と「楽」は一体なのか?～	(内 容) 高齢期を最期まで生ききることを実現できる社会とはどんな社会なのかを考える。 (必要な準備) すでに配布している資料や書籍に目を通し、ディスカッションができるよう準備しておく。(60分)	

授業名	社会の理解			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Understanding of Handicaps			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	介護2回生			
授業の概要	わたしたちの日々の生活を支えている社会構造を知ること、家族や地域を単位とする社会において、一人ひとりがそれぞれの役割を果たすことで社会が支えられ、かつ一人ひとりの生活がその社会に支えられているという仕組みを、人間の暮らしと社会との関わりについて多角的な視点で学ぶことにより、援助者としての価値観を養っていく。							
学習成果到達目標	1) 現代社会における「ゆりかご」から「はかば」までの法制度を理解できる。 2) 社会、地域、家庭を理解することができる。 3) 現代社会におけるさまざまな生活の現状を把握し、人々の相互の関係を多角的に理解することができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜紹介する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	時事問題（新聞、福祉系機関誌ならびに雑誌等）に目を向けること。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授業名	社会の理解	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～日々の生活について～	(内 容) 評価の方法、講義の進め方について説明し、その後演習形式で「生活」について考える。 (必要な準備) 自分自身の「生活」をふりかえる。(20分) 次回の課題を発表する。
第2回	現代社会における家族・家庭について	(内 容) ライフサイクル、「ゆりかごからはかばまで」について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第3回	地域社会と家族・家庭について ～地域を支える機関とその役割～	(内 容) 地域社会とは何かを定義し、それを取りまとめる機関の役割等について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第4回	地域社会と家族・家庭について ～家族・家庭が抱える諸問題～	(内 容) 家族や家庭が抱える諸問題を取り上げ、何が問題となっているのかを考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第5回	人間理解とその尊厳 ～「生きる権利」とその保障～	(内 容) 生存権や基本的人権について学び、生きることへの障害となる事象について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第6回	人間理解とその尊厳 ～「自立」と「自律」～	(内 容) 人間の多面的理解に向けて「自立」と「自律」について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第7回	人間理解とその尊厳 ～人間の尊厳について～	(内 容) 人間の尊厳について障害や難病を事例として挙げながら考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第8回	介護における自立と尊厳の保持 ～介護における自立支援と尊厳の保持～	(内 容) 介護における自立支援と尊厳の保持について考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第9回	介護における自立と尊厳の保持 ～盲・ろう・聾者へのかかわり～	(内 容) 盲・ろう・聾者への支援を通じて考える自立支援と尊厳の保持について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第10回	介護における自立と尊厳の保持 ～要介護高齢者へのかかわり～	(内 容) 要介護高齢者への支援を通じて考える自立支援と尊厳の保持について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第11回	人間関係とコミュニケーション ～関係づくりのための人間理解～	(内 容) 日常生活での人間関係と職場での人間関係をそれぞれ事例として取り上げ、コミュニケーションについて考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第12回	人間関係とコミュニケーション ～介護職支援と対人関係～	(内 容) 「自分を知る」ことからわかる対人援助の基礎について学ぶ。 演習形式を取り入れる。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第13回	人間関係とコミュニケーション ～コミュニケーションの基礎～	(内 容) コミュニケーションとは何かを考え、そこから基礎となる技法を学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第14回	介護実践にかかわる諸制度について	(内 容) 個人の権利を守る制度についてふりかえり、介護実践においてなぜ必要となるのかを考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第15回	まとめにかえて ～これからの「介護」について～	(内 容) どのような社会がこれから必要とされてくるのだろうか。社会を構成する一人ひとりの人間が、何を目的に、どう生きることが求められていくのかを考える。 (必要な準備) 今までに取り組んできた課題を読んでおく。(90分) ディスカッションができる準備をしておく。

授 業 名	障害の理解		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Understanding of Handicaps		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	介護2回生				
授業の概要	障害の基礎的知識を習得すると共に、生活支援技術と関連付けた介護の視点を学び、心理状態や家族への支援や配慮、地域における連携や協働の在り方を学習する。 フィールドワークを実施し、地域の障がい施策を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 障害のメカニズムを理解する。 2) 障害が日常生活に及ぼす様々な影響を理解できる。 3) 家族を含めた障害者の生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座「障害の理解」、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規							
参 考 書	随時紹介							
留 意 事 項	障害のある人の心身機能に関する基礎的知識を習得するため学習内容が多いので、テキストをまとめる、ノートをとる、生活支援を考える等が必要となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示する							

授 業 名		障 害 の 理 解
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の目的・進行の仕方・授業内容について (必要な準備) ノートの用意
第2回	障がい者福祉の基本理念	(内 容) ノーマライゼーションの意味を理解する インクルージョンの意味を理解する (必要な準備) 社会福祉基礎構造改革と障がい者施策をまとめてきてください
第3回	障がいに関する考え方	(内 容) 障がいの概念(I C F)の理解と、 I C I D H から I C F への変遷について学ぶ (必要な準備) テキストを読んでおくこと
第4回	認知機能の低下による障がいの理解 1 総論	(内 容) 認知機能の低下による障がいによって出現する症状を学ぶ (必要な準備) 前回授業内容の復習
第5回	認知機能の低下による障がいの理解 2 高次脳機能障害のある人の理解	(内 容) 認知機能の低下による特徴的な心理行動を学ぶ 高次脳機能障害の医学的理解を行う (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第6回	視覚障がいのある人の理解	(内 容) 視覚障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト42～50までを読んでおく
第7回	聴覚障がいのある人の理解	(内 容) 聴覚障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト51～60を読んでおく
第8回	言語障害のある人の理解	(内 容) 言語障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキストを読んでおくこと
第9回	重複障害のある人の理解	(内 容) 重複障がいの身体的心理的状況を理解する 家族支援と家族の思いについて考える (必要な準備) 配布プリントを予習する
第10回	内部障害のある人の理解	(内 容) 内部障害のある人の身体的心理的状況を理解する パウチを体験する (必要な準備) テキスト68～83まで読んでおく
第11回	知的障害のある人の理解	(内 容) 知的障害ある人の身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト124～132まで読んでおく
第12回	精神障害のある人の理解	(内 容) 精神障害ある人の身体的心理的状況を理解する (必要な準備)
第13回	難病のある人理解	(内 容) 難病の身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト167～177を読んでおく
第14回	フィールドワーク体験	(内 容) 自分の考えたテーマをもって地域にでかけ、地域の障がい施策を確認するとともに体験する (必要な準備) テーマの選定と、何をみたいのか具体的にポイントをあげてくる
第15回	地域の障がい施策と連携 フィールドワークまとめ	(内 容) 前回の体験をもとにフィールドワークのまとめを行う (必要な準備) 前回のテーマ設定をポイントをまとめる

授 業 名	介護技術		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	介護2回生				
授業の概要	<p>日常生活の基本的行為である「移動」という行為は何かしらの目的をもって行われる。その目的達成のために安全に自立にむけた支援をどのように行うのか基本的な体の動きについて学びます。 技術を行う前には、それに必要な環境整備(備品・姿勢等)を行うことにより、介護者自身の身体の安全を確保するとともに、ひいては利用者の安全を損なわないようにすることを学びます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 身体の動きを理解し、身体に負担のない介護ができる 2) 介護を行うときに、必要な環境を整備することができる 3) 移動介助を必要とする人に適切は介護技術の根拠を自分の言葉で説明できる 4) 必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を自分で考え選択できる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」、中央法規							
参 考 書	適宜、紹介します							
留 意 事 項	理論を踏まえて技術を行いますので、しっかり予習してくること。 介護実技室に入室するときには、服を着替え、髪をまとめてください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します							

授 業 名		介 護 技 術
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション 居住環境整備の意義と目的	(内 容) 物品の整理や快適な居住空間づくりを学ぶ (必要な準備) 自身の居住環境を意識して観察し発表できるようにしておくこと
第2回	安全で心地よい生活の場作り	(内 容) シーツの扱い方、シーツ交換の方法を身につける 安全で、快適な環境へのイメージが描けるよう学ぶ (必要な準備) 自身の居住空間での物品の取扱い方について発表できるようにしておくこと
第3回	身支度の意義と目的	(内 容) 衣服を着る意味を理解する 運動機能に障害のある人への身支度の介護方法を身につける (必要な準備) テキスト第2章「身支度の介護」p22～44までを読んでおく
第4回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	(内 容) 寝巻(着物)の着脱介護方法を身につける (必要な準備) テキストp45～64を読んでおく
第5回	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント と介助の技法	(内 容) 整容(ひげそり、爪切り、化粧等の人へ与える影響を学ぶ 上記の介護技術を身につける (必要な準備) テキストp65～82を読んでおく
第6回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) ボディメカクニスを理解する その機能を用いてベッド上での移乗を身につける (必要な準備) テキスト第3章「移動の介護」p98～115を読んでおく
第7回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) スライディングシートを用いた移乗を身につける (必要な準備) テキストp116～139を読んでおく
第8回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) 座位保持の姿勢、座位から車いす及びトイレへの移乗方法 スライディングボードを用いた移乗介助を身につける (必要な準備) テキストp140～163を読んでおく
第9回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) 運動機能が低下している人の介助 車いすの機能について理解する 様々な車いすの違いを知る 車いすの介護方法を身につける (必要な準備) テキストp164～175を読んでおく
第10回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) 運動機能が低下している人の介助 様々な杖の違いを知る 杖歩行人への介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第11回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) リフトやストレッチャーを利用した介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第12回	感覚機能が低下している人の介助	(内 容) 視覚に障害のある人への移動介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第13回	安楽な体位保持の介護	(内 容) 安楽な姿勢の意味を知る クッション等を用いて安楽な体位をつくる (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第14回	実技テスト	(内 容) 介護技術 で学んだ内容の実技テストを行う (必要な準備) 介護技術を復習しておくこと
第15回	まとめ 復習	(内 容) 介護技術 で学んだ介護の復習 (必要な準備) わからないところをまとめておくこと

授 業 名	博物館経営論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Museum Management			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤澤 典彦			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	人々のニーズは多様だ。それに単に合わせるだけでなく、その一歩先を示すこと。そしてまた来なくなる博物館を目指すために何が必要かを考える。質問に答えてもらいながら、一緒によりよき博物館を考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 博物館に何が可能かを考える。運営に積極的に関わることができるようになる。 2) 情報公開とは何かを考える。情報公開を通しての社会との関わりを知ることができる。 3) 情報交換とは何かを考える。他者との関わり、協力の重要性を学ぶ。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	『新しい博物館学』（芙蓉出版）、『新版 博物館学講座』（雄山閣）、『人文系博物館教育論』（雄山閣）							
留 意 事 項	指名して意見を求めます。「知っている」「知らない」では無く、自分がどう考えるかについて積極的に答えて下さい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館経営論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館の歴史	(内 容) 博物館の目的の歴史の変遷 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第2回	博物館の存在形態	(内 容) 博物館の組織について (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第3回	博物館の設備の利用	(内 容) 博物館活動のためにどのような設備が必要か (必要な準備) 博物館に行き、設備等について見ておくこと。	
第4回	博物館の教育支援的役割	(内 容) 学校との連携を考える (必要な準備) 子供の頃、学校から見学に行った博物館の事を思い出しておくこと。	
第5回	博物館の自己学習支援的役割	(内 容) 自己学習・生涯学習のに対して博物館は如何なる情報を発信できるか。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第6回	地域と博物館	(内 容) 地域にとっての博物館とは (必要な準備) 自分の出身地の博物館について、インターネット等で調べておくこと。	
第7回	博物館の情報発信(1)印刷・出版	(内 容) 印刷出版物の様々 (必要な準備) 博物館に関係する印刷物としてどのようなものがあるかを考えておくこと	
第8回	博物館の情報発信(2)講演会	(内 容) 講演会の課題設定 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第9回	博物館の情報発信(3)巡回展	(内 容) 巡回展の利点と問題点 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第10回	博物館の情報発信(4)特別展	(内 容) 特別展諸準備とその後の仕事 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第11回	博物館の情報発信(5)資料の公開	(内 容) 資料公開とは何か (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第12回	外国の博物館との交流	(内 容) 外国博物館との交流の様々なあり方 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第13回	ミュージアム・ショップの諸問題	(内 容) ミュージアムショップの存在形態 (必要な準備) 博物館に行ったときにミュージアムショップにも寄っておくこと。	
第14回	展示解説とボランティア活動	(内 容) 展示解説ボランティア活動の実際と問題点 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第15回	授業のまとめ	(内 容) これまでの授業のまとめ (必要な準備) これまでの講義項目を確認しておくこと。	

授業名	博物館資料論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Material			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	博物館は、あらかじめ定められた活動方針のもと資料を収集、保存、活用している。博物館活動の基盤となる資料の種類や分野などの基礎的事項について説明するとともに、「博物館法」など関連法規についてもあわせて学習する。さらに、修復や復元模写などについても具体的に解説することで、博物館資料の理解につなげる。							
学習成果到達目標	1) 博物館活動における資料の重要性を理解することができる。 2) 博物館資料の基本的な考え方を身につけることができる。 3) 博物館資料を取り扱えるようになることができる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜資料を配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館資料論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義方針の説明。 (必要な準備) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	博物館資料の概念と種類	(内 容) 博物館活動における資料の位置づけと種類を概観する。 (必要な準備) 博物館資料の種類について調べておくこと。(30分)	
第3回	博物館資料化の方法	(内 容) 博物館資料化の方法を具体的に学ぶ。 (必要な準備) 「寄贈」「寄託」という語の意味について調べておく。(30分)	
第4回	資料の調査・研究・彫刻・書跡・典籍編 -	(内 容) 彫刻・書跡・典籍資料の調査、研究方法を学ぶ。 (必要な準備) 彫刻・書跡・典籍の各分野について理解すること。(30分)	
第5回	資料の調査・研究・絵画・工芸編 -	(内 容) 絵画・工芸資料の調査、研究方法を学ぶ。 (必要な準備) 絵画・工芸の各分野について理解すること。(30分)	
第6回	文化財の素材について	(内 容) 文化財を構成する素材について学ぶ。 (必要な準備) 文化財の素材には何があるか調べておくこと。(30分)	
第7回	資料の扱い方 - 掛軸 -	(内 容) 掛軸の名称・取り扱いについて学ぶ (必要な準備) 掛軸の各部名称の配布プリントを見ておくこと。(30分)	
第8回	資料の扱い方 - 卷子 -	(内 容) 卷子の名称・取り扱いについて学ぶ (必要な準備) 卷子の各部名称の配布プリントを見ておくこと。(30分)	
第9回	資料の修復 彫刻編	(内 容) 彫刻の修復について具体的に紹介 (必要な準備) 文化財修理(彫刻)について理解すること。(30分)	
第10回	資料の修復 装? 編	(内 容) 絵画・古文書の修復について具体的に紹介 (必要な準備) 文化財修理(絵画・古文書)について理解すること。(30分)	
第11回	資料の復元模写	(内 容) 絵画の復元模写の実際 (必要な準備) 「復元模写」という語の意味を調べること。(30分)	
第12回	博物館資料を実際に見る	(内 容) 博物館資料にはどのようなものがあるのか、実際に博物館を見学する。 (必要な準備) 博物館資料の種類や素材について復習しておくこと。(30分)	
第13回	資料の保存環境	(内 容) 資料の保存環境を知る (必要な準備) 資料を保存するために必要な要件について理解する。(30分)	
第14回	資料としての写真と写真撮影	(内 容) 資料としての写真、写真撮影の方法を学ぶ (必要な準備) 写真撮影の際に気を付けることを考えておく。(30分)	
第15回	博物館と地域資料	(内 容) 地域資料と博物館の関係について知る (必要な準備) 博物館と地域の協働について考えをまとめること。(30分)	

授業名	博物館展示論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Exhibition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	博物館活動の中心の一つである展示について、その成立の歴史、変遷についてまずは学ぶ。その上で、展覧会の企画から開催、終了までの過程を説明し、必要な知識や技術についての基礎知識を講義する。							
学習成果到達目標	1) 博物館の展示機能に関する基礎的知識を身につけることができる。 2) 一つのを創造し、表現することの多様性について理解できるようになる。 3) 優れたデザイン感覚を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館展示論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義方針の説明。 (必要な準備) シラバスを確認しておく。(30分)	
第2回	博物館施設の種類と現状	(内 容) 博物館施設の種類と現状について概説する。 (必要な準備) 博物館・美術館の種類を調べておく。(30分)	
第3回	博物館と展示の歴史	(内 容) 博物館と展示の歴史について概説する。 (必要な準備) 近代博物館のはじまりについて調べておく。(30分)	
第4回	展示公開と出品作品	(内 容) 展示公開における出品作品の位置づけ関連する諸法令・規則を概説する。 (必要な準備) 資料の展示公開における注意点について調べる。(30分)	
第5回	博物館展示の諸形態	(内 容) 博物館展示の諸形態について解説する。 (必要な準備) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。	
第6回	展示の企画・開催	(内 容) 展示の企画から開催までの過程を概説する。 (必要な準備) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。	
第7回	博物館展示の実例 - 国内共催編 -	(内 容) 国内における展示の実例を紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第8回	博物館展示の実例 - 海外展編 -	(内 容) 海外での日本美術展示の実例を紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第9回	博物館展示の実例 - 海外編 -	(内 容) 海外の美術館の実例をみる。 (必要な準備) 海外のいずれかの美術館のHPを見ておくこと。(30分)	
第10回	博物館展示のコンポーネント	(内 容) 展示に必要な道具と技術を紹介する。 (必要な準備) 博物館で使用する道具を5つ調べておくこと。(30分)	
第11回	展示計画・空間デザインと照明	(内 容) 展示室内の構成、演出について概説する。 (必要な準備) 空間をデザインするために必要なことについて考えをまとめておくこと。(30分)	
第12回	空間デザインの実際	(内 容) 実際に博物館を見学して展示室の構成について学ぶ。 (必要な準備) 前々回、前回の復習をしておく。(30分)	
第13回	広報とデザイン	(内 容) 展覧会広報の重要性とその方法を概説する。 (必要な準備) 展覧会チラシを3枚集めておくこと。	
第14回	展覧会チラシを作る	(内 容) 展覧会チラシをデザインする。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第15回	展覧会にまつわる人々	(内 容) 展覧会開催に必要な職業について概説する。 (必要な準備) 展覧会を開催するために必要な学芸員以外の職業について調べておくこと。(30分)	

授業名	博物館資料保存論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Material Preservation			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	藤澤 典彦			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	何が博物館資料となり得るのかを考え、それをどの様に収集し、保存・保管し利用してゆくのかについて考える。							
学習成果到達目標	1) 博物館資料保存目的の明確化。目的を確認する事により自発的に仕事を行える様にする 2) 博物館資料の多様性の確認。如何なる物が博物館資料になるかを考える力を付ける。 3) 博物館資料の保存の具体的手法の確認。資料保存のための具体的行動を取れる様になる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない							
参考書	『新しい博物館学』（芙蓉出版）							
留意事項	博物館に積極的に出掛け、展示物だけでなく、展示の在り方、展示スペースの構造、受付、警備の状況など様々な面をみてきて欲しい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館資料保存論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館資料とは何か	(内 容)	博物館資料の形成過程を考える。 (必要な準備) 近代世界の形成について考えておくこと。
第2回	何が資料で、資料の収集とは何か	(内 容)	資料収集の手段について考える。 (必要な準備) 標記の手段について考えておくこと。
第3回	資料保存とは何か	(内 容)	何のために保存するのか。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第4回	資料研究の必要性	(内 容)	資料研究と展示の関係。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第5回	資料の修復・復元	(内 容)	資料の修復・復元の目的。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第6回	レプリカの作成	(内 容)	レプリカの利用方法。近年のレプリカ作成方法の進歩について。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第7回	考古資料保存の問題点	(内 容)	考古資料保存の多様性。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第8回	彫刻資料保存の問題点	(内 容)	大型資料の保存。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第9回	絵画資料保存の問題点	(内 容)	日本画・洋画資料保存の諸注意。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第10回	紙・拓本・写真資料保存の問題点	(内 容)	古文書・近代紙資料・写真劣化との戦い。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第11回	民俗資料保存の問題点	(内 容)	木材・金属・皮革・布・藁など複合材料資料の保存。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第12回	資料保存のための設備	(内 容)	収蔵庫の重要性。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第13回	資料保存のためのスケジュール	(内 容)	資料点検・虫干し・燻蒸などのスケジュール。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第14回	資料保存と展示と公開	(内 容)	保存資料の公開としての展示と出版。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。
第15回	講義のまとめ	(内 容)	博物館資料保存の目的。 (必要な準備) これまでの講義項目を確認しておくこと。

授業名	博物館教育論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	博物館は社会教育施設であることから、その活動の基盤に「教育」がある。近年は、とくにその教育活動は多様化し、より実践的になっている。博物館の教育機能の基礎について理解を進めつつ、具体的な手法についても学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 博物館の教育機能について理解することができる。 2) 自分の考えを人にわかりやすく伝えるための手法を身につけることができる。 3) 創意工夫の楽しさを身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	特になし							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名	博物館教育論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	博物館の成立と近代教育	(内 容) 近代における教育思想の変遷と博物館の関係について概説する。 (必要な準備) 「学ぶこと」について考えをまとめておくこと。
第2回	博物館教育の意義と理念	(内 容) 博物館における教育の意義と理念について解説する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第3回	博物館教育とミュージアムエデュケーター	(内 容) 博物館教育における教育普及を専門とする学芸員(ミュージアムエデュケーター)の役割について紹介する。 (必要な準備) 学芸員の業務内容について考えをまとめておくこと。
第4回	展示を中心とした教育活動	(内 容) 展示における教育的配慮、参加型展示などについて紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第5回	展示室における学び 博物館見学	(内 容) 実際の博物館を見学して教育的な要素を見つける。 (必要な準備) 見学の際のポイントについて考えておく。
第6回	展示室における学び 博物館見学	(内 容) 実際の博物館を見学して見つけた教育的な要素をまとめる。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第7回	博物館と学校教育	(内 容) 博物館と学校教育の連携について考える。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第8回	博物館友の会とボランティア	(内 容) 博物館の支援者、利用者について知る。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第9回	博物館における教育プログラム	(内 容) 博物館の教育プログラムの種類や運営について知る。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第10回	博物館における教育プログラムの事例	(内 容) 実際の教育プログラムを評価し、どのような学びの可能性があるのか考える。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第11回	ギャラリートーク 事例と情報収集	(内 容) ギャラリートークの事例について学び、必要な情報を収集する。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第12回	ギャラリートーク 発表	(内 容) ギャラリートークを実際に行い、相互評価を行う。 (必要な準備) 発表原稿
第13回	ワークショッププログラムの企画 事例	(内 容) ワークショッププログラムの事例について知り、学びの可能性について知る。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第14回	ワークショッププログラムの企画 作成	(内 容) ワークショッププログラムを企画し、その学習効果についてまとめる。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第15回	ワークショッププログラムの企画 発表	(内 容) 企画したワークショッププログラムを発表し、相互評価を行う。 (必要な準備) プログラムの企画書の作成

授業名	博物館情報・メディア論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Information and Media			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	喜多 祐子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>最近のコンピュータ技術の発展は目覚ましい。博物館においても、こうした技術が導入され、運営に活かす試みがなされている。そこで、本講義では、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信について理解し、情報を配信・活用することができる能力を養成する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 博物館で利用されている情報技術に関する知識を習得する。 2) デジタルメディアの特性を整理し、理解する。 3) メディアの特性を活かして、情報を伝達する能力を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	なし。							
参考書	随時指示する。							
留意事項	いろいろな博物館や美術館へ行き、どのようなメディアが用いられているかを観察して、知識を増やしてほしい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館情報・メディア論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館における情報とメディアの意義	(内 容) 情報の伝達と、その伝達手段。 (必要な準備) 情報とは何か、自分なりに考えてみる(10分)。	
第2回	メディアの特性	(内 容) 情報技術の発展、メディアの特性。 (必要な準備) 博物館が取り扱う情報にはどのようなものがあるのかを考えてみる(20分)。	
第3回	博物館資料のデータベース化	(内 容) メディアを用いた情報の記録、整理方法。 (必要な準備) 情報を整理、検索する方法について考えてみる(15分)。	
第4回	博物館情報のデジタル化	(内 容) デジタル化の技法と留意点。 (必要な準備) デジカメやスマホなどで写真を撮ってみる(20分)。	
第5回	デジタルアーカイブ	(内 容) デジタルアーカイブの意義、現状と課題。 (必要な準備) デジタルミュージアムを扱うHPを探してくる(20分)。	
第6回	メディアを活用した調査研究	(内 容) メディアを用いた資料の分析方法。実践例。 (必要な準備) デジタル画像から読み取れることを考えてみる(15分)。	
第7回	映像理論	(内 容) 展示における情報メディアの手法。その実践例。 (必要な準備) 博物館へ行って、映像にまつわる情報機器を探してくる(30分)。	
第8回	携帯端末を用いた取り組み	(内 容) 情報通信技術を活用した情報の配信。その実践例。 (必要な準備) 情報通信機器がどのように活用されているのかを考えてみる(30分)。	
第9回	博物館における情報配信	(内 容) 情報管理と情報公開。 (必要な準備) どのような情報公開の方法があるのかを考えてみる(20分)。	
第10回	インターネットを活用した情報提供のあり方	(内 容) インターネットを活かした取り組み。 (必要な準備) インターネットの可能性を考えてみる(15分)。	
第11回	博物館メディアの役割と学習活用	(内 容) 博物館利用者への学習支援、情報教育の意義と重要性。 (必要な準備) 地域に博物館資料に関する情報をどのように還元できるのかを考えてみる(20分)。	
第12回	博物館と知的財産	(内 容) 著作権について。 (必要な準備) 「著作権」という言葉はどのようなときに使われるのかを整理する(20分)。	
第13回	個人情報の保護	(内 容) 個人情報の保護。メディアリテラシー。 (必要な準備) どのような情報が個人情報にあたるのかを考えてみる(15分)。	
第14回	ICT社会のなかの博物館	(内 容) 情報資源の双方向性と役割、職業倫理。 (必要な準備) インターネットを用いて、博物館が図書館、学校と研究機関とどのような連携をとっているのか、その活動内容を調べてみる(30分)。	
第15回	課題制作	(内 容) 博物館展示における解説コンテンツの制作。 (必要な準備) これまでの講義内容を復習する(1時間)。	

授業名	博物館実習			開講学年	2回生	単位数	3単位	
英文名	Museum Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	博物館学芸員の実務内容を指導するもので、博物館資料の調査法・収集法・分類法・目録法・保管法・展示法の実務講義を行う一方で、それを実習せしめる。また各種文化財の分類や名称に関する広範な解説を行い、併せて実際の文化財の取り扱い方や調書作成のプロセスなどを指導する。							
学習成果到達目標	1) 学芸員としての基礎知識を修得する。 2) 人にも学芸員の仕事内容を説明できるようにする。 3) 新たな学芸員の仕事を発見できるようにする。							
評価方法	定期試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜授業中に配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	講義と実習を併用して行う。館園実習を実りあるものとするためにも、講義は休まないこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		博物館実習	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義方針の説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)	
第2回	拓本	(内 容) 拓本実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第3回	仏像	(内 容) 仏像に関する専門用語の解説、取り扱い方を実習 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第4回	仏像の調査方法 展示見学 島津製作所創業記念資料館	(内 容) 仏像の調査実習と企業ミュージアムを見学する。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第5回	絵画	(内 容) 絵画の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第6回	書籍・典籍	(内 容) 書籍・典籍の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第7回	古文書()様式論・分類	(内 容) 古文書の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第8回	古文書()調書・編年	(内 容) 古文書の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第9回	古文書()写真撮影	(内 容) 古文書の撮影方法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第10回	陶磁器・服飾	(内 容) 陶磁器・服飾の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第11回	屏風・掛け軸	(内 容) 屏風・掛け軸の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと(60分)	
第12回	拓本裏打ち	(内 容) 2回目に行った拓本を裏打ちする。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第13回	見学実習 龍谷ミュージアム・東寺宝物館	(内 容) 大学博物館と寺院博物館の展示を見学する。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)	
第14回	展示実習 展示	(内 容) 資料を展示する。 (必要な準備) 展示内容を考えておく(60分)	
第15回	展示実習 解説	(内 容) 展示資料を解説する。 (必要な準備) 解説内容文を考える(60分)	

授業名	図書館制度・経営論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Library System and Management			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。							
学習成果到達目標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)	
テキスト	授業中に指示する。							
参考書	授業中に指示する							
留意事項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館制度・経営論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館の制度	(内 容) 図書館設置を規定する各法律について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第3回	図書館法	(内 容) 図書館法の条文を理解する。 (必要な準備) 図書館法の条文を読んでおくこと。	
第4回	他館種の図書館に関する法律	(内 容) 学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (必要な準備) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。	
第5回	図書館サービスと法律	(内 容) 著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (必要な準備) 著作権法の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の管理運営の外部化	(内 容) 指定管理者制度について解説する。 (必要な準備) 指定管理者制度について調べておくこと。	
第7回	図書館の管理運営の外部化	(内 容) PFIについて解説する。 (必要な準備) PFIについて調べておくこと。	
第8回	図書館のサービス計画	(内 容) 図書館サービスの計画について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第9回	図書館のマーケティング	(内 容) 図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第10回	図書館の建築計画	(内 容) 図書館建設手順の流れについて解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	レイアウト図をつくる	(内 容) ゾーニング計画をつくる。 (必要な準備) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。	
第12回	レイアウト図をつくる	(内 容) 図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (必要な準備) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。	
第13回	レイアウト図をつくる	(内 容) 図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (必要な準備) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。	
第14回	レイアウト図を発表する	(内 容) 作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (必要な準備) レイアウト図を完成させる。	
第15回	レイアウト図を発表する	(内 容) 作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (必要な準備) レイアウト図を完成させる。	

授 業 名	図書館情報資源概論		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Introduction to Library Information Resource		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	河塚 幸子		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	情報の分化に伴って近年多様化している図書館資料について、その種類と特徴を理解するとともに図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する知識の基本を理解することを目的とする。実際の図書館の仕事に即して考察していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 図書館が扱う資料の種類と特性について理解し、説明できる。 2) コレクションの構築の意義とそのプロセスを理解し、説明できる。 3) コレクションの蓄積・保管方法、評価など基礎的な知識を修得し、説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (提案力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	高山正也,平野英俊編『図書館情報資源概論』(現代図書館情報学シリーズ8),樹村房 2015年(初版5刷)							
参 考 書	今まど子編『図書館学基礎資料第12版』樹村房,2015年							
留 意 事 項	専門用語などわからないことは、参考図書などで調べておくこと。提出物は期限厳守すること。グループディスカッションによる知識の確認、定着を勧めるため積極的に発言すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	当授業終了後に実施する							

授 業 名		図書館情報資源概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、図書館情報資源とは	(内 容) 授業展開の解説、図書館活動と資料の説明 (必要な準備) テキストの序文、目次初めにを読んでおくこと	
第2回	図書館資料の有形・無形出版物、歴史	(内 容) 図書館資料全般の特質、歴史を概観 (必要な準備) テキスト1章を読んでおくこと	
第3回	図書館情報資源の種類と特質(1) 印刷資料 図書・逐次刊行物・ファイル資料	(内 容) 図書・逐次刊行物の定義、種類、特徴、出版の現状など (必要な準備) テキスト2章p.23-33 を読んでおくこと	
第4回	図書館情報資源の種類と特質(2)非印刷資料 マイクロ資料、視聴覚資料、視覚障害者用資料	(内 容) マイクロ、視聴覚資料、視覚障害者の定義、種類、特徴、など (必要な準備) テキスト2章p.34-47を読んでおくこと	
第5回	図書館情報資源の種類と特質(3) ネットワーク情報、電子資料、データベース	(内 容) 電子資料等の定義、種類、特徴など (必要な準備) テキスト2章p48-57を読んでおくこと。	
第6回	図書館情報資源の種類と特質(4) 政府刊行物、地域資料	(内 容) 政府資料、地域資料の定義、種類、特徴 (必要な準備) テキスト2章p. 58-66を読んでおくこと。	
第7回	図書館情報資源の種類と特質(5) 人文・社会・自然科学・生活分野	(内 容) 学術情報(人文、社会、自然科学、生活) (必要な準備) テキスト2章p. 67-72を読んでおくこと。	
第8回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(1) コレクション構築とは、収集基準、方針	(内 容) コレクション構築の意義など (必要な準備) テキスト3章p. 73-85を読んでおくこと。	
第9回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(2) 資料選択のプロセス	(内 容) 資料選択基準、組織体制、選択のための情報 (必要な準備) テキスト3章p. 86-113を読んでおくこと。	
第10回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(3) 資料収集のプロセス	(内 容) 資料の入手方法、収集の実際 (必要な準備) テキスト3章p.113-118を読んでおくこと。	
第11回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(4) 資料の蓄積・保管のプロセス	(内 容) 資料の装備、補修、排架、保存、蔵書点検 (必要な準備) テキスト3章p.119-131を読んでおくこと。	
第12回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(5) コレクションの評価、再編	(内 容) コレクションの評価、更新 (必要な準備) テキスト3章p.132-150を読んでおくこと。	
第13回	情報資源の生産・流通と図書館(1) 出版とは、商業出版、学術出版	(内 容) 出版のプロセス、商業出版、学術出版の特質 (必要な準備) テキスト4章p.151-170を読んでおくこと	
第14回	情報資源の生産・流通と図書館(2) 図書館蔵書のデジタル化、利用の権利	(内 容) 図書館蔵書のデジタル化、利用の権利 (必要な準備) テキスト4章p.171-182を読んでおくこと	
第15回	まとめ	(内 容) 総復習 (必要な準備) 図書館のデジタル化の事例をWebで閲覧	

授業名	情報資源組織論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Informational Resource Organization			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	喜多 祐子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などに関しても解説を行なう。							
学習成果到達目標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録の作成に必要な基本的な知識を習得する。 3) 分類法を理解し、書架を管理する能力を身につける。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	志保田務編『情報資源組織論 第2版 よりよい情報アクセスを支える技とシステム』ミネルヴァ書房。							
参考書	講義で紹介。							
留意事項	テキストは必ず持参すること。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		情報資源組織論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	情報資源組織化の意義	(内 容) 情報資源組織の業務と意義 (必要な準備) テキスト1章 (p.1-7) を読んでおくこと (10分)	
第2回	目録の役割と種類	(内 容) 目録の役割、目録の種類 (必要な準備) テキスト2章 (p.8-16) を読んでおくこと (10分)	
第3回	目録記入の構成	(内 容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 (必要な準備) テキスト3章 (p.18-23)、7章 (p.133-151) を読んでおくこと (30分)	
第4回	標目の役割	(内 容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル (必要な準備) テキスト3章 (p.24-28) を読んでおくこと (10分)	
第5回	書誌コントロールと標準化	(内 容) 書誌コントロールの種類と歴史 (必要な準備) テキスト4章 (p.30-34) (10分)	
第6回	集中目録作業	(内 容) 書誌データの流通、MARC (必要な準備) テキスト4章 (p.34-39、p.50) (10分)	
第7回	共同目録作業	(内 容) 総合目録、書誌ユーティリティ (必要な準備) テキスト4章 (p.39-45) を読んでおくこと (15分)	
第8回	OPACの管理と運用	(内 容) OPACの機能と管理、メタデータ (必要な準備) テキスト4章 (p.45-52)、8章 (p.155-164) を読んでおくこと (20分)	
第9回	主題の分析と検索	(内 容) 主題分析の意義、自然語、統制語 (必要な準備) テキスト5章 (p.53-64) を読んでおくこと (20分)	
第10回	件名標目表とシソーラス	(内 容) 件名標目表、シソーラス、『基本件名標目表』の構成 (必要な準備) テキスト5章 (p.64-73) を読んでおくこと (20分)	
第11回	配架と分類作業	(内 容) 図書記号の付与と配架、別置 (必要な準備) テキスト6章 (p.74-78、p.108-113) を読んでおくこと (20分)	
第12回	日本十進分類法による分類作業	(内 容) 分類法の概要、『日本十進分類法』の構成 (必要な準備) テキスト6章 (p.95-108) を読んでおくこと (20分)	
第13回	主要な分類法	(内 容) 主要な分類法の概要 (必要な準備) テキスト6章 (p.81-95) を読んでおくこと (20分)	
第14回	主要な目録規則	(内 容) 主要な書誌記述規則 (必要な準備) テキスト7章 (p.114-133、p.151-153) を読んでおくこと (30分)	
第15回	多様な情報資源組織	(内 容) 図書館における情報資源の組織化の課題 (必要な準備) テキスト8章 (p.176-194) を読んでおくこと (30分)	

授 業 名	図書館基礎特論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Special Lecture on Library			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。各自でテーマを選択し、関連する文献資料を収集し、整理し、自己の見解をまとめ、発表する。各自の関心のあるテーマについて、適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げることにより、自らの意見を理論的に主張し、伝達できるようにする。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授業名	図書館基礎特論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)
第2回	図書館資料の探索と活用	(内 容) 図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (必要な準備) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。
第3回	レファレンスサービスを考える	(内 容) 図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (必要な準備) 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。
第4回	レファレンス質問を考える	(内 容) レファレンス質問を作成する。 (必要な準備) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。
第5回	レファレンス回答をつくる	(内 容) 図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (必要な準備) 図書館に出向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。
第6回	図書館の広報活動について考える	(内 容) 図書館の広報活動の概要を説明する。 (必要な準備) 広報の意義について考えておくこと。
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(内 容) レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (必要な準備) レファレンス回答を完成させておくこと。
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (必要な準備) ストーリーを考えておくこと。
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (必要な準備) シナリオを完成させておくこと。
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(内 容) 仮撮影を行う。 (必要な準備) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (必要な準備) 仮撮影の内容を振り返る。
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(内 容) 本撮影を行う。 (必要な準備) シナリオを完成させておくこと。
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(内 容) 撮影したビデオの編集作業を行う。 (必要な準備) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。
第14回	発表	(内 容) 完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (必要な準備) ビデオを完成させておくこと。
第15回	まとめ	(内 容) 授業を振り返り、レポートを作成する。 (必要な準備) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要資料があれば入手しておくこと。

授業名	図書館情報技術論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Library Information Technology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岡 紀子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。</p> <p>本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、データベース、コンピュータシステム、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。</p> <p>2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。</p> <p>3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。</p> <p>4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題遂行能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	図書館と情報技術(樹村房)2017 改訂版 (4月に発刊予定)							
参考書	メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)							
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら図書館に足を運び、図書館における情報技術を活用した業務について予め把握しておくこと。 ・自ら図書館に足を運び、学習した情報技術が具体的にはどのように活用・応用されているか確かめること。更に、図書館業務は情報技術を駆使することで、どのように改善できるか自分なりに考えること。 ・情報技術については、日々進化しているので教科書の記載だけでなく、最新の技術を自分で調べること。 							
オフィス アワー	担当授業後に質問を受け付ける							

授 業 名		図書館情報技術論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(内 容)	IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (必要な準備) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(内 容)	コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(内 容)	ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(内 容)	情報技術について、情報化社会の特徴との関係について学習し、深く関わっていることを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(内 容)	データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン（検索エンジン）の仕組み	(内 容)	ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(内 容)	コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とIT その1	(内 容)	図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術などを活用したシステムについて学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とIT その2	(内 容)	最新の情報技術として、デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスクパブリケーションサービスなどについて学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(内 容)	図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第11回	デジタルアーカイブ	(内 容)	デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。デジタルアーカイブウェブサイト例を紹介する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第12回	・最終レポート課題設定 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要	(内 容)	・最終レポートについて課題設定の説明。 WORDにて作成、紙出力する。提出期限は最終回とする。 ・次回以降のDAISY作成のためのアカウント・PWの取得方法を説明する。 (必要な準備) 特になし
第13回	マルチメディアDAISY作成の演習（1）	(内 容)	障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。演習取り組みとして、ChattyInfty音声支援システムを用いてmDAISY形式資料の編集を実践学習する。 (必要な準備) アカウントおよびPWの取得（授業でアクセス可能なように、事前にアカウントとPWの取得は必須）
第14回	マルチメディアDAISY作成の演習（2）	(内 容)	mDAISY編集作業を継続。 (必要な準備) 適宜各自でDAISY作成を進める
第15回	マルチメディアDAISY完成・提出（3） 最終レポートの提出	(内 容)	mDAISY編集作業を継続。 mDAISY編集完成版を提出 (必要な準備) ・最終レポートの作成・提出の準備 ・mDAISYの作成・提出の準備

授業名	図書館サービス概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Library Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川瀬 綾子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報化社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を理解する。 2) 図書館における様々な図書館サービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業への参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012年							
参考書	授業にて指示する。							
留意事項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのような図書館サービスが行われているかなどを注意深く観察してください。 授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。 出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。							
オフィス アワー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。							

授 業 名	図書館サービス概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(内 容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法など。本講義の進め方等についての説明)及び図書館で行われている図書館サービスとはどのようなものであるか。 (必要な準備) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1	(内 容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (必要な準備) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2	(内 容) 図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 (必要な準備) 教科書第1章3-6項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷1	(内 容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (必要な準備) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスの種類と方法	(内 容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (必要な準備) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(内 容) 資料提供サービスについて理解する。 (必要な準備) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(内 容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (必要な準備) 教科書第5章を読んでおくこと。
第8回	利用者対象別サービス - 児童サービス、ヤングアダルトサービスについて -	(内 容) 利用対象者が幼児や児童などの場合、どのような図書館サービスが行われているかを理解する。 (必要な準備) 公共図書館で行われている児童向けのサービスに参加し、その感想や意見をまとめて授業にのぞむこと。 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(内 容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (必要な準備) 教科書第6章を読んでおくこと。
第10回	図書館サービスとコミュニケーション	(内 容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。 (必要な準備) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスと著作権1	(内 容) 著作権の意義と概要について学習する。 (必要な準備) 教科書第8章を読んでおくこと。
第12回	図書館サービスと著作権2	(内 容) 図書館で行われている模写サービスを中心に解説する。 (必要な準備) 教科書第8章を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスの協力と連携	(内 容) 図書館サービスにおける協力・連携の意義について理解する。 (必要な準備) 教科書第9章を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(内 容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (必要な準備) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。 教科書第10章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(内 容) これからの図書館の在り方について考える。 (必要な準備) 教科書を再度通読すること。

授業名	情報サービス論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Information Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。							
学習成果到達目標	1) 図書館の情報サービスの種類・内容を学ぶ。 2) レファレンス事例発表を行い、図書館業務の理解を深める。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山崎久道、樹村房、2012年							
参考書	随時指示する。							
留意事項	図書館の情報サービスについてより一層理解を深めるために、情報要求を持って公共図書館に行き、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。							
オフィス アワー	初回の授業で提示します							

授 業 名		情報サービス論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと。(20分)
第2回	情報社会と図書館	(内 容) 図書館の役割について理解する。 (必要な準備) テキストP.1~P.18をよく読んでおくこと。(30分)
第3回	情報サービスの実際	(内 容) 情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.24~P.33をよく読んでおくこと。(30分)
第4回	情報サービスの実際	(内 容) 情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.33~P.37をよく読んでおくこと。(30分)
第5回	各種と図書館と情報サービス	(内 容) 各種情報サービスの特徴を理解する。 (必要な準備) テキストP.37~P.40をよく読んでおくこと。(20分)
第6回	レファレンスプロセス	(内 容) レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (必要な準備) テキストP.41~P.65をよく読んでおくこと。(20分)
第7回	情報検索と情報検索システム	(内 容) 情報検索の種類・内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.100~P.112をよく読んでおくこと。(20分)
第8回	情報検索と情報検索システム	(内 容) 情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.112~P.119をよく読んでおくこと。(20分)
第9回	情報サービスと知的財産権	(内 容) 著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (必要な準備) 書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第10回	オンラインデータベース	(内 容) オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (必要な準備) 図書館に行き、オンラインデータベースを利用しておく。(60分)
第11回	電子ジャーナル	(内 容) 電子ジャーナルの種類について概説する。 (必要な準備) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。(30分)
第12回	電子ジャーナル	(内 容) オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (必要な準備) 前回の配付プリントをよく読んでおくこと。
第13回	レファレンス事例発表	(内 容) レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 (必要な準備) 発表レジュメを作成する。(60分)
第14回	レファレンス事例発表	(内 容) レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 (必要な準備) 発表レジュメを作成する。(60分)
第15回	まとめ	(内 容) 今後の情報サービスあり方について考える。 (必要な準備) 今までのところを復習しておく。(60分)

授業名	児童サービス論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>1) 児童図書館における児童サービスの理念や意義・役割について理解を深める。 2) IT時代を迎える現代の子どもたちにとって、より望ましい読書支援とはどうあるべきかを考える。 3) 子どものための文化財としてある絵本や児童文学等を具体的にとりあげ、その特質をふまえて児童図書館の蔵書構成や選書について検討する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 児童図書館の蔵書を構成する児童文化関連資料の全体像について基本的知識を習得できる。 2) 1) を活用した利用者サービスの内容と方法について理解できる。 3) 選書やブックトークの内容について知り、実践することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない(適宜プリントを配布)。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業形態として、講義、実習、演習形式などを取り入れ、発表する機会を積極的に設ける。 なお、児童図書館や子どもの本についてのフィールドワークを3回実施するので、実際に見学して体験することからも学んでほしい。							
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		児童サービス論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 授業の概要および進め方	(内 容) 本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	図書館における児童サービスの歴史	(内 容) 日本における児童図書館および児童サービスの歴史について理解を深める。 (必要な準備) 児童図書館についての考えをまとめておく。(40分)	
第3回	児童関係資料の種類と特質	(内 容) 児童に関連する資料について、その種類や特質について学び、理解を深める。 (必要な準備) 児童図書館を構成する資料について予習しておく。(60分)	
第4回	選書の内容と方法 1 フィールドワーク	(内 容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 自分の好きな絵本を一冊よんでおく。(40分)	
第5回	選書の内容と方法 2 (絵本)	(内 容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。(30分)	
第6回	選書の内容と方法 3 (絵本)	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)	
第7回	選書の内容と方法 フィールドワーク	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)	
第8回	選書の内容と方法 1	(内 容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 低学年読み物の特徴について考えておく。(30分)	
第9回	選書の内容と方法 2	(内 容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)	
第10回	選書の内容と方法 3	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に読み物の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)	
第11回	児童関係コレクションの収集・構築 フィールドワーク	(内 容) 選書のありかた、蔵書構成などについて、実際の児童図書館をサンプルに分析し、そのありようを学ぶ。 (必要な準備) 身近な児童図書館を見学して蔵書構成について考えておく。(40分)	
第12回	子どもと本をつなぐ活動1	(内 容) 読み聞かせやブックトークなど、主な活動について理解し、その特質と役割を学ぶ。 (必要な準備) ブックトークについて調べておく。(40分)	
第13回	子どもと本をつなぐ活動2	(内 容) 図書館の乳幼児サービス、特にブックスタート活動について理解を深める。 (必要な準備) ブックスタート運動について事前学習しておく。(40分)	
第14回	子どもと本をつなぐ活動3	(内 容) オンラインを活用した児童向け検索システムについて知り、子どもと本との関係について理解を深める (必要な準備) 子どもの資料検索についてサイトを調べておく。(40分)	
第15回	本授業のまとめと今後の課題を考える	(内 容) 全回のまとめを行い、これからの児童サービスについて考える。 (必要な準備) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像を考えておく。(60分)	

授業名	情報サービス演習			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Information Service Practice			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	河塚 幸子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習で行う。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源の知識を習得する。 2) 情報検索技術を習得する。 3) レファレンスインタビューにおける利用者とのコミュニケーションの理解とプレゼンテーションができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	原田智子編『現代図書館情報学シリーズ7 情報サービス演習』、樹村房、2015(初版5刷)、¥2000(税別)							
参考書	今まどこ編『図書館学基礎資料 第12版』、樹村房、2015							
留意事項	毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		情報サービス演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、図書館探索	(内 容) 本講義の概要、目標の解説、 (必要な準備) テキストの監修者の言葉、序文、目次を読むこと	
第2回	情報サービスの設計と評価	(内 容) 情報サービスの概論、レファレンスサービスの解説 (必要な準備) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと	
第3回	情報サービス演習準備、情報検索基礎	(内 容) 検索理論、検索方式、検索語、トランケーション (必要な準備) 「検索」という言葉の意味を調べておくこと	
第4回	情報資源の探し方	(内 容) さまざまな情報資源の種類、使い方 (必要な準備) 前回講義の基礎理論を理解しておくこと	
第5回	発信型情報サービス	(内 容) 発信型情報サービスの構築、事例調査 (必要な準備) テキスト15章を読み予習すること	
第6回	Webページ、Webサイトの探し方	(内 容) Webページ、Webサイト、検索エンジン、検索演習 (必要な準備) テキスト4章を読み予習すること	
第7回	図書情報の探し方	(内 容) 図書情報の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト5章を読み予習すること	
第8回	雑誌および雑誌記事の探し方:	(内 容) 雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト6章を読み予習すること	
第9回	新聞記事の探し方	(内 容) 新聞の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト7章を読み予習すること	
第10回	言葉、事柄、統計の探し方	(内 容) 言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方 (図書館演習1) (必要な準備) テキスト8章を読み予習すること	
第11回	人物、企業、団体の探し方	(内 容) 人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方、検索 (必要な準備) テキスト11章を読み予習すること	
第12回	法律、判例、特許の探し方	(内 容) 法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方、検索 (必要な準備) テキスト12章を読み予習すること	
第13回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(内 容) 歴史、日時、地理、地名、地図の種類、特徴、探し方 (図書館演習2) (必要な準備) テキスト9章を読み予習すること	
第14回	レファレンスコレクションの整備	(内 容) レファレンスコレクションの整備・評価、演習 (必要な準備) テキスト14章を読み予習すること	
第15回	パスファインダーの調査事例相互学習、まとめ	(内 容) パスファインダー調査成果発表 (必要な準備) 各自調査結果の発表準備(要点整理)	

授 業 名	情報資源組織演習		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Bibliographic Organization Practice		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	喜多 祐子		対 象 学 生	歴史2回生				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	志保田務・高鷲忠美編『情報資源組織法 第2版』第一法規。							
参 考 書	講義で随時紹介。							
留 意 事 項	テキストは毎回持参すること。講義内容を復習すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		情報資源組織演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	書誌データの作成	(内 容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (必要な準備) テキストを持参すること。	
第2回	各書誌の事項の記述	(内 容) 和資料を中心に各書誌の事項の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第3回	書誌階層構造	(内 容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第4回	継続資料の書誌データの作成	(内 容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第5回	非図書資料の書誌データの作成	(内 容) 地図資料、マイクロ資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する 書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第6回	洋書の書誌データの作成	(内 容) 洋書に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第7回	標目の付与	(内 容) 標目の表記方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第8回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(内 容) オリジナルカタログリング、コピーカタログリングについて解説、メタ データの作成 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第9回	主題組織法	(内 容) 主題分析とその表示を解説 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第10回	日本十進分類法の活用法	(内 容) NDCの構成、利用の仕方を解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(内 容) NDCの形式区分に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(内 容) NDCの地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、言語 共通区分、文学共通区分、その他の固有補助表	(内 容) NDCの言語区分・言語共通区分・文学共通区分・その他の固有補助 表に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第14回	分類規程・図書記号の付与	(内 容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第15回	基本件名標目表による件名付与	(内 容) BSHの構成、利用の仕方を解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	

授業名	図書・図書館史			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	古代の文字の歴史を含めた図書の歴史の変遷を概観するとともに、活字資料の重要性を確認させる。また、公共図書館が急速に増えている現状を認識しつつ、古代から近代公共図書館誕生までの推移を西欧、中国、日本の視点から考察する。授業は講義形式で行う。							
学習成果到達目標	1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を学ぶ。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を把握する							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『図書・図書館史』（現代図書館情報学シリーズ11）佃一可、樹村房、2012年							
参考書	随時指示する。							
留意事項	講義を中心に進めるが、適宜、ビデオなどの視聴覚資料を用いて、図書館の歴史について理解を深められるようにしていきたい。普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書・図書館史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	古代の図書館(西洋)	(内 容) 文字の発生と記録、古代の図書館について概説する。 (必要な準備) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。	
第3回	中世の図書館(西洋)	(内 容) 修道院図書館や大学図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと	
第4回	近世の図書館(西洋)	(内 容) ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。	
第5回	近代の図書館(西洋)	(内 容) 大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。	
第6回	現代の図書館(西洋)	(内 容) 20世紀以降の各国図書館の状況について概説する。 (必要な準備) テキストP.167~P.182をよく読んでおくこと。	
第7回	中国の図書の歴史(古代)	(内 容) 紙の発明以前の図書について説明する。 (必要な準備) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。	
第8回	中国の図書の歴史(中世)	(内 容) 紙の発明、四部分類について説明する。 (必要な準備) テキストP.78~P.86をよく読んでおくこと。	
第9回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(内 容) 印刷時代の図書について説明する。 (必要な準備) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。	
第10回	古代の図書館(日本)	(内 容) 奈良時代・平安時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。	
第11回	中世の図書館(日本)	(内 容) 鎌倉時代・室町時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。	
第12回	近世の図書館(日本)	(内 容) 江戸時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。	
第13回	近代の図書館(日本)	(内 容) 明治期の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.147~P.161をよく読んでおくこと。	
第14回	近代の図書館(日本)	(内 容) 大正・昭和前期の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.161~P.166をよく読んでおくこと。	
第15回	現代の図書館(日本)	(内 容) 昭和後期以降の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.183~P.196をよく読んでおくこと。	

授 業 名	サービス産業実務・演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Practical Business and Practice of Service Industry			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	サービス産業としての観光について、その意味・内容について考える。地域観光の視点から現状を把握、観光事業と地域振興について学習、商品開発についての演習を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 地域と観光についての現状を把握することを到達目標とする。 2) 文化・伝統の商品化についての課題、問題点について自ら考え、理解出来ることを到達目標とする。 3) 文化・伝統の商品化における課題、問題点をふまえ、観光サービスを自ら考え、理解出来ることを到達目標とする。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配付する							
参 考 書	必要に応じて資料を配付する							
留 意 事 項	受講生の意欲と希望によって演習内容の変更、フィールドワークを実施する場合があります。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		サービ ス 産業実務・演習
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) スケジュールならびにオリエンテーション (必要な準備)
第2回	サービス業の概念	(内 容) サービス業と労働の概念、と観光業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第3回	観光についての歴史	(内 容) 観光についての歴史と動向について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第4回	観光と環境	(内 容) 地域観光事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第5回	地域観光事業	(内 容) 地域事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第6回	農山村観光	(内 容) 農山村について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第7回	地域の商品化	(内 容) 地域の商品化について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第8回	地域の商品化とその担い手	(内 容) 地域の商品化とその担い手について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第9回	地域観光についてのグループワーク(1)	(内 容) 地域観光についてのグループワーク (必要な準備) 地域観光についての情報収集
第10回	地域観光についてのグループワーク(2)	(内 容) KJ法を用いて地域観光の分析 (必要な準備) KJ法の準備
第11回	地域観光についてのグループワーク(3)	(内 容) KJ法を用いて地域観光の分析 (必要な準備) KJ法の準備
第12回	プレゼンテーション(1)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第13回	プレゼンテーション(2)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第14回	プレゼンテーション(3)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめと総括 (必要な準備) レポートの用意

授 業 名	国内旅行業務			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Domestic Travel Services			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	<p>旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から広範囲にわたる知識の取得をめざす。 最終的な目的は、旅行業務取扱管理者試験に合格することなので、国内旅行業務取扱管理者試験に向け、演習問題を取り入れ合格を目指す。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	日本の各地域の観光資源の特徴や位置関係を把握することにより、観光ルートの習得につなげる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	必要に応じて資料配付、または指示							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	限られた時間の中で最大限の学習効果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習や問題演習を反復して行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		国内旅行業務	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方を説明する。 観光資源の内容、分類、観光対象について概説する。 (必要な準備) テキストを購入し、目を通しておくこと。(60分)	
第2回	日本の観光資源(1)北海道	(内 容) 北海道のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第3回	日本の観光資源(2)東北	(内 容) 東北のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第4回	日本の観光資源(2)東北	(内 容) 東北のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第5回	日本の観光資源(3)関東	(内 容) 関東のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第6回	日本の観光資源(3)関東	(内 容) 関東のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第7回	日本の観光資源(4)中部	(内 容) 中部のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第8回	日本の観光資源(4)中部	(内 容) 中部のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第9回	日本の観光資源(5)近畿	(内 容) 近畿のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第10回	日本の観光資源(5)近畿	(内 容) 近畿のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第11回	日本の観光資源(6)中国・四国	(内 容) 中国・四国のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第12回	日本の観光資源(6)中国・四国	(内 容) 中国・四国のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第13回	日本の観光資源(7)九州・沖縄	(内 容) 九州・沖縄のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第14回	日本の観光資源(7)九州・沖縄	(内 容) 九州・沖縄のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)	
第15回	日本の観光資源まとめ	(内 容) 講義で習得した日本全国の観光資源についてのまとめ (必要な準備) 過去のサブノートと教科書を復習する(60分)	

授 業 名	国内旅行業務		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Domestic Travel Services		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	湯川 宗紀		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中で、観光・旅行業関連の法令・約款・実務について学習する。 国内旅行業務取扱管理者試験に備えた講義でもあり、模擬テストをおこなう。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目標とする。 2) 観光業界における基礎的な実務を習得する。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	旅行業実務シリーズ3 2016国内運賃・料金 JTB総合研究所							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	限られた時間の中で最大限の学習効果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習や問題演習を反復して行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	国内旅行業務	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義内容と目的について説明する。 国家試験対策ともなっているため、試験についての説明をおこなう。 (必要な準備) 地図帳やJRの時刻表をよく読んでおく(30分)
第2回	宿泊料金の計算	(内 容) 宿泊料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 教科書の該当部分をよく読んでおく(60分)
第3回	フェリーの計算 貸切バスの計算	(内 容) フェリーと貸切バスの運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第4回	貸切バスの計算	(内 容) 貸切バスの運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第5回	復習テスト	(内 容) これまでの総まとめと演習問題を解く。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習しておく(60分)
第6回	国内航空運賃・料金	(内 容) 国内航空の運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 教科書の該当部分をよく読んでおく。航空会社の時刻表を入手して熟読する(60分)
第7回	JR運賃	(内 容) JRに関する基礎知識と運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第8回	JR運賃	(内 容) JR運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第9回	JR運賃	(内 容) JR運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 また各規則について学ぶ。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第10回	JR運賃復習テスト	(内 容) 演習問題を解くことで理解を深める。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第11回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 教科書をよく復習する(60分)
第12回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習する(60分)
第13回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第14回	JR料金 復習テスト、まとめ	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。これまでの復習をおこない、理解度をチェックする。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する。練習問題を解く。
第15回	過去問題演習	(内 容) これまでの総復習と疑問点の克服を行い、本年度の試験に対応した模擬試験問題を解く。 (必要な準備) これまでの項目すべての総復習をおこなう。

授 業 名	旅行業法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Travel Agency Act			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 研一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	旅行のプロとして携わる『旅行業務実務』と密接に関係する『しなければならないこと』『してはいけないこと』を法律的視点、又現場実務の中で具体的な実例を基に学習し、9月に実施される国内旅行業務取扱管理者試験に合格に備える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 「旅行業法」という『法律』の理解となぜこの法律が制定された理由を知る。旅行者と旅行者の取引が法律上どのように規制されているのかを理解することにより適正な取引を行うことができる。</p> <p>2) 『旅行業』の実務における法律の範囲を正確に理解する事により『してはいけないこと』『しなければならないこと』を明確に判断できるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (旅行業における『言語』の理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(順守規定と罰則規定の確認)		
テ キ ス ト	一般社団法人 日本旅行業協会 発行 『旅行業法関係法令集』、『約款例集』							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	『旅行業法』という『法律』を判りやすく、実務とどのように関連しているのか個別の事例を基に理解してもらう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		旅行業法	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 旅行業法が制定された背景とは	(内 容) イントロダクション、授業の進め方、評価方法について概説する。 (必要な準備) テキストを購入して目を通しておくこと。(60分)	
第2回	旅行業法の内容(目的・定義)	(内 容) 基礎知識として、旅行業法令の法体系や法を構成する各制度のアウトラインをつかむ。 (必要な準備) 旅行業法令を学習するうえで知っておきたい予備知識としてテキストを読んでおくこと。(60分)	
第3回	旅行業法の施行規則の理解『登録制度』	(内 容) 「旅行業」の業務範囲について、種別ごとに正確に理解する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第4回	『営業保証金制度』と『弁済業務保証金』	(内 容) 営業保証金制度の趣旨と制度について詳しく学習する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第5回	旅行業務取扱管理者について『旅行業務取扱管理者』の選任、『職務』	(内 容) 旅行業務取扱管理者の具体的な職務とは何か、法的な立場と役割を明確に理解する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第6回	旅行業約款について『約款』の意味と『標準旅行業約款』、『約款の記載事項』を学習	(内 容) 旅行業約款の種類について、また旅行業法との違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第7回	中間まとめ『旅行業法』、『制度』、『約款』各項目の整理とまとめ	(内 容) まとめをした後、中間テストを行う。 (必要な準備) これまで授業で学んだところをしっかりと復習する。(60分)	
第8回	取引準則(法律にのっとた取引の基本)	(内 容) 旅行取引を適正化するための規定について詳しく学習する。 (必要な準備) 「第12条～第12条の9」の条文をしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第9回	旅程管理、旅程管理業務の実務について	(内 容) 企画旅行を実施する旅行者の義務である、企画旅行の円滑な実施を確保するための措置を学ぶ。 (必要な準備) 法12条の10および施行規則32条をよく理解しておくこと。(60分)	
第10回	禁止行為と行政処分について	(内 容) 旅行業法において、「～してはならない」という禁止行為についての規定と登録行政庁による「業務改善命令」や「罰則」などの行政処分について学ぶ。 (必要な準備) 旅行業法では、旅行者が行ってはならない13つの行為を予習しておくこと。(60分)	
第11回	旅行業代理業と実務	(内 容) 旅行者代理業者とは、旅行者の代理として、旅行業務を取り扱う者をいう。旅行者代理業者の行う業務の範囲を学習する。 (必要な準備) 登録制度をもう一度復習し、整理しておくこと。(60分)	
第12回	旅行業協会と弁済業務保証金制度について	(内 容) 旅行業協会は旅行者が社員となり組織する団体である。旅行業協会の行う業務について学習する。 (必要な準備) テキストをよく読んでおくこと。(60分)	
第13回	演習問題	(内 容) 旅行業務取扱管理者試験の過去問題を取り上げる。 (必要な準備) テキストを復習する。(60分)	
第14回	演習問題	(内 容) 旅行業務取扱管理者試験の過去問題を取り上げる。 (必要な準備) テキストを復習する。(60分)	
第15回	全体まとめ	(内 容) 習得事項の確認、資格試験の勉強方法とテクニクなど (必要な準備) 授業で学習した内容をもう一度理解しておくこと。(60分)	

授 業 名	旅行業約款			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Travel Agent Contract			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	鈴木 研一			対 象 学 生	歴史1回生		
授業の概要	<p>旅行業者と旅行者との間の契約条項である『約款』の意味と『標準力業約款』の『適用範囲』『用語の定義』『旅行契約の内容』『手配代行者』の総則(ルール)を旅行形態を『募集型企画旅行』と『受注型企画旅行』『手配旅行契約』『渡航手続き代行』『旅行相談契約』に分け、それぞれの違いを理解する。</p> <p>『旅行業約款』は現場で実際業務に携わる際には最も重要な細則であり、十分に理解する事により消費者(旅行者)との正しい取引を実行できるようにする。</p> <p>9月の国内旅行業務取扱管理者試験の合格に備える。</p>						
学習成果到達目標	<p>実際の旅行取扱の中で『約款』がどのように運用されているかを理解することにより適正な取引が行えるようになる。種々の旅行形態『募集型』『企画型』『手配』『手続き代行』『旅行相談契約』などそれぞれに対応する『標準旅行業約款』を理解し、適正な取引ができる。</p>						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (『旅行契約』の違いを理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	課題発見・解決能力	(実際の取引における『実例』を理解)
テキスト	一般社団法人 日本旅行業協会 発行 『約款例集』						
参考書	必要に応じて指示						
留意事項	旅行業務実務にかかわる取扱い細則なので『旅行形態』をよく理解したうえでそれぞれの細則により正確な取引を行えるようにする。又、過去における具体的事例を多用し、言葉ではなく『実例』で理解を深めるようにする。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		旅行業約款	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 最終目的である『旅行業務取扱管理者』、『 旅程管理主任者』の資格取得について	(内 容)	イントロダクション、『旅行業務取扱管理者』、『旅程管理者』の資格と役割を理解、『資格取得のための授業の進め方』、『評価方法について』概説する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレット(国内・海外)の約款記載を事前に読んでおく(30分)
第2回	旅行業約款(1)旅行業の種類と旅行の種類(旅行商品流通の仕組み)『募集型』『受注型』『手配』『渡航手続代行』『旅行相談』等の違い	(内 容)	旅行業の種類(第1・2・3・4種旅行業)及び旅行業代理業について、また、パッケージツアー等について説明する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第3回	旅行業約款(2)契約の締結(旅行パンフレットに何が書いてあるか)	(内 容)	契約の申し込みから、締結の拒否、成立の時期、契約書面の交付、確定書面、旅行代金についてパンフレットに基づいて理解する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第4回	旅行業約款(3)契約の変更(どんな場合に申込受付後に旅行代金の値上げができるのか)	(内 容)	契約内容、旅行代金の額の変更について具体的に学習する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第5回	旅行業約款(4)契約の解除(どんな場合に施行実施や参加をキャンセルできるのか)	(内 容)	契約の解除に関する部分は、試験で最も出題頻度の高い部分であるので、しっかりと学習する。 (必要な準備) 教科書第4章「契約の解除」を熟読しておく。(60分)
第6回	トラブル事例(1)の学習と解決策	(内 容)	実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第7回	中間まとめ	(内 容)	まとめをした後、旅行契約とは約款とは何かを問う。 各種旅行契約の違いを整理する。 (必要な準備) 『募集型企画旅行』『受注型企画旅行』『手配旅行』の違いを整理
第8回	旅行業約款(5)旅程保証(どんな日に旅行日程の変更はできるのか)	(内 容)	旅程保証制度は、契約内容に重要な変更があった場合に、旅行者が一定の変更補償金を支払うものであることを事例をもとに概説する。 (必要な準備) 教科書第7章「責任」を熟読しておく(60分)
第9回	トラブル事例(2)の学習と解決策	(内 容)	実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第10回	旅行業約款(6)旅程管理(添乗員の役割と責任)	(内 容)	旅行者の安全かつ円滑な旅行の実施を確保するための業務、添乗員の業務について事例をもとに紹介する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)
第11回	旅行業約款(7)特別補償(旅行中の事故や病気の補償)	(内 容)	諸外国にも例を見ない『消費者保護の規定』であるため、各細目をしっかりと整理しながら、ケーススタディーで説明する。 (必要な準備) 第27条の責任の解説をしっかりと理解しておくこと。(60分)
第12回	トラブル事例(3)の学習と解決策	(内 容)	実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第13回	運送・宿泊約款(運送機関やホテルの約款にはどんなことが書いてあるか)	(内 容)	国内航空、JR、フェリー、一般貸切旅客自動車等の約款ならびに宿泊規約を学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)
第14回	トラブル事例(4)の学習と解決策	(内 容)	実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第15回	全体まとめ『各旅行形態』の項目別(契約、変更、解除、団体、旅程管理、責任等)整理	(内 容)	習得事項の確認、資格試験の勉強方法とテクニクなど (必要な準備) これまで学習したことをの中で授業中に修得した『ポイント』の整理と復習しておくこと。(60分)

授業名	日本国憲法 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	The Constitution of Japan			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	<p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようにつくられ運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (国語表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著(嵯峨野書院)							
参考書	『憲法 [第五版] 』 [岩波書店]、『憲法判例百選 ・ [第6版] 』 [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。							
オフィス アワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		日本国憲法 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	法学入門	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。	
第2回	憲法入門	(内 容) 二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第3回	日本国憲法の成立	(内 容) 日本国憲法の成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第4回	天皇	(内 容) 天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承、皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。	
第5回	国民の権利及び義務	(内 容) 人権総論、国民の義務 (必要な準備) テキスト第3章第1・8節を精読しておく。	
第6回	国会 1	(内 容) 民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。	
第7回	国会 2	(内 容) 国会の地位、国会の構成、国会の活動、国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4・5・6節を精読しておく。	
第8回	内閣1	(内 容) 内閣の地位、立法権と行政権の関わり (必要な準備) テキスト第5章第1・2節をを精読しておく。	
第9回	内閣2	(内 容) 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章第3・4節を精読しておく。	
第10回	司法 1	(内 容) 司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。	
第11回	司法 2	(内 容) 裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。	
第12回	財政	(内 容) 財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。	
第13回	地方自治	(内 容) 地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。	
第14回	改正	(内 容) 憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。	
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容) 憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章を精読しておく。	

授業名	日本国憲法 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	The Constitution of Japan			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	<p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようにつくられ運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (国語表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著(嵯峨野書院)							
参考書	『憲法 [第五版] 』 [岩波書店]、『憲法判例百選 ・ [第6版] 』 [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。							
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		日本国憲法 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	法学入門	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。	
第2回	憲法入門	(内 容) 二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第3回	日本国憲法の成立	(内 容) 日本国憲法の成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第4回	天皇	(内 容) 天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承、皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。	
第5回	国民の権利及び義務	(内 容) 人権総論、国民の義務 (必要な準備) テキスト第3章第1・8節を精読しておく。	
第6回	国会 1	(内 容) 民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。	
第7回	国会 2	(内 容) 国会の地位、国会の構成、国会の活動、国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4・5・6節を精読しておく。	
第8回	内閣 1	(内 容) 内閣の地位、立法権と行政権の関わり (必要な準備) テキスト第5章第1・2節をを精読しておく。	
第9回	内閣 2	(内 容) 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章第3・4節を精読しておく。	
第10回	司法 1	(内 容) 司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。	
第11回	司法 2	(内 容) 裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。	
第12回	財政	(内 容) 財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。	
第13回	地方自治	(内 容) 地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。	
第14回	改正	(内 容) 憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。	
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容) 憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章を精読しておく。	

授業名	教育実習事前・事後指導 a (幼稚園)			開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・堀出 雅人・石川 千加代・奥 景子			対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	幼稚園教諭として責任ある行動がとれるように、教育実習の意義・目標・実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習では講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。						
学習成果到達目標	1) 幼稚園現場で実際に保育し幼児理解を学び身に付けたことが実践できるように、総合的な力を身につけることができる。 2) 幼稚園見学・保育の観察記録・指導計画案の理解などを通して、幼稚園教育実習への意識と責任をもつことができる。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験から学ぶことができる。						
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」京都教育大学附属幼稚園編						
参考書							
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。						
オフィスアワー	木曜日12時10分から13時						

授 業 名		教育実習事前・事後指導 a (幼稚園)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	教育実習事前・事後指導の授業について	(内 容) 授業の進め方 受講の心構え 教育実習の目的 幼稚園ボランティアの意義 (必要な準備) シラバスを読んでくる。(20分)	
第2回	幼稚園教育の内容	(内 容) 幼稚園教育の内容 (必要な準備) 幼稚園の教育の役割を調べる。(30分)	
第3回	幼児理解について	(内 容) 実習の中心となる幼児理解と幼児のかかわりについて (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第4回	幼児教育と仏教	(内 容) 仏教の精神と幼児教育について (必要な準備) 幼稚園での仏教行事について調べる。(40分)	
第5回	幼稚園指導計画の理解	(内 容) 指導計画案の理解 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第6回	幼児の観察記録の記入	(内 容) 幼稚園見学の課題である観察記録の目的・方法について 観察記録の作成 (必要な準備) 前回の復習(60分)	
第7回	幼稚園の見学について	(内 容) 華頂幼稚園の概要 見学の注意事項の確認 (必要な準備) 観察記録の仕上げ・提出(60分)	
第8回	華頂短期大学附属幼稚園見学(前半グループ)	(内 容) 幼稚園教育の理解 幼児理解 (必要な準備) 幼稚園のしおりの復習(20分)	
第9回	華頂短期大学附属幼稚園見学(後半グループ)	(内 容) 幼稚園教育の理解 幼児理解 (必要な準備) 幼稚園のしおりの復習(20分)	
第10回	2回生の教育実習体験を聴く会	(内 容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見直しをもつ。 (必要な準備) 観察記録の作成・提出(90分)	
第11回	実技・教材研究(行事と保育)	(内 容) 季節感を取り入れた制作を主とした保育の流れを体験する。 (必要な準備) 幼児が興味をもつ教材を調べる。(30分)	
第12回	実技・教材研究(制作と遊び)	(内 容) 季節の行事に関連した制作と制作物を使った遊びを体験する。 (必要な準備) 幼児の遊びを予想し制作内容を考えておく。(30分)	
第13回	華頂幼稚園見学の振り返り	(内 容) 幼稚園見学を振り返る。各クラスの保育の内容を知り理解を図る。 (必要な準備) 自分が見学した保育を振り返り、指導案を見直しておく。(30分)	
第14回	実技・教材研究(歌と生活)	(内 容) 生活の歌、仏教保育の歌、季節の歌、行事の歌を覚える。 (必要な準備) 授業全体の振り返り(60分)	
第15回	幼稚園現場研修のまとめ	(内 容) 各現場研修の状況と体験について共通理解し、2回生の授業につなぐ。 (必要な準備) 授業全体の振り返り(60分)	

授 業 名	幼児と生活		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Infant and Life		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	乾 眞理子・岸 優子		対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>幼児の遊びや生活経験をかさね身についた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 日常生活のなかから自然や生き物のなりたちや様子を感ずることができる。 2) 教材づくりの活動を通して、自分が生まれ育った地域社会や身近な人々とのかかわりについての理解を深め、気づいたことを発表する。 3) ワードやパワーポイントなどパソコンを使って課題や発表をすることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	なし							
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フルール館）『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省（日本文教出版） とその他は適宜紹介する。							
留 意 事 項	出席を重視する。この授業は完全なオムニバス形式で行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	1回目の授業で発表する							

授 業 名		幼 児 と 生 活
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する (必要な準備) シラバスで授業の流れを確認しておく(20分)
第2回	「生活科」について理解する 幼児教育と小学校教育との連続性	(内 容) 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する (必要な準備) 配布プリントを読んで復習しておく(40分)
第3回	幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する 幼児理解に基いた教材づくり	(内 容) 幼小中高一貫した「学び」の構造を理解する (必要な準備) プリントを読んで教材を考えておく(40分)
第4回	幼児と身近な人々とのかかわり テーマを設定する	(内 容) 生活科での取り組みから、幼児と身近な人々とのかかわりについて理解する (必要な準備) プリントを読みテーマを考えておく(60分)
第5回	幼児と地域社会とのかかわり(自分が生まれ育った地域社会について調べてみよう)	(内 容) 地域社会についての理解を深める (必要な準備) 自分が生まれ育った頃の地域社会について調べておく(60分)
第6回	幼児の生活と地域社会 スライドづくり	(内 容) 発表内容の構成を考える (必要な準備) 幼児の生活と地域社会について考えておく(60分)
第7回	幼児の生活と地域社会 プレゼンテーション	(内 容) 幼児がどのような社会環境の中で生活しているのかを理解し、表現することができる (必要な準備) ポートフォリオを完成させてくる(60分)
第8回	これまでを振り返り、次に繋がる課題を見出す	(内 容) 身近な地域社会と自分自身のかかわりについて気づいたことをまとめる (必要な準備) 今までのプリントを読み返す(60分)
第9回	幼児理解に基づいた教材づくり	(内 容) 自然観察について学ぶ (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第10回	遊びの中で広がり深まる生活経験	(内 容) 自然と生活環境の関連を考え、教材設定を行う (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第11回	幼児と自然とのかかわり	(内 容) 生活科での取り組みから自然とのかかわりを考える (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第12回	幼児の活動を豊かにする事例研究(秋を見つけよう)	(内 容) 発表原稿の作成 (必要な準備) 写真や資料を準備する(60分)
第13回	聴くことと伝え合いを育てる	(内 容) 「自然観察」の経験を言葉で表現する (必要な準備) 発表原稿を準備する(60分)
第14回	生活についての振り返り	(内 容) 食や睡眠の重要性を確認する (必要な準備) 1日の生活時間表を完成させておく(60分)
第15回	生活科の授業内容の計画	(内 容) 生活科の授業内容の計画をする (必要な準備) 資料を読んでおくこと(30分)

授業名	教育実習事前・事後指導 b			開講学年	2年生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・堀出 雅人・石川 千加代・奥 景子			対象学生	幼児教育2年生		
授業の概要	教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。						
学習成果到達目標	1) 実習の意義、目的を学ぶことができる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観について学ぶことができる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習直前の準備として、幼児とのかかわり（指導）、指導計画案の理解、実習ノート記入などの重要な意義を確認することができる。						
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」奈良女子大学附属幼稚園編						
参考書							
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。授業時間外で評価面談を行う。						
オフィスアワー	木曜日12時10分から13時						

授 業 名		教育実習事前・事後指導 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期の教育実習指導について	(内 容) 実習に向けた授業の進め方を理解する。実習生カードを記入する。 (必要な準備) 1回生の授業内容を確認しておく。(30分)	
第2回	幼稚園教諭になるための心構え 教育実習2週間の内容	(内 容) 教師としての意識をたかめる。2週間の実習内容を想定する。 (必要な準備) どのような教師になるか考える。(30分)	
第3回	6月実習目標の設定 オリエンテーションと報告書の説明	(内 容) 6月実習目標の設定、オリエンテーションの内容と報告書の記入について理解する。 (必要な準備) 保育実習に至る手続きを振り返っておく。(30分)	
第4回	「幼稚園指導計画案」の作成1 6月の指導計画	(内 容) 指導計画の目的と書き方を理解する。6月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (必要な準備) 6月実習目標の設定・提出(60分)	
第5回	実習の心構え 実習ノート記入の実際	(内 容) 6月実習ノート配布 実習の心構えの確認 実習ノートの内容を把握する。 (必要な準備) 指導計画案の立案・提出(120分)	
第6回	実習ノートを書くための保育の理解	(内 容) 実習ノート記入の必要性を理解し、記録のとり方を練習する。 (必要な準備) 配布された実習ノートを見直して来る。(30分)	
第7回	諸届けの記入 個人情報保護に関する誓約書の説明 実習訪問担当教員との顔合わせ	(内 容) 諸届けの記入の仕方と必要性を理解する。個人情報保護の重要性と社会人としての責任を確認する。 (必要な準備) 幼児の姿と保育の記録の作成・提出(60分)	
第8回	「幼稚園指導計画案」の作成2 学生作成の指導 計画案から学ぶ 実習評価の観点	(内 容) 学生が作成した指導案をもとに書き方を学び、各自見直す。実習評価の観点について理解する。 (必要な準備) 実習ノートの必要事項を記入する。(90分)	
第9回	幼稚園教育実習期間	(内 容) 実習 (必要な準備) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などをあらかじめ行っておく。(随時)	
第10回	幼稚園教育実習期間	(内 容) 実習 (必要な準備) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などをあらかじめ行っておく。(随時)	
第11回	6月実習の振り返り 9月実習の目標設定	(内 容) 振り返りシートを記入する。6月実習の反省をもとに9月実習の目標を設定する。 (必要な準備) 振り返りシート記入内容を考えてくる。(60分)	
第12回	幼児と楽しむ保育内容(実技・教材研究)	(内 容) 七夕の伝統行事を取り入れた幼児と楽しむ保育を体験する。 (必要な準備) 9月実習目標の設定・提出(60分)	
第13回	「幼稚園指導計画案」の作成3 9月の指導計画	(内 容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (必要な準備) 「教育課程・指導計画」の各学年9月の内容を予習して来る。(60分)	
第14回	6月実習の体験報告	(内 容) 各園の状況や実習内容の共通理解を図る。 (必要な準備) 9月指導計画案の立案(120分)	
第15回	9月実習に向けての心構えと準備	(内 容) 9月実習ノートの配布 9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする。 (必要な準備) 9月の保育を予想して心構えややるべきことを確認しておく。(30分)	

授業名	教職実践演習（幼稚園）			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Teaching Practice (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ・堀出 雅人・丸田 まゆみ			対象学生	幼児教育2年生			
授業の概要	教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかり身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための専門性を高め資質の向上を図る。							
学習成果到達目標	1) 幼稚園実習・ボランティアなどの現場体験の成果、2年間の各授業・各活動の状況を踏まえ、教員としての資質が身についているか確認することができる。 2) 自らの課題を認識するとともに不足していることを補い、教員としてスタートできる知識・技能や教養の定着を図ることができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省							
参考書								
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。保育現場において幼児を育てる責任の重さを認識すること。							
オフィス アワー	木曜日12時10分から13時							

授 業 名		教職実践演習（幼稚園）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	短大での授業・実習で学びの成果と課題	（内 容）実習について振り返り、省察する。 （必要な準備）9月実習を振り返りまとめてくる。（30分）	
第2回	華頂幼稚園運動会見学に向けて研修	（内 容）運動会の目的、幼児の発達に応じた内容を理解する。 （必要な準備）幼児の運動的な遊びについて予習しておく。（30分）	
第3回	華頂幼稚園運動会の見学・研修	（内 容）運動会の目的・内容について、幼児の活動する姿から理解し、記録する （必要な準備）プログラム内容を確認しておく。（20分）	
第4回	保護者対応について1 講義 - 子どもの発達と保護者支援 -	（内 容）幼児の成長に大切な保護者支援について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポートの作成・提出（60分）	
第5回	保護者対応について2 討議 - グループ討議と発表 -	（内 容）事例についてグループで話し合い発表する。様々な意見を聞き考えを上げる。 （必要な準備）前回の講義内容を復習しておく。（30分）	
第6回	教師の役割について研修1 「3年間の保育記録 - 4歳児 - 」	（内 容）4歳児の保育記録から、幼児の発達や実態に応じた指導援助を考察する。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（30分）	
第7回	命を大切にすることを育む1 「小動物の飼育を通して」	（内 容）小動物を飼育することから育まれる感性、命の理解と大切さについて学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第8回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）1 打ち合わせ	（内 容）テーマにそって、幼児が楽しんで参加したいと思う保育を考え企画する。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第9回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える -	（内 容）幼稚園教育の基本を踏まえた教育の大切さを確認した小学校への連続性を考える。 （必要な準備）グループ発表の計画書作成（60分）	
第10回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）2 準備とリハーサル	（内 容）各グループで準備を進める。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第11回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）3 グループ発表（前半）	（内 容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う。 （必要な準備）発表できるように計画書・準備物をそろえ、教員と打ち合わせをすませておく。（60分）	
第12回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）4 グループ発表（後半）	（内 容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う。 （必要な準備）各グループの評価とコメントを記述する。（20分）	
第13回	学級経営の視点 「幼児と教師でつくる生活発表会」	（内 容）幼児理解を大切にしながら日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実践について学ぶ。 （必要な準備）グループ発表評価表作成・提出（30分）	
第14回	命を大切にすることを育む2 「人権意識を高める」	（内 容）ひとりひとりの子どもの人権を守る教師の役割について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第15回	教師の役割について研修2 「3年間の保育記録 - 5歳児 - 」	（内 容）5歳児の保育記録から、集団の中で自立していく幼児の姿とそれを援助する教師の役割について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	

授 業 名	社会福祉概論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Social Welfare			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	本講では、現代社会が抱えるさまざまな社会問題を題材に福祉の在り方を考察し、社会福祉のあるべき姿を制度や実践の仕組みなどいろいろな面から考え、保育との関係性もとらえながら社会福祉を総合的に学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育を軸にした社会福祉の意義について明確に説明できるようになる。 2) 保育と関連するさまざまな分野とのつながりについて理解できる。 3) 保育に関わる専門職の役割と意義について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	学ぶ・わかる・みえる 「保育と社会福祉」 橋本 好市・宮田 徹 編集 出版社：株式会社 みらい							
参 考 書	適宜紹介する。							
留 意 事 項	時事問題（新聞、福祉系機関紙ならびに雑誌等）に関心を持ち、できるだけ多くのトピックスに目を向けること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		社会福祉概論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業オリエンテーション	(内 容) 授業の内容と進め方を説明。 (必要な準備) シラバスを確認しておく。(30分)	
第2回	保育と社会福祉	(内 容) 社会福祉を学ぶにあたって、現代社会の状況を保育問題と絡めて学ぶ。 (必要な準備) 保育の現状と課題を整理しておく。(30分)	
第3回	社会福祉の考え方と役割	(内 容) 社会福祉とは何か、基本的な概念を整理し、構造面や保育との関係からそのあり方と役割を学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の考え方を整理しておく。(30分)	
第4回	社会福祉の歴史	(内 容) 特に中世期以降の欧米の社会福祉の変遷、合わせて明治期以降の日本の社会福祉の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 中世期以降の欧米並びに日本の歴史について整理しておく。(30分)	
第5回	社会保障制度	(内 容) 生活を守る基本となる生活保障の概念と体系について、社会保険や公的扶助も含めて学ぶ。 (必要な準備) 社会保障の現状を整理しておく(30分)	
第6回	社会福祉制度と法体系	(内 容) 日本国憲法を基本とした社会福祉の法制度について、その内容や構造について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉法制度について整理しておく(30分)	
第7回	社会福祉の実施機関と行財政	(内 容) 社会福祉に関連する国・都道府県・市町村の福祉行政機関、福祉の専門行政機関、民間の福祉推進機関など様々な社会福祉実施機関の意味と現状について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の実施機関について整理しておく。(30分)	
第8回	社会福祉の施設	(内 容) 社会福祉施設について、施設の概要やその目的と意義、あわせて現状とこれらについて学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉施設について整理しておく。(30分)	
第9回	子どもの人権と児童家庭福祉	(内 容) 子どもの人権を軸に、子どもを取り巻く支援の現状について学ぶ。 (必要な準備) 子ども権利条約、子どもの最善の利益、児童福祉法などについて整理しておく。(30分)	
第10回	社会福祉の専門職と倫理	(内 容) 社会福祉や関連機関の概要や専門職の内容、その意味や役割について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の概要や専門職に求められる資質について整理しておく。(30分)	
第11回	相談援助の意味と方法 1	(内 容) 相談援助(ソーシャルワーク)の原理・原則、相談援助の分類やその内容などについて学ぶ。 (必要な準備) 保育士に求められるソーシャルワークについて整理しておく。(30分)	
第12回	福祉サービスの利用支援と第三者評価	(内 容) 社会福祉基礎構造改革を基本とした社会福祉サービスの動向及びその利用や利用支援について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉法の改正について整理しておく。(30分)	
第13回	権利擁護と苦情解決	(内 容) 権利擁護の意味と苦情解決について学ぶ。 (必要な準備) 権利擁護の基礎知識を整理しておく。(30分)	
第14回	地域福祉の意味と実践方法	(内 容) 地域福祉の理念、地域福祉の担い手、地域福祉の方法などについて学ぶ。 (必要な準備) 地域で暮らすという視点をベースに、行政と民間の協働による社会福祉の在り方、ボランティアの在り方などについて整理しておく。	
第15回	これからの社会福祉の在り方について	(内 容) これまでの授業を全体的に振り返り、より良い社会福祉実践のために、社会福祉専門職としての保育士の在り方について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の担い手としての保育士の役割を整理しておく。(30分)	

授 業 名	乳児保育 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	<p>児童福祉施設である特に保育所や認定こども園における乳児3歳未満児（0、1、2歳児）の保育に関する基礎的な知識・技術を習得する。</p> <p>1．乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。</p> <p>2．発達段階の特徴を踏まえた保育援助を理解し、保育者として養護すべき点や生活面での援助・方法の実際を学ぶ。</p> <p>3．保護者との連携について学ぶ。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 乳児期（0、1、2歳児）の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。</p> <p>2) 乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止の視点を説明できる。</p> <p>3) 保護者支援の重要性を理解し、対応や配慮事項について簡潔に説明できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館							
留 意 事 項	「乳児」に接する機会が極めて少ないと思われるので、日頃から乳児を観察する意識をもったり、乳児の理解を助けたりするために視聴覚教材や玩具の実物を活用しながら講義を中心にすすめる。また、実際に乳児クラスで使えるおもちゃ制作をする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		乳児保育 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	乳児および乳児保育の概念	(内 容) 乳児の概念について理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)	
第2回	乳児保育の基本、制度	(内 容) 乳児の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第3回	乳児の発達と保育の方法	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(0歳児・1歳児) (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第4回	乳児の発達と発育	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(2歳児クラス) (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第5回	乳児保育の実際	(内 容) ビデオ視聴しながら解説する。乳児の実際について映像を通して理解する。乳児に関してわからない点を明確にする。 (必要な準備) これまでの復習をしておく。(30分)	
第6回	乳児保育の方法	(内 容) 食事(授乳・調乳・離乳食)、排泄、睡眠などの基本的な生活習慣と援助について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第7回	乳児保育の方法	(内 容) 衣服の着脱、環境整備、清潔について理解する (必要な準備) プリントを理解し復習する。(30分)	
第8回	乳児保育と保健衛生及び安全	(内 容) 乳児にとっての手遊び、ふれあい遊び、絵本の役割について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第9回	乳児クラスの計画と記録	(内 容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第10回	家庭・地域との連携	(内 容) 連絡帳、園だより、個人懇談、クラスだよりなどについて理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第11回	子育て支援の現状	(内 容) 少子化対策の経緯や子育て支援の現状についての理解し、説明できる (必要な準備) プリントを読んでおく	
第12回	保育者の資質と役割	(内 容) 乳児保育担当者としての心構えと役割、資質向上の視点 (必要な準備) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおく(60分)	
第13回	乳児の健康管理と安全	(内 容) 保育室の安全管理、健康管理(SIDSの理解)、予防接種などについての理解 (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第14回	乳児のおもちゃ制作	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作の実施と配慮すべき事項を理解する。 (必要な準備) おもちゃを制作するものに必要な材料を準備し、持参する。(40分)	
第15回	まとめ 各自のおもちゃ発表	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作を発表する (必要な準備) 各自、おもちゃを完成させておく(60分)	

授業名	障害児保育 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care for Children with Disability			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	障害のとらえ方や保育について歴史的な経過や現状をおさえた上で、各障害に対する基礎知識、保護者等への支援、他機関との連携等について学ぶ方を解説します。また、障害児は成長すれば障害者として生活します。保育士として、将来を見据えて現在と関わることは大切だと考えますので、可能な限り障害者の事例も紹介しながら授業を進めます。							
学習成果到達目標	1) 障害の概念と障害児保育の理念を理解する。 2) 発達を支援する保育者として必要な基礎知識について理解する。 3) 保護者、家族への支援について理解する。 4) 社会資源や関係機関との連携について理解する。 5) 障害児を取り巻く現状を把握し障害児保育の課題を理解する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (興味・関心を高める	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	公益財団法人児童育成協会監修『基本保育シリーズ 障害児保育』中央法規、2015							
参考書	尾崎康子他編著『よくわかる障害児保育』ミネルヴァ書房、2010							
留意事項	保育士必修科目であることを意識する。教科書や講義の内容をただ「受け取る」だけでなく、それに対する自分の考えを持つよう心がけながら授業に出席して下さい。							
オフィス アワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00を基本とし、授業の空き時間等は研究室前に掲示します。							

授 業 名		障 害 児 保 育 a ・ b
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 「障害」の概念、障害児保育を支える理念等を紹介しながら、本講義について全体像を解説する。 (必要な準備) 教科書のはじめに、第1講 Step 1を読んでおく。
第2回	障害児保育の歴史の変遷	(内 容) 戦後から現在に至る障害児保育の歴史の変遷や制度の変遷について、発達保障など関連する基本的考え方を交えて講義する。 (必要な準備) 教科書の第2講 Step 1を読んでおく。
第3回	視覚・聴覚障害児の理解と支援	(内 容) 視覚障害、聴覚障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第3講 Step 1を読んでおく。
第4回	肢体不自由児の理解と支援	(内 容) 肢体不自由に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第4講 Step 1を読んでおく。
第5回	知的障害児の理解と支援	(内 容) 知的障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第5講 Step 1を読んでおく。
第6回	発達障害の理解と支援(1)	(内 容) 発達障害の全体像、ADHD、学習障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第6講 Step 1を読んでおく。
第7回	発達障害の理解と支援(2)	(内 容) 自閉症スペクトラム障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第7講 Step 1を読んでおく。
第8回	障害児の発達と環境	(内 容) 各障害の特性を踏まえ、障害のある子どもの発達と環境、保育者の関わりについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第8講 Step 1を読んでおく。
第9回	子ども同士の関わりと育ち合い	(内 容) 障害のある子ども同士、障害のある子どもと障害のある子どもの関わりから、子ども同士の関わりと育ちについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第9講 Step 1を読んでおく。
第10回	保育過程に基づく指導計画の作成、記録、評価	(内 容) 保育過程の基盤となる理念や基本的な考え方、それに基づく指導計画の作成、記録、評価の視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第10講 Step 1を読んでおく。
第11回	個別の支援計画	(内 容) 個別の支援計画とは何か、実際の様式を見ながら計画の各項目の意味、作成の留意点、今後の課題について講義する。 (必要な準備) 教科書の第11講 Step 1を読んでおく。
第12回	保護者や過程に対する支援	(内 容) 保護者のまなざしを意識しつつ、障害のある子どもの保護者や家庭への支援について、また障害のない子どもの保護者との関わりについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第12講 Step 1を読んでおく。
第13回	地域の社会資源との連携	(内 容) 地域の社会資源について整理し、関係機関との連携について、連携の留意点を含めて講義する。 (必要な準備) 教科書の第13講 Step 1を読んでおく。
第14回	小学校等との連携	(内 容) 幼稚園や保育所等から小学校に就学する際の手続きや留意点、保育者に期待される役割について講義します。 (必要な準備) 教科書の第14講 Step 1を読んでおく。
第15回	これまでの総括	(内 容) 障害児保育や障害児教育、障害者福祉における現状と課題に触れながら、これまでの講義を振り返り総括して講義する。 (必要な準備) 教科書の第15講 Step 1、おわりにを読んでおく。

授 業 名	保育実習指導 a		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Guidance on Child Care Training		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・箱田 成司・日永 よし子		対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	春学期の事前指導は、児童福祉施設（保育所・居住型児童福祉施設）での実習施設の概要と実習の意義・目的、実習方法を理解するために、主として講義を通じて行う。保育士の職務は「援助」が主であるため、その援助職に求められるコミュニケーション力を高める演習を行う。また、実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解を得るために、視聴覚教材等を用いる。実習に関わる書類準備を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解できる。 2) 実習生としての心構えが理解できる。 3) 保育士の役割・専門性・実習施設の理解を明確にし、実習生としての姿勢が確立できる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	『保育実習』鈴木えり子編 相川書房							
参 考 書	随時紹介する							
留 意 事 項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)							
オ フ ィ ス ア ワ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。							

授 業 名		保育実習指導 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 実習関係連絡票の説明	(内 容) 授業内容や受講についての諸注意 実習における調査票の作成・説明・留意事項の確認 (必要な準備) 保育士資格を取得するかを考えておく
第2回	保育実習概要の説明 保育実習の意義・目的	(内 容) 実習概要について学ぶ。保育実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 実習関係連絡調査票 教科書を読んでおく
第3回	施設実習の意義・目的	(内 容) 施設実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく
第4回	保育所実習の実際を知る	(内 容) 保育所の一日についてビデオ視聴し保育所実習とは何をするのかを考え、保育内容や、保育所のデイリープログラムを理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく
第5回	施設の実習内容を理解する(種類など)	(内 容) 乳児院 児童養護施設の一日のビデオを視聴し理解する。施設実習先の実習内容を理解する、施設の種類について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第6回	施設実習の実際を知る	(内 容) ビデオ視聴し施設実習とは何をするのかを考えその意義を考える (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第7回	実習に必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第8回	実習に必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第9回	実習に必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第10回	実習に必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第11回	実習方法の説明	(内 容) 実習方法、実習園の選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習報告書の書類提出について理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第12回	実習方法の説明	(内 容) 地域ごとの顔合わせを実施する 京都市内も同様に説明を行う (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第13回	実習依頼時の基本的なマナー	(内 容) 基本的なマナーを学ぶ(実習依頼、挨拶や電話のかけ方) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第14回	実習生カードの作成 下書き	(内 容) 実習生カードの作成説明 下書きの提出 (必要な準備) 写真2枚 黒ペンを持ってくる。施設実習の期間発表の掲示を見ておく
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り)秋学期に向けての課題	(内 容) 春学期の学びの振り返りと夏期休暇中の課題の説明を聞く (必要な準備) 春学期のファイルをまとめておく、ノートを確認しておく(30分)

授業名	保育実習指導 a			開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・名賀 亨・箱田 成司・日永 よし子			対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	<p>「保育実習」の事前指導であり春学期から引き続き実施する。 いよいよ保育実習を間近に控えた秋学期は実習での実務内容を具体的に学んでいきます。 保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、実習目標を明確にもって取り組めるように準備をします。 また、実習を円滑にすすめるための記録の記入方法や指導計画の考え方、指導案の立案・教材研究、保育実技などの知識や技能を習得します。保育士の職務内容や実習内容についてさらに理解を深めるために、ビデオ視聴や2回生からのアドバイスを聞く機会も持ちます。 実習に伴う各種書類についての説明も行います。</p>						
学習成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自分自身の実習施設に対してより深く理解し、実習に対する意欲を高めることができる。 2) 保育所実習と施設実習のそれぞれの制度や実習意義を理解でき、実習課題を明確にできる。 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。 5) 実習後は反省文、反省会、評価面談等を通じて、実習体験や成果をさらに深め、保育士としての役割・専門性・自己評価・自己点検をし、各自の課題等をさらに深化できる。 						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	春学期のテキストを継続して使用します。(『保育実習』鈴木えり子編(相川書房))						
参考書	随時紹介する						
留意事項	保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)						
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。						

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		
	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期休暇の課題の点検 (必要な準備) 夏期課題のレポート 名札 先輩への質問を明確にしておく
第2回	実習報告会 (保育所実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく
第3回	実習報告会 (施設実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく
第4回	自閉症について	(内 容) 自閉症について理解を深め、保育者としてのかかわりを理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第5回	知的障害者とのかかわり、支援について	(内 容) 知的障害者の生活、かかわり、支援について、実習生としてどのようにかかわるかを具体的に学ぶ (必要な準備) 障害者支援について講義ノートを見直しておく
第6回	保育所実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第7回	施設実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第8回	指導計画と教材準備	(内 容) 簡単な制作を実施する。指導のポイントを理解する。指導計画を学ぶ。 (必要な準備) はさみ 色鉛筆 新聞紙 のり セロテープなどを持ってくる
第9回	指導計画と教材準備	(内 容) 簡単な制作を通して指導のポイントを理解し、指導計画を立案する。 (必要な準備) 指導計画(案)を書いてくる(60分)
第10回	施設実習先(母子生活支援施設、児童養護施設)における実習の学び	(内 容) 母子生活支援施設や児童養護施設についてその現状、実習生としてのかかわりや心構えを理解する (必要な準備) 講義ノートを見直しておく
第11回	実習目標・課題を明確にする (保育所)	(内 容) 保育所における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第5章を読んでおく(30分)
第12回	実習目標・課題を明確にする (施設)	(内 容) 施設実習における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第6章を読んでおく(30分)
第13回	実習の心得 実習の諸注意、実習に関する手続き	(内 容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーション、お礼状など、実習の具体的内容を確認する。健康診断、検便検査の手続きの説明、検査申込み書類の提出をする (必要な準備) 検査に伴う証紙、切手代を購入しておく
第14回	実習課題の見直し 指導 実習直前の指導	(内 容) 実習課題の個別添削を返却し、指導。質疑応答を行い、実習への不安を解消する (必要な準備) 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく
第15回	訪問担当者との個別面談	(内 容) 実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う (必要な準備) 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく

授 業 名	児童福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	現代の社会状況、特に少子や高齢の社会を背景に、家庭や地域で子どもはどのような生活をしているのか。生活は子どもの成長発達を十分保障できる状況なのか。子どもは社会や地域や家庭の問題から厳しい生活を強いられることもある。それが人間として成長発達することを阻害することにもなりかねない。子どもの生活にかかわる問題を解決するためにはどのような社会的支援や児童福祉が必要かを学び、児童福祉の理念と意義について考え、基本的人権の理解を深める。子どもがかかえる問題について細かく分析をしながら授業を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現代の社会状況を理解し、子どもたちの生活実態の把握をすることができる。 2) 子どもがかかえる問題の現状とその対策について考えることができる。 3) 児童福祉施策の現状を理解し、その課題について考え、児童福祉に理解を深めることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (汎用的能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	流石智子編著『児童家庭福祉・子どもの幸せを考える』あいり出版 2012年							
参 考 書	授業で指示する。							
留 意 事 項	指示されたテキストを中心に授業をする。試験はテキストの持ち込みを、可とするので必ず購入すること。授業中にレポート課題の提示をしてレポート提出をしたり、ビデオを見て感想の提出を求める。ビデオの時間をとるために、学びスケジュールが変更になる時もある。(連絡する)							
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日の12時10分～13時まで。いつでも在室の時は可能です。(対応できない時は、時間の調整をします)詳しくは研究室に掲示するので、確認してください。							

授 業 名		児童福祉	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	児童福祉とは	(内 容)	児童福祉の基本理解 (必要な準備) 児童の現状を新聞等で、理解しておく。(30分)
第2回	少子社会と子どもの発達保障・少子化・子育て	(内 容)	少子化と子育て支援の現状 (必要な準備) テキスト、少子化と子育て支援の現状(69頁～)を読み理解しておく。(30分)
第3回	少子社会と子どもの発達保障・母子保健と発達保障	(内 容)	母子保健と子どもの発達保障 (必要な準備) テキスト、母子保健と子どもの発達保障(76頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第4回	子どもの健全育成と課題・健全育成	(内 容)	児童健全育成の今とこれから (必要な準備) テキスト、児童の健全育成の今とこれから(83頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第5回	子どもの健全育成と課題・保育ニーズ	(内 容)	多様な保育ニーズと子育ての課題 (必要な準備) テキスト、多様な保育ニーズと子育て(90頁～)のところを読み理解しておく。
第6回	子育て問題	(内 容)	現代家庭のかかえる子育て問題 (必要な準備) テキスト、現代家庭のかかえる子育て問題(97頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第7回	子どもと虐待	(内 容)	子育て家庭と子ども虐待 (必要な準備) テキスト、子育て家庭と子ども虐待(100頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第8回	子育てとドメスティック・バイオレンス	(内 容)	ドメスティック・バイオレンスと現代家庭 (必要な準備) テキスト、ドメスティック・バイオレンスと現代家庭(104頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第9回	子育てと児童養護	(内 容)	家庭で育つことができない子どもたち (必要な準備) テキスト、家庭で育つことができない子どもたち(107頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第10回	障がいのある子どもたち	(内 容)	障がいのある子どもたちへの対応 (必要な準備) テキスト、障がいのある子どもたちへの対応(110頁～)のところを読み理解を深めておく。(30分)
第11回	少年非行と子どもの育ち	(内 容)	少年非行等に陥る子どもたちへの対応 (必要な準備) テキスト、少年非行等に陥る子どもたちへの対応(115頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第12回	社会的養護の理解と子どもの育ち	(内 容)	社会的養護の充実と子どもたち (必要な準備) テキスト、社会的養護の充実と子どもたち(118頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第13回	ひとり親家庭の現状と課題	(内 容)	ひとり親家庭の子どもたち (必要な準備) テキスト、ひとり親家庭の子どもたち(121頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第14回	諸外国の子育て事情	(内 容)	諸外国の子育て事情 (必要な準備) テキスト、諸外国の子育て事情(135頁～)を読み、日本との違いを理解しておく。(30頁)
第15回	児童・家庭福祉の動向とこれから	(内 容)	児童・家庭福祉の課題 (必要な準備) テキスト、児童家庭福祉の課題と展望(127頁～)のところをよく読み、自分でもその課題についてまとめる。(1時間)

授 業 名	相談援助 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Consultation Support			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	相談援助の理論や意義を理解するとともに、相談援助の方法（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）に関して、発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法について保育と関連させながらその内容を学習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について説明することができるようになる。 2) グループワークにおける相互作用を理解し、保育の現場で実践できるようになる。 3) 学んだ技術を現場で総合的に応用実践することができるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	「相談援助」 編著：大嶋恭二・金子恵美 出版社：建帛社							
参 考 書	「社会福祉援助技術論」 編：基礎からの社会福祉編集委員会 出版社：ミネルヴァ書房							
留 意 事 項	保育士も実践現場において相談援助の諸技術を活用し支援することが求められている。この授業では、相談援助の価値や原則、過程をワークショップなども交えて学ぶため、援助者としての保育士を意識して積極的にかつ主体的に授業に参加すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		相談援助 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業オリエンテーション	(内 容)	授業の内容と進め方、評価方法などを説明するとともに、15回の授業計画と概要を説明する。 (必要な準備) シラバスを読み相談援助を自分なりに整理し、15回の学びをイメージしておく。(30分)
第2回	相談援助の基本的な考え方	(内 容)	相談援助の必要性や専門性から相談援助を学ぶ意義、相談援助の定義と内容を学ぶ。 (必要な準備) 保育現場での相談援助の必要性を整理しておく(30分)
第3回	相談援助の理論、意義、機能	(内 容)	保育業務と相談援助を関連させながら、相談援助の意義や機能について学ぶ。 (必要な準備) 児童家庭福祉実践に特徴的な相談援助の視点を整理しておく。(30分)
第4回	相談援助とソーシャルワーク	(内 容)	ソーシャルワークとしての相談援助について、その意味や原理・原則について学ぶ。 (必要な準備) 相談とは何か、援助とは何かについて整理しておく。(30分)
第5回	保育とソーシャルワーク	(内 容)	保育を通じたソーシャルワークの在り方や基本原理について学ぶ。 (必要な準備) 保育実践に重要な子どもの最善の利益に関して、子どもの権利条約も含めて整理しておく。(30分)
第6回	相談援助の方法と技術 1 相談援助の対象	(内 容)	相談援助の対象理解の視点について、また、様々な場面での対象について学ぶ。 (必要な準備) 個人・家族・集団といった対象について整理しておく。(30分)
第7回	相談援助の方法と技術 2 相談援助の過程	(内 容)	相談援助におけるプロセスの中で、受理、事前評価、計画といった具体的な過程についてその全体像を学ぶ。 (必要な準備) 相談から始まる相談援助の流れを整理しておく。(30分)
第8回	相談援助の方法と技術 3 相談援助の技術とアプローチ	(内 容)	相談援助技術の枠組みについて、原理・原則を含めてその全体像を学ぶ。 (必要な準備) 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について整理しておく。(30分)
第9回	相談援助の方法と技術 4 個別援助技術	(内 容)	直接援助技術の一つとしてとしてのケースワークについて、その内容、方法、原則について学ぶ。 (必要な準備) バイスティックの7原則について整理しておく。(30分)
第10回	相談援助の方法と技術 5 集団援助技術 1	(内 容)	直接援助技術の一つとしてとしてのグループワークについて、様々な定義を理解し、その内容について学ぶ。 (必要な準備) グループワークの考え方を整理しておく。(30分)
第11回	相談援助の方法と技術 6 集団援助技術 2	(内 容)	グループワークの実践方法、支援者としてのかかわり方、ファシリテーションの在り方などについて学ぶ。 (必要な準備) グループワークの原則、支援者と対象者との関係性について整理してお行く。(30分)
第12回	相談援助の方法と技術 7 地域援助技術	(内 容)	間接援助技術の一つの方法としての、コミュニティ・ワークについてその基本的な考え方と実際について学ぶ。 (必要な準備) コミュニティ・ワークについて整理しておく。(30分)
第13回	相談援助の方法と技術 8 その他の援助技術	(内 容)	その他の間接援助技術について、それらの意味と実際の支援について学ぶ。 (必要な準備) 相談援助のアプローチを間接援助技術の視点で整理して、各種調査などの必要性について整理しておく。(30分)
第14回	相談援助の方法と技術 9 基本資料の作成	(内 容)	相談援助の基本となる資料の内容やその作成方法などについて学ぶ。 (必要な準備) 自分がこれまで生きてきた「ライフヒストリー」を整理しておく。(30分)
第15回	まとめ 授業全体の振り返り	(内 容)	保育を軸にした相談援助に関する具体的な展開について、これまでの授業を振り返るとともに、これからの保育実践における相談援助の在り方について学ぶ。 (必要な準備) 相談援助に必要な社会資源の活用や調整あるいは開発について整理しておく。(30分)

授業名	小児保健実習 a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Infant Health Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	菅生 久子			対象学生	幼児教育2ya～yc			
授業の概要	保育の指導者として、あるいは将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院）							
参考書	『小児保健実習ノート』 榎原洋一監修（診断と治療社）							
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前にテキストの該当箇所をよく読んでおくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		小児保健実習 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方、乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備) テキストp.89～92をよく読んでおくこと
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキストp.35～39をよく読んでおくこと
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法	(内 容) 発達曲線とカウプ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキストp.21～35 p.17〔母子健康手帳〕
第4回	バイタルサインの測定法	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の整理と測定方法 (必要な準備) テキストp.107～109をよく読んでおく
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視力・聴力の発達と測定方法、尿便の生理 (必要な準備) テキストp.86～89をよく読んでおくこと
第6回	歯の健康と歯みがき指導法	(内 容) 歯の発育、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) テキストp. 247～249〔歯ブラシと手鏡〕
第7回	咀嚼機能 母乳の与え方・調乳の方法	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法 (必要な準備) テキストp.52～61をよく読んでおくこと
第8回	生活リズムの確立 赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操 (必要な準備) テキストp.41～43 p.73～84
第9回	新生児の沐浴 身体の清潔法	(内 容) 沐浴の意義・沐浴の仕方、清拭・部分浴 (必要な準備) テキストp.93～98〔エプロン〕
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) ウイルス性・細菌性疾患と看護、手洗い方法 (必要な準備) テキストp.161～183をよく読んでおくこと
第11回	一般症状に対する看護(発熱腹痛下痢便秘) 電法	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護、電法の意義と方法 (必要な準備) テキストp.113～119 p.127～129
第12回	一般症状に対する看護(嘔吐咳嗽けいれん脱水) 消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、消毒方法 (必要な準備) テキストp.119～124 p.162～163
第13回	薬の扱い方与え方 保育の現場での医薬品 エピペン	(内 容) 薬の正しい与え方、エピペンの使い方 (必要な準備) テキストp.125～127 p.150 p.224
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 事故・心肺蘇生法の意義と方法、AEDの使い方 (必要な準備) テキストp.185～204 p.207～211
第15回	応急手当 包帯法 まとめ	(内 容) 誤飲・創傷・熱傷の対処法、包帯の種類と方法 (必要な準備) テキストp.204～207をよく読んでおくこと

授 業 名	小児保健実習 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Infant Health Care Training			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	今井 富江			対 象 学 生	幼児教育2yd～yf			
授業の概要	<p>子どもの健康が守られることにより、保育実践はより豊かなものとなるため、保育者は子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では小児の発育発達状態を理解するとともに、小児の病気の予防、健康教育、疾病の早期発見、救急処置、看護、安全な保育環境についての知識と技術を習得することを目標とする。児童福祉施設の保健活動について理解し、小児の成長・発達をサポートするうえでの基本的な知識と技能を習得する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 乳幼児期の健康管理を適切にできる知識を獲得できる。 2) 乳幼児の発育を理解し説明できる。 3) 個々に応じた看護を理解し、感染予防、事故の予防等の方法がわかる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	「子どもの保健・実習」(同文書院)兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著							
参 考 書	「赤ちゃん子どもの健康相談」(婦人之友社)「保育保健の基礎知識」(日本小児医事出版社)							
留 意 事 項	講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		小児保健実習 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション・授業計画、乳幼児の扱い方	(内 容) 乳児の抱き方、衣服の着脱おむつのあて方 (必要な準備) テキストp89～p92をよく読んでおくこと	
第2回	身体発育の測定方法について	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキストp35～p39	
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法について	(内 容) 発達曲線とカーブ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキストp21～p35 母子手帳持参	
第4回	バイタルサインの測定方法について	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法 (必要な準備) テキストp107～p109を読んでおくこと	
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視聴覚の発達と測定方法 尿便の生理 (必要な準備) テキストp86～p89を読んでおくこと	
第6回	歯の健康と歯みがき指導	(内 容) 乳歯の役割、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) テキストp251～p253 歯ブラシと手鏡持参	
第7回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達、調乳と消毒	(内 容) 母乳の与え方、人工栄養(授乳と調乳の方法) (必要な準備) テキストp52～p61を読んでおくこと	
第8回	生活リズムの確立と赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、赤ちゃん体操 (必要な準備) テキストp41～p43 p73～p84	
第9回	身体の清潔と新生児の沐浴について	(内 容) 沐浴の意義と沐浴の仕方・清拭・部分浴、 (必要な準備) p93～p98 エブロン持参のこと	
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) 手洗い ウイルス性・細菌性の病気と看護 (必要な準備) テキストp161～p183を読んでおくこと	
第11回	一般的な症状に対する看護(発熱 腹痛 下痢 便秘)	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護 冷電法 (必要な準備) テキストp113～p119を読んでおくこと	
第12回	一般的な症状(嘔吐 咳嗽 けいれん 脱水)などの看護と消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、吐物の消毒 (必要な準備) テキストp119～p124 p162～p163を読んでおくこと	
第13回	薬の与え方・保育現場での医薬品について	(内 容) 薬を与えるための工夫、エビペンの使用について (必要な準備) テキストp125～p127 p150を読んでおくこと	
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 誤飲・窒息・やけど・転落などの事故、心肺蘇生法、A E Dについて (必要な準備) テキストp184～p211を読んでおくこと	
第15回	応急手当・包帯法	(内 容) 全体的な復習 応急処置と傷の手当 (必要な準備) 包帯法 テキストp204～p207	

授業名	小児保健実習 c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Infant Health Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	花原 勢津子			対象学生	幼児教育2yg～yi・yj～yl			
授業の概要	保育の指導者として、あるいは、将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院）							
参考書								
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前に教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施。							

授 業 名		小児保健実習 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション・乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方・乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備) テキスト P.84～85 P.90～92	
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長、体重、胸囲、頭囲の測定・大泉門の観察 (必要な準備) テキスト P.35～37	
第3回	身体発育の評価方法	(内 容) 発達曲線、カウプ指数、肥満度の理解・母子手帳の活用 (必要な準備) テキスト P.32～35 持ち物：電卓	
第4回	バイタルサインの測定方法	(内 容) 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定・一般状態の観察法 (必要な準備) テキスト P.107～109	
第5回	視力・聴力の発達と測定方法	(内 容) 視力検査、聴力検査 (必要な準備) 事前に資料配布	
第6回	身体の清潔法・新生児の沐浴	(内 容) 沐浴の意義、沐浴の仕方・清拭、部分浴の仕方 (必要な準備) テキスト P.93～98 持ち物：エプロン	
第7回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法と離乳食の進め方 (必要な準備) テキスト P.52～63	
第8回	歯の健康と虫歯予防	(内 容) 歯の発育、歯みがき指導（ブラッシング指導） (必要な準備) 事前に資料配布	
第9回	生活リズムの確立・排泄の自立	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操、排泄の自立について (必要な準備) テキスト P.74～79 P.246 P.86～88	
第10回	一般的な症状に対する看護（1）	(内 容) 発熱、腹痛、下痢等の看護、電法の方法 (必要な準備) テキスト P.113～119	
第11回	一般的な症状に対する看護（2）・薬の与え方	(内 容) 嘔吐・けいれん等の看護、経口補水療法、薬の取り扱いについて (必要な準備) テキスト P.119～124 P.125	
第12回	感染症・感染予防	(内 容) 感染の予防の仕方、嘔吐物の処理の仕方、手洗い方法 (必要な準備) テキスト P.161～181	
第13回	応急手当・心肺蘇生法	(内 容) 子どもの事故の特徴、けが・やけど・鼻出血等の対処法、AEDの使い方 (必要な準備) テキスト P.189～215	
第14回	骨折や打撲の手当（包帯法）	(内 容) 副木や三角巾の使い方、包帯の巻き方 (必要な準備) 事前に資料配布	
第15回	集団保育における健康管理・小児保健実習のまとめ	(内 容) 保育における健康支援について・小児保健実習のまとめ (必要な準備) テキスト P.219～245 持ち物：テキストと配布したプリント	

授 業 名	家庭支援論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Studies on Family Support			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	現在子育てに関する多くの問題が提示されているが、家族のあり方そのものや、私たちの家族に対するイメージが問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は歴史的産物であるという認識をもち、何が問題なのかということを広く社会システムの中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる育児問題を理解する「視点」を得ることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	配布プリント使用							
参 考 書	『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著(昭和堂)、『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著(ミネルヴァ書房)ほか適宜紹介する							
留 意 事 項	出席・授業態度を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		家庭支援論 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション・家族イメージについて	(内 容) 現在の私たちの家族イメージはどのようなものか理解する (必要な準備) シラバスをよんでおく	
第2回	近代化と家族	(内 容) 近代化することによって家族はどのような変化を遂げたのかを理解する (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第3回	育児ストレス	(内 容) 育児ストレスや育児不安について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第4回	母親の育児ストレス	(内 容) 母親の育児ストレスの実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第5回	育児ストレス：事例研究	(内 容) 育児ストレスにかかわる具体的な映像を見る (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第6回	育児ストレス：事例研究まとめ	(内 容) 事例を分析する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第7回	母親の育児ネットワーク	(内 容) 母親の育児ネットワークについて理解する (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておく(30分)	
第8回	父親の育児	(内 容) 父親の育児の実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第9回	父親の育児ストレス	(内 容) 父親の育児ストレスについて理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第10回	日本の育児支援制度	(内 容) 育児休業について理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第11回	家庭保育時間の実態	(内 容) 父親、母親の保育時間の実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第12回	スウェーデンの子育て支援制度	(内 容) スウェーデンの子育て支援について理解する (必要な準備) スウェーデンの国について調べておく(30分)	
第13回	スウェーデンの子育て支援の実際	(内 容) スウェーデンの子育て支援の実際について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第14回	北欧からみる日本の子育て支援の課題	(内 容) 日本の子育て支援の課題を考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 半期間の授業内容をまとめる (必要な準備) 疑問点をまとめておく(30分)	

授 業 名	養護内容 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	井上 新二			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf			
授業の概要	社会的養護について理論的な内容を踏まえて説明するとともに、児童養護施設で生活する子どもたちの具体的な姿を紹介することにより、社会的養護の現状と課題を明らかにする。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 社会的養護の現状と課題を理解することができる。 2) 児童養護施設の子どもの現状と課題を理解できる。 3) ソーシャルワークのできる保育者としての姿勢・態度・実践力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 (社会的養護を必要とする子どもたちへの共感) ()			課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	特になし							
参 考 書	「児童養護施設の子どもの思いと願い」 井上新二著(明石書店)							
留 意 事 項	保育士を志望する学生の履修を期待します。社会的養護の必要な子どもたちに対して、共感的な理解と実践的な姿勢を期待します。シラバスに示された講義内容に沿って予習・復習をしっかりと行ってください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		養護内容 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 講義内容の概略 社会的養護に対する考え方を巡って	(内 容) 社会的養護の概略を理解する。 (必要な準備) 子どもの豊かな育ちに必要なものを事前に整理しておく。
第2回	資料から見える社会的養護の現状と課題について (1) 「施設型養護」の現状と課題 「家庭型養護」の現状と課題	(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。
第3回	資料から見える社会的養護の現状と課題について (2) 「要保護児童」の増加について 「進学、就職の状況」の資料から見えてくるもの	(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。
第4回	社会的養護の意義と役割について 社会的養護とは... 社会的養護の理念 社会的養護の役割と機能	(内 容) 社会的養護の意義と役割について理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。
第5回	社会的養護の歴史的な背景について 日本における社会的養護の歴史 国際的に見た社会的養護の歴史 子ども観の深まりと社会的養護	(内 容) 社会的養護の歴史的な背景について理解する。 (必要な準備) 子ども観の歴史的な変遷について関連の資料を読む。
第6回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの(1) 入所理由の主なもの 入所理由の背景にあるもの	(内 容) 入所理由の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 児童養護施設に関する資料を調べておく。
第7回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの(2) 児童虐待について 児童虐待の背景にあるもの 児童虐待を防止するために	(内 容) 児童虐待の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 新聞報道等の虐待に関する資料を調べておく。
第8回	児童養護施設の子どもたちの姿について(1) 日々の暮らしの中で	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第9回	児童養護施設の子どもたちの姿について(2) 気懸かりな子どもたちの様子	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第10回	児童養護施設の子どもたちの姿について(3) 子どもたちの強さと優しさ	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第11回	児童養護施設の子どもたちの姿について(4) 子どもたちの思いと願い	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第12回	児童養護施設の子どもたちの姿について(5) 将来の進路を巡って	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第13回	社会的養護の実際(1) 家庭養護(里親) Aちゃんの事例を通して	(内 容) 里親制度について理解するとともに、里親の果たす役割について理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。
第14回	社会的養護の実際(2) 施設養護 ある児童養護施設が大切にしていること 社会的養護における保育者の役割と責務	(内 容) 社会的養護における保育者の役割と責務について理解する。 (必要な準備) 社会的養護のために自分に何が出来るかをまとめておく。
第15回	社会的養護の今後の課題 危惧される「マイナスの連鎖」を断ち切るために	(内 容) 危惧される「マイナスの連鎖」について理解する。 (必要な準備) 「マイナスの連鎖」について事前に調べておく。

授 業 名	養護内容 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育2yg～yl			
授業の概要	社会的養護について理論的な内容を踏まえて説明するとともに、施設や里親家庭で生活する子どもたちの具体的な姿を紹介することにより、社会的養護の現状と課題を明らかにする。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 社会的養護の現状と課題を理解することができる。 2) 児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちの現状と課題を理解できる。 3) ソーシャルワークのできる保育者としての姿勢・態度・実践力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	安藤和彦・石田慎二・山川宏和 編著 『社会的養護内容演習』 建帛社							
参 考 書	適宜紹介する							
留 意 事 項	視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となります。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究日をのぞいて、研究室に在室していれば対応します。							

授 業 名		養護内容 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(内 容) 社会的養護の課題について (必要な準備) 保育実習を振り返っておく
第2回	社会的養護を利用する子どもの権利擁護	(内 容) 被措置児童等虐待について (必要な準備) 関心を持ってニュースなどを見る
第3回	社会的養護を利用する子どもの自立	(内 容) 進学や就職に伴う課題について (必要な準備) テキスト8章を読んでおく
第4回	里親養育の実際	(内 容) 里親養育の課題と現状について (必要な準備) テキスト13章を読んでおく
第5回	社会的養護の支援計画 記録と評価	(内 容) ジェノグラムとエコマップ (必要な準備) テキスト4章を読んでおく
第6回	社会的養護の支援計画 個別支援計画	(内 容) アドミッション・ケアについて (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第7回	社会的養護における日常生活支援 児童養護施設のインケア	(内 容) 施設入所前後の生活について (必要な準備) テキスト6章を読んでおく
第8回	社会的養護における日常生活支援 衣食住	(内 容) 児童養護施設の衣食住の生活について (必要な準備) テキスト6章を読んでおく
第9回	社会的養護における日常生活支援 障害児入所施設	(内 容) 障害児の個別支援計画と日常生活について (必要な準備) テキスト5章と7章を読んでおく
第10回	自立支援と退所後の支援	(内 容) 社会的養護児童の退所後の生活 (必要な準備) 税金や保険について調べておく
第11回	社会的養護にかかわる専門技術 衣食住など	(内 容) 課題を抱える児童の身辺的自立支援について (必要な準備) 実習日誌を見直し、テキスト9章を読んでおく
第12回	社会的養護にかかわる専門技術 学習支援など	(内 容) 課題を抱える児童の学習支援について (必要な準備) テキスト10章を読んでおく
第13回	対人関係・社会生活にかかわる専門的技術	(内 容) 社会の規範や性への対応について (必要な準備) テキスト11章を読んでおく
第14回	家庭支援のためのソーシャルワーク	(内 容) 親子関係再構築について (必要な準備) テキスト12章を読んでおく
第15回	里親委託児童の支援	(内 容) 里親委託と養子縁組について (必要な準備) 関心を持ってニュースを見る

授 業 名	施設養護論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Social Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	施設養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法 について学ぶと共に、施設や施設職員の役割を理解し、援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 施設養護を必要とする問題の発生状況と施設援助について理解する。 2) 子どもや親に対する支援について理解する。 3) 社会的養護の課題と将来像について理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	プリントを配付							
参 考 書	児童福祉法 児童虐待の防止に関する法律 社会的養護の課題と将来像(厚生労働省)							
留 意 事 項	前半は講義を中心に学び、中盤には事例により施設の現状を理解する。後半には事例を中心に援助の展開について学 ぶ。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		施設養護論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション・社会変化の理解	(内 容) シラバスの説明 家族観の変化と養護ニーズの理解 (必要な準備) 社会的養護についての事前学習	
第2回	家庭養育の現状の理解	(内 容) 家庭養育の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家族観の変化についての復習	
第3回	家庭養育支援の理解	(内 容) 家庭養育支援の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家庭養育の現状についての復習	
第4回	児童虐待の理解	(内 容) 児童虐待の現状について学び理解を深める (必要な準備) 児童虐待についての事前学習	
第5回	児童虐待とその対応	(内 容) 児童相談所機能の理解 (必要な準備) 児童虐待対応についての事前学習	
第6回	施設の理解 (DV被害者支援)	(内 容) 事例を通してDV (ドメスティック・バイオレンス) について理解を深める (必要な準備) DVについての事前学習	
第7回	施設の理解 (社会的養護の施設の理解)	(内 容) 社会的養護の施設について理解を深める (必要な準備) 社会的養護の施設についての事前学習	
第8回	社会的養護と課題と将来像の理解	(内 容) 社会的養護の課題と将来像 (必要な準備) 社会的養護の現状の理解	
第9回	社会的養護の課題と将来像の理解	(内 容) 家庭養護・家庭的養護についての学習 (必要な準備) 家庭的養護・個別対応についての事前学習	
第10回	施設の理解 (児童養護施設)	(内 容) 児童養護施設について理解を深め考察する (必要な準備) 児童養護施設についての事前学習	
第11回	施設の理解 (児童心理治療施設)	(内 容) 児童心理治療施設 (情緒障害児短期治療施設) について理解を深め考察する (必要な準備) 児童心理治療施設についての事前学習	
第12回	少年犯罪の理解 (事例を中心に)	(内 容) 事例を通して少年犯罪について考察する (必要な準備) 少年犯罪についての事前学習	
第13回	児童虐待事例検討 (身体的虐待・ネグレクト)	(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) ニーズと支援についての事前学習	
第14回	児童虐待事例検討 (性的虐待・心理的虐待)	(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) ニーズと支援についての事前学習	
第15回	振り返りとまとめ	(内 容) 施設養護についてのまとめ (必要な準備) これまでの授業の振り返りとまとめ	

授 業 名	保育所保育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Nursery School Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育所保育士としての保育力の向上を目指し、保育内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>造形表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。</p> <p>表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育内容を総合的に理解する。</p> <p>2) 保育実践力を高める。</p> <p>3) 保育計画が立案できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	随時プリントを配布する							
参 考 書	授業にて提示する							
留 意 事 項	受講人数、受講生の希望などで保育実践の内容を変更する。保育実践研究に必要な材料等は各自で準備すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に提示する							

授 業 名		授 業 計 画
保育所保育論		
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方を知る、保育所保育の保育内容・基本的原理の理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	保育内容 1	(内 容) 保育所での保育内容について相互に理解する (必要な準備) 保育所実習での保育実践をまとめておく(30分)
第3回	保育内容 2	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 保育所実習での保育実践内容をまとめておく(30分)
第4回	保育内容 3	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 保育所実習での保育実践内容をまとめておく(30分)
第5回	保育内容 4	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 発表の準備をする(30分)
第6回	保育所の役割の理解	(内 容) 保育所の役割を理解する、保育制度および現状の理解、保育ニーズの理解と問題点を理解する (必要な準備) 保育所の社会的役割について考えてくる
第7回	保育実践 1	(内 容) 保育制作(おもちゃづくり)をする (必要な準備) おもちゃに必要な材料を用意しておく
第8回	保育実践 2	(内 容) 素話を体験する (必要な準備) 素話を練習してくる(30分)
第9回	保育実践 3	(内 容) 新聞紙あそびの体験をする (必要な準備) 新聞紙を持ってくる、新聞紙を使った遊びを考えてくる
第10回	保育活動と指導計画の立案	(内 容) 指導計画を作成する (必要な準備) 保育活動、年齢を考えて指導計画を書いてくる(60分)
第11回	ヒヤリハット	(内 容) ヒヤリハットについて理解するとともにその必要性を理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第12回	保育実践 4	(内 容) 簡単パネルシアター制作をする (必要な準備) 教材等の準備物をもってくる
第13回	保育実践 5	(内 容) 子どものダンスを実施する (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第14回	保育実践 6	(内 容) 乳児クラスでの手遊びを考えて実践する (必要な準備) 手遊びを考えてくる(10分)
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の資質および人間性についてまとめ発表する (必要な準備) 春学期を振り返っておく

授業名	子育て支援論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child-care Support			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	現代における子育ての現状を理解する。子育て支援の問題・課題を考え、今後どのような子育て支援制度が必要になってくるのか、また子育て支援を行っている人の専門性の向上にはどのような学びの場が必要かについても考える。							
学習成果到達目標	1) 現代の家庭の現状について理解することができる。 2) 子育て支援のあり方を学び、子育て支援の課題を考えることができる。 3) 子育て支援の事例を参考にして、具体的な子育て支援の方法を考えることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
留意事項	子育てについて自分の考え方を確立できるようグループ討議を行いながら授業をすすめる。子育て関係の新聞記事などを収集しておく(授業で発表する)。関係のビデオを視聴することによって子育てについての理解を深める。アクティブ・ラーニングでの授業展開を考えているので、必ず事前準備をしておくこと。							
オフィスアワー	初回に伝える。							

授 業 名		子育て支援論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方。授業の目標、評価について理解する。 (必要な準備) シラバスを読む。(15分)	
第2回	子ども・子育て支援策の特徴と課題について	(内 容) 男女共同参画について考える。 (必要な準備) プリントを復習する。(30分)	
第3回	ライフスタイルの選択・自立、結婚、出産について	(内 容) 自立とは。結婚、妊娠、出産について (必要な準備) プリントをまとめる(20分)	
第4回	ライフコースのパターン・子育てについて	(内 容) ライフサイクルにおける子育てについて (必要な準備) 課題を発見する(20分)	
第5回	働くこと・労働と子育てについて	(内 容) 働くこと・子育てをすること (必要な準備) プリントを読む。(20分)	
第6回	子育て環境について	(内 容) 子育て環境と女性の社会進出 (必要な準備) 働く環境を考える(30分)	
第7回	女性と家庭的責任について	(内 容) アンパイドワークとジェンダー (必要な準備) 家事労働を考える(30分)	
第8回	母子保健・妊娠、出産の支援について	(内 容) 母子保健と妊娠期の支援について (必要な準備) 支援方法を理解する(30分)	
第9回	日本の子育て観・3歳児神話、育児不安について	(内 容) 日本の子育て観、育児不安、障害児の育児 (必要な準備) プリントの要点をまとめる(30分)	
第10回	保育・働きながら子どもを育てるとは	(内 容) 保育所の現状と課題について (必要な準備) 保育所を理解をする(40分)	
第11回	保育所と待機児童等の問題について	(内 容) 待機児童問題と保育所以外の子育て支援について (必要な準備) 子育て支援の課題を発見する(30分)	
第12回	子育て支援・家庭で子育てをすることは	(内 容) 家庭で子育て・児童虐待等の問題 (必要な準備) プリントを理解し要点をまとめる(50分)	
第13回	子育て支援・社会が子育て家庭を支えるとは	(内 容) 地域での子育て支援について (必要な準備) 支援方法の概要を理解をする(30分)	
第14回	ひとり親家庭の養育問題について	(内 容) ひとり親家庭の支援策と養育問題 (必要な準備) プリント読み要点をまとめる(40分)	
第15回	本授業のまとめと振り返りをし、次に繋がる課題を見出す	(内 容) 支援施設と福祉の課題を学ぶ (必要な準備) プリントを読み要点をまとめる(30分)	

授業名	児童文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Children's Culture			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川北 典子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>多様性を極める現代の子どもをとりまく文化的環境のなかで、玩具や絵本など、乳幼児の身近な児童文化財については、それらを手渡すおとなの役割が重要となる。この授業では、保育教材としての児童文化財の活用・伝達の技術体得をとおして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもの生活に密接にかかわる児童文化について、概要を知り、その重要性を十分に理解する。 2) 実際に保育現場で、絵本や紙芝居、おはなしなど種々の児童文化財を活用することができるよう、技術や方法を習得する。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (創作力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『子どもの育ちを支える 児童文化』川北典子編著 あいり出版							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
留意事項	講義が中心であるが、適宜実技も取り入れる。常に子どもをとりまく文化的環境に関心を持つこと。							
オフィス アワー	授業終了後に実施する。							

授 業 名		児童文化
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	児童文化とは何か	(内 容) 児童文化の概念を理解し、考察を深める。 (必要な準備)
第2回	現代の子どもの生活と文化・文化財	(内 容) 子どもの生活と環境について見直す。 (必要な準備) 自身の子どもの頃の生活や遊び環境を思い出しておく。
第3回	児童文化財(絵本の創造)	(内 容) 絵本とは何かの認識を深め、概要を学ぶ。 (必要な準備) 子どもにとっての絵本の意義を考えておく。
第4回	児童文化財(絵本の種類)	(内 容) 絵本の種類について理解する。 (必要な準備) 自分の好きな絵本を見つける。
第5回	児童文化財(絵本の内容)	(内 容) 絵本の年齢や発達に応じた役割を理解する。 (必要な準備) 多くの絵本を読み、選択する。
第6回	児童文化財(児童文学・詩)	(内 容) 幼年文学や詩について、概要を理解する。 (必要な準備) 幼年文学や幼児対象の詩を読む。
第7回	児童文化財(おはなし)	(内 容) 口演童話・ストーリーテリングについて学ぶ。 (必要な準備) おはなしを覚える。
第8回	児童文化財(紙芝居)	(内 容) 紙芝居と絵本の違いを理解する。 (必要な準備) 紙芝居を演じる。
第9回	児童文化財(人形劇)	(内 容) 人形劇の歴史と概要について理解する。 (必要な準備) 人形劇について調べる。
第10回	児童文化財(玩具・遊具)	(内 容) 子どもの発達に応じた玩具や遊具を知る。 (必要な準備) 自身の子どもの頃に遊んだ玩具や遊具を思い出しておく。
第11回	指人形の制作	(内 容) 簡単な指人形を制作し、演じ方を身につける。 (必要な準備) 指定された道具や材料を用意する。
第12回	児童文化施設	(内 容) 児童館や児童図書館、博物館等について学ぶ。 (必要な準備) 地域の児童館や児童図書館(室)について調べておく。
第13回	児童文化活動(造形活動)	(内 容) 身近な素材で工夫して玩具を作る。 (必要な準備) 指定された道具や材料を準備する。
第14回	児童文化活動(遊び)	(内 容) 子どもの発達における遊びの重要性を理解する。 (必要な準備) 子どもにとっての遊びの意義について考える。
第15回	児童文化の展望と課題	(内 容) 児童文化にかかわる問題点と課題を考察する。 (必要な準備)

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	鈴木 えり子・藤井 裕子・名賀 亨・友本 喜代子・東野 洋子			対 象 学 生	幼児教育2回生		
授業の概要	「保育実習」の事前・事後に行う学内指導。1回生の「保育実習」の保育所実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、保育実習（保育所実習）に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代の保育所を取り巻く状況や問題点を理解し、保育士としての資質や能力を養う。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育実習の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	「保育実習指導」でのテキストを継続して使用します（『保育実習』鈴木えり子編）						
参 考 書	随時紹介します						
留 意 事 項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の習得状況及び出席状況によっては実習開始できないので注意すること。						
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。						

授 業 名		保育実習指導 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 保育実習 についての実習概要説明・講義の進め方 (必要な準備) 実習を終えてのレポート作成	
第2回	保育実習 の目的・意義	(内 容) 保育実習 との相違点について(段階性を理解する) (必要な準備)	
第3回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談	(内 容) 保育実習 の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる	
第4回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる	
第5回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習 (保育所実習)の振り返り	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる	
第6回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習 (保育所実習)の振り返り	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。振り返りを通して、実習 課題を明確にする。 (必要な準備) 保育実習記録もってくる	
第7回	実習生カードの作成・提出	(内 容) 実習生カードの作成 (必要な準備) 実習生カード作成に必要なものを用意する	
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(内 容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観を理解する (必要な準備) 保育士の倫理についてまとめておく	
第9回	保育実習 実習課題の確立	(内 容) 保育実習 の新たな課題を設定する (必要な準備) 実習課題を考えてくる(30分)	
第10回	実習課題 添削・指導 個別相談・指導	(内 容) 実習課題の添削指導 個別相談・指導 (必要な準備) 実習課題を仕上げておく(30分)	
第11回	実習記録の配布 説明	(内 容) 保育実習 の実習記録の配布、記録の説明 (必要な準備)	
第12回	8月の保育内容 水遊びの指導 注意事項 指導計画の立案	(内 容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画の立案し実践に向けての準備をする (必要な準備) 夏の保育活動をイメージしておく	
第13回	実習に向けて 実習の心得	(内 容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく	
第14回	実習に伴う準備 書類の説明 質疑応答 個別指導	(内 容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく	
第15回	訪問担当者との面談 相談 個別指導	(内 容) 実習訪問担当者との面談 個別指導 (必要な準備) 報告書等用意しておく	

授業名	音楽療法概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Music Therapy			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	坂口 みゆき			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における『音楽』の意義について説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房							
参考書	阪上正巳 (2015) 『音楽療法と精神医学』人間と歴史社 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房							
留意事項	毎回、テキストや配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で、授業に臨んでいただきます。ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。							
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授業名	音楽療法概論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) ・春学期の授業計画を説明する ・音楽療法士(2種)資格について説明する ・音楽療法で使用する楽器に触れる (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	音楽療法とは何か	(内 容) 音楽療法とは何か、国際的な共通認識を学ぶ。また、日本において音楽療法がどのように認識されているかを知る。その上で、本学で学ぶ音楽療法について理解する。 (必要な準備) テキスト p.i~p.ii 及び p.9~p.17 を読んでおく。
第3回	音楽療法の歴史と発展	(内 容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.1~p.3 を読んでおく。
第4回	音楽療法の4つのモデルと近年の新しいモデルについて	(内 容) 国際的に実践されている行動学的音楽療法・人間学的音楽療法・精神分析的音楽療法及びGuided Imagery and Musicについて概説する。また近年発展してきた音楽中心音楽療法・文化中心音楽療法・神経学的音楽療法についても概説する。 (必要な準備) テキスト p.3~p.5 を読んでおく。
第5回	音楽療法の「音楽」について	(内 容) 音楽療法における「音楽」について学び、一般的に理解されている「音楽」との違いを理解する。特に、「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (必要な準備) テキスト p.5~p.7 を読んでおく。
第6回	ワークショップ : 図形楽譜を使って即興する	(内 容) 図形楽譜を用いて、即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.5~p.7 と前回の授業のノートを読み返しておく。
第7回	発達の援助と音楽療法	(内 容) ニーズや障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.29~p.39 を読んでおく。
第8回	知的障害と音楽療法	(内 容) 知的障害を持つ成人の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第9回	ワークショップ : 絵を演奏する	(内 容) 絵を見ながら、即興的な音楽づくりを行う。 (必要な準備) 第6回の授業で学んだことを復習しておく。
第10回	精神疾患と音楽療法	(内 容) 精神障害を持つ人々の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.17~p.20 を読んでおく。
第11回	高齢者と音楽療法	(内 容) 高齢者の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.26~p.28 を読んでおく。
第12回	ワークショップ : 物語を演奏する	(内 容) 絵本などの物語を読み、即興的な音楽づくりをする。 (必要な準備) 第9回の授業で学んだことを復習しておく。 好きな絵本を持参する。
第13回	音楽療法の実践形態について	(内 容) 音楽療法の基本的な実践形態である個人療法とグループ療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.14~p.15 及び p.21~p.26 を読んでおく。
第14回	音楽療法の価値について考える	(内 容) ここまでの授業を振り返りつつ、即興的な音楽づくりを媒体にした心理療法である「音楽療法」の価値を改めて考える。 (必要な準備) テキスト p.195~p.202を読んでおく。
第15回	・ワークショップ : 「今」を演奏する ・まとめ	(内 容) ・「今」思いつくままに、即興で音を奏で、音楽づくりをする。 ・4回のワークショップを通して、即興的な音楽づくりが音楽療法の臨床で用いられる意義を考える。 ・春学期全体のまとめをする。 (必要な準備) 春学期の講義で学んだことを、ノートを読み返して復習しておく。

授 業 名	音楽療法各論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Advanced Music Therapy			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	国際的に実践・研究の進んでいる音楽療法のうち、特に即興的音楽づくりを媒体とする2つの音楽療法モデルについて、その理論的背景を学ぶ。また、各モデルに依拠した音楽療法の事例購読を通して、音楽療法臨床を具体的に知る。即興的な音楽づくりを体験的に学び、臨床の媒体とする意義を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 即興的音楽づくりを媒体とする音楽療法について、その理論の概要を説明することができる。 2) 即興的音楽づくりを、音楽療法の媒体とする意義を説明することができる。 3) 即興的な音楽づくりを媒体として、創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に演奏中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房							
参 考 書	藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』 ミネルヴァ書房							
留 意 事 項	テキストの指定箇所または配布プリントを読んでおくこと。ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名	音楽療法各論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) ・秋学期の授業計画を説明する ・即興的な音楽づくりについての復習 (必要な準備) 春学期の復習をしておく
第2回	臨床即興について	(内 容) 即興的な音楽づくりを、音楽療法において専門的に用いる「臨床即興」について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.67～p.81 及び p.96～104 を読んでおく。
第3回	ワークショップ : コラージュを演奏する	(内 容) コラージュを作り、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。 (必要な準備) 捨てても良い雑誌を持参する。
第4回	音楽療法の人間性心理学的アプローチについて	(内 容) 人間学的音楽療法の理論的基盤である人間性心理学の概要を学ぶ。また、人間性心理学に依拠した音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第5回	オルフ＝ムジークセラピーについて	(内 容) 人間性心理学的なアプローチの一つであるオルフ＝ムジークセラピーの概要を学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.51～p.65 を読んでおく。
第6回	人間学的音楽療法の事例を読む	(内 容) 人間学的音楽療法の事例を輪読し、考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第7回	人間学的音楽療法の事例を読む(続き)	(内 容) 前回の続き。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第8回	ワークショップ : 音楽を目に見える形で表現する	(内 容) いくつかの時代の音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・製作をする。 (必要な準備) 使用したい素材があれば持参する。
第9回	精神分析理論の概要	(内 容) 精神分析的音楽療法の理論的基盤である、精神分析の諸理論の概要を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	音楽療法の精神分析的アプローチについて	(内 容) 精神分析の理論に依拠した音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.105～p.127 を読んでおく。
第11回	精神分析的音楽療法の事例を読む	(内 容) 精神分析的音楽療法の事例を輪読し、考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第12回	精神分析的音楽療法の事例を読む(続き)	(内 容) 前回の続き。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第13回	ワークショップ : 絵を演奏する	(内 容) 絵を描き、それを即興的に音楽で表す。 (必要な準備) これまでのワークショップで学んだことを復習しておく。
第14回	ワークショップ : 即興創作と即興演奏	(内 容) クラスを2グループに分け、片方が即興的な音楽づくりをし、もう片方がそれを聞きながら創作をする。 (必要な準備) 前回のワークショップについてのミニレポート
第15回	秋学期のまとめとワークショップ : 年度終わりの即興演奏	(内 容) 秋学期学んだことのまとめと、グループ即興を行う。 (必要な準備) 前回のワークショップについてのミニレポート

授業名	からだのしくみ			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Mechanism of Human Body			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	介護2回生			
授業の概要	<p>人体の構造、機能および疾病についての基礎的事項を講義する。さらに、人体を器官系に分類し、関連する疾病群の解説をする。また、健康を維持するための基礎的注意点についても述べる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 人体の構造と機能の基礎的事項が理解できる。 2) 疾病の原因とその予防法について理解できる。 3) 健康の概念を理解し、生活に生かしていくことができる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	<p>医学入門 土田隆編者 建帛社</p>							
参考書	<p>使用しない</p>							
留意事項	<p>難解な医学用語、内容が多いので、毎回の予習および復習は必要である。</p>							
オフィス アワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							

授 業 名		からだのしくみ
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	身体の基本的構造	(内 容) 細胞の基本構造と種類 (必要な準備) 教科書 p.1-8を一読しておく
第2回	循環器系	(内 容) 心臓の構造と機能、血液およびリンパ液の成分と循環について (必要な準備) 教科書 p.13-16を一読しておく
第3回	循環器系疾患について	(内 容) 心臓と血液および血液の疾患 (必要な準備) 教科書 p.70-75を一読しておく
第4回	消化と吸収	(内 容) 消化と吸収のしくみ (必要な準備) 教科書 p.20-25を一読しておく
第5回	消化器系疾患	(内 容) 消化器系の疾患と症状について (必要な準備) 教科書 p.87-95を一読しておく
第6回	尿の生成と排泄	(内 容) 腎臓の構造と機能、排尿の仕組みについて (必要な準備) 教科書 p.26-28を一読しておく
第7回	腎・泌尿器疾患	(内 容) 腎臓、前立腺の疾患 (必要な準備) 教科書 p.95-97を一読しておく
第8回	呼吸器の構造と役割	(内 容) 呼吸器の構造と機能、呼吸の調節機能について (必要な準備) 教科書 p.17-20を一読しておく
第9回	呼吸器系疾患	(内 容) 呼吸器系の疾患 (必要な準備) 教科書 p.76-86を一読しておく
第10回	脳と神経のしくみ	(内 容) 脳・神経系の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p.8-12を一読しておく
第11回	神経疾患	(内 容) 神経疾患の種類と原因について (必要な準備) 教科書 p.56-69を一読しておく
第12回	内分泌系のしくみについて	(内 容) 内分泌系の相互作用 (必要な準備) 教科書 p.29-33を一読しておく
第13回	内分泌・代謝系疾患	(内 容) 代謝疾患の種類と原因 (必要な準備) 教科書 p.98-102を一読しておく
第14回	感染症について	(内 容) 感染症の種類と原因 (必要な準備) 教科書 p.137-145を一読しておく
第15回	健康の概念	(内 容) WHO憲章から健康の定義について (必要な準備) 教科書 p.158-163を一読しておく

授 業 名	介護技術		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	介護2回生				
授業の概要	<p>利用者は各々の生活背景や生活史の違いによってさまざまであり、障がいのある人や高齢者の生活を理解する必要がある。介護の技術のみを習得するのではなく、なぜその方法をとるのかという根拠とともに、介護技術 で習得した技術を生かし、食事、排せつ、清潔保持という応用的な介護技術を行う。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1)自分が行った介護方法に対して人に根拠を説明できる 2)介護に必要な専門用語が理解できる 3)介護される立場にたった丁寧な介護技術が展開できる 4)利用者理解を行ったうえで、介護技術を提供できる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	介護福祉士養成施設講座編集委員会「生活支援技術」、中央法規							
参 考 書	随時、プリントを配布します							
留 意 事 項	実技室に入室するときには「介護技術」と同様、身支度を整えてください							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に張出しします							

授 業 名		介 護 技 術
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス 感染予防	(内 容) 介護技術の進め方 感染の経路を知ったうえで予防の方法を身につける (必要な準備) テキストでわからない語句や、読み方を調べておく
第2回	食事介護 意義と目的、嚥下のメカニズム	(内 容) ビデオを見ながら嚥下のメカニズムを知る とろみをつけた食事を食べる 脱水、誤嚥の危険性を理解する (必要な準備) テキスト第4章「食事の介護」p188～198を読んでおく
第3回	おいしく食べることを支える介護	(内 容) 食事の工夫、食器の工夫、献立に興味を持ってもらえるような食事を考える 認知・知覚機能が低下している人の介助方法を身につける (必要な準備) テキストp199～210を読んでおく
第4回	利用者の状態・状況に応じた食事介護	(内 容) 感覚機能及び運動機能が低下している人の介助方法を身につける 視覚障がい者への食事介護の実践 片まひ者への食事介護の実践 (必要な準備) テキストp213～220を読んでおく
第5回	清潔保持の介護 理論	(内 容) 入浴の意義と目的を理解する (必要な準備) テキスト第5章「清潔の介護」p222～229を読んでおく
第6回	清潔保持の介護 全身清拭	(内 容) 入浴におけるリスクを考える 体調管理や環境整備をおこなう (必要な準備) テキストp230～235を読んでおく
第7回	清潔保持の介護 洗髪	(内 容) 洗髪を行う上での留意を知る 洗髪の介護を身につける (必要な準備) テキストp236～242を読んでおく
第8回	清潔保持の介護 障害に応じた入浴	(内 容) 様々な入浴形態を知る 入浴を行う上での留意を知る 入浴での配慮を身につける (必要な準備) テキストp243～247を読んでおく
第9回	清潔保持の介護 口腔ケア	(内 容) 口腔のしくみ、唾液の役割を知る ブラッシングの方法を身につける 義歯の取扱いを身につける (必要な準備) テキストp248～255
第10回	清潔保持の介護 足浴・手浴	(内 容) 手浴・足浴の介助方法を身につける 他のスキンシップの方法を知る (必要な準備) テキストp256～268を読んでおく
第11回	排せつ介護 メカニズムと排せつ障害	(内 容) 排せつのメカニズムを知る 排せつ障害を学ぶ 排せつに障害がある人の気持ちを理解する (必要な準備) テキスト第6章「排せつの介護」p270～262を読んでおく
第12回	排せつ介護 気持ち良い排せつを支える介護	(内 容) 様々な福祉用具とおむつの種類を見、選択方法を学ぶ (必要な準備) テキストp263～310を読んでおく
第13回	排せつ介護 安全・的確な排せつの介助の技法	(内 容) おむつ交換、ポータブルトイレの使い方を身につける (必要な準備) テキストp311～331を読んでおく
第14回	実技テスト(事例演習)	(内 容) 事例を読みこみ「その人」に必要な 介護を行う (必要な準備) 今まで学んだ技術の振り返りをしておく
第15回	介技術 のまとめ	(内 容) 事例の振り返りを行う (必要な準備) 実技試験での評価基準を参考にし、復習しておく

実習名	教育実習	対象学生	幼児教育学科2回生
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・武田 康晴・堀出 雅人・石川 千加代・林 静香・藤井 裕子・山部 泰司・乾 眞理子・小川 隆昭・坂口 みゆき・山本 明美		
実習の概要	<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。(6月に2週間、9月に2週間の2回行う。原則として、同一園で2回実習を行う。)</p> <p>教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <p>1. 事前オリエンテーション</p> <p>実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。</p> <p>2. 参加実習</p> <p>担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。</p> <p>3. 部分実習・指導実習(研究実習)</p> <p>実習生が責任をもって指導計画を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習指導」(1回生秋学期、2回生春学期)を必ず履修していること。 ・「教育実習指導」の出席状況および各種レポート等の提出がない場合には、実習を中止することがあるので気をつけること。また、教職課程関係の授業の履修状況においても同様である。 		

実習名	保育実習 a	対象学生	幼児教育学科1回生
担当者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・名賀 亨・箱田 成司・日永 よし子・浅田 瞳・乾 眞理子・小川 隆昭・坂口 みゆき・堀出 雅人・山部 泰司・山本 明美		
実習の概要	<p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <p>実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児(利用者)に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。特に保育所実習では部分実習を行うことを目指します。</p> <p>実習先でのオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。</p> <p>実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。</p> <p>保育所実習</p> <p>公立・私立の認可保育所(幼保連携型認定こども園を含む)で行う。</p> <p>実習時期は1回生の2~3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上(10日間以上)</p> <p>通勤による実習</p> <p>実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。</p> <p>施設実習</p> <p>児童福祉法に定められる児童福祉施設等で保育所以外の居住型福祉施設で行う。</p> <p>実習時期は1回生の2~3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上(10日間以上)</p> <p>原則宿泊による(一部のみ通勤)による実習</p> <p>実習先の種別: 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者支援施設等</p> <p>実習先は学校で割り振り配属します。(個人的な事情等については事前に申し出ること配慮します)</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・保育実習指導(1回生春学期・秋学期)を必ず履修していること。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		

実 習 名	保育実習 a	対 象 学 生	幼児教育学科2回生
担 当 者	鈴木 えり子・藤井 裕子・名賀 亨・友本 喜代子・東野 洋子・浅田 瞳・乾 眞理子・下温湯 まゆみ・山部 泰司・堀出 雅人・小川 隆昭・坂口 みゆき・山本 明美		
実習の概要	<p>「保育実習」は保育所での実習です。 「保育実習」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的にします。 乳幼児の実態を把握し、保育計画と実践とのかかわりや保育者の援助や対応について体験的に学ぶことを目的にします。 実習内容は保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行うことを最終目標とします。 保育実習に向けての学内授業である「保育実習指導」を必ず履修しておくこと。 実習保育所（園）の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。</p> <p>保育所（園）実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行うこと。「保育実習」の保育所実習先と同様とする（原則）。 実習時期 2回生の8月 実習日数 1日8時間以上、80時間以上（10日間以上）</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・この科目が単位認定されるには、「保育実習指導」を必ず履修している必要があります。 ・「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		

授 業 名	総合基礎演習 x a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	伊藤 真昭			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	自ら考え・自ら調べ・自ら対話し、他者とのコミュニケーションをはかる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 学習の方法と基礎学力の向上を図る。 2) 関心や目的意識を喚起することを目標とする。 3) 自分の考えていることを他者に伝えることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	担当教員が授業中に提示する。							
参 考 書	『第12回京都検定 問題と解説』 『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』 週刊朝日百科『新発見 日本の歴史』全50冊							
留 意 事 項	日本史・京都の歴史を研究する2年間であるという目的意識をもって授業にのぞむこと。歴史学研究の基礎を学ぶ。そのため漢字辞書・国語辞書・歴史辞典、古語辞典などを必ず用いること。インターネットの情報には頼らないこと(ネットの情報は間違いが多いため)。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		総合基礎演習 x a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンスと自己紹介	(内 容) この授業の狙いを説明する (必要な準備) シラバスを熟読すること(15分)。	
第2回	第12回京都検定3級試験問題 歴史・史跡・神社・寺院・建築・庭園・美術・芸術・文化・祭り と行事	(内 容) 第12回京都検定3級試験問題 前半 (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第3回	第12回京都検定3級試験問題 京料理と京菓子 ・京都のならわし・言葉と伝説・京都の地名・自然と観光	(内 容) 第12回京都検定3級試験問題 後半 (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第4回	第12回京都検定3級試験問題の実施	(内 容) 試験の実施と答え合わせ (必要な準備) テキストの該当箇所をよく読んでおく(60分)。	
第5回	縄文・弥生・古墳時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第6回	飛鳥時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第7回	飛鳥時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第8回	奈良時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第9回	平安時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第10回	鎌倉時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第11回	室町時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第12回	戦国史研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第13回	江戸時代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第14回	近現代研究の最前線	(内 容) 選択したテキストの内容をレポートし、質疑応答する。 (必要な準備) テキストを事前に読み、要約し、レジュメを作成する(60分)。	
第15回	合同ゼミ事前学習	(内 容) グループ毎に研修先の事前学習をする。 (必要な準備) グループで研修先の下調べをしておく(60分)。	

授 業 名	総合基礎演習 x b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	土井 哲治			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	<p>華頂短期大学で学ぶための基礎能力を修得するために、資料や文献の集め方、読み方、レジメの作成方法、及び発表・討議の仕方を学ぶ。材料としては、年中行事を取り上げる。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 学習方法の基本が分かっている。 2) 年中行事について十分な知識を得て説明できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック							
参 考 書	授業時に適宜紹介する。							
留 意 事 項	発表担当の時は、十分に調べ発表用資料も各自で用意する。非担当の時も、テーマについて事前学習をし、発言できるようにしておく。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に適宜知らせる。							

授 業 名		総合基礎演習 x b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入 京都検定学習 1	(内 容) 授業概要の説明と京都検定学習 1 (必要な準備) 入学前学習の総括	
第2回	京都検定学習 2	(内 容) 京都検定 3 級の内容について学習する。 (必要な準備) テキスト該当箇所の予習	
第3回	京都検定学習 3	(内 容) 京都検定 3 級の内容について学習する。 (必要な準備) テキスト該当箇所の予習	
第4回	京都検定模擬試験	(内 容) 京都検定 3 級の内容について試験する。 (必要な準備) 出題範囲の予習	
第5回	年中行事について	(内 容) 学習材料について説明すると共に、調べ方及び発表内容と方法について講義し、担当を決める。 (必要な準備) 配付資料を通覧しておく。	
第6回	葵祭について	(内 容) 葵祭について発表し討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第7回	夏越しの払えについて	(内 容) 夏越しの払えについて発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第8回	尽日について	(内 容) 尽日について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第9回	上巳について	(内 容) 上巳について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第10回	端午について	(内 容) 端午について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第11回	七夕について 1 日本由来	(内 容) 七夕について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第12回	七夕について 2 中国由来	(内 容) 七夕について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第13回	祇園祭について	(内 容) 祇園祭について発表し討議する。前回の補足発表をする。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第14回	秋学期研修前学習合同ゼミ 1	(内 容) 秋学期研修にむけた事前学習を 2 回生と合同で行う。 (必要な準備) 配付資料の精読	
第15回	秋学期研修前学習合同ゼミ 2 まとめ	(内 容) 秋学期研修にむけた事前学習を 2 回生と合同で行うと共に、春学期の授業を総括する。 (必要な準備) 必要事項の下調べ	

授業名	総合基礎演習 A			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	乳幼児期の教育と保育にかかわる教材研究をとおして、専門知識の習得と主体的に学ぶ姿勢を身につけ課題解決のための方法を知る。							
学習成果到達目標	1) 専門的知識の習得と実践的能力の育成に努める。 2) 人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	随時紹介する							
留意事項	積極的な学習参加を期待する							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合基礎演習 A
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要の説明を聞く。自己紹介行う。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)
第2回	教材研究 地域社会を知る	(内 容) 動物園に見学に行く。保育者としての動物園見学の重要性を考える。 動物をスケッチし観察する能力を養う。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(30分)
第3回	教材研究 動物園をテーマに壁面製作	(内 容) グループで話し合い、色画用紙を使った壁面製作をする。 (必要な準備) 壁面飾りについて調べておく。(30分)
第4回	学生研修会	(内 容) 絵本作成の注意点の説明を受ける。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(20分)
第5回	教材研究 自然観察	(内 容) 鴨川の自然を観察する。 (必要な準備) 研修会レポートを作成しておく。鴨川に生息する生き物を調べておく。(30分)
第6回	教材研究 劇遊び 声合わせ	(内 容) 台本を気持ちを入れて読んでみる。全員で立ちまわりなどを考える。 (必要な準備) 劇遊びについて調べておく。(30分)
第7回	教材研究 劇遊び 本番	(内 容) 劇を行う。 (必要な準備) 劇に必要なものを準備をしておく。(60分)
第8回	教材研究 資料収集	(内 容) 必要な資料収集の方法を知る。図書館見学を行う。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)
第9回	教材研究 絵本(内容)	(内 容) 保育者の視点をもって絵本を読む。絵本の内容をまとめ資料を作成する。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)
第10回	教材研究 絵本(絵)	(内 容) 絵の効果について考えながら絵本を読む。絵本の内容をまとめ資料を作成する。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)
第11回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 保育場面を設定し、絵本をみんなの前で読む。 (必要な準備) 使用する絵本の選定と読み聞かせの練習を行う。(30分)
第12回	絵本作り(絵本の作り方)	(内 容) 絵本の作り方を説明を聞き、構想をねる。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)
第13回	絵本作り(内容と絵の構図)	(内 容) 絵本の内容と絵の構図を考え、下書きをする。 (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)
第14回	絵本の構想発表	(内 容) 各自絵本の構想発表をする。 (必要な準備) 資料を作成する。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期を振り返り、今後の課題をたてる。 レポート課題の説明を聞く。 (必要な準備) 春学期の振り返りレポートを作成する。(60分)

授 業 名	総合基礎演習 B			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	幼児期における音楽との関わりを考察し、また幼児教育での音楽の基礎知識を習得し、自分で表現できる力を養う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 計画的に練習を行うことができる。 2) 練習の成果を人前でも緊張することなく表現できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (チームワーク)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	実習や、将来保育現場で役立つような実践的な授業を行う中で、特にコミュニケーション能力を付けられるように各自努力すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合基礎演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期の授業計画説明 (必要な準備) シラバス・時間割	
第2回	合奏の準備	(内 容) 合奏について説明 (必要な準備) 合奏したい曲を考える。(15分)	
第3回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第4回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第5回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第6回	合奏	(内 容) 各パートの練習。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第7回	動物園見学予定	(内 容) 保育の現場で園児を動物園へ引率することを想定する。 (必要な準備) おたより作成 保育者になったことを考え保護者に出すおたよりを作成(120分)	
第8回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを各自調べてきて歌ってみる。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分) 京都のわらべうたを調べる。(15分)	
第9回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第10回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第11回	合奏 京都のわらべうた	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第12回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第13回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第14回	合奏、合唱	(内 容) 合奏の練習。 京都のわらべうたを歌う。 (必要な準備) 楽譜を読む。(30分)	
第15回	合奏、合唱まとめ	(内 容) 春学期に演奏した曲を発表する。 (必要な準備) すべて練習しておく(120分)	

授 業 名	総合基礎演習 C			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	合奏や合唱の体験を通して、他者と協力・協調しながら物事を達成することを学ぶ。また、子どもに音楽の楽しさを伝えるためには、まず大人が楽しむことが大切であることを身をもって体験する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 合奏・合唱の練習を計画的に行うことができる。 2) 合奏・合唱の練習において、他者と協力することができ、また必要な協議をすることができる。 3) 計画的かつ継続的な練習の結果、合奏曲及び合唱曲の演奏を完成することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると思います。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合基礎演習 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 自己紹介 ゼミの仲間と知り合う。 春学期の授業計画について説明を受け、ゼミとはどのような学びをする授業なのかを学ぶ。 (必要な準備) 自己紹介を考えておく。
第2回	合奏体験への導入	(内 容) 春学期で取り組む合奏について説明する。 演奏曲を決める。 (必要な準備) 合奏してみたい曲を考えておく。
第3回	合奏体験：担当楽器を決める	(内 容) 合奏で用いる様々な楽器に触れる。 担当楽器を決める。 (必要な準備) 担当したい楽器を考えておく。
第4回	合奏体験：パート練習	(内 容) 各パートごとに練習する。教員が見回って各パートを指導する。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第5回	合奏体験：パート練習と合奏	(内 容) 各パートごとに練習した後、全体で合わせてみる。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第6回	合奏体験：パート練習と合奏	(内 容) 各パートごとに練習した後、全体で合わせる。 (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第7回	学外授業：動物園見学予定	(内 容) 京都市動物園を見学し、子どもの視点に立って生命に触れる意義を考える。 (必要な準備) 幼稚園や保育園で動物園を訪れる意義を考えておく。 動きやすい服装で授業に臨む。
第8回	・京都のわらべ歌を知る ・合奏体験：前々回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌について各自調べ発表する ・合奏練習(前々回からの続き) (必要な準備) 京都のわらべ歌について調べておく。
第9回	・京都のわらべ歌を歌う ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・前回調べた京都のわらべ歌をいくつか歌ってみる ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第10回	・京都のわらべ歌の練習 ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌をさらに歌いこみ、その世界に馴染む。 ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第11回	・京都のわらべ歌の練習：前回からの続き ・合奏体験：前回からの続き	(内 容) ・京都のわらべ歌を繰り返し練習する。 ・合奏練習の続き (必要な準備) 楽譜を読み込んでおく。
第12回	歌と合奏を完成させていく。	(内 容) 京都のわらべ歌と合奏を、全体で繰り返し合わせていく。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第13回	歌と合奏の完成度を高める。	(内 容) 京都のわらべ歌と合奏をさらに練習し、完成度を高める。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第14回	歌と合奏を完成させる。	(内 容) 春学期に取り組んできた、京都のわらべ歌と合奏を人前で発表できるように完成させる。 (必要な準備) 楽譜を読み、歌や演奏を復習しておく。
第15回	歌と合奏のまとめ	(内 容) 春学期に取り組んだ歌と合奏を振り返り演奏する。 (必要な準備) 春学期に取り組んだ合唱と合奏をすべて復習しておく。

授業名	総合基礎演習 D			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	子どもの遊びや文化を身近に感じ、自らも体験する中で、乳幼児教育に興味を持って考え学ぶ機会とする。また、ゼミ生同士の交流を図り、お互いに学び合う。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の保育内容を体験し、遊びを通じた学びについて理解することができる。 2) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養い、豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につけることができる。 4) 絵本の制作過程を体験し、保育実践力の1つとして活用できるようになる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業は配布資料や教材を使ってすすめる。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	自らすすんで行動し、コミュニケーションを図り、経験の幅を広げてほしい。							
オフィス アワー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合基礎演習 D	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションと自己紹介	(内 容) ゼミの目的について共通理解し、ゼミ員同士の交流をする。 (必要な準備) シラバスを読んでくる。(20分)	
第2回	子どもの遊びについて	(内 容) 遊びの経験について意見交換し、遊びの種類や内容を学ぶ。 (必要な準備) 幼少期に経験した遊びを思い出し、好きな遊び・知っている遊びをまとめる。(30分)	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 配布資料を読んでくる。(20分)	
第4回	絵本の講座	(内 容) 絵本の魅力、絵本の構成、絵本の作り方について学ぶ。 (必要な準備) 図書館や書店などで絵本を調べる。(60分)	
第5回	絵本の読み聞かせ 1	(内 容) 選んだ絵本について各自紹介し、読み聞かせを行う。 (必要な準備) 絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。(30分)	
第6回	絵本の読み聞かせ 2	(内 容) 選んだ絵本について各自紹介し、読み聞かせを行う。 (必要な準備) 絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。(30分)	
第7回	フィールドワーク	(内 容) 園外保育のスポットに出かけ、体験する。 (必要な準備) 行き先について調べてくる。(20分)	
第8回	仲良し遊び1 教材研究	(内 容) 仲良し遊びについて教材研究をする。 (必要な準備) 仲良し遊びの教材を調べてくる。(60分)	
第9回	仲良し遊び2 演習教材を選ぶ	(内 容) グループに分かれ、演習教材を選び、保育の進め方を考える。 (必要な準備) 選んだ教材・資料を選んでくる。(30分)	
第10回	仲良し遊び3 演習の計画	(内 容) グループ毎に演習の計画表を作成する。 (必要な準備) 計画表を各自考えてくる。(30分)	
第11回	仲良し遊び4 グループ発表	(内 容) グループ毎に遊びを紹介し、全員で演習を行う。 (必要な準備) 配布資料の作成(60分)	
第12回	制作と遊び1 教材制作	(内 容) 保育をイメージしながら、遊びに使う教材を制作する。 (必要な準備) 教材を調べて、材料を準備する。(30分)	
第13回	制作と遊び2 制作教材を使った遊び	(内 容) 作った教材を使って遊ぶ体験をする。 (必要な準備) 遊び方について調べてくる。(30分)	
第14回	絵本の制作1	(内 容) 絵本づくりの取り組みを理解する。ストーリーと場面展開を考える。 (必要な準備) 絵本のストーリーを考えてくる。(90分)	
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期の演習を振り返り、秋学期の取り組みを考える。 (必要な準備) 春学期の内容についてまとめておく。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 E			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	乳幼児期の子どもの遊びや文化（主として絵本）について主体的に考えいく。フィールドワークを通して直接体験の重要性について学ぶ。レポート作成やプレゼンテーションの方法を身につけるとともにゼミ生間の交流を図りコミュニケーション能力を高める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組む姿勢を持つこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合基礎演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的・内容および進め方についての共有化をはかる。 (必要な準備) シラバス・キャンパスライフを読んでおくこと(10分)	
第2回	大学での学びを理解する	(内 容) 学生生活の目標、2年間の学習計画を明確にする。学内散策をし生活環境を把握する。 (必要な準備) 学びの計画と目標を考えておくこと(30分)	
第3回	資格について考える 偏愛マップの作成方法を知る	(内 容) 取得する資格免許について考える。偏愛マップの方法や目的を理解し作成する。 (必要な準備) 将来設計をイメージしておく 週単位の生活を書く(30分)	
第4回	自己紹介・他者と交流する	(内 容) 偏愛マップをもとにコミュニケーションをはかる。他者に関心をもちお互いを理解する。 (必要な準備) 筆記用具。偏愛マップを作成しておく(30分)	
第5回	フィールドワーク (自然環境)	(内 容) 学校周辺を散策し自然を感じる。 (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する。	
第6回	フィールドワーク、偏愛マップの体験を交流する	(内 容) 直接体験について意見交流を行う。 (必要な準備) フィールドワーク、編愛マップ交流についての感想をレポートにまとめておく(30分)	
第7回	フィールドワーク(動物園見学)	(内 容) 動物園へ行き動物とのかかわりを体験する。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第8回	直接体験について	(内 容) 動物園での体験について意見交流を行う。 (必要な準備) 動物園見学・直接体験の意義についてレポートをまとめる(30分)	
第9回	バタバタ絵本制作	(内 容) バタバタ絵本を制作し実践する (必要な準備) 筆記用具・色鉛筆・はさみを持参する。	
第10回	絵本について	(内 容) 絵本の種類、分類について理解する。図書館の絵本について知る。 (必要な準備) 自分の周囲の絵本環境を調べておく(30分)	
第11回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 選んできた絵本を紹介し読み聞かせを行う。選んだ理由やその絵本とのかかわりについて発表する。 (必要な準備) よい絵本を考えて持ってくる。選んだ理由やかかわりをまとめておく。絵本の下読みをしておく(30分)	
第12回	絵本制作のテーマを考える	(内 容) 絵本制作のテーマについて考え、創作絵本の全体構想を考える。 (必要な準備) 筆記用具	
第13回	個人面談 1	(内 容) 学生生活全般について相談する。 (必要な準備) 自分の現状について、将来について考えまとめておく(30分)	
第14回	個人面談 2	(内 容) 学生生活全般について相談する。 (必要な準備) 自分の現状について、将来について考えまとめておく(30分)	
第15回	まとめ・秋学期の課題	(内 容) 春学期の演習を振り返り、秋学期に向けての課題を考える (必要な準備) 春学期を振り返り、秋学期に向けて各自の課題を明確にしておく(60分)	

授 業 名	総合基礎演習 F			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>新入生が、ゼミは安全で安心できる大学での学びのベース（居場所）であることを確認し、ゼミを拠点にしながら大学生を送るとともに、大学での学びを深めていく。</p> <p>また、子どもの感性や知性の発達を支え育てることのできる人間性豊かな幼児教育者を目指して、人間関係やコミュニケーションあるいはグループワークなどを学ぶ。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>「自己覚知」「他者認識」「他者との関係性」の意味と重要性を理解することができる。</p> <p>保育の実践現場で活用できる絵本の構想を完成させることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	アクティブラーニングを意識したワークショップ形式で授業を進めていくので、一人ひとりが主体的かつ積極的に参加すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合基礎演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 大学で学ぶことの意味について理解する (必要な準備) 高校と大学の授業の違いを整理しておく(30分)	
第2回	ガイダンス	(内 容) ゼミでの学習と実践内容の理解するとともに学習目標を設定する。 (必要な準備) 大学生活の達成目標を考えておく(30分)	
第3回	自己紹介とつながり	(内 容) メンバーの自己紹介を通して関係を創る (必要な準備) 自分自身の特性を整理しておく(30分)	
第4回	ワークショップ 他者との関係性の理解	(内 容) ゼミでの人間関係を通して、他者との関係性について学ぶ (必要な準備) 大学での自分の位置を整理しておく(30分)	
第5回	ワークショップ 自己覚知と価値観の理解	(内 容) 他者との関係性をベースに一人ひとりの違いについて学ぶ。 (必要な準備) 違うということの意味について整理しておく(30分)	
第6回	ワークショップ コミュニケーションの理解	(内 容) 人間関係の基本となるコミュニケーションについて学ぶ (必要な準備) コミュニケーションの意味を整理しておく(30分)	
第7回	ワークショップ グループアプローチの理解	(内 容) グループアプローチやそこに内在する相互作用について学ぶ (必要な準備) グループワークやワークショップを整理しておく(30分)	
第8回	ワークショップ 価値の明確化	(内 容) 価値観の相違について学ぶ。 (必要な準備) 異質な他者との協働について整理しておく(30分)	
第9回	絵本を作成することの意味について	(内 容) ゼミを通して保育実践で利用できる絵本を制作し、未来のこども絵本対象に応募するにあたって、絵本を制作することの意味を学ぶ。 (必要な準備) 興味のある絵本を集めるなどして、その内容などを整理しておく(60分)	
第10回	教員との個別面談 1	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる。 (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第11回	教員との個別面談 2	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第12回	教員との個別面談 3	(内 容) 教員と面談をして、1年間の学びの目標や方法、絵本のテーマなどについてまとめる (必要な準備) 自分の大学生活の目標を整理するとともに、制作する絵本の内容を整理しておく(30分)	
第13回	個人発表とディスカッション	(内 容) 絵本の内容と制作方法について発表し共有するとともにメンバーで共有化する。 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく(30分)	
第14回	個人発表とディスカッション	(内 容) 絵本の内容と制作方法について発表し共有するとともにメンバーで共有化する。 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく(30分)	
第15回	春学期の振り返りと夏休みの課題出題	(内 容) 春学期の学びについてリフレクションシートを使って振り返る。合わせて夏休みの課題を説明する。 (必要な準備) 春学期の自分自身の学びについて整理しておく。(30分)	

授業名	総合基礎演習 G			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	1回生春学期のゼミであり、建学の精神に基づき人類に共通する多様なテーマや社会全体に関わる課題を任意に設定し、学生の課題探求に対する主体性・創造性を育むとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の向上をめざすことを目標とする。さらに、導入教育として担当教員と受講学生相互の交流を図りながら、興味・関心・課題をもって大学で学ぶことへの動機付けを図る。							
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力と豊かな人間性を伸ばすことをめざします。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、プリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(50%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(25%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィス アワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合基礎演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	チームビルディング	(内 容)	学友や同僚など、一緒に学んだり、働いたりする仲間との関係性を向上させるために、コミュニケーションゲームを通して、互いの人となりを知る。 (必要な準備) 自己紹介ができるように他の受講生に知っておいてほしいことをまとめてくる。
第2回	大学の授業やキャンパスライフ	(内 容)	高校から大学へ、授業の形式や学校生活の変化に円滑に適応するため、授業や試験の受け方、学修のための大学の支援体制について理解を深める (必要な準備) シラバス、キャンパスライフ
第3回	短期大学2年間の学び	(内 容)	短期大学の2年間の学びを概観し、資格免許の取得と就職にむけて、自身の学びの方向性を定める。今学期の目標などをワークシートにまとめる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	絵本製作の意義、方法について	(内 容)	学年で取り組む「未来のこども絵本大賞」の概要と絵本作りから学ぶ保育士者の資質に学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	子どもとメディア メディアの特徴	(内 容)	日常見聞きする「メディア」の意味を理解し、21世紀を生きる子どもたちに求められるメディアを活用する力についてその概要を把握する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	子どもとメディア 絵本・児童書 歴史と変遷	(内 容)	子どもたちに最も身近なメディアとしての絵本・児童書の歴史と今日までの変遷を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	子どもとメディア 絵本・児童書 教育・保育の効果	(内 容)	子どもたちの遊びや生活がより豊かになるために、絵本や児童書がもつ力を、受講生の実体験をふりかえりながら、考えを深める。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	子どもとメディア テレビ・テレビゲーム 変遷と特徴	(内 容)	日本の幼児や児童を対象とした教育テレビの経過を理解するとともに、1980年代から普及したテレビゲームによる子どもの遊びや生活の変化について検討する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第9回	子どもとメディア ポータブルゲーム機 どうして子どもが夢中になるのか？ 子どもの健康面への影響は？	(内 容)	使用開始や所持開始時期の低年齢化が進むポータブルゲーム機の特徴を具体的な例を挙げながら、または、受講生の実体験を踏まえながら、ともに考え、意見を共有する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	子どもとメディア スマートフォン 子どもとスマートフォンの関係	(内 容)	ポータブルゲーム機と同様に使用開始や所持開始が低年齢化するスマートフォンが子どもの発達や仲間関係に与える良い面と課題点を具体的な事例を用いながらディスカッションする。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	子どもとメディア スマートフォン 保護者とスマートフォンの関係	(内 容)	携帯電話やスマートフォンの使用の浸透によって子育てにおいても情報通信機器とどのように付き合っていくかが課題となっている。関連するニュースや記事をもとに、その付き合い方を検討していく。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	子どもとメディア 教育保育の現場では 幼児へのメディアに関連する教育保育	(内 容)	これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育施設における幼児へのメディアに関連する教育保育について、具体例を挙げながら、そのねらいや効果を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	子どもとメディア 教育保育の現場では 児童へのメディアに関連する教育保育	(内 容)	これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育施設における児童へのメディアに関連する教育保育について、具体例を挙げながら、そのねらいや効果を理解する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	グループ発表 子どもとメディアについて(前半)	(内 容)	子どもとメディアについて、授業の内容を踏まえ、自分たちが興味をもって調べたテーマについて発表する(1グループあたり発表時間約20分)。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	グループ発表 子どもとメディアについて(後半)	(内 容)	子どもとメディアについて、授業の内容を踏まえ、自分たちが興味をもって調べたテーマについて発表する(1グループあたり発表時間約20分)。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授業名	総合基礎演習 H			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	様々な造形材料の体験・研究を通して、造形的な表現力や自ら工夫できる能力を養う。 学生がその活動からコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。							
学習成果到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。							

授 業 名		総合基礎演習 H	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第2回	学内フィールドワーク	(内 容) 学内を歩く(図書館見学) (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第3回	課題研究・発表	(内 容) 私の推薦絵本 (必要な準備) 事前にレジュメを作成、提出する(30分程度)	
第4回	学外フィールドワーク	(内 容) 学校周辺の自然 (必要な準備) 事前に地図等で予習しておく(30分程度)	
第5回	学外フィールドワーク	(内 容) 学校周辺のギャラリー (必要な準備) 記録の準備をしておく(30分程度)	
第6回	材料研究	(内 容) 研究する材料を決める (必要な準備) 使いそうな材料について調べておく(30分程度)	
第7回	材料研究	(内 容) 材料についてのアイデアを話し合う (必要な準備) 材料について考えておく(30分程度)	
第8回	材料研究	(内 容) 材料についての実験 (必要な準備) 材料の特性を理解する(30分程度)	
第9回	材料研究	(内 容) 材料をつかった課題を考える (必要な準備) 子どもの造形について調べておく(30分程度)	
第10回	研究発表	(内 容) 材料研究のまとめと意見交換 (必要な準備) 友達の取り組みやまとめから学ぶ(30分程度)	
第11回	学外フィールドワーク	(内 容) 展覧会を見る (必要な準備) 事前に地図等で予習しておく(30分程度)	
第12回	壁面制作	(内 容) チームで壁面を制作する (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第13回	壁面制作	(内 容) 壁面の制作 (必要な準備) 様々な表現方法について考える(30分程度)	
第14回	秋学期に向けて	(内 容) 秋学期の取り組みについて(絵本の制作) (必要な準備) 絵本づくりについて調べておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 授業の振り返り (必要な準備) 自分の学習成果と今後の課題について考える(30分程度)	

授業名	総合基礎演習 I			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>大学で学ぶ姿勢を確立するために保育や幼児教育に関する実践的演習を中心に、子供の生活や食育に関する学びを行う。 また、「未来のこども絵本大賞」で創作絵本の制作を行う</p>							
学習成果到達目標	<p>乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識が理解できる。 幅広い教養教育について理解ができる。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない							
留意事項	積極的に参加すること							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する。							

授 業 名		総合基礎演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 大学で学ぶことの理解 (必要な準備) 自己紹介の準備	
第2回	子どもを取り巻く食環境について	(内 容) 目標設定と共有化 (必要な準備) 身近の食に関しての問題点を考えておく	
第3回	研究課題の設定	(内 容) 研究テーマをきめ、研究計画をたてる (必要な準備) 研究テーマを考えておく	
第4回	フイ ルドワーク	(内 容) 大学周辺を散策し、春の季節を感じる (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第5回	情報収集(図書館やインターネットの利用)	(内 容) インターネットや図書館を活用して必要な情報を集める (必要な準備) 集めた資料をよく読んでおく	
第6回	教材研究(新聞記事)	(内 容) 新聞記事や雑誌から資料を集める (必要な準備) 資料をよく読んでおく	
第7回	教材研究資料の整理	(内 容) 資料の整理 (必要な準備) 資料をよく読んでおく	
第8回	絵本のテーマを考える	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 資料について、考えをまとめておく	
第9回	絵本のテーマを決める	(内 容) 収集した資料の整理 (必要な準備) 資料について、考えをまとめておく	
第10回	発表と討論	(内 容) 研究発表を行い、検討する。 (必要な準備) 研究発表の準備をしておく	
第11回	情報の収集	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 資料の整理	
第12回	発表と討論	(内 容) 研究発表を行う (必要な準備) 研究発表の準備をしておく	
第13回	レポートの提出	(内 容) レポート発表 (必要な準備) 収集した資料をまとめ、レポートを完成する	
第14回	教員との個別面談	(内 容) 目標の新捗状況確認と軌道修正 (必要な準備) 目標を整理しておく	
第15回	教員との個別面談	(内 容) 夏休みの課題説明 (必要な準備) 夏休みの過ごし方を考えておく	

授業名	総合基礎演習 x a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	他者とコミュニケーションを深め、自ら考え・調べ・聞く・話す力を身につける。 読解力を身につける。							
学習成果到達目標	1) 課題に取り組み、分析し、まとめることができる。 2) 自分の考えていることを正しく他者に伝えることができる。 3) 他者と積極的にコミュニケーションを取ることができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	特になし。							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		総合基礎演習 x a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	1・2回生学外合同ゼミ	(内 容) 1・2回生学外合同ゼミ実施 (必要な準備) 事前学習の復習(60分)	
第2回	1・2回生学外合同ゼミ	(内 容) 1・2回生学外合同ゼミ実施 (必要な準備) 事前学習の復習(60分)	
第3回	アンケート調査の準備	(内 容) 京都をフィールドにした観光客実態調査を学ぶ。 (必要な準備) 「平成27年 京都観光総合調査について」を読んでおく(60分)。	
第4回	1・2回生学外合同ゼミ事後学習	(内 容) 学外合同ゼミを振り返る。 (必要な準備) 資料や写真を整理しておく(60分)。	
第5回	アンケート項目を作成する。	(内 容) 知恩院を訪れる観光客を対象にしたアンケート項目を作成する。 (必要な準備) 知恩院にとって有益なアンケート項目を考えておく(60分)。	
第6回	知恩院の歴史	(内 容) 知恩院の歴史を学ぶ (必要な準備) 自分なりに知恩院の歴史を調べておく(60分)。	
第7回	アンケート調査実施1回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査1回目 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第8回	アンケート調査実施2回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査2回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第9回	アンケート調査実施3回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査3回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第10回	卒業研究中間発表会	(内 容) 卒業研究中間発表会に参加し質問する (必要な準備) 他者の意見をしっかり聴く心構えを持つ(0分)。	
第11回	アンケート調査実施4回目	(内 容) 知恩院でのアンケート調査4回目を実施する。 (必要な準備) サンプルを1人100人集める心構えとリハーサル(30分)	
第12回	アンケート調査集計	(内 容) 集めたサンプルを集計する (必要な準備) どのような集計の仕方があるか考えておく(60分)。	
第13回	アンケート調査分析	(内 容) 集計結果を分析する。 (必要な準備) 授業のつづきをおこなう(60分)	
第14回	分析結果の口頭発表準備	(内 容) グループ毎に原稿作成・リハーサルをする (必要な準備) グループ毎の準備(60分)	
第15回	分析結果の発表	(内 容) グループ毎に発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習・発表準備(60分)	

授 業 名	総合基礎演習 x b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	土井 哲治			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	<p>春学期の発展であるこのゼミでは、基礎力を学んだ上で各自が実際に調査したことをまとめ上げ、資料を作成し、発表・討議する。具体的には学校周辺の著名人の墓地を材料とし、最終的には各自の成果を持ち寄って、本学周辺著名人墓地地図を作成する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 自分の調査した事項を資料にまとめ、発表できる。 2) 質疑に応えられる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	授業時に適宜紹介する。							
留 意 事 項	講義中は、必ず発言すること。学外フィールドワークも行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に適宜伝える。							

授 業 名		総合基礎演習 x b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期研修	(内 容) 秋学期研修に参加する。 (必要な準備) 事前学習の復習	
第2回	秋学期研修	(内 容) 秋学期研修に参加する。 (必要な準備) 事前学習の復習	
第3回	秋学期研修事後学習	(内 容) 研修結果をまとめる。 (必要な準備) 研修内容の整理	
第4回	学校周辺の著名人の墓地について	(内 容) 概説すると共に、担当を決める。 (必要な準備) 事前配布資料の通覧	
第5回	真如堂・金戒光明寺の墓について事前学習	(内 容) 斎藤利三、海北友松、海保青陵、八橋検校、山崎闇斎等々について事前学習する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第6回	真如堂・金戒光明寺フィールドワーク	(内 容) 真如堂・金戒光明寺に出かけ墓地を探索する。 (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第7回	真如堂・金戒光明寺フィールドワーク	(内 容) 真如堂・金戒光明寺に出かけ墓地を探索する。 (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第8回	卒業研究中間発表会	(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 資料に目を通し発言できるように準備する。	
第9回	卒業研究中間発表会	(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 資料に目を通し発言できるように準備する。	
第10回	真如堂・金戒光明寺の墓について事後学習	(内 容) フィールドワーク結果を入れた資料を作成し発表討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第11回	法然院の墓について事前学習	(内 容) 法然院にある著名人の墓地について事前学習する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第12回	法然院フィールドワーク	(内 容) 法然院に出かけ墓地を探索する (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第13回	法然院フィールドワーク	(内 容) 法然院に出かけ墓地を探索する (必要な準備) 事前学習資料の精読	
第14回	各自で調査	(内 容) 学校周辺の寺等にある著名人の墓を各自で調査し、発表討議する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	
第15回	まとめ	(内 容) 学校周辺著名人地図を作成する。 (必要な準備) 発表・発言の準備	

授業名	総合基礎演習 A			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	創作絵本の制作を通して言葉や表現に豊かな感性を身につける。また、教材研究を通して保育の実践に向けての行動力を養う。							
学習成果到達目標	1) 絵本の制作過程を通して絵本に対する認識を深める。 2) 絵本を完成させ、保育の現場で活用できるようにする。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	積極的な態度で臨むことを期待する。							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合基礎演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 秋学期の授業内容の確認と各自の取り組みについて理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(20分)	
第2回	絵本の制作 1 (構図を考える)	(内 容) 下絵をもとに構図を考える。 (必要な準備) 絵本の構想を持ってくる。(30分)	
第3回	絵本の制作 2 (絵を描く)	(内 容) 適当な画材を用いて絵本の作成を行う。 (必要な準備) 配色を考えておく。(30分)	
第4回	絵本の制作 3 (色を塗る)	(内 容) 適当な画材を用いて絵に色を塗っていく。 (必要な準備) 絵本を作成する。(60分)	
第5回	絵本の制作 4 (表紙・裏表紙を描く)	(内 容) 効果的な表紙・裏表紙を描く。 (必要な準備) 文書の配置を考えておく。(30分)	
第6回	絵本の制作 5 (文章書き入れる)	(内 容) 絵本の文書を書き入れる。 (必要な準備) 絵を完成させておく。(60分)	
第7回	学外見学	(内 容) 地域の施設を見学する。 (必要な準備) 地図を用意する。(30分)	
第8回	学外見学 レポート発表	(内 容) 見学してきた結果を発表する。 (必要な準備) レポートの作成を行う。(60分)	
第9回	教材研究と制作 1 (構想を練る)	(内 容) 保育実習に向けて、教材研究を行う。用いる材料の検討や段取りなどを考える。 (必要な準備) 教材に関する資料を収集しておく。(60分)	
第10回	教材研究と制作 2 (制作)	(内 容) 教材制作を行う。 (必要な準備) 必要な材料を用意する。(30分)	
第11回	教材研究 制作 3 (実践)	(内 容) 制作した教材を各自発表する。 (必要な準備) 教材を完成させておく。(60分)	
第12回	創作絵本発表	(内 容) 創作絵本を読む。 (必要な準備) 絵本を読み、読み聞かせの練習をしておく。(30分)	
第13回	学生研究会(絵本大賞)	(内 容) 絵本作成についての振り返り。講演を聞く。 (必要な準備) 資料を読んでおく。(20分)	
第14回	教材研究 伝承遊び	(内 容) かるた遊び、羽根つき、凧揚げなど冬の伝承遊びについて体験し、保育現場の実践について考える。 (必要な準備) 冬に行う伝承遊びについて調べておく。(30分)	
第15回	絵本の製本	(内 容) 絵本の製本を行う。 (必要な準備) 1年をふり返るレポートを作成する。(60分)	

授業名	総合基礎演習 B			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	を更に発展させ、グループ発表・個別発表を通して幼児教育指導者としての能力を身につける。							
学習成果到達目標	1)人前で発表することで緊張しても最後までやり遂げる力をつける。 2)個々の音楽的スキルをあげるとともにグループとしても曲の調和に気をつけて演奏する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (チームワーク・リーダーシップ)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力		()
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	グループ指導と個別指導を多用する。将来の保育者としての自覚を持つ。							
オフィス アワー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合基礎演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	絵本の読み聞かせ	(内 容) 絵本製作の準備として各自絵本を人前で読む。 (必要な準備) 絵本を選んでおく。読む練習。(15分)	
第2回	12月のミニコンサートについて	(内 容) コンサートの曲を選ぶ。 配役を決める。 (必要な準備) 各自曲目を考えておくこと。	
第3回	コンサートの衣装及び小道具製作	(内 容) コンサートに必要な衣装や小道具を作る。 (必要な準備) 必要なものを考える。	
第4回	コンサートの衣装及び小道具製作	(内 容) コンサートに必要な衣装や小道具を作る。 (必要な準備) 必要なものを考える。 楽譜を読む。(30分)	
第5回	絵本について	(内 容) 今回のテーマで絵本のお話を考える。 (必要な準備) 各自絵本の内容について考えておくこと。	
第6回	絵本製作	(内 容) テーマに沿った絵を描く。 (必要な準備) 構図を考えてくる。	
第7回	絵本製作	(内 容) テーマに沿った絵を描く。 (必要な準備) 構図を考えてくる。	
第8回	絵本製作	(内 容) 絵本を仕上げる。 (必要な準備) 必要に応じて授業外でも描く。	
第9回	コンサートの練習	(内 容) 歌及び台詞、動きもつけながら練習 (必要な準備) 練習する事。(60分)	
第10回	コンサートの練習	(内 容) 仕上げ。 (必要な準備) 練習する事。(60分)	
第11回	コンサート	(内 容) ミニコンサート (必要な準備) 各自パート練習。	
第12回	コンサート	(内 容) ミニコンサート (必要な準備) 各自パート練習。	
第13回	コンサートの反省会	(内 容) 反省会。 (必要な準備) 反省点について考えること。	
第14回	絵本の製本	(内 容) 描いた絵本を製本する。 (必要な準備) 製本の準備。	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返って春の実習への目標・意気込みなどを一人ずつ発表。 (必要な準備) 実習の目標・意気込みをまとめてくる。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 C			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	様々な絵本や、季節感のある物事・音楽などに触れ、幼児期の生身の体験とその感動を思い出す。絵本製作を通して、子どもの成長における絵本の役割を学ぶ。また、それらの学びを通して、子どもの目線になって考えたり感じたりすることの大切さを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 聞き手(子ども)の様子を想像しながら、絵本の読み聞かせをすることができる。 2) 絵本制作のテーマに沿った物語を考え、読み手を想像しながら描き方を工夫し、絵本を完成することができる。 3) 総合基礎演習 ・ を通して学んだことをレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると思います。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合基礎演習 C	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	イントロダクション	(内 容)	秋学期の授業計画について説明する。 特に、絵本制作についての説明と、第2回～第4回にかけて実施する絵本の読み聞かせ体験についての説明をする。 (必要な準備) 絵本大賞のテーマを確認しておく。
第2回	絵本の読み聞かせ	(内 容)	順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第3回	絵本の読み聞かせ(続き)	(内 容)	順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第4回	・絵本の読み聞かせ(続き) ・絵本制作 : テーマの確認	(内 容)	・順番に絵本の読み聞かせを体験し、絵本の構成や伝え方について学ぶ。 ・絵本大賞のテーマと絵本づくりのルールを確認する。 (必要な準備) 読みたい絵本を選び、読み聞かせの練習をしてくる。
第5回	絵本制作 : 作業の開始	(内 容)	絵本のあらすじを考える。 (必要な準備) 絵本の内容を考えておく。
第6回	絵本制作 : 作業	(内 容)	絵本を制作する。 (必要な準備) あらすじを完成させておく。
第7回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第8回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第9回	絵本制作 : 作業(続き)	(内 容)	絵本制作の続き。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第10回	絵本製作: 絵本の完成	(内 容)	絵本を完成させ、提出する。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。
第11回	クリスマスの制作	(内 容)	クリスマスの壁面制作をする。 (必要な準備) クリスマスの壁面を調べてくる。
第12回	クリスマスの音楽	(内 容)	クリスマスの音楽を演奏する。 (必要な準備) 楽譜を読んでくる。
第13回	絵本大賞結果発表と講演会	(内 容)	絵本大賞の授賞式に参加する。 絵本についての講演を受講する。 (必要な準備) 絵本制作について振り返っておく。
第14回	絵本の製本	(内 容)	制作した絵本を製本する。 (必要な準備) 制作した絵本を持参する。
第15回	1年のまとめ	(内 容)	1年を振り返り、感想、気づいたこと、来年度に向けての課題などを発表し共有する。 (必要な準備) 発表する内容を考えておく。

授 業 名	総合基礎演習 D			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 の経験をもとに、子どもの遊びや文化や生活全般から、各自課題を決めて取り組み、学びを深める。また、学科企画の創作絵本の制作に組み、絵本に対する造詣を深める。活動の中で、ゼミ生同士の交流を深め、協力しながらお互いに学び合う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の保育内容を体験し、遊びを通じた学びについて理解することができる。 2) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養い、豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につけることができる。 4) 絵本の制作過程を体験し、保育実践力の1つとして活用できるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	授業は配布資料や教材を使ってすすめる。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	自らすすんで行動し、コミュニケーションを図り、経験を積み重ねてほしい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合基礎演習 D	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	絵本の制作2 下書	(内 容) 絵本の下書を始める。 (必要な準備) ストーリーとコマ割りを考えてくる。(60分)	
第2回	フィールドワーク	(内 容) 園外保育のスポットに出かけて保育者の視点で考える。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第3回	遊びの企画と制作1 企画と役割分担	(内 容) アイデアを出し合い協力しながら、役割を分担し、教材を準備する。 (必要な準備) 必要な材料や用具を調達する。(60分)	
第4回	遊びの企画と制作2 教材作り	(内 容) アイデアを出し合い協力しながら教材制作をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第5回	遊びの企画と制作3 遊びコーナーの設置	(内 容) 子どもたちが遊びやすいように遊びコーナーの環境構成をする。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して準備する。(60分)	
第6回	絵本の制作3 清書	(内 容) 絵本の清書をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第7回	絵本の制作4 清書	(内 容) 絵本の清書をすすめる。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第8回	絵本の制作5 仕上げ	(内 容) 絵本を仕上げて提出する。 (必要な準備) 進度によって、別時間を利用して制作する。(60分)	
第9回	フィールドワーク	(内 容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第10回	体を動かす遊び1 リズム遊び・表現遊び	(内 容) リズム遊びや表現遊びを体験し、保育のポイントを考える。 (必要な準備) 知っている遊びをまとめる。(30分)	
第11回	体を動かす遊び2 鬼ごっこ・ゲーム	(内 容) 鬼ごっこやゲームなどを体験し、保育のポイントを考える。 (必要な準備) 知っている遊びをまとめる。(30分)	
第12回	行事の遊び	(内 容) クリスマスや正月の遊びを体験し、保育の中の行事の意味を考える。 (必要な準備) 制作に必要なものを準備しておく。(20分)	
第13回	絵本の講座	(内 容) 未来の絵本大賞受賞式と絵本の講演会に参加する。 (必要な準備) 授業全体の振り返りレポートを記述する。(60分)	
第14回	絵本の製本	(内 容) 制作した絵本を製本して仕上げる。 (必要な準備) 絵本の講座のレポートを記述する。(40分)	
第15回	絵本の発表	(内 容) 制作した絵本の読み聞かせをする。 (必要な準備) 発表の準備をする。(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 E			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 に引き続き、乳幼児期の子どもの遊びや文化（主として絵本）についてさらに興味関心を深める。絵本制作に取り組み、完成した絵本を製本化して紹介し読み聞かせの発表をする。絵本制作を通して絵本の役割について考えることで探求心を養う機会にする。またゼミ生で協力したり、意見交流をする中で学び合うことの大切さを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組む姿勢を持つこと。絵本制作は製本して完成させること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合基礎演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 秋学期の進め方について 意見交換 (必要な準備) 夏期休暇中の課題をまとめてくる(30分)	
第2回	絵本制作 対象年齢・タイトルを考える	(内 容) 対象年齢を決めテーマについて考えながらストーリーを作る。 (必要な準備) 対象年齢、登場人物などを決定し、制作絵本の完成全体像をイメージしておく(60分)	
第3回	絵本制作 ストーリー作り	(内 容) 創作絵本のストーリー作りとストーリーの検討をする。題名、総頁数を決定し下書きを完成させる。 (必要な準備) ストーリー・下絵を描いておく(90分)	
第4回	絵本制作 下絵をもとに本絵を描く	(内 容) ケント紙(画用紙)に本絵を描く。 (必要な準備) 本絵を描く描画材料(クレパス・水彩絵具・色鉛筆・コンテなど)を考えて持って来る(15分)	
第5回	絵本制作 本絵の仕上げ	(内 容) 本絵に合わせてストーリーを再考して書き入れ完成させる。 (必要な準備) 本絵を仕上げてくる。ストーリーを再考しておく(60分)	
第6回	絵本制作 創作絵本 提出	(内 容) 創作絵本を仕上げて表紙、裏表紙を描き完成させて提出する。制作意図を記入する。 (必要な準備) 表紙、裏表紙を描き創作絵本を仕上げておく(120分)	
第7回	フィールドワーク 1	(内 容) 世界文化遺産である清水寺に行き、秋の自然に親しむ。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。	
第8回	フィールドワーク 2	(内 容) グループごとに小規模保育園見学に行く。 (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する。	
第9回	フィールドワーク 3	(内 容) 秋の自然教材(まつぼっくり)を探しに行く。 (必要な準備) まつぼっくりについて種類や名前を調べてレポートにまとめる(60分)	
第10回	教材研究と制作 1	(内 容) パネルシアター制作をする。下絵を書く。 (必要な準備) 制作する題材を選んでコピーをとり用意しておく(30分)。鉛筆(4B)はさみPペーパーを持って来る	
第11回	教材研究と制作 2	(内 容) パネルシアター制作をする。仕上げ、ふちどりをする。 (必要な準備) 下絵を書きあげておく(60分) 水筆、ポスターカラー、Pペーパーを準備しておく(ポスカも可)	
第12回	教材研究と制作 3	(内 容) クリスマスの制作をする。 (必要な準備) クリスマスツリーの飾りを考えておく(15分)飾りやグルーガンなど必要な材料を用意する(15分)	
第13回	創作絵本大賞 講演会	(内 容) 創作絵本の講演会に参加し、絵本の見方、絵本作家の思い等を聴講して学ぶ。 (必要な準備) 筆記用具	
第14回	創作絵本の製本化と発表	(内 容) 創作絵本に文を書き入れ製本化する。製本した絵本の読み聞かせを行う。 (必要な準備) 創作絵本に文を書き入れ読み聞かせの練習をしておく(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返り発表する。 (必要な準備) 1年間の取り組みや学びをまとめておく(30分)	

授 業 名	総合基礎演習 F			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	子どもの感性や知性の発達を支え育てることのできる人間性豊かな幼児教育者のスキルアップを目指して、グループワークやレクリエーションなどを学ぶ。また、実際に保育の現場で活用できる絵本を完成させる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	グループワークやレクリエーションの意義を理解し、ワーカーとしてその役割に沿った適切な援助ができる。自己が興味や関心を持ち設定した絵本を完成させる。発表などの場面でプレゼンテーションが適切にできるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	プリント・資料等を適宜配布する。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	秋学期の目標として、全体活動と個人研究活動の2点について取り組みを、アクティブラーニングの手法に則って進めて行く。主体的かつ積極的な参加を期待する							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合基礎演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期の目標設定	(内 容) 年間目標の進捗状況を振り返り、秋学期の目標を再整理する。 (必要な準備) 年間の目標を再確認し、春学期の学びの状況を整理しておく。秋学期に達成させるべく目標を考えておく。(60分)	
第2回	夏休みの課題発表 1	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第3回	夏休みの課題発表 2	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第4回	夏休みの課題発表 3	(内 容) 夏休みの課題の成果を発表し、質疑応答などを通してメンバーで共有し、課題の達成を通じた学びを深める。 (必要な準備) 発表の準備としてパワーポイントを作成する。(60分)	
第5回	絵本の作成 1	(内 容) 絵本の仕上げをする (必要な準備) 絵本作成に必要な準備しておく(60分)	
第6回	絵本の校正	(内 容) 出来上がりつつある絵本をプレゼンテーションして、相互に意見交換をしながら校正をし仕上げる。 (必要な準備) 発表に必要な準備を進める(60分)	
第7回	絵本の作製 3	(内 容) 絵本の仕上げをする (必要な準備) 絵本作成に必要な準備しておく(60分)	
第8回	グループワークトレーニング 1	(内 容) グループワークトレーニングの実践を通して、チームワークについて学ぶ (必要な準備) チームワークの意味を整理しておく。(30分)	
第9回	グループワークトレーニング 2	(内 容) グループワークトレーニングの実践を通して、価値の違いと意思決定について学ぶ。 (必要な準備) 人の価値観とその違いについて整理しておく(30分)	
第10回	保育実習に向けて 1 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ 出会いとコミュニケーション (必要な準備) 子供向けのレクリエーションに関して整理しておく(30分)	
第11回	保育実習に向けて 2 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ コミュニケーションとスキンシップ (必要な準備) スキンシップの必要性に関して整理しておく(30分)	
第12回	保育実習に向けて 3 レクリエーショントレーニング	(内 容) 保育実習に向けてレクリエーションを学ぶ コミュニケーションとマ스ゲーム (必要な準備) マスゲームの有効性について整理しておく(30分)	
第13回	保育実習に向けて 4 心構え	(内 容) 保育実習に向けて実習指導などの授業で学んだことをベースに、心構えを作り上げる (必要な準備) 実習に向けて大切なことを整理しておく(30分)	
第14回	ゼミ全体のリフレクション	(内 容) それぞれが設定した学習目標の到達度を各自まとめて発表する。 (必要な準備) 発表のためのパワーポイントを制作しておく(60分)	
第15回	ゼミ全体のリフレクション	(内 容) それぞれが設定した学習目標の到達度を各自まとめて発表する。 (必要な準備) 発表のためのパワーポイントを制作しておく(60分)	

授業名	総合基礎演習 G			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	1回生秋学期のゼミであり、総合基礎演習 に引き続き、学生と教員の交流を基盤にし、大学で学ぶことへの興味・関心をさらに掘り下げ、学習・研究方法に関する基礎的な知識を得るための各種資料の収集方法や文献の探索方法等について、ゼミでの発表を通して実際に学んでいく。設定された課題に対してレポートを作成し、諸課題の設定のプロセスから課題探求に至るまでをゼミで発表し、ゼミ学生が 相互に質疑応答等、発表スキルも身に付けながら、自らの興味・関心をさらに深め、今後の大学での課題研究に活かしていく素地を作る。							
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、春学期からのさらなる成長をめざし、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力と豊かな人間性を伸ばすことをめざします。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(50%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(25%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合基礎演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期のふりかえりと反省 秋学期の目標設定	(内 容)	授業の目的と取り組み内容について学ぶ (必要な準備) 春学期のふりかえりと反省
第2回	絵本の創作(イメージ)	(内 容)	学年で取り組む「未来のこども絵本大賞」の作品づくりをスタートする。 絵本の創作を通して、保育者の資質を高める。一回目は、創作する絵本のイメージを深め、登場人物や風景など書き溜める。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第3回	絵本の創作(物語)	(内 容)	自分のなかのイメージを、登場人物やあらすじなど、文字化する。 子どもの発達段階に応じた語彙などの特徴を踏まえたものをめざす。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	絵本の創作(下書き)	(内 容)	創作絵本の下書きをおこなう。その際、子どもが夢中になる絵本をめざして、図書館の絵本などをさまざまな作者の作風や特徴を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	絵本の創作(色ぬり)	(内 容)	創作絵本の色ぬりをおこなう。絵本の物語を意識した色使いやぬり方の技法を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	絵本の創作(仕上げ)	(内 容)	未来のこども絵本大賞への提出締切に合わせて提出ができるように、創作した絵本を完成させる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	創作絵本のプレゼンテーション資料づくり	(内 容)	完成した創作絵本のゼミメンバー内で共有するために、プレゼンテーション用の資料を作成する。創作した絵本の工夫した点やアピールポイントなどをわかりやすく伝える工夫を学ぶ。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	創作した絵本の発表(前半)	(内 容)	作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介を全員おこなう。そのなかで、自己評価、相互評価をおこなう。発表時間1人あたり8～10分。90分では全員が発表できないため、次の週も発表時間にあてる。 (必要な準備) 作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介をおこない、自己評価
第9回	創作した絵本の発表(後半)	(内 容)	作成した資料をもとに、創作した絵本の紹介を全員おこなう。そのなかで、自己評価、相互評価をおこなう。発表時間1人あたり8～10分。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	季節をテーマにした保育を考える	(内 容)	東山での散策を通して、季節を感じる保育につなげる素材をスケッチしたり、収集してくる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	季節をテーマにした保育を計画する	(内 容)	東山の散策から集めた素材をもとに季節を楽しむ保育をグループになって計画する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	季節をテーマにした保育を実践する	(内 容)	計画した保育を実践する。各グループの持ち時間は25分。発表グループが保育者役で、発表者以外は子ども役となり、簡単な設定保育を経験する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	絵本大賞の結果発表、絵本についての講演	(内 容)	受賞作品と自らの創作した絵本を比較しながら、子どもと絵本の関係について、自らの考察を深める。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	絵本製作(製本)	(内 容)	自らが創作した絵本を製本化する。製本する技術を習得する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	学習のまとめ	(内 容)	学習の総括を行う。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授業名	総合基礎演習 H			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	絵本や造形作品の制作活動を通して、造形的な表現力を養う。また、様々な素材から造形活動を展開できる方法について考える。学生が相互の関わりからコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。							
学習成果到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。							

授 業 名		総合基礎演習 H	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 絵本の制作について (必要な準備) 事前にシラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	絵本の制作	(内 容) 作る絵本の構想を練る (必要な準備) 絵本などを見ておく(30分程度)	
第3回	絵本の制作	(内 容) ストーリーを決める (必要な準備) ストーリーに関する資料を用意する(30分程度)	
第4回	絵本の制作	(内 容) 原画制作 (必要な準備) 特に必要な道具や材料があれば持参する(30分程度)	
第5回	絵本の制作	(内 容) 文字部分の制作 (必要な準備) 文字部分の制作に必要なものを用意する(30分程度)	
第6回	絵本の制作	(内 容) ページ貼り合わせ 表紙制作 (必要な準備) 特に使いたい道具や材料があれば持参する(30分程度)	
第7回	絵本の制作	(内 容) 製本完成 (必要な準備) 自分の本としての工夫を考える(30分程度)	
第8回	絵本制作のまとめ	(内 容) 絵本の発表、制作の振り返り (必要な準備) 取り組みについてまとめておく(30分程度)	
第9回	教材研究	(内 容) 材料(自然物など)を集める (必要な準備) 指導事例などを調べておく(30分程度)	
第10回	教材研究	(内 容) 集めた材料の加工をする (必要な準備) 自分で使ってみたい材料があれば持参する(30分程度)	
第11回	教材研究	(内 容) 材料を組み合わせ作品を完成させる (必要な準備) 作品の活用について考える(30分程度)	
第12回	造形遊び	(内 容) 造形遊びについて (必要な準備) 子どもの遊びについて調べておく(30分程度)	
第13回	造形遊び	(内 容) 造形で遊ぶ (必要な準備) 自分の取り組みについて調べておく(30分程度)	
第14回	フィールドワーク	(内 容) 展覧会見学 (必要な準備) 展覧会について調べておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授 業 名	総合基礎演習 I			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	総合基礎演習 で学んだことを基礎に、食育についての計画・指導・展開を学ぶ。また、ゼミを拠点にしながら大学生活を送るとともに、大学での学びを深めていく。そのため、ゼミを完全に独自のものとして位置づけるのではなく、全体で連携をもち協力しながら到達目標を目指してアクティブラーニング形式で進めていく。また、春学期に続き、「未来のこども絵本大賞」に応募するための創作絵本の制作と作品の製本過程を学習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識が理解でき、実践的指導ができる。 人間性豊かな幼児教育者として、感性を身につける。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	積極的に参加すること							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回の授業で提示する。							

授 業 名		総合基礎演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	夏休みの課題発表	(内 容) 目標の達成に向けた進捗状況報告 (必要な準備) 発表の準備	
第2回	学内フィールドワーク	(内 容) 学校周辺の自然 (必要な準備) 動きやすい靴、服装の着用	
第3回	学外フィールドワーク	(内 容) 自然との触れ合いの中で絵本や研究テーマ資料を探す (必要な準備) 絵本や研究テーマを考えておく	
第4回	絵本の創作準備	(内 容) 絵本のテーマを考え、制作計画をたてる (必要な準備) 絵本のテーマとストーリーを考えておく	
第5回	絵本の創作	(内 容) 原画制作。 (必要な準備) 絵具や画用紙の準備	
第6回	絵本の創作	(内 容) 文字部分の制作 (必要な準備) 文字部分の制作に必要なものを準備する	
第7回	絵本の創作	(内 容) ページ貼り合わせ、表紙を制作 (必要な準備) 必要な材用を準備する	
第8回	絵本の創作	(内 容) 製本完成 (必要な準備) 工夫する箇所を考えておく	
第9回	絵本製作のまとめ	(内 容) 絵本の発表 (必要な準備) 発表の準備	
第10回	研究レポートのテーマを決める	(内 容) 資料の収集 (必要な準備) 資料を整理して、よく読んでおく	
第11回	資料収集	(内 容) テーマの資料を集めておく (必要な準備) 資料を読んでおく	
第12回	資料の整理	(内 容) 問題点を検討し修正する (必要な準備) 不足している資料を集め整理する	
第13回	研究レポートの経過発表	(内 容) 研究レポートの発表準備 (必要な準備) パワーポイントなどの準備	
第14回	研究レポートの発表	(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 発表の準備	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返る (必要な準備) 取り組んだ内容についてまとめておく	

授業名	総合基礎演習 z a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Freshman Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	高岡 理恵			対象学生	介護2回生			
授業の概要	日々の生活の中で発生する様々な出来事に関心を持ち、フィールドへでて、社会や地域の施策にふれ課題について考察する。そのことを通して、一人の社会人、さらには良き援助者としての態度と視点を育てて行く。							
学習成果到達目標	1) 自己が興味や関心を持ち設定したテーマに対する一連の活動が主体的にできる。 2) 自己の研究活動に対する成果をまとめ、発表することができる。 3) 自己覚知ができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	プリント・資料等を適宜配布する。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	フィールドワークと個人研究活動の2点について取り組みを進めて行きます。積極的・主体的に活動してください。							
オフィス アワー	研究室に掲示しておきます							

授 業 名		総合基礎演習 z a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の進め方と留意について理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	コミュニケーション方法(手話)を学ぶ	(内 容) 手話を学ぶ 指文字を覚える (必要な準備) テキスト指文字を予習しておく	
第3回	コミュニケーション方法(手話)の文法を学ぶ	(内 容) 手話を学ぶ 手話と指文字の違いを知る (必要な準備) テキストp10～48を予習しておく	
第4回	連携と協働 フィールドワークについて考える	(内 容) フィールドワークの意義と目的を知る 自己覚知を行う (必要な準備) 活動テーマを考えておく	
第5回	地域連携と協働 フィールドワークのすすめ	(内 容) テーマに沿ったフィールドワークの事前オリエンテーション (必要な準備) 活動テーマに沿った目標を計画しておく	
第6回	地域連携と協働 フィールドワークの実際	(内 容) フィールドワークへでかけ、自己覚知を行う (必要な準備) 計画したポイントを再度見直しておく	
第7回	地域連携を協働 発表準備	(内 容) フィールドワークで得たことをまとめ発表資料の作成 (必要な準備) 実施した活動について誰がみてもわかるようにまとめておく	
第8回	地域連携を協働 発表	(内 容) フィールドワークで得たことをまとめ発表 (必要な準備) 発表原稿を作成しておく、質問に対する回答を吟味しておく	
第9回	地域連携と協働 地域を知る	(内 容) フィールドワークの事前オリエンテーション (必要な準備) ディスカッションをうけて、不足部分の整理を行う	
第10回	地域連携と協働 地域で学ぶ	(内 容) フィールドワークへでかけ地域の課題を知る (必要な準備) オリエンテーションで計画したポイントを再度見直しておく	
第11回	地域連携と協働 発表の準備	(内 容) 発表資料の作成 (必要な準備) 発表内容を検討しておく	
第12回	地域連携と協働 発表	(内 容) 地域の課題と自己覚知について発表する (必要な準備) 発表練習を行っておく、質問に対する回答を吟味しておく	
第13回	手話への理解 単語と指文字	(内 容) 手話で単語を学ぶ (必要な準備) 前回の復習をしておく テキストを参考に予習しておく	
第14回	手話への理解 日常会話	(内 容) 手話で単語を学ぶ イラストやDVDで日常会話を学ぶ (必要な準備) テキストを参考に予習しておく	
第15回	手話への理解 発表	(内 容) 手話で自己紹介を行う (必要な準備) 自己紹介ができるように練習しておく	

授業名	人間と仏教 a・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹			対象学生	歴史1回生、幼児教育1yf～yh			
授業の概要	本演習は仏教の起源である開祖ブツダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブツダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブツダの生涯」「ブツダの教え」という4つのテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブツダの生涯、ブツダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。							
学習成果到達目標	1) 建学の理念を理解する。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解する。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『ブツダの教え』 佛教大学仏教学科 編 (佛教大学通信教育部)							
参考書	使用しない。							
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。							

授業名	人間と仏教 a・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	(内 容) 日本人の宗教観について共に考える。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「宗教とは何か」	(内 容) 宗教の目的と意義について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第3回	「宗教とは何か」	(内 容) 宗教の分類と「仏教」の位置付けについて概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第4回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第5回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第6回	「仏教成立の時代背景」	(内 容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第7回	「ブッダの生涯」	(内 容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第8回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの出家の経緯について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第9回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの出家・修行時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第10回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの「さとり」を中心として種々なエピソードを含めつつ概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第11回	「ブッダの教え」	(内 容) ブッダの教説「四諦説」の苦聖諦・苦集聖諦を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第12回	「ブッダの教え」	(内 容) 「四諦説」の苦滅聖諦・苦滅道聖諦と八正道について概説する (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第13回	「ブッダの教え」	(内 容) 「縁起説」について概説し、ブッダの教説が現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第14回	「ブッダの生涯」	(内 容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。(90分)

授業名	人間と仏教 b・c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yi～yj			
授業の概要	<p>宗教は生身の人間にとって生きる指針を示すものでなければならない。 本講では人がどう生きればよいのかを問うた、仏教の開祖ゴータマ・ブッダ（釈迦牟尼仏）の生涯を見つめ、仏教思想に学ぶことをねらいとする。</p>							
学習成果到達目標	<p>仏教を含む宗教がなぜ人間にとって必要不可欠なのかについて理解し自ら考える。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (講義に対する意欲)	課題発見・解決能力			
テキスト	<p>佛教大学・編『ブッダの教えと生涯』（佛教大学通信教育学部）</p>							
参考書	<p>参考プリント類は講師が手配する。</p>							
留意事項	<p>講義に関連した小テストを行う。評価基準にもなるので心して受講すること。 講義中の私語および携帯・スマホの使用厳禁。</p>							
オフィスアワー	<p>第1回目の講義にて伝える。</p>							

授 業 名		人間と仏教 b・c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	宗教とは	(内 容) 宗教とは何かについて考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第2回	仏教以前の社会と宗教 他者の発見	(内 容) ブッダ誕生以前のインド社会について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第3回	仏教以前の社会と宗教 他者とのつながり	(内 容) ブッダ誕生以前のインド社会について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第4回	ブッダの誕生	(内 容) ブッダの誕生について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第5回	ブッダの青年時代	(内 容) ブッダが修行にいたるまでの過程を学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第6回	ブッダの修行	(内 容) ブッダが行ったさまざまな修行について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第7回	ブッダの成道	(内 容) さとりを得たブッダについて学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第8回	ブッダの死	(内 容) ブッダの死について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第9回	ブッダの死後	(内 容) ブッダの死後について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第10回	ブッダが説いた教え 縁起	(内 容) 縁起について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第11回	ブッダが説いた教え 四諦(したい)	(内 容) 四諦について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第12回	ブッダが説いた教え 八正道	(内 容) 八正道について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第13回	ブッダが説いた教え 八正道	(内 容) 八正道について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第14回	大乘仏教について	(内 容) 大乘仏教について学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。	
第15回	まとめ	(内 容) 今後の仏教と自分の関わり方を考える。 (必要な準備) 自ら考えてみよう。	

授業名	人間と仏教 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	榎本 正明			対象学生	幼児教育1yd～ye、yf～yh			
授業の概要	<p>本演習は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 建学の理念を理解する。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『法然上人のご生涯とその教え』 佛教大学 編 (佛教大学通信教育部)							
参考書	使用しない。							
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。							

授 業 名		人間と仏教 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「浄土教とは」	(内 容) ブツガ亡き後の仏教教団の形成について概説する。 (必要な準備) 人間と仏教 のノートを読み返しておくこと。(60分)	
第2回	「浄土教とは」	(内 容) 部派仏教から大乘仏教成立までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第3回	「浄土教とは」	(内 容) 浄土教思想の誕生と形成を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第4回	「浄土教とは」	(内 容) 中国での浄土教思想の発展を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第5回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 日本への仏教伝来から奈良仏教までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第6回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 平安時代の仏教を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第7回	「法然上人の生きた時代」	(内 容) 日本での浄土教思想の展開を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第8回	「法然上人の生涯」	(内 容) 誕生から出家・修学時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第9回	「法然上人の生涯」	(内 容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第10回	「法然上人の教え」	(内 容) 阿弥陀仏の本願について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第11回	「法然上人の教え」	(内 容) 往生と成仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第12回	「法然上人の教え」	(内 容) 本願念仏から選択本願念仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第13回	「法然上人の教え」	(内 容) 念仏のこころ、患者の自覚について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第14回	「法然上人の生涯」	(内 容) 念仏の興隆と法難、法然上人以後の展開について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。(30分)	
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 全14回授業のノートを読み返しておくこと。(90分)	

授業名	人間と仏教 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Human and Buddhism			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	浄土宗の開祖である法然上人の生涯と教えを学ぶことにより、私たち人間としてのあり方を考える。							
学習成果到達目標	(1) 建学の理念を理解する。 (2) 法然上人が説かれた念仏の教えを自分たちの問題として理解する。 (3) 法然上人が説かれた「愚者の自覚」について自分たちの問題として理解する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義内での小テスト)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)		
テキスト	佛教大学 編『法然上人のご生涯とその教え』(佛教大学通信教育部)							
参考書								
留意事項	講義中の私語・スマホの使用は厳禁。 講義中に小テストを行う。なお、評価基準にもなるので心して受講すること。							
オフィス アワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		人間と仏教 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期の復習。 (必要な準備) 春学期に学んだブツの教えについて復習しておくこと(30分)。
第2回	仏教伝来	(内 容) 日本に仏教がいつ伝わったのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第3回	浄土教とは	(内 容) 浄土教の思想の誕生について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第4回	浄土教とは	(内 容) 中国浄土教の思想について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第5回	浄土教とは	(内 容) 日本での浄土教思想について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第6回	法然上人の生涯	(内 容) 法然上人の誕生から出家・修学時代について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第7回	法然上人の生涯	(内 容) 求道と浄土宗開宗にいたるまでについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第8回	法然上人の思想	(内 容) 阿弥陀仏について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第9回	法然上人の思想	(内 容) 往生と成仏について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第10回	法然上人の思想	(内 容) 『選択本願念仏集』について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第11回	法然上人の教え	(内 容) 『選択本願念仏集』に説かれた法然上人の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第12回	法然上人の教え	(内 容) 前回授業と同じく『選択本願念仏集』に説かれた法然上人の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第13回	法然上人の教え	(内 容) 念仏と患者の自覚について学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第14回	法然上人の教え	(内 容) 法然の教えを引き継いだ弟子の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。
第15回	まとめ	(内 容) 私たちが法然上人から学ぶべきことを自ら考える。 (必要な準備) 前回授業ノート・資料を読み返しておくこと(30分)。

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィスアワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションを目的としたレクリエーション (必要な準備)
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールを理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる
第7回	講義1	(内 容) 健康と体力について (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておく
第8回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第9回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備)
第10回	講義2	(内 容) 体力評価 (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミンントンの試合 (必要な準備) バドミンントンのルールを調べておく
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミンントンの試合 (必要な準備) バドミンントンの戦術について調べる
第13回	卓球1	(内 容) 基本技術の習得・卓球の試合 (必要な準備) 卓球のルールを調べておく
第14回	卓球2	(内 容) 卓球の試合 (必要な準備) 卓球の戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye、yf～yh			
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力)
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	アイスブレイキング	(内 容) コミュニケーションワーク (必要な準備)	
第3回	ソフトバレーボール1	(内 容) 基本技術の習得・ルールを理解・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの特徴を調べておく	
第4回	ソフトバレーボール2	(内 容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールのルールの復習	
第5回	ソフトバレーボール3	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる	
第6回	ソフトバレーボール4	(内 容) ソフトバレーボールの試合 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術について調べる	
第7回	講義1	(内 容) 健康の意義について1 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと	
第8回	講義2	(内 容) 健康の意義について2 (必要な準備) 健康について自分の考えをまとめておくこと	
第9回	体力測定1	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく	
第10回	体力測定2	(内 容) 文部科学省新体力テスト (必要な準備) 体力測定について振り返りをしておく	
第11回	バドミントン1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる	
第12回	バドミントン2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第13回	バドミントン3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第14回	バドミントン4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる	
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)	

授業名	健康スポーツ科学 a・b・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	吉永 有佳			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yc・yi~yj			
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (健康への理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 a・b・e
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康づくりのための運動について (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第3回	講義 2	(内 容) 体力づくりのための運動について (必要な準備) 体力づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第7回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第11回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールを調べる
第12回	バスケットボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第14回	バスケットボール 4	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	健康スポーツ科学 c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山岡 憲二			対象学生	幼児教育1yd～ye・yf～yh			
授業の概要	本講では運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解	課題発見・解決能力			
テキスト	使用しない。							
参考書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)							
留意事項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学 c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに	(内 容) 本講に関するオリエンテーション (必要な準備)
第2回	講義 1	(内 容) 健康成立のための条件について (必要な準備)
第3回	講義 2	(内 容) 健康とスポーツ、体育及びレクリエーション活動において (必要な準備) 健康づくりの運動にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルール理解・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールを調べておく
第5回	バレーボール 2	(内 容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール 3	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第7回	バレーボール 4	(内 容) バレーボールの試合 (必要な準備) バレーボールの戦術について調べる
第8回	バドミントン 1	(内 容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンのルールを調べる
第9回	バドミントン 2	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第10回	バドミントン 3	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第11回	バドミントン 4	(内 容) バドミントンの試合 (必要な準備) バドミントンの戦術について調べる
第12回	バスケットボール 1	(内 容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール 2	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第14回	バスケットボール 3	(内 容) バスケットボールの試合 (必要な準備) バスケットボールの戦術について調べる
第15回	まとめ	(内 容) レポート作成、提出 (必要な準備)

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>まずは、基本文法をしっかり身につけながらリーディング、ライティング、リスニングの力を少しずつのばしていきたい。小テストは毎回行いますので予習、復習はしておくこと。歴史専攻であるので、日本史や日本文化について英語で読みだしたり話したりすることも取り入れたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 多読、英会話のために必要な文法の基礎を身につける。 2) 文法は特に現在形、過去形、未来形を使えるようにする。 3) 歴史専攻であるので、自分の興味ある歴史上の人物や事柄について簡単に英語で説明できるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社							
参考書	特になし							
留意事項	<p>テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。</p>							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション Unit 1 英語と日本語の大きな違い	(内 容) アルファベットの歌を歌う。 主語・述語の語順確認 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 名詞・代名詞?	(内 容) 名詞・代名詞とその単数・複数 (必要な準備) テキスト pp. 10-13の予習
第3回	Unit 3 形容詞・副詞?	(内 容) 形容詞・副詞の形や使い方の練習 (必要な準備) テキスト pp. 14-17の予習
第4回	Unit 4 前置詞?	(内 容) さまざまな前置詞をフレーズで覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 18-21の予習
第5回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)	(内 容) be動詞と一般動詞 不規則動詞の過去形を覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 22-25の予習
第6回	Unit 5 述語動詞の働き? 時制(現在・過去)の復習	(内 容) Unit 5の復習として英語基本時制の演習 不規則動詞過去形の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 22-25の復習
第7回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型	(内 容) 比較的短い分で5文型をしっかりと理解する。 (必要な準備) テキスト pp. 26-29の予習
第8回	Unit 6 語順の違いは意味の違い? 5文型の復習	(内 容) 長い文で5文型の演習 文型の小テスト (必要な準備) テキスト pp. 26-29の復習
第9回	Unit 7 特別な 'it' と 'there'?	(内 容) ~があります・いますの文を作ってみる。 文型の確認 (必要な準備) テキスト pp. 30-33の予習
第10回	Unit 8 意外と役立つ基本動詞?	(内 容) 基本動詞 get, have, make, takeの例文を覚える。 それぞれの過去形の確認 (必要な準備) テキスト pp. 34-37の予習
第11回	Unit 9 単語よりフレーズが大事?	(内 容) 単語ひとつひとつでなく、フレーズを意識して音読してみる。 (必要な準備) テキスト pp. 38-41の復習
第12回	Unit 10 それって正しいの?	(内 容) さまざまな和製英語を正しい英語にして覚える。 (必要な準備) テキスト pp. 42-45の予習
第13回	Unit 11 働きが異なる動詞ing形?	(内 容) 現在分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 46-49の予習
第14回	Unit 12 形容詞の働きをする動詞?	(内 容) 過去分詞の使い方、役割を確認 (必要な準備) テキスト pp. 50-53の予習
第15回	春学期の復習	(内 容) 特に基本時制と現在分詞・過去分詞の復習 (必要な準備) 不規則動詞の過去形・過去分詞形をよく覚えてくること。

授業名	英語・コミュニケーション b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	幼児教育1ya～yc			
授業の概要	英語4領域（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の基礎英語コミュニケーション力を養成する。インプット（リーディングとリスニング）には、異文化理解にもつながる多読・多聴を取り入れ、英語を英語のまま理解する練習を行う。また、アウトプット（スピーキング、ライティング）には、将来を見据えたスピーキング練習とライティング練習を行う。							
学習成果到達目標	1) 短文の英語表現を使用して、身近な内容について少しやりとりすることができる。 2) 平易な英語絵本・英語本の内容を英語のまま理解することができる。 3) 保育現場で使用する文書の一つ英語で作成することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	プリント配布							
参考書	保育英語検定受験予定者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を使用して、学習に取り組むことを強く望みます。 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定3級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,900円＋税 社団法人保育英語検定協会著 『保育英語検定4級テキスト（改訂版）』 本の泉社 1,524円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定3級問題集）』 本の泉社 1,363円＋税 社団法人国際子育て支援機構著 『保育英語ワークブック（保育英語検定4級問題集）』 本の泉社 850円＋税							
留意事項	授業には必ず辞書を持って来てください。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により小テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 演習授業なので、積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名		英語・コミュニケーション b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	家庭調査票	(内 容) 多読紹介、家庭調査票に関する英単語・作成方法を学ぶ (必要な準備) 図書館にある英語本を5冊読み記録する、練習プリント1
第3回	私の周りの人々	(内 容) 単語テスト1、多読、ファミリーツリー作成、周囲の人々の呼び方を知る (必要な準備) 本読み300単語以上、練習プリント2
第4回	保育英語を使ったワークショップ (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 保育英語を使用し、幼児や児童を対象とした理科×アートのワークショップを体験する (必要な準備) 本読み500単語以上、ワークショップで使用する物の準備
第5回	園に必要な物	(内 容) 単語テスト2、家庭調査票提出、多読、園に必要な物の名前を知る (必要な準備) 本読み500単語以上、家庭調査票作成、練習プリント3
第6回	学校周辺案内	(内 容) 単語テスト3、多読、学校周辺案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、練習プリント4
第7回	道案内1：表現方法	(内 容) 単語テスト4、園に必要な物のリスト提出、多読、道案内の仕方を学ぶ (必要な準備) 本読み500単語以上、園に必要な物のリスト作成、練習プリント5
第8回	運動会への案内状	(内 容) 単語テスト5、多読、運動会への案内状を読む (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント6
第9回	道案内2：練習	(内 容) 単語テスト6、多読、道案内の練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント7
第10回	英語の歌	(内 容) 単語テスト7、運動会への案内状提出、多読、英語の歌を練習する (必要な準備) 本読み1,000単語以上、運動会への案内状作成、練習プリント8
第11回	チャンツ	(内 容) 単語テスト8、多読、チャンツを知る (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント9
第12回	絵本読み	(内 容) 単語テスト9、多読、絵本読みの練習を行う (必要な準備) 本読み1,000単語以上、練習プリント10
第13回	街角英会話	(内 容) 街に出て英語で会話にチャレンジする。 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項の復習と英会話の練習
第14回	遊び	(内 容) 単語テスト10、多読、英語の遊びを知る (必要な準備) 本読み1,500単語以上
第15回	復習	(内 容) 多読、復習 (必要な準備) 本読み1,500単語以上、既習事項で復習が必要な箇所の確認

授業名	英語・コミュニケーション c・e			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication c・e			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	早瀬 和栄			対象学生	幼児教育1yd~ye・yi~yj			
授業の概要	保育現場における外国人の子供や保護者とのコミュニケーションの基礎習得を目標とする。基本語彙、文法、会話表現を学習し、また英語のアクセント・ストレスを練習することができる子供向けのチャンツや歌、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 保育園や幼稚園での登園、室内遊びに関する簡単な指示を英語で行うことができる。 2) 子ども向けの歌を英語で歌うことができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)							
参考書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1472円							
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン c ・ e
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) pp. 6-8の予習、英作文の練習問題をしておく
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(内 容) 子供達への語りかけ (必要な準備) pp. 9-11の予習
第4回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 教室内のこどもの遊び (必要な準備) pp12-14の予習、英作文の練習問題をしておく。
第5回	Chapter 2 実習初日	(内 容) 子供達への語りかけ 英語で「きらきら星」を歌う (必要な準備) pp. 15-17の予習
第6回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) 地図を使ってディスカッション (必要な準備) pp. 18-20の予習、英作文の練習問題をしておく。
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう！	(内 容) リスニング 英語のなぞなぞ (必要な準備) pp.21-23の予習
第8回	グループディスカッション	(内 容) 今までの復習 リスニング (必要な準備) テキストの見直しをしておく。
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) プールでの英語表現 (必要な準備) pp.24-26の予習、英作文の練習問題をしておく。
第10回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(内 容) ベア英会話 英語で遊戯歌「桑の木をまわろう」を歌う。 (必要な準備) pp.27-29の予習
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) 料理で使う英語表現 (必要な準備) pp. 30-32の予習、英作文の練習問題をしておく。
第12回	Chapter 5 ホットケーキの日	(内 容) ホットケーキのレシピを英語で読む 19世紀の英国詩人クリスティーナ・ロセッティの詩を聴く。 ケーキを作る手遊び唄を歌う。 (必要な準備) pp.33-35の予習
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) 絵本の読み聞かせの英語表現 (必要な準備) pp. 36-38の予習、英作文の練習問題をしておく。
第14回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(内 容) ベア英会話 リスニング問題 「マクドナルドおじさん」を英語で歌う。 (必要な準備) pp. 39-41 の予習
第15回	総復習	(内 容) 日常表現 (必要な準備) テキストの見直し

授業名	英語・コミュニケーション d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。 2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。 3) 図書館にある多読用の本に触れる習慣を通して英語に親しみ、各自で楽しみながら読んでいく。							
学習成果到達目標	1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。 2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。 3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参考書	特になし							
留意事項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとChapter 1 Prepositions 1 . Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明と Atの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	Atの使い方とオリエンテーション	(内 容) Atの演習の続きとオリエンテーション (必要な準備) テキスト pp. 4-5の予習 (60分)	
第3回	2 . Byの使い方	(内 容) Byの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 6-9の予習 (60分)	
第4回	3 . Forの使い方	(内 容) Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 10-14の予習 (60分)	
第5回	For、4 . Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 15-18予習 (60分)	
第6回	5 . Inの使い方	(内 容) Inの演習 (必要な準備) テキスト pp. 19-24の予習 (60分)	
第7回	In、6 . Ofの使い方	(内 容) Inの演習の続きとOfの演習 (必要な準備) テキスト pp. 25-29の予習 (60分)	
第8回	Of、7 . Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習 (60分)	
第9回	On、8 . Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習 (必要な準備) テキスト pp. 36-40の予習 (60分)	
第10回	To、9 . Withの使い方	(内 容) Toの演習の続きとWithの演習 (必要な準備) テキスト pp. 41-46の予習 (60分)	
第11回	With、Chapter 2 Verbs 1. Bringの使い方	(内 容) Withの演習の続きとBringの演習 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第12回	Bringの使い方	(内 容) Bringの演習 (必要な準備) 前回の予習の見直し (30分)	
第13回	2 . Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 52-55の予習 (60分)	
第14回	3 . Doの使い方	(内 容) Doの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 56-61の予習 (60分)	
第15回	4 . Getの使い方と春学期のまとめ	(内 容) Getの演習全体とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 62-67の予習 (60分)	

授業名	英語・コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	春学期と同様、基本文法はしっかりと身につけます。リーディング、ライティング、リスニングの教材もさらに加えています。日本史や日本文化の情報を讀んだり話したりすることも取り入れます。							
学習成果到達目標	1) 多読、会話につながるような必要な文法の基礎を身につける。 2) 現在形、過去形、未来形、現在完了形を用いて、自分のことを簡単に伝える。 3) 自分の興味ある歴史上の人物、事柄を簡単に英語で説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『Focus on Basic English for Communication』樋口千春・福富かおる・Richard Carpenter 松柏社 春学期に使用したテキストの続きをします。							
参考書	特になし							
留意事項	後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションと 動詞の時制の復習	(内 容) 動詞の時制および文型の練習問題 (必要な準備) 動詞の過去形、文型の復習をしておくこと	
第2回	Unit 13 過去分詞のもう1つの働き? 受動態	(内 容) 過去分詞のおさらい 能動態から受動態へ書き換える練習 (必要な準備) テキスト pp. 54-57の予習	
第3回	Unit 14 YES/NOとNOT 疑問文	(内 容) 疑問文, 否定文の作り方。 実際に作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 58-61の予習	
第4回	Unit 15 'When', 'Who', 'Where' and 'What'	(内 容) YES/NO疑問文の復習 Wh-疑問文の作成 (必要な準備) テキスト pp. 62-65の予習	
第5回	Unit 16 思いを伝える助動詞?	(内 容) 助動詞の使い方。否定文、疑問文。 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習	
第6回	Unit 17 過去を表さない'would'と'could'	(内 容) Unit 16助動詞の復習 丁寧な依頼文を作る。 (必要な準備) テキストpp. 70-73の予習	
第7回	Unit 18 名詞の働きをする動詞? 動名詞・不定詞	(内 容) 名詞の働きを確認。 動名詞・不定詞の使い方。 (必要な準備) テキスト pp. 74-77の予習	
第8回	Unit 19 形容詞・副詞の働きをする動詞? 不定詞	(内 容) 形容詞・副詞の役割の確認 形容詞的用法・副詞的用法の不定詞の演習 (必要な準備) テキストpp. 78-81の予習	
第9回	Unit 20 'Hand in hand'の意味? 接続詞	(内 容) 等位接続詞の演習 (必要な準備) テキスト pp. 82-85の予習	
第10回	Unit 21 「いつ」でない'when'?	(内 容) 等位接続詞の復習 その他の接続詞を使って文を作る。 (必要な準備) テキスト pp. 86-89の予習	
第11回	Unit 22 'Good', 'Gooder', 'Goodest'?	(内 容) 比較級の練習。 例文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 90-93の予習	
第12回	Unit 23 「誰が」でない'who'& 「どれ」でない'which'	(内 容) 関係代名詞の理解と演習 (必要な準備) テキスト pp. 94-97の予習	
第13回	Unit 24 過去と現在のつながりを表す?	(内 容) 関係代名詞の復習 現在完了形の理解と演習 不規則動詞の変化の確認 (必要な準備) テキスト pp. 98-101の予習	
第14回	Unit 24 現在完了形の復習	(内 容) 現在完了形を含む時制の復習 小テスト (必要な準備) テキスト pp. 98-101の復習	
第15回	秋学期の復習	(内 容) まとめの小テスト (必要な準備) 疑問文の作り方、時制、関係代名詞をしっかりと復習しておくこと。	

授 業 名	英語・コミュニケーション b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	工藤 敦子			対 象 学 生	幼児教育1ya~yc			
授業の概要	1) テキストの項目にそって文法の「基礎」を確認しながら、文の構造を学んでいく。 2) テキストの「会話表現」にも注目し、自分で「活用」できるよう、その「表現」を習得する。 3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。 2) 「前置詞と動詞」の使い方を理解する。 3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『Getting Back To Basics』 中村良廣 著 (松柏社) 2008年							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	テキストの演習を中心に授業を進めていくので、各自テキストを用意し、予習をして、日頃の学習をしっかりと積み重ねていくことが大切である。そして授業にはテキストや辞書を忘れず、集中して臨んでほしい。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読用の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションとUnit 1 Prepositions 1. Atの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業、テキストに関する説明とAtの演習 (必要な準備) テキスト pp. 1-4の予習 (60分)	
第2回	At、2. By、3. Forの使い方	(内 容) Atの演習の続きとBy、Forの演習 (必要な準備) テキスト pp. 4-10の予習 (60分)	
第3回	For、4. Fromの使い方	(内 容) Forの演習の続きとFromの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 11-17の予習 (60分)	
第4回	5. In、6. Ofの使い方	(内 容) In、Ofの演習 (必要な準備) テキスト pp. 18-23の予習 (60分)	
第5回	Of、7. Onの使い方	(内 容) Ofの演習の続きとOnの演習 (必要な準備) テキスト pp. 23-28の予習 (60分)	
第6回	On、8. Toの使い方	(内 容) Onの演習の続きとToの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 28-34の予習 (60分)	
第7回	9. Withの使い方	(内 容) Withの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 35-38の予習 (60分)	
第8回	Unit 2 Verbs 1. Comeの使い方	(内 容) Comeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 39-42の予習 (60分)	
第9回	2. Get、3. Giveの使い方	(内 容) GetとGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 43-47の予習 (60分)	
第10回	Give、4. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 47-51の予習 (60分)	
第11回	5. Have、6. Keepの使い方	(内 容) HaveとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 52-56の予習 (60分)	
第12回	Keep、7. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 57-60の予習 (60分)	
第13回	8. Make、9. Sayの使い方	(内 容) MakeとSayの演習 (必要な準備) テキスト pp. 61-65の予習 (60分)	
第14回	Say、10. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習の続きとSeeの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 66-69の予習 (60分)	
第15回	11. Take、「定型表現」の使い方と秋学期のまとめ	(内 容) Takeの演習全体と「定型表現」に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 70-73と「定型表現」のプリントの予習 (60分)	

授 業 名	英語・コミュニケーション c・e			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	早瀬 和栄			対 象 学 生	幼児教育1yd~ye・yi~yj			
授業の概要	春学期の授業をさらに発展させた形で、実際のコミュニケーションの場で多用される口語表現を身につけ、相互交流的な英会話能力を伸ばす。リスニングとライティング。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 基本単語・基本構文の習得 2) リスニングの習得 3) 英語によるコミュニケーション能力の向上							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)							
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2057円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1472円							
留 意 事 項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		英語・コミュニケーション c・e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	役立つ日常会話	(内 容) 保育英語について考える (必要な準備) シラバスを読む	
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) 日本の年中行事に関する英語表現 (必要な準備) pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第3回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(内 容) デザートについてのペア英会話 (必要な準備) pp.45-47の予習	
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での英語表現 (必要な準備) pp.48-50の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第5回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(内 容) お誕生日会での遊び 「なわとび唄」を英語で歌う。 (必要な準備) pp.51-53の予習	
第6回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 英国圏の国における子供の遊び文化 (必要な準備) pp.54-56の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第7回	Chapter 9 こどもと遊び	(内 容) 園児へのグラウンドでの遊びをうながす語りかけ (必要な準備) pp.57-59の予習	
第8回	復習	(内 容) テキストの復習 グループディスカッション (必要な準備) テキストの見直しをしておく。	
第9回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃん保育での英語表現 (必要な準備) pp.60-62の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第10回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(内 容) 赤ちゃんへの語りかけ 英語の子守唄を歌う (必要な準備) pp.63-65の予習	
第11回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) 歯磨き指導の英語表現 (必要な準備) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第12回	Chapter 11 歯の妖精	(内 容) ペア英会話 妖精の詩を読みます。 (必要な準備) pp.69-71の予習	
第13回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) お遊戯会での英語表現 (必要な準備) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。	
第14回	Chapter 12 緑の目の魔女	(内 容) ペア英会話 リスニング (必要な準備) pp.75-77の予習	
第15回	総復習	(内 容) 日常で使える英語表現 (必要な準備) テキストの見直し	

授業名	英語・コミュニケーション d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 敦子			対象学生	幼児教育1yf～yh			
授業の概要	<p>1) 春学期と同じように文法の「基礎」を確認していくが、テキストの最後のChapterにかけては、「会話設定」の問題で力が試されるので、その演習に対応できるようになることをめざす。</p> <p>2) 「会話表現」においても、「応用」できるようにする。</p> <p>3) 習慣として多読用の本を各自で楽しみながら読んでいく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 英文を作るために必要な文法の基礎を理解する。</p> <p>2) 「動詞」の使い方と「会話の定型表現」を理解する。</p> <p>3) テキストの「会話」を発音し、書けるようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Writing without Tears』 中村良廣 著 (松柏社) 2016年							
参考書	特になし							
留意事項	今学期もテキストの演習を中心に授業を進めていく。予習では春学期よりも正確な文を作れるよう取り組んでほしい。テキストと辞書を忘れないことや授業に集中して臨むことは、春学期と同様である。テキストを用意していない場合は「欠席」とみなす。また、多読の課題については、最後の授業での最終提出が評価の前提になるので、以前に提出した場合でも必ず提出する。							
オフィスアワー	授業終了後に連絡を取る。							

授 業 名		英語・コミュニケーション d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーションと5. Giveの使い方	(内 容) シラバスを基にした授業に関する説明とGiveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 68-73の予習 (60分)	
第2回	Give、6. Goの使い方	(内 容) Giveの演習の続きとGoの演習 (必要な準備) テキスト pp. 74-80の予習 (60分)	
第3回	Go、7. Haveの使い方	(内 容) Goの演習の続きとHaveの演習 (必要な準備) テキスト pp. 81-86の予習 (60分)	
第4回	Have、8. Keepの使い方	(内 容) Haveの演習の続きとKeepの演習 (必要な準備) テキスト pp. 87-92の予習 (60分)	
第5回	Keep、9. Lookの使い方	(内 容) Keepの演習の続きとLookの演習 (必要な準備) テキスト pp. 93-96の予習 (60分)	
第6回	Look、10. Makeの使い方	(内 容) Lookの演習の続きとMakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 97-101の予習 (60分)	
第7回	Make、11. Putの使い方	(内 容) Makeの演習の続きとPutの演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 102-106の予習 (60分)	
第8回	12. Say、13. Seeの使い方	(内 容) Sayの演習全体とSeeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 107-115の予習 (60分)	
第9回	See、14. Takeの使い方	(内 容) Seeの演習の続きとTakeの演習 (必要な準備) テキスト pp. 116-121の予習 (60分)	
第10回	Take、15. Wantの使い方とChapter 3 Formulaic Expressions 1. A)挨拶をかわす	(内 容) Takeの演習の続き、Wantと1. A)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 122-128の予習 (60分)	
第11回	1. B) 紹介をする 2. A) 質問をする B) 聞き返す C) 道を尋ねる	(内 容) 1. B)、2. A)、B)、C)の演習全体 (必要な準備) テキスト pp. 129-135の予習 (60分)	
第12回	3. A) 提案する B) 感謝する	(内 容) 3. A)の演習全体とB)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 136-141の予習 (60分)	
第13回	3. B)、C) 謝る D) 依頼する	(内 容) 3. B)の演習の続き、C)の演習全体とD)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 141-146の予習 (60分)	
第14回	3. D)、E) 断る F) ほめる	(内 容) 3. D)の演習の続き、E)の演習全体とF)の演習 (必要な準備) テキスト pp. 146-152の予習 (60分)	
第15回	3. F)、G) 電話をかける Chapter 4 Other Useful Expressionsと秋学期のまとめ	(内 容) 3. F)の演習の続き、G)の演習全体、Chapter 4の演習に関する解説とまとめ (必要な準備) テキスト pp. 153-164の予習 (60分)	

授業名	日本語表現法 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya～yb			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力を習得する 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法を習得する							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自己表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的に取り組むことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回に提示する。							

授 業 名		日本語表現法 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について学ぶ。ノートをとることの必要性を理解し、ノートの取り方を練習する。 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと。(10分)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの基本を復習する。原稿用紙の使用方を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義の復習をする。(30分)	
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を学ぶ。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。(30分)	
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(20分)	
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習を行う。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。(30分)	
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。	
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方を学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。(30分)	
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について学ぶ。 (必要な準備) 課題を完成させる。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習を行う。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。(30分)	

授業名	日本語表現法 c			開講学年	1回生	単位数		
英文名	Japanese Writing			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	幼児教育1yc~yd			
授業の概要	日本語の基礎知識を学び、学生、社会人として必要な文章表現力を修得するための訓練を行う。							
学習成果到達目標	1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自由表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	練習問題や文章作成など、積極的にとりくむことを望む。毎回国語辞典またはそれに類するものを持参すること。							
オフィス アワー	授業初回到提示する。							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 C
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業の進め方	(内 容) 授業の進め方と授業内容について説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	仮名遣い	(内 容) 仮名遣いの説明をする。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 表記の目安の説明。 (必要な準備) 前回の講義の復習。
第4回	小論文 書き方 (口語と文語)	(内 容) 口語と文語、敬体と常体の違いを説明する (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第5回	小論文 書き方 (文章の構成)	(内 容) 小論文の一般的構成を説明する。 (必要な準備) 課題文を完成させてくる。
第6回	小論文 作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第7回	敬語について	(内 容) 敬語の種類と用法を説明する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第8回	敬語についての練習問題	(内 容) 待遇表現を含む文章を作成する。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第9回	敬語を用いた会話	(内 容) 敬語使用の実践練習をする。 (必要な準備) 敬語の用法についてまとめておく。
第10回	手紙の書き方	(内 容) 手紙の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第11回	手紙の作成	(内 容) 手紙を作成する。 (必要な準備) 手紙の書き方について復習しておく。
第12回	ビジネス文書 書き方	(内 容) ビジネス文書の書き方の説明。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第13回	ビジネス文書 作成	(内 容) ビジネス文書を作成する。 (必要な準備) ビジネス文書の書き方についてまとめておく。
第14回	慣用句	(内 容) 慣用句について説明する。 (必要な準備) 課題を完成させる。
第15回	まとめ	(内 容) これまでの復習。 (必要な準備) 疑問点などをまとめておく。

授業名	日本語表現法 d・e・f			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	土井 哲治			対象学生	幼児教育1ye~yf、yg~yh、yi~yj			
授業の概要	<p>短期大学で授業を受けたり、社会で活躍したりするのに必要な日本語能力を修得するため、日本語に関して不足している知識と、未整理のままでも有効活用できていない知識を、体系的に整理して講義し、講義内容の理解を練習問題で確認する。併せて、定型文の学習と語彙訓練を行い、日本語能力の基本を完成する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 日本語の基本的な能力が身に付いている。 2) 今後の日本語能力を鍛えてゆく方法が分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	配布プリント							
参考書	使用しない。							
留意事項	当然のことながら、国語辞書を持参するとより効果的な学習ができる。							
オフィス アワー	金曜日午後12から15時まで							

授 業 名		日本語表現法 d・e・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要と日本語能力の問題点の纏説。国語力診断小テスト。 (必要な準備)	
第2回	仮名遣い	(内 容) 内閣総理大臣告示に基づいた仮名遣いの学習。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第3回	漢字等の使用の目安	(内 容) 内閣官房長官通知に基づいた表記の目安の学習。敬語力診断小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第4回	動詞の尊敬・語彙練習 1	(内 容) 動詞の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回確認テストの復習。	
第5回	動詞の謙譲語 ・語彙練習 2	(内 容) 動詞の謙譲語 の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第6回	動詞の聞手尊敬・語彙練習 3	(内 容) 動詞の聞手尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第7回	動詞の特殊な敬語・語彙練習 4	(内 容) 動詞の特殊な敬語の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第8回	ラ変型活用の語の尊敬・語彙練習 5	(内 容) 形容詞等の尊敬の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第9回	ラ変型活用の語の丁寧・語彙練習 6	(内 容) 形容詞等の丁寧の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第10回	敬語的表現・語彙練習 7	(内 容) 婉曲表現等の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第11回	手紙文・語彙練習 8	(内 容) 手紙文の形式とマナーの講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。敬語練習問題の完全理解。	
第12回	手紙文課題練習	(内 容) 手紙文を作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第13回	事務的文章・語彙練習 9	(内 容) 事務的文章の形式の講義、語彙小テスト。 (必要な準備) 前回講義の復習。	
第14回	事務的文章課題練習	(内 容) 事務的文章の作成。 (必要な準備) 前回講義の復習。課題下準備。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答。 (必要な準備) 質問の用意	

授業名	人権と社会 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Human Rights and Society			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業時に資料を配布する							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		人権と社会 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)
第2回	人に備わる利他性	(内 容) 心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきちやのか考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第3回	差別と偏見 --「行動」から「心」を探る	(内 容) 我々が普段おこなう選択と選好の問題に関して考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第4回	差別と偏見 --市場理論からの分析	(内 容) 市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第5回	差別と偏見 --エスニシティに関する住民の独立意向を考察する	(内 容) スコットランドやカナダのケベック州の独立運動について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第6回	ジェンダーの視点について	(内 容) ジェンダーの視点について考察する (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第7回	男女の行動の違いについて --リスクの取り方に性差あり?	(内 容) リスクの取り方の性差について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第11回	男女の行動の違いについて --性差を超えた取り組みを	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項(60分)

授業名	人権と社会 b・c			開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Human Rights and Society			開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	向出 佳司			対象学生	幼児教育1ya～ye、yf～yj		
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>						
学習成果 到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、子ども・高齢者の世代間交流、障害者との共生・共育についてどのような問題があるのかについて理解できる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	授業時に資料を配布する						
参考書	適宜紹介する						
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		人権と社会 b・c	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 人間の概念	(内 容) 本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (必要な準備)	
第2回	人権の概念	(内 容) 社会権・平等権・自由権について考察する。 (必要な準備) 日本国憲法の人権条項を準備する。	
第3回	人権侵害の概念	(内 容) 尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (必要な準備) 世界人権宣言を準備する。	
第4回	障害者問題	(内 容) 障害者との共生・共育の3つの理念について理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第5回	高齢者問題	(内 容) 高齢社会下における高齢者の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第6回	子ども・家族の問題	(内 容) 少子社会における子ども・家族の人権について考察する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第7回	性の問題	(内 容) 男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (必要な準備) 関連報道記事を準備する。	
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(内 容) 性差の刷り込みの影響について考察します。 (必要な準備) 前講の復習。	
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(内 容) 社会環境により性差を生む側面について考察する。 (必要な準備) 前講の復習	
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(内 容) 女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第11回	性差を超えた取り組み	(内 容) 人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (必要な準備) 前講の復習。	
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(内 容) 国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(内 容) 女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(内 容) 女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (必要な準備) 前講の復習。	
第15回	まとめ	(内 容) 本講義のポイント整理。 (必要な準備) 定期試験にむけた質問事項。	

授業名	情報処理 a・b・c・d・f			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	春・秋学期	必修・選択	必修	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1ya~yb、yc~yd、ye~yf、yi~yj			
授業の概要	<p>情報化社会において、適切に情報や情報機器を取り扱える人材育成をめざし、その基本的な情報技術や知識を習得することを目的とする。本科目では主に文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの操作方法を、大学での学習や就職先での実践を想定した課題に取り組むことにより習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる。 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (ITリテラシ-	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授業名	情報処理 a・b・c・d・f	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンスとPCの基本操作	(内 容) 授業内容の確認をする。Gmailの使用方法を理解し、メールの送受信を行う。 (必要な準備) パスワードを持参する。シラバスを読んでおく。(20分)
第2回	PowerPointの基本操作 1 イラストの作成	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。図形を用いたイラストを挿入する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第3回	PowerPointの基本操作 2 表の作成・写真の挿入	(内 容) PowerPointで自己紹介用の資料作成を行う。表や写真を挿入する。 (必要な準備) 自己紹介用の写真を用意する。(20分)
第4回	PowerPointによるプレゼンテーション	(内 容) PowerPointで作成した自己紹介用の資料を用い、プレゼンテーションを行う。 (必要な準備) 自己紹介用の資料を完成させておく。(60分)
第5回	Wordの基本操作 (文書作成と整形)	(内 容) 要旨の作成を通して、Wordによる文書作成と整形を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第6回	Wordの基本操作 (表の作成)	(内 容) 複数の表の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第7回	Wordによる案内文の作成	(内 容) 案内文の作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第8回	Wordによるはがきの作成	(内 容) 年賀状又は暑中見舞いのはがきを作成する。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第9回	Excelの基本操作	(内 容) 合計や平均など基本的関数の操作を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第10回	Excelによる表、グラフの作成	(内 容) データ入力、表・グラフの作成を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第11回	Excelによるデータベースの活用	(内 容) データベース機能を理解し、データベースの活用を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第12回	Excelとワードの活用 課題作成 内容の検討	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第13回	Excelとワードの活用 課題作成 完成	(内 容) 習得したテクニックを用いて課題作成を行う。図や写真などを挿入し、完成させる。 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)
第14回	学習成果の発表	(内 容) 課題を発表する。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)
第15回	WordとExcelの活用	(内 容) データを連結させる。宛名ラベルの作成を行う。 (必要な準備) 前回までの課題を完成させておく。(30分)

授業名	情報処理 e			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Information Processing			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	岩佐 真代			対象学生	幼児教育1yg～yh			
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報処理スキルを習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。また、インターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。							
学習成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができるようになる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができるようになる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができるようになる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実践力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。授業毎にプリントを配布							
参考書	使用しない。							
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。							
オフィス アワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		情報処理 e	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Windowsの基本操作	(内 容)	フォルダ作成、Gメールの送受信など (必要な準備) IDとパスワード、メール利用方法の冊子を必ず持参 自分の所有する携帯電話(スマートフォン等)の契約内容(データ通信量、料金形態等)を確認しておく シラバスの内容を確認する(30分)
第2回	Word 1(基本操作)	(内 容)	USBメモリ使用上の注意 コピー&貼り付け、書式設定、文字カウントなど (必要な準備) USBメモリの準備 前回の復習(30分)
第3回	Word 2(文書作成と整形)	(内 容)	文書作成 ページレイアウトの設定 インデントとTabキー、箇条書きなど (必要な準備) 前回の復習(30分)
第4回	Word 3(図入りの文書の作成)	(内 容)	図形・画像の作成・挿入 テキストの配置 Snipping Toolの使い方など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第5回	Word 4(表作成)	(内 容)	単純な表、複雑な表の作成 (必要な準備) 前回の復習(30分) 自分の時間割がわかるものを持参
第6回	Word 5(総復習)	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第7回	Excel 1(基本操作)	(内 容)	セル・シートの解説 データ入力 簡単な計算式など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第8回	Excel 2(表計算)	(内 容)	合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など 式のコピー (必要な準備) 前回の復習(30分)
第9回	Excel 3(作表と印刷設定)	(内 容)	罫線、文字の配置 セルの挿入・削除・結合 印刷設定など (必要な準備) 前回の復習(30分)
第10回	Excel 4(グラフ)	(内 容)	棒・折線・円・複合などのグラフ Wordとのリンク (必要な準備) 前回の復習(30分)
第11回	Excel 5(総復習)	(内 容)	分析とグラフ作成の実践 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第12回	PowerPoint 1(基本操作)	(内 容)	スライドサイズの変更 スライドマスターの編集 箇条書き、インデント、Tabキーの使い方 画像の加工、アニメーションの設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第13回	PowerPoint 2(Word、Excelとの連携)	(内 容)	グラフ、表の作成 ノートの記入 印刷設定 (必要な準備) 前回の復習(30分)
第14回	PowerPoint 3(総復習) インターネット・リテラシー	(内 容)	習得したテクニックを用いて課題作成 インターネットを使用する上で注意すべき点について学習する (必要な準備) 前回の復習(30分)
第15回	PowerPoint 4(プレゼンテーション)	(内 容)	PowerPointを使用したプレゼンテーションの実際 (必要な準備) プレゼンテーションの準備 前回の復習(30分)

授業名	日本語表現法 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 a
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	日本語表現法 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	短大での学びや社会生活において求められる日本語の能力の習得をめざし、15回の授業を通して主に小論文の書き方を学び、添削指導によって訓練する。文章作成に必要な基本作業や文章構成の論理構築、個性発揮の方法等を学び、自分を魅せるための文章力を習得する。							
学習成果到達目標	1) 小論文の書き方が分かっている。 2) 自分の考えを相手に伝え共感を生むための文章力の獲得のために、訓練すべきことが分かっている。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	なし							
留意事項	授業準備を怠らないこと。							
オフィス アワー	金曜日午後15時から18時まで							

授 業 名		日本語表現法 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく	
第2回	小論文とは	(内 容) 小論文の作成方法について解説する。 (必要な準備) 課題に関する資料の用意	
第3回	課題に関する資料の理解	(内 容) 論じる事項を理解する。 (必要な準備) 資料のまとめ	
第4回	課題を論じる論旨図の作成	(内 容) 論旨図を作成する。 (必要な準備) 前回講義内容の完璧な理解	
第5回	論旨図の再構成	(内 容) 論旨図を再構成する。 (必要な準備) 再調査・論旨図の熟考	
第6回	小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第7回	小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 参考資料の味読	
第8回	小論文の完成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を熟成する。 (必要な準備) 更なる資料調査	
第9回	制限字数を減らして、論旨図作成	(内 容) 制限字数を減らしてどう論じるか考える。 (必要な準備) 論旨図の用意	
第10回	制限字数を減らして、小論文の作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第11回	制限字数を減らして、小論文の書き換え	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 自己添削	
第12回	次の課題の小論文の準備	(内 容) 次の課題の論旨図まで仕上げる。 (必要な準備) 資料の収集	
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 論旨図の完成	
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 再調査	
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認	

授業名	日本語表現法 C			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Writing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	読み手にとって分かりやすい文章を書くための方法を学び、添削指導によって訓練する。また、文章を読むことを通じて書き手の言いたいことを読み取れる力を養う。							
学習成果到達目標	1) 読み手に内容が伝わる文章を書ける 2) 文章の大まかな意味を読み取れることができる							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	随時提示する							
留意事項	課題は必ず全て提出すること。							
オフィス アワー	初回の授業で提示する							

授 業 名		日 本 語 表 現 法 C
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	授業のねらいと進め方の理解	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) シラバスを熟読しておく
第2回	文章の書くための準備	(内 容) 文章を書く前の準備を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第3回	文章を書くための注意点 語法	(内 容) わかりやすい文章を書くための語法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第4回	文章を書くための注意点 接続詞	(内 容) わかりやすい文章を書くための接続詞の使用方法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第5回	文章を書くための注意点 表現	(内 容) わかりやすい文章を書くための表現法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第6回	文章を書くための注意点 感情表現	(内 容) 感情表現を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第7回	読み手を説得する方法	(内 容) 帰納法、演繹法を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第8回	文章の推敲	(内 容) 推敲における注意点を理解する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第9回	要約 新聞記事	(内 容) 要約の方法を理解する。新聞記事を読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第10回	要約 エッセイ	(内 容) エッセイを読み要約する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第11回	要約 小説	(内 容) 小説を読み要約する。要約を通して読解力を養う。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第12回	小論文の準備	(内 容) 小論文を作成のための内容の組み立てを考える。 (必要な準備) 資料の収集
第13回	小論文作成	(内 容) 小論文を作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第14回	小論文の再作成	(内 容) 添削結果を承けて小論文を再作成する。 (必要な準備) 前回の課題を完成させておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業を総括する。 (必要な準備) 未提出課題の確認

授業名	いのちの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Life Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	生命進化を生化学的に概観するとともに、地球の環境変化との相互関係を解説する。 1. 生命の科学的定義。 2. 生命進化 3. 地球の環境変化 4. 個体発生 5. 発生過程の生化学的変化							
学習成果到達目標	1) 生命に対する科学的概念が確立できる。 2) 生命進化に対する地球環境の影響を理解できる。 3) 個体発生過程を理解できる。 4) 最新のバイオテクノロジーに関心を持ち、関連の新聞記事が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	プリントを配布します。							
参考書	ニュートン 「生命の誕生と進化の38億年」((株)ニュートンプレス)、視覚でとらえるフォトサイエンス 「生物図鑑」鈴木孝仁監修 数研出版、NHKプロジェクト 『地球大進化』(NHK出版)。							
留意事項	生物学、化学、地学などの学問領域にこだわることなく、最新の知見に基づき総合的に思考、理解して欲しい。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		いのちの科学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	生命とは	(内 容) 生命の科学的定義 (必要な準備) 生命について考えておく	
第2回	進化タンパク質	(内 容) たん白質に残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) タンパク質について調べておく	
第3回	進化とDNA	(内 容) DNAに残された進化の化学的痕跡 (必要な準備) DNAについて調べておく	
第4回	宇宙の誕生過程	(内 容) 宇宙のフラストレーションとビックバン (必要な準備) 宇宙の誕生について調べておく	
第5回	地球の歴史	(内 容) 太陽および地球の誕生過程 (必要な準備) 地球の歴史について調べておく	
第6回	地球上の大陸移動	(内 容) 大陸移動およびそのエネルギー源 (必要な準備) 大陸移動について調べておく	
第7回	地球の凍結	(内 容) 全球凍結による大量絶滅 (必要な準備) 地球の凍結について調べておく	
第8回	地球上の生物の発生と進化	(内 容) 生物の進化 (必要な準備) カンブリア爆発について調べておく	
第9回	ヒトの起源	(内 容) 哺乳類およびヒトの誕生 (必要な準備) ヒトへの進化について調べておく	
第10回	ヒトの起源(ヒトが地球上に拡散した過程)	(内 容) ヒトがアフリカから地球上に拡散した過程 (必要な準備) ミトコンドリア・イヴ説などを調べておく	
第11回	日本人の起源	(内 容) 日本人の構成 (必要な準備) 日本人の起源について調べておく	
第12回	個体発生(受精過程)	(内 容) 精子と卵子の受精から着床まで (必要な準備) 受精の課程について調べておく	
第13回	個体発生(妊娠過程)	(内 容) 受精卵の着床から出産まで (必要な準備) 妊娠の課程について調べておく	
第14回	バイオテクノロジーについて	(内 容) クローン羊の意義、遺伝子組み換え技術による農作物 (必要な準備) バイオテクノロジーについて調べておく	
第15回	再生医療	(内 容) ES細胞、iPS細胞の意義 (必要な準備) 再生医療について調べておく	

授業名	こころの科学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Science			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>心理学の基礎を学び、人の心のはたらきや行動について理解を深める。また、心理学は生活や社会と密接に結びついた内容が研究されており、日常的な現象について心理学の理論や実験を通して理解をすすめる。心理学を学ぶことで、自己理解・他者理解をすすめる、発達していく人間の可能性を認識し、社会でより良く生きるための知見を得る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 知覚や認知のしくみ・パーソナリティー・記憶について科学的に分析し、人の行動を理解することにつなげる。 2) 生涯発達の観点のもと、乳幼児期と青年期の発達や心の理論の発達について理解する。 3) 集団生活や社会の中での人の心のはたらきや行動の解明に活用されている心理学、対人援助分野に活用されている心理学について学び、今後の仕事や生活に活かす。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力))
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項								
オフィスアワー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室前に掲示する)							

授 業 名		こころの科学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 心理学の歴史と方法 心理学の専門分野	(内 容) 講義の目的と学習の流れ 心理学の歴史 心理学の専門分野と各分野の関係 (必要な準備) 専用のファイルを準備する。	
第2回	心理学入門1 知覚と認知の理解	(内 容) 感覚・知覚・認知の定義 錯覚 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第3回	心理学入門2 パーソナリティーの追究	(内 容) パーソナリティーの定義 パーソナリティー特性 パーソナリティー検査 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第4回	心理学入門3 記憶の不思議	(内 容) 記憶のしくみとプロセス 忘却 記憶の研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第5回	発達心理学1 発達と青年期	(内 容) 発達の定義 発達段階と発達課題 生涯発達の観点 青年期の心理的特徴 (必要な準備) 心理学入門1～3の復習(90分)	
第6回	発達心理学2 心の理論	(内 容) 心の理論の研究とその展開 心の理解の土台づくり (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第7回	発達心理学3 赤ちゃん・乳児の能力	(内 容) 赤ちゃんの能力 赤ちゃん・乳児研究 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第8回	社会心理学1 社会的認知の理解	(内 容) 他者や集団の受けとめ方 印象形成 ステレオタイプ 帰属 バランス理論と認知的不協和理論 (必要な準備) 発達心理学1～3の復習(90分)	
第9回	社会心理学2 社会的影響の理解	(内 容) 集団内での影響作用 援助行動 意思決定 リーダーシップ (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第10回	中間まとめ	(内 容) 前半の講義の振り返りとレポートの作成 (必要な準備) 社会心理学1～2の復習(90分)	
第11回	臨床心理学1 無意識と防衛機制	(内 容) フロイトの精神分析理論 心の構造 自我の防衛機制 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第12回	臨床心理学2 カウンセリング	(内 容) ロジャーズの来談者中心療法 自己概念 共感と傾聴の態度 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第13回	臨床心理学3 教育現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第14回	臨床心理学4 福祉現場の心理職	(内 容) 現場の事例と心理職の役割 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第15回	全体のまとめ	(内 容) 講義全体の振り返りとまとめ (必要な準備) 臨床心理学1～4の復習(90分)	

授業名	人生と哲学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Life and Philosophy			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西本 明央			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「哲学」とはあらゆる対象に、常にその真の姿を求める行為である。批判的に捉え直したり、自ら考えたりする姿勢である。自ら主体的に考え、また共に考え合うことによって、新たな視点を見出すことを目的とする。「哲学」は我々の日常への深い洞察から始まるものである。そこで、我々に身近なテーマを毎回取り上げ、共に再考する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 情報をただ受け取るだけでなく、自ら主体的に考えて、自らのものとしてすることができる。 2) あらゆることに対し、批判的に考え直し、それを表現することができる。 3) 自らの人生観・世界観を意識し、表現することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	講義を中心として行う。テキストは特定しないが、種々に考える題材を提供することにより、自分自身の考えをまとめ、ノートを作るよう努力して下さい。							
オフィス アワー	後日研究室前に掲示します。							

授 業 名		人生と哲学 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	「哲学」とは	(内 容) 「哲学」という学問の原点について概説する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	「philosophia」とは	(内 容) 「philosophia=知を愛すること」とは如何なることが共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第3回	「哲学」の意義とは	(内 容) 「哲学」の存在意義について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第4回	「行為とその選択」とは	(内 容) 「行為」を選択する自由と、「選択」する基準について共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第5回	「科学」とは	(内 容) 「科学」とは何か共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第6回	「哲学」と「科学」とは	(内 容) 「哲学」と「科学」は補い合うことを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第7回	「価値」とは	(内 容) 「価値」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第8回	「目的」とは	(内 容) 「目的」を決めるものは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第9回	「常識」とは	(内 容) 「常識」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第10回	「法律」とは	(内 容) 「法律」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第11回	「自然」とは	(内 容) 「自然」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第12回	「環境」とは	(内 容) 「環境」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第13回	「言葉」とは	(内 容) 「言葉」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第14回	「認識」・「概念」とは	(内 容) 「認識」・「概念」とは何かについて共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返し再考する。(30分)
第15回	講義総括	(内 容) 講義のまとめ、我々の日常への新たな視点について共に考える。 (必要な準備) 全14回授業のノートを読み返し再考する。(90分)

授業名	くらしと法律			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Law and Our Living			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	<p>私たちは、さまざまなルールにしたがって日々の生活を送っている。法は、これらのルールの一つであり、国家・社会そして個人のあり方を方向づけるものとして、他ならぬ私たち自身がつくり出したものである。本授業では、人生の各段階における法との出会いを学ぶことを通して、法の社会生活における役割や働きなどを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 具体的な例をもとにして、日々の生活と法との関わりを学ぶことにより、法を身近な事柄として理解できる。 2) 身に付けた知識を、日常生活の中で活用できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	市民生活と法 [第4版] [法律文化社]							
参考書	法律用語辞典 [第4版] [有斐閣]、六法全書 ・ [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所(各章など)を熟読して授業に臨むことが必須である。							
オフィス アワー	質問・相談などは、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		くらしと法律	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	法学入門 1 (現代日本法の特徴)	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成 (必要な準備) テキストの入手。はしがき・目次の一読。	
第2回	法学入門 2 (社会生活と法)	(内 容) 法の性格、法の目的、法の実在形式、法の分類、法に特有の原則 (必要な準備) テキスト序章を熟読しておく。	
第3回	親子と法	(内 容) 法的な人格、出生、親子法理念、実親子、養親子 (必要な準備) テキスト第1章を熟読しておく。	
第4回	職場と法	(内 容) 労働法の意義、労働を取り巻く環境の変化、労働に関する基本ルール、非正規という働き方 (必要な準備) テキスト第3章を熟読しておく。	
第5回	婚姻と法	(内 容) 婚姻、婚姻の効果、婚姻の解消、離婚の効果 (必要な準備) テキスト第4章を熟読しておく。	
第6回	消費生活と法	(内 容) 日常生活における取引の原則と消費者問題、市民の生活を守る「消費者法」ほか (必要な準備) テキスト第5章を熟読しておく。	
第7回	住居と法	(内 容) 住居の多様性、自己所有住居の場合(1)(2)、他者所有住居の場合 (必要な準備) テキスト第6章を熟読しておく。	
第8回	事故と法	(内 容) 事故の種類と法、市民生活上生じる事故、事故被害の救済制度 (必要な準備) テキスト第7章を熟読しておく。	
第9回	情報と法	(内 容) 情報化社会、情報公開、プライバシーの権利、財産的情報 (必要な準備) テキスト第8章を熟読しておく。	
第10回	環境と法	(内 容) 環境問題の動向、環境法における基本原則、循環型社会の形成、地球温暖化防止にむけて他 (必要な準備) テキスト第9章を熟読しておく。	
第11回	地域社会と法	(内 容) 私たちのくらしと地方自治、地方公共団体の組織と運営、住民自治の権利 (必要な準備) テキスト第10章を熟読しておく。	
第12回	犯罪と法	(内 容) 犯罪と刑罰、刑法の一般原理、個別の犯罪類型 (必要な準備) テキスト第11章を熟読しておく。	
第13回	裁判と法	(内 容) 裁判の種類、裁判所の種類と構成、裁判官その他の裁判所職員・検察官・弁護士、刑事裁判他 (必要な準備) テキスト第12章を熟読しておく。	
第14回	高齢社会と法	(内 容) 高齢化社会と法律、新たな成年後見制度の概要、扶養、高齢者問題に関する最近の動き (必要な準備) テキスト第13章を熟読しておく。	
第15回	死亡と法	(内 容) 人の死亡とそれに関わる法、相続の意義、現行相続制度、相続人と相続分他 (必要な準備) テキスト第14章を熟読しておく。	

授業名	くらしと経済 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Economics and Our Living			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 博子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	当然と思いきらしている日々の消費生活を通して「経済」の基礎を学び、経済を支えるビジネスや政府の経済活動が、私たちの生活とどう関わっているのかを具体的に見ていく。 さらに経済のグローバル化によって、これからの経済活動の変化や国際社会のかかえる課題の解決策も考える。							
学習成果到達目標	1) 経済の基礎知識を習得し、経済的社会的正義に基づいたライフスタイルを実践できる。 2) 若者を取り巻く消費者問題や雇用環境を理解し、説明することができる。 3) 倫理、社会、経済、環境面を考慮した消費者行動ができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『くらしの豆知識』国民生活センター編							
参考書	蔵研也『18歳から考える 経済と社会の見方』春秋社							
留意事項	新聞やTV、インターネットなどのニュースに関心を持ち、さまざまな文献や公的機関のHPを積極的に読んでみる。関連する記事はクリッピングしておくこと。復習をしっかりと行うこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	くらしと経済 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 「私たちの生活と経済」	(内 容) 「経済」とは何か (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	経済のしくみとビジネス	(内 容) 「経済を支えるビジネス」や「経済活動の基本的な考え方」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第3回	経済活動と流通	(内 容) 「流通の役割と働き」「流通機構と流通経路」について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第4回	市場経済の機能と限界	(内 容) 市場における「価格」の役割、「市場メカニズム」、「消費行動と意思決定」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第5回	金融のしくみと機能	(内 容) お金と銀行の役割、「日銀のしごと」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第6回	金融サービスと法律	(内 容) 「クレジットカード」、「電子マネー」について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第7回	現代社会と消費者問題	(内 容) 「消費者市民」社会、消費者の権利と責任について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第8回	若者の消費者トラブルと消費者行政	(内 容) 若者を取り巻く消費者トラブル事例と解決策 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第9回	契約の基礎知識	(内 容) 「契約とは」「契約の成立と無効・取消」、 「未成年者の契約」 (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第10回	情報をクリティカルに読み解く	(内 容) 誇大広告や不当表示(景品表示法)について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第11回	雇用と労働問題	(内 容) 労働をめぐる制度・法律、現代の雇用問題と対策について (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第12回	若者の雇用環境	(内 容) 若者の雇用環境の変化とその対策、ブラックバイトについて (必要な準備) テキストを読み、事前学習しておく。
第13回	貿易と外国為替	(内 容) 現代の貿易と日本企業、外国為替と円高・円安のしくみ、経済のグローバル化について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第14回	国際NGOと国際機関、国際会議のいろいろ	(内 容) 国連をはじめ、さまざまな国際機関や国際会議について (必要な準備) 配布資料を事前学習しておく。
第15回	グローバル社会のエシカル消費、まとめ	(内 容) 社会を良くする「エシカル消費」とは、「フェアトレード」の社会的意義について。これまでの授業内容の復習と補足 (必要な準備) テキスト、配布資料を読み直しておく。

授業名	京都の歴史と文化 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History and Culture of Kyoto			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	京都にはどのような歴史と文化が息づいてきたのかについて学ぶ。							
学習成果到達目標	京都の歴史と文化について、様々な視点から京都に関する知識と理解を深め、各自、京都の文化に対する好奇心と実践を養う。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に行う小テスト	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(講義に対する意欲)	
テキスト	担当教員が資料を準備する。配布資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	講義中の私語・スマホの使用は厳禁。 講義中に行う小テストも評価基準となる。							
オフィス アワー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		京都の歴史と文化 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 講義の注意点を良く聞くこと(90分)	
第2回	平安京の誕生	(内 容) 現在の京都市が平安京に選ばれた理由について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第3回	京都の祭 葵祭	(内 容) 京都を代表する祭のうち、葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	京都の祭 祇園祭	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	京都のお寺・神社参り	(内 容) 寺社参りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第6回	京都の「お守り」	(内 容) 寺社に置かれている「お守りについて学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第7回	京の昔話	(内 容) 京に伝わる昔話について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第8回	京の怪異話	(内 容) 京に伝わる怪異話について知る。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第9回	京の信仰生活	(内 容) 京都に住む人々の信仰生活について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第10回	京ことば	(内 容) 「京ことば」を聞く・話す。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと。	
第11回	京の花街	(内 容) 花街で生きる女性(舞妓・芸妓)について学ぶ。 (必要な準備) 講義内容をよく聞いておくこと(90分)	
第12回	京の食生活 京の行事食	(内 容) 京の行事食について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第13回	京の食生活 京菓子里にいたるまで	(内 容) 菓子の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第14回	京の路地(ろおじ)	(内 容) 京都の路地(ろおじ)について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 講義についてのふり返り。 (必要な準備) これまでの講義内容について復習すること。	

授業名	日本の文学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Literature			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>普段読まない、日本の有名な古典作品を味読することで、古い時代の日本人の姿に関する知識を増やし、優れた古人のいろいろな感性やものの考え方に接していただき、それらを通して、日常あまり考えないことを考える手懸かりともしていただきたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 『徒然草』について語ることができる。 2) 普段考えない方面のことを十分考えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理展開力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (文章理解力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫)小川剛生・訳注(角川書店)							
参考書								
留意事項	<p>毎回テキストの現代語訳を読んでくること。 レポート作成時に欠席した場合は、必ず授業内容を確認して提出すること。</p>							
オフィス アワー	月曜日午後12時から午後15時まで							

授 業 名		日本の文学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業概要について (必要な準備)	
第2回	三・七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第3回	九・十二段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第4回	十九・二十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第5回	三十・三十一段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第6回	三十二・三十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第7回	四十一・四十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第8回	五十・五十四段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第9回	五十六・五十九段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第10回	七十一・七十三段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第11回	七十五・八十八段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第12回	百四・百七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第13回	百十二・百十七段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第14回	百二十八・百五十五段	(内 容) 左記の段を精読し、小レポートを作成する。 (必要な準備) 現代語訳を読んでくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題について説明。 (必要な準備) 質問の用意	

授業名	ジェンダー論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Gender Studies			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)ほか、随時紹介する。							
留意事項	講義のほか、ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められる。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容) 概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容) 男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第3回	男女二分法について	(内 容) 二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容) 性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容) 性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第6回	文化とジェンダー	(内 容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第7回	幼児期の性役割の社会化	(内 容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容) 映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)	
第9回	メディアがジェンダー形成に与える影響	(内 容) メディアが与える影響を考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)	
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第13回	男女雇用機会均等法	(内 容) 男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第14回	男女共同参画社会をめざして	(内 容) 各領域でのジェンダー平等の実態について (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめ (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)	

授業名	基礎・現代社会			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Contemporary Society			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	戦後日本の子どもをとりまく現状を理解し、子どもの育ち方について影響を与えている多様な要因を考察する。あわせて子どもの成長・発達における文化の重要性を理解できるようにする。							
学習成果到達目標	1) 戦後の日本社会の変化を子どもを取り巻く「モノ」の変化からとらえ、子どもの成長・発達に及ぼす多様な要因を挙げることができる。 2) 各回の講義テーマの内容に関して、自分の生活経験に照らして社会的意義を理解して他人に説明できる。 3) 現代社会の社会事象のうち、自分の興味・関心を持ったテーマを深く考えていく態度を持つことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	毎回の当該テーマについては、受講生の興味・関心により柔軟に対応することもある。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する等							

授 業 名		基礎・現代社会	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス：戦後日本の社会の変化と子どもの生活	(内 容) 本講義の授業内容と進め方。戦後日本の社会史と家族史・個人史を理解できる (必要な準備) シラバスで授業の流れを確認する。(10分)	
第2回	子どもを取り巻く社会(1)少子化	(内 容) ヒトが人間になるための社会・文化的環境について理解できる。 (必要な準備) 少子化について調べてくる。(20分)	
第3回	子どもを取り巻く社会(2)超少子化	(内 容) 超少子化とはどういうことか、これからの社会の現状を理解できる。 (必要な準備) 前回の要点を箇条書きでまとめてくる。(15分)	
第4回	子どもを取り巻く社会(3)高齢化	(内 容) 高齢化が子どもの育ちに与える影響を理解できる。 (必要な準備) 高齢化について調べてくる。(20分)	
第5回	子どもを取り巻く社会(4)おもちゃの変遷	(内 容) 現代のおもちゃの変遷を知り、子どもの育ちへの影響を理解できる。 (必要な準備) 自分の幼少期に遊んだ遊びについて箇条書きで書いてくる。(20分)	
第6回	子どもと大人(1)育児書	(内 容) 育児書前史、1950年代から60年代、子育ての実用書、80年代から90年代への育児書、これからの育児書を理解できる (必要な準備) 授業の要点を箇条書きでまとめる。(15分)	
第7回	子どもと大人(2)居住環境	(内 容) 大人や子どもにとっての居住環境の意義を理解することができる (必要な準備) 子ども部屋について考えたことを書いてくる。(15分)	
第8回	中間まとめ	(内 容) 子どもの育ちに影響を与える社会・文化的要因についてまとめる。 (必要な準備) これまで学んだ内容を活用し、自分史・家族史をまとめてくる(60分)	
第9回	子どもと文化(1)写真	(内 容) 子ども時代を記録するもの、家族アルバム、子どもの写真が理解できる (必要な準備) 自分にとって、思い出となる一枚の写真について考えてくる。(20分)	
第10回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡	(内 容) 子どもの口ずさむモノ、子どもの宇宙、「唱歌と童謡」を通じて、わらべ唄が理解できる (必要な準備) 自分の知っているわらべ唄を発表できるようにしておく(40分)	
第11回	子どもと文化(2-)わらべ唄・童謡の発表	(内 容) 自分の知っているわらべ唄や童謡を発表することで、多様な伝承文化を理解する (必要な準備) 1枚の用紙にまとめてくる。(60分)	
第12回	子どもと文化(3)おやつ	(内 容) 駄菓子屋、西洋菓子の進出、おやつ、甘いお菓子など、おやつの歴史が理解できる (必要な準備) 各自、好きなおやつを考えてくる。あわせてその理由も書いてくる。(20分)	
第13回	身体をつくる(1)母乳とミルク	(内 容) 人生初期の食べ物について：ヒトはほ乳類であることを理解する。母乳や人工乳についての意義・役割を理解できる。 (必要な準備) 母乳の役割について調べてくる。(40分)	
第14回	身体をつくる(2)食生活	(内 容) 日常の食生活の意義が理解できる。多様な食生活が子どもの育ちに与える影響を理解するとともに、食生活の変遷を知る。 (必要な準備) 各自、食生活について大切にしていることを中心に振り返る。(20分)	
第15回	まとめと次に繋げる課題の明確化	(内 容) 現代社会が子どもの育ちについて影響を与えている多様な要因を検討し、今後のあり方を考えることができる (必要な準備) これまでのまとめと次に繋げる課題を考えてくる。(60分)	

授業名	基礎・数学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Mathematics			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	高等学校までに学習した数学を再び学ぶ。数学の意味を数式、幾何をとおして把握させる。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験をおこない、学力の確認をする。定期試験にくわえて、小テストを毎回実施する。予習復習を義務づける。							
学習成果到達目標	1) 基礎的な数学の問題を解くことに加えて、その手法を習得することを到達目標とする。 2) 最低限の数学の基礎学力を得ることを到達目標とする。 3) 数学を解くことの楽しさを体験することで、より数学に親しむことを目標とする。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業中プリントを配布							
参考書	適宜参考書を紹介する。							
留意事項	小テストを毎回実施する。中学校3年レベル数学検定試験ならびに高等学校2年レベル数学検定試験あり							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		基礎・数学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	数学の美とガイダンス	(内 容) 数学の美しさ、ならびにガイダンス (必要な準備) 数学のイメージをしておくこと	
第2回	中学校3年レベル数学検定試験実施	(内 容) 中学校3年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第3回	数と式1	(内 容) 方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第4回	数と式2	(内 容) 連立方程式・小テスト実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第5回	幾何学1	(内 容) 図形・基本・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第6回	幾何学2	(内 容) 図形・三角形・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第7回	幾何学3	(内 容) 図形・円・小テスト実施 (必要な準備) コンパス・定規・分度器を用意	
第8回	高等学校2年レベル数学検定試験実施	(内 容) 高等学校2年レベル数学検定試験実施 (必要な準備) 中学校数学の復習	
第9回	三角法	(内 容) 三角法・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第10回	代数	(内 容) 確率について学ぶ。小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第11回	統計	(内 容) 統計・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第12回	確率	(内 容) 確率・小テスト実施 (必要な準備) プリントを讀んでおくこと	
第13回	総合演習(1)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第14回	総合演習(2)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	
第15回	総合演習(3)	(内 容) 復習と確認。 (必要な準備) 授業で扱った問題の整理	

授業名	基礎・化学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Basic Chemistry			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	歴史1回生、幼児教育1回生			
授業の概要	私たちの生活の中に起こっている様々な事象は、化学と深く関連している。化学を基礎から学ぶことは、物質の本質を知り生命を理解するうえで重要である。授業では、基礎的な項目である元素記号からはじめ、化学反応や有機化合物や無機化合物について解説する。							
学習成果到達目標	1) 化学の基礎的な項目を理解できる。 2) 生活の中での事象を化学的に捉えることができる。 3) 的確な判断を下し有効に化学の知識を活用できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	わかる化学 松井・小野著 科学同人							
参考書	授業中に指摘する。							
留意事項	教科書やノートで予習と復習をすること。							
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		基礎・化学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	元素の周期表	(内 容) 元素記号と周期表の意味 (必要な準備) 教科書中の元素の周期表を一読しておく	
第2回	原子、分子、イオン	(内 容) 原子、分子、イオンの質量 (必要な準備) p.19 - 25を一読しておくこと	
第3回	物質の成り立ちと構成元素	(内 容) 人や食品を構成する物質 (必要な準備) 教科書p.1 - 7を一読しておくこと	
第4回	化学結合	(内 容) 結合の種類と特徴について (必要な準備) 教科書p.8 - 18を一読しておくこと	
第5回	物質の三態	(内 容) 固体、液体、気体 (必要な準備) 教科書p.29 - 36	
第6回	コロイド化学	(内 容) コロイド粒子や溶液の特徴 (必要な準備) 教科書p.36 - 39を一読しておくこと	
第7回	化学エネルギー	(内 容) 生体エネルギーと食品中のエネルギー (必要な準備) 教科書p.43 - 48を一読しておくこと	
第8回	化学反応と化学反応式	(内 容) 物質の変化を示す化学式。酸と塩基との反応 (必要な準備) 教科書p.49 - 55を一読しておくこと	
第9回	酸化と還元	(内 容) 身の回りの酸化と還元 (必要な準備) 教科書p.55 - 64を一読しておくこと	
第10回	溶液の濃度とその表し方	(内 容) パーセント濃度、モル濃度、規定濃度 (必要な準備) 教科書p.65 - 78を一読しておくこと	
第11回	有機化合物(三大栄養素)	(内 容) 糖質、タンパク質、脂質 (必要な準備) 教科書p.73 - 86を一読しておくこと	
第12回	有機化合物(生命活動を担う物質)	(内 容) 核酸、遺伝、酵素 (必要な準備) 教科書p.86 - 100を一読しておくこと	
第13回	無機化合物の種類	(内 容) 多量元素と微量元素 (必要な準備) 教科書p.101 - 106を一読しておくこと	
第14回	無機化合物の働き	(内 容) 必須ミネラル (必要な準備) 教科書p.107 - 108を一読しておくこと	
第15回	生活と化学	(内 容) 生活の中での化学的な現象 (必要な準備) 具体的な事象について考えておくこと	

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	「文法」の復習をしつつ、会話に必要なリスニングとスピーキングの力をつけていきます。また、異文化について知ることができるよう随時読み物も加えていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 会話を聞き取れるようにする。また、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『English Switch』 Robert Hickling・白倉美里 金星堂							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使用するので必ず購入し持参してください。授業の流れが止まらないよう予習、復習をしっかりとしておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション Pre-Unit Unit 1 Jobs and Careers	(内 容)	品詞と語順 5文型の演習 現在時制の演習 (必要な準備) 特になし
第2回	Unit 2 Entertainment	(内 容)	Unit 1の復習 可算名詞・不加算名詞の確認 (必要な準備) テキスト pp.12-17の予習
第3回	Unit 3 Work Schedule	(内 容)	色々な前置詞の意味 前置詞を含むフレーズを意識して音読 (必要な準備) テキスト pp. 24-29の予習
第4回	Unit 4 Health and Fitness	(内 容)	過去時制の演習 不規則動詞の変化を覚える (必要な準備) テキスト pp. 30-35の予習
第5回	Unit 5 Shopping	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在・過去進行形の使い方 (必要な準備) テキストpp. 36-41の予習
第6回	Unit 6 Business Meeting	(内 容)	名詞・代名詞の確認 加算・不加算名詞の復習 (必要な準備) テキスト pp. 42-47の予習
第7回	Unit 7 Recruitment	(内 容)	現在形・過去形の復習 現在完了形の演習 不規則動詞の過去形・過去分詞形 (必要な準備) テキスト pp. 48-53の予習
第8回	Unit 8 Customer Needs	(内 容)	色々な接続詞の意味、使い方 実際に文を作ってみる。 (必要な準備) テキスト pp. 54-59の予習
第9回	Unit 9 Business Trip	(内 容)	現在形・過去形・現在完了形の復習 未来形の作り方 (必要な準備) テキスト pp .60-65の予習
第10回	Unit 10 Advertising	(内 容)	比較級・最上級の理解 (必要な準備) テキスト pp. 66-71の予習
第11回	Unit 11 Factory Tour	(内 容)	過去分詞の確認 能動態から受動態に書き換える。 (必要な準備) テキスト pp. 72-77の予習
第12回	Unit 12 Money Matters	(内 容)	名詞の役割確認 動名詞・不定詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 78-83の予習
第13回	Unit 13 Leisure	(内 容)	助動詞の意味と英作 (必要な準備) テキスト pp. 84-89 の予習
第14回	Unit 14 Environment	(内 容)	現在分詞・過去分詞の使い方 (必要な準備) テキスト pp. 90-95の予習
第15回	Unit 15 Business Trip 春学期の復習	(内 容)	関係詞節の演習 総復習 (必要な準備) テキスト pp. 96-101の予習

授業名	英語・コミュニケーション			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	文法をしっかり復習しつつ、会話に必要なリスニング、スピーキングの力をつけていきます。異文化理解を目的として読み物も随時取り入れていきます。							
学習成果到達目標	1) 簡単な自己紹介、日本の紹介ができる。 2) 簡単な会話を聞き取り、参加できるようにする。 3) 過去形、現在完了形を使って英作できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『Keep Talking』村田和代・大谷麻美・村田奏美・重光由加 桐原書店							
参考書	特になし							
留意事項	テキストは毎回使うので必ず、購入し持参すること。授業の流れが止まらないように予習、復習はしっかりとしておいてください。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		英語・コミュニケーション	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	Unit 1 Hi, is this seat taken?	(内 容)	オリエンテーション 初めて会った人と話す。 Small talk (必要な準備) テキストpp.2-5の予習
第2回	Unit 2 That's a lovely T-shirt.	(内 容)	一言ほめるテクニックを覚える。 (必要な準備) テキストpp.6-9の予習
第3回	Unit 3 Pardon?	(内 容)	相手の言ったことが聞き取れない時どうするか。 丁寧に尋ねる。 (必要な準備) テキストpp.10-13の予習
第4回	Unit 4 I really enjoyed it.	(内 容)	過去形の復習 Short Answerだけでなく一言加えてみる。 (必要な準備) テキスト pp.14-17の予習
第5回	Unit 5 Is that right?	(内 容)	相手の話を黙って聞いているだけでなくあいづちを打つ。 (必要な準備) テキスト pp.18-21の予習
第6回	Unit 6 How about you?	(内 容)	相手の話に興味を持って聞いていることをうまく伝える。 (必要な準備) テキストpp.22-25の予習
第7回	Unit 7 Thank you so much!	(内 容)	大切な一言、お礼の言い方を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.26-29の予習
第8回	Unit 8 Excuse me, but...	(内 容)	上手に苦情を言う。 (必要な準備) テキストpp.30-33の予習
第9回	Unit 9 This is my fault.	(内 容)	上手に謝罪する。 (必要な準備) テキストpp.34-37の予習
第10回	Unit 10 I'd rather not say.	(内 容)	答えたくない質問に上手に対処してみる。 (必要な準備) テキストpp.38-41の予習
第11回	Unit 11 Could you tell me the way to the station?	(内 容)	助動詞などを使って丁寧に頼んでみる。 (必要な準備) テキスト pp.42-45の予習
第12回	Unit 12 How about next Sunday?	(内 容)	イベントなどに誘ってみる。 (必要な準備) テキストpp.46-49の予習
第13回	Unit 13 I'll think about it.	(内 容)	失礼にならないよう上手に断る。 (必要な準備) テキスト pp.50-53の予習
第14回	Unit 14 That's a good idea, but...	(内 容)	口調を和らげる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.54-57の予習
第15回	Unit 15 I'd better be going.	(内 容)	別れるときの会話を切り上げる表現を覚える。 (必要な準備) テキスト pp.58-61の予習

授 業 名	中国語		開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Chinese		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	大西 あゆみ		対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生				
授業の概要	この講座では前期・後期の一年を通して、自己紹介や買い物といったやさしくかつ実用的な中国語会話を学習することが目的になる。前期では特にピンインの読み方や発音、日本語との文法の違いなどを重点的に説明していく予定である。なお、実際に中国人を教室に招いてのコミュニケーション練習も行う予定。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 中国人と初歩的なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 簡単な中国語が読めるようになること。 3) ピンインを見て正しい発音ができるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	特になし							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		中国語	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	中国語の特徴	(内 容) 中国語と日本語の違いを紹介し、発音を練習 (必要な準備) 特になし	
第2回	L1 . 自己紹介	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 前回の発音を復習しておく	
第3回	L1 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第4回	L2 . これは何ですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習	
第5回	L2 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第6回	中国人との実地コミュニケーション	(内 容) 学習した中国語で中国人と会話する (必要な準備) 使う文型を暗記しておく	
第7回	L3 . これはいかがですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習	
第8回	L3 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第9回	L4 . いくらですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習	
第10回	L4 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第11回	L5 . どこにありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習	
第12回	L5 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第13回	L6 . 何がありますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習	
第14回	L6 . トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく	
第15回	L1 ~ L6 . 総復習	(内 容) プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 前期の学習内容をノートにまとめる	

授 業 名	中国語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Chinese			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	大西 あゆみ			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	前期の続き。レベルはあまり高くないが、いきなり途中から学び始めるのはやや難しいかもしれない。前期を受講しなかった人は、テキストや付属のCDを活用して自分なりの基礎作りを平行して行ってほしい。なお、後期にも機会があれば中国人との実地コミュニケーション練習を取り込む予定。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 中国人とやや複雑なコミュニケーションが取れるようになること。 2) 自分で既習語を応用した文章を作れるようになること。 3) 既習語を応用した文章を耳で聞いて理解できるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『1年生のコミュニケーション中国語』劉穎 著(白水社)							
参 考 書	特になし							
留 意 事 項	前期授業を取らなかった人は、自分でテキストの前半部の単語・文法をノート等にまとめて学習しておくのが望ましい。CDも聞いておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		中国語
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	L7．予約しましたか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第2回	L7．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第3回	L8．何時に行きますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第4回	L8．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第5回	L9．AからBまでどれくらいかかりますか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第6回	L9．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第7回	中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業)	(内 容) 中国人との実地コミュニケーション(予定、できなければ映像教材での授業) (必要な準備) 使う文型を暗記しておく
第8回	L10．着てみてもいいですか	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第9回	L10．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第10回	L11．ちょっと修理してください	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第11回	L11．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第12回	L12．財布を落としたんです	(内 容) 新出語・文法を解説 (必要な準備) 新出語の発音を予習
第13回	L12．トレーニング・練習問題	(内 容) 練習問題を解き、CDでヒアリングを行う (必要な準備) 前回の新出語・文法を復習しておく
第14回	L7～L9．総復習	(内 容) プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく
第15回	L10～L12．総復習	(内 容) プリントによる簡単な復習テスト (必要な準備) 該当学習範囲をノート等にまとめておく

授 業 名	ハングル			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Hangul			開 講 時 期	春学期	必 修 ・ 選 択	選 択	
担 当 者	韓 亨 模			対 象 学 生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授 業 の 概 要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	特になし。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方、韓国語について、あいさつ (必要な準備)	
第2回	基礎・第2課 基本母音	(内 容) 10の基本母音、あいさつ (必要な準備) 前回の復習	
第3回	基礎・第3課 基本子音	(内 容) 平音、激音、濃音、鼻音、流音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第4回	基礎・第4課 複合母音	(内 容) 11の複合母音、自己紹介 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	基礎・第5課 バッチム	(内 容) 代表子音、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) 有声音化、連音、流音化、激音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	基礎・第6課 発音の変化	(内 容) hの弱化、濃音化、口蓋音化、鼻音化、実用表現 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	復習	(内 容) 文字(ハンゲル)と発音のまとめ (必要な準備) これまでの復習	
第9回	第1課 私は浅井ゆかりです	(内 容) ~は / ~です (必要な準備) これまでの復習	
第10回	第2課 出身はソウルですか	(内 容) ~が / ~ですか (必要な準備) 前回の復習	
第11回	第3課 図書館ではありません	(内 容) ~ではありません / ~ではありませんか (必要な準備) 前回の復習	
第12回	第4課 時間がありますか	(内 容) います・あります / いません・ありません (必要な準備) 前回の復習	
第13回	第5課 インターネットをします	(内 容) します・しますか / 何 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第6課 貿易会社で働いています	(内 容) (打ちとけた) します・しますか/います・いません (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	ハングル			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Hangul			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	韓 亨模			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	多文化が共生する今日、隣国である韓国の言葉や文字を学び、さらには韓国の文化に対する理解を深める。							
学習成果到達目標	1. ハングルの仕組みを理解し、正しく読み・書きができる。 2. 韓国語で基礎的なコミュニケーションができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (積極性)	課題発見・解決能力			
テキスト	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』 木内明 著 (国書刊行会)							
参考書	随時指示する。							
留意事項	ハングルが読めることが望ましい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		ハンゲル	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の説明、あいさつ、自己紹介、実用表現 (必要な準備)	
第2回	第7課 東大門市場に行きます	(内 容) (かしまった)です・ます (必要な準備) 前回の復習	
第3回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) ヨ体、(打ちとけた)丁寧 / ~しに (必要な準備) 前回の復習	
第4回	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	(内 容) 母音の縮約 / 変則用言の丁寧形 (必要な準備) 前回の復習	
第5回	第9課 それは1万ウォンです	(内 容) 漢数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第6回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 時間 (必要な準備) 前回の復習	
第7回	第10課 今、何時ですか	(内 容) 固有数詞、助数詞 (必要な準備) 前回の復習	
第8回	第11課 日本語を話されますか	(内 容) 尊敬語 (必要な準備) 前回の復習	
第9回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) 用言の否定 (必要な準備) 前回の復習	
第10回	第12課 そんなに遠くありません	(内 容) ~するといいです (必要な準備) 前回の復習	
第11回	復習	(内 容) 敬語(丁寧語・尊敬語)の復習 (必要な準備) これまでの復習	
第12回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 過去形 (必要な準備) これまでの復習	
第13回	第13課 いつ韓国に来ましたか	(内 容) 変則用言の過去形 (必要な準備) 前回の復習	
第14回	第14課 民俗村に一緒に行きましょう	(内 容) 勧誘の表現(～しましょう / ～しよう) (必要な準備) 前回の復習	
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) これまでの復習	

授業名	健康スポーツ科学			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Health and Sports Science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山岡 憲二			対象学生	歴史2回生、幼児教育2回生			
授業の概要	健康スポーツ科学 ・ で学んだ基礎知識を基に、その応用として生涯にわたるスポーツ活動と健康活動を実現できるよう積極的にスポーツ活動を実践する。本授業での実施種目はバスケットボールとバレーボールで、球技としての特性を活かし仲間とのコミュニケーションを大切にしながらゲームを中心に授業を展開する。							
学習成果到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得する 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得する 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育む							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業態度・協調性)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (健康への理解)	課題発見・解決能力			
テキスト	プリントを使用する。							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。							
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。							

授 業 名		健康スポーツ科学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに アイスブレイキング	(内 容) 本講に関するオリエンテーション・コミュニケーションワーク (必要な準備)	
第2回	ソフトバレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 簡易ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールのルールを調べる	
第3回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第4回	ソフトバレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第5回	ソフトバレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) ソフトバレーボールの戦術を考える	
第6回	バレーボール	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールのル - ルを調べおく	
第7回	バレーボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第8回	バレーボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バレーボールの戦術を考える	
第9回	バレーボール	(内 容) リ - グ戦 (必要な準備) バレ - ボールのルールを調べる	
第10回	バスケットボール	(内 容) グル - ビング・グループ練習・簡易ゲーム (必要な準備) バスケットボールのル - ルを調べておく	
第11回	バスケットボール	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第12回	バスケットボール	(内 容) リーグ戦 (必要な準備) バスケットボールの戦術を考える	
第13回	バドミントン	(内 容) グループビンゲ グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンのル - ルを調べておく	
第14回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	
第15回	バドミントン	(内 容) グループ練習 ゲーム・レボ - ト提出 (必要な準備) バドミントンの戦術を考える	

授業名	歴史学概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to History			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	「歴史」はいつ誕生したのだろうか、また歴史学はいつごろから語られ、その地位を確固たるものとしたのだろうかについて学ぶことを目的とする。							
学習成果到達目標	単に「歴史が好き」だけでなく、そもそも歴史とは何か？歴史学はいつ誕生したのかなどの様々な諸問題について理解することはもちろんのこと、各自が歴史問題について興味を抱き、調査、考察していく力をつけることを目標とする。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		()
テキスト	教員が資料を準備し随時配布する。配付資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	質問や不明な点がある場合は必ず質問すること。講義中の私語やスマホの使用は厳禁。ディスカッションも評価基準となるので真摯な姿勢で講義に取り組んでほしい。							
オフィスアワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学概論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方等について。 (必要な準備) 特になし。
第2回	歴史の誕生	(内 容) 「歴史」とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第3回	歴史学の誕生	(内 容) 歴史学という分野がいつ誕生したのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第4回	歴史学の誕生	(内 容) 歴史学という分野がいつ誕生したのかについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第5回	史料と資料	(内 容) 史料と資料の違いについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第6回	歴史と自然環境	(内 容) 自然環境が与えた人間への刺激 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第7回	歴史と時間	(内 容) 時間がある社会とない社会の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第8回	国家意識とグローバリズム	(内 容) 国家社会の一員という考えの誕生と地球社会という考えについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第9回	身体と病と生死	(内 容) 身体・病・生死との関わり合い方を歴史的に学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第10回	家族の誕生	(内 容) 家族とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第11回	比較という見方	(内 容) 比較史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第12回	政治とは何か	(内 容) 政治史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第13回	暴力の歴史	(内 容) 暴力とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第14回	戦争とは何か	(内 容) 戦争の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第15回	過去 語るができないということ まとめ	(内 容) 歴史学を学ぶ上で大切なことは何かについて各自考察する。 (必要な準備) これまでの講義の復習(90分)

授業名	日本史概説			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Overview of Japanese History			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	坪井 剛			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古代から中世にかけての京都で創建された様々な寺院や神社を「歴史」の観点から紹介することにより、京都で独自に育まれてきた様々な宗教文化の諸相について学ぶ。また、多くの史・資料を提示・解釈することにより、「歴史学」がどういった学問か、理解する。							
学習成果到達目標	1) 「歴史学」の方法論について、説明できるようになる 2) 京都の寺院や神社の歴史が、どのような根拠に基づいて説明されているか、理解できるようになる 3) 様々な問題に対して、主体的に探求する姿勢を身につける							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (発想構想力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()			課題発見・解決能力 ()	
テキスト	毎回レジュメを配布する							
参考書	特になし							
留意事項	各回、リアクションペーパーを配布するので、授業の感想や疑問に思ったことを記すこと							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授業名	日本史概説	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 「歴史学」とはどのような学問か、理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	歴史学の方法論	(内 容) 「歴史史料」の重要性を理解する (必要な準備) 第1回配布のレジュメを読んでおく
第3回	神話は歴史史料となるか？上賀茂・下鴨神社	(内 容) 上賀茂・下鴨神社の創建伝承から、神話に書かれる内容をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 上賀茂・下鴨神社について、辞書で調べておく
第4回	神話は歴史史料となるか？木嶋神社	(内 容) 秦氏にまつわる伝承から、神話が新たな伝承を生み出すことを理解する。 (必要な準備) 木嶋神社について、辞書で調べておく
第5回	寺院縁起は正しい情報か？六角堂	(内 容) 六角堂の創建伝承から、寺院縁起をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 六角堂について、辞書で調べておく
第6回	文献史料は常に正しいか？北野天満宮	(内 容) 菅原道真に関わる諸史料から、史料批判の必要性について、理解する (必要な準備) 北野天満宮について、辞書で調べておく
第7回	神社境内は昔から変わらないか？北野天満宮その2	(内 容) 北野天満宮境内図の観察から、神社境内が時代とともに変化していることを理解する (必要な準備) 北野天満宮の境内図を観察しておく
第8回	極楽浄土の光景は？平等院・浄瑠璃寺	(内 容) 当麻曼荼羅の観察から、浄土庭園の宗教性について理解する (必要な準備) 平等院・浄瑠璃寺について、辞書で調べておく
第9回	肖像画から読み取れる情報は？知恩院	(内 容) 法然の肖像画から、時代とともに祖師の捉え方が変化していることを理解する (必要な準備) 知恩院について、辞書で調べておく
第10回	託宣は信用できるか？東福寺	(内 容) 『比良山古人霊託』から、託宣史料をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 東福寺について、辞書で調べておく
第11回	伽藍配置図から読み取れる情報は？東福寺その2	(内 容) 東福寺伽藍図の観察から、禅宗の国際性について理解する (必要な準備) 東福寺の伽藍図を観察しておく
第12回	絵図から読み取れる情報は？天龍寺	(内 容) 複数の絵図の観察から、絵図をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 天龍寺について、辞書で調べておく
第13回	絵図に描かれる地形は変化する？天龍寺	(内 容) 嵯峨地域を描いた絵図の観察から、嵯峨地域の発展について、理解する (必要な準備) 事前に配布する絵図を観察しておく
第14回	絵巻物から読み取れる情報は？八坂神社	(内 容) 『年中行事絵巻』の観察から、絵巻物をどのように扱うか、理解する (必要な準備) 八坂神社・祇園祭について、辞書で調べておく
第15回	まとめ	(内 容) 「歴史史料」の重要性について、改めて理解する (必要な準備) これまでの講義の総括を書いてくる

授業名	古文書学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Paleography			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古文書（こもんじょ）の様式・かたちを学び、読解のための必要な基礎的文字にふれてみよう。わからないところは友達と相談してもかまいません。							
学習成果到達目標	1) 漢字の部品として、へん、つくり、かんむり、あし、かまえを識別できるようになること。 2) 数字、単位、人名、地名が読めるようになること。 3) 老舗の看板ぐらいを読めるようになること。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業中に配布します。							
参考書	児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版）があればのぞましい。							
留意事項	日ごろの予習・復習が大事です。適宜小テストも行います。							
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		古文書学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	古文書とは	(内 容) 古文書の定義を説明します。 (必要な準備) 参加する意欲(0分)	
第2回	古文書のかたち	(内 容) 様々なかたちの古文書を紹介します。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおく(60分)	
第3回	くずし字の特徴 へん にんべん・きへん・さんずいへんなど	(内 容) なじみのあるへんがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと(60分)	
第4回	くずし字の特徴 へん てへん・かねへん・ごんべんなど	(内 容) なじみのあるへんがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第5回	くずし字の特徴 つくり りっとう・おおがい・ぼくづくりなど	(内 容) なじみのあるつくりがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第6回	くずし字の特徴 かんむり くさかんむり・たけかんむり・あめかんむりなど	(内 容) なじみのあるかんむりがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第7回	くずし字の特徴 あし・かまえ ころろ・れっか・さらなど	(内 容) なじみのあるあし・かまえがどのように崩されているかをみます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第8回	数字・単位 お米の単位	(内 容) 今では使われない単位や数字を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第9回	数字・単位 お金の単位	(内 容) 今では使われない数字・単位を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第10回	単位・数字 その他	(内 容) 今では使われない数字・単位を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第11回	江戸時代の人名 右衛門・左衛門	(内 容) 江戸時代の人名に読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第12回	江戸時代の人名 兵衛	(内 容) 江戸時代の人名を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第13回	江戸時代の人名 その他	(内 容) 江戸時代の人名を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第14回	譲り状を読む	(内 容) 実際の古文書を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第15回	譲り状を読む	(内 容) 実際の古文書を読みます。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	

授業名	日本文化総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Outline of Japanese Culture			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	古代から現代まで、中央と地域といった地域文化、信仰、宗教、といった精神文化、衣食住などの生活文化などの文化領域を歴史的、相対的な視点を踏まえ日本文化について考察する。							
学習成果到達目標	1) 学生が、日本文化の特色とは何かを自らの見解として提示できるようにする。 3) 学生自らによる新たな文化価値の発見につながるようにする。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義中に小テストを行う。)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	担当教員が随時配布する。配布した資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語、携帯電話使用は厳禁。 ・学生の本分は勉強にあることを常に念頭においておくこと。 ・小テストも評価基準対象になる。 							
オフィスアワー	第1回目の講義にて指示する。							

授 業 名		日本文化総論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) ガイダンス内容を聞いておくこと(90分)	
第2回	文化とは何か	(内 容) 「文化」の誕生について学ぶ。 (必要な準備) 講義を聞いておくこと(90分)	
第3回	古代ー古墳	(内 容) 古墳文化について学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第4回	古代ー飛鳥文化	(内 容) 飛鳥文化の特色と古代朝鮮とのつながりについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第5回	古代ー天平文化	(内 容) 天平文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第6回	古代ー弘仁・貞観文化	(内 容) 弘仁・貞観文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第7回	院政期文化	(内 容) 院政時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第8回	鎌倉・室町文化	(内 容) 鎌倉時代と室町時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第9回	安土・桃山文化	(内 容) 安土・桃山時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第10回	安土・桃山文化	(内 容) 安土・桃山時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第11回	キリシタンと日本文化	(内 容) 宣教師からみた日本文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第12回	元禄文化	(内 容) 元禄時代の文化について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第13回	近代の文化ー世界的戦争	(内 容) 世界的な文化の転換について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義を復習すること(90分)	
第14回	東北と琉球	(内 容) 日本文化は1つかについて学ぶ。 (必要な準備) 講義をよく聞いておくこと(90分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまで講義したことを総括する。 (必要な準備) 全体の講義をふり返ること(90分)	

授業名	史料講読			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Historical Material Reading			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	史料読解のための基礎的な学力を身につける。							
学習成果到達目標	1) ひとりで辞書がひけるようになること。 2) 声に出して読めるようになること。 3) 歴史を学ぶ上で基礎作業となる史料の読解を通じて、現代語訳が正確にできるようになること。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()
テキスト	随時資料を配布する。							
参考書	朝尾直弘・他編『角川新版日本史辞典 最新版』（角川学芸出版）、漢和辞典（出版社は問わない）。							
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		史料講読
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 近世史料の読み方について テキスト配布 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(15分)
第2回	ひっくり返って読む文字 助動詞	(内 容) 返って読む助動詞を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習(60分)
第3回	ひっくり返って読む文字 動詞	(内 容) 返って読む動詞を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第4回	いろいろな助詞	(内 容) 史料上の「てにをは」を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第5回	いろいろな定型句	(内 容) 頻出する定型句を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第6回	旧字・異体字・略字・当て字	(内 容) 現在使わない文字のいろいろを学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第7回	慣用句・熟語・歴史用語など	(内 容) 史料に頻出する (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第8回	暦・方角・時間・単位など	(内 容) 史料を読む上で必要な単位を学ぶ。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第9回	古代の史料を読む	(内 容) 代表的な古代の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第10回	古代の史料を読む	(内 容) 代表的な古代の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第11回	中世の史料を読む	(内 容) 代表的な中世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第12回	中世の史料を読む	(内 容) 代表的な中世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第13回	近世の史料を読む	(内 容) 代表的な近世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第14回	近世の史料を読む	(内 容) 代表的な近世の史料を読む。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(90分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業内容のまとめ (必要な準備) 全体の復習(90分)

授業名	歴史学演習 a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	卒業研究論文の完成。							
学習成果到達目標	1) 卒業研究テーマを設定し、調査を行う。 2) 卒業研究論文とは何かについて徹底的に学ぶ。 3) 卒業研究の骨格を考える。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題発表	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない							
留意事項	学生は自らの研究課題について積極的に取り組むこと。							
オフィス アワー	第1回講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学演習 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 各自卒業研究テーマ発表について考えること(90分)
第2回	卒業研究のテーマについて発表	(内 容) 各自の卒業研究テーマ(以下、研究と略記する)について発表すること。 (必要な準備) 研究テーマの発表準備を行う(90分)
第3回	研究論文の計画書作成	(内 容) 計画書作成を行う。 (必要な準備) 具体的な計画書作成を行う(90分)
第4回	研究論文計画書作成	(内 容) 計画書作成を行う。 (必要な準備) 具体的な計画書作成を行う(90分)
第5回	計画書口頭発表	(内 容) 研究計画書について発表。 (必要な準備) 口頭発表準備(90分)
第6回	計画書口頭発表	(内 容) 研究計画書について発表 (必要な準備) 口頭発表準備(90分)
第7回	研究テーマ再考	(内 容) 前回の口頭発表をとおして、研究テーマの再考を行う。 (必要な準備) 口頭発表後に気づいた点などを考察しておくこと(90分)
第8回	史料について	(内 容) 研究論文執筆時に欠かせない史料について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第9回	文献資料の探し方	(内 容) 文献資料の探し方について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第10回	史料を集める	(内 容) 各自の研究にそった史料を探し集める。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第11回	参考文献資料を探す	(内 容) 各自の研究にそった文献資料を探し集める。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第12回	参考文献資料をまとめる	(内 容) 参考文献資料1点を読み各自まとめてみる。 (必要な準備) 参考文献資料を読み要点をまとめる(90分以上)
第13回	研究テーマ再考	(内 容) 各自の研究テーマについて再考する。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第14回	卒業研究の書き方	(内 容) 卒業研究論文の記述法について学ぶ。 (必要な準備) 前回講義の復習(90分)
第15回	合同ゼミ 事前学習	(内 容) 秋学期の合同ゼミの事前学習を1回生とともに行う。 (必要な準備) 事前学習の準備(90分)

授業名	歴史学演習 a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	各自卒業研究論文を書く。							
学習成果到達目標	1) 各自設定した卒業研究に取り組み論文としてまとめる。 2) 自ら学ぶ認識を深める。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (発表を行う)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない							
留意事項	講義外の時間でも個々の指導にあたる。							
オフィス アワー	第1回の講義にて指示する。							

授 業 名		歴史学演習 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 合同ゼミの事前学習	(内 容) 講義の進め方について説明を行う。 合同ゼミの事前学習を行う。 (必要な準備) 研究の夏期休暇中の進捗状況について各自把握しておくこと(90分) 合同ゼミの事前学習準備を行う(90分)	
第2回	合同ゼミ実施	(内 容) 合同ゼミの実施。 (必要な準備) 事前学習(90分)	
第3回	合同ゼミ事後学習	(内 容) 合同ゼミの事後学習を行う。 (必要な準備) 合同ゼミのまとめについて準備する(90分)	
第4回	合同ゼミ事後学習	(内 容) 合同ゼミの事後学習を行う。 (必要な準備) 合同ゼミのまとめについて準備する(90分)	
第5回	卒業研究中間報告準備	(内 容) 卒業研究中間報告会準備。 (必要な準備) 卒業研究中間報告会の準備を各自行う(90分)	
第6回	卒業研究中間報告	(内 容) 各自、卒業研究中間報告を行う。 (必要な準備) 発表準備を各自行う(90分)	
第7回	卒業研究中間報告	(内 容) 中間報告会を行う。 (必要な準備) 発表準備を各自行う(90分)	
第8回	報告会の振り返り	(内 容) 卒業研究の見直しを行う。 (必要な準備) 卒業研究の見直しや訂正、考察点を深める(90分)	
第9回	卒業研究中間発表会の準備	(内 容) 卒業研究中間発表会の準備 (必要な準備) 卒業研究中間発表会の準備を行う(90分以上)	
第10回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) 必ずゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分以上)	
第11回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分)	
第12回	研究論文の草稿作成	(内 容) 研究論文の草稿にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の指導を受けること。 草稿作成の準備(90分以上)	
第13回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 研究論文の作成を行う(90分以上)	
第14回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 チェック後、研究論文の作成を行う(90分以上)	
第15回	研究論文の作成	(内 容) 研究論文の作成にとりかかる。 (必要な準備) ゼミ担当教員の草稿素読・提出許可が必要。 研究論文の作成を行う(90分以上)	

授業名	社会史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Social History			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	社会史とは、歴史的な事件や出来事など特定の対象を学ぶ歴史ではなく、女性や民衆、家族、人々の心性、深層など、人と人との関係が織り成す歴史を考えるとともに、その当時の社会的な背景を考える学際的な学問である。この講義では、社会史とは何かという方法論をアナル学派や阿部謹也から学び、主として日本の心の深層に焦点を当てたい。社会史を学ぶことで、歴史の見方が広がって欲しい。							
学習成果到達目標	1) 社会史の視点を把握し歴史観を広げる。 2) 社会史が歴史学に与えた影響を把握する。 3) 社会史を通して現在を考える。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘。							
留意事項	社会史の方法を把握すること。わからないことは講義後に聞くこと。現代的な価値観で歴史をみないこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		社会史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 社会史とは、何かを調べておく(30分)。	
第2回	社会史の方法	(内 容) アナール学派とは何か、アナール学派の歴史と方法 (必要な準備) アナール学派について調べておく(30分)。	
第3回	社会史の対象	(内 容) アナール学派の事例研究 (必要な準備) 方法論を復習しておく(60分)。	
第4回	刑罰の社会史ー前近代の刑罰	(内 容) 刑罰の歴史 (必要な準備) 身体刑を調べておく(30分)。	
第5回	刑罰の社会史ー近代以降の刑罰	(内 容) 監獄の誕生 (必要な準備) 現在の刑について考えておくこと(60分)。	
第6回	切腹の社会史ー江戸時代以前	(内 容) 切腹の意義を考える (必要な準備) 切腹のイメージについて考えておく(30分)。	
第7回	切腹の社会史ー江戸時代以後	(内 容) 日本文化としての切腹 (必要な準備) 配布史料を読んでおく(30分)。	
第8回	戦国時代の社会史ー奴隷	(内 容) 戦国時代の民衆 (必要な準備) 戦国時代の籠城戦について理解しておく(60分)。	
第9回	戦国時代の社会史ー大坂の陣	(内 容) 大坂夏の陣にみる民衆 (必要な準備) 大坂夏の陣布陣図の特徴を調べておく(60分)。	
第10回	家族の社会史ー前近代と近代	(内 容) 近代家族の誕生 (必要な準備) 家族のイメージ、家族とは何かを考えておく(30分)。	
第11回	家族の社会史ー近代以降	(内 容) 近代家族と現在の家族 (必要な準備) 家族はどうなっていくのかを考えておく(60分)。	
第12回	恋愛の社会史ー恋愛の誕生	(内 容) 近代的な恋愛とは (必要な準備) 恋愛に関する配布資料を読んでおく(30分)。	
第13回	恋愛の社会史ー近代以降の恋愛	(内 容) 現代の恋愛とは (必要な準備) 恋愛はどうなっていくのかを考えておく(60分)。	
第14回	結婚の社会史ー前近代	(内 容) 結婚の歴史 (必要な準備) 結婚に関する配布資料を読んでおく(30分)。	
第15回	結婚の社会史ー近代以降	(内 容) 結婚の歴史と未来 (必要な準備) 恋愛はどうなっていくのかを考えておく(60分)。	

授業名	日本美術史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Japanese Art History			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	縄文時代から近代に至るまでの美術史の流れを概説し、それらが制作されてきた時代背景、あるいは使用されている技法・技術などについても解説を加える。							
学習成果到達目標	1) 日本美術史の流れを理解し、それを説明できるようになる。 2) さまざまな美術工芸品が制作されてきた時代背景や技法について、考えることができるようになる。 3) 新たな文化的価値を見つけられるようになる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		日本美術史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 「日本美術史」のはじまり	(内 容) 授業の概要について説明し、「美術」という言葉の誕生と、「日本美術史」の始まりについて説明する。 (必要な準備) シラバスを確認しておくこと。	
第2回	縄文・弥生・古墳時代の美術	(内 容) 縄文・弥生・古墳時代の造形感覚を概観する。 (必要な準備) 土偶について調べておくこと。(30分)	
第3回	飛鳥・奈良時代の美術	(内 容) 飛鳥・奈良時代の仏教美術を概観する。 (必要な準備) 仏教の伝来について調べておくこと。(30分)	
第4回	正倉院宝物	(内 容) 正倉院宝物の成立と宝物の具体例を説明する。 (必要な準備) 聖武天皇について調べておくこと。(30分)	
第5回	密教美術	(内 容) 密教のほとけたちとその美術を概観する。 (必要な準備) 京都の密教寺院について調べておくこと。(30分)	
第6回	浄土教の美術	(内 容) 浄土教美術について概説する。 (必要な準備) 末法思想について調べておくこと。(30分)	
第7回	鎌倉彫刻	(内 容) 鎌倉時代の彫刻について概観する。 (必要な準備) 仏像の各部名称を覚えておくこと。(30分)	
第8回	絵巻	(内 容) 絵巻物の基礎知識と具体例をみる。 (必要な準備) どのような絵巻があるかを調べておく。(30分)	
第9回	装飾経	(内 容) 装飾された経典の意味と技法について説明する。 (必要な準備) どのような装飾経があるかを調べておく。(30分)	
第10回	禅の美	(内 容) 禅宗が伝えた美術を概説する。 (必要な準備) 京都の禅宗寺院について調べておく。(30分)	
第11回	狩野派の絵師たち	(内 容) 狩野派の絵師とその作品を概説する。 (必要な準備) 「障壁画」とは何かを調べておくこと。(30分)	
第12回	琳派とその作品	(内 容) 琳派の流れとその作品を概観する。 (必要な準備) 「オマージュ」という言葉について調べておくこと。(30分)	
第13回	奇想の画家	(内 容) 伊藤若冲、曾我蕭白、長澤蘆雪の生涯と画業について概説する。 (必要な準備) 伊藤若冲、曾我蕭白、長澤蘆雪の生涯を調べておくこと。(30分)	
第14回	浮世絵	(内 容) さまざまな浮世絵を紹介する。 (必要な準備) どのような浮世絵師が存在したのかを調べておくこと。(30分)	
第15回	近代の洋画壇	(内 容) 江戸時代に始まる絵画の西洋化について説明したのち、近代の洋画壇について京都洋画壇を中心に概説する。 (必要な準備) 明治時代の京都で活躍した洋画家にはどのような人がいたのかを調べておくこと。(30分)	

授業名	古文書学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Paleography			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京都の町に残された古文書の原本をテキストにして、江戸時代の京都に住んだ人々の暮らしに触れる。							
学習成果到達目標	1) 江戸時代のテキストを原文で読むことができる。 2) 江戸時代京都の人々の暮らしに親しむことができる。 3) 現在の場所と比較することができる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	原文書のコピーを配布します。							
参考書	本気で読むには辞書が必要です。演習室にある『くずし字用例辞典』(東京堂出版)がおすすめです。							
留意事項	学芸員補習得を目指す人は受講して下さい。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		古文書学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) テキストの配布と説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)	
第2回	蛸薬師通姥柳町について	(内 容) 古文書が伝来した姥柳町について (必要な準備) 姥柳町がどこにあるか地図で調べてそこに行く(60分)	
第3回	近江屋清兵衛の譲り状 前半	(内 容) 近江屋清兵衛の譲り状の前半を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第4回	近江屋清兵衛の譲り状 後半	(内 容) 近江屋清兵衛の譲り状の後半を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第5回	近江屋いしの譲り状	(内 容) 近江屋いしの譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第6回	近江屋清治郎の譲り状	(内 容) 近江屋清治郎の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第7回	大黒屋すえの譲り状	(内 容) 大黒屋すえの譲り状読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第8回	橘屋卯兵衛の譲り状	(内 容) 橘屋卯兵衛の譲り状読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第9回	大坂屋亀三郎の譲り状	(内 容) 大坂屋亀三郎の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第10回	伊勢屋寛之助の譲り状	(内 容) 伊勢屋寛之助の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第11回	山形屋武兵衛の譲り状	(内 容) 山形屋武兵衛の譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第12回	丹後屋くらの譲り状	(内 容) 丹後屋くらの譲り状を読む (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第13回	机上調査	(内 容) これまで読んだ内容を地図上にまとめる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第14回	現地調査 1回目	(内 容) テキストで読んだ場所を訪ずれる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	
第15回	現地調査 2回目	(内 容) テキストで読んだ場所を訪れる。 (必要な準備) 配布したテキストの予習・復習(60分)	

授業名	史料講読			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Historical Material Reading			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>まず、比較的解読しやすい江戸時代の版本の翻字練習を行い、最低限平仮名は読めるようになることを目指す。次に、翻字された仮名文書と漢字仮名交じり史料を講読し、理解方法に習熟してゆき、最後に複製版の仮名書き及び漢字仮名交じりの史料を講読する。併せて、公家の日記を読み、基本文献について使い方を習得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 仮名のくずし字が読め、一部の漢字のくずし字も読める。 2) 史料として理解することができる。 3) 古記録を読むときの調べ方が分かっている。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (調査方法の習熟度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	配布プリント・『字典かな』笠間影印叢刊行会(笠間書院)							
参考書	『仮名手引き』(柏書房) 『古文書はこんなにおもしろい』(柏書房)							
留意事項								
オフィス アワー	木曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		史料講読
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 概要と用語の説明。テキスト配布。 (必要な準備)
第2回	おあむ物語 1・一オウ 実隆公記大永七年一月一日前半	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。
第3回	おあむ物語 2・二オウ 実隆公記大永七年一月一日後半	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第4回	おあむ物語 3・三オウ・四ウ 実隆公記大永七年一月二日三日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第5回	おあむ物語 4・五オウ六ウ 実隆公記大永七年一月四日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第6回	おあむ物語 5・七オウ八ウ 実隆公記大永七年一月五日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第7回	おあむ物語 6・九オウ 実隆公記大永七年一月六日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第8回	おきく物語 1・一オウ二オ 実隆公記大永七年一月七日	(内 容) おあむ物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習。購読予習。
第9回	おきく物語 2・二ウ三オウ 実隆公記大永七年一月八日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第10回	おきく物語 3・四オウ五ウ六オ 実隆公記大永七年一月九日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第11回	おきく物語 4・六ウ七オウ 実隆公記大永七年一月十日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第12回	おきく物語 5・八オウ九オ 実隆公記大永七年一月十一日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第13回	おきく物語 6・十ウ十一オウ 実隆公記大永七年一月十二日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第14回	おきく物語 7・十二オウ十三オウ 実隆公記大永七年一月十三日	(内 容) おきく物語の翻字訓練と実隆公記の購読。 (必要な準備) 翻字予習と担当箇所のレジメ。購読予習。
第15回	類似史料の紹介と解説・まとめ	(内 容) 標記の講義 (必要な準備) 指示事項の下調べ

授業名	考古学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Archeology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	廣瀬 時習			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	考古学は、遺跡・遺構・遺物を通して、地域と暮らした人々の営みを考える学問です。この授業では、京都、日本の歴史、そして世界の歴史を、先人達が残した物質資料を通して考えます。							
学習成果到達目標	1) 考古学に親しみ、物質資料を様々な視点から観察し、記録することを学ぶ。 2) 自分たちの暮らす地域を、日本を遺物・遺構・遺跡を通して考える。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	なし(授業中にプリント配布)							
参考書	松藤和人・門田誠一編著2010『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房							
留意事項	プリント・映像などを使用して講義を中心に進めます。時間を作って、博物館等を見学してください。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	考古学	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	考古学を学ぶ 地域・歴史・文化	(内 容) 考古学とその考え方を学ぶ (必要な準備) 歴史の資料とは何かを考えてください
第2回	人類の誕生と日本列島の旧石器時代	(内 容) 人類の出現と東アジアの旧石器時代 (必要な準備) 地球儀を思い出しておこう
第3回	縄文文化の特質と変遷 食料資源と獲得戦略	(内 容) 縄文時代の生活と食料資源を考える (必要な準備) 旧石器時代と地球環境を復習
第4回	弥生時代の成立と社会 ムラからクニへ	(内 容) 弥生時代時代の成立と社会、展開 (必要な準備) 縄文時代の変遷と社会の変化について復習
第5回	弥生社会のハードウェアとその特質	(内 容) 弥生文化を彩る各種の道具と特質を考える (必要な準備) 弥生時代の展開を振り返っておこう
第6回	古墳時代とはなにか 前方後円墳の誕生	(内 容) 古墳と古墳時代を考える (必要な準備) 自分生活圏に古墳を探してみよう
第7回	古墳時代の社会と文化 巨大古墳の世紀	(内 容) 巨大前方後円墳と社会の変化 (必要な準備) 古墳時代の開始について復習
第8回	古代国家への歩み	(内 容) 飛鳥時代の宮と文字の歴史 (必要な準備) 高校までの日本史で学んだ古代を考える
第9回	考古学に親しむ 博物館の展示と資料	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) これまでに行った博物館について
第10回	考古学に親しむ 考古資料を観察する	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) ノートなどの詳しく観察記録を書く
第11回	都城の考古学 都市の誕生と展開	(内 容) 都城の考古学 藤原京から平安京へ (必要な準備) 奈良・京都の古都について下調べ
第12回	平安京の成立 平安京成前史とその影響	(内 容) 奈良時代以前の京都盆地とその展開 (必要な準備) 京都の地理を再確認しておく
第13回	京都 - 平安京と洛東の遺跡と歴史	(内 容) 平安京と洛東の歴史を学ぶ (必要な準備) 大学周辺の史跡を調べておこう
第14回	中世・近世と考古学 都市と文化	(内 容) 平安京から京都への変化と社会 (必要な準備) 中・近世の歴史事象を復習しておこう
第15回	まとめ(2) - 考古学に歴史を読む	(内 容) 授業のまとめ (必要な準備) 秋学期の内容の復習

授業名	考古学演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Archeology Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	廣瀬 時習			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	この授業では、遺跡・遺構・遺物を通して人々の営みの深層に迫ります。世界と日本の考古学について物質資料を通して考えてみましょう。							
学習成果到達目標	1) テーマ学習を通して時代を通した歴史を考えよう。 2) 考古資料を学び触れることによって、物質資料の特徴を学ぼう。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題を調べる能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	なし(授業中にプリント配布)							
参考書	松藤和人・門田誠一編著2010『よくわかる考古学』ミネルヴァ書房							
留意事項	プリント・映像などを使用して講義を行うほか、実際に出土した考古資料に触れて、観察し考古学の基本的な記録作業を実習します。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		考古学演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 考古学とその広がりを考える (必要な準備)	
第2回	日本と世界の考古学 外国考古学入門	(内 容) 国境を超える考古学 (必要な準備) 日本と世界の歴史を年表で確認しよう	
第3回	テーマ研究(1) 弥生時代	(内 容) 弥生文化特論 青銅器とまつり (必要な準備) 弥生文化の特徴を思い出す	
第4回	テーマ研究(2) 古墳時代	(内 容) 古墳文化特論 埴輪と古代人の衣装 (必要な準備) 日本文化と衣服の歴史を調べてみよう	
第5回	中間まとめ	(内 容) これまでの授業のまとめと補足 (必要な準備) これまでの復習をしておこう	
第6回	考古資料とその特徴	(内 容) 考古資料の種類や特徴を学ぶ (必要な準備) 考古資料とは何かを考えておこう	
第7回	考古資料実習(1) 遺物に触れる	(内 容) 考古資料を手にとって観察 (必要な準備) 考古資料の特性について復習しておこう	
第8回	考古資料実習(2) 遺物を観察する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(1) (必要な準備) 前回授業の復習	
第9回	考古資料実習(3) 遺物を記録する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(2) (必要な準備) 前回授業の復習	
第10回	考古資料実習(4) 遺物を記録する	(内 容) 考古資料の詳細な観察と記録(2) (必要な準備) 前回授業の復習	
第11回	考古学に親しむー博物館の展示と資料	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) これまでに行った博物館について	
第12回	考古学に親しむー考古資料を観察する	(内 容) 博物館や遺跡調査を見学(2時間連続) (必要な準備) ノートなどの詳しく観察記録を書く	
第13回	テーマ研究(3) 古代の祭祀を考える	(内 容) 弥生・古墳時代の祭祀、儀礼 (必要な準備) 古代日本の宗教を調べてみよう	
第14回	テーマ研究(4) 日本文化を考古資料に読む	(内 容) 各時代の考古資料を通して歴史を俯瞰 (必要な準備) 各時代の考古資料を思い出しておこう	
第15回	まとめ	(内 容) 授業の総括・補足説明 (必要な準備)	

授業名	民俗学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Folklore			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	この講義は、民俗という視点から「いま」のわたしたちの生活を再考することを目的とする。民俗学は簡単にいうと民間伝承を研究する学問といえるが、それは同時にわたしたちの日常生活を振り返る学問ともいえる。また、民俗学自体が農村から都市を対象、研究する流れをも把握して欲しい。この講義を通して、様々な視点から自らの民俗を考えて欲しいと思う。							
学習成果到達目標	1) 民俗学の考え方を習得する。 2) 自らの地域の民俗を考える。 3) 現代での民俗の変化を習得する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘。							
留意事項	わからないことは講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		民俗学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 民俗学の概念について調べておく(30分)。	
第2回	民俗学とは何か	(内 容) 民俗学の考え方 (必要な準備) 民俗学の対象について調べておく(30分)。	
第3回	柳田国男の民俗学	(内 容) 柳田国男の方法 (必要な準備) 柳田国男に関する配布資料を読んでおく(60分)。	
第4回	民俗学と「一国知」	(内 容) 民俗学と国家 (必要な準備) 民俗学と「一国知」に関する配布資料を読んでおく(60分)。	
第5回	一つ目小僧－伝承	(内 容) 一つ目小僧の説話 (必要な準備) 一つ目小僧について調べておく(30分)。	
第6回	一つ目小僧－民俗学的解釈	(内 容) 一つ目小僧とは誰か (必要な準備) 地域の一つ目小僧の伝承について調べておく(60分)。	
第7回	人身御供－伝承	(内 容) 人身御供 (必要な準備) イケニエについて調べておく(30分)。	
第8回	人身御供－民俗学的解釈	(内 容) 人身御供は過去のものか (必要な準備) 『今昔物語』の配布資料を読んでおく(30分)。	
第9回	都市民俗学の試み	(内 容) うわさ (必要な準備) うわさの伝播について調べておく(30分)。	
第10回	都市民俗学の方法と対象	(内 容) 都市伝説 (必要な準備) 身近な都市伝説を調べておく(60分)。	
第11回	差別の民俗学－昔話から考える	(内 容) 昔話にみる差別 (必要な準備) 昔話の配布資料を読んでおく(30分)	
第12回	差別の民俗学－民俗の中の差別	(内 容) 民俗の中の差別 (必要な準備) 過去の民俗と差別の関係について調べておく(60分)。	
第13回	フィールドワーク	(内 容) 周辺の民俗を探る (必要な準備) 該当地域の地名を調べておく(60分)。	
第14回	「世間」と日本人	(内 容) 「世間」とは何か (必要な準備) 「世間」がどのように使われているのかを調べておく(60分)。	
第15回	「空気」と日本人	(内 容) 「空気」と社会 (必要な準備) 「空気」がどのように使われているのかを調べておく(60分)。	

授 業 名	日本思想史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	History of Japanese Thought			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	日本思想史を通して、近・現代の日本を考えたい。この講義では、近代に影響を与えた国学や水戸学、幕末の思想に注目し、現在日本の原型である近代日本を考える。近代日本については、主として同時代に生きた夏目漱石の視点から考えてみる。漱石が、同時代に対して如何に格闘し、近代日本をどのように見ていたのかを把握してもらいたい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現在にも通底する思想を捉え、日本とは何かを考える。 2) 人々の思想に触れることで、どのように当時の社会と格闘したのかを理解する。 3) 講義で触れた思想を基にして現代社会を考えるきっかけを掴む。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『漱石文明論集』(岩波文庫)。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	日本の思想を学ぶ講義であるので、部分であるが中心的な思想の資料を配布し、それに基づいた講義を行う。思想の背景にある歴史を抑えておくこと。また、史料の輪読、グループワークを取り入れる予定である。わからない箇所は講義後に聞くこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		日本思想史
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 日本思想史とは何か。この講義の進め方 (必要な準備) 日本思想史の対象を調べておく(30分)。
第2回	日本思想史の方法	(内 容) 日本思想史をどのように学ぶのか (必要な準備) 日本思想史とは何かの復習(30分)。
第3回	本居宣長と国学	(内 容) 本居宣長の「日本」発見 (必要な準備) 本居宣長についての基礎知識を理解しておく(60分)。
第4回	水戸学とは	(内 容) 水戸学の不思議さ (必要な準備) 水戸藩と水戸学について調べておく(60分)。
第5回	会沢正志斎の「国体」	(内 容) 近代国家の構想 (必要な準備) 会沢正志斎について調べておく(60分)。
第6回	近代日本へのまなざしー夏目漱石と近代日本	(内 容) 夏目漱石が見た近代日本 (必要な準備) 夏目漱石について基本的な理解をしておく。テキストの「解説」を読んでおく(60分)。
第7回	近代日本へのまなざしー開化とは何か	(内 容) 夏目漱石の思想的格闘 (必要な準備) テキストの指示箇所(8-25ページ)を一読しておく(60分)。
第8回	近代日本へのまなざしー開化の影響	(内 容) 夏目漱石の近代批判 (必要な準備) テキストの指示箇所(25-38ページ)を一読しておく(60分)。
第9回	夏目漱石の『こころ』	(内 容) DVD鑑賞 (必要な準備) 『こころ』の概要を把握しておく(60分)。
第10回	夏目漱石の『こころ』から思想を考える	(内 容) 『こころ』を思想的に考える (必要な準備) 前回の感想文(60分)。
第11回	『こころ』のグループワーク	(内 容) 『こころ』をグループで考える (必要な準備) 『こころ』についての配布資料を読んでおく(30分)。
第12回	夏目漱石の個人主義ー他人本位と自己本位	(内 容) 夏目漱石の「個人主義」について (必要な準備) 個人主義とは何かを調べておく。テキストの指示箇所(98-117ページ)を一読しておく(60分)。
第13回	夏目漱石の個人主義ー個人の難しさ	(内 容) 日本で個人主義は可能か (必要な準備) テキストの指示箇所(117-127ページ)を一読しておく(60分)。
第14回	夏目漱石の個人主義ー個人主義の寂しさ	(内 容) 個人主義は孤独なのか (必要な準備) テキストの指示箇所(127-138ページ)を一読しておく(60分)。
第15回	まとめ	(内 容) 近代人の運命とは (必要な準備) 学んだ思想についての自己の考えをまとめておく(30分)。

授業名	人物史			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History of Great People			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	この講義では、歴史上の人物の中から京都に関係の深い人物を選び、その人物から当時の社会を確認し、歴史的、文化的な意義を考えたい。本講義では「敗れた」人物や悲劇の人物について考えたい。そして取り上げる人物を巡る様々な人物を対置させ、「敗れた」人物や悲劇の人物の目指した理想や理念を考える。「敗れた」人物や悲劇の人物に焦点を当てるのは、その人物の持つ可能性や意義を考えることで、多様な歴史観、あるいは現在に通じることを学べるからである。							
学習成果到達目標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴む。 2) 何故、人々は人物に「共感」するのかを考える。 3) 時代と人物との関係を把握する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない。							
参考書	講義中に指摘する。							
留意事項	わからない箇所は、講義後に聞くこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名	人物史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 人物史とは何か (必要な準備) 自身の好きな歴史的人物について調べておく(30分)。
第2回	人物史の方法	(内 容) 人物から歴史を考える (必要な準備) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく(60分)。
第3回	平氏と源氏を巡る人々－源頼朝	(内 容) 平家と源氏の盛衰と両者の理想を考える (必要な準備) 頼朝の基本的な理解をしておく(60分)。
第4回	平氏と源氏を巡る人々－平維盛と重衡	(内 容) 人物から平氏政権の特徴と滅亡を考える (必要な準備) 平維盛と重衡の基本的な理解をしておく(60分)。
第5回	北条高時の悲劇	(内 容) 高時は本当に愚か者なのか (必要な準備) 高時の基本的な理解をしておく(60分)。
第6回	北条高時と鎌倉炎上	(内 容) 高時の教訓 (必要な準備) 鎌倉滅亡に至る『太平記』の配布史料を一読しておく(60分)。
第7回	足利義教－くじ引き将軍	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 義教についての基礎的な理解をしておく(60分)。
第8回	足利義教－恐怖政治	(内 容) くじ引き将軍の目指したもの (必要な準備) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく(60分)。
第9回	近代人、織田信長	(内 容) 信長の世界観 (必要な準備) 信長の基礎的な理解をしておく(30分)。
第10回	織田信長と本能寺の変－光秀は犯人ではない	(内 容) 信長を殺したのは誰か (必要な準備) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく(60分)。
第11回	織田信長と本能寺の変－黒幕の存在	(内 容) 信長を殺しを巡る人々 (必要な準備) 信長と明智光秀について基礎的な理解をしておく(60分)。
第12回	豊臣秀次	(内 容) 秀次は、本当に「殺生関白」なのか (必要な準備) 秀次についての基本的な理解をしておく(30分)。
第13回	豊臣秀次、フィールドワーク	(内 容) 豊臣秀次の墓地 (必要な準備) 秀次の死についての理解(30分)。
第14回	幕末の京都を巡る人々－新撰組	(内 容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (必要な準備) 幕末水戸藩についての理解(60分)。
第15回	幕末の京都を巡る人々－新撰組と会津藩	(内 容) 会津藩と新撰組。彼らは、何故京都人から嫌われたのか (必要な準備) 京都守護職を理解しておく(30分)。

授 業 名	女性史			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	History of Women			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	近世から戦後にいたる女性の社会的位置づけの変遷について学ぶ。さらに、戦後の女性にかかわる社会環境の変化と女性の社会的位置づけについて概観し、現代社会における課題について考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 女性の社会的位置づけの変遷と問題の所在を説明することができる。 2) 現在社会における女性の社会的位置づけと課題を指摘することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		女性史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 女性史の歴史と女性史を学ぶ意義について学ぶ。 (必要な準備) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の生活の歴史について振り返る。(30分)	
第2回	近世社会と女性1: 「女大学」とは	(内 容) 「女大学」の概要を理解する。 (必要な準備) 「女大学」について調べてくる。(30分)	
第3回	近世社会と女性2: 『女大学宝箱』を読む	(内 容) 『女大学宝箱』の記述内容を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第4回	近世社会と女性3: 『女大学宝箱』にみる女性像	(内 容) 『女大学宝箱』にみる女性の役割について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んで考えおく。(30分)	
第5回	近世社会と女性4: 家父長制と女性	(内 容) 家父長制と女性に求められる役割について学ぶ。 (必要な準備) 家父長制について調べてくる。(30分)	
第6回	近代社会と女性1: 良妻賢母教育	(内 容) 近代社会と女性の役割について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでくる。(30分)	
第7回	近代社会と女性2: 家政書にみる女性像	(内 容) 『家政学』の概要を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第8回	近代社会と女性3: 近代の女性観	(内 容) 近世と近代の女性観の違いについて学ぶ。 (必要な準備) 女性観の違いについて考えてくる。(30分)	
第9回	近代社会と女性4: 明治民法と女性	(内 容) 明治民法における女性の位置づけについて学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第10回	近代社会と女性5: 女性と社会運動	(内 容) 婦人参政権運動等の社会活動について学ぶ。 (必要な準備) 婦人参政権運動について調べておく。(30分)	
第11回	現代社会と女性1: 戦後の女性の生活	(内 容) 戦後の女性の生活について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第12回	現代社会と女性2: 女性と教育	(内 容) 戦後から現代までの女性に対する教育の変遷を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第13回	現代社会と女性2: 女性差別撤廃条約	(内 容) 女性差別撤廃条約について知る。 (必要な準備) 女性差別撤廃条約について調べておく。(30分)	
第14回	現代社会と女性3: 男女共同参画社会	(内 容) 男女共同参画社会について学ぶ。 (必要な準備) 男女共同参画社会について調べておく。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの内容をまとめ、今後の課題について理解する。 (必要な準備) これまでの授業内容を振り返る。(30分)	

授業名	日本史特論(1) < 古代～中世 >			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 1: Ancient - Medieval			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	本講義では、文字史料と絵画史料を用いて各史料を解説し、どのように史料読解が出来るのかについて学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 主に古代・中世の歴史史料から同時代の人々の理解と考察する見方を深めることを目標とする。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (講義に対する意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(小レポートを課す)
テキスト	担当教員側で資料を準備する。配付資料は忘失しないこと。							
参考書	史料を読むので各自、国語辞典・漢和辞典・古語辞典・日本史辞典などは揃えておくこと。電子辞書でも可。							
留意事項	史料に基づいた講義となるので、予習復習は必ず行うこと。講義中の議論や小レポートも成績評価に入るので、真摯な姿勢で講義を受けて欲しい。							
オフィスアワー	第1回の講義で指示する。							

授 業 名		日本史特論（１）＜古代～中世＞
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内 容）講義の進め方について。 （必要な準備）特になし。
第2回	『平家物語』巻第五「奈良炎上」	（内 容）『平家物語』と巻五「奈良炎上」について学ぶ。 （必要な準備）『平家物語』の基本的知識を予習しておくこと（６０分）
第3回	『平家物語』巻第五「奈良炎上」	（内 容）「奈良炎上」に記された南都仏教と南都寺院について学ぶ。 （必要な準備）前回講義の復習（９０分）
第4回	『玉葉』にみる南都焼討	（内 容）他の文献史料では南都焼討（奈良炎上）についてどのように記述しているか古記録史料から調べる。 （必要な準備）『玉葉』について調べておくこと（９０分）
第5回	『平家物語』巻第十二「重衡被斬」	（内 容）武家と仏教信仰について学ぶ。 （必要な準備）前回講義の復習（３０分） 史料の訓読と現代語訳ができるようにすること（６０分）
第6回	『平家物語』巻第十二「重衡被斬」	（内 容）武家と仏教信仰について学ぶ。 （必要な準備）殺生を行うことが運命づけられている武士と仏教との関わりについて前回講義の復習もかねて各自考察すること（９０分）
第7回	「重衡被斬」と法然	（内 容）平重衡の往生観と法然について学ぶ。 （必要な準備）前回講義の復習。
第8回	『道成寺縁起』を読む	（内 容）絵画史料を史料として読むということについて学ぶ。 （必要な準備）『道成寺縁起』とはどのような縁起絵巻かについて調べること（９０分）
第9回	『道成寺縁起』を読む	（内 容）縁起絵巻とはなにかについて学ぶ。 （必要な準備）前回講義の復習（９０分）
第10回	『道成寺縁起』を読む	（内 容）絵画を見る。 （必要な準備）前回講義の復習（９０分）
第11回	『道成寺縁起』を読む	（内 容）『道成寺縁起』をどう読んだのかについて考える。 （必要な準備）前回講義の復習（９０分） 各自、『道成寺縁起』から何が読みとれたかについてまとめること（９０分）
第12回	『餓鬼草紙』・『地獄草紙』を読む	（内 容）『餓鬼草紙』・『地獄草紙』について学ぶ。 （必要な準備）『餓鬼草紙』と『地獄草紙』について調べておくこと（９０分）
第13回	『餓鬼草紙』・『地獄草紙』を読む	（内 容）描かれた絵画を見る。 （必要な準備）各自絵画から何が読みとれるか考えること（９０分）
第14回	文献史料読解	（内 容）文献史料読解について考える。 （必要な準備）様々な史料があることを確認しつつ、これまでの講義について自ら考えること。
第15回	まとめ	（内 容）これまでの講義のまとめ。 （必要な準備）講義の復習（６０分）

授業名	日本史特論(2) < 中世 ~ 近世 >			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 2: Medieval - Early Modern			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	織田信長と豊臣秀吉研究の最新研究成果を紹介します。							
学習成果到達目標	1) 小説や読み物などで描かれた信長像ではなく、史料に基づいた信長像・秀吉像を形成すること。 2) 信長や秀吉の行ったことがその後どのような影響を与えたかを考えるきっかけになること。 3) 信長と秀吉とで何がどう違うのかを理解すること。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『岩波講座 日本歴史』第10巻 近世1							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		日本史特論（２）＜中世～近世＞	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）授業の進め方の説明とテキストの配布 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと（15分）	
第2回	織田政権論 1 武家の権力編成	（内 容）テキスト第1章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第3回	織田政権論 2 宗教勢力との戦い	（内 容）テキスト第2章1・2の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第4回	織田政権論 2 宗教勢力との戦い	（内 容）テキスト第2章3の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第5回	織田政権論 3 天皇と朝廷との関係	（内 容）テキスト第3章1・2の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第6回	織田政権論 3 天皇と朝廷との関係	（内 容）テキスト第3章3の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第7回	織田政権論 まとめ	（内 容）これまでのまとめ （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第8回	豊臣政権論 1 織田政権の継承と国制の選択	（内 容）テキスト第1章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第9回	豊臣政権論 2 中国仕置きと九州平定	（内 容）テキスト第2章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第10回	豊臣政権論 3 国制の確立	（内 容）テキスト第3章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第11回	豊臣政権論 4 天下統一の完成	（内 容）テキスト第4章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第12回	豊臣政権論 5 「唐入り」と秀次事件	（内 容）テキスト第5章の解説 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第13回	豊臣政権論 まとめ	（内 容）まとめ （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第14回	京都における信長関連地見学	（内 容）京都に残る信長関連史跡を見学する。 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	
第15回	京都における秀吉関連地見学	（内 容）京都に残る秀吉関連史跡を見学する。 （必要な準備）テキストを読んでおく（60分）	

授業名	日本史特論(3) <近世~近代>			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	History 3: Early Modern - Modern			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	通史的な歴史理解を前提にして、より専門的な近世期から近代期の歴史を学ぶ。特に、近世から近代の歴史の変換期は京都を抜きにしては語れない。また、天皇との関係を抜きにして歴史を語ることはできないであろう。戦国期からの権力者と天皇との関係、幕末の京都を中心としたテーマで多角的な視点から京都をとりまく歴史と日本の国家としての形を考えてみたい。							
学習成果到達目標	1) 将軍にとって、何故天皇が必要であったのかを把握する。 2) 幕末京都の歴史的な意義を捉える。 3) 民衆の政治的な視線を把握する。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (歴史的汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力		()
テキスト	使用しない							
参考書	授業中に紹介する。							
留意事項	史料を輪読する。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		日本史特論（3）＜近世～近代＞	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）この講義の方向性 （必要な準備）近世、近代の歴史的位置付を概括的に把握しておく（30分）。	
第2回	信長政権と天皇	（内 容）信長の天皇観 （必要な準備）安土城天守閣の世界観を調べておく（60分）。	
第3回	豊臣政権と天皇	（内 容）秀吉の天皇観 （必要な準備）豊臣秀吉の官位の変遷について調べておく（30分）。	
第4回	徳川幕府の誕生と天皇	（内 容）家康の天皇観 （必要な準備）家康と豊臣秀頼の関係について調べておく（60分）。	
第5回	徳川政権の朝廷政策	（内 容）禁中並公家諸法度と紫衣事件 （必要な準備）禁中並公家諸法度と紫衣事件について調べておく（60分）。	
第6回	光格天皇の朝廷復権	（内 容）光格天皇の理想 （必要な準備）光格天皇について基本的な理解をしておく（30分）。	
第7回	幕末の尊王攘夷運動	（内 容）尊王攘夷運動の影響 （必要な準備）尊王攘夷運動について基本的な理解をしておく（30分）。	
第8回	孝明天皇と將軍	（内 容）一会桑政権 （必要な準備）一会桑について調べておく（30分）。	
第9回	長州藩の藩論	（内 容）尊王攘夷運動を主導する長州藩 （必要な準備）尊王攘夷運動に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第10回	尊王攘夷運動と長州藩	（内 容）尊王攘夷の実施 （必要な準備）外国船砲撃事件に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第11回	幕末京都と水戸藩	（内 容）本因寺党 （必要な準備）水戸藩の基礎的な理解をしておく（30分）。	
第12回	長楽寺と水戸藩	（内 容）京に眠る水戸藩士について （必要な準備）長楽寺に関する配布史料を読んでおく（60分）。	
第13回	学外学習	（内 容）長楽寺にある水戸藩士のお墓 （必要な準備）長楽寺についての知識（30分）。	
第14回	幕末京都の天誅	（内 容）天誅の流行と被害 （必要な準備）天誅の有効性を考えておく（30分）。	
第15回	幕末京都の民衆観	（内 容）京都の民衆の政治意識 （必要な準備）民衆意識に関する史料を読んでおく（60分）。	

授業名	京都の歴史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	History of Kyoto			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	京都で育まれた歴史と文化を学んで、京都検定3級合格程度の知識を身につけ、社会に出た後の基礎的教養とする。							
学習成果到達目標	1) 教養として知っておくべき歴史知識を獲得することができる。 2) 獲得した知識・内容を他の人に説明できる。 3) 京都検定3級合格程度の歴史知識を発展的に獲得することができる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』(2016 淡交社)							
参考書	京都市史編纂所編『京都の歴史』全10巻							
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		京都の歴史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス・平安時代以前の京都	(内 容) 授業の進め方の説明とテキストの解説 (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第2回	平安時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第3回	鎌倉時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第4回	室町時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第5回	学外授業 銀閣寺	(内 容) 銀閣寺の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(50分)	
第6回	学外授業 大文字山	(内 容) 大文字山の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第7回	江戸時代の京都と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第8回	近現代の京都	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第9回	学外授業 平安神宮	(内 容) 平安神宮の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第10回	近世の史跡と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第11回	学外授業 二条城	(内 容) 二条城の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第12回	幕末・近代の史跡と小テスト	(内 容) テキストの解説と確認テスト (必要な準備) テキスト該当部分を熟読しておくこと(60分)	
第13回	学外授業 木屋町幕末維新遺跡	(内 容) 木屋町幕末維新遺跡の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第14回	学外授業 疎水・有鄰庵・疎水記念館	(内 容) 疎水・有鄰庵・疎水記念館の見学 (必要な準備) テキスト該当部分の復習(60分)	
第15回	京都検定第12回・13回京都検定2級・3級過去問	(内 容) 過去の問題にチャレンジ (必要な準備) これまでの復習(60分)	

授業名	京の服装文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Culture of Kyoto Clothing			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>現在の和服が形成されるまでの歴史を学ぶ。さらに、服装に用いられた様々な染織技法について理解する。</p> <p>1. 古代の貴族の服装と染織技法 2. 中世の武家の服装と染織技法 3. 近世の町人の服装と染織技法</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 和服がどのように形成されてきたのかを説明することができる。 2) 服装に用いられてきた染織技法の概略を説明することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	随時指示する							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		京の服装文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容)	本講義の目標 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	奈良時代までの服装文化	(内 容)	奈良時代までの服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第3回	平安時代の服装文化：文化の特色と服装	(内 容)	平安時代の社会の概要について理解する。 (必要な準備) 平安時代について調べる。(30分)
第4回	平安時代の服装文化：男性の服装	(内 容)	平安時代の貴族男性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第5回	平安時代の服装文化：女性の服装	(内 容)	平安時代の貴族女性の服装について学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第6回	平安時代の服装文化：色と文様	(内 容)	平安貴族の服装の色と文様の特色について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第7回	染色技法の解説	(内 容)	天然染料を用いた染色技法の基礎を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第8回	鎌倉・室町時代の服装文化	(内 容)	中世の武家の服装文化を学ぶ。 (必要な準備) 中世の文化について調べる。(30分)
第9回	桃山時代の服装文化	(内 容)	桃山時代の特色と服装文化について学ぶ。 (必要な準備) 桃山時代の文化について調べる。(30分)
第10回	近世社会の概要	(内 容)	近世社会の概要を学ぶ。 (必要な準備) 近世の文化について調べる。(30分)
第11回	江戸時代の服装文化：江戸時代前期の服装	(内 容)	江戸時代前期の小袖の特色を学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第12回	江戸時代の服装文化：染織技法	(内 容)	江戸時代に用いられた染織技法を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第13回	江戸時代の服装文化：友禅染の開発	(内 容)	友禅染開発の経緯とその特徴を理解する。 (必要な準備) 友禅染について調べる。(30分)
第14回	江戸時代の服装文化：身分と服装	(内 容)	武家の服飾と町人の服飾の違いを学ぶ。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容)	全体の総括 (必要な準備) これまでの講義内容を振り返る。(30分)

授 業 名	京都体験実習（１）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位
英 文 名	Practical Experience in Kyoto 1			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史1回生		
授業の概要	<p>夏季休暇中に行う職業体験を通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。そのために、主として就業体験に向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される。就業体験は、相手先の時間を割り受け入れてもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) プレゼンテーション能力、探究心を養う。 2) 自己分析をできるようにする。 3) 職業体験を通して、社会への理解、職業意識を高める。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基礎の社会人力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。						
参 考 書	使用しない。						
留 意 事 項	秋学期の「京都体験実習（２）」と連続する講義である。必ず通年で単位登録し、夏季休暇中に行う職業体験に参加すること。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する						

授 業 名		京 都 体 験 実 習 (1)
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	ガイダンス	(内 容) 職業体験の意義・目的 (必要な準備) 各自にとって働くこととは何かを考えておく(30分)。
第2回	職業体験報告	(内 容) 2回生による職業体験報告会 (必要な準備) 報告に対する意見や質問を考えておく(30分)。
第3回	グループワークとは	(内 容) グループワークの重要性と課題に対するグループワークの準備 (必要な準備) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく(60分)。
第4回	グループワークの実践	(内 容) 課題に対するグループワーク (必要な準備) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく(60分)。
第5回	グループワークの実践と復習	(内 容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (必要な準備) 配布資料を読んでおく。自身の考え、反省点をまとめておく(60分)。
第6回	会社見学の準備	(内 容) 会社見学先の仕事内容を把握 (必要な準備) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく(60分)。
第7回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考えておく(30分)。
第8回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考えておく(30分)。
第9回	会社見学のまとめ	(内 容) 会社見学の振り返り (必要な準備) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジюме作成(60分)。
第10回	就業体験先の確認	(内 容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (必要な準備) 必要書類を作成しておく(30分)。
第11回	就業体験の準備	(内 容) 就業体験先企業分析 (必要な準備) 就業体験先企業についての資料、情報収集(30分)。
第12回	就業体験の事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。
第13回	就業体験の事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。
第14回	職業体験事前説明	(内 容) 職業体験の心構えと準備 (必要な準備) 『就業体験の手引き』を読んでおく(30分)。
第15回	就業体験に向けて	(内 容) 就業体験先企業の最終確認と諸注意 (必要な準備) 就業体験に向けての自身の抱負を考えておく(30分)。

授業名	京都体験実習（２）			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Practical Experience in Kyoto 2			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>春季休暇中に行う職業体験を通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。体験や講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 自身の職業適性を把握する。 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据える。 3) 社会人を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基礎社会人力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	京都体験実習（１）を合わせて受講していること。この授業のみの受講は認められない。春休みに実施する職業体験に必ず参加していること。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		京都体験実習（２）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備)	
第2回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第3回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第4回	職業体験報告会	(内 容) 春学期就業体験の報告会 (必要な準備) 就業体験先で学んだことのレジюме(60分)。	
第5回	希望就職先の事前研究	(内 容) 企業研究 (必要な準備) 該当企業の情報、資料収集(60分)。	
第6回	希望就職先の研究発表	(内 容) 企業研究発表 (必要な準備) 該当企業の研究成果レジюме(60分)。	
第7回	会社見学事前学習	(内 容) 会社見学先の仕事内容を把握 (必要な準備) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく(60分)。	
第8回	会社見学の実施	(内 容) 会社見学 (必要な準備) 会社見学先での意見や質問を考慮しておく(30分)。	
第9回	会社見学事後学習	(内 容) 会社見学の振り返り (必要な準備) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジюме作成(60分)。	
第10回	経営者による講演	(内 容) 外部経営者による講演 (必要な準備) 講演先企業の研究。意見や質問を考慮しておく(60分)。	
第11回	経営者による講演	(内 容) 外部経営者による講演 (必要な準備) 講演先企業の研究。意見や質問を考慮しておく(60分)。	
第12回	学外授業	(内 容) 大阪企業家ミュージアム見学 (必要な準備) 大阪企業ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考慮しておく(30分)。	
第13回	就業体験の準備	(内 容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (必要な準備) 必要書類を作成しておく(30分)。	
第14回	職業体験事前学習	(内 容) 就業体験先企業についての研究発表 (必要な準備) 就業体験先企業についてのレジюмеの作成(60分)。	
第15回	職業体験事前説明	(内 容) 職業体験の心構えと準備 (必要な準備) 『就業体験の手引き』を読んでおく(30分)。	

授業名	京の文学		開講学年	1回生	単位数	2単位		
英文名	Literature of Kyoto		開講時期	秋学期	必修・選択	選択		
担当者	土井 哲治		対象学生	歴史1回生				
授業の概要	比較的平易な古語で書かれた、説話と噺本の中から京を舞台とする話を精読し、活き活きとした京の人々の姿や思いも掛けない姿を、理解して貰おう。							
学習成果到達目標	1) 生身の京に生きた人々の姿を十分理解し、説明することができる。 2) 各時代の人々の物の考え方を説明できる。 3) 古語をある程度理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	配布プリント							
参考書								
留意事項	毎回の講義の終了時に次回の教材を配布するので、必ず予習しておくこと。							
オフィス アワー	水曜日御前10時から12時まで							

授 業 名		京の文学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 授業の概要と評価方法について (必要な準備)
第2回	説話を読む・偷盗	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第3回	説話を読む・信仰	(内 容) 『今昔物語』第二十九巻・第二十三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第4回	説話を読む・夢	(内 容) 『宇治拾遺物語』第五巻・第一話と第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第5回	説話を読む・庶民生活	(内 容) 『宇治拾遺物語』第六巻・第四話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第6回	説話を読む・利口	(内 容) 『十訓抄』第一巻・第十八話と第四十一話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第7回	説話を読む・好色	(内 容) 『古本説話集』第六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第8回	説話を読む・英知	(内 容) 『古本説話集』第六十六話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第9回	説話を読む・優れた女	(内 容) 『古今著聞集』巻第十二・第四三三話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第10回	説話を読む・したたかな女	(内 容) 『古今著聞集』巻第八・第三二二話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第11回	説話を読む・強い女	(内 容) 『古今著聞集』巻第五・第一九〇話と巻第八・第三一九話 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第12回	噺本を読む・笑話	(内 容) 『醒睡笑』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第13回	噺本を読む・信長	(内 容) 『きのふはけふの物語』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第14回	噺本を読む・批判精神	(内 容) 『一休咄』より5話程度 (必要な準備) テキストの下読みと語彙の予習。
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質問。定期試験の課題への取り組み方についての説明。 (必要な準備) 質問の用意。

授業名	京の食生活			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Dietary Life of Kyoto			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	饗庭 照美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	<p>京都は、千年余り都がおかれていたこと、そして水にも恵まれ、土壌も肥沃であったこと、さらに四方を山に囲まれた盆地という風土から、他には例を見ない食文化を成立させてきた。この授業では、まず、京料理、おばんざいについて学び、またその料理を支えてきた食材についても学ぶ。さらに、今日にまで伝わる伝統食について学びながら、京都の食文化の特色と魅力を理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 京の食文化の特徴を理解する。 2) 1) が作り上げられてきた要因を理解する。 3) 現在の京の食文化の問題点を理解する。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	()	()	課題発見・解決能力	()
テキスト	京都商工会議所編『京都・観光文化検定試験 公式テキストブック』(2010 淡交社)							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	調理実習や学外授業等を予定しているが(エプロン、三角巾、ハンドタオルを持参すること)、受講人数等によって変更の可能性あることもご了承ください。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		京の食生活
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	日本料理の歴史	(内 容) 授業の概要の説明、日本料理の歴史を学ぶ (必要な準備) 日本料理について考えておく、シラバスを読んでおく(30分)
第2回	京料理とは	(内 容) 京料理とは何かを考える (必要な準備) テキストp.237～238を読んでおく(30分)
第3回	京都の伝統加工食品	(内 容) 京都の伝統加工食品について (必要な準備) 伝統加工食品について調べておく(30分)
第4回	京野菜	(内 容) どのようなものを京野菜というのか学ぶ (必要な準備) テキストp.238～246を読んでおく(30分)
第5回	京の食 - 北前船が運んできたもの	(内 容) 北前船が運んできた海の幸について (必要な準備) 北前船が運んできたものを調べておく(30分)
第6回	京の食 - 魚	(内 容) 若狭もの、川魚、ハモ 等について。おばんざいがどのように成立したのか。 (必要な準備) おばんざいにはどのようなものがあるか調べておく(30分)
第7回	おばんざい(講義)	(内 容) おばんざいについて学ぶ (必要な準備) おばんざいについて調べておく(30分)
第8回	おばんざい(調理実習)	(内 容) 代表的なおばんざいを調理する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第9回	精進料理(講義)	(内 容) 各種の精進料理について学ぶ (必要な準備) 精進料理について調べておく(30分)
第10回	精進料理(調理実習)	(内 容) 代表的な精進料理を調理する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第11回	季節の行事と和菓子(講義)	(内 容) 京都の季節の行事と和菓子について学ぶ (必要な準備) テキストp.247～254を読んでおく(30分)
第12回	京の行事と和菓子(調理実習)	(内 容) 京の行事と和菓子について学ぶ (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第13回	京のお茶(講義)	(内 容) お茶の産地、茶道、懐石料理について学ぶ (必要な準備) テキストp.190～192を読んでおく(30分)
第14回	京のお茶と茶道の和菓子(実習)	(内 容) お茶の入れ方と茶道の和菓子について学ぶ (必要な準備) お茶の入れ方について調べておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) まとめ (必要な準備) これまでの授業全体をふりかえる(30分)

授業名	京の年中行事			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Annual Events of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京の年中行事にはどのようなものがあるのか、またその由来について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 京都の年中行事を学び、京都の歴史や文化への理解を深める。 2) 京都の年中行事について語れるようになる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	担当教員が資料を準備する。配布された資料は忘失しないこと。							
参考書	特になし。							
留意事項	毎回担当者を決めて発表してもらう。							
オフィス アワー	金曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		京の年中行事	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方について。 (必要な準備) 特になし	
第2回	年中行事はなぜ行われるのか	(内 容) 年中行事の必要性について考える。 (必要な準備) 年中行事の語句について各自調べるように(30分)	
第3回	1月 修正会	(内 容) 修正会について学ぶ。 (必要な準備) 「修正会」を辞書で調べておくこと(15分)	
第4回	2月 節分	(内 容) 京都の節分について学ぶ。 (必要な準備) 「節分」を辞書で調べておくこと(15分)	
第5回	3月 京のひな祭り	(内 容) 京のひな祭りについて学ぶ。 (必要な準備) 「人形」を辞書で調べておくこと(15分)	
第6回	4月 やすらい祭	(内 容) やすらい祭について学ぶ。 (必要な準備) 「やすらい祭」を辞書で調べておくこと(15分)	
第7回	5月 葵祭	(内 容) 葵祭について学ぶ。 (必要な準備) 「葵祭」を辞書で調べておくこと(15分)	
第8回	6月 夏越祓	(内 容) 夏越祓について学ぶ。 (必要な準備) 「祓」を辞書で調べておくこと(15分)	
第9回	7月 祇園御霊会	(内 容) 祇園祭について学ぶ。 (必要な準備) 「御霊」を辞書で調べておくこと(15分)	
第10回	8月 京の地藏盆	(内 容) 京の地藏盆について学ぶ。 (必要な準備) 「地藏」「盆」を辞書で調べておくこと(30分)	
第11回	9月 重陽の節句	(内 容) 京の重陽行事について学ぶ。 (必要な準備) 「重陽」を辞書で調べておくこと(15分)	
第12回	10月 京の火祭り	(内 容) 京で行われる火祭りについて学ぶ。 (必要な準備) 「鞍馬の火祭」を調べておくこと(30分)	
第13回	11月 亥子祭	(内 容) 宮中行事「御玄猪」について学ぶ。 (必要な準備) 「護王神社」を調べておくこと(15分)	
第14回	12月 大晦日	(内 容) 八坂神社の大晦日行事について学ぶ。 (必要な準備) 大晦日の行事を調べておくこと(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 講義内容についてまとめる。 (必要な準備) 講義の復習	

授 業 名	京の伝統芸術			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Traditional Arts of Kyoto			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	伊藤 真昭			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	<p>京都に都が移されて千二百有余年。この年月の間に醸成された有形あるいは無形の伝統文化、伝統産業に触れる事により、そこから昇華した伝統芸術について見ていく。日本文化の中心として古き良きものを継承しつつ、新たな文化をも創生していった京都の伝統芸術を実際に体験を交えながら探究していく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 京に生まれた伝統文化・伝統芸術を見ていく事で、京都の歴史や伝統の重みを知る。 2) 伝統の大切さを知る。 3) 京都検定2級合格を目指す。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』（淡交社）							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	京都検定2級を受けることが望ましい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		京の伝統芸術	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方の説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)。	
第2回	京の伝統工芸 西陣織	(内 容) 西陣織について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第3回	京の伝統工芸 友禅染	(内 容) 友禅染について学ぶ (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第4回	京の伝統工芸 漆芸・螺鈿・七宝	(内 容) 蒔絵・螺鈿・七宝について学ぶ (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第5回	学外授業 友禅染の体験	(内 容) 友禅染を体験する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第6回	京の竹工芸	(内 容) 竹工芸について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第7回	京の伝統工芸 京焼・清水焼	(内 容) 京焼・清水焼について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第8回	学外授業 清水焼絵付け体験	(内 容) 清水焼の絵付け体験をする (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第9回	京都迎賓館	(内 容) 京都迎賓館にある伝統工芸について学ぶ。 (必要な準備) 迎賓館について調べておく(60分)	
第10回	学外授業 京都迎賓館	(内 容) 京都迎賓館について学ぶ。 (必要な準備) これまでの復習(60分)	
第11回	茶道 薄茶	(内 容) 薄茶について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第12回	茶道 濃茶	(内 容) 濃茶について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第13回	茶道 茶室	(内 容) 茶室について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	
第14回	学外授業 西陣織会館	(内 容) 西陣織会館を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を復習しておく(60分)	
第15回	学外授業 茶道資料館	(内 容) 抹茶体験 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく(60分)	

授 業 名	京都の観光産業			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Tourist Industry in Kyoto			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	京都の観光産業について、歴史・文化・年中行事・伝統から総合的に理解する。観光産業として、歴史的にいかにかに成立してきたのかを理解し、現在、観光産業としての京都の位置付けを考えてみる。さらに、未来の観光産業として京都が何をアピールできるのかを考えてみる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 環境産業としての京都について、表面的ではなく、どのように成り立っているのかを歴史や経済の観点から学習する。 2) 京都の観光産業についてデータから把握し、その意味を知ることの到達目標とする。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	京都の観光産業について、観光だけではなく産業としてどのように成立しているのかを常に念頭においておく。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		京都の観光産業	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備)	
第2回	観光都市京都1	(内 容) 歴史にみる京都観光 (必要な準備) イメージ	
第3回	観光都市京都2	(内 容) 現在にみる京都観光 (必要な準備) 旅行業者のパンフレット	
第4回	京都の観光資源1	(内 容) 京都の観光資源について (必要な準備) 京都のガイドブック	
第5回	京都の観光資源2	(内 容) 京都の観光資源について (必要な準備) 京都のガイドブック	
第6回	京都の観光戦略1	(内 容) 京都の「売り」 (必要な準備) 京都のイメージ	
第7回	京都の観光戦略2	(内 容) 京都の「売り」 (必要な準備) 京都のイメージ	
第8回	京都の観光産業1	(内 容) 産業としての観光 (必要な準備) 京都の代表的な観光産業の理解	
第9回	京都の観光産業2	(内 容) 産業としての観光 (必要な準備) 京都の代表的な観光産業の理解	
第10回	フィールドワーク	(内 容) 京都を代表する観光産業フィールドワーク (必要な準備) 行き先の事前学習	
第11回	事後学習	(内 容) 観光産業としての京都タワー (必要な準備) レジュメ	
第12回	発表・討論1	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第13回	発表・討論2	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第14回	発表・討論3	(内 容) 何を京都としてアピールしたいのか (必要な準備) レジュメ	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期のまとめ (必要な準備)	

授業名	京都観光マーケティング			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Tourist Marketing of Kyoto			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	京都観光について、関わる各事業ごとのマーケティング戦略を検証し、理解させる。実際に京都観光のマーケティングについてのフィールドワークもおこない、各自がレポートとしてまとめ、発表をおこなう。京都観光に関するフィールドワークを実施する。							
学習成果到達目標	1) 京都観光におけるマーケティングの役割について理解することを目標とする。 2) 京都観光の実態をマーケティングの観点から把握することを目標とする。 3) 今後の京都観光マーケティングの提案をおこなうことを目標とする。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	未定							
参考書	山上徹『京都観光学』法律文化社、『京都観光学のススメ』人文書院							
留意事項	現地フィールドワークを実施する							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		京都観光マーケティング	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 半年間のスケジュールとオリエンテーション (必要な準備)	
第2回	京都観光とマーケティング戦略	(内 容) 京都観光とマーケティング戦略について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第3回	京都観光の文化的戦略	(内 容) 京都観光の文化的戦略について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第4回	京都観光の地域観光事業	(内 容) 京都観光と地域観光事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第5回	京都観光のリゾート事業	(内 容) 京都観光のリゾート事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第6回	京都観光のテーマパーク事業	(内 容) 京都観光のテーマパーク事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第7回	京都観光のツーリズム事業	(内 容) 京都観光のツーリズム事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第8回	京都観光の宿泊事業	(内 容) 京都の宿泊事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第9回	京都観光のイベント事業	(内 容) 京都観光のイベント事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第10回	京都観光の運輸事業	(内 容) 京都観光の運輸事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第11回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(1)	(内 容) 観光のマーケティングのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習	
第12回	京都観光のマーケティングについてのフィールドワーク(2)	(内 容) 観光のマーケティングのフィールドワーク (必要な準備) 当該事業の事前学習	
第13回	プレゼンテーション(1)	(内 容) リサーチした観光マーケティングの発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布	
第14回	プレゼンテーション(2)	(内 容) リサーチした観光マーケティングの発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布。	
第15回	レポートの提出	(内 容) リサーチした観光マーケティングのレポート提出 (必要な準備)	

授業名	博物館概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Museum			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	博物館に関する基本的知識の講義を行う。それに加えて、高齢社会における生涯教育の中での博物館の役割などについても講義する。							
学習成果到達目標	1) 学芸員としての基礎知識をマスターする。 2) 人にも博物館とは何かを説明できるようにする。 3) 新しい博物館の魅力を発見できるようにする。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜配布します。							
参考書								
留意事項	出来るだけ数多くの博物館を見学してほしい。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		博 物 館 概 論
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 概略説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(15分)
第2回	博物館の歴史	(内 容) 世界と日本の博物館的施設の紹介 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと(60分)。
第3回	博物館における収集	(内 容) 博物館の機能のうち収集について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第4回	博物館における展示	(内 容) 博物館の機能のうち展示について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第5回	博物館における資料の整理と情報化	(内 容) 博物館の機能のうち資料について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第6回	博物館資料の保存と活用	(内 容) 博物館の機能のうち資料の保存と活用について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第7回	博物館における教育	(内 容) 博物館の機能のうち教育について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第8回	博物館に関する法律	(内 容) 博物館法をはじめ博物館に関連する法律について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第9回	文化財保護法と望ましいあり方	(内 容) 文化財保護法や博物館の設置および運営上の望ましいあり方について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第10回	地域コミュニティと博物館	(内 容) 地域コミュニティにおける博物館の役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第11回	文化遺産と博物館	(内 容) 文化遺産を守る上で果たす博物館の役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第12回	記憶と博物館	(内 容) 歴史的な記憶を次世代に引き継いでいくうえで博物館が果たす役割について学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第13回	デジタル技術とミュージアム	(内 容) デジタル技術の発展が博物館に与える影響について学ぶ(60分) (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。
第14回	フォーラムとしてのミュージアム	(内 容) 展示する人、展示の対象となっている人、そしてそれを見る人を結ぶ場としての博物館の役割を学ぶ。 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)
第15回	博物館の現状と課題 見学	(内 容) 漢字博物館・図書館の見学 (必要な準備) テキストで該当する箇所を読んでおくこと。(60分)

授 業 名	図書館概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 図書館の概略を把握し、基本的な専門用語を覚えること。図書館司書資格を習得するための基礎的な知識を習得する。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について理解すること。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『図書館概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズ 1）、塩見昇、日本図書館協会、2012年							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館とは	(内 容) 図書館の定義、種類について概説する。 (必要な準備) テキストP.13～P.20をよく読んでおくこと。	
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	(内 容) 「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (必要な準備) テキストP.57～P.64をよく読んでおくこと。	
第4回	図書館の自由について考える	(内 容) 図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65～P.67)を読んでおくこと。	
第5回	図書館法規と行政	(内 容) 公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (必要な準備) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(内 容) 欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (必要な準備) テキストP.225～P.228をよく読んでおくこと。	
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(内 容) 日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (必要な準備) テキストP.229～P.232をよく読んでおくこと。	
第8回	公共図書館の制度と機能	(内 容) 「図書館法」の構成と性格を理解する。 (必要な準備) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。	
第9回	公共図書館のサービス	(内 容) 公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (必要な準備) テキストP.146～P.150をよく読んでおくこと。	
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(内 容) 公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	学校図書館の制度と機能	(内 容) 学校図書館の役割と機能について概説する。 (必要な準備) テキストP.161～P.168をよく読んでおくこと。	
第12回	大学図書館の制度と機能	(内 容) 大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (必要な準備) テキストP.177～P.183をよく読んでおくこと。	
第13回	専門図書館の制度と機能	(内 容) 専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.190～P.193をよく読んでおくこと。	
第14回	国立図書館の制度と機能	(内 容) 国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.203～211をよく読んでおくこと。	
第15回	出版文化と図書館	(内 容) 出版文化と図書館の貸出サービスとの関係について考察する。 (必要な準備) テキストP.45～P.48をよく読んでおくこと。	

授 業 名	生涯学習概論		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Introduction to Lifelong Learning		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	岸 優子		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在である。学びが多ければ多いほど人は自らをより高めることができ、豊かな人生を送ることができる。講義形式の授業によって生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、生涯学び続ける女性を目指すとともに、学びを支える側の立場や考え方も知り、生涯学習の意義と重要性をまなび、自らの生活に生かしていける視点を与えることを目的とする。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生涯学習の理念、現状と課題、推進方策について理解できる。 2) だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を提示することができる。 3) 教育を学校教育に限定するのではなく、成人や高齢者を対象とするインフォーマルな学習なども含めた全ての教育活動を支援・推進する方策を提示することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	授業中に指示する。							
参 考 書	授業中に指示する。							
留 意 事 項	授業中に与えられた課題については主体的に取り組むこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		生涯学習概論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	生涯学習とは何か	(内 容) 生涯学習の理念について概説する。 (必要な準備) 身近なところで、生涯学習に関わることを調べてくる。(20分)
第3回	人間形成と生涯学習	(内 容) 人間形成と学ぶことの意味について考察する。 (必要な準備) 学習することの意味について考えてくる。(20分)
第4回	生涯発達と発達課題	(内 容) 人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について考察する。 (必要な準備) 人間の発達について調べてくる。(20分)
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(内 容) 生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について解説する。 (必要な準備) 前回までの復習をしておくこと。(30分)
第6回	ラングランの生涯教育論	(内 容) ラングランの提唱した生涯教育の理念について解説する。 (必要な準備) プリントを読んでおくこと。(20分)
第7回	ハッチンスの学習社会論	(内 容) ハッチンスの学習社会論について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第8回	フォール報告にみる学習観	(内 容) フォール報告にみる学習観、人間観について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第9回	OECDのリカレント教育	(内 容) OECDのリカレント教育について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第10回	我が国における生涯教育論の展開	(内 容) 学習社会論や生涯教育論から生涯学習論への展開について概説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第11回	我が国における生涯学習の必要性和各種審議会答申について	(内 容) 社会教育審議会、中央教育審議会等に見られる生涯教育の理念と具体案について整理する。 (必要な準備) プリントを読んでおくこと。(20分)
第12回	生涯学習社会における家庭教育について	(内 容) 生涯学習社会における家庭教育の役割について考察する。 (必要な準備) 家庭教育の具体的内容について考えておくこと。(20分)
第13回	生涯学習社会における学校教育について	(内 容) 生涯学習社会における学校教育の役割について考察する。 (必要な準備) 学校教育と生涯学習の関わりについて調べておくこと。(40分)
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(内 容) 生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (必要な準備) 社会教育の具体的内容について調べておくこと。(40分)
第15回	生涯学習の事例発表	(内 容) 各地域社会での生涯学習の取り組みについて調査し、その内容を発表する。 (必要な準備) 発表用資料を準備する。(60分)

授業名	風土と文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Climate and Culture			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	風土とは、単に土地、地域の気候・地味・地勢など自然状態だけでなく、歴史的、文化的な環境を指す。つまり、人間は風土との関係を相互的に持っているのである。この講義では、日本の風土と文化の関係を様々な視点から理解し人間への影響について考えたみたい。また、特に京都や大阪の風土と文化の関係や相違点を考えたい。							
学習成果到達目標	1) 風土と人間の関係について考える。 2) 文化と人間の関係について考える。 3) 身近な風土、文化について理解する。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テキスト	なし							
参考書	講義内で紹介							
留意事項	わからないことは講義後に聞くこと。							
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		風土と文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方と留意事項 (必要な準備) 風景と風土の違いを調べておく(30分)。	
第2回	風土とは?	(内 容) 風土の概念理解 (必要な準備) 風土とは何かを調べておく(30分)。	
第3回	文化とは?	(内 容) 文化の概念理解 (必要な準備) 文化とは何かを調べておく(30分)。	
第4回	人間と日本の風土と文化ー日本列島の特徴	(内 容) 日本列島の自然と気象、文化の相互作用 (必要な準備) 日本地図の用意と自然や気候の特徴について調べておく(60分)。	
第5回	人間と日本の風土と文化ー地域性を考える	(内 容) 地域性みる人間と風土、文化の相互作用 (必要な準備) 概括的に地域の特色について調べておく(60分)。	
第6回	日本の風土と文化の歴史ー日本とは	(内 容) 日本の風土と文化の歴史の変遷 (必要な準備) 日本の歴史的、地理的な変遷を抑えておく(60分)。	
第7回	日本の風土と文化の歴史ー失われたもの	(内 容) 歴史的な変遷の中で失われた風土と文化を考える (必要な準備) 自身の住んでいる地域で失われたものについて調べてくる(60分)。	
第8回	江戸時代の京都観光	(内 容) 名所図会から見る京都 (必要な準備) 自身の該当箇所の『名所図会』を読んでおく(30分)。	
第9回	京都らしさとは	(内 容) 京都の風土と文化について理解する (必要な準備) 京都らしさとは、について考えておく(30分)。	
第10回	観光地としての京都	(内 容) 観光都市京都の特徴 (必要な準備) 京都観光に関する配布統計資料を読んでおく(60分)。	
第11回	学外学習	(内 容) 博物館見学 (必要な準備) 博物館で何を学ぶのかを考えておく(30分)。	
第12回	江戸時代の大坂観光	(内 容) 名所図会から見る大坂 (必要な準備) 自身の該当箇所の『名所図会』を読んでおく(30分)。	
第13回	大阪らしさ	(内 容) 大阪の風土と文化について理解する (必要な準備) 大阪らしさとは、について考えておく(30分)。	
第14回	大阪の観光	(内 容) 観光地大阪の特徴 (必要な準備) 大阪観光に関する配布統計資料を読んでおく(60分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 今学期のまとめ (必要な準備) 京都と大阪について学んだことをまとめてくる(60分)。	

授業名	日本仏教の歴史		開講学年	1回生	単位数	2単位		
英文名	History of Buddhism in Japan		開講時期	秋学期	必修・選択	選択		
担当者	伊藤 真昭		対象学生	歴史1回生				
授業の概要	日本仏教の流れと、京都との関わり。							
学習成果到達目標	1) 日本仏教の歴史についての理解を深める。 2) 京都の寺院を通じて仏教がもたらした文化・思想について学ぶ。 3) 京都検定2級程度の知識を身につける。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験 公式テキストブック』(2016 淡交社)							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		日本仏教の歴史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方を説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)	
第2回	仏教伝来 飛鳥時代・奈良時代の仏教	(内 容) 仏教伝来～奈良時代までの仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第3回	平安時代の仏教	(内 容) 平安時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第4回	学外授業 永観堂	(内 容) 永観堂を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第5回	鎌倉時代の仏教	(内 容) 鎌倉時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第6回	学外授業 青蓮院青龍殿	(内 容) 青蓮院青龍殿を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第7回	学外授業 建仁寺	(内 容) 建仁寺を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第8回	室町時代の仏教	(内 容) 室町時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第9回	学外授業 南禅寺・金地院	(内 容) 南禅寺・金地院を見学する (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第10回	戦国時代・安土桃山時代の仏教	(内 容) 戦国・安土桃山時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第11回	学外授業 高台寺	(内 容) 高台寺を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第12回	学外授業 寺町を歩く	(内 容) 寺町を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第13回	江戸時代の仏教	(内 容) 江戸時代の仏教について理解する。 (必要な準備) 上記時代の歴史背景について予習すること。(60分)	
第14回	学外授業 知恩院・円山公園	(内 容) 知恩院を見学する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) 授業のまとめ。 (必要な準備) これまでの復習(60分)	

授業名	史跡調査探訪			開講学年	1・2回生	単位数	1単位	
英文名	Research Visits to Historical Sites			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	新矢 昌昭			対象学生	歴史1回生、歴史2回生			
授業の概要	<p>本学周辺の史跡を探訪し、それらの史跡を歴史的価値、宗教的価値、観光的価値、文化的価値などをから、現代社会の中で確認していきたい。そのためには事前調査として探訪先の史跡に関する予備知識を各自が所持し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどを事後学習で発表報告する形態をとる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 計画力、企画力を身につける。 2) フィールドワークを通して、歴史・文化的知識を身に付ける。 3) フィールドワークを通して、自身の課題を見つけ解決する。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	何の為に、目的地へ行くのかという問題意識をもつこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		史跡調査探訪	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方 (必要な準備) 行き先の希望地と理由を考えておく(30分)。	
第2回	フィールドワークの事前調査-愛宕山	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査-愛宕山 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第3回	フィールドワークの実施-愛宕山	(内 容) 現地調査-愛宕山 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第4回	フィールドワークの事後学習-愛宕山	(内 容) グループによる調査内容の発表-愛宕山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第5回	フィールドワークの予備調査-学生希望地	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第6回	フィールドワークの実施-学生希望地	(内 容) 現地調査-学生希望地 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第7回	フィールドワークの事後学習-学生希望地	(内 容) グループによる調査内容の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第8回	フィールドワークの事前調査-奈良	(内 容) グループによる行先の確認と事前調査の発表-奈良 (必要な準備) グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第9回	フィールドワークの実施-奈良	(内 容) 現地調査-奈良 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第10回	フィールドワークの事後学習-奈良、事前学習-学生希望地	(内 容) グループによる調査内容の発表-奈良、行先の確認と事前調査の発表-学生希望地 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ。グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第11回	フィールドワークの実施-学生希望地	(内 容) 現地調査 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第12回	フィールドワークの事後学習-学生希望地、事前学習-比叡山	(内 容) グループによる調査内容の発表-学生希望地、行先の確認と事前調査の発表-比叡山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ。グループによる事前調査のレジュメ(60分)。	
第13回	フィールドワークの実施-比叡山	(内 容) 現地調査-比叡山 (必要な準備) グループによるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第14回	フィールドワークの事後学習-比叡山	(内 容) グループによる調査内容の発表-比叡山 (必要な準備) グループによる調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第15回	春学期のまとめ	(内 容) 全体の講評 (必要な準備) 過去のレジュメを再読しておく(60分)。	

授 業 名	史跡調査探訪			開 講 学 年	1・2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Research Visits to Historical Sites			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	歴史1回生、歴史2回生			
授業の概要	主として本学周辺の史跡を探訪し、京都内を実地調査する。それらの史跡を歴史的、宗教的、観光的、文化的価値などから、現代社会の中での意味を考える。秋学期では、より春学期で行ってきたことを深化させるために、個人的単位で調査、発表を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 実地調査を通じて、京都や当該地域を深く考える。 2) 京都について日本での位置づけを学ぶ。 3) フィールドワークを通じて、自己の課題を発見し解決する。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	講義中に指摘。							
留 意 事 項	何の為に、目的地へ行くのかという問題意識をもつこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する							

授 業 名		史跡調査探訪	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) この講義の進め方 (必要な準備) 行き先の希望地と理由を考えておく(30分)。	
第2回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。	
第3回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第4回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第5回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。	
第6回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第7回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第8回	フィールドワークの事前調査ー学生希望地	(内 容) 個人による行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による事前調査のレジュメ(60分)。	
第9回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第10回	フィールドワークの事後学習、事前学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表、行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ。個人による事前調査のレジュメ(60分)。	
第11回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人によるガイドの作成、地図で経路を確認しておく(60分)。	
第12回	フィールドワークの事後学習、事前学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表、行先の確認と事前調査の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ。個人による事前調査のレジュメ(60分)。	
第13回	フィールドワークの実施ー学生希望地	(内 容) 現地調査ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第14回	フィールドワークの事後学習ー学生希望地	(内 容) 個人による調査内容の発表ー学生希望地 (必要な準備) 個人による調査内容、反省点のレジュメ(60分)。	
第15回	まとめ	(内 容) 全体の講評 (必要な準備) 過去のレジュメを再読しておく(60分)。	

授業名	西洋史			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Western History			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	坂井 聡			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	ヨーロッパの歴史を、現生人類がヨーロッパに登場した時代から、近代世界の開始時期である大航海時代まで概観する。主として、人類史発展の節目となった時期を示しつつ講義を行う。さらに先端科学が解き明かした最新の過去の姿も紹介していく。DVDなどビジュアル性のある教材を積極的に使用する。							
学習成果到達目標	1) ヨーロッパ史の歴史的な流れが把握出来る。 2) 先端科学が解き明かす最新の歴史像に対する興味が深まる。 3) 考古学や科学技術の歴史など関連分野に関しての理解が深まる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (人類史の節目の理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	特に指定しない。							
参考書	授業のテーマ毎に授業時に指示する。授業内容に沿った便利な参考文献として『大学で学ぶ西洋史』南川高志他編、ミネルヴァ書房を挙げておく。							
留意事項	授業中に指定する参考書を読み、レポート作成に備えておこう。授業の要点をまとめたリアクションペーパーをほぼ毎回提出してもらいます。正当な理由なく5回以上欠席した場合は単位を認定いたしません。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		西洋史	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	現生人類の起源を考える	(内 容)	現在地球上に住むすべての人類の先祖の出現について学ぶ。 (必要な準備) 参考文献を読んで学習を深める。 人類とは何かを、これまで習ったことを中心に考えておく。
第2回	中近東における農耕の成立	(内 容)	中近東における農耕の成立について。 (必要な準備) 参考文献を読んで学習を深める。 食糧生産を始めることの重要性について、考えておく。
第3回	オリエントにおける文明の成立 - 文字の発明	(内 容)	メソポタミアとエジプトにおける古代文明の成立を学ぶ。 (必要な準備) 文字成立とその意義についての学習を深める。
第4回	ギリシア世界の発展とヘレニズム文明	(内 容)	ギリシアのポリスの社会と民主政治の関係、並びにヘレニズム文明の特徴について学んでいく。 (必要な準備) 古代と現代の民主制の違いについて理解を深める。 現代の民主政治とは何かを事前に理解しておく。
第5回	元首政成立までのローマの歴史	(内 容)	ローマによる地中海世界の征服と、共和政ローマの政治的特徴を学ぶ。 (必要な準備) ローマの発展を把握するための復習。
第6回	ローマ都市文明の社会基盤	(内 容)	ローマ都市文明をスライドを使い学習。 (必要な準備) ローマ都市文明の様相を視覚的に把握する。 ポンペイ遺跡を例として取り上げるので、事前にどのような遺跡かを調べておく。
第7回	ローマ帝国の衰退とキリスト教の発展	(内 容)	古代都市の衰退の様相と、ローマ帝国へのキリスト教の浸透を学び、時代の転換について考える。 (必要な準備) 古代が変化していく時代を理解する。 キリスト教とはどのような宗教かについて、基本的なことを理解しておく。
第8回	中世ヨーロッパの成立	(内 容)	ヨーロッパ中世史の起点を、相次ぐ異民族侵入などの時代背景から考えるとともに、その結果として生まれた封建制度を解説する。 (必要な準備) 日本史と比較しての封建制度に関する理解を深める。
第9回	中世ヨーロッパ社会の発展	(内 容)	農業を中心とした技術の発展と、その結果の中世ヨーロッパの発展の様相について理解する。 (必要な準備) ヨーロッパ中世の発展期を技術という側面から理解する。麦作という農業の特徴を事前に調べておく。
第10回	ヨーロッパ中世都市の成立	(内 容)	イタリアを中心にヨーロッパ中世発展の基礎となった都市の成立について講義する。 (必要な準備) 中世都市とは何かを、日本史の場合との比較で考えてみる。
第11回	イスラーム文明とヨーロッパ	(内 容)	十字軍遠征を通じてこの両文明の衝突を通じて、キリスト教とイスラーム教の歴史的関係について学ぶ。 (必要な準備) イスラームの歴史と文化についての予習復習が必要。
第12回	黒死病とヨーロッパ中世史の転期	(内 容)	黒死病の衝撃と中世世界の転換を学ぶ。 (必要な準備) 病気と社会・歴史との関係についても理解を深める。 モンゴル帝国の歴史を事前に把握しておく。
第13回	フランスとイギリスにおける国家の発展	(内 容)	近世以降西欧の中核となっていく英仏の中世史を学び、近代国家の起源を考える。 (必要な準備) イギリスとフランスについて、どのような国であるかを調べておく。
第14回	イタリア・ルネサンスの社会と文化	(内 容)	美術・建築史上重要なルネサンス文化を学ぶ。 (必要な準備) 絵画・建築・文学の各分野に関して、興味ある事項を事前に学習。
第15回	大航海時代と近代世界の成立	(内 容)	新大陸・アジアへの西欧の進出とその影響を解説する。 (必要な準備) 近代世界の成立としての、ヨーロッパの世界的進出という時期についての理解を深める。ヨーロッパ人到来以前の大陸の文明について、あらかじめ知識を得ておく。

授 業 名	比較文化論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Comparative Culture			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	<p>本講義では、文化現象は社会状況と密接であり、外部からの影響や内側からの気運によって変化するものであることを取り上げる。主要なトピックとして、明治期における西欧文化の受容と、現代日本文化の推移を取り上げ、社会と文化の運動性を具体的に把握することを目指す。また、自文化の相対化から感得することのできる文化的ステレオタイプへの批判的視点など、文化について包括的に考察するための材料を提示したい。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 文化概念を理解し、明治期と現代の日本文化について記述できるようになる。 2) 異文化を理解し自文化を相対化するための視点を身につける。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	随時紹介する。							
留 意 事 項	座席は指定する。(小プリント類返却のため)							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。							

授 業 名		比較文化論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容)	講義スケジュール (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)
第2回	文化とグローバリゼーション	(内 容)	文化の定義・文化概念 (必要な準備) 文化について考えてくる(30分)
第3回	明治期の日本文化 江戸期からの変化	(内 容)	江戸と明治の連続性と分断 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第4回	明治期の日本文化 欧米からの影響	(内 容)	芸術分野における西欧の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第5回	明治期の日本文化 紹介された日本文化	(内 容)	日本から海外への影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第6回	植民地主義と文化侵略	(内 容)	アフリカにおける植民地主義の影響 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第7回	文化の画一化	(内 容)	アメリカニゼーション (必要な準備) キーワード予習(30分)
第8回	現代日本文化 高度成長期以降	(内 容)	1980年代前半までの現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第9回	現代日本文化 バブル経済期以降	(内 容)	1990年代までの現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第10回	現代日本文化 インターネット大衆化以降	(内 容)	1990年代末期以降の現代日本文化 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第11回	現代日本文化 通時的比較	(内 容)	社会状況と大衆文化の関係 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第12回	文化交流・文化発信	(内 容)	日本の海外広報への取り組み (必要な準備) キーワード予習(30分)
第13回	海外文化とステレオタイプ	(内 容)	文化的偏見 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第14回	文化の相対化 自文化を客観的に見る	(内 容)	文化の客体化・相対化 (必要な準備) キーワード予習(30分)
第15回	まとめ	(内 容)	総合レポート (必要な準備) 総復習・レポートの内容を考えてくる(1時間)

授業名	古典研究			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Classic Research			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	昔の人の教養として不可欠とされた八代集の和歌の中から、人口に膾炙したものを取り上げて教材とし、語義と文法を厳密に抑え、昔の人のものの考え方や常識、宗教観、自然観、恋愛観、生活等々の表現の背景となっている事柄を正確に理解した上で、厳密に読んでいき、古典研究の基本たる解釈の在り方を理解する。							
学習成果到達目標	1) 古典研究の基本たる解釈の在り方を理解して、日本文化の中の和歌の存在感を理解する。 2) 著名な和歌を、その和歌にまつわる昔の人の常識等を理解して、語らじる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	授業時に配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	担当箇所以外もよく予習すること。 多くの和歌を暗記する努力を怠らないこと。							
オフィス アワー	木曜日午後12時から午後15時まで							

授 業 名		古典研究	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 講義予定と勅撰集の構造について説明。 (必要な準備)	
第2回	春の和歌・上 古今	(内 容) 春の和歌の熟読と勅撰集の約束事の説明。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第3回	春の和歌・中 後撰～後拾遺	(内 容) 春の和歌の熟読と基本文献の説明。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第4回	春の和歌・下 金葉～新古今	(内 容) 春の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第5回	夏の和歌	(内 容) 夏の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第6回	秋の和歌・上 古今・後撰	(内 容) 秋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第7回	秋の和歌・下 拾遺～新古今	(内 容) 秋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第8回	冬の和歌	(内 容) 冬の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第9回	恋の和歌・上 古今	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第10回	恋の和歌・中 後撰～後拾遺	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第11回	恋の和歌・下 金葉～新古今	(内 容) 恋の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第12回	雑の和歌・上 古今・後撰	(内 容) 雑の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第13回	雑の和歌・下 拾遺～新古今	(内 容) 雑の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第14回	その他の和歌	(内 容) その他の和歌の熟読。 (必要な準備) 前回の講義内容の十分な理解と予習。	
第15回	まとめと質疑応答	(内 容) 講義内容の総括と課題に関する質疑応答。 (必要な準備) 下調べに基づく質問事項の用意	

授 業 名	地域文化特論（１）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Local Culture 1			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	京都の染織工芸品について学ぶ。近代以降京都の染織工芸品がどのように評価され、どのように位置づけられてきたのかを学ぶ。さらに、興味をもった工芸品について調べ、技法や文様について理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 近代から現代にいたる京都の染織工芸品について説明することができる。 2) 染織工芸品の文様や技法について説明することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時指示する							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		地域文化特論（１）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）講義の進め方 （必要な準備）シラバスを読んでおく。（10分）	
第2回	近代 近代化と染織工芸	（内 容）近代に社会がどのように変化したのかを理解する。 （必要な準備）近代社会について調べる。（30分）	
第3回	近代 明治政府の美術工芸政策	（内 容）明治政府の美術工芸政策について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第4回	近代 博覧会と染織工芸品	（内 容）近代の万国博覧会と日本が出品した染織工芸品について学ぶ。 （必要な準備）万国博覧会について調べる。（30分）	
第5回	近代 工芸品の評価	（内 容）海外での日本の染織工芸品の評価について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第6回	近代 染織文様の近代化	（内 容）染織文様の近代化の過程を理解する。 （必要な準備）配付資料を読んでおく。（30分）	
第7回	現代 文化財保護法と工芸	（内 容）戦後の文化財保護法について学ぶ。 （必要な準備）文化財保護法について調べる。（30分）	
第8回	現代 伝産法	（内 容）伝産法について学ぶ。 （必要な準備）伝産法について調べる。（30分）	
第9回	現代 現代の西陣	（内 容）西陣の現状について理解する。 （必要な準備）西陣について調べる。（30分）	
第10回	京都の染織工芸品	（内 容）現代京都の染織工芸品を知る。 （必要な準備）京都の工芸について調べる。（30分）	
第11回	京都の工芸品の歴史について調べる	（内 容）京都の工芸品について調べる （必要な準備）京都の工芸に関する資料を読む。（30分）	
第12回	染織工芸品の文様と技法について調べる	（内 容）京都の染織工芸品の文様と技法について知る。 （必要な準備）染織工芸に関する資料を読む。（30分）	
第13回	発表A班	（内 容）染織工芸についてまとめたことを発表する。 （必要な準備）発表のための資料を作成する。（30分）	
第14回	発表B班	（内 容）染織工芸についてまとめたことを発表する。 （必要な準備）発表のための資料を作成する。（30分）	
第15回	まとめ	（内 容）総括 （必要な準備）これまでの授業内容を整理する。（30分）	

授業名	地域文化特論(2)			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Local Culture 2			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>言語は最も端的に文化を反映するものである。当然各地の方言には千年以上にもわたる地域文化が反映されている。その方言に刻印されている文化を考察し、地域文化の特性を検討してゆく。最後に京言葉について学習し、京都文化の特性を理解する一助とする。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 出身地の方言を通して地元文化を語れる。 2) 京言葉を通して京都文化を語れる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	物類称呼							
留意事項								
オフィス アワー	水曜日12時から15時							

授 業 名		地域文化特論（２）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	（内 容） 講義概要と進め方を説明する。 （必要な準備）
第2回	方言概説	（内 容） 方言について種々の観点から講義する。 （必要な準備） 配布資料の下読み
第3回	調査課題の設定	（内 容） 各自で調査する課題を設定する。 （必要な準備） 地元方言の下調べ
第4回	調査結果発表1 語彙について	（内 容） 各自で調査した語彙に関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第5回	調査結果発表2 アクセントについて	（内 容） 各自で調査したアクセントに関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第6回	調査結果発表3 消えた方言について	（内 容） 各自で調査した消えた方言に関する結果を持ち寄り討議する。 （必要な準備） 調査のとりまとめ
第7回	関西方言について	（内 容） 関西弁について特徴と現状を講義する。 （必要な準備） 数箇所に関西方言を調べてくる。
第8回	簡易関西方言地図の作成準備	（内 容） 作成項目について討議して決定する。 （必要な準備） 各自の調査結果を検討してくる。
第9回	簡易関西方言地図の作成	（内 容） 調査結果と追加調査により、方言地図を作成する。 （必要な準備） 調査欠落地域の方言調査
第10回	簡易関西方言地図の文化的考察	（内 容） 方言地図を利用しているいろいろな文化の特徴を考察する。 （必要な準備） 深日の逆さ言葉を調べてくる。
第11回	物類称呼を使った簡易関西方言地図	（内 容） 江戸時代にさかのぼって方言地図を作る。 （必要な準備） 物類称呼の精読
第12回	京言葉	（内 容） 京言葉について講義する。 （必要な準備） 参考資料の精読
第13回	京言葉調査	（内 容） 各自で種々の京言葉を調査し討議する。 （必要な準備） 京言葉の調査
第14回	京言葉と京都人気質	（内 容） 前回の結果を基に深化した考察を行う。 （必要な準備） 追加考察
第15回	まとめと質問	（内 容） 講義を総括し、定期試験の課題について説明する。 （必要な準備） 総復習

授業名	観光英会話			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Travel English			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松尾 章子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要とされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。							
学習成果到達目標	1) 身近な場では会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ナチュラルスピードの英語に慣れ、相手が求めている情報は何かを理解することができる。 3) ファストフード店やレストランの簡単な対応を行うことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	工藤多恵著 『すぐに使える！ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2000円＋税							
参考書	観光英検センター編 『新・観光英検3級の過去問題』 三修社							
留意事項	テキストの会話表現を授業外で何回も声に出して読み練習してください。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示するので、確認してください。							

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction Unit 10: 道案内	(内 容) 本授業の到達目標、進め方の説明、pp. 85-88 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 10: 道案内	(内 容) pp. 91-92 (必要な準備) pp. 91-92の問題、前回学習箇所の表現練習
第3回	Unit 9: 旅行者への観光案内	(内 容) pp. 81-82 (必要な準備) pp. 81-82の問題、前回学習箇所の表現練習
第4回	Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供	(内 容) pp. 93-98 (必要な準備) pp. 93-98の問題、前回学習箇所の表現練習
第5回	Unit 1: ファストフード店での注文対応	(内 容) pp. 9-14 (必要な準備) pp. 9-14の問題、前回学習箇所の表現練習
第6回	学外学習1(道案内 時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して道案内にトライ! (必要な準備) Unit 10の表現練習
第7回	Unit 2: レストランでの来客対応	(内 容) pp. 17-22 (必要な準備) pp. 17-22の問題、前回学習箇所の表現練習
第8回	Unit 3: レストランでの接客サービス	(内 容) pp. 25-30 (必要な準備) pp. 25-30の問題、前回学習箇所の表現練習
第9回	Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス	(内 容) pp. 33-38 (必要な準備) pp. 33-38の問題、前回学習箇所の表現練習
第10回	学外学習2(観光案内 時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して観光案内にトライ! (必要な準備) Units 9-11の表現練習
第11回	Unit 5: 買い物や飲食の会計	(内 容) pp. 41-46 (必要な準備) pp. 41-46の問題、前回学習箇所の表現練習
第12回	Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応	(内 容) pp. 49-54 (必要な準備) pp. 49-54の問題、前回学習箇所の表現練習
第13回	Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付	(内 容) pp. 61-66 (必要な準備) pp. 61-66の問題、前回学習箇所の表現練習
第14回	Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内	(内 容) pp. 69-74 (必要な準備) pp. 69-74の問題、前回学習箇所の表現練習
第15回	Unit12: 券売機や電化製品の使用方法の説明	(内 容) pp. 101-106 (必要な準備) pp. 101-106の問題、前回学習箇所の表現練習

授 業 名	観光英会話		開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Travel English		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	松尾 章子		対 象 学 生	歴史2回生				
授業の概要	リーディングとスピーキング、観光や旅行の際に必要なとされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 観光に関連するシチュエーションで、最低限必要とされる事柄を英語で伝えることができる。 2) 自信を持って道案内をすることができる。 3) 外国人の視点から日本を見ることで新しい気づきを持つことができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	工藤多恵著 『すぐに使える！ニッポン案内』 センゲージラーニング株式会社 2,000円＋税							
参 考 書	観光英検センター編 『新・観光英検3級の過去問題』 三修社							
留 意 事 項	テキストの会話表現を授業外で何回も声に出して読み練習してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示するので、確認してください。							

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	Introduction Unit 10: Turn right at the first intersection.	(内 容) 本授業の到達目標、進め方の説明、pp. 89-90 (必要な準備) 本授業のシラバスを読む
第2回	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.	(内 容) pp. 77-80 (必要な準備) pp. 77-80の問題、前回学習箇所の表現練習
第3回	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.	(内 容) pp. 83-84 (必要な準備) pp. 83-84の問題、前回学習箇所の表現練習
第4回	Unit 11: Take the subway to Hommachi.	(内 容) pp. 99-100 (必要な準備) pp. 99-100の問題、前回学習箇所の表現練習
第5回	Unit 1: For here or to go?	(内 容) pp. 15-16 (必要な準備) pp. 15-16の問題、前回学習箇所の表現練習
第6回	学外実習1 (道案内一時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して道案内にトライ! (必要な準備) Unit 10の表現練習
第7回	Unit 2: How many are in your party?	(内 容) pp. 23-24 (必要な準備) pp. 23-24の問題、前回学習箇所の表現練習
第8回	Unit 3: I'll be right back.	(内 容) pp. 31-32 (必要な準備) pp. 31-32の問題、前回学習箇所の表現練習
第9回	Unit 4: Would you like me to heat this up?	(内 容) pp. 39-40 (必要な準備) pp. 39-40の問題、前回学習箇所の表現練習
第10回	学外実習2 (観光案内一時間割等の都合で実施回が前後することがある)	(内 容) 街で英語を使用して観光案内にトライ! (必要な準備) Units 9-11の表現練習
第11回	Unit 5: Your total comes to 3,240 yen.	(内 容) pp. 47-48 (必要な準備) pp. 47-48の問題、前回学習箇所の表現練習
第12回	Unit 6: I'm truly sorry for the trouble.	(内 容) pp. 55-56 (必要な準備) pp. 55-56の問題、前回学習箇所の表現練習
第13回	Unit 7: Do you have a reservation?	(内 容) pp. 67-68 (必要な準備) pp. 67-68の問題、前回学習箇所の表現練習
第14回	Unit 8: Wi-Fi is available in this area.	(内 容) pp. 75-76 (必要な準備) pp. 75-76の問題、前回学習箇所の表現練習
第15回	Unit 12: First, put money in the machine.	(内 容) pp. 107-108 (必要な準備) pp. 107-108の問題、前回学習箇所の表現練習

授業名	教育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Education			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をともに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。							
学習成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業に対する興味・関心	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	『やさしい教育原理』（新版補訂版）、田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著							
参考書	適宜指示する。							
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。							
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		教育原理 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	イントロダクション	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	教育とは何か	(内 容) 教育とは何かについて、その概念と性格について考察する。 (必要な準備) テキストp.1-11をよく読んでおくこと。	
第3回	学ぶことと教えること	(内 容) 「学び」と「教え」について考察する。 (必要な準備) テキストp.12-26をよく読んでおくこと。	
第4回	教育・教化と形成	(内 容) 教育と教化と形成の違いについて考察する。 (必要な準備) テキストp.27-37をよく読んでおくこと。	
第5回	学校とは何か	(内 容) なぜ学校が登場したのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.39-47をよく読んでおくこと。	
第6回	近代学校の特徴	(内 容) なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.48-55をよく読んでおくこと。	
第7回	日本の教育の歩み	(内 容) 日本の教育の変遷について概説する。 (必要な準備) テキストp.68-86をよく読んでおくこと。	
第8回	身体の発達と道徳	(内 容) 教育と発達に関する理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.99-110をよく読んでおくこと。	
第9回	教育における言葉と文化	(内 容) パーンシュタインの言語コード理論をもとに保育に必要な「ことばかけ」が子どもにどのような影響を与えているのかについて理解する。 (必要な準備) テキストp.111-115をよく読んでおくこと。	
第10回	教育評価を考える	(内 容) 評価の理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.133-149をよく読んでおくこと。	
第11回	理論と実践のつながりを考える	(内 容) 保育の五領域や総合的な学流の時間について概観し、理論と実践のつながりについて理解する。 (必要な準備) テキストp.159-173をよく読んでおくこと。	
第12回	教師の仕事	(内 容) 教師の社会的意義について考える。 (必要な準備) テキストp.178-193をよく読んでおくこと。	
第13回	青少年と教育との関係	(内 容) 若者が教育とどのようなつながりがあるのか、理解する。 (必要な準備) テキストp.204-217をよく読んでおくこと。	
第14回	教育の権利について考える	(内 容) 知識基盤社会における子どもの権利について考える。 (必要な準備) テキストp.233-248をよく読んでおくこと。	
第15回	教育改革の動向とまとめ	(内 容) 現代の教育改革がどのように進んでいるのか、総括を行う。 (必要な準備) これまでの授業の振り返り。	

授 業 名	保育原理 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj		
授業の概要	<p>人格形成の基礎が培われる幼児期の保育の重要性を認識し、保育の基礎的知識を習得する。保育の意義、目的を学び保育者の役割を理解する。保育所、幼稚園、認定こども園における目標、目的、内容、方法、計画について学ぶ。保育の基本から専門的知識までを習得し保育を通して社会の一員としての役割を果たせるようになる。保育の専門家として知識と感性を身につけることができるように実践的な内容も組み入れて学ぶ。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育の本質や目的、保育制度、保育の歴史の変遷を学び保育の基本を理解する。 2) 保育内容と方法を学び保育計画の必要性を理解する。 3) 保育専門職として確かな知識持ち子どもの発達過程に応じた支援ができる保育者としての社会的責任を果たせるようになる。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育原理』谷田貝公昭編（一藝社）・『新版 保育用語辞典』（一藝社）						
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省（フレール館）						
留 意 事 項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。プリントは事前事後に熟読し、予習復習も積極的に行うこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください						

授 業 名		保育原理 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。到達目標について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。テキスト、ノートを準備する。
第2回	保育の意義 1 保育の概念・理念と制度	(内 容) 保育とは、子どもとは、保育の基本的用語、基本的な法律について理解する。保育所、幼稚園、認定こども園の保育制度を理解し、共通点と相違点を理解する。 (必要な準備) 保育用語辞典を持ってくる。テキスト第1章を読んでまとめておく(60分)
第3回	保育の意義 2 子どもの最善の利益・社会的役割	(内 容) 子どもの最善の利益と保護者との協働、保育者の役割を理解する。 (必要な準備) テキスト第3章読んでまとめておく(60分)
第4回	保育の基本 1	(内 容) 保育の原理を理解し、養護と教育の一体性について理解する。 (必要な準備) テキスト第1章を再度読んでおく(30分) 保育所保育指針を持ってくる
第5回	保育の基本 2 環境を通して行う保育	(内 容) 環境、環境構成、環境整備について目的、意味を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでまとめておく(60分)、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む。
第6回	発達に応じた保育 1 (3歳未満児)	(内 容) 0歳から3歳の心身の発達や情緒的安定、社会性の育ちについて学び適切な発達援助の方法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持ってくる。
第7回	発達に応じた保育 2 (3歳以上児)	(内 容) 3歳から6歳の運動発達、言葉や社会性の発達を学び思考力や自立心が身につくような発達援助を理解する。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持ってくる。
第8回	保育の視点 子ども理解	(内 容) ビデオを視聴し、保育の基本を理解する。子どもとともに生活することについて理解する (必要な準備) 保育用語辞典を持ってくる
第9回	子どもの生活と遊び	(内 容) 子ども理解、発達過程、遊びとの関連はわかり、遊びを通して保育することの重要性や遊びの意義を理解する。 (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第10回	保育の思想と歴史の変遷 1	(内 容) 諸外国の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第14章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第11回	保育の思想と歴史の変遷 2	(内 容) 日本の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第13章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第12回	保育計画と評価	(内 容) 保育計画と保育実践との関係を理解する。PDCAの意味を理解する。 (必要な準備) テキスト第12章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持ってくる
第13回	保育の現状と課題	(内 容) 小1プロブレムの問題とそれを予防する方策を学び、保幼小の連携について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第15章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典をもってくる
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育の専門性を生かした保護者支援、職員間の連携、倫理観について理解を深める。 (必要な準備) テキスト第7章を読んでまとめておく(60分)
第15回	自らの学びを振り返り、今後に繋がる課題を把握する	(内 容) 専門職としての保育者の質の向上を目標として自らの課題を明らかにする (必要な準備) これまでの授業を振り返る(30分)

授業名	保育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Child Care			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育原理 を踏まえ保育の意義や目的が保育内容や保育方法、保育形態などどのように関連するのかを理解し、年齢や発達過程に応じた保育計画（指導案）が立案できるようになる。							
学習成果到達目標	1) 保育の歴史、思想、諸制度について理解できる。 2) 保育計画が作成でき、保育方法や評価について理解できる。 3) 保育者の専門性について理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	春学期のテキストを継続して使用します。(『保育原理』谷田貝公昭編・『新版 保育用語辞典』)							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省(フレーベル館)							
留意事項								
オフィスアワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		授 業 計 画
保育原理 a・b		
	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方を理解し学習計画をたてる (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	保育(教育)の目標・目的	(内 容) 保育所、幼稚園、認定子ども園の目的、目標について再確認する。 (必要な準備) 保育原理 の内容、教科書第1章を読んでおく。
第3回	保育の歴史 1	(内 容) 諸外国の思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第13章、保育用語辞典を読んでおく
第4回	保育の歴史 2	(内 容) 日本の保育思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第14章、保育用語辞典を読んでおく
第5回	保育の特性	(内 容) 養護とは、教育とは、養護と教育の一体性とは、について正確に説明できるようになる (必要な準備) 保育用語辞典を読んでおく(10分)
第6回	保育計画 1	(内 容) 保育実践のビデオを視聴し、保育活動のねらい、内容、保育計画(指導計画)について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第7回	保育計画 2	(内 容) 保育計画の意義、保育課程(教育課程)と指導計画の関係について理解する (必要な準備) テキスト第12章を読んでおく(30分)
第8回	保育計画 3	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(乳幼児の活動と環境構成) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第9回	保育計画 4	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(保育者の援助の考え方) (必要な準備) 指導案をもって来る、配布プリントを読んでおく(10分)
第10回	保育計画 5	(内 容) ビデオを視聴して指導計画を実際に書く (必要な準備) 指導案の形式を書いてくる(10分)、定規を持って来る
第11回	保育計画 6 グループワーク	(内 容) グループで指導計画を立案し完成させる (必要な準備) 保育活動を考えて指導計画を作成してみる(60分)
第12回	保育計画 7 グループワーク	(内 容) グループで完成させた指導計画を発表する (必要な準備) 指導計画を完成させてもってくる(60分)
第13回	保育実践	(内 容) 保育実践について学ぶ (必要な準備) 筆記用具、折り紙、はさみ、新聞紙をもって来る
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育者の専門性について具体的に理解する (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) ノート、テキストを読み返しわからない点を明確にしておく(30分)

授業名	保育の心理学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	発達心理学の基礎知識を習得し、その知識を用いて子ども理解を深めていく。また、心理学の具体的な話題や幼児教育・保育現場の事例を紹介し、発達過程と保育実践を関連づけながら講義をすすめる。							
学習成果到達目標	1) 子どもの発達に関する心理学の基礎知識を習得することができる。 2) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめる、発達過程と保育実践を関連づけて理解することができる。 3) 乳幼児期の経験の重要性を認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (75 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (25 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
留意事項	復習をしっかり行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 心理学とは何か、保育と心理学の関係について学ぶ。 (必要な準備) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。(20分)	
第2回	保育における発達心理学の意義と役割	(内 容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	「発達」とは何か 1 発達段階と発達課題	(内 容) 発達段階、発達課題、遺伝と環境の影響について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	「発達」とは何か 2 発達のしくみ	(内 容) 発達のしくみ、初期経験の重要性、発達と保育内容について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	身体機能と運動機能の発達	(内 容) 身体機能・運動機能の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	情緒と自我の発達	(内 容) 情緒と自我の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第7回	社会性の発達	(内 容) 社会性の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	知覚と認知の発達	(内 容) 知覚と認知の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 授業の内容を振り返ってまとめる。 (必要な準備) 第8回までの授業の復習をしておく。(60分)	
第10回	言葉の発達 1 コミュニケーションと言葉	(内 容) 言葉の発達の土台となる力や特徴について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第11回	言葉の発達 2 思考と言葉	(内 容) 思考のための言葉や読み書きの発達について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	遊びの発達	(内 容) 遊びの発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	発達障がいの理解	(内 容) 発達障がいや発達検査について基礎的な内容を知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達に応じた援助	(内 容) 保育事例より、子どもの発達や心身の状態をとらえて援助を考える。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第15回	児童期・青年期の発達	(内 容) 児童期・青年期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授業名	教育心理学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	乳幼児期は、遊びや生活体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを経験し、学ぶ態度の基礎を育む時期である。本授業では、学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解し、保育実践に活かせる力を身につける。講義が中心ではあるが、保育・教育現場の事例や学生の実習体験のエピソードや視聴覚教材などを随時取り入れながら、具体的に学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解することができる。 2) 教育心理学の知識を用いて子ども理解を深め、子どもに合った指導方法を考えることができる。 3) 保育者は継続して研修をする必要があることを認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	授業は配布資料を使ってすすめる。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
留意事項	小テストや課題レポートを随時実施する。主体的に学びを積み重ねてほしい。							
オフィスアワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		教育心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	保育と教育心理学	(内 容) 教育心理学の目的 発達と学びのかかわり 保育者の教育観 (必要な準備) 保育の心理学 ・ の復習をしておく。(60分)	
第2回	学びにかかわるこころの働き1 学習のしくみ	(内 容) 学習の定義 成熟と学習 条件づけ学習 観察学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	学びにかかわるこころの働き2 学習の意欲	(内 容) 動機づけの定義 内発的動機づけ (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	学びにかかわるこころの働き3 内発的動機づけ	(内 容) 知的好奇心 達成動機 コンピテンス動機づけ 自己決定感 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	学びにかかわるこころの働き4 学ぶ楽しさ	(内 容) 原因帰属 学習性無力感 幼児期の学びの特徴 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	学びにかかわるこころの働き5 記憶のしくみ	(内 容) 記憶の過程 長期記憶と短期記憶 忘却 記憶能力の発達 (必要な準備) 第1回から第5回の内容をまとめておく。(90分)	
第7回	学びにかかわるこころの働き6 思考の発達	(内 容) 思考とは 認知・思考の発達 心の理論 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	保育者・教員の倫理観	(内 容) 保育場面における倫理的な判断 保育者の職業倫理 (必要な準備) 第6・7回の内容をまとめておく。(60分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 実習事例を通してレポートを作成する。 (必要な準備) テーマにそって実習事例を考えてくる。(60分)	
第10回	幼児期における文字の学習・数の学習	(内 容) 遊びや生活の中で獲得する読み書き・数概念 (必要な準備) 復習プリントの記入(60分)	
第11回	学びの支援1 指導法	(内 容) プログラム学習 発見学習 有意味受容学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	学びの支援2 保育のねらいと環境設定	(内 容) 適性処遇交互作用 発達の最近接領域 T T 縦割り保育 グループ編成の方法 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	学びの支援3 学ぶこころを育てる人間関係	(内 容) 親子関係と意欲 学ぶこころを育てる保育者のかかわり (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達とこころの問題への支援1 保育カウンセラーとカウンセリングマインド	(内 容) 共感と傾聴の態度 カウンセリングマインド 保育カウンセラーの役割と実践 (必要な準備) 第11回から第13回の内容をまとめておく。(60分)	
第15回	発達とこころの問題への支援2 気になる子ども・発達障がいの子どもの支援	(内 容) 個別の支援が必要な子どもの理解とチーム援助 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授 業 名	総合演習 A			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必 修 ・ 選 択	必 修	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>少子高齢化、情報化、国際化の進む現代において、幼児と自然や人とのかかわりは様変わりし、子ども自身の遊びや幼児の人格も変化している。家庭、地域、幼稚園・保育園に問われる子どもの育ちについて調べたり遊びの教材研究をしたりし、発表・討議・分析を通じ、幼児教育についての理解を深める。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	<p>演習形式で、直接体験を学生自身が自ら計画・実践し、グループ研究を土台に、積極的に発言、意見交換し、各自が課題意識をもちながらすすめる。日頃より、幼児教育及び乳幼児と環境との関連について関心をもつことが望ましい。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに 自己紹介 演習の目標と方法	(内 容) 演習の目標と方法について話をする。 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	課題についての問題意識の発見と計画	(内 容) 目標と方法について話し合い課題についての問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 新聞記事等を切り抜いて持参すること	
第3回	子どもの育ちと環境(絵本を読んで創作絵本, パネルシアター、エプロンシアターを考える)	(内 容) 話し合い活動を通して、自分の問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 自分の得意な活動をひとつ考えておくこと	
第4回	子どもの育ちと環境	(内 容) 幼児の大切なことを話し合い、計画を立てる。 (必要な準備) 5領域に即した指導計画を考える	
第5回	体験学習による事例研究か教材研究 制作	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 必要なものは準備、個人での必要物は個人で準備	
第6回	体験学習による事例研究か教材研究 リズム遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽器や製作楽器など、音の鳴るもの	
第7回	体験学習による事例研究か教材研究 音楽	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽譜や音楽用テキスト	
第8回	体験学習による事例研究か教材研究 ゲーム	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 教育実習で使用しようとしている指導案	
第9回	体験学習による事例研究か教材研究 素話	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) いくつかの絵本をピックアップしておくこと	
第10回	体験学習による事例研究か教材研究 集団遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 伝承遊びを中心に集団で遊べるものを用意しておく	
第11回	体験学習による事例研究か教材研究 早期教育	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。発表の仕方の練習 (必要な準備) 図書館等で早期教育に関する資料を集めておくこと	
第12回	具体的事例か教材研究の発表・討議 造形	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 子どもたちに作らせる予定の教材を用意する	
第13回	具体的事例か教材研究の発表・討議 人間関係	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 筆記用具	
第14回	具体的事例か教材研究の発表・討議 言葉	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する (必要な準備) 自分の読みたい絵本をいくつか用意しておくこと	
第15回	まとめ	(内 容) 研究したり製作したことについて反省する。 (必要な準備) 半年間の振り返りに必要なものを用意しておくこと	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自のテーマを見つけ1年間を通して主体的に取り組む。</p> <p>2、幼児に関する現代的なトピックスに関心を持ち、文献の収集、レポートの作成に取り組む。</p> <p>3、卒業研究に向けて各自、準備を行う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1、乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を育成する。</p> <p>2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につける。</p> <p>3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	なし							
参考書	適宜提示する。							
留意事項	積極的な授業へのかかわりを重視する。							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(内 容) 授業の進め方などについて説明・自己紹介。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	学生生活を充実させるため知識や学びの姿勢を深める。	(内 容) 自然観察・地域社会への理解を深める。 (必要な準備) 見学先の下調べをしておく。	
第3回	文献の収集、インターネットやPCの活用力を高める。	(内 容) 関心のあるテーマの内容を詳しく調べる。 (必要な準備) 実習をふり返る。	
第4回	学外授業	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第5回	卒業研究の意義を学び各自のテーマを決める。	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第6回	卒業研究に向けて学習スケジュールを立てる。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第7回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第8回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 実習に向けて保育の現状を理解し、各自の問題意識を高める。 (必要な準備) プリントを読んでおく。	
第9回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第10回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第11回	学外授業	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第12回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第13回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第14回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第15回	まとめ、春学期の振り返り、夏期休業中の課題。	(内 容) 授業をふりかえり、今後の課題を検討する。 (必要な準備)	

授業名	総合演習 C			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	様々な楽器や子どものうた等、手遊びも交え音楽表現を深める。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	卒業研究のテーマを各自決める。							
オフィス アワー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期授業内容の説明。 (必要な準備) シラバス
第2回	保育実習反省会	(内 容) 春休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習をふりかえっておく。
第3回	卒業研究テーマ	(内 容) 卒業研究のテーマを決める。 (必要な準備) 各自考えること。(120分)
第4回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第5回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第6回	教育実習準備	(内 容) 実習園で弾くピアノ伴奏などのアドバイス。 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第7回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第8回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第9回	楽器指導	(内 容) 楽器の使い方。 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第10回	楽器指導	(内 容) 合奏 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第11回	楽器指導	(内 容) 発表 (必要な準備) 発表の練習・準備をしておく。楽譜を読む(60分)
第12回	指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて指導の仕方を実践。 (必要な準備) 練習(120分)
第13回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第14回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期の反省 (必要な準備)

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	秋学期終了時に提出する卒業研究レポートに向けて、卒業研究のテーマを考え、情報を収集する方法を知り、卒業研究レポートにふさわしい書き方を学ぶ。どのように研究テーマを絞り込み、どのように研究に取り組むのか、全員でディスカッション等しながら学ぶ。必要に応じて、音楽や制作の体験も取り入れ、体験的な取り組みをレポートにまとめる方法を考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 卒業研究に向けて、幼児教育・保育に関することで、各自興味のあるテーマを設定することができる。 2) 卒業研究のテーマについて、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究の中間報告をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	適宜資料を配布する							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	2回生のゼミでは、1年かけて自分が特に興味を持っている事柄について、卒業研究として取り組みます。自主的・積極的な取り組みが大切です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合演習 D
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 自己紹介・ゼミの仲間と知り合う。 2回生ゼミで取り組む卒業研究についての説明をする。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。
第2回	卒業研究で取り組むテーマを考える(グループワーク)	(内 容) 幼児教育や保育に関する卒業研究のテーマとしてどのようなものが考えられるか、グループごとに考え、発表する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマはどのようなものが考えられるか考えてくる。
第3回	卒業研究で取り組む大まかなテーマを決める	(内 容) 前回のグループワークを元に、自分自身が取り組みたいテーマを考え、小レポートにまとめる。この時点ではまだ、大まかなテーマで良い。 (必要な準備) 自分が取り組みたいテーマを考えてくる。
第4回	文章の書き方の基本ルールを学ぶ	(内 容) 卒業研究レポートにふさわしい文章の基本的な表記法について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第5回	自分で調べる方法を学ぶ	(内 容) 学術書やインターネット等から、卒業研究に必要な情報を収集する方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第6回	レポートをメールで送る方法を学ぶ	(内 容) ワードファイルを添付してメールで送る方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。 パソコンの操作の仕方を復習しておく。
第7回	プレゼンテーションの準備と方法を学ぶ	(内 容) プレゼンテーションの目的・方法・準備について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第8回	研究テーマの絞り方を学ぶ	(内 容) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマから、今回の卒業研究にふさわしい規模に研究テーマを絞る。 (必要な準備) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマの中で、具体的に研究したいことを考えておく。
第9回	個別指導 -1: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第10回	個別指導 -2: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第11回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第12回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第13回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第14回	個別指導 -1: 中間報告レポートの進捗状況と指導	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。
第15回	個別指導 -2: 中間報告レポートの進捗条項と指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>実習を経験して見えてきた自分自身の課題について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を、より確実に身につける。2年間の学びの中から各自がテーマを選び、卒業研究に取り組む。ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団のひとりとしての自覚をもって活動する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 各自の興味関心に基づいて研究テーマを設定し、創造的に学びをすすめる。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	実習や就職・進路に向けて、落ち着いて臨めるように、随時面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) ゼミの目的や卒業研究について理解する。 (必要な準備) 1回生ゼミの内容を振り返る。(30分)	
第2回	卒業研究に向けて1 概要	(内 容) 取り組みの概要を理解する。 (必要な準備) 取り組みたい内容を考えてくる。(60分)	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第4回	卒業研究に向けて2 テーマの検討	(内 容) テーマを発表し、検討し合う。 (必要な準備) 取り組みたい内容を再検討してくる。(60分)	
第5回	卒業研究に向けて3 テーマの決定と計画	(内 容) テーマを決定し、計画書をつくる。(60分) (必要な準備) テーマと目的をまとめる。(60分)	
第6回	保育内容の研修1	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)	
第7回	フィールドワーク	(内 容) 遠足のスポットを体験し、保育者の視点で考える。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第8回	保育内容の研修2	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究の進め方をまとめる。(60分)	
第9回	教育実習での取り組み1	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第10回	教育実習での取り組み2	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第11回	実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)	
第12回	卒業研究の取り組み1	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第13回	卒業研究の取り組み2	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第14回	卒業研究の中間発表(前半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	
第15回	卒業研究の中間発表(後半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	

授 業 名	総合演習 F			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児の保育活動を実践的にイメージし保育者としての資質を向上させる。 様々な角度から子どもを取り巻く環境について体験を通して考える機会をもつ。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に参加してください							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス・自己紹介	(内 容) 講義内容の説明と相互交流をする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	フィールドワーク	(内 容) 自然環境をリサーチする (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する
第3回	グループワーク 1	(内 容) 偏愛マップを使用して相互交流をする (必要な準備) 偏愛マップを作成する(30分)
第4回	グループワーク 2	(内 容) 偏愛マップを使用した相互交流について意見交換をする (必要な準備) 偏愛マップによる相互交流についてまとめてくる(30分)
第5回	保育実践 1	(内 容) 牛乳パックを使った制作をする (必要な準備) 牛乳パックを集めて持ってくる、色鉛筆を持ってくる
第6回	保育実践 2	(内 容) 牛乳パック制作を個人発表する (必要な準備) 牛乳パック制作を完成させる(60分)
第7回	保育実践発表	(内 容) 保育実践の個人課題を発表し資料をさがす、準備をする (必要な準備) 保育実践課題を考えてくる、必要な材料や資料を準備してくる
第8回	フィールドワーク (動物園見学)	(内 容) 春の遠足先である動物園へ行く (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第9回	保育実践課題に取り組む 1	(内 容) 保育実践課題を決定し進める (必要な準備) 資料収集をして準備をする、材料等を考えて持ってくる(30分)
第10回	保育実践課題に取り組む 2	(内 容) 保育実践課題に取り組む (必要な準備) 材料、資料など必要なものを持ってくる
第11回	保育実践課題に取り組む 3	(内 容) 保育実践課題を完成させる (必要な準備) 完成に必要な材料など必要なものを持ってくる
第12回	保育実践課題 発表 1	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)
第13回	保育実践課題 発表 2	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)
第14回	個別面談	(内 容) 個別面談をする (必要な準備) 将来について考えてくる(30分)
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期を振り返り秋学期に向けての研究課題を考える (必要な準備) 自分の意見を考えてまとめておく(15分)

授業名	総合演習 G			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) ありたい自分になるために具体的な取り組みを始めており言語化できるようになる。</p>							
評価方法	定期試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、資料等を配布する。							
参考書	必要に応じて紹介する。							
留意事項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言等を重視する。							
オフィスアワー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について相談、共有する。また、自己紹介や関係作りのワークを適宜実施する。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。
第2回	ありたい自分について考える(1) 望む将来像	(内 容) ワークシートを使って各自が望む将来像を整理し、口頭で報告する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について自分なりに考えメモを作成しておく。
第3回	ありたい自分について考える(2) 自己覚知	(内 容) 「人生株式市況」や「価値観の競売」等のワークを使い、自分自身の価値観や他者との違いについて考える。 (必要な準備) 前週の内容を復習しておく。
第4回	ありたい自分について考える(3) 理想の保育者像	(内 容) ブレーンストーミングとKJ法の手法を用い、保育者に必要な要素について整理、共有する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について各自で考えメモを作成しておく。
第5回	研究発表のテーマ選定	(内 容) これまでの演習内容を踏まえ、ワークシートを使い研究テーマと研究概要を整理する。ワークシートは授業後に提出する。 (必要な準備) これまでの演習内容を復習しておく。
第6回	グループ発表の準備(1) グループの編成と研究の進め方	(内 容) 全集作成した個人シートをもとに小グループを編成し、グループごとで、グループ発表のテーマ、研究の進め方、発表の仕方などを協議する。 (必要な準備) 自分の研究テーマ、課題を口頭で説明出来るようになっておく。
第7回	グループ発表の準備(2) 発表資料の作成と発表方法の決定	(内 容) 事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を作成すると共に発表の手順について相談する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第8回	グループ発表の準備(3) 発表資料の完成	(内 容) 事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を完成する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第9回	グループ発表(1)	(内 容) 発表が当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 発表資料を完成し、指定された期日までにGmailで提出する。
第10回	グループ発表(2)	(内 容) 発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第11回	グループ発表(3)	(内 容) 発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第12回	個人研究テーマの再整理	(内 容) 前週までの発表内容を踏まえ、整理シートを使って個人研究テーマを再検討する。 (必要な準備) 全ての発表内容にもう一度目を通しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第13回	個人研究テーマの共有	(内 容) 一人あたり持ち時間4~5分程度で個人研究テーマの発表、質疑応答を実施する。 (必要な準備) 個人研究テーマ(前週の整理シート)の概要を3分程度で説明できるように準備しておく。
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今学期の内容を振り返り、個人レポートを作成する。 (必要な準備) 今学期の演習内容を復習しておく。
第15回	個人レポート及び夏期休暇の課題と総括	(内 容) 個人レポート及び各休暇中の課題について発表する。また、今学期の総括を行う。 (必要な準備) 個人レポートの内容を見直し、口頭で発表できるように準備しておく。

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 2年間の学びの集大成として学生各自のテーマに沿って「卒業研究」を行う。 「卒業研究」は教員の指導を受けて、各自が1600文字程度のレポートとして完成させる。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を身につけることができる。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組み、学習成果を発表する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 総合演習の目的を理解し、学習の進め方を理解する。 (必要な準備) シラバスを読み授業内容を理解しておく。
第2回	1年間の学習計画と卒業制作について	(内 容) 総合演習で取り組む卒業研究の意味やその取り組み方法について学ぶとともに年間を通じた学習計画を立てる。 (必要な準備) 年間の学習内容を整理しておく。
第3回	卒業研究のテーマの検討と設定	(内 容) 卒業研究のテーマ案や方法案についてこれまでの学びをベースに検討する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマや方法について1回生時の学びから整理しておく。(60分)
第4回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第5回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第6回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第7回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第8回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する。 (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第9回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する。 (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第10回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる。 (必要な準備) 研究執筆に向けて仮説を立て、研究方法を考えておく。
第11回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる。 (必要な準備) 最終的な分析方法とレポートの構成を考えておく。
第12回	卒業研究テーマの発表と共有	(内 容) 各自が考えた卒業研究のテーマとその内容を発表し、質疑応答を通してその内容を深め共有する。 (必要な準備) テーマと発表内容をまとめて提示資料を作成しておく
第13回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第14回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第15回	春学期総合演習の振り返り	(内 容) 春学期の授業全体を振り返り、秋学期に向けた学習の方向性を整理し、夏季休暇中の活動を考える。 (必要な準備) 春学期の授業を振り返り、学びの内容や目標の到達度などを整理しておく。(30分)

授業名	総合演習 I			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上にむけて、一人ずつテーマを設定する課題解決的な学び、共通の問題意識をもったグループでの協調的な学び、ゼミ生全員で取り組む各種活動を通して、子どもへの理解を深め、保育者としての実践力を、より確実に身につける。その過程で、ほかのゼミ生への学びの貢献によって相互に高める関係づくりを通して、現場で求められる同僚性を獲得する。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	チームビルディング	(内 容)	新しいゼミメンバーのひとりとなりを理解するために、前年度の学修経験を互いに共有する (必要な準備) 1年生時の学修と春休みにおこなった実習のふりかえりと反省を考 えてくる
第2回	卒業研究のテーマを浮かべる	(内 容)	ブレイン・ストーミングにより課題発見 (必要な準備) 卒業研究の大きなテーマとして創作おもちゃ、伝統文化、情報教育の三つについて情報を収集してくる
第3回	卒業研究のテーマを練る	(内 容)	マインドマップによる問題意識の整理 (必要な準備) 書籍やインターネットを使って浮かび上がってきた課題を追究
第4回	研究テーマの明確化	(内 容)	ワールド・カフェ形式で見直しをもつ (必要な準備) 完成したマインドマップ
第5回	テーマごとのグループ学習	(内 容)	卒業研究の3つのテーマのうち、もっとも関心のあるものを選択する。同じテーマを選択したもの同士、互いに問題意識を共有する (必要な準備) 卒業研究の見直し
第6回	テーマ別グループ発表の準備	(内 容)	問題意識の近い者でグループになり資料を集め、書籍やインターネットから保育現場で実際におこなわれているテーマに沿った活動をプレゼンテーション用の資料にまとめる (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート
第7回	テーマ別グループ発表（創作おもちゃ）	(内 容)	創作おもちゃの保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第8回	テーマ別グループ発表（伝統文化）	(内 容)	伝統文化の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第9回	テーマ別グループ発表（情報教育）	(内 容)	情報教育の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第10回	グループ発表のふりかえり	(内 容)	3回にわかって実施したグループ発表の自己評価、相互評価、教員からの指導助言 (必要な準備) グループ発表の感想
第11回	グループ発表の成果をもとに個人の研究テーマの選定	(内 容)	グループ発表の成果をまとめ、自分の卒業研究テーマにつなげる (必要な準備) 個人の研究テーマのしぼりこみ
第12回	個人の研究テーマに基づいて教材研究	(内 容)	書籍やインターネットや試作をしながら、卒業研究テーマに沿った保育案を考える (必要な準備) 個人の研究テーマに関連した既存の保育案
第13回	卒業研究の中間報告に向けてレポート作成	(内 容)	研究テーマに沿った保育案とそのねらい (必要な準備) 自ら作成した保育案
第14回	卒業研究の中間報告（前半）	(内 容)	1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。 お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書
第15回	卒業研究の中間報告（後半）	(内 容)	(前回からの続き) 1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書

授業名	総合演習 J			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>パネルシアターなどの劇表現や壁面構成によって造形力、表現の力を身につける。 また、教材研究として造形関連の指導案、作品制作などを行う。 お互いのよいところに気付き、集団で活動するためのコミュニケーション能力を高める。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものためのストーリー、表現等をよく考え、制作して演じる力を身につける。 2) 造形材料、色や形から教材研究する力をつける。 3) 仲間の取り組みから学び、それぞれの表現の良さを発見する。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの構想を練る (必要な準備) 劇表現にするアイデアを考えておく(30分程度)	
第3回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を始める (必要な準備) 制作に必要な資料を持参する(30分程度)	
第4回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を進める (必要な準備) 新たに必要なものを持参する(30分程度)	
第5回	劇表現の取り組み	(内 容) 人形を仕上げ、発表練習などをする (必要な準備) 大まかな時間の流れを考えておく(30分程度)	
第6回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの発表と鑑賞 (必要な準備) 発表練習をしておく(30分程度)	
第7回	実習報告会	(内 容) 教育実習の反省・報告 (必要な準備) 自分の実習について振り返っておく(30分程度)	
第8回	フィールドワーク	(内 容) ギャラリーをまわる (必要な準備) 地図を確認し下調べをしておく(30分程度)	
第9回	フィールドワーク	(内 容) 作品についてのレポート (必要な準備) つくる人の言葉をインタビューする(30分程度)	
第10回	教材研究	(内 容) テーマの設定 (必要な準備) 材料、技法を調べておく(30分程度)	
第11回	教材研究	(内 容) 参考作品の制作 (必要な準備) 細部のアイデアを考えておく(30分程度)	
第12回	教材研究	(内 容) 指導案づくり (必要な準備) 仕上がりの様子を考えておく(30分程度)	
第13回	教材研究	(内 容) 発表会(作品の鑑賞 取り組みの評価) (必要な準備) 自分の作品や取り組みについてまとめる(30分程度)	
第14回	秋学期の取り組みに向けて	(内 容) 自分の研究したいテーマを探す (必要な準備) 事前に考えておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 春学期授業の振り返り (必要な準備) 授業で学んだことをまとめておく(30分程度)	

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上を図る。特に、食を通じて健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す能力を養う必要がある。食嗜好や朝食の欠食、咀嚼力の低下等の多様な問題点を理解し、解決するため保育者としての実践力を習得する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材を養成できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回課題を設定し提出してもらおう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	発表(1)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第3回	発表(2)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第4回	フィールドワーク	(内 容) 大学周辺を散策する (必要な準備) 大学周辺の地図を確認しておく	
第5回	研究課題の検討	(内 容) 興味ある課題を考えておく (必要な準備) ホームページなどで情報収集	
第6回	資料収集	(内 容) 問題意識の近い者でグループになり資料集め (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート	
第7回	資料整理	(内 容) 集めた資料を整理し発表の役割分担 (必要な準備) 前時に収集した資料	
第8回	発表資料の作成	(内 容) 役割分担に基づきグループ発表資料作成 (必要な準備) 前時にまとめた工程表	
第9回	子どもの遊びを考える	(内 容) 子どものさまざまな遊びを全体で研究 (必要な準備) 遊びの提案	
第10回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第11回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第12回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第13回	映像から子ども理解を深める	(内 容) 映像教材をみて子どもの視点をまとめる (必要な準備) グループ発表のふりかえりシート	
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今期追究したテーマをレポートにまとめる (必要な準備) これまでの研究ノート	
第15回	レポート発表と総括	(内 容) 各自の研究成果に対する総括 (必要な準備) 個人発表資料	

授 業 名	総合演習 A		開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Senior Seminar		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修		
担 当 者	浅田 瞳		対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	総合演習 で学んだことを基礎に、子育てと環境とのかかわりについて、自分が問題とする課題のもと研究をすすめる。その間、中間発表をしながら討議・分析を重ね、課題について、幼児の人間としての育ちを援助するための方法・技術を考え、保育者としての役割の重要性を自覚する。最後に卒業研究としてレポートを作成する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	課題にそってグループ研究を進め、レポートとしてまとめ発表する。授業への積極的参加を求めます。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第 1 回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	休暇中の課題の発表と討議	(内 容) 休暇中の課題の発表と討議 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	各自の課題の絞り込み 資料の収集	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) 課題をまとめたレジメを作成すること	
第3回	各自の課題の絞り込み パワーポイント作成	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) パワーポイント作成に必要な資料	
第4回	課題による研究・実践 実習での課題	(内 容) 課題による研究・実践をするための教材の計画や準備をする。 (必要な準備) 各自教材・資料を持参する。	
第5回	課題による研究・実践 子どもたちの支援	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 子ども支援に焦点を当てた資料を用意すること	
第6回	課題による研究・実践 早期教育の功罪	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 早期教育に関する資料を用意すること	
第7回	課題による研究・実践 教材研究	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第8回	課題による研究・実践 環境構成と発達	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 環境や発達に関する資料	
第9回	課題による研究・実践 制作と遊び	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した指導案	
第10回	課題による研究・実践 人間関係の構築	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第11回	課題の発表・討議 ディベート	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 設題に沿った資料	
第12回	課題の発表・討議 KJ法を用いた要約	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 筆記用具・付箋紙・模造紙	
第13回	課題の発表・討議 シンポジウム形式の発表	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 限られた時間で発表するための資料	
第14回	課題の発表・討議 幼児教育の方向性	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 幼児教育に関する資料	
第15回	レポート作成にむけて	(内 容) レポートを作成するための留意点について解説する。 (必要な準備) これまでの発表資料を持参すること。	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自の卒業研究のテーマを深める。 2、卒業研究に必要な資料や新聞記事、文献の収集、レポートの作成に取り組む。 3、卒業研究を仕上げ、各自がゼミの中で発表し互いに講評し合う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1、卒業研究をまとめることで文章力を高め、PCの活用や情報処理の方法に習熟する。 2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につけて実践力のある保育者に育つ。 3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	なし							
参考書	適宜提示する							
留意事項	積極的な態度を重視する							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス夏期休業中の課題についての提出、確認。秋学期の学習の目標を立てる。	(内 容)	授業の進め方などについて説明する (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	課題の検討、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	関心のある事柄について、概要を調べる (必要な準備) プリントを読んでおく
第3回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	決定したテーマを発表する (必要な準備) テーマの検討
第4回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。学外授業	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第5回	茶道の基本を学び実践する。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第6回	季節に応じた保育内容を学ぶ(春から夏)	(内 容)	芸術に親しみ、感性を養う (必要な準備) 見学先の予習
第7回	季節に応じた保育内容を学ぶ(秋から冬)	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第8回	外国の幼児教育を学び視野を広げる	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第9回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第10回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	レポートの組み立てについて個別に指導する (必要な準備) レポートの組み立てを考える
第11回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第12回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第13回	各自の卒業研究を仕上げ提出する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第14回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第15回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	レポートを完成させて提出する (必要な準備)

授業名	総合演習 C			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所などでは様々な行事が行われるが、生活発表もその中で重要な位置を占める。最近では園外での合奏発表なども盛んである。そこでこの授業では、どの楽器をどのように使えば有効かなど、曲選び・アレンジを中心に、保育現場での実践的な指導を研究する。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	自分たちだけが合奏を楽しむのではなく、合奏することの楽しさを、いかに子どもたちに伝えるかを各自考察してほしい。そして何より保育現場で役立つように。							
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、実習反省会、合奏指導実践準備	(内 容) 授業内容の説明、夏休みに行った実習の反省会。 合奏練習。 (必要な準備) 実習の感想を考えてくる。(30分)	
第2回	実習反省会、合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第3回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第4回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第5回	個別相談	(内 容) 就活の相談 (必要な準備)	
第6回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第7回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第8回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 練習(60分)	
第9回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第10回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第11回	コンサート	(内 容) コンサート (必要な準備) 練習(60分)	
第12回	合奏指導の基礎知識	(内 容) 生活発表での選曲・アレンジ・記譜法・指揮法。 (必要な準備) 各自曲を考える。	
第13回	卒業研究個別相談	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第14回	卒業研究提出	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第15回	卒業研究発表	(内 容) 短大2年間で学んだこと。 (必要な準備)	

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	各自が設定したテーマについて、卒業研究を進める。各自の研究に必要なフィールドワーク・ワークショップ・資料購読などを進め、卒業研究レポートとしてまとめる。中間発表等を通して、ゼミ全体で学びを深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自身の卒業研究に必要な情報を自主的に調べ、必要があればフィールドワークやワークショップを計画・調整することができる。 2) 卒業研究について、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	自主的・積極的・計画的な取り組みが重要です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授業名	総合演習 D	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	卒業研究についての確認	(内 容) 秋学期の授業計画について説明する。 各自の卒業研究の進捗状況について報告する。 (必要な準備) 各自の卒業研究のテーマを確認しておく。
第2回	卒業研究の計画書の作成	(内 容) 卒業研究レポートを提出するまでの計画を立てる。 (必要な準備) 卒業研究レポート提出までの計画を考えておく。
第3回	個別指導：卒業研究計画書の内容について	(内 容) 前回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第4回	個別指導：卒業研究計画書の内容について（前回からの続き）	(内 容) 前々回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第5回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第6回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第7回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第8回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第9回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第10回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第11回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第12回	卒業研究レポートの執筆を開始する	(内 容) 卒業研究レポートを書き始める。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートの書き方を復習しておく。
第13回	卒業研究レポートを執筆する	(内 容) 卒業研究レポートを執筆する。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートを進めておく。
第14回	卒業研究レポートを完成させる	(内 容) 卒業研究レポートを完成し、教員に提出前の最後の指導を受ける。 (必要な準備) 卒業研究レポートを完成させておく。
第15回	卒業研究のプレゼンテーション	(内 容) 各自が1年かけて取り組んできた卒業研究を発表し、ゼミのメンバーで共有する。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	すべての実習を終えて見えてきた自分自身の課題や、保育現場の課題、子育てをめぐる社会状況などを総合的にとらえ、課題意識をもって卒業研究に取り組みまとめる。ゼミ生同士が交流を深め、積極的に意見を交換しながら高め合い、集団作りを担う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 設定した研究テーマに取り組み、課題意識をもって創造的に学びを深める。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	卒業研究で設定した課題に向けて自主的に取り組むこと。必要に応じて個人面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)
第2回	卒業研究の取り組み3	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)
第3回	特別企画と制作1 企画	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)
第4回	特別企画と制作2 取り組み	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)
第5回	特別企画と制作3 まとめ	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)
第6回	卒業研究の取り組み4	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)
第7回	卒業研究の取り組み5	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)
第8回	卒業研究の取り組み6	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)
第9回	フィールドワーク	(内 容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)
第10回	卒業研究の取り組み7	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)
第11回	卒業研究まとめ1	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)
第12回	卒業研究まとめ2	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)
第13回	保育中の行事	(内 容) クリスマスや正月の行事に関する保育体験をする。 (必要な準備) 保育における行事の意味を考える。(30分)
第14回	卒業研究の発表(前半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)
第15回	卒業研究の発表(後半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)

授 業 名	総合演習 F				開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位
英 文 名	Senior Seminar				開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修
担 当 者	鈴木 えり子				対 象 学 生	幼児教育2回生		
授業の概要	2年間の学びのまとめを行う。現在の幼児教育に深い関心を持ち、卒業に向けた各自の研究課題を明確し、意見交流や資料収集を通して自分の考えをまとめる。さらに、子どもを取り巻く課題に気づき、将来に向けて保育実践力を向上させる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児教育・保育に関心を持ち課題について深く探求できる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	研究課題を期日内に仕上げなければなりません。計画性をもって取り組みましょう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 総合演習の達成目標の確認をする (必要な準備) 春学期の総合演習で配布したプリントを読んでおく(5分)	
第2回	研究課題(テーマ) 設定	(内 容) 幼児教育に関連した研究課題(テーマ、保育実践、見学観察など)を設定する (必要な準備) 図書館や情報メディアを通して保育や子育ての問題に関心をもち具体的に考えてくる(60分)	
第3回	研究課題(テーマ) 検討	(内 容) 各自の研究課題(テーマ)について発表、意見交流、検討する。 (必要な準備) 研究課題(テーマ)作成のための参考資料を収集してもってくる(30分)	
第4回	研究課題(テーマ) 再検討	(内 容) 研究課題について個別指導 (必要な準備) 計画の見直し、問題関心をまとめておく、研究課題にそって資料収集を用意する(30分)	
第5回	個別指導 1	(内 容) 研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 研究課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第6回	個別指導 2	(内 容) 個人の研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第7回	研究課題 中間発表 1	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第8回	研究課題 中間発表 2	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第9回	フィールドワーク 1	(内 容) 保育施設を見学する (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する	
第10回	フィールドワーク 2	(内 容) 学外を散策する(自然環境について考える) (必要な準備) 動きやすい服装で来る	
第11回	研究課題 まとめ	(内 容) 研究課題を仕上げる、まとめる (必要な準備) 研究課題を最終確認してまとめておく(60分)	
第12回	研究課題 提出	(内 容) 卒業研究課題を指定の用紙を使用して完成させ提出する、最終確認を行う (必要な準備) プレゼンテーション(発表)の準備をする	
第13回	研究課題 発表 1	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第14回	研究課題 発表 2	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第15回	まとめ 自己評価	(内 容) 一年間のまとめ、自分自身の今後の課題を明確にする 学びのステップアップシートを作成する (必要な準備) 1年間を振り返っておく	

授 業 名	総合演習 G			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	History Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。また、期末には各自が研究レポートを作成し、ゼミ内で発表を行います。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) 興味のあるテーマについて自分の意見も含む研究レポートが完成している。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テ キ ス ト	適宜、資料等を配布する。							
参 考 書	必要に応じて紹介する。							
留 意 事 項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言、また研究レポートの内容を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について相談、共有する。また、卒業研究レポートを進めていくことをうながす。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。
第2回	ありたい自分の確認	(内 容) 夏期休暇中の活動(実習や就職活動等)を踏まえ、また進路を見据えながら、ありたい自己を確認する。 (必要な準備) 学習内容に書いたことを口頭で説明できるようにしておく。
第3回	わたし実現計画の作成(1)ありたい自己とニーズ整理	(内 容) ありたい自己(目指す保育者像、将来像)と、それに対応する現在の状況から、ありたい自己に近づくために必要なこと(ニーズ)を整理する。 (必要な準備) ありたい自己について、具体的に書き出せるように考えておく。
第4回	わたし実現計画の作成(2)計画の作成	(内 容) 前週の演習で整理したニーズを満たすために、自分がすべきこと、整えるべき環境などを考え計画を作成する。 (必要な準備) ニーズ整理シートを完成させておく。
第5回	わたし実現計画の発表と共有	(内 容) 小グループを作り、事前提出した実現計画を発表、質疑応答し、グループ内で共有する。また、個別面談中の課題について説明する。 (必要な準備) わたし実現シートを完成し、指定された期日までに事前提出する。
第6回	個別面談(1)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。
第7回	個別面談(2)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。
第8回	個別面談(3)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。
第9回	卒業研究発表の準備	(内 容) 卒業研究発表について、役割分担、発表順、資料集の作成など準備を進める。 (必要な準備) 第5回に説明した課題を完成して事前提出する。
第10回	卒業研究の発表(1)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。
第11回	卒業研究の発表(2)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。
第12回	卒業研究の発表(3)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。
第13回	卒業研究レポートの完成	(内 容) 自分の発表内容、他者の発表、メッセージシートを踏まえ、卒業研究レポートを見直し完成させる。 (必要な準備) 発表者へのメッセージシートを記入し事前提出する。
第14回	卒業研究レポートの提出	(内 容) 持参した卒業研究レポートを提出しする。また、卒業や資格登録等について確認する。 (必要な準備) 卒業レポートを完成させて授業に持参する。
第15回	1年間の振り返りと総括	(内 容) 1年間の演習内容、2年間の学生生活について振り返る。 (必要な準備) 1年間の授業内容を見直しておく。

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 短大での学びの集大成として年間を通して個々のテーマに沿って研究し成果物を作成する 視野を広げ多様な保育や幼児教育にも関心を広げる。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼児期の教育、保育における環境の重要性について理解を深めることができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につけることができる。 3) 自らの興味関心に基づいた研究を進め成果物を完成することができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	アクティブラーニングの手法を用いて授業を実施するので、毎回の講義には主体的かつ積極的に取り組み学びを深める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 夏期休暇中の課題及び学習の成果を確認するとともに、秋学期の授業や研究についてその流れを確認する。 (必要な準備) 夏期休暇に向けて設定した課題の達成状況を整理しておく(30分)
第2回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第3回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第4回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏期休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第5回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第6回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第7回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第8回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第9回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の成果物を提示できるように用意する(30分)
第10回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第11回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第12回	研究レポートの作成	(内 容) 個別指導の内容を踏まえ、それぞれの研究の校正を進めレポートを仕上げる。 (必要な準備) 個別指導の指摘事項を整理し校正内容を確認しておく(60分)
第13回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第14回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第15回	2年間の学びの総括	(内 容) 短大2年間の学びを振り返り、卒業後の進路に生かすためにそれぞれの学びをまとめる。 (必要な準備) 2年間の学習内容を整理しておく(60分)

授 業 名	総合演習 I			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、それぞれのフィールドを設定し、実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。ゼミ全体での協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる多面的な力を伸ばす。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参 考 書	適宜、紹介する							
留 意 事 項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期のふりかきと反省 秋学期の目標を設定する	(内 容)	卒業にむけて、春学期の授業、また、実習での経験をふりかき、自らが成長した点とさらに伸ばす必要がある点を分析する。その上で、秋学期の学びの目標を明確にする。 (必要な準備) 春学期および実習のふりかきと反省
第2回	個人の研究テーマの再確認	(内 容)	卒業研究の個人々のテーマに沿って、夏休み中に進捗した状況をゼミのメンバーと共有する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第3回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 創作おもちゃに関する施設見学	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、創作おもちゃに関する施設見学をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 京都の伝統文化に触れる体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、伝統文化に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 情報教育に関する体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、情報教育に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	フィールドワークの結果の整理	(内 容)	フィールドワークで得た知見をワークシートにまとめ整理する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容)	ゼミ内でフィールドワークで得た知見を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	卒業研究の中間報告	(内 容)	卒業研究にまとめる内容のこれまでの成果を発表し、完成にむけた道筋をつける。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第9回	研究テーマの保育実践(創作おもちゃ)	(内 容)	創作おもちゃをテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	研究テーマの保育実践(伝統文化に触れる)	(内 容)	伝統文化をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	研究テーマの保育実践(情報通信機器との付き合い方)	(内 容)	情報通信機器との付き合い方をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	保育実践記録の共有	(内 容)	ゼミ内でそれぞれが選択したテーマに沿って実践した保育の結果を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	卒業研究の資料作成	(内 容)	卒業研究の提出にむけた資料を作成する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	卒業研究の完成と提出	(内 容)	総合演習での学びの成果を完成させ、時間内に、決められたフォーマットで提出する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	卒業研究の発表	(内 容)	各自の研究テーマに沿った成果を発表する。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授業名	総合演習 J			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	前半は絵本の共同制作や研究課題に取り組む。 また、職業選択にむけての面談やディスカッションの時間を持つ。 後半は設定したテーマで各自が卒業研究を完成させる。							
学習成果到達目標	1) 集団で活動する力、リーダーシップの力を養う。 2) お互いの研究や表現から学び、他者の表現の良さを発見する。 3) 学んだ事、考察した事等を分かりやすく、美しくまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 活動についてのディスカッション (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	絵本作り (構想)	(内 容) 共同でつくる絵本の構想を練る (必要な準備) テーマに沿ったアイデアを考えておく(30分程度)	
第3回	絵本作り (版画の体験)	(内 容) 全体の統一感をつくる工夫 (必要な準備) 下絵を考えておく(30分程度)	
第4回	絵本作り (版作り)	(内 容) 分担するページの版をつくる (必要な準備) 版づくりに必要な材料を持参する(30分程度)	
第5回	絵本作り (絵の刷り)	(内 容) 必要枚数を刷る (必要な準備) 色彩計画を立てる(30分程度)	
第6回	絵本作り (文字の刷り)	(内 容) 文字を刷り込む (必要な準備) 文字原稿を用意しておく	
第7回	絵本作り (ページ貼り合わせ)	(内 容) ページを貼り合わせる 表紙を制作する (必要な準備) 表紙に使う布を持参する	
第8回	絵本作り (製本仕上げ)	(内 容) 表紙とページを貼り合わせて仕上げる (必要な準備) 各自が所持する絵本の完成(30分程度)	
第9回	仕事についてのディスカッションなど	(内 容) 就職活動の情報交換 (必要な準備) 将来設計について考えておく(30分程度)	
第10回	卒業研究	(内 容) テーマを決める (必要な準備) テーマを考えておく(30分程度)	
第11回	卒業研究	(内 容) テーマについての調査 (必要な準備) 資料を調べておく(30分程度)	
第12回	卒業研究	(内 容) 研究計画をたてる (必要な準備) テーマに沿った応用例を調べておく(30分程度)	
第13回	卒業研究	(内 容) レポートの作成、データ化など (必要な準備) いろいろな可能性について考えておく(30分程度)	
第14回	卒業研究	(内 容) 研究発表会 (必要な準備) 発表の準備をしておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、食育を中心として、その実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。また、食育教育に必要な資料を制作する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育に関する食育などの専門的知識や実践的指導力の育成ができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成ができる</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回レポートを提出してもらう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と進め方。 (必要な準備)	
第2回	個人の研究テーマの確認	(内 容) 夏休み中に作成した課題の共有 (必要な準備) 作成した課題	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 秋の食材を調べる (必要な準備) 見学先の情報収集	
第4回	フィールドワークの結果の整理	(内 容) 資料を整理して食育のための制作物を考える (必要な準備) 資料の整理	
第5回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容) 中間発表 (必要な準備) 制作物の提出	
第6回	グループ研究(1)	(内 容) グループで研究課題を考える (必要な準備) 資料の収集	
第7回	グループ研究(2)	(内 容) グループで研究を進める (必要な準備) 課題と方法を考えておく	
第8回	グループ研究の発表と討論	(内 容) 発表と討論 (必要な準備) 制作物がレポートの提出	
第9回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第10回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第11回	中間発表	(内 容) 課題の発表と意見交換 (必要な準備) 発表の準備	
第12回	資料収集	(内 容) 資料の再収集 (必要な準備) 資料の整理	
第13回	個人の発表と討論(1)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第14回	個人の発表と討論(2)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第15回	まとめ	(内 容) 1年を振り返り、レポートを作成する (必要な準備) 1年間の総まとめをしておく	

授 業 名	保育者論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Child Care Worker			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育者の役割を、守るべき倫理や制度的位置づけを解説することによって理解し、さらに、その専門性が磨かれるためにどのようなことが求められるか、どのような人たちとの連携が行われているのかを解説していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育者の役割を理解する 2) 保育者が専門性を高めるために必要なことを理解する 3) 保育者がどんな人たちとの連携しているかを理解する							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』中央法規							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設ける。							

授 業 名		保育者論 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	保育者の役割	(内 容) 保育者の役割を解説する (必要な準備) 第1講を読んでくる(30分)	
第2回	保育者の倫理	(内 容) 全国保育士会倫理綱領の解説を行う (必要な準備) 第2講を読んでくる(30分)	
第3回	保育士と幼稚園教諭の特性	(内 容) 保育士と幼稚園教諭の職務について解説する (必要な準備) 第3講を読んでくる(30分)	
第4回	養護と教育の関係	(内 容) 養護と教育の関係を解説する (必要な準備) 第4講を読んでくる(30分)	
第5回	保育者としての資質と能力	(内 容) 保育者としての資質と能力をどう考えるかを解説する (必要な準備) 第5講を読んでくる(30分)	
第6回	専門的な知識・技術と判断	(内 容) どのような専門的な知識や技術が必要とされ、どのような判断を要求されるかを解説する (必要な準備) 第6講を読んでくる(30分)	
第7回	保育におけるPDCAサイクル	(内 容) 保育においてPDCAサイクルがどのように機能しているかを解説する (必要な準備) 第7講を読んでくる(30分)	
第8回	保育課程と保育の実際	(内 容) 保育課程と保育の実際の間を解説する (必要な準備) 第8講を読んでくる(30分)	
第9回	保育者の自己評価	(内 容) 保育者の自己評価について解説する (必要な準備) 第9講を読んでくる(30分)	
第10回	保育者連携	(内 容) 保育者連携について解説する (必要な準備) 第10講を読んでくる(30分)	
第11回	専門機関との連携	(内 容) 地域の療育施設との連携などさまざまな連携について解説する (必要な準備) 第11講を読んでくる(30分)	
第12回	保護者との連携	(内 容) 保護者との連携について解説する (必要な準備) 第12講を解説する(30分)	
第13回	家庭的保育	(内 容) 家庭的保育について解説する (必要な準備) 第13講を読んでくる(30分)	
第14回	保育者の専門性の向上	(内 容) 保育者がどのようにして専門性を向上させていくかを解説する (必要な準備) 第14講を読んでくる(30分)	
第15回	保育という仕事の魅力	(内 容) 保育という仕事の魅力を解説する (必要な準備) これまでの授業で学んだことを振り返っておく(30分)	

授 業 名	教育課程総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Outline of Curriculum			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	<p>1) 幼児教育の基本を学び、幼稚園・認定こども園・保育所の共通した部分と異なる部分について説明する。</p> <p>2) 各機関・施設での保育や教育の課程編成について理解し、指導計画を考える。</p> <p>3) 保育や教育課程の編成原理をふまえ、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルにもとづいた評価プロセスを説明する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育者の立場から、幼稚園、認定こども園、保育所における教育課程や保育課程について説明できる。</p> <p>2) 年間計画を想定したうえで、月案や週案など、長期的な保育指導計画について作成しようとする意欲を持つことができる。</p> <p>3) 活動計画を評価するための視点を提示することができる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (計画する力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	京都教育大学大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』							
参 考 書	文部科学省編「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」							
留 意 事 項	テキストにある事例をもとに授業を進めるため、毎回必ず持参すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知							

授 業 名		教育課程総論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション：子どもの現代的な教育課題	(内 容)	学校における教育課程の概要 (必要な準備) 「カリキュラム」について調べておくこと
第2回	幼児教育の基本(1)：遊びを通しての総合的な指導	(内 容)	教育課程の編成原理 (必要な準備) 「幼稚園教育要領」より遊びの効用について理解しておく
第3回	幼児教育の基本(2)：環境を通して行う教育	(内 容)	経験カリキュラムと教科カリキュラムの系譜 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より環境構成の箇所を読んでおくこと
第4回	幼稚園における教育：学校教育としての幼稚園	(内 容)	「幼稚園教育要領」「学習指導要領」 (必要な準備) 「幼稚園教育要領解説」より幼稚園の目的・意義について理解しておく
第5回	保育所における保育：「養護と教育の一体性」	(内 容)	「児童福祉法」 (必要な準備) 「保育所保育指針」より保育所の目的・意義について理解しておく
第6回	認定こども園における保育：「子育て支援機能」	(内 容)	子ども・子育て関連三法 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より現代の子育て支援機能について理解する
第7回	課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合	(内 容)	社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より育成すべき資質・能力について理解する
第8回	課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合	(内 容)	「深い学び」としてのアクティブ・ラーニング (必要な準備) アクティブ・ラーニングについてあらかじめ調べておくこと
第9回	課程編成と指導計画(3)：保育所の場合	(内 容)	保育課程の編成と指導計画の具体的な筋道 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育課程の編成について調べておく
第10回	課程編成と指導計画(4)：認定こども園の場合	(内 容)	「子育て支援機能」の実際 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より「子育て支援機能」について調べておく
第11回	幼児教育の評価の類型および第三者評価	(内 容)	ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より評価の分類について調べておく
第12回	事例研究(1)：幼稚園の場合	(内 容)	健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域の理解 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より5つの領域について調べておく
第13回	事例研究(2)：保育所の場合	(内 容)	保育所保育指針と指導計画 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育所における指導計画について読んでおくこと
第14回	事例研究(3)：認定こども園の場合	(内 容)	社会に開かれた教育課程 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、認定こども園でのカリキュラムについて理解する
第15回	まとめ 教育計画について考える	(内 容)	3年間のカリキュラムの計画立案について、どのような点に注目しなければならないのかについて考える (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、長期的な教育計画について考える

授 業 名	保育内容総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Outline of Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	乳幼児保育（教育）では、幼稚園教育要領・保育所保育指針が基本となり、保育内容のねらい・内容を理解し、実践することが求められる。つまり、子どもの生活＝遊びを通して、保育者が行うべき養護的内容と子ども自身の教育的側面としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域があることを理解する。また、養護と教育が相互に関連をもちながら総合的に展開されるものであること及び5領域の保育内容のねらいと内容を知り、実際の保育における具体的な援助の内容や方法について理解する。保育活動の総合的指導を視野に入れて実践し発表を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容の5領域についてねらいと内容を理解する。 2) 保育における指導計画の意義について理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育内容・保育方法総論の理論と活用』上野恭裕編著 保育出版社							
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館・『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館							
留 意 事 項	保育実践活動を実施する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しますので確認してください							

授業名	保育内容総論 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 「保育内容」とは何かをイメージする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	「保育内容」の定義	(内 容) 「保育」と「教育」の違い、「保育内容」「領域」と「教科」との違いから「保育内容」を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第3回	保育活動とは	(内 容) 保育所と幼稚園の保育内容の相違点を学ぶ (必要な準備) テキスト第2章を読んでおく(30分)
第4回	保育内容の歴史	(内 容) 戦前・戦後の保育内容を知る (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第5回	保育内容と保育方法の関連	(内 容) 個と集団、道徳性から保育内容を考える (必要な準備) テキスト第8章を読んでおく(30分)
第6回	保育活動と遊びの関連	(内 容) 遊びとは何か、遊びの重要性、保育者の援助について理解する (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(30分)
第7回	保育内容「環境」領域と保育活動	(内 容) 保育内容「環境」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 指示された材料を準備しておく
第8回	保育内容「健康」・「人間関係」と保育活動	(内 容) 保育内容「健康」「人間関係」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第9回	保育内容「言葉」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「言葉」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 絵本を選んでくる(10分)
第10回	保育内容「言葉」と保育活動 2	(内 容) 絵本の読み聞かせを实践する (必要な準備) 絵本を選んで下読みをしておく(20分)
第11回	保育内容「表現」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(造形)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 造形関係の材料を準備してくる(10分)
第12回	保育内容「表現」と保育活動 2	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(リズム)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第13回	保育内容「表現」と保育活動 3	(内 容) 保育内容「表現」の領域と保育活動(音楽)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 活動を考えておく
第14回	遊びを通しての総合的指導	(内 容) 保育活動の発表をする (必要な準備) 発表グループで準備練習しておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 保育内容および領域のねらい・内容について理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の5領域を読んでおく(60分)

授 業 名	児童福祉 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育1ya~ye・yf~yj			
授業の概要	1.少子化・保育・虐待など児童問題について 2.現代の子どもの生活について 3.諸外国の児童福祉について 4.児童福祉の法制度について							
学 習 成 果 到 達 目 標	1)社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2)保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3)児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4)児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (65 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	出席とレポートを重視する。積極的な発表も評価の対象となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。							

授 業 名		児童福祉 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく	
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第7回	児童福祉法について 2012～2016年の改正	(内 容) 近年の児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく	
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第13回	社会的養護について	(内 容) 里親ケアの実際について (必要な準備) テキスト10章を参照しておく	
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく	

授業名	養護原理 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山川 宏和			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて							
学習成果到達目標	1) 社会的養護の現状や、入所施設や里親に関する制度について説明できる。 2) 乳児院や児童養護施設等に入所している児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする保護者について、現状と支援が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	吉田明弘編著 『保育士のための社会的養護』 [八千代出版]							
参考書	随時指示する。							
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。							
オフィス アワー	3号館に掲示してあるオフィスアワーを参照。							

授 業 名		養護原理 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 社会的養護の現状について (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと
第2回	児童虐待の理解	(内 容) 被虐待児の現状について (必要な準備) 児童虐待に関心をもってニュースなどを見る
第3回	家庭的養護について 里親	(内 容) 里親ケアの登録・委託・手当について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第4回	家庭的養護について 里子	(内 容) 里子の心理、当事者団体について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第5回	特別養子縁組	(内 容) 特別養子縁組の実際について (必要な準備) テキストp.138-139を読んでおく
第6回	施設養護 乳児院	(内 容) 乳児院の現状と課題について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第7回	施設養護 虐待対応	(内 容) 被虐待児の支援について (必要な準備) テキスト第7章第3節を読んでおく
第8回	施設養護 親子分離	(内 容) 児童養護施設に入所した家族について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第9回	施設養護 児童養護施設	(内 容) 児童養護施設のケアについて (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第10回	保護処分 少年院	(内 容) 少年非行と家庭裁判所について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第11回	保護処分 保護観察	(内 容) 児童自立支援施設、保護観察について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第12回	施設養護 自立援助ホーム	(内 容) 自立援助ホームの役割と機能について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第13回	施設養護 障害児通所支援	(内 容) 障害児通所支援施設を利用する児童について (必要な準備) 障害の定義を振り返っておく
第14回	アタッチメント障害	(内 容) アタッチメント(愛着)障害について (必要な準備) 保育における愛着を復習しておく
第15回	施設養護 児童心理治療施設	(内 容) 児童心理治療施設に入所する児童について (必要な準備) 児童心理治療施設の歴史を調べる

授業名	養護原理 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浦田 雅夫			対象学生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。</p> <p>1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 社会的養護の概念と歴史的経過、種類と役割について理解することができる。</p> <p>2) 乳児院や児童養護施設等に入所してくる児童の特徴や、背景を総合的に理解することができる。</p> <p>3) 里親によるケアの現状と課題を理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『保育士のための社会的養護』吉田明弘編 八千代出版							
参考書	随時指示する。							
留意事項	出席を怠らないこと。学習内容の順番は事前説明の上、変更することがある。							
オフィス アワー	非常勤講師のため授業外の質問はメールにて対応。初回講義時にメールアドレスを伝える。							

授 業 名		養護原理 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要、計画、評価などについて説明する。 (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと。
第2回	今日の子どもを取り巻く状況	(内 容) 子どもへの貧困、要保護児童などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章を読んでおくこと。
第3回	社会的養護の歴史的経過	(内 容) 石井十次の養育観と実践について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第4回	子ども観の変遷と権利擁護の視点	(内 容) 権利の主体としての子ども観について考える。 (必要な準備) 子どもの権利条約を事前に読んでおくこと。
第5回	施設養護の基本原則	(内 容) ケアの基本原則を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第6回	施設養護の基本原則と実際	(内 容) ケアの展開過程について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第7回	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて	(内 容) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第8回	児童自立支援施設などについて	(内 容) 児童自立支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第9回	障害児・者施設などについて	(内 容) 障害のある子どもたちへのケアを考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第10回	施設養護と権利侵害	(内 容) 施設内虐待について考える。 (必要な準備) 各自でメディアから情報を集める。
第11回	小規模ケアの実際	(内 容) 小規模ケアについて考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第12回	里親による養育	(内 容) 里親による養育の現状と課題を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第13回	関係機関との連携	(内 容) 児童相談所や市町村などとの連携を考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第14回	社会的養護の今日的課題	(内 容) 社会的養護の今日的課題を整理する。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。
第15回	社会的養護の近未来	(内 容) 今後の社会的養護のあり方について考える。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。

授業名	保育の心理学 a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	保育の心理学 で学んだ内容を演習科目としてさらに深めていく。発達心理学の基礎知識を用いて、子ども理解を深め、遊びや生活を通じた学びの過程を理解する。幼児教育・保育の具体的な事例やビデオ映像などをもとに、子どもや保育について学生自身が考え実践力を身につけられるように、演習を取り入れていく。							
学習成果到達目標	1) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめ、心身の発達と保育実践を関連づけて理解することができる。 2) 乳幼児期に適した、遊びや生活を通じた学びの過程を理解することができる。 3) 保育における発達援助について学び、実践に活かすヒントを得ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『保育の心理学 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 井戸ゆかり編著 萌文書林							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	自分が保育者だったらどのように考え対応するかを想定しながら、主体的に学んでほしい。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 保育の心理学 と の 関 連 に つ い て 授 業 の ね ら い と 進 め 方 (必要準備) 保育の心理学 の 復 習 を し て お く 。 (60分)
第2回	保育における発達のとらえ方	(内 容) 子 ども 理 解 に 必 要 な 発 達 の 把 握 の 方 法 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 1 (30分)
第3回	個人差に応じた保育	(内 容) 個 人 差 の 基 本 的 な 考 え 方 と 個 人 差 に 応 じ た 保 育 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 2 (30分)
第4回	身体感覚を伴う経験と環境の相互作用	(内 容) 身 体 感 覚 や 知 覚 の 発 達 と 環 境 の 相 互 作 用 を 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 3 (30分)
第5回	環境としての保育者と子どもの発達	(内 容) 人 的 環 境 と し て の 保 育 者 が 子 ども や 保 護 者 に 及 ぼ す 影 響 を 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 4 (30分)
第6回	子ども相互のかかわりと関係づくり	(内 容) 社 会 性 ・ 道 徳 心 の 発 達 を 復 習 し 、 子 ども の 関 係 づ く り の 視 点 を 培 う 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 5 (30分)
第7回	自己主張と自己抑制	(内 容) 自 己 主 張 と 自 己 抑 制 の 発 達 や ト ラ ブ ル 対 応 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 6 (30分)
第8回	子ども集団と保育の環境	(内 容) 集 団 の 育 ち と ク ラ ス 経 営 を 意 識 し た 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 7 (30分)
第9回	ワーク1 自分を知らう	(内 容) ワークを通して自分自身を振り返る。 (必要準備) 第1回から第4回の内容をまとめる。(60分)
第10回	ワーク2 共通理解を図るために	(内 容) ワークを通して人間関係作りについて考える。 (必要準備) 第5回から第8回の内容をまとめる。(60分)
第11回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う1 生きる力とは	(内 容) 生 涯 発 達 の 視 点 か ら み た 生 き る 力 に つ い て 理 解 す る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の前半 (30分)
第12回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う2 保育者の役割	(内 容) 生 き る 力 を 育 む た め の 保 育 者 の 役 割 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の後半 (30分)
第13回	基本的生活習慣の獲得と発達援助	(内 容) 基 本 的 生 活 習 慣 の 獲 得 の 重 要 性 と 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 1 第11・12回の内容をまとめる。(60分)
第14回	自己の主体性の形成と発達援助	(内 容) 子 ども の 主 体 性 の 形 成 を 育 む 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 2 (30分)
第15回	発達の課題に応じた援助やかかわり	(内 容) 事 例 を も と に 子 ども 理 解 を す す め 、 個 別 の 対 応 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 3 (30分)

授 業 名	保育の心理学 b		開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Child Care Psychology		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	西川 由紀子		対 象 学 生	幼児教育1yf~yj				
授業の概要	子どもの発達を解説した上で、保育実践でその時期の子どもにどんな保育が行われているかを実践現場の資料で説明してゆく。子どもたちが集団の中でどんな力を培っていくのか、子どもたちの発達上のつまづきがみられたときどんな支援が必要なのかも解説したい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちの発達を援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かわりあって育つこどもたち』(かもがわ出版)							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		保育の心理学 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(内 容) 保育者になるために子どもの発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する (必要な準備) テキスト 1章を読んでくる(30分)	
第2回	0歳児の発達	(内 容) 0歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる(30分)	
第3回	0歳児の保育の実際	(内 容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる	
第4回	1歳児の発達	(内 容) 1歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第5回	1歳児の保育	(内 容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第6回	2歳児の発達	(内 容) 2歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第7回	2歳児の保育	(内 容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第8回	3歳児の発達	(内 容) 3歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第9回	3歳児の保育	(内 容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第10回	4歳児の発達	(内 容) 4歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第11回	4歳児の保育	(内 容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第12回	5歳児の発達	(内 容) 5歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第13回	5歳児の保育	(内 容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(内 容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 4章、5章、 2章を読んでくる(30分)	
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(内 容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 3.4 . 5章を読んでくる(30分)	

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	中村 洋子			対象学生	幼児教育1ya~ye			
授業の概要	子どもは未来へつながり、子どもは未来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期からだや心を健康に保つために、保育者や保護者は正しい知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 胎児期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2) どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を学ぶ。 3) 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	子どもの保健(診断と治療社)							
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健」(建帛社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社)							
留意事項	子供の健康については小児保健や医学の知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと							
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいるときは対応します。							

授 業 名		小児保健 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の目的と意義	(内 容) 本講義の目的と意義を理解する (必要な準備)
第2回	小児保健の基本とは	(内 容) 基本となる小児の特徴やからだの仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第3回	胎児の成長と母体の健康	(内 容) 胎児の発育状況と母体の健康について (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)
第4回	子供の身体発育と影響する因子	(内 容) 身体発育状況の推移・影響を及ぼす因子について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第5回	身体発育と評価方法	(内 容) 身体計測と評価方法について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第6回	からだの生理機能(ホメオスタシス等基本的生理機能)	(内 容) 基本的なからだの機能について、基礎を学ぶ。 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第7回	からだの生理機能(呼吸器・循環器)	(内 容) 呼吸器・循環器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第8回	からだの生理機能(感覚器・排泄器)	(内 容) 感覚器・排泄器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第9回	からだの生理機能(消化器・ホルモン等)	(内 容) 消化器・ホルモン系の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第10回	子どもの運動発達(新生児期・乳児期)	(内 容) 新生児期・乳児期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第11回	子どもの運動発達(幼児期・学童期)	(内 容) 幼児期・学童期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第12回	子どもの精神発達(神経系)	(内 容) 脳・自律神経等の仕組みと発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第13回	子どもの精神発達(言葉と情緒)	(内 容) 子どもの言葉や情緒の発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第14回	新生児・低出生体重児	(内 容) 新生児・低出生体重児の特徴と育て方 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第15回	子どもを取り巻く生活環境	(内 容) 子どもを取り巻く生活環境の現状・全体的なまとめ (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す(40分)

授 業 名	小児保健 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 美也子			対 象 学 生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>1) 私たちはどのように成長してきたのかを振り返ることにより、小児の身体や心の発達を理解する。</p> <p>2) 将来“子どもの健やかな発達を支える一員”となるために、必要な知識や自分なりの“子ども観”を考える。</p> <p>3) 保育や健診、療育現場でのエピソードを交えながら、子どもの心身の保健について医学的・臨床発達心理学的に理解する</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもの発達を支え、見守るさまざまな環境について考える。</p> <p>2) 子どもの身体発達についての知識を学び、保育や子育てに結びつけて理解する。</p> <p>3) 子どもの精神発達について学び、近年の社会状況の中での保育を考える。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	「よくわかる子どもの保健」第3版 竹内義博、大矢紀昭編 (ミネルヴァ書房)							
参 考 書	「こどもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留 意 事 項	常に身の回りで起きている子どもの発達や保健に関するニュースや情報に気づき、興味や関心を持つ。 知識と自分の経験(将来も含む)を必ず結びつけて理解する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授 業 名		小児保健 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイドランス/子どもの保健という学問	(内 容) 本講義の目的と概要を理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの健康と保育	(内 容) 健康水準、保育、保健活動、福祉サービスについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp2～11を読んでおく。(30分)
第3回	母子保健	(内 容) 母子保健事業、保育所との連携について学ぶ。 (必要な準備) テキストp12～15を読んでおく。(30分)
第4回	身体発育と保健(発育の原則と測定)	(内 容) 身体発育の原則、測定について学ぶ。 (必要な準備) テキストp16～p27を読んでおく。(30分)
第5回	身体発育と保健(影響する要因)	(内 容) 身体発育のバランス、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p28～p33を読んでおく。(30分)
第6回	生理機能の発達と保健(自律神経・体温 他)	(内 容) 自律神経、循環・消化機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp33～p45を読んでおく。(30分)
第7回	生理機能の発達と保健(排泄・睡眠 他)	(内 容) 排泄、睡眠、感覚器官の発達、免疫について学ぶ。 (必要な準備) テキストp46～p53を読んでおく。(30分)
第8回	運動機能の発達と保健	(内 容) 新生児、乳児、幼児の運動機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp54～p61を読んでおく。(30分)
第9回	精神機能の発達と保健(言語・社会性・情緒)	(内 容) 言語、社会性、情緒の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp62～p67を読んでおく。(30分)
第10回	精神機能の発達と保健(発達の評価・影響要因)	(内 容) 発達の評価(発達検査)、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキストp68～p71を読んでおく。(30分)
第11回	子どもの精神保健(心身症・行動上の問題)	(内 容) 精神保健とは、心身症、行動上の問題について学ぶ。 (必要な準備) テキストp72～p81を読んでおく。(30分)
第12回	子どもの精神保健(発達障害を抱える子ども)	(内 容) 発達障害とその対応、保護者への寄添いについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp82～p85を読んでおく。(30分)
第13回	子どもの精神保健(慢性疾患の子どものかかえる問題)	(内 容) 慢性疾患、育児環境と精神保健について学ぶ。 (必要な準備) テキストp86～p89を読んでおく。(30分)
第14回	子どもの精神保健(虐待・親のメンタルヘルス)	(内 容) 虐待、地域精神保健活動について学ぶ。 (必要な準備) テキストp90～p97を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 総復習。振り返って考える。 (必要な準備) 関心を持ったテーマについて考えておく。(30分)

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	子どもが健康な体と健全な心をもって発育するためには、保健に関する知識や実践的技術が必要である。さらに、子どもの保健は、健康を増進する積極的な活動であり、医学の知識だけでなく日常生活で実践されるものである。すなわち、子どもの心身の問題や栄養、生活、母子関係、環境、社会の制度と施策などと関連づけて学ぶ。また、子どもにとって良い環境や感染症などの病気等についての基本的知識について学ぶ							
学習成果到達目標	日常生活の中や、保育の現場での子どもの保健に関する知識を理解し保健の実践ができる。 医学的基礎知識が理解できる。 子どもの健康増進対策ができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	子どもの保健 巷野悟朗編 診断と治療社							
参考書	授業中に紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		小児保健 a
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	母子保健の現状	(内 容) 子どもの出生率と死亡率 (必要な準備) 教科書p. 239 246を読んでおく
第2回	母子保健行政	(内 容) 母子保健対策と児童福祉対策 (必要な準備) 教科書p. 247 267を読んでおく
第3回	子どもの食事	(内 容) 子どもの栄養の特徴、栄養生理など (必要な準備) 教科書p. 65 73を読んでおく
第4回	乳汁栄養法	(内 容) 母乳栄養の人工栄養と混合栄養法特徴 (必要な準備) 教科書p. 73 - 83を読んでおく
第5回	離乳の意義	(内 容) 離乳の方法 (必要な準備) 教科書p. 83 86を読んでおく
第6回	幼児期、学齢、少年期の栄養	(内 容) 栄養の特徴と問題点 (必要な準備) 教科書p. 86 91を読んでおく
第7回	健康と病気、異常	(内 容) 健康の概念、病気の症状と看護 (必要な準備) 教科書p. 158 - 165を読んでおく
第8回	免疫とアレルギー、むし歯	(内 容) 免疫の成り立ち、アレルギーの原因と対応。むし歯の予防 (必要な準備) 教科書p. 166 171を読んでおく
第9回	事故と応急処置	(内 容) 子どもの事故の原因や応急処置 (必要な準備) 教科書p. 172 187を読んでおく
第10回	感染症と予防接種	(内 容) 感染症のに関する法律と予防接種 (必要な準備) 教科書p. 188 200を読んでおく
第11回	乳幼児期の病気	(内 容) ウイルス感染症と細菌感染症 (必要な準備) 教科書p. 201 207を読んでおく
第12回	発育と栄養障害、アレルギーの病気、消化器の病気	(内 容) 特徴と対応 (必要な準備) 教科書p. 207 216を読んでおく
第13回	呼吸器の病気、循環器の病気、血液の病気 泌尿器と生殖器の病気	(内 容) かぜ、先天性心疾患、貧血など (必要な準備) 教科書p. 217 222を読んでおく
第14回	代謝の病気、内分泌の病気、皮膚の病気など	(内 容) 糖尿病、クレチン病、アトピー性皮膚炎など (必要な準備) 教科書p. 222 230を読んでおく
第15回	悪性腫瘍など	(内 容) 脳腫瘍や川崎病など (必要な準備) 教科書p. 231 238を読んでおく

授 業 名	小児保健 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 美也子			対 象 学 生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	<p>1) 子どもの疫病の特徴について理解し、保育の場での必要な対応を学ぶ。 2) 子どもの健やかな発育と安全な暮らしを保障するための環境や予防を考える。 3) 保育士自身も心身ともに元気に子ども達との暮らしを楽しむことについて考える。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもの発達と疾病についての基礎知識を理解する。 2) 子どもの病気の看護、予防や増進のための対応を学ぶ。 3) 保育の場で生じる私たち自身のストレス、自分に合ったメンタルヘルスを考える。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	「小児保健」で使用したもの							
参 考 書	「子どもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留 意 事 項	「小児保健」で学んだ“子どもの心身の発達”や“精神保健”を復習する。 常に実際の子どものイメージや自分の経験と結びつけて想像しながら学ぶ。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授業名	小児保健 b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の意義	(内容) 小児保健の目的と意義・授業の進め方について理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの生活と健康(乳児期の暮らし)	(内容) 乳児、1.2歳児、3.4.5歳児の生活、発達の特徴について学ぶ。 (必要な準備) テキストp98～p109を読んでおく。(30分)
第3回	子どもの生活と健康(家庭と集団)	(内容) 家庭生活の現状と集団(保育、教育)生活について学ぶ。 (必要な準備) テキストp110～p115を読んでおく。(30分)
第4回	子どもの疾病と保育(呼吸器・循環器、消化器)	(内容) 子どもの疾病の特徴、各器官の疾病と症状、重要な感染症について学ぶ。 (必要な準備) テキストp116～p127を読んでおく。(30分)
第5回	子どもの疾病と保育(他器官、神経系、整形外科)	(内容) 中枢神経系疾患、アレルギー疾患、その他の疾患について学ぶ。 (必要な準備) テキストp128～p143を読んでおく。(30分)
第6回	子どもの疾病と保育(保育の場、予防感染)	(内容) 乳幼児突然死症候群、保育の場での感染症、予防接種について学ぶ。 (必要な準備) テキストp144～p151を読んでおく。(30分)
第7回	子どもの疾病と保育(身体障がい、健康診査)	(内容) 身体障がい、健診の目的について学ぶ。 (必要な準備) テキストp152～p155を読んでおく。(30分)
第8回	子どもの疾病と保育(支援体制、療育)	(内容) 疾病異常と支援体制、医療制度について学ぶ。 (必要な準備) テキストp156～p157を読んでおく。(30分)
第9回	保育環境整備と衛生管理	(内容) 保育環境、衛生管理、感染症への対応と予防のための対策について学ぶ。 (必要な準備) テキストp158～p161を読んでおく。(30分)
第10回	子どもの事故の特徴と安全防止	(内容) 事故と応急処置、事故防止について学ぶ。 (必要な準備) テキストp162～p169を読んでおく。(30分)
第11回	災害への備へ	(内容) 災害への備え、救急措置について学ぶ。 (必要な準備) テキストp170～p175を読んでおく。(30分)
第12回	保健活動(計画)、連携と組織での取り組み	(内容) 保健計画の作成、活用、評価、健康及び安全の実施について学ぶ。 (必要な準備) テキストp174～p179を読んでおく。(30分)
第13回	救急時の初期対応	(内容) 症状の訴え、具体的な対応について学ぶ。 (必要な準備) テキストp180～p201を読んでおく。(50分)
第14回	保育士としての心身の健康	(内容) 自己覚知、保育士として予想されるストレスと対応について考える。 (必要な準備) 自分の長所、短所について考えてみる。(30分)
第15回	まとめ	(内容) 小児保健、を通しての総復習 (必要な準備) 関心の持てた分野についてまとめる。(30分)

授業名	音楽 a・b・c・d			開講学年	1年生	単位数	1単位	
英文名	Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・北村 陽子・木島 佳都子・小鍛冶 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・永峯 翠子・内藤 規子・福永 圭子・松村 佳			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（音楽専門教員による集団指導）を行う。							
学習成果到達目標	1) 基礎的な音楽理論を理解できる。 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得することができる。 3) 基本的な歌唱法を習得することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的基礎能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テキスト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（1回目の授業で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9（全16ステップ）まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オフィスアワー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授業名	音楽 a・b・c・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) レッソンの進め方についての説明・担当教員の紹介・各自のピアノ レッスン曲の決定 (必要な準備) ピアノ初心者及びバイエル練習中の学生は「バイエル」を持参する。 バイエルを終了している学生は、現在練習中の楽譜、または最後にレッスンを受けた楽譜を持参する。
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容) 「こどものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「こどものうた」の歌唱練習及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	音楽 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・木島 佳都子・北村 陽子・小銀治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・内藤 規子・永峯 翠子・服部 さやか・福永 圭子・松村 佳奈			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（声楽専門教員による集団指導）を行う。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いと、ブルグミュラー1番以上の曲を弾くことができる（バイエルは終了する）。 2) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけることができる。 3) 基礎的な音楽理論を理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（音楽 で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて（全16ステップ）終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容)	「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「子どものうた」小試験曲及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授業名	形象音楽 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Figurative Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	明山 娟美			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーを多く持つことが出来る。 3) 折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参考書	使用しない。							
留意事項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。							
オフィス アワー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b ・ c ・ d	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙等を用意する	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 コリ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第6回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく	
第7回	歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき	(内 容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (必要な準備) チラシを用意する	
第8回	歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第9回	歌唱・手遊び・折り紙 シャツ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第10回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作内容を考えておく	
第11回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作を仕上げる	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作を提出する	
第13回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手あそびをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊び・折り紙 あさがお	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作内容を考えておく	

授 業 名	形象音楽 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Figurative Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	明山 婦美			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。春学期に履修した音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現・創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させると共にイメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どものうた・手遊びのレパトリーを多く持つことが出来る。 2) 折り紙の折方を更に覚えることが出来る。 3) 創意工夫する能力を養うことが出来る。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (創意工夫能力)		
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	意欲を持って授業に参加し、課題にも積極的に取り組むこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) これからの授業について 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に様々な楽器の演奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 歌詞を読みイメージを膨らませておく	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第6回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第7回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第8回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 しゅりけん	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第9回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第10回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第11回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 飾りつけ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る。 (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第13回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にリズム楽器で演奏する (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊びをグループで考える	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 手遊びを考えておく	

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	絵を描いたり、物をつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。							
学習成果到達目標	1) 様々な表現の方法を、体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 ？ 吾 編著 (三晃書房)							
参考書	使用しない							
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) 教科書の全体に目を通しておく(30分程度) 必携教材を持参すること
第2回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法(にじみ絵など) (必要な準備) 教科書の関連箇所18～19項を読んでおく(30分程度)
第3回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(デカルコマニーなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所22項などを読んでおく(30分程度)
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)
第5回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(スタンピングなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所23項などを読んでおく(30分程度)
第6回	水彩絵の具・パスによる表現	(内 容) 水彩絵の具・パスによる技法(パチックなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所55項などを読んでおく(30分程度)
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所に目を通しておく(30分程度)
第8回	パスによる表現	(内 容) パスによる技法(スクラッチなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所25項などを読んでおく(30分程度)
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す)	(内 容) フロッタージュ(クーピーペンシルによる) (必要な準備) 教科書28～29項を読んでおく(30分程度)
第11回	コラージュ(フロッタージュからの展開)	(内 容) コラージュの技法による個人の表現 (必要な準備) 自分の作品の構想を持つ(30分程度)
第12回	フロッタージュ、コラージュ・作品のまとめ	(内 容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所29項などを読んでおく(30分程度)
第13回	版による表現	(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく(30分程度)
第14回	版による表現・作品のまとめ	(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所61項などを読んでおく(30分程度)
第15回	まとめ・レポート	(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) 授業で学んだ事をまとめておく(30分程度)

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用)							
参考書	使用しない。							
留意事項	第1回から7回の授業は、ゼミ単位のチームによる創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもデパート	(内 容) 子どもデパートのための課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく(30分程度)	
第2回	子どもデパート	(内 容) 課題についてのグループでの相談する (必要な準備) 配布プリントを読む(30分程度)	
第3回	子どもデパート	(内 容) 材料について理解し、工夫する (必要な準備) さまざまな素材を探しておく(30分程度)	
第4回	子どもデパート	(内 容) 展示の環境構成について工夫する (必要な準備) 子どもの動きと活動について考えておく(30分程度)	
第5回	子どもデパート	(内 容) 華頂祭での作品の準備と展示 (必要な準備) 展示作業などの予定を立てておく(30分程度)	
第6回	子どもデパートの発表	(内 容) 子どもと関わり、子どもを理解する (必要な準備) 子どもの発達について調べておく(30分程度)	
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(内 容) 課題が達成できたか。レポートと考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく(30分程度)	
第8回	指絵の具をつくる	(内 容) 指絵の具の制作と指絵の表現 (必要な準備) テキスト24項を読んでおく(30分程度)	
第9回	小麦粉粘土をつくる	(内 容) 小麦粉粘土の制作と遊び (必要な準備) テキスト33項を読んでおく(30分程度)	
第10回	張り子の制作 1	(内 容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (必要な準備) アイデアを考えておく	
第11回	張り子の制作 2	(内 容) 彩色とニス塗り (必要な準備) 前回の内容を完成させておく(30分程度)	
第12回	マーブリング 1	(内 容) マーブリング紙をつくる (必要な準備) テキスト27項を読んでおく(30分程度)	
第13回	マーブリング 2	(内 容) マーブリング紙で何かをつくる (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第14回	スライムをつくる	(内 容) スライムの制作と遊びへの展開 (必要な準備) テキスト32項を読んでおく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 自らの活動について考えておく(30分程度)	

授 業 名	小児体育 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	佐東 恒子・山本 武司			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房							
参 考 書	『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社							
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		小児体育 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (必要な準備)
第2回	基本の運動	(内 容) 歩くと走るの違いについて知る。歩く・走る・ 跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (必要な準備) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。
第3回	リズム運動	(内 容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍 子のリズム遊び (必要な準備) どんなリズムが有るのか考えておく
第4回	リズムダンス	(内 容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子ども が楽しめるリズムダンス (必要な準備) 幼児の好きな曲を選曲しておく。
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・ などの遊びを行う。 (必要な準備) 少人数のボール遊びを考えておく
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に 楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (必要な準備) 子どものころに遊んだゲーム遊びを書き出す
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊び を行う。 (必要な準備) 色々なフープ遊びを考えておく。
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協 力する事を経験する。 (必要な準備) いろいろなゲーム遊びを考えておく
第9回	マット遊び	(内 容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む 、動物遊び) (必要な準備) いろいろな動物のうごきを考える
第10回	マット遊びの補助	(内 容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方 法を学ぶ。 (必要な準備) 補助で大事な事は何かを考える
第11回	体操をつくる	(内 容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年 齢に合った体操を考える (必要な準備) 何歳の体操を創るのかを決めて、曲を選んでおく。
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(内 容) 体操の動きを見直しより良い体操に仕上げる。 (必要な準備) 体操の動きの流れを見直す。
第13回	体操の発表	(内 容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。各自責任を持って 評価をする。 (必要な準備) 創作した体操を自分の動きとなるように練習。
第14回	パラバルーン遊び	(内 容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事 を知る (必要な準備) パラバルーンの遊びを調べる。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 幼児の運動遊びで大切な事をまとめておく。

授 業 名	小児体育			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>幼児の発育発達に応じた運動や遊びを、安全に指導や援助が出来る知識と技術を学ぶ。運動指導のレパトリーを広げることができるように学ぶ。指導内容について話し合い振り返りを行うことで、各自の力を身につけていく。子どもが能動的に運動するには、適切な環境構成と適時な活動の提案が必要であることを学ぶ。集団遊びの指導ができる力を身につける。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子ども達の年齢にあった運動遊びを考え、指導と援助が出来るようにする。 2) 集団でのゲーム遊びの指導や、一人一人を理解し指導の出来る保育者になることを目標とする。 3) 手具を使って運動遊びを考え、子どもたちが楽しいと思える指導が出来るようにする。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	<p>幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房</p>							
参 考 書	<p>『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社 『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著（萌文書林）</p>							
留 意 事 項	<p>運動遊びを楽しむ心を持ち続けて、子ども達に遊びを提供出来る指導者を目指してもらいたい。 授業で学習した内容をノートにまとめておく。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							

授 業 名		小児体育
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本授業のねらい等についてガイダンスを行う。授業の進め方について説明。 (必要な準備) 小児体育 の授業内容を振り返っておく。
第2回	基本の運動	(内 容) 歩く・走る・跳ぶからゲーム的な遊びに発展させ、ふれあい遊びと展開する。 (必要な準備) 基本の運動にはどんな動きがあるか調べる
第3回	リズム運動	(内 容) 2歳児から5歳児用のリズムダンスを行いリズムダンスの楽しさを知る。 (必要な準備) 知っているリズムダンスを調べておく
第4回	リズム遊びの指導	(内 容) リズムに乗って動く事の重要性を学ぶ。指導者と子ども役になって行う。 (必要な準備) リズムダンスの復習をしておく
第5回	用具を使用しない遊び	(内 容) 体のふれあい遊び・ジャンケン遊び(少人数の遊び・グループでの遊び) (必要な準備) ジャンケン遊びにはどんな遊びがあるかを調べておく
第6回	鬼遊び	(内 容) いろんな鬼遊びを行い、グループで鬼遊びを考え発表をする。 (必要な準備) 知っている鬼遊びを発表できるようにしておく
第7回	ウォーミングアップの学習	(内 容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるウォーミングアップの内容を考え実践していく。 (必要な準備) 各自動きを考えノートにまとめておく。
第8回	ウォーミングアップの指導	(内 容) 各自が考えたウォーミングアップを、それぞれが指導者になり、皆に指導をする。(指導案の作成) (必要な準備) ウォーミングアップの指導を出来るようにする。
第9回	サーキット遊び	(内 容) サーキット遊びの特性について理解する。サーキット遊びを実践して楽しさを知る。 (必要な準備) 配付したプリントを読んでおく
第10回	サーキット遊びを考える	(内 容) 各班で子どもの年齢にあったサーキット遊びを考え、用具のセッティングにも注意する。(発表する) (必要な準備) サーキットの内容を年齢別に考えてまとめておく。
第11回	用具を使っの遊び	(内 容) 各班で用具(フープ・ボール)を使って遊びを考える。 (必要な準備) 幼児の年齢に応じた遊びを考えておく。
第12回	用具を使ってリズム体操	(内 容) 用具を使って(ボール・フープ)リズム体操を考える。 (必要な準備) リズム体操にあう曲を選んでおく。
第13回	短縄遊び	(内 容) 短縄を使っているような遊びを行う。短縄を使ってグループで遊びを考え発表する。 (必要な準備) 縄でどんな遊びが出来るか考えておく
第14回	長縄遊び	(内 容) 長縄を使っの遊び(縄くぐり・郵便屋さん・伝承遊び・いろんな跳び方をしてみよう。) (必要な準備) 長縄でどんな跳び方をして遊んでいたかまとめておく。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 自分が得意とする遊びをノートに書き出しておく。

授 業 名	保育内容・健康 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf・yg~yl			
授業の概要	子どもが健康で安全な生活を送ることが出来るよう、保育者が配慮すべき事項について学ぶ。子どもたちの運動量の減少と遊び体験の減少による運動不足からくる肥満児の増加や、空腹感や疲労感の減少からくる生活リズムの乱れの問題。家庭生活では孤食や夜型の生活が広がり、園生活に大きな影響を及ぼしつつある現状を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期における心身の健康に関する現状と健康生活に必要な生活習慣の形成やその確立の重要性が理解できる。 2) 身体の発育・発達に関する基礎的な知識を理解できる。 3) 子どもの安全のための保育者の携わり方について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	保育ライブラリー(保育内容健康) 北大路書房							
参 考 書	演習保育内容健康 建帛社							
留 意 事 項	自分自身は「健康」に関してどのような問題意識をもっているのか考えてみよう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		保育内容・健康 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 保育内容「健康」の内容について (必要な準備)	
第2回	子どもの健康な生活とは	(内 容) 生活リズムの変化 (必要な準備) 健康な生活リズムについて考えをまとめておく	
第3回	幼児の健康	(内 容) 幼児の健康状態の把握 (必要な準備) 教科書 P 14～ P 23を読んでおく	
第4回	幼児の発達理解	(内 容) 乳幼児の体格と生理機能の発達 (必要な準備) 教科書 P 26～ P 39を読んでおく	
第5回	運動機能の発達	(内 容) 子どもたちがどのような運動が出来るのか、どの程 度の能力があるのか把握する。 (必要な準備) 教科書 P 40～ P 52を読んでおく	
第6回	心の発達と健康	(内 容) 子どものものの考え方・子どもの道徳判断 (必要な準備) 教科書 P 53～ P 64読んでおく。	
第7回	幼児のあそびの発達	(内 容) あそびとは何か・あそびの発達過程 (必要な準備) 今のこどもはどんなあそびをしているのか調べる。	
第8回	あそびを豊かにする保育者の役割	(内 容) 者の役割について理解する (必要な準備) 遊びを豊かにする方法を考える。	
第9回	幼児の体格・運動能力測定法	(内 容) 運動能力の年代変化と問題 (必要な準備) 教科書 P 80～ P 86 P 103～ P 118読んでおく	
第10回	幼児の生活スタイル	(内 容) 幼児の生活スタイルの現状と問題点 (必要な準備) 生活習慣の形成における保育者の役割を考える。	
第11回	安全管理と安全教育	(内 容) 安全管理と安全教育の必要性 (必要な準備) 教科書 P 120～ P 130読んでおく	
第12回	応急処置法	(内 容) 手当の順序・けがに対するてあて (必要な準備) 自分が経験した応急処置を書き出す。	
第13回	保育における健康行事	(内 容) 保育における年間行事 (必要な準備) 幼稚園・保育園の年間行事の内容を調べる。	
第14回	保育の計画と指導案	(内 容) 年間指導計画と短期の指導計画・保育評価 (必要な準備) 教科書 P 155～ P 165読んでおく	
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の役割について確認する (必要な準備) 保育者の役割についてまとめておく	

授業名	保育内容・人間関係 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Human Relations			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	鈴木 えり子・名賀 亨			対象学生	幼児教育1ya ~ ye			
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。							
学習成果到達目標	1) 保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。 2) 人間関係の発達過程を、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするための保育者の役割と課題を理解する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省（フレール館）							
留意事項	グループワークや発表があるので、自分自身が人とかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと。							
オフィス アワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		保育内容・人間関係 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (必要な準備) シラバスを読んでおく・テキスト10p-13pを読んでおく	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキスト28p-29pを読みまともておく	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト30p-31pを読みまともておく	
第4回	人とかかわる力の発達 (0歳児)	(内 容) 0歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト34p-51pを読みまともておく	
第5回	人とかかわる力の発達 (1, 2歳児)	(内 容) 1.2歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト52p-69pを読みまともておく	
第6回	人とかかわる力の発達 (3歳児)	(内 容) 3歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト70p-87pを読みまともておく	
第7回	人とかかわる力の発達 (4歳児)	(内 容) 4歳児の発達課題と「ひと環境」を学ぶ。 (必要な準備) テキスト88p-103pを読みまともておく	
第8回	人とかかわる力の発達 (5歳児)	(内 容) 5歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト106p-123pを読みまともておく	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。 (必要な準備) テキスト104-105p、124pを読みまともておく	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト126p-139pを読みまともておく	
第11回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第12回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第13回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより・園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ。 (必要な準備) 園行事を振り返ってみる。	

授 業 名	保育内容・人間関係 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	浅田 瞳・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないのかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的な知識を説明できる。 2) 人間関係の発達過程を知り、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするために、保育者は何をすればよいのか、その役割と課題について説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社 『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』							
参 考 書	授業中に提示する。							
留 意 事 項	アクティブラーニングの要素を組んだグループワークやワークショップ形式の授業を取り入れていくため、自分自身が人とかかわることを意識して積極的に授業に参加すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第 1 回目の授業で発表する							

授 業 名		保育内容・人間関係 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る (必要な準備) テキストpp.10-13を読むこと	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキストpp.28-29を読むこと	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容・注意事項について学ぶ (必要な準備) テキストpp.30-31を読むこと	
第4回	人とかかわる力の発達1 (0歳児)	(内 容) 0歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.34-51を読むこと	
第5回	人とかかわる力の発達2 (1~2歳児)	(内 容) 1~2歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.52-69を読むこと	
第6回	人とかかわる力の発達3 (3歳児)	(内 容) 3歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.70-87を読むこと	
第7回	人とかかわる力の発達4 (4歳児)	(内 容) 4歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.88-103を読むこと	
第8回	人とかかわる力の発達5 (5歳児)	(内 容) 5歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.106-123を読むこと	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個と集団の育ちの違いを理解する (必要な準備) テキストpp.104-105、p.124を読むこと	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ (必要な準備) テキストpp.126-139を読むこと	
第11回	人とのかかわりを実践する1	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第12回	人とのかかわりを実践する2	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第13回	人とのかかわりを実践する3	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく。	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する (必要な準備) 身近な規範や道徳に関する事例記事やインターネット記事を持ってくる	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより、園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ (必要な準備) これまで自分が体験した園行事について発表できるようにすること	

授業名	保育内容・環境 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Child Care : Environment			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育2ya～yf、yg～yl		
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心をもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心をもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。						
学習成果到達目標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて発表できる。 3) 環境を踏まえた活動指導案を作成・実践できる。						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』（青踏社）						
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）						
留意事項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。						
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。						

授 業 名		保育内容・環境 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方	(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44
第3回	子どもの環境と保育者	(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」	(内 容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第6回	園外活動によって育つもの	(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第7回	季節による保育活動	(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第8回	身近な動物と保育活動	(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども	(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第12回	領域「環境」指導上の問題点	(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第13回	領域「環境」の留意事項	(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第14回	領域「環境」における保育者の役割	(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく

授業名	保育内容・言葉 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Language			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	遠藤 純			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～yl			
授業の概要	ことばと思考の関係について考えながら、乳幼児期のことばの発達をおさえて、ことばを育むことばがけ、あそび、児童文化財について考察する。							
学習成果到達目標	1) ことばを育むことの意味を知り、そのための手だてを習得する。 2) ことばと思考との関わりを理解し、子どもと言葉の関係について深く知る。 3) ことばをはぐくむ児童文化について理解を深め、その歴史や現状、特徴を理解する。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		保育内容・言葉 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼児教育におけることばの教育の意味	(内 容) 授業の目的と内容について解説する。 (必要な準備)	
第2回	ことばとは何か	(内 容) ことばとは何か (必要な準備) ことばと思考の関係について調べておく。	
第3回	乳幼児期のことばの発達 1	(内 容) 0, 1, 2 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どもの発したことばを振り返っておく。	
第4回	乳幼児期のことばの発達 2	(内 容) 3, 4, 5 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どものことばを振り返っておく。	
第5回	ことばが育つ環境と保育者の役割 聞くこと・話すことの指導	(内 容) 保育者のことばがけについて (必要な準備) 実習で子どもの対して発した保育者としてのことばについて振り返っておく。	
第6回	ことばが育つ環境と保育者の役割 ことばの発達と障がい	(内 容) 子どものことばの発達と障がいのある子どもへの指導について (必要な準備) ことばに発達のある子どもへの関わりについて考えをまとめておく。	
第7回	ことばが育つ環境と保育者の役割 保育者と園の役割	(内 容) 保育者と保護者、園の役割について (必要な準備) 子どもへの関わり方について、三者それぞれの役割について考えをまとめておく。	
第8回	ことばを育む保育教材 1	(内 容) 絵本とは何か 1 (必要な準備) 絵本の基本的な読み方について考えておく。	
第9回	ことばを育む保育教材 2	(内 容) 絵本とは何か 2 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。	
第10回	ことばを育む保育教材 3	(内 容) 童話、お話の歴史 (必要な準備) 童話とお話の違いについて調べておく。	
第11回	ことばを育む保育教材 4	(内 容) 児童文学の歴史 (必要な準備) 子どもの文学の歴史について調べておく。	
第12回	ことばを育む保育教材 5	(内 容) 紙芝居 (必要な準備) 紙芝居の特徴について考えておく。	
第13回	ことばを育む保育教材 6	(内 容) パネルシアター (必要な準備) パネルシアターの特徴について考えておく。	
第14回	文字指導	(内 容) 文字指導の内容と方法について (必要な準備) 文字指導の方法について考えておく。	
第15回	授業のまとめ	(内 容) 授業全体を通しての質疑応答 (必要な準備)	

授業名	保育内容・表現 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・服部 正志			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～yl			
授業の概要	感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって体験を記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法についての知識を深める。 2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさ、豊かさを実感する。 3) お互いの個性を理解し、協力しながら活動する力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使います)							
参考書	使用しない。							
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。 造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。							

授 業 名		保育内容・表現 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 「表現」領域のねらいとその内容を知る (必要な準備) テキスト35から37項を読んでおく(30分程度)
第2回	教室全体を使って落書きする	(内 容) 身体スケールを超えた空間を感じ表現する (必要な準備) テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	(内 容) 手に描く (必要な準備) 手の動きを観察しておく(30分程度)
第4回	大きなこいのぼりをつくる	(内 容) 身近な素材(新聞紙等)による集団での造形 季節の行事に関心を持つ (必要な準備) テキスト137から138項に目を読んでおく(30分程度)
第5回	クモの巣をつくる	(内 容) 身近な素材(ロープ、紐等)による空間造形 (必要な準備) テキスト119から120項に目を読んでおく(30分程度)
第6回	ケント紙で高さ比べ	(内 容) グループで背の高い構造物を作る (必要な準備) 造形の動機付けについて考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第7回	個性的な帽子をつくる	(内 容) 和紙、新聞紙による変身遊び (必要な準備) いろいろな帽子の作り方について調べる テキスト135項に目を読んでおく(30分程度)
第8回	リレー童話をつくる	(内 容) グループで創作童話を作る (必要な準備) 頭を柔軟にしておく(30分程度)
第9回	リレー童話の音読	(内 容) リレー童話を発表 (必要な準備) 童話の読み方を練習しておく テキスト94から95項に目を読んでおく(30分程度)
第10回	新聞紙で造形する	(内 容) テーマを決定する力を養う (必要な準備) コミュニケーション力を高めておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第11回	折りたたみシアターをつくる	(内 容) 折りたたみシアターの制作 (必要な準備) テーマやアイデアを考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第12回	折りたたみシアターの発表	(内 容) 折りたたみシアターを発表する (必要な準備) 模擬保育の場を想定しておく テキスト98から101項に目を読んでおく(30分程度)
第13回	季節の絵・「夏」	(内 容) 夏の子どもの生活を描く (必要な準備) 壁面制作について理解する(30分程度)
第14回	季節の絵・「秋」	(内 容) 秋の子どもの遊びを描く (必要な準備) 就職活動における造形課題について知る(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 授業での演習を復習、考察しておく(30分程度)

授業名	保育内容・表現 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	小林 志保			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf		
授業の概要	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。 2) 保育実践に関する知識を理解し、指導のための基礎技能を習得し、自身の表現力や感性を養い、子どもが主体的に表現することを楽しむための働きかけについて学ぶ。 3) 様々な身体表現の実習を通して、リズムによって動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現したり、演じたりする楽しさを学ぶ。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 2) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそびの指導・援助ができるようになる。 3) 子どもの発育・発達に応じた身体表現活動の展開ができるようになる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する						
参考書	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだで感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社</p>						
留意事項	積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		保育内容・表現 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容について	(内 容)	領域「表現」について学ぶ (必要な準備) 領域「表現」を読んでおく
第2回	心と体を動かすふれあいあそび	(内 容)	心と体をはぐくむふれあいあそびを学ぶ (必要な準備) 自分が小さいころにしていた動きやあそびなどを思い出しておく
第3回	心と体を巧みに動かす表現	(内 容)	体を操る・動かす、基本動作を学ぶ (必要な準備) 筋肉・骨格・神経系などの基礎知識を調べる
第4回	幼児体操とリズムあそび	(内 容)	幼児体操と種々のリズムあそびを学ぶ (必要な準備) リズムあそびについて調べる
第5回	リズムダンスの導入方法	(内 容)	種々のリズムあそびの導入方法を学ぶ (必要な準備) リズムあそびの工夫について調べる
第6回	リズムダンスの展開方法	(内 容)	種々のリズムあそびの展開方法を学ぶ (必要な準備) いろいろな工夫を考える
第7回	フォークダンス実習	(内 容)	子ども向けの楽しく簡単なフォークダンスを学ぶ (必要な準備) フォークダンスの背景、歴史、特徴などを調べる
第8回	チアダンス実習	(内 容)	チアダンスの基本を学ぶ。手具の活用方法を学ぶ。 (必要な準備) 表現としてのチアダンスについて考える
第9回	チアリーディング実習	(内 容)	チアリーディングの基本を学ぶ (必要な準備) チアダンスやチアリーディングを観る
第10回	組体操の導入方法	(内 容)	幼児のための組体操の基本を学ぶ (必要な準備) 組体操を観る
第11回	リズムダンス創作 創作に向けたねらいの確認	(内 容)	テーマに合った動きの工夫、楽しくなる工夫を学ぶ グループ編成 をする (必要な準備) 作品に合う音楽・効果音、小物を探しておく
第12回	リズムダンス創作 いろいろな工夫	(内 容)	様々な意見を出し合い、グループで考えて振りをつける (必要な準備) いろいろな工夫を考える(高低、強弱、方向)
第13回	リズムダンス創作 テーマを表現する	(内 容)	グループ練習を行い、仕上げる (必要な準備) テーマが表現されているか確認する
第14回	創作作品発表	(内 容)	創作した作品を発表する (必要な準備) 他人の創作を観て学ぶ
第15回	「表現あそび」についてのまとめ	(内 容)	授業を振り返り、表現あそびについて考える (必要な準備) 授業内容を振り返り、学んだ事を整理する

授業名	保育内容・表現 c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 満佐子			対象学生	幼児教育2yg~yi、2yj~yl		
授業の概要	保育現場で行われる器楽合奏について知り、打楽器の奏法を習得する。リズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさを、演習を通して学ぶ。						
学習成果到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。						
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	最新保育講座11 保育内容「表現」平田智久・小林紀子・砂上史子 編 ミネルヴァ書房						
参考書	『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社						
留意事項	合奏やアンサンブルなど、練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		保育内容・表現 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・評価の方法などを説明 (必要な準備) テキスト領域「表現」を読む	
第2回	表現遊び：幼児と歌あそび	(内 容) 手あそび 指あそび (必要な準備) 知っている手遊びが正確にできるようにする	
第3回	表現遊び：手あそび歌の創作	(内 容) 手あそび 指あそびの動きを考えよう (必要な準備) シートの記入	
第4回	表現遊び：発表会	(内 容) オリジナル手あそび歌の発表 (必要な準備) シートの仕上げ	
第5回	器楽合奏：奏法について	(内 容) 幼児向けの打楽器の奏法を知ろう (必要な準備) 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方を覚える	
第6回	器楽合奏：楽器のふりわけ	(内 容) 担当楽器を決めて演奏 (必要な準備) 打楽器の名称を覚え、奏法を習得する	
第7回	器楽合奏：音のバランス	(内 容) 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう (必要な準備) 自分のパートを練習する	
第8回	器楽合奏：曲想の表現	(内 容) 音楽の構成を考えて表現しよう (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第9回	小編成アンサンブル：小グループによる選曲	(内 容) 曲の選択：グループ分け (必要な準備) 自分のパートを理解する	
第10回	小編成アンサンブル：奏法の確認	(内 容) 創作活動 (必要な準備) スコア楽譜を正しく読み取る	
第11回	小編成アンサンブル：発表会	(内 容) 練習・仕上げ (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第12回	リズム表現：いろいろなステップ	(内 容) テーマに合わせた音と動きを考えよう (必要な準備) テキストP44 演習問題1をする	
第13回	リズム表現：ポーズのカノン	(内 容) 動きを創ってみよう (必要な準備) テキストP44 演習問題2をする	
第14回	リズム表現：速さとリズム	(内 容) 音を聞いて動いてみよう (必要な準備) テキストP79 演習問題2をする	
第15回	リズム表現：まとめ	(内 容) テーマに合わせて動いてみよう (必要な準備) テキストP144 演習問題1をする	

授業名	教育方法の研究 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Method Research			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	幼稚園教育にふさわしい教育方法について考える。幼児期に遊びや生活を通して心身の調和のとれた発達の基盤を培うことができるよう保育を計画できる能力養う。授業では、指導計画の要点と作成方法を学ぶ、多様な幼児教育を知る、を通して、これからの幼稚園教育の方法を考え、一人ひとりの教育実践につなげる。							
学習成果到達目標	1) 幼児の生活する姿や、幼児一人一人の幼児理解を深めつつ、幼児に必要な教育方法を考えることができる。 2) 幼児が集団生活の中で喜びと充実した学びの体験をしながら発達に必要な体験が積み重なっていく教育・保育計画を立案し、実践につなげることができる。 以上の2点から学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力の習得をめざす。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	担当者が作成したプリントを適宜配付する							
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館							
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、20%が授業でのグループ学習の成果、15%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献（発言、進行促進など）。成績評価に関連して以下の三点を守ってください。毎回の授業で記入を求めるコメントカードがきちんと提出できていることが出席を意味します。授業のなかでは、制作もおこないます。のり、はさみ、色ペンなど事前に必要なものを連絡します。授業のなかで、グループワークをおこないます。他人まかせにせず、知らないメンバーとも積極的に協力すること。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：1号館3階）							

授 業 名		教育方法の研究 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「教育方法の研究」の授業の流れ	(内 容) 「教育方法の研究」の授業の内容と進め方について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでくる	
第2回	【知識】環境構成について 【実践】4月を意識した保育	(内 容) 幼児教育での環境構成の意義を学ぶ (必要な準備) 2・3月の保育実習の設定保育のふりかり	
第3回	【知識】教育課程と指導計画 【実践】5月を意識した保育	(内 容) 教育課程と指導計画の関係を学ぶ (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第4回	【知識】子どもの様子(姿)の記述 【実践】6月を意識した保育	(内 容) 指導計画の子どもの様子(姿)がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第5回	【知識】指導計画の「ねらい・内容」 【実践】7月を意識した保育	(内 容) 指導計画の「ねらい・内容」がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第6回	【知識】指導計画の環境構成 【実践】8月を意識した保育	(内 容) 指導計画の環境構成がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第7回	【知識】子どもの活動と保育者の援助 【実践】9月を意識した保育	(内 容) 子どもの活動と保育者の援助がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第8回	【知識】保育の評価 【実践】10月を意識した保育	(内 容) 保育の評価の視点を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第9回	【知識】保育実践のふりかえり 【実践】11月を意識した保育	(内 容) 6月の保育実習のなかで部分保育のふりかえりから改善点を見つける (必要な準備) 6月実習で観察してきた各幼稚園の環境構成や援助の在り方	
第10回	【知識】年間指導計画 【実践】12月を意識した保育	(内 容) 年間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第11回	【知識】月間指導計画 【実践】1月を意識した保育	(内 容) 月間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第12回	【知識】週案の計画 【実践】2月を意識した保育	(内 容) 週案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第13回	【知識】日案の計画 【実践】3月を意識した保育	(内 容) 日案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第14回	【知識】異年齢クラスの保育方法 【実践】9月実習にむけて日案の作成	(内 容) 異年齢クラスの特徴を理解し保育方法を考えることができる (必要な準備) 日案を考える上で必要な資料	
第15回	【知識】幼小連携カリキュラム 【実践】9月実習にむけて日案の発表	(内 容) 幼小連携カリキュラムについて説明できる 9月実習にむけて日案を完成させ、自己評価、相互評価できる (必要な準備) 日案の提出	

授 業 名	保育相談 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。 2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。 3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。 2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。 3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) ()
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日15:00から17:00							

授 業 名		保育相談 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容)	保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容)	保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容)	全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容)	保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容)	保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容)	対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容)	地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容)	「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関する事	(内 容)	基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容)	言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容)	子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容)	保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容)	養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容)	発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容)	虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。

授 業 名	保育相談 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2yg～yl			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。</p> <p>2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。</p> <p>3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。</p> <p>2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。</p> <p>3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日・火曜日 12時10分から13時まで。							

授 業 名		保育相談 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容)	保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容)	保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容)	全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容)	保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容)	保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容)	対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容)	地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容)	「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関する事	(内 容)	基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容)	言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容)	子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容)	保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容)	養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容)	発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容)	虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。

授業名	子どもの食と栄養a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf			
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解できる。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得している。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	子どもの食と栄養演習第2版 小川雄二編著 建帛社							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容) 現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく(30分)	
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容) 食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストのp53-60を読んでおくこと。(30分)	
第3回	三大栄養素について	(内 容) 糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp11-16を読んでおくこと。(60分)	
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容) ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp16-22を読んでおくこと。(60分)	
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容) 消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp53-54,p60-70を読んでおくこと。(60分)	
第6回	一日の食事の考え方,バランスのとれた献立	(内 容) 食事摂取基準、食品の分類、食の安全、 献立について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp22-40を読んでおくこと。(60分)	
第7回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容) 授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp71-92を読んでおくこと。(60分)	
第8回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容) 離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp92-114を読んでおくこと。(60分)	
第9回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp114-138を読んでおくこと。(60分)	
第10回	学童期の栄養	(内 容) 学童期の食生活の特徴と注意点 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp139-143を読んでおくこと。(60分)	
第11回	食育の基本と内容	(内 容) 食育について、保育所における食育の実際について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp151-155を読んでおくこと。(60分)	
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容) 食育計画を考える (必要な準備) テキストのp156-164を読み、食育計画について考えておく。(60分)	
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の復習を行う。テキストのp172-182を読んでおくこと。(60分)	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp188-198を読んでおくこと。(60分)	
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病、障害のある子	(内 容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストの183-187を読んでおくこと。(60分)	

授 業 名	子どもの食と栄養 c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	幼児教育2yg~yi			
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	子どもの食と栄養演習(第3版) 小川雄二編著 建帛社							
参 考 書	資料を配布する。							
留 意 事 項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 c	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容)	現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第3回	三大栄養素について	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容)	ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容)	消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第6回	一日の食事の考え方	(内 容)	食事摂取基準、食品の分類、食の安全について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第7回	バランスのとれた献立	(内 容)	献立のたて方、おいしさに関わる因子について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第8回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容)	授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第9回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育とは、保育所における食育 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。

授業名	子どもの食と栄養 d			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	猿渡 綾子			対象学生	幼児教育2yj～yl			
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。							
学習成果到達目標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	最新子どもの食と栄養第8版第3刷 飯塚美和子編集 学建書院							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィス アワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの健康と食生活の意義	(内 容)	子どもの食生活の特徴と現状 世界の子ども現状 (必要な準備) 教科書P2～10を事前に読んでおく(30分)
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	子どもの発育・発達の特徴 栄養状態の評価 (必要な準備) 教科書P66～76を事前に読んでおく(30分)
第3回	栄養に関する基本的知識(炭水化物・たんぱく質・脂質)	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の栄養学的特徴と消化・吸収について 食物繊維の役割について (必要な準備) 教科書P16～33、46～50を事前に読んでおく(60分)
第4回	栄養に関する基本的知識(ビタミン)	(内 容)	脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と機能について (必要な準備) 教科書P38～43を事前に読んでおく(30分)
第5回	栄養に関する基本的知識(ミネラル、水)	(内 容)	ミネラルの種類と機能について 水の種類と機能について (必要な準備) 教科書P34～38、43～45を事前に読んでおく(30分)
第6回	子どもの食生活(演習を含む)	(内 容)	食生活指針、食事摂取基準、食品の分類、食事バランスガイドについて 献立作成 (必要な準備) 教科書P51～64を事前に読んでおく(30分)
第7回	胎児期(妊娠期)の栄養	(内 容)	胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (必要な準備) 食事バランスガイド(3日分)を記入してくる 教科書P77～87を事前に読んでおく(60分)
第8回	乳児期の栄養:乳汁(実習を含む)	(内 容)	乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (必要な準備) 教科書P88～109を事前に読んでおく(30分)
第9回	乳児期の栄養:離乳(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (必要な準備) スプーン、タオル(小)を持参すること 教科書P110～119を事前に読んでおく(30分)
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 教科書P122～135を事前に読んでおく(30分)
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育基本法、食育推進計画 食育の内容、計画、および評価 (必要な準備) 教科書P168～180を事前に読んでおく(30分)
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える 食育の体験 食に関するお便りの作成 (必要な準備) 前回の講義を踏まえ、食に関するお便りを作成するためのプランを考えておく。必要な資料、筆記具等があれば持参する。(30分)
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の講義の課題を完成させ提出する 教科書P187～204を事前に読んでおく(30分)
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1 (食物アレルギー)	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 教科書P215～221を事前に読んでおく(30分)
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2 まとめ	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 教科書P206～215、221～230を事前に読んでおく(30分)

授業名	精神保健			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児期から高齢期まで各年代における心の健康について学ぶ。各年代別に見られる基本的な心理的特徴を理解する。その上で心理的な問題がどのように生じるかについて、主な問題の発生機序について学ぶ。心理的問題への対応や予防についても学び、精神保健の重要性について理解する。精神的な健康を維持するための方策についても考察する。							
学習成果到達目標	1) 保育者に必要な精神保健の基本的知識を習得する。 2) 心理的問題の予防について学び、メンタルヘルスの重要性を認識できる。 3) 心身の健康的な行動を増進する方法について説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	適宜プリントを配布する。							
留意事項	できるだけ事例を提示するので、自分に引き寄せて学んでほしい。 日頃から、内容を理解し、メンタルヘルスの基本知識を習得し、活用できるようにしておく。 授業は、学生の興味・関心に柔軟に対応する場合があるので、内容の順番を説明の上変更することがある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		精神保健	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目及び授業計画のガイダンス	(内 容) 精神保健の概要・授業の進め方 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	精神保健の歴史、精神保健の意義	(内 容) わが国の精神保健の流れと課題、こころの健康への基本的知識と理解 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第3回	E・H・エリクソンの理論の紹介 年代別のライフサイクル	(内 容) エリクソンのライフサイクル理論の紹介と年代別の心理的特徴を把握する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第4回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児の愛着形成の問題、情緒や行動上の問題を学び早期の関係性の重要性を理解する。 (必要な準備) 実習で経験した事例を書いてくる。(30分)	
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期の感情や社会性の育ちを理解し学童期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第6回	思春期・青年期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期の特徴と危機、アイデンティティの問題について理解を深める。青年期特有の対人不安を知りメンタルヘルスを保つ方策を知る。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第7回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 中年期に多いうつ病とその予防、うつ病への対応、バーンアウト等を学び問題解決を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第8回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 加齢による心理的变化や対象喪失について理解し老年期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第9回	ストレスとその対応	(内 容) ストレスの概念的定義、ストレス対応について学ぶ。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえりストレス対応への力を考える。(30分)	
第10回	脳科学から見たメンタルヘルス	(内 容) 脳と心と体との関係を学び脳の働きを理解する。脳の各部位の働きと心への影響について基本的知識を得る。 (必要な準備) 配布プリントを読み脳科学への理解を深める。(30分)	
第11回	食に関する問題とメンタルヘルス	(内 容) 過食、拒食など摂食障害と発症の要因、支援について学ぶ。 (必要な準備) 健康的な食生活について考えてくる。(20分)	
第12回	社会人基礎力の育成	(内 容) 社会人基礎力について知り意識的に育み、ストレスへの対応力や人間関係力を自ら育成する。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえる。(20分)	
第13回	対人援助職に見るメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職におけるメンタルヘルスを考え、バーンアウトを避ける手立てを習得する。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第14回	対象喪失の問題	(内 容) ト라우マやPTSDについて理解し、支援の方策を学ぶ。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第15回	これまでの振り返りおよび今後の課題を見出す	(内 容) 質疑応答などで、これまでの振り返りをして、要点を整理する。 (必要な準備) プリント等を読み返しておく。(60分)	

授業名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	開講学年	2回生	単位数	1単位			
英文名	Music	開講時期	春学期	必修・選択	選択			
担当者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子	対象学生	幼児教育2回生					
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どもの歌」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。							
学習成果到達目標	1)「こどものうた」のレパトリーを拓げる。 2)初見・伴奏付けの力をつける。 3)人前で弾く、歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を養う。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力)	課題発見・解決能力			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参考書	使用しない。							
留意事項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いの出来る曲を増やすことが大事。							
オフィスアワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱	(内 容) 春学期授業計画・注意事項・初見 歌唱 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) 多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見 歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 (必要な準備) 「子どものうた」の練習(60分)
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見 歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第5回	春学期前半のまとめ、初見・歌唱	(内 容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 (必要な準備) 継続(120分)
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック、 歌唱指導の模範 (必要な準備) 継続(60分)
第7回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続、 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第8回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第10回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第11回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第12回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第13回	春学期後半のまとめ	(内 容) 初見 歌唱、伴奏付け (必要な準備) 継続(60分)
第14回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 幼・保就職で出題される曲を中心に (必要な準備) 伴奏付けの練習(60分)
第15回	第2回個人チェック	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (必要な準備) 個人チェックの課題曲の練習(120分)

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力。又幼稚園・保育園に就職する場合は、現場で役立つ実践的な能力を養うと同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を養う。 2) 現場で役立つ実践的な能力を養う。 3) 豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d・e・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト	
第2回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 就職試験のリハーサル (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第3回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第4回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第5回	第1回個人チェック	(内 容) 前半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲練習(60分)	
第6回	リズム変奏	(内 容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (必要な準備)	
第7回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第8回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第10回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第11回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第12回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第13回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第14回	合奏	(内 容) 合奏指導法 (必要な準備) 指揮の練習をしておく(15分)	
第15回	第2回個人チェック	(内 容) 後半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲の練習(120分)	

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1)ブルグミュラー・ソナチネを1曲でも多く弾くことができるようになる。 2)楽譜を正確に読むことができる。 3)ピアノの演奏技術を高めることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (演奏技術)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (詳細な読譜力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ等, 受講生個々の進度に合わせて, 随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	履修条件: 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)高科(担当授業終了後に実施) * 高科のレッスンを受ける学生は, 坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備) ・1回生の最後にレッスンを受けた曲の入っている楽譜集(ブルグミュラーもしくはソナチネ)を持参する。 ・1回生の最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	ピアノ実技（個人指導） a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。教則本だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲を練習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタなど、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 読譜力及びピアノの演奏技術をさらに高めることができる。 3) 幼稚園・保育所の就職試験に必要な、弾き歌いの技術・初見演奏能力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (初見力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	幼稚園・保育所の就職試験という緊張する場でも、ある程度の実力を発揮できるよう、普段からしっかり練習をして、余裕を持って弾けるようにする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）高科（担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい）							

授 業 名	ピアノ実技（個人指導） a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備) ・最後にレッスンを受けた曲の入った楽譜集（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）を持参する。最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。 ・幼稚園・保育所の就職試験の受験曲がある場合は持参する。
第2回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第3回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第4回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第5回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第6回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第7回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第8回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第9回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第10回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第11回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第12回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第13回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第14回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第15回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	(内 容) 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）

授業名	国語 a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Japanese			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	言葉とはどのようなものであるか、日本語とはどのような言語であるか、この二つを十分理解してもらい、教育に必要な国語能力を洗練する。併せて、昔話への理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 国語について基本的な説明ができる。 2) 昔話について語ることができる。 3) 方言について基本的な知識を持ち、地元の方言につてある程度語ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (真摯な取り組み姿勢	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィス アワー	月曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		国語 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業内容の概説 (必要な準備) シラバスを読んでくる。	
第2回	言葉とは・記号論	(内 容) 言葉と他の記号の違い (必要な準備) 言葉によるコミュニケーションについて考えてくる。	
第3回	「人」の読み方・訓読みと考察課題設定	(内 容) 単語の中の「人」の読み方 (必要な準備) 「人」の付く単語を書き出してくる。	
第4回	「人」の読み方・音読み	(内 容) グループ討議の後レポート作成 (必要な準備) 課題を取りまとめ考察してくる。	
第5回	方言・消えゆく方言と調査課題設定	(内 容) 消えゆく関西弁 (必要な準備) 祖父母等の方言を調査してくる。	
第6回	方言・我が家の場合	(内 容) 各自の地元の方言についてグループ討議 (必要な準備) 調査結果を整理してくる。	
第7回	方言・比較検討	(内 容) 調査結果の地域比較でレポート作成 (必要な準備) 前回討議からの考察をしてくる。	
第8回	五十音図	(内 容) 国語学の基本たる五十音図の講義 (必要な準備) 五十音の発音を表にしてくる。	
第9回	語源探求・事例と考察課題設定	(内 容) 語源について事例紹介と課題設定 (必要な準備) 指示された語を国語辞書で調べてくる。	
第10回	語源探求・考察結果のグループ別発表	(内 容) 調べた語源をグループで説明・共有 (必要な準備) 指示された語の語源を調査してくる。	
第11回	「浦島太郎」の歴史と昔話課題設定	(内 容) 浦島伝説の変遷の説明と昔話課題設定 (必要な準備) 巖谷小波について調べしてくる。	
第12回	地元の昔話の改作	(内 容) 昔話を今風に作り替える (必要な準備) 地元の昔話を選択してくる。	
第13回	絵本・絵巻	(内 容) 物語の享受方法と絵解き (必要な準備) 奈良絵本の画像を見てくる。	
第14回	昔話改作指導	(内 容) 改作個人指導 オフィスアワー併用 (必要な準備) 昔話を改作してくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答 (必要な準備) 質問の用意	

授 業 名	リズム			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Rhythm			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	心も体も開放させ様々なリズムに合わせて体を動かし、リズムによって動く楽しさを体験する。子どもを生き生きさせる重要な活動である事を知る。創造性豊かな保育者として、子どもの発達に応じたリズムダンスの指導と援助が出来るように学習する。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発育・発達を考えて、楽しいリズムダンスを子ども達に提供出来る指導者になる。 2) 自分でリズムダンスを創作できる能力を身に付ける。 3) リズムよく動ける体とイメージしたものを即興で表現できる体をつくる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	「リズムと動き」エルザ・フィンドレイ著 (全音楽譜出版社)							
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時のことを考えて、取り組んでもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		リズム	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	動ける体づくり(1)リズムに反応して動く	(内 容)	リズムに合わせて心と体を開放させて動く (必要な準備) ノートを作成(授業内容をまとめる)
第2回	動ける体づくり(2)速い曲に反応して動く	(内 容)	リズムエクササイズ(リズムの変化を体で感じる) (必要な準備) 前回の行った動きのリズムを思い出す
第3回	動きの変化	(内 容)	呼吸と動作について知る(呼吸の仕方できが変化することを実体験する) (必要な準備) 復習をして身体反応をよくしておく。
第4回	リズム遊び(1)音符の体得	(内 容)	手や足で音符を表現する。発令された音符を素早く反応して身体で表現する。 (必要な準備) 呼吸と動きについて体験した動作の復習
第5回	リズム遊び(2)異なる音符の表現	(内 容)	いろんなリズムを体で感じ表現する (必要な準備) 前回の授業で行った復習をする
第6回	リズムパターンの体得	(内 容)	いろんなリズムパターンを行う 2人組でリズムパターンを行う(カノンで行う) (必要な準備) 前回のリズムパターンを体得しておく
第7回	音階とステップ	(内 容)	音階を体で表現しながら基本ステップを行う (必要な準備) 基本ステップの復習をしておく
第8回	子どものリズムエクササイズ	(内 容)	子どもが楽しむリズムエクササイズを行い動く。 (必要な準備) 動きを考えておく
第9回	子どものリズムエクササイズを作る	(内 容)	各自が考えた動きをつなげる 完成させる (必要な準備) 各自の動きを仕上げておく
第10回	リズムダンス	(内 容)	幼児のダンスを楽しく表現豊かに動いてみよう (必要な準備) 知っているダンスがあれば書き出しておく
第11回	創作	(内 容)	グループでリズムダンスを創作する (必要な準備) 曲をみつけて準備をしておく
第12回	創作	(内 容)	曲のリズムと動きがうまく合っているか考える (必要な準備) グループの人と話し合いをする
第13回	創作	(内 容)	リズムダンスの完成 気になるところの修正 (必要な準備) グループでまとめておく
第14回	発表	(内 容)	グループごと発表を行う 各自が評価する (必要な準備) 発表が出来るようにグループで作品の確認
第15回	まとめ	(内 容)	全体の授業の振り返り (必要な準備) 子どもの前で出来るダンスを用意しておく

授業名	子どもの造形			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Children's Art			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	「図画工作 ・ 」 「保育内容・表現 」などで学んだ内容をもとに、子どもの造形活動や造形表現についてさらに深く理解し、実践的に指導支援できる力を身につける。							
学習成果到達目標	1) 技法、材料による多様な造形的表現について研究する。 2) 子どもの意欲や興味関心に寄り添うテーマと課題の設定について考える。 3) 子どもの個性や発達に即した指導法・支援の計画が立てられる力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	プリントを配布する							
参考書	図書館にあるものを活用する 花篤實・岡田敬吾 編著 『新造形表現 実技編』(三晃書房) 1回生春学期に購入したもの							
留意事項	内容等については受講生の人数、学生の求める学習成果によって変更することがある。							
オフィス アワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		子どもの造形	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 導入 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第2回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) フィンガーペインティングによる表現 (必要な準備) 指絵の具について復習しておく(30分程度)	
第3回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) 市販の指絵の具と土粘土 (必要な準備) 何が指絵の具になるか考えておく(30分程度)	
第4回	技法研究・ローラーで遊ぶ	(内 容) ローラー遊びからの展開 (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第5回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 落ち葉や自然素材による表現 (必要な準備) つくりたい形を考えておく(30分程度)	
第6回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 自然素材による造形 (必要な準備) 季節感とテーマの設定について考える(30分程度)	
第7回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルについて学ぶ (必要な準備) つくりたい食べ物について調べておく(30分程度)	
第8回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルの彩色 (必要な準備) 彩色できるように作品を完成させて行く	
第9回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) テーマの設定(動く、飾る、変身) (必要な準備) 紙コップと紙皿を準備しておく(30分程度)	
第10回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) リサイクル素材について学ぶ (必要な準備) アイデアを練っておく(30分程度)	
第11回	材料研究・ストローをつかった造形	(内 容) ストローによる動くおもちゃ (必要な準備) 動くおもちゃについて調べておく(30分程度)	
第12回	頭足人を描く	(内 容) 描画の発達段階の理解 (必要な準備) 配布資料を読む(30分程度)	
第13回	レントゲン画を描く	(内 容) レントゲン画の理解 (必要な準備) 配布資料を読んでおく(30分程度)	
第14回	造形のための環境について	(内 容) 素材、道具の管理について学ぶ (必要な準備) 物的環境の整備について考えておく(30分程度)	
第15回	まとめ・記録のファイリング	(内 容) 授業全体の総括 (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授業名	介護概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Nursing Care			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	高岡 理恵			対象学生	介護2回生			
授業の概要	用語の整理を行い、その後、介護福祉士養成における本講の位置づけを確認し、介護の意義やその役割ならびに専門性について学ぶ。次いで、介護サービスの利用者を生活者の視点から総合的に捉え、その尊厳の保持と自立支援に対する介護の専門性を学生個々が考え、理解できるよう演習を交えながら進める。							
学習成果到達目標	1) 介護福祉に関わる事柄に関心をもち、基本的知識を習得する。 2) 介護福祉士法誕生の背景及び改正ポイントを理解し、介護福祉士の定義と義務を理解する。 3) 支援者としての自己の専門性を育てることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	川井太加子、野中ますみ「介護の基本・介護過程」、日本介護福祉士養成施設協会編							
参考書	随時紹介するが、「社会福祉小六法」「介護福祉用語辞典」は必携。							
留意事項	講義を中心に授業を行います。演習での発表や課題レポートの作成を指示します。テキスト以外に資料配布や視聴覚教材を使用します。介護福祉士を目指すみなさんにとって大切な科目のひとつです。欠席や遅刻のないように積極的な授業参加を期待します。							
オフィスアワー	研究室に掲示します							

授 業 名		学 習 内 容 ・ 課 題
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	介護概論を学ぶ意義について	(内 容) 講義内容や成績評価の方法、受講上の留意点等について説明 介護に関わる用語について整理する (必要な準備) テキスト・ノート・参考書等の準備
第2回	介護と介護福祉士の歴史	(内 容) 介護及び介護福祉士の歴史を知る (必要な準備) 介護の歴史について年表をもとに調べてくること テキスト9～10
第3回	介護福祉士の法的根拠	(内 容) 介護福祉士の定義と義務、業務独占について理解する 介護福祉士養成制度と登録状況を知る (必要な準備) 社会福祉士及び介護福祉士法を調べてくること テキスト51～53を読んでくること
第4回	介護の理念	(内 容) 尊厳を支える介護の意味を「自立」「QOL」の意味とともに理解する (必要な準備) テキスト29～47まで読んでくること
第5回	介護サービス提供の場の特性 1 居宅	(内 容) 居宅介護サービスの特性を理解する (三本柱) (必要な準備) テキスト55～56を読んでくること
第6回	介護サービス提供の場の特性 2 地域	(内 容) 地域や社会の役割やあり方について理解する 社会における介護の課題を明確にする (必要な準備) テキスト54～55を読んでくること
第7回	介護サービス提供の場の特性 3 福祉施設	(内 容) 介護老人福祉施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方について理解する (必要な準備) 介護老人福祉施設のパフレットを何部か用意しておくこと
第8回	介護サービス提供の場の特性 4 保健施設	(内 容) 介護老人保健施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方について理解する (必要な準備) 介護老人保健施設のパフレットを何部か用意しておくこと
第9回	介護サービス提供の場の特性 5 医療施設	(内 容) 医療型障害児入所施設の目的を理解し、それにおける利用者の住まい方や特性について理解する (必要な準備) 配布した資料を予習しておくこと
第10回	介護サービス提供の場の特性 6 生活保護施設	(内 容) 救護施設の存在意義を理解し、利用者の住まい方や特性を理解する (必要な準備) 配布した資料を予習しておくこと
第11回	介護問題の背景	(内 容) 居宅、施設、社会における介護問題を把握する (必要な準備) 新聞記事やメディアの資料から介護問題の背景について書かれている箇所を抜き出してくること
第12回	介護問題の理解	(内 容) 居宅、施設、社会における介護問題について発表する (必要な準備) 課題レポートの作成と提出
第13回	専門職能団体の活動	(内 容) 専門職集団としての役割、機能を理解する 倫理要領を理解する (必要な準備) テキスト18～28を読んでくること
第14回	多職種における連携	(内 容) 介護職と関係深い多職種の理解を行う 連携場面を考え、介護福祉士の専門性を理解する (必要な準備) テキスト60～67を読んでくること
第15回	まとめ	(内 容) 介護における社会的な課題を1つとりあげまとめる (必要な準備) 課題発表した内容をまとめてくること

授業名	介護概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Nursing Care			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	高岡 理恵			対象学生	介護2回生			
授業の概要	<p>介護概論は、介護の基盤となる教科である。 利用者を「生活する人」として受け止め、介護の思考過程を用い、その人の意向や生き方、生活習慣などを鑑み、その人らしさを大切にすることを学ぶ。さらに、介護従事者の侵しやすいリスクを知り、利用者及び自分自身のリスク管理を学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 介護の思考過程が展開できる 2) ライフスタイルから要介護者の生きてきた時代背景が理解できる 3) 介護事故につながる要因が理解できる 4) リスクマネジメントを理解できる</p>							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	川井太加子・野中ますみ、「介護の基本・介護過程」、日本介護福祉士養成施設協会							
参考書	随時 指示する。							
留意事項	介護の思考過程を学ぶためにも、テキストを読み予習をしておいてください。授業で配布した資料は毎回持参してください。							
オフィス アワー	研究室に掲示します							

授 業 名		介護概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス 生活への視点	(内 容)	介護概論 の進めかた 生活とくらしの違いについて学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	人間の多様性・複雑性の理解 生活史や価値観	(内 容)	介護の思考過程を理解する 利用者主体の考え方をイメージする (必要な準備) テキスト p125～138を読んでおく
第3回	利用者理解 情報収集とアセスメント	(内 容)	情報収集の方法を身に着ける アセスメントの意味を理解する (必要な準備) 前回出した宿題をしておくこと
第4回	利用者理解 分析	(内 容)	人間科学及び自然科学の意味を理解する その方法を用い、分析する (必要な準備) テキスト p140～154を読んでおく
第5回	利用者理解 ニーズと目標	(内 容)	ニーズの意味を理解する マズローの欲求段階を理解する (必要な準備) テキスト p155～154160を読んでおく
第6回	利用者理解 計画	(内 容)	個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開方法を考える (必要な準備) 前回出した宿題をしておくこと
第7回	利用者理解 評価の方法	(内 容)	評価基準と規準を理解する (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく
第8回	利用者理解 事例研究 1 分析 ニーズ設定	(内 容)	事例を通して科学的根拠をもとに課題を探す 事例を人間科学で読み解きながらその人理解を行う (必要な準備) 配布した事例に目をとめておく
第9回	利用者理解 事例研究 2 計画	(内 容)	課題から目標設定を行い計画を策定する その人に一番必要とされるニーズに対し計画を策定する (必要な準備)
第10回	利用者理解 事例研究 2 発表	(内 容)	科学的根拠からニーズ、目標設定、計画という一連の過程に対して 発表する (必要な準備) 発表できるよう資料を作成しておく 発表原稿を整えておく
第11回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 リスクとリスクマネジメント	(内 容)	リスクとリスクマネジメントの意味を理解する 介護事故について調べる (必要な準備) テキスト p114～p116
第12回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 介護施設でおきやすい事故事例	(内 容)	介護事故が起きる原因と予防・対策について理解する (必要な準備) テキスト p117～p120を読んでおく 配布した資料に目を通しておく
第13回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 高齢者虐待の現状と課題	(内 容)	高齢者虐待の類型と現状を理解する 高齢者虐待の現状を新聞記事を使って知る (必要な準備) 高齢者虐待について新聞やメディアで取り扱われているものを収集 しておく
第14回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 感情労働と適応機制	(内 容)	感情労働である介護と起こりやすいリスクとの関連について学ぶ ストレスの意味について学ぶ ストレスをコントロールする方法の一つである適応機制について学 ぶ (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく
第15回	リスクマネジメントと介護従事者の安全 記録の必要性	(内 容)	記録の意義と必要性について学ぶ 記録の書き方の留意について学ぶ (必要な準備) 配布した資料を読み予習しておく 総合基礎演習でまとめた記録をもってくる

授業名	高齢者福祉			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Welfare for Elderly People			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	介護2回生			
授業の概要	現代社会において高齢者のおかれている立場や、高齢期に特有のさまざまな障害や疾病について諸資料を参考に理解を深める。次いで、高齢者に関する法律や制度について歴史的な変遷過程を整理し、社会福祉問題となっている認知症や老老介護などの諸問題を取り上げながら、どのような対策がとられているのか、今後必要とされる多職種・機関との連携について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 高齢期特有の心身の変化について基礎的な知識を習得できる。 2) 高齢者福祉に関する制度の歴史的な展開過程を理解できる。 3) 高齢社会の現状と課題について理解し、説明できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	適宜紹介する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	時事問題（新聞、福祉系機関誌ならびに雑誌等）に目を向けること。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授業名	高齢者福祉	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～「老い」への理解に向けて～	(内 容) 講義の進め方や評価方法の説明ならびに参考文献の紹介を行い、「老い」ということについて意見を出し合う。 (必要な準備) 「老い」への理解について考えておく。(30分)
第2回	老人をめぐる語義について	(内 容) 高齢者の呼称から考える人権について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第3回	少子高齢社会の現状と課題について	(内 容) 人口高齢化の問題と少子化の問題がもたらす社会への影響について考える。 (必要な準備) 『国民の福祉と介護の動向』を読む。(45分)
第4回	高齢者の社会的理解について	(内 容) 高齢期の生活について事例に基づき考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(45分)
第5回	社会的弱者としての高齢者について	(内 容) 高齢者の安全と差別について考える。 (必要な準備) 「災害弱者」について調べる。(45分)
第6回	高齢者の身体的・精神的理解について	(内 容) 高齢期の心身機能の低下とその特徴について理解を深めていく。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)
第7回	特定疾病と難病について	(内 容) 高齢期特有の疾病の呼称ならびに病状について理解を深めていく。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)
第8回	高齢者の社会生活における諸問題について	(内 容) 高齢期における社会生活上の諸問題について考える。 (必要な準備) 紹介したメディアを閲覧する。(45分)
第9回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～高度経済成長期に至るまで～	(内 容) 戦後より老人福祉法制定までの高齢者福祉制度について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第10回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～老人福祉法制定からゴールドプランまで～	(内 容) 老人福祉法の成立からゴールドプランまでを考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第11回	高齢者保健福祉制度の発展過程 ～1990年代の制度再編と介護保険法制定まで～	(内 容) 介護保険法の制定とその背景について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第12回	介護保険制度の基本的枠組みについて	(内 容) 制度の目的・理念や最近の動向について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第13回	介護保険制度の仕組みとサービスの質について	(内 容) 要介護認定の仕組みと地域支援事業の意義について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第14回	介護保険サービスの体系について	(内 容) 居宅サービスと施設サービスの種類と諸課題について考える。 (必要な準備) 紹介した資料を読む。(60分)
第15回	まとめにかえて ～「老い」と「楽」は一体なのか?～	(内 容) 高齢期を最期まで生ききることを実現できる社会とはどんな社会なのかを考える。 (必要な準備) すでに配布している資料や書籍に目を通し、ディスカッションができるよう準備しておく。(60分)

授業名	社会の理解			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Understanding of Handicaps			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	介護2回生			
授業の概要	わたしたちの日々の生活を支えている社会構造を知ること、家族や地域を単位とする社会において、一人ひとりがそれぞれの役割を果たすことで社会が支えられ、かつ一人ひとりの生活がその社会に支えられているという仕組みを、人間の暮らしと社会との関わりについて多角的な視点で学ぶことにより、援助者としての価値観を養っていく。							
学習成果到達目標	1) 現代社会における「ゆりかご」から「はかば」までの法制度を理解できる。 2) 社会、地域、家庭を理解することができる。 3) 現代社会におけるさまざまな生活の現状を把握し、人々の相互の関係を多角的に理解することができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜紹介する。							
参考書	適宜紹介する。							
留意事項	時事問題（新聞、福祉系機関誌ならびに雑誌等）に目を向けること。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授業名	社会の理解	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～日々の生活について～	(内 容) 評価の方法、講義の進め方について説明し、その後演習形式で「生活」について考える。 (必要な準備) 自分自身の「生活」をふりかえる。(20分) 次回の課題を発表する。
第2回	現代社会における家族・家庭について	(内 容) ライフサイクル、「ゆりかごからはかばまで」について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第3回	地域社会と家族・家庭について ～地域を支える機関とその役割～	(内 容) 地域社会とは何かを定義し、それを取りまとめる機関の役割等について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第4回	地域社会と家族・家庭について ～家族・家庭が抱える諸問題～	(内 容) 家族や家庭が抱える諸問題を取り上げ、何が問題となっているのかを考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第5回	人間理解とその尊厳 ～「生きる権利」とその保障～	(内 容) 生存権や基本的人権について学び、生きることへの障害となる事象について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第6回	人間理解とその尊厳 ～「自立」と「自律」～	(内 容) 人間の多面的理解に向けて「自立」と「自律」について学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第7回	人間理解とその尊厳 ～人間の尊厳について～	(内 容) 人間の尊厳について障害や難病を事例として挙げながら考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第8回	介護における自立と尊厳の保持 ～介護における自立支援と尊厳の保持～	(内 容) 介護における自立支援と尊厳の保持について考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第9回	介護における自立と尊厳の保持 ～盲・ろう・聾者へのかかわり～	(内 容) 盲・ろう・聾者への支援を通じて考える自立支援と尊厳の保持について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第10回	介護における自立と尊厳の保持 ～要介護高齢者へのかかわり～	(内 容) 要介護高齢者への支援を通じて考える自立支援と尊厳の保持について (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第11回	人間関係とコミュニケーション ～関係づくりのための人間理解～	(内 容) 日常生活での人間関係と職場での人間関係をそれぞれ事例として取り上げ、コミュニケーションについて考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第12回	人間関係とコミュニケーション ～介護職支援と対人関係～	(内 容) 「自分を知る」ことからわかる対人援助の基礎について学ぶ。 演習形式を取り入れる。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第13回	人間関係とコミュニケーション ～コミュニケーションの基礎～	(内 容) コミュニケーションとは何かを考え、そこから基礎となる技法を学ぶ。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第14回	介護実践にかかわる諸制度について	(内 容) 個人の権利を守る制度についてふりかえり、介護実践においてなぜ必要となるのかを考える。 (必要な準備) 課題をノートにまとめる。(60分) 次回の課題を発表する。
第15回	まとめにかえて ～これからの「介護」について～	(内 容) どのような社会がこれから必要とされてくるのだろうか。社会を構成する一人ひとりの人間が、何を目的に、どう生きることが求められていくのかを考える。 (必要な準備) 今までに取り組んできた課題を読んでおく。(90分) ディスカッションができる準備をしておく。

授 業 名	障害の理解		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Understanding of Handicaps		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	介護2回生				
授業の概要	障害の基礎的知識を習得すると共に、生活支援技術と関連付けた介護の視点を学び、心理状態や家族への支援や配慮、地域における連携や協働の在り方を学習する。 フィールドワークを実施し、地域の障がい施策を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 障害のメカニズムを理解する。 2) 障害が日常生活に及ぼす様々な影響を理解できる。 3) 家族を含めた障害者の生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座「障害の理解」、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規							
参 考 書	随時紹介							
留 意 事 項	障害のある人の心身機能に関する基礎的知識を習得するため学習内容が多いので、テキストをまとめる、ノートをとる、生活支援を考える等が必要となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示する							

授 業 名		障 害 の 理 解
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の目的・進行の仕方・授業内容について (必要な準備) ノートの用意
第2回	障がい者福祉の基本理念	(内 容) ノーマライゼーションの意味を理解する インクルージョンの意味を理解する (必要な準備) 社会福祉基礎構造改革と障がい者施策をまとめてきてください
第3回	障がいに関する考え方	(内 容) 障がいの概念(ICF)の理解と、ICIDHからICFへの変遷について学ぶ (必要な準備) テキストを読んでおくこと
第4回	認知機能の低下による障がいの理解 1 総論	(内 容) 認知機能の低下による障がいによって出現する症状を学ぶ (必要な準備) 前回授業内容の復習
第5回	認知機能の低下による障がいの理解 2 高次脳機能障害のある人の理解	(内 容) 認知機能の低下による特徴的な心理行動を学ぶ 高次脳機能障害の医学的理解を行う (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第6回	視覚障がいのある人の理解	(内 容) 視覚障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト42～50までを読んでおく
第7回	聴覚障がいのある人の理解	(内 容) 聴覚障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト51～60を読んでおく
第8回	言語障害のある人の理解	(内 容) 言語障がいの身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキストを読んでおくこと
第9回	重複障害のある人の理解	(内 容) 重複障がいの身体的心理的状況を理解する 家族支援と家族の思いについて考える (必要な準備) 配布プリントを予習する
第10回	内部障害のある人の理解	(内 容) 内部障害のある人の身体的心理的状況を理解する パウチを体験する (必要な準備) テキスト68～83まで読んでおく
第11回	知的障害のある人の理解	(内 容) 知的障害ある人の身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト124～132まで読んでおく
第12回	精神障害のある人の理解	(内 容) 精神障害ある人の身体的心理的状況を理解する (必要な準備)
第13回	難病のある人理解	(内 容) 難病の身体的心理的状況を理解する (必要な準備) テキスト167～177を読んでおく
第14回	フィールドワーク体験	(内 容) 自分の考えたテーマをもって地域にでかけ、地域の障がい施策を確認するとともに体験する (必要な準備) テーマの選定と、何をみたいのか具体的にポイントをあげてくる
第15回	地域の障がい施策と連携 フィールドワークまとめ	(内 容) 前回の体験をもとにフィールドワークのまとめを行う (必要な準備) 前回のテーマ設定をポイントをまとめる

授 業 名	介護技術		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	介護2回生				
授業の概要	<p>日常生活の基本的行為である「移動」という行為は何かしらの目的をもって行われる。その目的達成のために安全に自立にむけた支援をどのように行うのか基本的な体の動きについて学びます。 技術を行う前には、それに必要な環境整備(備品・姿勢等)を行うことにより、介護者自身の身体の安全を確保するとともに、ひいては利用者の安全を損なわないようにすることを学びます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1)身体の動きを理解し、身体に負担のない介護ができる 2)介護を行うときに、必要な環境を整備することができる 3)移動介助を必要とする人に適切は介護技術の根拠を自分の言葉で説明できる 4)必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を自分で考え選択できる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術」、中央法規							
参 考 書	適宜、紹介します							
留 意 事 項	理論を踏まえて技術を行いますので、しっかり予習してくること。 介護実技室に入室するときには、服を着替え、髪をまとめてください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します							

授 業 名		介 護 技 術
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション 居住環境整備の意義と目的	(内 容) 物品の整理や快適な居住空間づくりを学ぶ (必要な準備) 自身の居住環境を意識して観察し発表できるようにしておくこと
第2回	安全で心地よい生活の場作り	(内 容) シーツの扱い方、シーツ交換の方法を身につける 安全で、快適な環境へのイメージが描けるよう学ぶ (必要な準備) 自身の居住空間での物品の取扱い方について発表できるようにしておくこと
第3回	身支度の意義と目的	(内 容) 衣服を着る意味を理解する 運動機能に障害のある人への身支度の介護方法を身につける (必要な準備) テキスト第2章「身支度の介護」p22～44までを読んでおく
第4回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	(内 容) 寝巻(着物)の着脱介護方法を身につける (必要な準備) テキストp45～64を読んでおく
第5回	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント と介助の技法	(内 容) 整容(ひげそり、爪切り、化粧等の人へ与える影響を学ぶ 上記の介護技術を身につける (必要な準備) テキストp65～82を読んでおく
第6回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) ボディメカニクスを理解する その機能を用いてベッド上での移乗を身につける (必要な準備) テキスト第3章「移動の介護」p98～115を読んでおく
第7回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) スライディングシートを用いた移乗を身につける (必要な準備) テキストp116～139を読んでおく
第8回	安全で的確な移動・移乗の介護	(内 容) 座位保持の姿勢、座位から車いす及びトイレへの移乗方法 スライディングボードを用いた移乗介助を身につける (必要な準備) テキストp140～163を読んでおく
第9回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) 運動機能が低下している人の介助 車いすの機能について理解する 様々な車いすの違いを知る 車いすの介護方法を身につける (必要な準備) テキストp164～175を読んでおく
第10回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) 運動機能が低下している人の介助 様々な杖の違いを知る 杖歩行人への介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第11回	利用者の状態・状況に応じた移動介護	(内 容) リフトやストレッチャーを利用した介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第12回	感覚機能が低下している人の介助	(内 容) 視覚に障害のある人への移動介護方法を身につける (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第13回	安楽な体位保持の介護	(内 容) 安楽な姿勢の意味を知る クッション等を用いて安楽な体位をつくる (必要な準備) 配布した資料を予しておくこと
第14回	実技テスト	(内 容) 介護技術 で学んだ内容の実技テストを行う (必要な準備) 介護技術を復習しておくこと
第15回	まとめ 復習	(内 容) 介護技術 で学んだ介護の復習 (必要な準備) わからないところをまとめておくこと

授業名	博物館経営論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Management			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	藤澤 典彦			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	人々のニーズは多様だ。それに単に合わせるだけでなく、その一歩先を示すこと。そしてまた来なくなる博物館を目指すために何が必要かを考える。質問に答えてもらいながら、一緒によりよき博物館を考える。							
学習成果到達目標	1) 博物館に何が可能かを考える。運営に積極的に関わることができるようになる。 2) 情報公開とは何かを考える。情報公開を通しての社会との関わりを知ることができる。 3) 情報交換とは何かを考える。他者との関わり、協力の重要性を学ぶ。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない							
参考書	『新しい博物館学』（芙蓉出版）、『新版 博物館学講座』（雄山閣）、『人文系博物館教育論』（雄山閣）							
留意事項	指名して意見を求めます。「知っている」「知らない」では無く、自分がどう考えるかについて積極的に答えて下さい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館経営論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館の歴史	(内 容) 博物館の目的の歴史の変遷 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第2回	博物館の存在形態	(内 容) 博物館の組織について (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第3回	博物館の設備の利用	(内 容) 博物館活動のためにどのような設備が必要か (必要な準備) 博物館に行き、設備等について見ておくこと。	
第4回	博物館の教育支援的役割	(内 容) 学校との連携を考える (必要な準備) 子供の頃、学校から見学に行った博物館の事を思い出しておくこと。	
第5回	博物館の自己学習支援的役割	(内 容) 自己学習・生涯学習のに対して博物館は如何なる情報を発信できるか。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第6回	地域と博物館	(内 容) 地域にとっての博物館とは (必要な準備) 自分の出身地の博物館について、インターネット等で調べておくこと。	
第7回	博物館の情報発信(1)印刷・出版	(内 容) 印刷出版物の様々 (必要な準備) 博物館に関係する印刷物としてどのようなものがあるかを考えておくこと	
第8回	博物館の情報発信(2)講演会	(内 容) 講演会の課題設定 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第9回	博物館の情報発信(3)巡回展	(内 容) 巡回展の利点と問題点 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第10回	博物館の情報発信(4)特別展	(内 容) 特別展諸準備とその後の仕事 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第11回	博物館の情報発信(5)資料の公開	(内 容) 資料公開とは何か (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第12回	外国の博物館との交流	(内 容) 外国博物館との交流の様々なあり方 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第13回	ミュージアム・ショップの諸問題	(内 容) ミュージアムショップの存在形態 (必要な準備) 博物館に行ったときにミュージアムショップにも寄っておくこと。	
第14回	展示解説とボランティア活動	(内 容) 展示解説ボランティア活動の実際と問題点 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと	
第15回	授業のまとめ	(内 容) これまでの授業のまとめ (必要な準備) これまでの講義項目を確認しておくこと。	

授業名	博物館資料論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Material			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	博物館は、あらかじめ定められた活動方針のもと資料を収集、保存、活用している。博物館活動の基盤となる資料の種類や分野などの基礎的事項について説明するとともに、「博物館法」など関連法規についてもあわせて学習する。さらに、修復や復元模写などについても具体的に解説することで、博物館資料の理解につなげる。							
学習成果到達目標	1) 博物館活動における資料の重要性を理解することができる。 2) 博物館資料の基本的な考え方を身につけることができる。 3) 博物館資料を取り扱えるようになることができる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)	
テキスト	適宜資料を配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館資料論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義方針の説明。 (必要な準備) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	博物館資料の概念と種類	(内 容) 博物館活動における資料の位置づけと種類を概観する。 (必要な準備) 博物館資料の種類について調べておくこと。(30分)	
第3回	博物館資料化の方法	(内 容) 博物館資料化の方法を具体的に学ぶ。 (必要な準備) 「寄贈」「寄託」という語の意味について調べておく。(30分)	
第4回	資料の調査・研究・彫刻・書跡・典籍編 -	(内 容) 彫刻・書跡・典籍資料の調査、研究方法を学ぶ。 (必要な準備) 彫刻・書跡・典籍の各分野について理解すること。(30分)	
第5回	資料の調査・研究・絵画・工芸編 -	(内 容) 絵画・工芸資料の調査、研究方法を学ぶ。 (必要な準備) 絵画・工芸の各分野について理解すること。(30分)	
第6回	文化財の素材について	(内 容) 文化財を構成する素材について学ぶ。 (必要な準備) 文化財の素材には何があるか調べておくこと。(30分)	
第7回	資料の扱い方 - 掛軸 -	(内 容) 掛軸の名称・取り扱いについて学ぶ (必要な準備) 掛軸の各部名称の配布プリントを見ておくこと。(30分)	
第8回	資料の扱い方 - 卷子 -	(内 容) 卷子の名称・取り扱いについて学ぶ (必要な準備) 卷子の各部名称の配布プリントを見ておくこと。(30分)	
第9回	資料の修復 彫刻編	(内 容) 彫刻の修復について具体的に紹介 (必要な準備) 文化財修理(彫刻)について理解すること。(30分)	
第10回	資料の修復 装? 編	(内 容) 絵画・古文書の修復について具体的に紹介 (必要な準備) 文化財修理(絵画・古文書)について理解すること。(30分)	
第11回	資料の復元模写	(内 容) 絵画の復元模写の実際 (必要な準備) 「復元模写」という語の意味を調べること。(30分)	
第12回	博物館資料を実際に見る	(内 容) 博物館資料にはどのようなものがあるのか、実際に博物館を見学する。 (必要な準備) 博物館資料の種類や素材について復習しておくこと。(30分)	
第13回	資料の保存環境	(内 容) 資料の保存環境を知る (必要な準備) 資料を保存するために必要な要件について理解する。(30分)	
第14回	資料としての写真と写真撮影	(内 容) 資料としての写真、写真撮影の方法を学ぶ (必要な準備) 写真撮影の際に気を付けることを考えておく。(30分)	
第15回	博物館と地域資料	(内 容) 地域資料と博物館の関係について知る (必要な準備) 博物館と地域の協働について考えをまとめること。(30分)	

授業名	博物館展示論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Exhibition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	井上 ひろ美			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	博物館活動の中心の一つである展示について、その成立の歴史、変遷についてまずは学ぶ。その上で、展覧会の企画から開催、終了までの過程を説明し、必要な知識や技術についての基礎知識を講義する。							
学習成果到達目標	1) 博物館の展示機能に関する基礎的知識を身につけることができる。 2) 一つのことを創造し、表現することの多様性について理解できるようになる。 3) 優れたデザイン感覚を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館展示論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義方針の説明。 (必要な準備) シラバスを確認しておく。(30分)	
第2回	博物館施設の種類と現状	(内 容) 博物館施設の種類と現状について概説する。 (必要な準備) 博物館・美術館の種類を調べておく。(30分)	
第3回	博物館と展示の歴史	(内 容) 博物館と展示の歴史について概説する。 (必要な準備) 近代博物館のはじまりについて調べておく。(30分)	
第4回	展示公開と出品作品	(内 容) 展示公開における出品作品の位置づけ関連する諸法令・規則を概説する。 (必要な準備) 資料の展示公開における注意点について調べる。(30分)	
第5回	博物館展示の諸形態	(内 容) 博物館展示の諸形態について解説する。 (必要な準備) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。	
第6回	展示の企画・開催	(内 容) 展示の企画から開催までの過程を概説する。 (必要な準備) 実際に開催されている展覧会を見学しておくこと。	
第7回	博物館展示の実例 - 国内共催編 -	(内 容) 国内における展示の実例を紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第8回	博物館展示の実例 - 海外展編 -	(内 容) 海外での日本美術展示の実例を紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第9回	博物館展示の実例 - 海外編 -	(内 容) 海外の美術館の実例をみる。 (必要な準備) 海外のいずれかの美術館のHPを見ておくこと。(30分)	
第10回	博物館展示のコンポーネント	(内 容) 展示に必要な道具と技術を紹介する。 (必要な準備) 博物館で使用する道具を5つ調べておくこと。(30分)	
第11回	展示計画・空間デザインと照明	(内 容) 展示室内の構成、演出について概説する。 (必要な準備) 空間をデザインするために必要なことについて考えをまとめておくこと。(30分)	
第12回	空間デザインの実際	(内 容) 実際に博物館を見学して展示室の構成について学ぶ。 (必要な準備) 前々回、前回の復習をしておく。(30分)	
第13回	広報とデザイン	(内 容) 展覧会広報の重要性とその方法を概説する。 (必要な準備) 展覧会チラシを3枚集めておくこと。	
第14回	展覧会チラシを作る	(内 容) 展覧会チラシをデザインする。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。(30分)	
第15回	展覧会にまつわる人々	(内 容) 展覧会開催に必要な職業について概説する。 (必要な準備) 展覧会を開催するために必要な学芸員以外の職業について調べておくこと。(30分)	

授 業 名	博物館資料保存論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Museum Material Preservation			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤澤 典彦			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	何が博物館資料となり得るのかを考え、それをどの様に収集し、保存・保管し利用してゆくのかについて考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 博物館資料保存目的の明確化。目的を確認する事により自発的に仕事を行える様にする 2) 博物館資料の多様性の確認。如何なる物が博物館資料になるかを考える力を付ける。 3) 博物館資料の保存の具体的手法の確認。資料保存のための具体的行動を取れる様になる。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	『新しい博物館学』（芙蓉出版）							
留 意 事 項	博物館に積極的に出掛け、展示物だけでなく、展示の在り方、展示スペースの構造、受付、警備の状況など様々な面をみてきて欲しい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館資料保存論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館資料とは何か	(内 容) 博物館資料の形成過程を考える。 (必要な準備) 近代世界の形成について考えておくこと。	
第2回	何が資料で、資料の収集とは何か	(内 容) 資料収集の手段について考える。 (必要な準備) 標記の手段について考えておくこと。	
第3回	資料保存とは何か	(内 容) 何のために保存するのか。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第4回	資料研究の必要性	(内 容) 資料研究と展示の関係。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第5回	資料の修復・復元	(内 容) 資料の修復・復元の目的。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第6回	レプリカの作成	(内 容) レプリカの利用方法。近年のレプリカ作成方法の進歩について。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第7回	考古資料保存の問題点	(内 容) 考古資料保存の多様性。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第8回	彫刻資料保存の問題点	(内 容) 大型資料の保存。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第9回	絵画資料保存の問題点	(内 容) 日本画・洋画資料保存の諸注意。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第10回	紙・拓本・写真資料保存の問題点	(内 容) 古文書・近代紙資料・写真劣化との戦い。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第11回	民俗資料保存の問題点	(内 容) 木材・金属・皮革・布・藁など複合材料資料の保存。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第12回	資料保存のための設備	(内 容) 収蔵庫の重要性。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第13回	資料保存のためのスケジュール	(内 容) 資料点検・虫干し・燻蒸などのスケジュール。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第14回	資料保存と展示と公開	(内 容) 保存資料の公開としての展示と出版。 (必要な準備) 標記の問題について考えておくこと。	
第15回	講義のまとめ	(内 容) 博物館資料保存の目的。 (必要な準備) これまでの講義項目を確認しておくこと。	

授 業 名	博物館教育論		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Theory of Museum Education		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	井上 ひろ美		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	博物館は社会教育施設であることから、その活動の基盤に「教育」がある。近年は、とくにその教育活動は多様化し、より実践的になっている。博物館の教育機能の基礎について理解を進めつつ、具体的な手法についても学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 博物館の教育機能について理解することができる。 2) 自分の考えを人にわかりやすく伝えるための手法を身につけることができる。 3) 創意工夫の楽しさを身につけることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	特になし							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	博物館教育論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	博物館の成立と近代教育	(内 容) 近代における教育思想の変遷と博物館の関係について概説する。 (必要な準備) 「学ぶこと」について考えをまとめておくこと。
第2回	博物館教育の意義と理念	(内 容) 博物館における教育の意義と理念について解説する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第3回	博物館教育とミュージアムエデュケーター	(内 容) 博物館教育における教育普及を専門とする学芸員(ミュージアムエデュケーター)の役割について紹介する。 (必要な準備) 学芸員の業務内容について考えをまとめておくこと。
第4回	展示を中心とした教育活動	(内 容) 展示における教育的配慮、参加型展示などについて紹介する。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第5回	展示室における学び 博物館見学	(内 容) 実際の博物館を見学して教育的な要素を見つける。 (必要な準備) 見学の際のポイントについて考えておく。
第6回	展示室における学び 博物館見学	(内 容) 実際の博物館を見学して見つけた教育的な要素をまとめる。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第7回	博物館と学校教育	(内 容) 博物館と学校教育の連携について考える。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第8回	博物館友の会とボランティア	(内 容) 博物館の支援者、利用者について知る。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第9回	博物館における教育プログラム	(内 容) 博物館の教育プログラムの種類や運営について知る。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第10回	博物館における教育プログラムの事例	(内 容) 実際の教育プログラムを評価し、どのような学びの可能性があるのか考える。 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。
第11回	ギャラリートーク 事例と情報収集	(内 容) ギャラリートークの事例について学び、必要な情報を収集する。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第12回	ギャラリートーク 発表	(内 容) ギャラリートークを実際に行い、相互評価を行う。 (必要な準備) 発表原稿
第13回	ワークショッププログラムの企画 事例	(内 容) ワークショッププログラムの事例について知り、学びの可能性について知る。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第14回	ワークショッププログラムの企画 作成	(内 容) ワークショッププログラムを企画し、その学習効果についてまとめる。 (必要な準備) これまでの総復習をしておくこと。
第15回	ワークショッププログラムの企画 発表	(内 容) 企画したワークショッププログラムを発表し、相互評価を行う。 (必要な準備) プログラムの企画書の作成

授業名	博物館情報・メディア論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Museum Information and Media			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	喜多 祐子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>最近のコンピュータ技術の発展は目覚ましい。博物館においても、こうした技術が導入され、運営に活かす試みがなされている。そこで、本講義では、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信について理解し、情報を配信・活用することができる能力を養成する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 博物館で利用されている情報技術に関する知識を習得する。 2) デジタルメディアの特性を整理し、理解する。 3) メディアの特性を活かして、情報を伝達する能力を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	なし。							
参考書	随時指示する。							
留意事項	いろいろな博物館や美術館へ行き、どのようなメディアが用いられているかを観察して、知識を増やしてほしい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		博物館情報・メディア論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	博物館における情報とメディアの意義	(内 容) 情報の伝達と、その伝達手段。 (必要な準備) 情報とは何か、自分なりに考えてみる(10分)。	
第2回	メディアの特性	(内 容) 情報技術の発展、メディアの特性。 (必要な準備) 博物館が取り扱う情報にはどのようなものがあるのかを考えてみる(20分)。	
第3回	博物館資料のデータベース化	(内 容) メディアを用いた情報の記録、整理方法。 (必要な準備) 情報を整理、検索する方法について考えてみる(15分)。	
第4回	博物館情報のデジタル化	(内 容) デジタル化の技法と留意点。 (必要な準備) デジカメやスマホなどで写真を撮ってみる(20分)。	
第5回	デジタルアーカイブ	(内 容) デジタルアーカイブの意義、現状と課題。 (必要な準備) デジタルミュージアムを扱うHPを探してくる(20分)。	
第6回	メディアを活用した調査研究	(内 容) メディアを用いた資料の分析方法。実践例。 (必要な準備) デジタル画像から読み取れることを考えてみる(15分)。	
第7回	映像理論	(内 容) 展示における情報メディアの手法。その実践例。 (必要な準備) 博物館へ行って、映像にまつわる情報機器を探してくる(30分)。	
第8回	携帯端末を用いた取り組み	(内 容) 情報通信技術を活用した情報の配信。その実践例。 (必要な準備) 情報通信機器がどのように活用されているのかを考えてみる(30分)。	
第9回	博物館における情報配信	(内 容) 情報管理と情報公開。 (必要な準備) どのような情報公開の方法があるのかを考えてみる(20分)。	
第10回	インターネットを活用した情報提供のあり方	(内 容) インターネットを活かした取り組み。 (必要な準備) インターネットの可能性を考えてみる(15分)。	
第11回	博物館メディアの役割と学習活用	(内 容) 博物館利用者への学習支援、情報教育の意義と重要性。 (必要な準備) 地域に博物館資料に関する情報をどのように還元できるのかを考えてみる(20分)。	
第12回	博物館と知的財産	(内 容) 著作権について。 (必要な準備) 「著作権」という言葉はどのようなときに使われるのかを整理する(20分)。	
第13回	個人情報の保護	(内 容) 個人情報の保護。メディアリテラシー。 (必要な準備) どのような情報が個人情報にあたるのかを考えてみる(15分)。	
第14回	ICT社会のなかの博物館	(内 容) 情報資源の双方向性と役割、職業倫理。 (必要な準備) インターネットを用いて、博物館が図書館、学校と研究機関とどのような連携をとっているのか、その活動内容を調べてみる(30分)。	
第15回	課題制作	(内 容) 博物館展示における解説コンテンツの制作。 (必要な準備) これまでの講義内容を復習する(1時間)。	

授業名	博物館実習			開講学年	2回生	単位数	3単位	
英文名	Museum Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	伊藤 真昭			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	博物館学芸員の実務内容を指導するもので、博物館資料の調査法・収集法・分類法・目録法・保管法・展示法の実務講義を行う一方で、それを実習せしめる。また各種文化財の分類や名称に関する広範な解説を行い、併せて実際の文化財の取り扱い方や調書作成のプロセスなどを指導する。							
学習成果到達目標	1) 学芸員としての基礎知識を修得する。 2) 人にも学芸員の仕事内容を説明できるようにする。 3) 新たな学芸員の仕事を発見できるようにする。							
評価方法	定期試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜授業中に配布する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	講義と実習を併用して行う。館園実習を実りあるものとするためにも、講義は休まないこと。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。							

授 業 名		博物館実習
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義方針の説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(15分)
第2回	拓本	(内 容) 拓本実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第3回	仏像	(内 容) 仏像に関する専門用語の解説、取り扱い方を実習 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第4回	仏像の調査方法 展示見学 島津製作所創業記念資料館	(内 容) 仏像の調査実習と企業ミュージアムを見学する。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第5回	絵画	(内 容) 絵画の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第6回	書籍・典籍	(内 容) 書籍・典籍の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第7回	古文書() 様式論・分類	(内 容) 古文書の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第8回	古文書() 調書・編年	(内 容) 古文書の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第9回	古文書() 写真撮影	(内 容) 古文書の撮影方法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第10回	陶磁器・服飾	(内 容) 陶磁器・服飾の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第11回	屏風・掛け軸	(内 容) 屏風・掛け軸の取り扱い方・調査法を実習。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと(60分)
第12回	拓本裏打ち	(内 容) 2回目に行った拓本を裏打ちする。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第13回	見学実習 龍谷ミュージアム・東寺宝物館	(内 容) 大学博物館と寺院博物館の展示を見学する。 (必要な準備) 配布したテキストを読んでおくこと。(60分)
第14回	展示実習 展示	(内 容) 資料を展示する。 (必要な準備) 展示内容を考えておく(60分)
第15回	展示実習 解説	(内 容) 展示資料を解説する。 (必要な準備) 解説内容文を考える(60分)

授 業 名	図書館制度・経営論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	授業中に指示する。							
参 考 書	授業中に指示する							
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館制度・経営論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館の制度	(内 容) 図書館設置を規定する各法律について解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第3回	図書館法	(内 容) 図書館法の条文を理解する。 (必要な準備) 図書館法の条文を読んでおくこと。	
第4回	他館種の図書館に関する法律	(内 容) 学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (必要な準備) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。	
第5回	図書館サービスと法律	(内 容) 著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (必要な準備) 著作権法の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の管理運営の外部化	(内 容) 指定管理者制度について解説する。 (必要な準備) 指定管理者制度について調べておくこと。	
第7回	図書館の管理運営の外部化	(内 容) PFIについて解説する。 (必要な準備) PFIについて調べておくこと。	
第8回	図書館のサービス計画	(内 容) 図書館サービスの計画について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第9回	図書館のマーケティング	(内 容) 図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第10回	図書館の建築計画	(内 容) 図書館建設手順の流れについて解説する。 (必要な準備) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	レイアウト図をつくる	(内 容) ゾーニング計画をつくる。 (必要な準備) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。	
第12回	レイアウト図をつくる	(内 容) 図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (必要な準備) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。	
第13回	レイアウト図をつくる	(内 容) 図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (必要な準備) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。	
第14回	レイアウト図を発表する	(内 容) 作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (必要な準備) レイアウト図を完成させる。	
第15回	レイアウト図を発表する	(内 容) 作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (必要な準備) レイアウト図を完成させる。	

授 業 名	図書館情報資源概論		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Introduction to Library Information Resource		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	河塚 幸子		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	情報の分化に伴って近年多様化している図書館資料について、その種類と特徴を理解するとともに図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する知識の基本を理解することを目的とする。実際の図書館の仕事に即して考察していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 図書館が扱う資料の種類と特性について理解し、説明できる。 2) コレクションの構築の意義とそのプロセスを理解し、説明できる。 3) コレクションの蓄積・保管方法、評価など基礎的な知識を修得し、説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (提案力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	高山正也,平野英俊編『図書館情報資源概論』(現代図書館情報学シリーズ8),樹村房 2015年(初版5刷)							
参 考 書	今まど子編『図書館学基礎資料第12版』樹村房,2015年							
留 意 事 項	専門用語などわからないことは、参考図書などで調べておくこと。提出物は期限厳守すること。グループディスカッションによる知識の確認、定着を勧めるため積極的に発言すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	当授業終了後に実施する							

授 業 名		図書館情報資源概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、図書館情報資源とは	(内 容) 授業展開の解説、図書館活動と資料の説明 (必要な準備) テキストの序文、目次初めにを読んでおくこと	
第2回	図書館資料の有形・無形出版物、歴史	(内 容) 図書館資料全般の特質、歴史を概観 (必要な準備) テキスト1章を読んでおくこと	
第3回	図書館情報資源の種類と特質(1) 印刷資料 図書・逐次刊行物・ファイル資料	(内 容) 図書・逐次刊行物の定義、種類、特徴、出版の現状など (必要な準備) テキスト2章p.23-33 を読んでおくこと	
第4回	図書館情報資源の種類と特質(2)非印刷資料 マイクロ資料、視聴覚資料、視覚障害者用資料	(内 容) マイクロ、視聴覚資料、視覚障害者の定義、種類、特徴、など (必要な準備) テキスト2章p.34-47を読んでおくこと	
第5回	図書館情報資源の種類と特質(3) ネットワーク情報、電子資料、データベース	(内 容) 電子資料等の定義、種類、特徴など (必要な準備) テキスト2章p48-57を読んでおくこと。	
第6回	図書館情報資源の種類と特質(4) 政府刊行物、地域資料	(内 容) 政府資料、地域資料の定義、種類、特徴 (必要な準備) テキスト2章p. 58-66を読んでおくこと。	
第7回	図書館情報資源の種類と特質(5) 人文・社会・自然科学・生活分野	(内 容) 学術情報(人文、社会、自然科学、生活) (必要な準備) テキスト2章p. 67-72を読んでおくこと。	
第8回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(1) コレクション構築とは、収集基準、方針	(内 容) コレクション構築の意義など (必要な準備) テキスト3章p. 73-85を読んでおくこと。	
第9回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(2) 資料選択のプロセス	(内 容) 資料選択基準、組織体制、選択のための情報 (必要な準備) テキスト3章p. 86-113を読んでおくこと。	
第10回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(3) 資料収集のプロセス	(内 容) 資料の入手方法、収集の実際 (必要な準備) テキスト3章p.113-118を読んでおくこと。	
第11回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(4) 資料の蓄積・保管のプロセス	(内 容) 資料の装備、補修、排架、保存、蔵書点検 (必要な準備) テキスト3章p.119-131を読んでおくこと。	
第12回	図書館情報資源の収集とコレクション構築(5) コレクションの評価、再編	(内 容) コレクションの評価、更新 (必要な準備) テキスト3章p.132-150を読んでおくこと。	
第13回	情報資源の生産・流通と図書館(1) 出版とは、商業出版、学術出版	(内 容) 出版のプロセス、商業出版、学術出版の特質 (必要な準備) テキスト4章p.151-170を読んでおくこと	
第14回	情報資源の生産・流通と図書館(2) 図書館蔵書のデジタル化、利用の権利	(内 容) 図書館蔵書のデジタル化、利用の権利 (必要な準備) テキスト4章p.171-182を読んでおくこと	
第15回	まとめ	(内 容) 総復習 (必要な準備) 図書館のデジタル化の事例をWebで閲覧	

授 業 名	情報資源組織論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などに関しても解説を行なう。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録の作成に必要な基本的な知識を習得する。 3) 分類法を理解し、書架を管理する能力を身につける。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	志保田務編『情報資源組織論 第2版 よりよい情報アクセスを支える技とシステム』ミネルヴァ書房。							
参 考 書	講義で紹介。							
留 意 事 項	テキストは必ず持参すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		情報資源組織論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	情報資源組織化の意義	(内 容) 情報資源組織の業務と意義 (必要な準備) テキスト1章 (p.1-7) を読んでおくこと (10分)	
第2回	目録の役割と種類	(内 容) 目録の役割、目録の種類 (必要な準備) テキスト2章 (p.8-16) を読んでおくこと (10分)	
第3回	目録記入の構成	(内 容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要 (必要な準備) テキスト3章 (p.18-23)、7章 (p.133-151) を読んでおくこと (30分)	
第4回	標目の役割	(内 容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル (必要な準備) テキスト3章 (p.24-28) を読んでおくこと (10分)	
第5回	書誌コントロールと標準化	(内 容) 書誌コントロールの種類と歴史 (必要な準備) テキスト4章 (p.30-34) (10分)	
第6回	集中目録作業	(内 容) 書誌データの流通、MARC (必要な準備) テキスト4章 (p.34-39、p.50) (10分)	
第7回	共同目録作業	(内 容) 総合目録、書誌ユーティリティ (必要な準備) テキスト4章 (p.39-45) を読んでおくこと (15分)	
第8回	OPACの管理と運用	(内 容) OPACの機能と管理、メタデータ (必要な準備) テキスト4章 (p.45-52)、8章 (p.155-164) を読んでおくこと (20分)	
第9回	主題の分析と検索	(内 容) 主題分析の意義、自然語、統制語 (必要な準備) テキスト5章 (p.53-64) を読んでおくこと (20分)	
第10回	件名標目表とシソーラス	(内 容) 件名標目表、シソーラス、『基本件名標目表』の構成 (必要な準備) テキスト5章 (p.64-73) を読んでおくこと (20分)	
第11回	配架と分類作業	(内 容) 図書記号の付与と配架、別置 (必要な準備) テキスト6章 (p.74-78、p.108-113) を読んでおくこと (20分)	
第12回	日本十進分類法による分類作業	(内 容) 分類法の概要、『日本十進分類法』の構成 (必要な準備) テキスト6章 (p.95-108) を読んでおくこと (20分)	
第13回	主要な分類法	(内 容) 主要な分類法の概要 (必要な準備) テキスト6章 (p.81-95) を読んでおくこと (20分)	
第14回	主要な目録規則	(内 容) 主要な書誌記述規則 (必要な準備) テキスト7章 (p.114-133、p.151-153) を読んでおくこと (30分)	
第15回	多様な情報資源組織	(内 容) 図書館における情報資源の組織化の課題 (必要な準備) テキスト8章 (p.176-194) を読んでおくこと (30分)	

授業名	図書館基礎特論			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Special Lecture on Library			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	歴史1回生			
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。各自でテーマを選択し、関連する文献資料を収集し、整理し、自己の見解をまとめ、発表する。各自の関心のあるテーマについて、適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げることにより、自らの意見を理論的に主張し、伝達できるようにする。							
学習成果到達目標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	随時指示する。							
留意事項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館基礎特論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館資料の探索と活用	(内 容) 図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (必要な準備) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。	
第3回	レファレンスサービスを考える	(内 容) 図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (必要な準備) 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。	
第4回	レファレンス質問を考える	(内 容) レファレンス質問を作成する。 (必要な準備) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。	
第5回	レファレンス回答をつくる	(内 容) 図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (必要な準備) 図書館に出向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。	
第6回	図書館の広報活動について考える	(内 容) 図書館の広報活動の概要を説明する。 (必要な準備) 広報の意義について考えておくこと。	
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(内 容) レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (必要な準備) レファレンス回答を完成させておくこと。	
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (必要な準備) ストーリーを考えておくこと。	
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (必要な準備) シナリオを完成させておくこと。	
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(内 容) 仮撮影を行う。 (必要な準備) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。	
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(内 容) 図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (必要な準備) 仮撮影の内容を振り返る。	
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(内 容) 本撮影を行う。 (必要な準備) シナリオを完成させておくこと。	
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(内 容) 撮影したビデオの編集作業を行う。 (必要な準備) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。	
第14回	発表	(内 容) 完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (必要な準備) ビデオを完成させておくこと。	
第15回	まとめ	(内 容) 授業を振り返り、レポートを作成する。 (必要な準備) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要資料があれば入手しておくこと。	

授 業 名	図書館情報技術論		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Theory of Library Information Technology		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	岡 紀子		対 象 学 生	歴史2回生				
授業の概要	<p>今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。</p> <p>本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、データベース、コンピュータシステム、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。</p> <p>2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。</p> <p>3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。</p> <p>4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題遂行能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	図書館と情報技術(樹村房)2017 改訂版 (4月に発刊予定)							
参 考 書	メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)							
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら図書館に足を運び、図書館における情報技術を活用した業務について予め把握しておくこと。 ・自ら図書館に足を運び、学習した情報技術が具体的にはどのように活用・応用されているか確かめること。更に、図書館業務は情報技術を駆使することで、どのように改善できるか自分なりに考えること。 ・情報技術については、日々進化しているので教科書の記載だけでなく、最新の技術を自分で調べること。 							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に質問を受け付ける							

授 業 名		図書館情報技術論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(内 容)	IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (必要な準備) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(内 容)	コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(内 容)	ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(内 容)	情報技術について、情報化社会の特徴との関係について学習し、深く関わっていることを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(内 容)	データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(内 容)	ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(内 容)	コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とIT その1	(内 容)	図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術などを活用したシステムについて学ぶ。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とIT その2	(内 容)	最新の情報技術として、デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスクパリーサービスなどについて学習する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(内 容)	図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第11回	デジタルアーカイブ	(内 容)	デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。デジタルアーカイブウェブサイト例を紹介する。 (必要な準備) 該当箇所の予習
第12回	・最終レポート課題設定 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要	(内 容)	・最終レポートについて課題設定の説明。 WORDにて作成、紙出力する。提出期限は最終回とする。 ・次回以降のDAISY作成のためのアカウント・PWの取得方法を説明する。 (必要な準備) 特になし
第13回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(内 容)	障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。演習取り組みとして、ChattyInfty音声支援システムを用いてmDAISY形式資料の編集を実践学習する。 (必要な準備) アカウントおよびPWの取得(授業でアクセス可能なように、事前にアカウントとPWの取得は必須)
第14回	マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(内 容)	mDAISY編集作業を継続。 (必要な準備) 適宜各自でDAISY作成を進める
第15回	マルチメディアDAISY完成・提出(3) 最終レポートの提出	(内 容)	mDAISY編集作業を継続。 mDAISY編集完成版を提出 (必要な準備) ・最終レポートの作成・提出の準備 ・mDAISYの作成・提出の準備

授業名	図書館サービス概論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Library Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川瀬 綾子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報化社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を理解する。 2) 図書館における様々な図書館サービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業への参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012年							
参考書	授業にて指示する。							
留意事項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのような図書館サービスが行われているかなどを注意深く観察してください。 授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。 出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。							
オフィスアワー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。							

授 業 名	図書館サービス概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(内 容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法など。本講義の進め方等についての説明)及び図書館で行われている図書館サービスとはどのようなものであるか。 (必要な準備) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1	(内 容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (必要な準備) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2	(内 容) 図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 (必要な準備) 教科書第1章3-6項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷1	(内 容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (必要な準備) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスの種類と方法	(内 容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (必要な準備) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(内 容) 資料提供サービスについて理解する。 (必要な準備) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(内 容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (必要な準備) 教科書第5章を読んでおくこと。
第8回	利用者対象別サービス - 児童サービス、ヤングアダルトサービスについて -	(内 容) 利用対象者が幼児や児童などの場合、どのような図書館サービスが行われているかを理解する。 (必要な準備) 公共図書館で行われている児童向けのサービスに参加し、その感想や意見をまとめて授業にのぞむこと。 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(内 容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (必要な準備) 教科書第6章を読んでおくこと。
第10回	図書館サービスとコミュニケーション	(内 容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。 (必要な準備) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスと著作権1	(内 容) 著作権の意義と概要について学習する。 (必要な準備) 教科書第8章を読んでおくこと。
第12回	図書館サービスと著作権2	(内 容) 図書館で行われている模写サービスを中心に解説する。 (必要な準備) 教科書第8章を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスの協力と連携	(内 容) 図書館サービスにおける協力・連携の意義について理解する。 (必要な準備) 教科書第9章を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(内 容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (必要な準備) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。 教科書第10章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(内 容) これからの図書館の在り方について考える。 (必要な準備) 教科書を再度通読すること。

授業名	情報サービス論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Information Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。							
学習成果到達目標	1) 図書館の情報サービスの種類・内容を学ぶ。 2) レファレンス事例発表を行い、図書館業務の理解を深める。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山崎久道、樹村房、2012年							
参考書	随時指示する。							
留意事項	図書館の情報サービスについてより一層理解を深めるために、情報要求を持って公共図書館に行き、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。							
オフィス アワー	初回の授業で提示します							

授 業 名		情報サービス論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと。(20分)
第2回	情報社会と図書館	(内 容) 図書館の役割について理解する。 (必要な準備) テキストP.1~P.18をよく読んでおくこと。(30分)
第3回	情報サービスの実際	(内 容) 情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.24~P.33をよく読んでおくこと。(30分)
第4回	情報サービスの実際	(内 容) 情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.33~P.37をよく読んでおくこと。(30分)
第5回	各種と図書館と情報サービス	(内 容) 各種情報サービスの特徴を理解する。 (必要な準備) テキストP.37~P.40をよく読んでおくこと。(20分)
第6回	レファレンスプロセス	(内 容) レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (必要な準備) テキストP.41~P.65をよく読んでおくこと。(20分)
第7回	情報検索と情報検索システム	(内 容) 情報検索の種類・内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.100~P.112をよく読んでおくこと。(20分)
第8回	情報検索と情報検索システム	(内 容) 情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (必要な準備) テキストP.112~P.119をよく読んでおくこと。(20分)
第9回	情報サービスと知的財産権	(内 容) 著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (必要な準備) 書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第10回	オンラインデータベース	(内 容) オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (必要な準備) 図書館に行き、オンラインデータベースを利用しておく。(60分)
第11回	電子ジャーナル	(内 容) 電子ジャーナルの種類について概説する。 (必要な準備) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。(30分)
第12回	電子ジャーナル	(内 容) オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (必要な準備) 前回の配付プリントをよく読んでおくこと。
第13回	レファレンス事例発表	(内 容) レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 (必要な準備) 発表レジュメを作成する。(60分)
第14回	レファレンス事例発表	(内 容) レファレンス質問とその回答を作成し、発表する。 (必要な準備) 発表レジュメを作成する。(60分)
第15回	まとめ	(内 容) 今後の情報サービスあり方について考える。 (必要な準備) 今までのところを復習しておく。(60分)

授業名	児童サービス論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child Services			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	<p>1) 児童図書館における児童サービスの理念や意義・役割について理解を深める。 2) IT時代を迎える現代の子どもたちにとって、より望ましい読書支援とはどうあるべきかを考える。 3) 子どものための文化財としてある絵本や児童文学等を具体的にとりあげ、その特質をふまえて児童図書館の蔵書構成や選書について検討する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 児童図書館の蔵書を構成する児童文化関連資料の全体像について基本的知識を習得できる。 2) 1) を活用した利用者サービスの内容と方法について理解できる。 3) 選書やブックトークの内容について知り、実践することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない(適宜プリントを配布)。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業形態として、講義、実習、演習形式などを取り入れ、発表する機会を積極的に設ける。 なお、児童図書館や子どもの本についてのフィールドワークを3回実施するので、実際に見学して体験することからも学んでほしい。							
オフィスアワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		児童サービス論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 授業の概要および進め方	(内 容) 本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	図書館における児童サービスの歴史	(内 容) 日本における児童図書館および児童サービスの歴史について理解を深める。 (必要な準備) 児童図書館についての考えをまとめておく。(40分)
第3回	児童関係資料の種類と特質	(内 容) 児童に関連する資料について、その種類や特質について学び、理解を深める。 (必要な準備) 児童図書館を構成する資料について予習しておく。(60分)
第4回	選書の内容と方法 1 フィールドワーク	(内 容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 自分の好きな絵本を一冊よんでおく。(40分)
第5回	選書の内容と方法 2 (絵本)	(内 容) 選書の内容と方法について知るとともに、選書する資料(絵本)の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。(30分)
第6回	選書の内容と方法 3 (絵本)	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)
第7回	選書の内容と方法 フィールドワーク	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に絵本の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 絵本の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)
第8回	選書の内容と方法 1	(内 容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 低学年読み物の特徴について考えておく。(30分)
第9回	選書の内容と方法 2	(内 容) 選書する資料の特質をふまえ、その視点を学ぶ。 (必要な準備) 読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)
第10回	選書の内容と方法 3	(内 容) 資料をいかに評価するか、実際に読み物の選書を行うことで資料に対する見識を培う。 (必要な準備) 読み物の選書を行う際の重要な点について考えておく。(40分)
第11回	児童関係コレクションの収集・構築 フィールドワーク	(内 容) 選書のありかた、蔵書構成などについて、実際の児童図書館をサンプルに分析し、そのありようを学ぶ。 (必要な準備) 身近な児童図書館を見学して蔵書構成について考えておく。(40分)
第12回	子どもと本をつなぐ活動1	(内 容) 読み聞かせやブックトークなど、主な活動について理解し、その特質と役割を学ぶ。 (必要な準備) ブックトークについて調べておく。(40分)
第13回	子どもと本をつなぐ活動2	(内 容) 図書館の乳幼児サービス、特にブックスタート活動について理解を深める。 (必要な準備) ブックスタート運動について事前学習しておく。(40分)
第14回	子どもと本をつなぐ活動3	(内 容) オンラインを活用した児童向け検索システムについて知り、子どもと本との関係について理解を深める (必要な準備) 子どもの資料検索についてサイトを調べておく。(40分)
第15回	本授業のまとめと今後の課題を考える	(内 容) 全回のまとめを行い、これからの児童サービスについて考える。 (必要な準備) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像を考えておく。(60分)

授 業 名	情報サービス演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Information Service Practice			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	河塚 幸子			対 象 学 生	歴史2回生			
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習で行う。また、レファレンス質問事例をもとに冊子体の文献情報の読み方、利用法等を図書館の蔵書探索を通じて学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源の知識を習得する。 2) 情報検索技術を習得する。 3) レファレンスインタビューにおける利用者とのコミュニケーションの理解とプレゼンテーションができる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	原田智子編『現代図書館情報学シリーズ7 情報サービス演習』、樹村房、2015(初版5刷)、¥2000(税別)							
参 考 書	今まどこ編『図書館学基礎資料 第12版』、樹村房、2015							
留 意 事 項	毎回の講義で紹介された専門用語は意味・用法等を復習してマスターすること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		情報サービス演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、図書館探索	(内 容) 本講義の概要、目標の解説、 (必要な準備) テキストの監修者の言葉、序文、目次を読むこと	
第2回	情報サービスの設計と評価	(内 容) 情報サービスの概論、レファレンスサービスの解説 (必要な準備) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと	
第3回	情報サービス演習準備、情報検索基礎	(内 容) 検索理論、検索方式、検索語、トランケーション (必要な準備) 「検索」という言葉の意味を調べておくこと	
第4回	情報資源の探し方	(内 容) さまざまな情報資源の種類、使い方 (必要な準備) 前回講義の基礎理論を理解しておくこと	
第5回	発信型情報サービス	(内 容) 発信型情報サービスの構築、事例調査 (必要な準備) テキスト15章を読み予習すること	
第6回	Webページ、Webサイトの探し方	(内 容) Webページ、Webサイト、検索エンジン、検索演習 (必要な準備) テキスト4章を読み予習すること	
第7回	図書情報の探し方	(内 容) 図書情報の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト5章を読み予習すること	
第8回	雑誌および雑誌記事の探し方:	(内 容) 雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト6章を読み予習すること	
第9回	新聞記事の探し方	(内 容) 新聞の種類、特徴、探し方、検索演習 (必要な準備) テキスト7章を読み予習すること	
第10回	言葉、事柄、統計の探し方	(内 容) 言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方 (図書館演習1) (必要な準備) テキスト8章を読み予習すること	
第11回	人物、企業、団体の探し方	(内 容) 人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方、検索 (必要な準備) テキスト11章を読み予習すること	
第12回	法律、判例、特許の探し方	(内 容) 法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方、検索 (必要な準備) テキスト12章を読み予習すること	
第13回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(内 容) 歴史、日時、地理、地名、地図の種類、特徴、探し方 (図書館演習2) (必要な準備) テキスト9章を読み予習すること	
第14回	レファレンスコレクションの整備	(内 容) レファレンスコレクションの整備・評価、演習 (必要な準備) テキスト14章を読み予習すること	
第15回	パスファインダーの調査事例相互学習、まとめ	(内 容) パスファインダー調査成果発表 (必要な準備) 各自調査結果の発表準備(要点整理)	

授 業 名	情報資源組織演習		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Bibliographic Organization Practice		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	喜多 祐子		対 象 学 生	歴史2回生				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	志保田務・高鷲忠美編『情報資源組織法 第2版』第一法規。							
参 考 書	講義で随時紹介。							
留 意 事 項	テキストは毎回持参すること。講義内容を復習すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		情報資源組織演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	書誌データの作成	(内 容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (必要な準備) テキストを持参すること。	
第2回	各書誌的事項の記述	(内 容) 和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第3回	書誌階層構造	(内 容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第4回	継続資料の書誌データの作成	(内 容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第5回	非図書資料の書誌データの作成	(内 容) 地図資料、マイクロ資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する 書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第6回	洋書の書誌データの作成	(内 容) 洋書に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第7回	標目の付与	(内 容) 標目の表記方法を解説、演習問題 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第8回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(内 容) オリジナルカタログニング、コピーカタログニングについて解説、メタ データの作成 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第9回	主題組織法	(内 容) 主題分析とその表示を解説 (必要な準備) 前回の講義内容を復習	
第10回	日本十進分類法の活用法	(内 容) NDCの構成、利用の仕方を解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(内 容) NDCの形式区分に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(内 容) NDCの地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、言語 共通区分、文学共通区分、その他の固有補助表	(内 容) NDCの言語区分・言語共通区分・文学共通区分・その他の固有補助 表に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第14回	分類規程・図書記号の付与	(内 容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	
第15回	基本件名標目表による件名付与	(内 容) BSHの構成、利用の仕方を解説、演習問題 (必要な準備) テキストを必ず持参、前回の講義内容を復習	

授業名	図書・図書館史			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	歴史2回生			
授業の概要	古代の文字の歴史を含めた図書の歴史の変遷を概観するとともに、活字資料の重要性を確認させる。また、公共図書館が急速に増えている現状を認識しつつ、古代から近代公共図書館誕生までの推移を西欧、中国、日本の視点から考察する。授業は講義形式で行う。							
学習成果到達目標	1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を学ぶ。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を把握する							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『図書・図書館史』（現代図書館情報学シリーズ11）佃一可、樹村房、2012年							
参考書	随時指示する。							
留意事項	講義を中心に進めるが、適宜、ビデオなどの視聴覚資料を用いて、図書館の歴史について理解を深められるようにしていきたい。普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書・図書館史	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	古代の図書館(西洋)	(内 容) 文字の発生と記録、古代の図書館について概説する。 (必要な準備) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。	
第3回	中世の図書館(西洋)	(内 容) 修道院図書館や大学図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと	
第4回	近世の図書館(西洋)	(内 容) ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。	
第5回	近代の図書館(西洋)	(内 容) 大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。	
第6回	現代の図書館(西洋)	(内 容) 20世紀以降の各国図書館の状況について概説する。 (必要な準備) テキストP.167~P.182をよく読んでおくこと。	
第7回	中国の図書の歴史(古代)	(内 容) 紙の発明以前の図書について説明する。 (必要な準備) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。	
第8回	中国の図書の歴史(中世)	(内 容) 紙の発明、四部分類について説明する。 (必要な準備) テキストP.78~P.86をよく読んでおくこと。	
第9回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(内 容) 印刷時代の図書について説明する。 (必要な準備) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。	
第10回	古代の図書館(日本)	(内 容) 奈良時代・平安時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。	
第11回	中世の図書館(日本)	(内 容) 鎌倉時代・室町時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。	
第12回	近世の図書館(日本)	(内 容) 江戸時代の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。	
第13回	近代の図書館(日本)	(内 容) 明治期の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.147~P.161をよく読んでおくこと。	
第14回	近代の図書館(日本)	(内 容) 大正・昭和前期の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.161~P.166をよく読んでおくこと。	
第15回	現代の図書館(日本)	(内 容) 昭和後期以降の図書館について概説する。 (必要な準備) テキストP.183~P.196をよく読んでおくこと。	

授 業 名	サービス産業実務・演習		開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Practical Business and Practice of Service Industry		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	川島 智生		対 象 学 生	歴史2回生				
授業の概要	サービス産業としての観光について、その意味・内容について考える。地域観光の視点から現状を把握、観光事業と地域振興について学習、商品開発についての演習を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 地域と観光についての現状を把握することを到達目標とする。 2) 文化・伝統の商品化についての課題、問題点について自ら考え、理解出来ることを到達目標とする。 3) 文化・伝統の商品化における課題、問題点をふまえ、観光サービスを自ら考え、理解出来ることを到達目標とする。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配付する							
参 考 書	必要に応じて資料を配付する							
留 意 事 項	受講生の意欲と希望によって演習内容の変更、フィールドワークを実施する場合があります。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		サービ ス 産業実務・演習
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) スケジュールならびにオリエンテーション (必要な準備)
第2回	サービス業の概念	(内 容) サービス業と労働の概念、と観光業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第3回	観光についての歴史	(内 容) 観光についての歴史と動向について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第4回	観光と環境	(内 容) 地域観光事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第5回	地域観光事業	(内 容) 地域事業について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第6回	農山村観光	(内 容) 農山村について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第7回	地域の商品化	(内 容) 地域の商品化について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第8回	地域の商品化とその担い手	(内 容) 地域の商品化とその担い手について (必要な準備) 配布資料を事前学習
第9回	地域観光についてのグループワーク(1)	(内 容) 地域観光についてのグループワーク (必要な準備) 地域観光についての情報収集
第10回	地域観光についてのグループワーク(2)	(内 容) KJ法を用いて地域観光の分析 (必要な準備) KJ法の準備
第11回	地域観光についてのグループワーク(3)	(内 容) KJ法を用いて地域観光の分析 (必要な準備) KJ法の準備
第12回	プレゼンテーション(1)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第13回	プレゼンテーション(2)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第14回	プレゼンテーション(3)	(内 容) 各自が選んだサービス産業についての発表 (必要な準備) プレゼンテーションの用意とレジュメの配布
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめと総括 (必要な準備) レポートの用意

授 業 名	国内旅行業務			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Domestic Travel Services			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	<p>旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から広範囲にわたる知識の取得をめざす。 最終的な目的は、旅行業務取扱管理者試験に合格することなので、国内旅行業務取扱管理者試験に向け、演習問題を取り入れ合格を目指す。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	日本の各地域の観光資源の特徴や位置関係を把握することにより、観光ルートの習得につなげる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	必要に応じて資料配付、または指示							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	限られた時間の中で最大限の学習効果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習や問題演習を反復して行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		国内旅行業務
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方を説明する。 観光資源の内容、分類、観光対象について概説する。 (必要な準備) テキストを購入し、目を通しておくこと。(60分)
第2回	日本の観光資源(1)北海道	(内 容) 北海道のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第3回	日本の観光資源(2)東北	(内 容) 東北のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第4回	日本の観光資源(2)東北	(内 容) 東北のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第5回	日本の観光資源(3)関東	(内 容) 関東のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第6回	日本の観光資源(3)関東	(内 容) 関東のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第7回	日本の観光資源(4)中部	(内 容) 中部のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第8回	日本の観光資源(4)中部	(内 容) 中部のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第9回	日本の観光資源(5)近畿	(内 容) 近畿のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第10回	日本の観光資源(5)近畿	(内 容) 近畿のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第11回	日本の観光資源(6)中国・四国	(内 容) 中国・四国のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第12回	日本の観光資源(6)中国・四国	(内 容) 中国・四国のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第13回	日本の観光資源(7)九州・沖縄	(内 容) 九州・沖縄のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第14回	日本の観光資源(7)九州・沖縄	(内 容) 九州・沖縄のカテゴリー別の観光資源をテキストに沿って説明する。 (必要な準備) 国内観光地理サブノートの都道府県ごとの地図と観光データを書き込み、予習をしておくこと。(60分)
第15回	日本の観光資源まとめ	(内 容) 講義で習得した日本全国の観光資源についてのまとめ (必要な準備) 過去のサブノートと教科書を復習する(60分)

授 業 名	国内旅行業務		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Domestic Travel Services		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	湯川 宗紀		対 象 学 生	歴史1回生				
授業の概要	旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中で、観光・旅行業関連の法令・約款・実務について学習する。 国内旅行業務取扱管理者試験に備えた講義でもあり、模擬テストをおこなう。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目標とする。 2) 観光業界における基礎的な実務を習得する。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	旅行業実務シリーズ3 2016国内運賃・料金 JTB総合研究所							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	限られた時間の中で最大限の学習効果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習や問題演習を反復して行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	国内旅行業務	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義内容と目的について説明する。 国家試験対策ともなっているため、試験についての説明をおこなう。 (必要な準備) 地図帳やJRの時刻表をよく読んでおく(30分)
第2回	宿泊料金の計算	(内 容) 宿泊料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 教科書の該当部分をよく読んでおく(60分)
第3回	フェリーの計算 貸切バスの計算	(内 容) フェリーと貸切バスの運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第4回	貸切バスの計算	(内 容) 貸切バスの運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第5回	復習テスト	(内 容) これまでの総まとめと演習問題を解く。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習しておく(60分)
第6回	国内航空運賃・料金	(内 容) 国内航空の運賃・料金の構成と計算方法を知る。 (必要な準備) 教科書の該当部分をよく読んでおく。航空会社の時刻表を入手して熟読する(60分)
第7回	JR運賃	(内 容) JRに関する基礎知識と運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第8回	JR運賃	(内 容) JR運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習しておく(60分)
第9回	JR運賃	(内 容) JR運賃の構成、その計算方法について知識を得る。 また各規則について学ぶ。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第10回	JR運賃復習テスト	(内 容) 演習問題を解くことで理解を深める。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第11回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 教科書をよく復習する(60分)
第12回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容をよく復習する(60分)
第13回	JR料金	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する(60分)
第14回	JR料金 復習テスト、まとめ	(内 容) JR料金の構成、その計算方法について知識を得る。また各規則について学ぶ。これまでの復習をおこない、理解度をチェックする。 (必要な準備) これまでの講義内容をよく復習する。練習問題を解く。
第15回	過去問題演習	(内 容) これまでの総復習と疑問点の克服を行い、本年度の試験に対応した模擬試験問題を解く。 (必要な準備) これまでの項目すべての総復習をおこなう。

授 業 名	旅行業法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Travel Agency Act			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 研一			対 象 学 生	歴史1回生			
授業の概要	旅行のプロとして携わる『旅行業務実務』と密接に関係する『しなければならないこと』『してはいけないこと』を法律的視点、又現場実務の中で具体的な実例を基に学習し、9月に実施される国内旅行業務取扱管理者試験に合格に備える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 「旅行業法」という『法律』の理解となぜこの法律が制定された理由を知る。旅行者と旅行者の取引が法律上どのように規制されているのかを理解することにより適正な取引を行うことができる。</p> <p>2) 『旅行業』の実務における法律の範囲を正確に理解する事により『してはいけないこと』『しなければならないこと』を明確に判断できるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (旅行業における『言語』の理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(順守規定と罰則規定の確認)		
テ キ ス ト	一般社団法人 日本旅行業協会 発行 『旅行業法関係法令集』、『約款例集』							
参 考 書	必要に応じて指示							
留 意 事 項	『旅行業法』という『法律』を判りやすく、実務とどのように関連しているのか個別の事例を基に理解してもらう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		旅行業法	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 旅行業法が制定された背景とは	(内 容) イントロダクション、授業の進め方、評価方法について概説する。 (必要な準備) テキストを購入して目を通しておくこと。(60分)	
第2回	旅行業法の内容(目的・定義)	(内 容) 基礎知識として、旅行業法令の法体系や法を構成する各制度のアウトラインをつかむ。 (必要な準備) 旅行業法令を学習するうえで知っておきたい予備知識としてテキストを読んでおくこと。(60分)	
第3回	旅行業法の施行規則の理解『登録制度』	(内 容) 「旅行業」の業務範囲について、種別ごとに正確に理解する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第4回	『営業保証金制度』と『弁済業務保証金』	(内 容) 営業保証金制度の趣旨と制度について詳しく学習する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第5回	旅行業務取扱管理者について『旅行業務取扱管理者』の選任、『職務』	(内 容) 旅行業務取扱管理者の具体的な職務とは何か、法的な立場と役割を明確に理解する。 (必要な準備) テキストをしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第6回	旅行業約款について『約款』の意味と『標準旅行業約款』、『約款の記載事項』を学習	(内 容) 旅行業約款の種類について、また旅行業法との違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおくこと。(60分)	
第7回	中間まとめ『旅行業法』、『制度』、『約款』各項目の整理とまとめ	(内 容) まとめをした後、中間テストを行う。 (必要な準備) これまで授業で学んだところをしっかりと復習する。(60分)	
第8回	取引準則(法律にのっとた取引の基本)	(内 容) 旅行取引を適正化するための規定について詳しく学習する。 (必要な準備) 「第12条～第12条の9」の条文をしっかりと読んでおくこと。(60分)	
第9回	旅程管理、旅程管理業務の実務について	(内 容) 企画旅行を実施する旅行者の義務である、企画旅行の円滑な実施を確保するための措置を学ぶ。 (必要な準備) 法12条の10および施行規則32条をよく理解しておくこと。(60分)	
第10回	禁止行為と行政処分について	(内 容) 旅行業法において、「～してはならない」という禁止行為についての規定と登録行政庁による「業務改善命令」や「罰則」などの行政処分について学ぶ。 (必要な準備) 旅行業法では、旅行者が行ってはならない13つの行為を予習しておくこと。(60分)	
第11回	旅行業代理業と実務	(内 容) 旅行者代理業者とは、旅行者の代理として、旅行業務を取り扱う者をいう。旅行者代理業者の行う業務の範囲を学習する。 (必要な準備) 登録制度をもう一度復習し、整理しておくこと。(60分)	
第12回	旅行業協会と弁済業務保証金制度について	(内 容) 旅行業協会は旅行者が社員となり組織する団体である。旅行業協会の行う業務について学習する。 (必要な準備) テキストをよく読んでおくこと。(60分)	
第13回	演習問題	(内 容) 旅行業務取扱管理者試験の過去問題を取り上げる。 (必要な準備) テキストを復習する。(60分)	
第14回	演習問題	(内 容) 旅行業務取扱管理者試験の過去問題を取り上げる。 (必要な準備) テキストを復習する。(60分)	
第15回	全体まとめ	(内 容) 習得事項の確認、資格試験の勉強方法とテクニクなど (必要な準備) 授業で学習した内容をもう一度理解しておくこと。(60分)	

授 業 名	旅行業約款			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Travel Agent Contract			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	鈴木 研一			対 象 学 生	歴史1回生		
授業の概要	<p>旅行業者と旅行者との間の契約条項である『約款』の意味と『標準力業約款』の『適用範囲』『用語の定義』『旅行契約の内容』『手配代行者』の総則(ルール)を旅行形態を『募集型企画旅行』と『受注型企画旅行』『手配旅行契約』『渡航手続き代行』『旅行相談契約』に分け、それぞれの違いを理解する。</p> <p>『旅行業約款』は現場で実際業務に携わる際には最も重要な細則であり、十分に理解する事により消費者(旅行者)との正しい取引を実行できるようにする。</p> <p>9月の国内旅行業務取扱管理者試験の合格に備える。</p>						
学習成果到達目標	<p>実際の旅行取扱の中で『約款』がどのように運用されているかを理解することにより適正な取引が行えるようになる。種々の旅行形態『募集型』『企画型』『手配』『手続き代行』『旅行相談契約』などそれぞれに対応する『標準旅行業約款』を理解し、適正な取引ができる。</p>						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (『旅行契約』の違いを理解	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	課題発見・解決能力	(実際の取引における『実例』を理解
テキスト	一般社団法人 日本旅行業協会 発行 『約款例集』						
参考書	必要に応じて指示						
留意事項	旅行業務実務にかかわる取扱い細則なので『旅行形態』をよく理解したうえでそれぞれの細則により正確な取引を行えるようにする。又、過去における具体的事例を多用し、言葉ではなく『実例』で理解を深めるようにする。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		旅行業約款
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 最終目的である『旅行業務取扱管理者』、『旅程管理主任者』の資格取得について	(内 容) イントロダクション、『旅行業務取扱管理者』、『旅程管理者』の資格と役割を理解、『資格取得のための授業の進め方』、『評価方法について』概説する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレット(国内・海外)の約款記載を事前に読んでおく(30分)
第2回	旅行業約款(1)旅行業の種類と旅行の種類(旅行商品流通の仕組み)『募集型』『受注型』『手配』『渡航手続代行』『旅行相談』等の違い	(内 容) 旅行業の種類(第1・2・3・4種旅行業)及び旅行業代理業について、また、パッケージツアー等について説明する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第3回	旅行業約款(2)契約の締結(旅行パンフレットに何が書いてあるか)	(内 容) 契約の申し込みから、締結の拒否、成立の時期、契約書面の交付、確定書面、旅行代金についてパンフレットに基づいて理解する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第4回	旅行業約款(3)契約の変更(どんな場合に申込受付後に旅行代金の値上げができるのか)	(内 容) 契約内容、旅行代金の額の変更について具体的に学習する。 (必要な準備) 旅行会社のパンフレットをよく読んでおく(60分)
第5回	旅行業約款(4)契約の解除(どんな場合に施行実施や参加をキャンセルできるのか)	(内 容) 契約の解除に関する部分は、試験で最も出題頻度の高い部分であるので、しっかりと学習する。 (必要な準備) 教科書第4章「契約の解除」を熟読しておく。(60分)
第6回	トラブル事例(1)の学習と解決策	(内 容) 実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第7回	中間まとめ	(内 容) まとめをした後、旅行契約とは約款とは何かを問う。 各種旅行契約の違いを整理する。 (必要な準備) 『募集型企画旅行』『受注型企画旅行』『手配旅行』の違いを整理
第8回	旅行業約款(5)旅程保証(どんな日に旅行日程の変更はできるのか)	(内 容) 旅程保証制度は、契約内容に重要な変更があった場合に、旅行者が一定の変更補償金を支払うものであることを事例をもとに概説する。 (必要な準備) 教科書第7章「責任」を熟読しておく(60分)
第9回	トラブル事例(2)の学習と解決策	(内 容) 実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第10回	旅行業約款(6)旅程管理(添乗員の役割と責任)	(内 容) 旅行者の安全かつ円滑な旅行の実施を確保するための業務、添乗員の業務について事例をもとに紹介する。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)
第11回	旅行業約款(7)特別補償(旅行中の事故や病気の補償)	(内 容) 諸外国にも例を見ない『消費者保護の規定』であるため、各細目をしっかりと整理しながら、ケーススタディーで説明する。 (必要な準備) 第27条の責任の解説をしっかりと理解しておくこと。(60分)
第12回	トラブル事例(3)の学習と解決策	(内 容) 実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第13回	運送・宿泊約款(運送機関やホテルの約款にはどんなことが書いてあるか)	(内 容) 国内航空、JR、フェリー、一般貸切旅客自動車等の約款ならびに宿泊規約を学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当部分を読んでおく。(60分)
第14回	トラブル事例(4)の学習と解決策	(内 容) 実際に起きたトラブル事例を取り上げ、旅行業約款の観点からと、実務上の観点から解決策を学ぶ。 (必要な準備) これまで学習した約款を復習しておく。(60分)
第15回	全体まとめ『各旅行形態』の項目別(契約、変更、解除、団体、旅程管理、責任等)整理	(内 容) 習得事項の確認、資格試験の勉強方法とテクニクなど (必要な準備) これまで学習したことをの中で授業中に修得した『ポイント』の整理と復習しておくこと。(60分)

授業名	日本国憲法 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	The Constitution of Japan			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	<p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようにつくられ運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (国語表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著(嵯峨野書院)							
参考書	『憲法 [第五版] 』 [岩波書店]、『憲法判例百選 ・ [第6版] 』 [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。							
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		日本国憲法 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	法学入門	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。	
第2回	憲法入門	(内 容) 二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第3回	日本国憲法の成立	(内 容) 日本国憲法の成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第4回	天皇	(内 容) 天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承、皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。	
第5回	国民の権利及び義務	(内 容) 人権総論、国民の義務 (必要な準備) テキスト第3章第1・8節を精読しておく。	
第6回	国会 1	(内 容) 民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。	
第7回	国会 2	(内 容) 国会の地位、国会の構成、国会の活動、国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4・5・6節を精読しておく。	
第8回	内閣1	(内 容) 内閣の地位、立法権と行政権の関わり (必要な準備) テキスト第5章第1・2節をを精読しておく。	
第9回	内閣2	(内 容) 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章第3・4節を精読しておく。	
第10回	司法 1	(内 容) 司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。	
第11回	司法 2	(内 容) 裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。	
第12回	財政	(内 容) 財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。	
第13回	地方自治	(内 容) 地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。	
第14回	改正	(内 容) 憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。	
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容) 憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章を精読しておく。	

授業名	日本国憲法 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	The Constitution of Japan			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸本 正司			対象学生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	<p>憲法とは如何なる法か、憲法に基づいて国家の組織はどのようにつくられ運用されているのか、また、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか。さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について、中学・高校以来の学習の深化を図る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 憲法学(政治学)上の基本的な用語が理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることに気付く。 3) さまざまな憲法学説を学ぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (国語表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著(嵯峨野書院)							
参考書	『憲法 [第五版] 』 [岩波書店]、『憲法判例百選 ・ [第6版] 』 [有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。							
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。							
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。							

授 業 名		日本国憲法 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	法学入門	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。	
第2回	憲法入門	(内 容) 二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第3回	日本国憲法の成立	(内 容) 日本国憲法の成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節 ・ を精読しておく。	
第4回	天皇	(内 容) 天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承、皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。	
第5回	国民の権利及び義務	(内 容) 人権総論、国民の義務 (必要な準備) テキスト第3章第1・8節を精読しておく。	
第6回	国会 1	(内 容) 民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。	
第7回	国会 2	(内 容) 国会の地位、国会の構成、国会の活動、国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4・5・6節を精読しておく。	
第8回	内閣 1	(内 容) 内閣の地位、立法権と行政権の関わり (必要な準備) テキスト第5章第1・2節をを精読しておく。	
第9回	内閣 2	(内 容) 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章第3・4節を精読しておく。	
第10回	司法 1	(内 容) 司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。	
第11回	司法 2	(内 容) 裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。	
第12回	財政	(内 容) 財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。	
第13回	地方自治	(内 容) 地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。	
第14回	改正	(内 容) 憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。	
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容) 憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章を精読しておく。	

授業名	教育実習事前・事後指導 a (幼稚園)			開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・堀出 雅人・石川 千加代・奥 景子			対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	幼稚園教諭として責任ある行動がとれるように、教育実習の意義・目標・実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習では講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。						
学習成果到達目標	1) 幼稚園現場で実際に保育し幼児理解を学び身に付けたことが実践できるように、総合的な力を身につけることができる。 2) 幼稚園見学・保育の観察記録・指導計画案の理解などを通して、幼稚園教育実習への意識と責任をもつことができる。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験から学ぶことができる。						
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」京都教育大学附属幼稚園編						
参考書							
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。						
オフィスアワー	木曜日12時10分から13時						

授 業 名		教育実習事前・事後指導 a (幼稚園)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	教育実習事前・事後指導の授業について	(内 容) 授業の進め方 受講の心構え 教育実習の目的 幼稚園ボランティアの意義 (必要な準備) シラバスを読んでくる。(20分)	
第2回	幼稚園教育の内容	(内 容) 幼稚園教育の内容 (必要な準備) 幼稚園の教育の役割を調べる。(30分)	
第3回	幼児理解について	(内 容) 実習の中心となる幼児理解と幼児のかかわりについて (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第4回	幼児教育と仏教	(内 容) 仏教の精神と幼児教育について (必要な準備) 幼稚園での仏教行事について調べる。(40分)	
第5回	幼稚園指導計画の理解	(内 容) 指導計画案の理解 (必要な準備) 前回の復習(30分)	
第6回	幼児の観察記録の記入	(内 容) 幼稚園見学の課題である観察記録の目的・方法について 観察記録の作成 (必要な準備) 前回の復習(60分)	
第7回	幼稚園の見学について	(内 容) 華頂幼稚園の概要 見学の注意事項の確認 (必要な準備) 観察記録の仕上げ・提出(60分)	
第8回	華頂短期大学附属幼稚園見学(前半グループ)	(内 容) 幼稚園教育の理解 幼児理解 (必要な準備) 幼稚園のしおりの復習(20分)	
第9回	華頂短期大学附属幼稚園見学(後半グループ)	(内 容) 幼稚園教育の理解 幼児理解 (必要な準備) 幼稚園のしおりの復習(20分)	
第10回	2回生の教育実習体験を聴く会	(内 容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見直しをもつ。 (必要な準備) 観察記録の作成・提出(90分)	
第11回	実技・教材研究(行事と保育)	(内 容) 季節感を取り入れた制作を主とした保育の流れを体験する。 (必要な準備) 幼児が興味をもつ教材を調べる。(30分)	
第12回	実技・教材研究(制作と遊び)	(内 容) 季節の行事に関連した制作と制作物を使った遊びを体験する。 (必要な準備) 幼児の遊びを予想し制作内容を考えておく。(30分)	
第13回	華頂幼稚園見学の振り返り	(内 容) 幼稚園見学を振り返る。各クラスの保育の内容を知り理解を図る。 (必要な準備) 自分が見学した保育を振り返り、指導案を見直しておく。(30分)	
第14回	実技・教材研究(歌と生活)	(内 容) 生活の歌、仏教保育の歌、季節の歌、行事の歌を覚える。 (必要な準備) 授業全体の振り返り(60分)	
第15回	幼稚園現場研修のまとめ	(内 容) 各現場研修の状況と体験について共通理解し、2回生の授業につなぐ。 (必要な準備) 授業全体の振り返り(60分)	

授業名	幼児と生活			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Infant and Life			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	乾 真理子・岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>幼児の遊びや生活経験をかさね身についた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 日常生活のなかから自然や生き物のなりたちや様子を感ずることができる。 2) 教材づくりの活動を通して、自分が生まれ育った地域社会や身近な人々とのかかわりについての理解を深め、気づいたことを発表する。 3) ワードやパワーポイントなどパソコンを使って課題や発表をすることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	なし							
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フルール館）『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省（日本文教出版） とその他は適宜紹介する。							
留意事項	出席を重視する。この授業は完全なオムニバス形式で行う。							
オフィス アワー	1回目の授業で発表する							

授 業 名		幼 児 と 生 活
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する (必要な準備) シラバスで授業の流れを確認しておく(20分)
第2回	「生活科」について理解する 幼児教育と小学校教育との連続性	(内 容) 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する (必要な準備) 配布プリントを読んで復習しておく(40分)
第3回	幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する 幼児理解に基いた教材づくり	(内 容) 幼小中高一貫した「学び」の構造を理解する (必要な準備) プリントを読んで教材を考えておく(40分)
第4回	幼児と身近な人々とのかかわり テーマを設定する	(内 容) 生活科での取り組みから、幼児と身近な人々とのかかわりについて理解する (必要な準備) プリントを読みテーマを考えておく(60分)
第5回	幼児と地域社会とのかかわり(自分が生まれ育った地域社会について調べてみよう)	(内 容) 地域社会についての理解を深める (必要な準備) 自分が生まれ育った頃の地域社会について調べておく(60分)
第6回	幼児の生活と地域社会 スライドづくり	(内 容) 発表内容の構成を考える (必要な準備) 幼児の生活と地域社会について考えておく(60分)
第7回	幼児の生活と地域社会 プレゼンテーション	(内 容) 幼児がどのような社会環境の中で生活しているのかを理解し、表現することができる (必要な準備) ポートフォリオを完成させてくる(60分)
第8回	これまでを振り返り、次に繋がる課題を見出す	(内 容) 身近な地域社会と自分自身のかかわりについて気づいたことをまとめる (必要な準備) 今までのプリントを読み返す(60分)
第9回	幼児理解に基づいた教材づくり	(内 容) 自然観察について学ぶ (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第10回	遊びの中で広がり深まる生活経験	(内 容) 自然と生活環境の関連を考え、教材設定を行う (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第11回	幼児と自然とのかかわり	(内 容) 生活科での取り組みから自然とのかかわりを考える (必要な準備) 周りの自然を観察する(30分)
第12回	幼児の活動を豊かにする事例研究(秋を見つけよう)	(内 容) 発表原稿の作成 (必要な準備) 写真や資料を準備する(60分)
第13回	聴くことと伝え合いを育てる	(内 容) 「自然観察」の経験を言葉で表現する (必要な準備) 発表原稿を準備する(60分)
第14回	生活についての振り返り	(内 容) 食や睡眠の重要性を確認する (必要な準備) 1日の生活時間表を完成させておく(60分)
第15回	生活科の授業内容の計画	(内 容) 生活科の授業内容の計画をする (必要な準備) 資料を読んでおくこと(30分)

授業名	教育実習事前・事後指導 b			開講学年	2年生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・堀出 雅人・石川 千加代・奥 景子			対象学生	幼児教育2年生		
授業の概要	教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。						
学習成果到達目標	1) 実習の意義、目的を学ぶことができる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観について学ぶことができる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習直前の準備として、幼児とのかかわり(指導)、指導計画案の理解、実習ノート記入などの重要な意義を確認することができる。						
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 「教育課程・指導計画」奈良女子大学附属幼稚園編						
参考書							
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。授業時間外で評価面談を行う。						
オフィスアワー	木曜日12時10分から13時						

授 業 名		教育実習事前・事後指導 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期の教育実習指導について	(内 容) 実習に向けた授業の進め方を理解する。実習生カードを記入する。 (必要な準備) 1回生の授業内容を確認しておく。(30分)	
第2回	幼稚園教諭になるための心構え 教育実習2週間の内容	(内 容) 教師としての意識をたかめる。2週間の実習内容を想定する。 (必要な準備) どのような教師になるか考える。(30分)	
第3回	6月実習目標の設定 オリエンテーションと報告書の説明	(内 容) 6月実習目標の設定、オリエンテーションの内容と報告書の記入について理解する。 (必要な準備) 保育実習に至る手続きを振り返っておく。(30分)	
第4回	「幼稚園指導計画案」の作成1 6月の指導計画	(内 容) 指導計画の目的と書き方を理解する。6月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (必要な準備) 6月実習目標の設定・提出(60分)	
第5回	実習の心構え 実習ノート記入の実際	(内 容) 6月実習ノート配布 実習の心構えの確認 実習ノートの内容を把握する。 (必要な準備) 指導計画案の立案・提出(120分)	
第6回	実習ノートを書くための保育の理解	(内 容) 実習ノート記入の必要性を理解し、記録のとり方を練習する。 (必要な準備) 配布された実習ノートを見直して来る。(30分)	
第7回	諸届けの記入 個人情報保護に関する誓約書の説明 実習訪問担当教員との顔合わせ	(内 容) 諸届けの記入の仕方と必要性を理解する。個人情報保護の重要性と社会人としての責任を確認する。 (必要な準備) 幼児の姿と保育の記録の作成・提出(60分)	
第8回	「幼稚園指導計画案」の作成2 学生作成の指導 計画案から学ぶ 実習評価の観点	(内 容) 学生が作成した指導案をもとに書き方を学び、各自見直す。実習評価の観点について理解する。 (必要な準備) 実習ノートの必要事項を記入する。(90分)	
第9回	幼稚園教育実習期間	(内 容) 実習 (必要な準備) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などをあらかじめ行っておく。(随時)	
第10回	幼稚園教育実習期間	(内 容) 実習 (必要な準備) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などをあらかじめ行っておく。(随時)	
第11回	6月実習の振り返り 9月実習の目標設定	(内 容) 振り返りシートを記入する。6月実習の反省をもとに9月実習の目標を設定する。 (必要な準備) 振り返りシート記入内容を考えてくる。(60分)	
第12回	幼児と楽しむ保育内容(実技・教材研究)	(内 容) 七夕の伝統行事を取り入れた幼児と楽しむ保育を体験する。 (必要な準備) 9月実習目標の設定・提出(60分)	
第13回	「幼稚園指導計画案」の作成3 9月の指導計画	(内 容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (必要な準備) 「教育課程・指導計画」の各学年9月の内容を予習して来る。(60分)	
第14回	6月実習の体験報告	(内 容) 各園の状況や実習内容の共通理解を図る。 (必要な準備) 9月指導計画案の立案(120分)	
第15回	9月実習に向けての心構えと準備	(内 容) 9月実習ノートの配布 9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする。 (必要な準備) 9月の保育を予想して心構えややるべきことを確認しておく。(30分)	

授業名	教職実践演習（幼稚園）			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Teaching Practice (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ・堀出 雅人・丸田 まゆみ			対象学生	幼児教育2年生			
授業の概要	教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかり身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための専門性を高め資質の向上を図る。							
学習成果到達目標	1) 幼稚園実習・ボランティアなどの現場体験の成果、2年間の各授業・各活動の状況を踏まえ、教員としての資質が身についているか確認することができる。 2) 自らの課題を認識するとともに不足していることを補い、教員としてスタートできる知識・技能や教養の定着を図ることができる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省							
参考書								
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。保育現場において幼児を育てる責任の重さを認識すること。							
オフィスアワー	木曜日12時10分から13時							

授 業 名		教職実践演習（幼稚園）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	短大での授業・実習で学びの成果と課題	（内 容）実習について振り返り、省察する。 （必要な準備）9月実習を振り返りまとめてくる。（30分）	
第2回	華頂幼稚園運動会見学に向けて研修	（内 容）運動会の目的、幼児の発達に応じた内容を理解する。 （必要な準備）幼児の運動的な遊びについて予習しておく。（30分）	
第3回	華頂幼稚園運動会の見学・研修	（内 容）運動会の目的・内容について、幼児の活動する姿から理解し、記録する （必要な準備）プログラム内容を確認しておく。（20分）	
第4回	保護者対応について1 講義 - 子どもの発達と保護者支援 -	（内 容）幼児の成長に大切な保護者支援について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポートの作成・提出（60分）	
第5回	保護者対応について2 討議 - グループ討議と発表 -	（内 容）事例についてグループで話し合い発表する。様々な意見を聞き考えを上げる。 （必要な準備）前回の講義内容を復習しておく。（30分）	
第6回	教師の役割について研修1 「3年間の保育記録 - 4歳児 - 」	（内 容）4歳児の保育記録から、幼児の発達や実態に応じた指導援助を考察する。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（30分）	
第7回	命を大切にすることを育む1 「小動物の飼育を通して」	（内 容）小動物を飼育することから育まれる感性、命の理解と大切さについて学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第8回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）1 打ち合わせ	（内 容）テーマにそって、幼児が楽しんで参加したいと思う保育を考え企画する。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第9回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える -	（内 容）幼稚園教育の基本を踏まえた教育の大切さを確認した小学校への連続性を考える。 （必要な準備）グループ発表の計画書作成（60分）	
第10回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）2 準備とリハーサル	（内 容）各グループで準備を進める。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第11回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）3 グループ発表（前半）	（内 容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う。 （必要な準備）発表できるように計画書・準備物をそろえ、教員と打ち合わせをすませておく。（60分）	
第12回	学生によるグループ発表（保育を想定した実践に向けて）4 グループ発表（後半）	（内 容）各グループで保育場面を想定し、導入・主活動・まとめの流れで発表を行う。 （必要な準備）各グループの評価とコメントを記述する。（20分）	
第13回	学級経営の視点 「幼児と教師でつくる生活発表会」	（内 容）幼児理解を大切にしながら日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実践について学ぶ。 （必要な準備）グループ発表評価表作成・提出（30分）	
第14回	命を大切にすることを育む2 「人権意識を高める」	（内 容）ひとりひとりの子どもの人権を守る教師の役割について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	
第15回	教師の役割について研修2 「3年間の保育記録 - 5歳児 - 」	（内 容）5歳児の保育記録から、集団の中で自立していく幼児の姿とそれを援助する教師の役割について学ぶ。 （必要な準備）前回のレポート作成・提出（60分）	

授 業 名	社会福祉概論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Social Welfare			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	本講では、現代社会が抱えるさまざまな社会問題を題材に福祉の在り方を考察し、社会福祉のあるべき姿を制度や実践の仕組みなどいろいろな面から考え、保育との関係性もとらえながら社会福祉を総合的に学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育を軸にした社会福祉の意義について明確に説明できるようになる。 2) 保育と関連するさまざまな分野とのつながりについて理解できる。 3) 保育に関わる専門職の役割と意義について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	学ぶ・わかる・みえる 「保育と社会福祉」 橋本 好市・宮田 徹 編集 出版社：株式会社 みらい							
参 考 書	適宜紹介する。							
留 意 事 項	時事問題（新聞、福祉系機関紙ならびに雑誌等）に関心を持ち、できるだけ多くのトピックスに目を向けること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		社会福祉概論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業オリエンテーション	(内 容) 授業の内容と進め方を説明。 (必要な準備) シラバスを確認しておく。(30分)	
第2回	保育と社会福祉	(内 容) 社会福祉を学ぶにあたって、現代社会の状況を保育問題と絡めて学ぶ。 (必要な準備) 保育の現状と課題を整理しておく。(30分)	
第3回	社会福祉の考え方と役割	(内 容) 社会福祉とは何か、基本的な概念を整理し、構造面や保育との関係からそのあり方と役割を学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の考え方を整理しておく。(30分)	
第4回	社会福祉の歴史	(内 容) 特に中世期以降の欧米の社会福祉の変遷、合わせて明治期以降の日本の社会福祉の歴史について学ぶ。 (必要な準備) 中世期以降の欧米並びに日本の歴史について整理しておく。(30分)	
第5回	社会保障制度	(内 容) 生活を守る基本となる生活保障の概念と体系について、社会保険や公的扶助も含めて学ぶ。 (必要な準備) 社会保障の現状を整理しておく(30分)	
第6回	社会福祉制度と法体系	(内 容) 日本国憲法を基本とした社会福祉の法制度について、その内容や構造について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉法制度について整理しておく(30分)	
第7回	社会福祉の実施機関と行財政	(内 容) 社会福祉に関連する国・都道府県・市町村の福祉行政機関、福祉の専門行政機関、民間の福祉推進機関など様々な社会福祉実施機関の意味と現状について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の実施機関について整理しておく。(30分)	
第8回	社会福祉の施設	(内 容) 社会福祉施設について、施設の概要やその目的と意義、あわせて現状とこれらについて学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉施設について整理しておく。(30分)	
第9回	子どもの人権と児童家庭福祉	(内 容) 子どもの人権を軸に、子どもを取り巻く支援の現状について学ぶ。 (必要な準備) 子ども権利条約、子どもの最善の利益、児童福祉法などについて整理しておく。(30分)	
第10回	社会福祉の専門職と倫理	(内 容) 社会福祉や関連機関の概要や専門職の内容、その意味や役割について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の概要や専門職に求められる資質について整理しておく。(30分)	
第11回	相談援助の意味と方法 1	(内 容) 相談援助(ソーシャルワーク)の原理・原則、相談援助の分類やその内容などについて学ぶ。 (必要な準備) 保育士に求められるソーシャルワークについて整理しておく。(30分)	
第12回	福祉サービスの利用支援と第三者評価	(内 容) 社会福祉基礎構造改革を基本とした社会福祉サービスの動向及びその利用や利用支援について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉法の改正について整理しておく。(30分)	
第13回	権利擁護と苦情解決	(内 容) 権利擁護の意味と苦情解決について学ぶ。 (必要な準備) 権利擁護の基礎知識を整理しておく。(30分)	
第14回	地域福祉の意味と実践方法	(内 容) 地域福祉の理念、地域福祉の担い手、地域福祉の方法などについて学ぶ。 (必要な準備) 地域で暮らすという視点をベースに、行政と民間の協働による社会福祉の在り方、ボランティアの在り方などについて整理しておく。	
第15回	これからの社会福祉の在り方について	(内 容) これまでの授業を全体的に振り返り、より良い社会福祉実践のために、社会福祉専門職としての保育士の在り方について学ぶ。 (必要な準備) 社会福祉の担い手としての保育士の役割を整理しておく。(30分)	

授 業 名	乳児保育 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	<p>児童福祉施設である特に保育所や認定こども園における乳児3歳未満児（0、1、2歳児）の保育に関する基礎的な知識・技術を習得する。</p> <p>1．乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。</p> <p>2．発達段階の特徴を踏まえた保育援助を理解し、保育者として養護すべき点や生活面での援助・方法の実際を学ぶ。</p> <p>3．保護者との連携について学ぶ。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 乳児期（0、1、2歳児）の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。</p> <p>2) 乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止の視点を説明できる。</p> <p>3) 保護者支援の重要性を理解し、対応や配慮事項について簡潔に説明できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館							
留 意 事 項	「乳児」に接する機会が極めて少ないと思われるので、日頃から乳児を観察する意識をもったり、乳児の理解を助けたりするために視聴覚教材や玩具の実物を活用しながら講義を中心にすすめる。また、実際に乳児クラスで使えるおもちゃ制作をする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		乳児保育 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	乳児および乳児保育の概念	(内 容) 乳児の概念について理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)	
第2回	乳児保育の基本、制度	(内 容) 乳児の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第3回	乳児の発達と保育の方法	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(0歳児・1歳児) (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第4回	乳児の発達と発育	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(2歳児クラス) (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第5回	乳児保育の実際	(内 容) ビデオ視聴しながら解説する。乳児の実際について映像を通して理解する。乳児に関してわからない点を明確にする。 (必要な準備) これまでの復習をしておく。(30分)	
第6回	乳児保育の方法	(内 容) 食事(授乳・調乳・離乳食)、排泄、睡眠などの基本的な生活習慣と援助について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第7回	乳児保育の方法	(内 容) 衣服の着脱、環境整備、清潔について理解する (必要な準備) プリントを理解し復習する。(30分)	
第8回	乳児保育と保健衛生及び安全	(内 容) 乳児にとっての手遊び、ふれあい遊び、絵本の役割について理解する (必要な準備) プリントを読んでおく。(30分)	
第9回	乳児クラスの計画と記録	(内 容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第10回	家庭・地域との連携	(内 容) 連絡帳、園だより、個人懇談、クラスだよりなどについて理解する (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第11回	子育て支援の現状	(内 容) 少子化対策の経緯や子育て支援の現状についての理解し、説明できる (必要な準備) プリントを読んでおく	
第12回	保育者の資質と役割	(内 容) 乳児保育担当者としての心構えと役割、資質向上の視点 (必要な準備) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおく(60分)	
第13回	乳児の健康管理と安全	(内 容) 保育室の安全管理、健康管理(SIDSの理解)、予防接種などについての理解 (必要な準備) プリントを読んでおく(20分)	
第14回	乳児のおもちゃ制作	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作の実施と配慮すべき事項を理解する。 (必要な準備) おもちゃを制作するものに必要な材料を準備し、持参する。(40分)	
第15回	まとめ 各自のおもちゃ発表	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作を発表する (必要な準備) 各自、おもちゃを完成させておく(60分)	

授業名	障害児保育 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care for Children with Disability			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	障害のとらえ方や保育について歴史的な経過や現状をおさえた上で、各障害に対する基礎知識、保護者等への支援、他機関との連携等について学ぶ方を解説します。また、障害児は成長すれば障害者として生活します。保育士として、将来を見据えて現在と関わることは大切だと考えますので、可能な限り障害者の事例も紹介しながら授業を進めます。							
学習成果到達目標	1) 障害の概念と障害児保育の理念を理解する。 2) 発達を支援する保育者として必要な基礎知識について理解する。 3) 保護者、家族への支援について理解する。 4) 社会資源や関係機関との連携について理解する。 5) 障害児を取り巻く現状を把握し障害児保育の課題を理解する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (興味・関心を高める	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	公益財団法人児童育成協会監修『基本保育シリーズ 障害児保育』中央法規、2015							
参考書	尾崎康子他編著『よくわかる障害児保育』ミネルヴァ書房、2010							
留意事項	保育士必修科目であることを意識する。教科書や講義の内容をただ「受け取る」だけでなく、それに対する自分の考えを持つよう心がけながら授業に出席して下さい。							
オフィスアワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00を基本とし、授業の空き時間等は研究室前に掲示します。							

授 業 名		障害児保育 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 「障害」の概念、障害児保育を支える理念等を紹介しながら、本講義について全体像を解説する。 (必要な準備) 教科書のはじめに、第1講 Step 1を読んでおく。	
第2回	障害児保育の歴史の変遷	(内 容) 戦後から現在に至る障害児保育の歴史の変遷や制度の変遷について、発達保障など関連する基本的考え方を交えて講義する。 (必要な準備) 教科書の第2講 Step 1を読んでおく。	
第3回	視覚・聴覚障害児の理解と支援	(内 容) 視覚障害、聴覚障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第3講 Step 1を読んでおく。	
第4回	肢体不自由児の理解と支援	(内 容) 肢体不自由に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第4講 Step 1を読んでおく。	
第5回	知的障害児の理解と支援	(内 容) 知的障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第5講 Step 1を読んでおく。	
第6回	発達障害の理解と支援(1)	(内 容) 発達障害の全体像、ADHD、学習障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第6講 Step 1を読んでおく。	
第7回	発達障害の理解と支援(2)	(内 容) 自閉症スペクトラム障害に関する基本事項を整理し、保育において留意すべき視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第7講 Step 1を読んでおく。	
第8回	障害児の発達と環境	(内 容) 各障害の特性を踏まえ、障害のある子どもの発達と環境、保育者の関わりについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第8講 Step 1を読んでおく。	
第9回	子ども同士の関わりと育ち合い	(内 容) 障害のある子ども同士、障害のある子どもと障害のある子どもの関わりから、子ども同士の関わりと育ちについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第9講 Step 1を読んでおく。	
第10回	保育過程に基づく指導計画の作成、記録、評価	(内 容) 保育過程の基盤となる理念や基本的な考え方、それに基づく指導計画の作成、記録、評価の視点について講義する。 (必要な準備) 教科書の第10講 Step 1を読んでおく。	
第11回	個別の支援計画	(内 容) 個別の支援計画とは何か、実際の様式を見ながら計画の各項目の意味、作成の留意点、今後の課題について講義する。 (必要な準備) 教科書の第11講 Step 1を読んでおく。	
第12回	保護者や過程に対する支援	(内 容) 保護者のまなざしを意識しつつ、障害のある子どもの保護者や家庭への支援について、また障害のない子どもの保護者との関わりについて講義する。 (必要な準備) 教科書の第12講 Step 1を読んでおく。	
第13回	地域の社会資源との連携	(内 容) 地域の社会資源について整理し、関係機関との連携について、連携の留意点を含めて講義する。 (必要な準備) 教科書の第13講 Step 1を読んでおく。	
第14回	小学校等との連携	(内 容) 幼稚園や保育所等から小学校に就学する際の手続きや留意点、保育者に期待される役割について講義します。 (必要な準備) 教科書の第14講 Step 1を読んでおく。	
第15回	これまでの総括	(内 容) 障害児保育や障害児教育、障害者福祉における現状と課題に触れながら、これまでの講義を振り返り総括して講義する。 (必要な準備) 教科書の第15講 Step 1、おわりにを読んでおく。	

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・箱田 成司・日永 よし子			対 象 学 生	幼児教育1回生		
授業の概要	春学期の事前指導は、児童福祉施設（保育所・居住型児童福祉施設）での実習施設の概要と実習の意義・目的、実習方法を理解するために、主として講義を通じて行う。保育士の職務は「援助」が主であるため、その援助職に求められるコミュニケーション力を高める演習を行う。また、実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解を得るために、視聴覚教材等を用いる。実習に関わる書類準備を行う。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解できる。 2) 実習生としての心構えが理解できる。 3) 保育士の役割・専門性・実習施設の理解を明確にし、実習生としての姿勢が確立できる。						
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育実習』鈴木えり子編 相川書房						
参 考 書	随時紹介する						
留 意 事 項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。（要注意）						
オ フ ィ ス ア ワ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。						

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		
	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 実習関係連絡票の説明	(内 容) 授業内容や受講についての諸注意 実習における調査票の作成・説明・留意事項の確認 (必要な準備) 保育士資格を取得するかを考えておく
第2回	保育実習概要の説明 保育実習の意義・目的	(内 容) 実習概要について学ぶ。保育実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 実習関係連絡調査票 教科書を読んでおく
第3回	施設実習の意義・目的	(内 容) 施設実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく
第4回	保育所実習の実際を知る	(内 容) 保育所の一日についてビデオ視聴し保育所実習とは何をするのかを考え、保育内容や、保育所のデイリープログラムを理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく
第5回	施設の実習内容を理解する(種類など)	(内 容) 乳児院 児童養護施設の一日のビデオを視聴し理解する。施設実習先の実習内容を理解する、施設の種類について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第6回	施設実習の実際を知る	(内 容) ビデオ視聴し施設実習とは何をするのかを考えその意義を考える (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第7回	実習で必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習で必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第8回	実習で必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習で必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第9回	実習で必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習で必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第10回	実習で必要な最低限の知識-クラス別	(内 容) 実習で必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備) 教科書・筆記用具を持ってくる
第11回	実習方法の説明	(内 容) 実習方法、実習園の選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習報告書の書類提出について理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第12回	実習方法の説明	(内 容) 地域ごとの顔合わせを実施する 京都市内も同様に説明を行う (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第13回	実習依頼時の基本的なマナー	(内 容) 基本的なマナーを学ぶ(実習依頼、挨拶や電話のかけ方) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第14回	実習生カードの作成 下書き	(内 容) 実習生カードの作成説明 下書きの提出 (必要な準備) 写真2枚 黒ペンを持ってくる。施設実習の期間発表の掲示を見ておく
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り)秋学期に向けての課題	(内 容) 春学期の学びの振り返りと夏期休暇中の課題の説明を聞く (必要な準備) 春学期のファイルをまとめておく、ノートを確認しておく(30分)

授業名	保育実習指導 a			開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・名賀 亨・箱田 成司・日永 よし子			対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	<p>「保育実習」の事前指導であり春学期から引き続き実施する。 いよいよ保育実習を間近に控えた秋学期は実習での実務内容を具体的に学んでいきます。 保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、実習目標を明確にもって取り組めるように準備をします。 また、実習を円滑にすすめるための記録の記入方法や指導計画の考え方、指導案の立案・教材研究、保育実技などの知識や技能を習得します。保育士の職務内容や実習内容についてさらに理解を深めるために、ビデオ視聴や2回生からのアドバイスを聞く機会も持ちます。 実習に伴う各種書類についての説明も行います。</p>						
学習成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自分自身の実習施設に対してより深く理解し、実習に対する意欲を高めることができる。 2) 保育所実習と施設実習のそれぞれの制度や実習意義を理解でき、実習課題を明確にできる。 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。 5) 実習後は反省文、反省会、評価面談等を通じて、実習体験や成果をさらに深め、保育士としての役割・専門性・自己評価・自己点検をし、各自の課題等をさらに深化できる。 						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	春学期のテキストを継続して使用します。(『保育実習』鈴木えり子編(相川書房))						
参考書	随時紹介する						
留意事項	保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)						
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。						

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		
	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期休暇の課題の点検 (必要な準備) 夏期課題のレポート 名札 先輩への質問を明確にしておく
第2回	実習報告会 (保育所実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく
第3回	実習報告会 (施設実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく
第4回	自閉症について	(内 容) 自閉症について理解を深め、保育者としてのかかわりを理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第5回	知的障害者とのかかわり、支援について	(内 容) 知的障害者の生活、かかわり、支援について、実習生としてどのようにかかわるかを具体的に学ぶ (必要な準備) 障害者支援について講義ノートを見直しておく
第6回	保育所実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第7回	施設実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第8回	指導計画と教材準備	(内 容) 簡単な制作を実施する。指導のポイントを理解する。指導計画を学ぶ。 (必要な準備) はさみ 色鉛筆 新聞紙 のり セロテープなどを持ってくる
第9回	指導計画と教材準備	(内 容) 簡単な制作を通して指導のポイントを理解し、指導計画を立案する。 (必要な準備) 指導計画(案)を書いてくる(60分)
第10回	施設実習先(母子生活支援施設、児童養護施設)における実習の学び	(内 容) 母子生活支援施設や児童養護施設についてその現状、実習生としてのかかわりや心構えを理解する (必要な準備) 講義ノートを見直しておく
第11回	実習目標・課題を明確にする (保育所)	(内 容) 保育所における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第5章を読んでおく(30分)
第12回	実習目標・課題を明確にする (施設)	(内 容) 施設実習における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第6章を読んでおく(30分)
第13回	実習の心得 実習の諸注意、実習に関する手続き	(内 容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーション、お礼状など、実習の具体的内容を確認する。健康診断、検便検査の手続きの説明、検査申込み書類の提出をする (必要な準備) 検査に伴う証紙、切手代を購入しておく
第14回	実習課題の見直し 指導 実習直前の指導	(内 容) 実習課題の個別添削を返却し、指導。質疑応答を行い、実習への不安を解消する (必要な準備) 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく
第15回	訪問担当者との個別面談	(内 容) 実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う (必要な準備) 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく

授 業 名	児童福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	現代の社会状況、特に少子や高齢の社会を背景に、家庭や地域で子どもはどのような生活をしているのか。生活は子どもの成長発達を十分保障できる状況なのか。子どもは社会や地域や家庭の問題から厳しい生活を強いられることもある。それが人間として成長発達することを阻害することにもなりかねない。子どもの生活にかかわる問題を解決するためにはどのような社会的支援や児童福祉が必要かを学び、児童福祉の理念と意義について考え、基本的人権の理解を深める。子どもがかかえる問題について細かく分析をしながら授業を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現代の社会状況を理解し、子どもたちの生活実態の把握をすることができる。 2) 子どもがかかえる問題の現状とその対策について考えることができる。 3) 児童福祉施策の現状を理解し、その課題について考え、児童福祉に理解を深めることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	流石智子編著『児童家庭福祉・子どもの幸せを考える』あいり出版 2012年							
参 考 書	授業で指示する。							
留 意 事 項	指示されたテキストを中心に授業をする。試験はテキストの持ち込みを、可とするので必ず購入すること。授業中にレポート課題の提示をしてレポート提出をしたり、ビデオを見て感想の提出を求める。ビデオの時間をとるために、学びスケジュールが変更になる時もある。(連絡する)							
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日の12時10分～13時まで。いつでも在室の時は可能です。(対応できない時は、時間の調整をします)詳しくは研究室に掲示するので、確認してください。							

授 業 名		児童福祉	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	児童福祉とは	(内 容)	児童福祉の基本理解 (必要な準備) 児童の現状を新聞等で、理解しておく。(30分)
第2回	少子社会と子どもの発達保障・少子化・子育て	(内 容)	少子化と子育て支援の現状 (必要な準備) テキスト、少子化と子育て支援の現状(69頁～)を読み理解しておく。(30分)
第3回	少子社会と子どもの発達保障・母子保健と発達保障	(内 容)	母子保健と子どもの発達保障 (必要な準備) テキスト、母子保健と子どもの発達保障(76頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第4回	子どもの健全育成と課題・健全育成	(内 容)	児童健全育成の今とこれから (必要な準備) テキスト、児童の健全育成の今とこれから(83頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第5回	子どもの健全育成と課題・保育ニーズ	(内 容)	多様な保育ニーズと子育ての課題 (必要な準備) テキスト、多様な保育ニーズと子育て(90頁～)のところを読み理解しておく。
第6回	子育て問題	(内 容)	現代家庭のかかえる子育て問題 (必要な準備) テキスト、現代家庭のかかえる子育て問題(97頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第7回	子どもと虐待	(内 容)	子育て家庭と子ども虐待 (必要な準備) テキスト、子育て家庭と子ども虐待(100頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第8回	子育てとドメスティック・バイオレンス	(内 容)	ドメスティック・バイオレンスと現代家庭 (必要な準備) テキスト、ドメスティック・バイオレンスと現代家庭(104頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第9回	子育てと児童養護	(内 容)	家庭で育つことができない子どもたち (必要な準備) テキスト、家庭で育つことができない子どもたち(107頁～)のところを読み理解しておく。(30分)
第10回	障がいのある子どもたち	(内 容)	障がいのある子どもたちへの対応 (必要な準備) テキスト、障がいのある子どもたちへの対応(110頁～)のところを読み理解を深めておく。(30分)
第11回	少年非行と子どもの育ち	(内 容)	少年非行等に陥る子どもたちへの対応 (必要な準備) テキスト、少年非行等に陥る子どもたちへの対応(115頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第12回	社会的養護の理解と子どもの育ち	(内 容)	社会的養護の充実と子どもたち (必要な準備) テキスト、社会的養護の充実と子どもたち(118頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第13回	ひとり親家庭の現状と課題	(内 容)	ひとり親家庭の子どもたち (必要な準備) テキスト、ひとり親家庭の子どもたち(121頁～)のところをよく読み理解しておく。(30分)
第14回	諸外国の子育て事情	(内 容)	諸外国の子育て事情 (必要な準備) テキスト、諸外国の子育て事情(135頁～)を読み、日本との違いを理解しておく。(30頁)
第15回	児童・家庭福祉の動向とこれから	(内 容)	児童・家庭福祉の課題 (必要な準備) テキスト、児童家庭福祉の課題と展望(127頁～)のところをよく読み、自分でもその課題についてまとめる。(1時間)

授業名	相談援助 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Consultation Support			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	名賀 亨			対象学生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	相談援助の理論や意義を理解するとともに、相談援助の方法（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）に関して、発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法について保育と関連させながらその内容を学習する。							
学習成果到達目標	<p>1) 相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について説明することができるようになる。</p> <p>2) グループワークにおける相互作用を理解し、保育の現場で実践できるようになる。</p> <p>3) 学んだ技術を現場で総合的に応用実践することができるようになる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「相談援助」 編著：大嶋恭二・金子恵美 出版社：建帛社							
参考書	「社会福祉援助技術論」 編：基礎からの社会福祉編集委員会 出版社：ミネルヴァ書房							
留意事項	保育士も実践現場において相談援助の諸技術を活用し支援することが求められている。この授業では、相談援助の価値や原則、過程をワークショップなども交えて学ぶため、援助者としての保育士を意識して積極的にかつ主体的に授業に参加すること。							
オフィスアワー	水曜日 昼休み							

授 業 名		相談援助 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業オリエンテーション	(内 容)	授業の内容と進め方、評価方法などを説明するとともに、15回の授業計画と概要を説明する。 (必要な準備) シラバスを読み相談援助を自分なりに整理し、15回の学びをイメージしておく。(30分)
第2回	相談援助の基本的な考え方	(内 容)	相談援助の必要性や専門性から相談援助を学ぶ意義、相談援助の定義と内容を学ぶ。 (必要な準備) 保育現場での相談援助の必要性を整理しておく(30分)
第3回	相談援助の理論、意義、機能	(内 容)	保育業務と相談援助を関連させながら、相談援助の意義や機能について学ぶ。 (必要な準備) 児童家庭福祉実践に特徴的な相談援助の視点を整理しておく。(30分)
第4回	相談援助とソーシャルワーク	(内 容)	ソーシャルワークとしての相談援助について、その意味や原理・原則について学ぶ。 (必要な準備) 相談とは何か、援助とは何かについて整理しておく。(30分)
第5回	保育とソーシャルワーク	(内 容)	保育を通じたソーシャルワークの在り方や基本原理について学ぶ。 (必要な準備) 保育実践に重要な子どもの最善の利益に関して、子どもの権利条約も含めて整理しておく。(30分)
第6回	相談援助の方法と技術 1 相談援助の対象	(内 容)	相談援助の対象理解の視点について、また、様々な場面での対象について学ぶ。 (必要な準備) 個人・家族・集団といった対象について整理しておく。(30分)
第7回	相談援助の方法と技術 2 相談援助の過程	(内 容)	相談援助におけるプロセスの中で、受理、事前評価、計画といった具体的な過程についてその全体像を学ぶ。 (必要な準備) 相談から始まる相談援助の流れを整理しておく。(30分)
第8回	相談援助の方法と技術 3 相談援助の技術とアプローチ	(内 容)	相談援助技術の枠組みについて、原理・原則を含めてその全体像を学ぶ。 (必要な準備) 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について整理しておく。(30分)
第9回	相談援助の方法と技術 4 個別援助技術	(内 容)	直接援助技術の一つとしてとしてのケースワークについて、その内容、方法、原則について学ぶ。 (必要な準備) バイスティックの7原則について整理しておく。(30分)
第10回	相談援助の方法と技術 5 集団援助技術 1	(内 容)	直接援助技術の一つとしてとしてのグループワークについて、様々な定義を理解し、その内容について学ぶ。 (必要な準備) グループワークの考え方を整理しておく。(30分)
第11回	相談援助の方法と技術 6 集団援助技術 2	(内 容)	グループワークの実践方法、支援者としてのかかわり方、ファシリテーションの在り方などについて学ぶ。 (必要な準備) グループワークの原則、支援者と対象者との関係性について整理してお行く。(30分)
第12回	相談援助の方法と技術 7 地域援助技術	(内 容)	間接援助技術の一つの方法としての、コミュニティ・ワークについてその基本的な考え方と実際について学ぶ。 (必要な準備) コミュニティ・ワークについて整理しておく。(30分)
第13回	相談援助の方法と技術 8 その他の援助技術	(内 容)	その他の間接援助技術について、それらの意味と実際の支援について学ぶ。 (必要な準備) 相談援助のアプローチを間接援助技術の視点で整理して、各種調査などの必要性について整理しておく。(30分)
第14回	相談援助の方法と技術 9 基本資料の作成	(内 容)	相談援助の基本となる資料の内容やその作成方法などについて学ぶ。 (必要な準備) 自分がこれまで生きてきた「ライフヒストリー」を整理しておく。(30分)
第15回	まとめ 授業全体の振り返り	(内 容)	保育を軸にした相談援助に関する具体的な展開について、これまでの授業を振り返るとともに、これからの保育実践における相談援助の在り方について学ぶ。 (必要な準備) 相談援助に必要な社会資源の活用や調整あるいは開発について整理しておく。(30分)

授業名	小児保健実習 a			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	菅生 久子			対象学生	幼児教育2ya～yc		
授業の概要	保育の指導者として、あるいは将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。						
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院）						
参考書	『小児保健実習ノート』 榎原洋一監修（診断と治療社）						
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前にテキストの該当箇所をよく読んでおくこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		小児保健実習 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方、乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備) テキストp.89～92をよく読んでおくこと
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキストp.35～39をよく読んでおくこと
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法	(内 容) 発達曲線とカウプ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキストp.21～35 p.17〔母子健康手帳〕
第4回	バイタルサインの測定法	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の整理と測定方法 (必要な準備) テキストp.107～109をよく読んでおく
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視力・聴力の発達と測定方法、尿便の生理 (必要な準備) テキストp.86～89をよく読んでおくこと
第6回	歯の健康と歯みがき指導法	(内 容) 歯の発育、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) テキストp. 247～249〔歯ブラシと手鏡〕
第7回	咀嚼機能 母乳の与え方・調乳の方法	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法 (必要な準備) テキストp.52～61をよく読んでおくこと
第8回	生活リズムの確立 赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操 (必要な準備) テキストp.41～43 p.73～84
第9回	新生児の沐浴 身体の清潔法	(内 容) 沐浴の意義・沐浴の仕方、清拭・部分浴 (必要な準備) テキストp.93～98〔エプロン〕
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) ウイルス性・細菌性疾患と看護、手洗い方法 (必要な準備) テキストp.161～183をよく読んでおくこと
第11回	一般症状に対する看護(発熱腹痛下痢便秘) 電法	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護、電法の意義と方法 (必要な準備) テキストp.113～119 p.127～129
第12回	一般症状に対する看護(嘔吐咳嗽けいれん脱水) 消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、消毒方法 (必要な準備) テキストp.119～124 p.162～163
第13回	薬の扱い方与え方 保育の現場での医薬品 エピペン	(内 容) 薬の正しい与え方、エピペンの使い方 (必要な準備) テキストp.125～127 p.150 p.224
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 事故・心肺蘇生法の意義と方法、AEDの使い方 (必要な準備) テキストp.185～204 p.207～211
第15回	応急手当 包帯法 まとめ	(内 容) 誤飲・創傷・熱傷の対処法、包帯の種類と方法 (必要な準備) テキストp.204～207をよく読んでおくこと

授業名	小児保健実習 b			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	今井 富江			対象学生	幼児教育2yd～yf		
授業の概要	子どもの健康が守られることにより、保育実践はより豊かなものとなるため、保育者は子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では小児の発育発達状態を理解するとともに、小児の病気の予防、健康教育、疾病の早期発見、救急処置、看護、安全な保育環境についての知識と技術を習得することを目標とする。児童福祉施設の保健活動について理解し、小児の成長・発達をサポートするうえでの基本的な知識と技能を習得する。						
学習成果到達目標	1) 乳幼児期の健康管理を適切にできる知識を獲得できる。 2) 乳幼児の発育を理解し説明できる。 3) 個々に応じた看護を理解し、感染予防、事故の予防等の方法がわかる。						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	「子どもの保健・実習」(同文書院)兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著						
参考書	「赤ちゃん子どもの健康相談」(婦人之友社)「保育保健の基礎知識」(日本小児医事出版社)						
留意事項	講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		小児保健実習 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション・授業計画、乳幼児の扱い方	(内 容) 乳児の抱き方、衣服の着脱おむつのあて方 (必要な準備) テキストp89～p92をよく読んでおくこと	
第2回	身体発育の測定方法について	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキストp35～p39	
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法について	(内 容) 発達曲線とカーブ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキストp21～p35 母子手帳持参	
第4回	バイタルサインの測定方法について	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法 (必要な準備) テキストp107～p109を読んでおくこと	
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視聴覚の発達と測定方法 尿便の生理 (必要な準備) テキストp86～p89を読んでおくこと	
第6回	歯の健康と歯みがき指導	(内 容) 乳歯の役割、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) テキストp251～p253 歯ブラシと手鏡持参	
第7回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達、調乳と消毒	(内 容) 母乳の与え方、人工栄養(授乳と調乳の方法) (必要な準備) テキストp52～p61を読んでおくこと	
第8回	生活リズムの確立と赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、赤ちゃん体操 (必要な準備) テキストp41～p43 p73～p84	
第9回	身体の清潔と新生児の沐浴について	(内 容) 沐浴の意義と沐浴の仕方・清拭・部分浴、 (必要な準備) p93～p98 エブロン持参のこと	
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) 手洗い ウイルス性・細菌性の病気と看護 (必要な準備) テキストp161～p183を読んでおくこと	
第11回	一般的な症状に対する看護(発熱 腹痛 下痢 便秘)	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護 冷電法 (必要な準備) テキストp113～p119を読んでおくこと	
第12回	一般的な症状(嘔吐 咳嗽 けいれん 脱水)などの看護と消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、吐物の消毒 (必要な準備) テキストp119～p124 p162～p163を読んでおくこと	
第13回	薬の与え方・保育現場での医薬品について	(内 容) 薬を与えるための工夫、エビペンの使用について (必要な準備) テキストp125～p127 p150を読んでおくこと	
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 誤飲・窒息・やけど・転落などの事故、心肺蘇生法、A E Dについて (必要な準備) テキストp184～p211を読んでおくこと	
第15回	応急手当・包帯法	(内 容) 全体的な復習 応急処置と傷の手当 (必要な準備) 包帯法 テキストp204～p207	

授業名	小児保健実習 c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Infant Health Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	花原 勢津子			対象学生	幼児教育2yg～yi・yj～yl			
授業の概要	保育の指導者として、あるいは、将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。							
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著（同文書院）							
参考書								
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前に教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施。							

授 業 名		小児保健実習 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション・乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方・乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備) テキスト P.84～85 P.90～92	
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長、体重、胸囲、頭囲の測定・大泉門の観察 (必要な準備) テキスト P.35～37	
第3回	身体発育の評価方法	(内 容) 発達曲線、カウプ指数、肥満度の理解・母子手帳の活用 (必要な準備) テキスト P.32～35 持ち物：電卓	
第4回	バイタルサインの測定方法	(内 容) 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定・一般状態の観察法 (必要な準備) テキスト P.107～109	
第5回	視力・聴力の発達と測定方法	(内 容) 視力検査、聴力検査 (必要な準備) 事前に資料配布	
第6回	身体の清潔法・新生児の沐浴	(内 容) 沐浴の意義、沐浴の仕方・清拭、部分浴の仕方 (必要な準備) テキスト P.93～98 持ち物：エプロン	
第7回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法と離乳食の進め方 (必要な準備) テキスト P.52～63	
第8回	歯の健康と虫歯予防	(内 容) 歯の発育、歯みがき指導（ブラッシング指導） (必要な準備) 事前に資料配布	
第9回	生活リズムの確立・排泄の自立	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操、排泄の自立について (必要な準備) テキスト P.74～79 P.246 P.86～88	
第10回	一般的な症状に対する看護（1）	(内 容) 発熱、腹痛、下痢等の看護、電法の方法 (必要な準備) テキスト P.113～119	
第11回	一般的な症状に対する看護（2）・薬の与え方	(内 容) 嘔吐・けいれん等の看護、経口補水療法、薬の取り扱いについて (必要な準備) テキスト P.119～124 P.125	
第12回	感染症・感染予防	(内 容) 感染の予防の仕方、嘔吐物の処理の仕方、手洗い方法 (必要な準備) テキスト P.161～181	
第13回	応急手当・心肺蘇生法	(内 容) 子どもの事故の特徴、けが・やけど・鼻出血等の対処法、AEDの使い方 (必要な準備) テキスト P.189～215	
第14回	骨折や打撲の手当（包帯法）	(内 容) 副木や三角巾の使い方、包帯の巻き方 (必要な準備) 事前に資料配布	
第15回	集団保育における健康管理・小児保健実習のまとめ	(内 容) 保育における健康支援について・小児保健実習のまとめ (必要な準備) テキスト P.219～245 持ち物：テキストと配布したプリント	

授 業 名	家庭支援論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Studies on Family Support			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	現在子育てに関する多くの問題が提示されているが、家族のあり方そのものや、私たちの家族に対するイメージが問題を解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は歴史的産物であるという認識をもち、何が問題なのかということを広く社会システムの中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる育児問題を理解する「視点」を得ることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	配布プリント使用							
参 考 書	『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著(昭和堂)、『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著(ミネルヴァ書房)ほか適宜紹介する							
留 意 事 項	出席・授業態度を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		家庭支援論 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション・家族イメージについて	(内 容) 現在の私たちの家族イメージはどのようなものか理解する (必要な準備) シラバスをよんでおく	
第2回	近代化と家族	(内 容) 近代化することによって家族はどのような変化を遂げたのかを理解する (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第3回	育児ストレス	(内 容) 育児ストレスや育児不安について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第4回	母親の育児ストレス	(内 容) 母親の育児ストレスの実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第5回	育児ストレス：事例研究	(内 容) 育児ストレスにかかわる具体的な映像を見る (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第6回	育児ストレス：事例研究まとめ	(内 容) 事例を分析する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第7回	母親の育児ネットワーク	(内 容) 母親の育児ネットワークについて理解する (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておく(30分)	
第8回	父親の育児	(内 容) 父親の育児の実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第9回	父親の育児ストレス	(内 容) 父親の育児ストレスについて理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第10回	日本の育児支援制度	(内 容) 育児休業について理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第11回	家庭保育時間の実態	(内 容) 父親、母親の保育時間の実態について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第12回	スウェーデンの子育て支援制度	(内 容) スウェーデンの子育て支援について理解する (必要な準備) スウェーデンの国について調べておく(30分)	
第13回	スウェーデンの子育て支援の実際	(内 容) スウェーデンの子育て支援の実際について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第14回	北欧からみる日本の子育て支援の課題	(内 容) 日本の子育て支援の課題を考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 半期間の授業内容をまとめる (必要な準備) 疑問点をまとめておく(30分)	

授 業 名		養 護 内 容 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション 講義内容の概略 社会的養護に対する考え方を巡って	(内 容) 社会的養護の概略を理解する。 (必要な準備) 子どもの豊かな育ちに必要なものを事前に整理しておく。	
第2回	資料から見える社会的養護の現状と課題について (1) 「施設型養護」の現状と課題 「家庭型養護」の現状と課題	(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。	
第3回	資料から見える社会的養護の現状と課題について (2) 「要保護児童」の増加について 「進学、就職の状況」の資料から見えてくるもの	(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。	
第4回	社会的養護の意義と役割について 社会的養護とは... 社会的養護の理念 社会的養護の役割と機能	(内 容) 社会的養護の意義と役割について理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。	
第5回	社会的養護の歴史的な背景について 日本における社会的養護の歴史 国際的に見た社会的養護の歴史 子ども観の深まりと社会的養護	(内 容) 社会的養護の歴史的な背景について理解する。 (必要な準備) 子ども観の歴史的な変遷について関連の資料を読む。	
第6回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの(1) 入所理由の主なもの 入所理由の背景にあるもの	(内 容) 入所理由の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 児童養護施設に関する資料を調べておく。	
第7回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの(2) 児童虐待について 児童虐待の背景にあるもの 児童虐待を防止するために	(内 容) 児童虐待の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 新聞報道等の虐待に関する資料を調べておく。	
第8回	児童養護施設の子どもたちの姿について(1) 日々の暮らしの中で	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第9回	児童養護施設の子どもたちの姿について(2) 気懸かりな子どもたちの様子	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第10回	児童養護施設の子どもたちの姿について(3) 子どもたちの強さと優しさ	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第11回	児童養護施設の子どもたちの姿について(4) 子どもたちの思いと願い	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第12回	児童養護施設の子どもたちの姿について(5) 将来の進路を巡って	(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第13回	社会的養護の実際(1) 家庭養護(里親) Aちゃんの事例を通して	(内 容) 里親制度について理解するとともに、里親の果たす役割について理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。	
第14回	社会的養護の実際(2) 施設養護 ある児童養護施設が大切にしていること 社会的養護における保育者の役割と責務	(内 容) 社会的養護における保育者の役割と責務について理解する。 (必要な準備) 社会的養護のために自分に何ができるかをまとめておく。	
第15回	社会的養護の今後の課題 危惧される「マイナスの連鎖」を断ち切るために	(内 容) 危惧される「マイナスの連鎖」について理解する。 (必要な準備) 「マイナスの連鎖」について事前に調べておく。	

授 業 名	養護内容 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育2yg～yl			
授業の概要	社会的養護について理論的な内容を踏まえて説明するとともに、施設や里親家庭で生活する子どもたちの具体的な姿を紹介することにより、社会的養護の現状と課題を明らかにする。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 社会的養護の現状と課題を理解することができる。 2) 児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちの現状と課題を理解できる。 3) ソーシャルワークのできる保育者としての姿勢・態度・実践力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	安藤和彦・石田慎二・山川宏和 編著 『社会的養護内容演習』 建帛社							
参 考 書	適宜紹介する							
留 意 事 項	視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となります。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究日をのぞいて、研究室に在室していれば対応します。							

授 業 名		養護内容 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(内 容) 社会的養護の課題について (必要な準備) 保育実習を振り返っておく
第2回	社会的養護を利用する子どもの権利擁護	(内 容) 被措置児童等虐待について (必要な準備) 関心を持ってニュースなどを見る
第3回	社会的養護を利用する子どもの自立	(内 容) 進学や就職に伴う課題について (必要な準備) テキスト8章を読んでおく
第4回	里親養育の実際	(内 容) 里親養育の課題と現状について (必要な準備) テキスト13章を読んでおく
第5回	社会的養護の支援計画 記録と評価	(内 容) ジェノグラムとエコマップ (必要な準備) テキスト4章を読んでおく
第6回	社会的養護の支援計画 個別支援計画	(内 容) アドミッション・ケアについて (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第7回	社会的養護における日常生活支援 児童養護施設のインケア	(内 容) 施設入所前後の生活について (必要な準備) テキスト6章を読んでおく
第8回	社会的養護における日常生活支援 衣食住	(内 容) 児童養護施設の衣食住の生活について (必要な準備) テキスト6章を読んでおく
第9回	社会的養護における日常生活支援 障害児入所施設	(内 容) 障害児の個別支援計画と日常生活について (必要な準備) テキスト5章と7章を読んでおく
第10回	自立支援と退所後の支援	(内 容) 社会的養護児童の退所後の生活 (必要な準備) 税金や保険について調べておく
第11回	社会的養護にかかわる専門技術 衣食住など	(内 容) 課題を抱える児童の身辺的自立支援について (必要な準備) 実習日誌を見直し、テキスト9章を読んでおく
第12回	社会的養護にかかわる専門技術 学習支援など	(内 容) 課題を抱える児童の学習支援について (必要な準備) テキスト10章を読んでおく
第13回	対人関係・社会生活にかかわる専門的技術	(内 容) 社会の規範や性への対応について (必要な準備) テキスト11章を読んでおく
第14回	家庭支援のためのソーシャルワーク	(内 容) 親子関係再構築について (必要な準備) テキスト12章を読んでおく
第15回	里親委託児童の支援	(内 容) 里親委託と養子縁組について (必要な準備) 関心を持ってニュースを見る

授 業 名	施設養護論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Social Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	施設養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法 について学ぶと共に、施設や施設職員の役割を理解し、援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 施設養護を必要とする問題の発生状況と施設援助について理解する。 2) 子どもや親に対する支援について理解する。 3) 社会的養護の課題と将来像について理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	プリントを配付							
参 考 書	児童福祉法 児童虐待の防止に関する法律 社会的養護の課題と将来像(厚生労働省)							
留 意 事 項	前半は講義を中心に学び、中盤には事例により施設の現状を理解する。後半には事例を中心に援助の展開について学 ぶ。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		施設養護論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション・社会変化の理解	(内 容) シラバスの説明 家族観の変化と養護ニーズの理解 (必要な準備) 社会的養護についての事前学習	
第2回	家庭養育の現状の理解	(内 容) 家庭養育の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家族観の変化についての復習	
第3回	家庭養育支援の理解	(内 容) 家庭養育支援の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家庭養育の現状についての復習	
第4回	児童虐待の理解	(内 容) 児童虐待の現状について学び理解を深める (必要な準備) 児童虐待についての事前学習	
第5回	児童虐待とその対応	(内 容) 児童相談所機能の理解 (必要な準備) 児童虐待対応についての事前学習	
第6回	施設の理解 (DV被害者支援)	(内 容) 事例を通してDV (ドメスティック・バイオレンス) について理解を深める (必要な準備) DVについての事前学習	
第7回	施設の理解 (社会的養護の施設の理解)	(内 容) 社会的養護の施設について理解を深める (必要な準備) 社会的養護の施設についての事前学習	
第8回	社会的養護と課題と将来像の理解	(内 容) 社会的養護の課題と将来像 (必要な準備) 社会的養護の現状の理解	
第9回	社会的養護の課題と将来像の理解	(内 容) 家庭養護・家庭的養護についての学習 (必要な準備) 家庭的養護・個別対応についての事前学習	
第10回	施設の理解 (児童養護施設)	(内 容) 児童養護施設について理解を深め考察する (必要な準備) 児童養護施設についての事前学習	
第11回	施設の理解 (児童心理治療施設)	(内 容) 児童心理治療施設 (情緒障害児短期治療施設) について理解を深め考察する (必要な準備) 児童心理治療施設についての事前学習	
第12回	少年犯罪の理解 (事例を中心に)	(内 容) 事例を通して少年犯罪について考察する (必要な準備) 少年犯罪についての事前学習	
第13回	児童虐待事例検討 (身体的虐待・ネグレクト)	(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) ニーズと支援についての事前学習	
第14回	児童虐待事例検討 (性的虐待・心理的虐待)	(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) ニーズと支援についての事前学習	
第15回	振り返りとまとめ	(内 容) 施設養護についてのまとめ (必要な準備) これまでの授業の振り返りとまとめ	

授 業 名	保育所保育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Nursery School Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育所保育士としての保育力の向上を目指し、保育内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>造形表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。</p> <p>表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育内容を総合的に理解する。</p> <p>2) 保育実践力を高める。</p> <p>3) 保育計画が立案できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	随時プリントを配布する							
参 考 書	授業にて提示する							
留 意 事 項	受講人数、受講生の希望などで保育実践の内容を変更する。保育実践研究に必要な材料等は各自で準備すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に提示する							

授 業 名		保育所保育論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方を知る、保育所保育の保育内容・基本的原理の理解する (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)	
第2回	保育内容 1	(内 容) 保育所での保育内容について相互に理解する (必要な準備) 保育所実習での保育実践をまとめておく(30分)	
第3回	保育内容 2	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 保育所実習での保育実践内容をまとめておく(30分)	
第4回	保育内容 3	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 保育所実習での保育実践内容をまとめておく(30分)	
第5回	保育内容 4	(内 容) 保育内容や保育実践についてまとめた内容を発表する (必要な準備) 発表の準備をする(30分)	
第6回	保育所の役割の理解	(内 容) 保育所の役割を理解する、保育制度および現状の理解、保育ニーズの理解と問題点を理解する (必要な準備) 保育所の社会的役割について考えてくる	
第7回	保育実践 1	(内 容) 保育制作(おもちゃづくり)をする (必要な準備) おもちゃに必要な材料を用意しておく	
第8回	保育実践 2	(内 容) 素話を体験する (必要な準備) 素話を練習してくる(30分)	
第9回	保育実践 3	(内 容) 新聞紙あそびの体験をする (必要な準備) 新聞紙を持ってくる、新聞紙を使った遊びを考えてくる	
第10回	保育活動と指導計画の立案	(内 容) 指導計画を作成する (必要な準備) 保育活動、年齢を考えて指導計画を書いてくる(60分)	
第11回	ヒヤリハット	(内 容) ヒヤリハットについて理解するとともにその必要性を理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第12回	保育実践 4	(内 容) 簡単パネルシアター制作をする (必要な準備) 教材等の準備物をもってくる	
第13回	保育実践 5	(内 容) 子どものダンスを実施する (必要な準備) 動きやすい服装で参加する	
第14回	保育実践 6	(内 容) 乳児クラスでの手遊びを考えて実践する (必要な準備) 手遊びを考えてくる(10分)	
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の資質および人間性についてまとめ発表する (必要な準備) 春学期を振り返っておく	

授業名	子育て支援論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child-care Support			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	現代における子育ての現状を理解する。子育て支援の問題・課題を考え、今後どのような子育て支援制度が必要になってくるのか、また子育て支援を行っている人の専門性の向上にはどのような学びの場が必要かについても考える。							
学習成果到達目標	1) 現代の家庭の現状について理解することができる。 2) 子育て支援のあり方を学び、子育て支援の課題を考えることができる。 3) 子育て支援の事例を参考にして、具体的な子育て支援の方法を考えることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	使用しない。							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
留意事項	子育てについて自分の考え方を確立できるようグループ討議を行いながら授業をすすめる。子育て関係の新聞記事などを収集しておく(授業で発表する)。関係のビデオを視聴することによって子育てについての理解を深める。アクティブ・ラーニングでの授業展開を考えているので、必ず事前準備をしておくこと。							
オフィスアワー	初回に伝える。							

授 業 名		子育て支援論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方。授業の目標、評価について理解する。 (必要な準備) シラバスを読む。(15分)	
第2回	子ども・子育て支援策の特徴と課題について	(内 容) 男女共同参画について考える。 (必要な準備) プリントを復習する。(30分)	
第3回	ライフスタイルの選択・自立、結婚、出産について	(内 容) 自立とは。結婚、妊娠、出産について (必要な準備) プリントをまとめる(20分)	
第4回	ライフコースのパターン・子育てについて	(内 容) ライフサイクルにおける子育てについて (必要な準備) 課題を発見する(20分)	
第5回	働くこと・労働と子育てについて	(内 容) 働くこと・子育てをすること (必要な準備) プリントを読む。(20分)	
第6回	子育て環境について	(内 容) 子育て環境と女性の社会進出 (必要な準備) 働く環境を考える(30分)	
第7回	女性と家庭的責任について	(内 容) アンパイドワークとジェンダー (必要な準備) 家事労働を考える(30分)	
第8回	母子保健・妊娠、出産の支援について	(内 容) 母子保健と妊娠期の支援について (必要な準備) 支援方法を理解する(30分)	
第9回	日本の子育て観・3歳児神話、育児不安について	(内 容) 日本の子育て観、育児不安、障害児の育児 (必要な準備) プリントの要点をまとめる(30分)	
第10回	保育・働きながら子どもを育てるとは	(内 容) 保育所の現状と課題について (必要な準備) 保育所を理解をする(40分)	
第11回	保育所と待機児童等の問題について	(内 容) 待機児童問題と保育所以外の子育て支援について (必要な準備) 子育て支援の課題を発見する(30分)	
第12回	子育て支援・家庭で子育てをすることは	(内 容) 家庭で子育て・児童虐待等の問題 (必要な準備) プリントを理解し要点をまとめる(50分)	
第13回	子育て支援・社会が子育て家庭を支えるとは	(内 容) 地域での子育て支援について (必要な準備) 支援方法の概要を理解をする(30分)	
第14回	ひとり親家庭の養育問題について	(内 容) ひとり親家庭の支援策と養育問題 (必要な準備) プリント読み要点をまとめる(40分)	
第15回	本授業のまとめと振り返りをし、次に繋がる課題を見出す	(内 容) 支援施設と福祉の課題を学ぶ (必要な準備) プリントを読み要点をまとめる(30分)	

授業名	児童文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Children's Culture			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川北 典子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	多様性を極める現代の子どもをとりまく文化的環境のなかで、玩具や絵本など、乳幼児の身近な児童文化財については、それらを手渡すおとなの役割が重要となる。この授業では、保育教材としての児童文化財の活用・伝達の技術体得をとおして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。							
学習成果到達目標	1) 子どもの生活に密接にかかわる児童文化について、概要を知り、その重要性を十分に理解する。 2) 実際に保育現場で、絵本や紙芝居、おはなしなど種々の児童文化財を活用することができるよう、技術や方法を習得する。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (創作力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	『子どもの育ちを支える 児童文化』川北典子編著 あいり出版							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
留意事項	講義が中心であるが、適宜実技も取り入れる。常に子どもをとりまく文化的環境に関心を持つこと。							
オフィス アワー	授業終了後に実施する。							

授 業 名		児童文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	児童文化とは何か	(内 容) 児童文化の概念を理解し、考察を深める。 (必要な準備)	
第2回	現代の子どもの生活と文化・文化財	(内 容) 子どもの生活と環境について見直す。 (必要な準備) 自身の子どもの頃の生活や遊び環境を思い出しておく。	
第3回	児童文化財(絵本の創造)	(内 容) 絵本とは何かの認識を深め、概要を学ぶ。 (必要な準備) 子どもにとっての絵本の意義を考えておく。	
第4回	児童文化財(絵本の種類)	(内 容) 絵本の種類について理解する。 (必要な準備) 自分の好きな絵本を見つける。	
第5回	児童文化財(絵本の内容)	(内 容) 絵本の年齢や発達に応じた役割を理解する。 (必要な準備) 多くの絵本を読み、選択する。	
第6回	児童文化財(児童文学・詩)	(内 容) 幼年文学や詩について、概要を理解する。 (必要な準備) 幼年文学や幼児対象の詩を読む。	
第7回	児童文化財(おはなし)	(内 容) 口演童話・ストーリーテリングについて学ぶ。 (必要な準備) おはなしを覚える。	
第8回	児童文化財(紙芝居)	(内 容) 紙芝居と絵本の違いを理解する。 (必要な準備) 紙芝居を演じる。	
第9回	児童文化財(人形劇)	(内 容) 人形劇の歴史と概要について理解する。 (必要な準備) 人形劇について調べる。	
第10回	児童文化財(玩具・遊具)	(内 容) 子どもの発達に応じた玩具や遊具を知る。 (必要な準備) 自身の子どもの頃に遊んだ玩具や遊具を思い出しておく。	
第11回	指人形の制作	(内 容) 簡単な指人形を制作し、演じ方を身につける。 (必要な準備) 指定された道具や材料を用意する。	
第12回	児童文化施設	(内 容) 児童館や児童図書館、博物館等について学ぶ。 (必要な準備) 地域の児童館や児童図書館(室)について調べておく。	
第13回	児童文化活動(造形活動)	(内 容) 身近な素材で工夫して玩具を作る。 (必要な準備) 指定された道具や材料を準備する。	
第14回	児童文化活動(遊び)	(内 容) 子どもの発達における遊びの重要性を理解する。 (必要な準備) 子どもにとっての遊びの意義について考える。	
第15回	児童文化の展望と課題	(内 容) 児童文化にかかわる問題点と課題を考察する。 (必要な準備)	

授業名	保育実習指導 a			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	鈴木 えり子・藤井 裕子・名賀 亨・友本 喜代子・東野 洋子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	「保育実習」の事前・事後に行う学内指導。1回生の「保育実習」の保育所実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、保育実習（保育所実習）に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代の保育所を取り巻く状況や問題点を理解し、保育士としての資質や能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 保育実習の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「保育実習指導」でのテキストを継続して使用します（『保育実習』鈴木えり子編）							
参考書	随時紹介します							
留意事項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の習得状況及び出席状況によっては実習開始できないので注意すること。							
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。							

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		学習項目
		学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 保育実習 についての実習概要説明・講義の進め方 (必要な準備) 実習を終えてのレポート作成
第2回	保育実習 の目的・意義	(内 容) 保育実習 との相違点について(段階性を理解する) (必要な準備)
第3回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談	(内 容) 保育実習 の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる
第4回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる
第5回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習 (保育所実習)の振り返り	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録をもってくる
第6回	保育実習 (保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習 (保育所実習)の振り返り	(内 容) 保育実習 (保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習 の目的意識を高める。振り返りを通して、実習 課題を明確にする。 (必要な準備) 保育実習記録もってくる
第7回	実習生カードの作成・提出	(内 容) 実習生カードの作成 (必要な準備) 実習生カード作成に必要なものを用意する
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(内 容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観を理解する (必要な準備) 保育士の倫理についてまとめておく
第9回	保育実習 実習課題の確立	(内 容) 保育実習 の新たな課題を設定する (必要な準備) 実習課題を考えてくる(30分)
第10回	実習課題 添削・指導 個別相談・指導	(内 容) 実習課題の添削指導 個別相談・指導 (必要な準備) 実習課題を仕上げておく(30分)
第11回	実習記録の配布 説明	(内 容) 保育実習 の実習記録の配布、記録の説明 (必要な準備)
第12回	8月の保育内容 水遊びの指導 注意事項 指導計画の立案	(内 容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画の立案し実践に向けての準備をする (必要な準備) 夏の保育活動をイメージしておく
第13回	実習に向けて 実習の心得	(内 容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第14回	実習に伴う準備 書類の説明 質疑応答 個別指導	(内 容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第15回	訪問担当者との面談 相談 個別指導	(内 容) 実習訪問担当者との面談 個別指導 (必要な準備) 報告書等用意しておく

授業名	音楽療法概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Introduction to Music Therapy			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	坂口 みゆき			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における『音楽』の意義について説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房							
参考書	阪上正巳 (2015) 『音楽療法と精神医学』人間と歴史社 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房							
留意事項	毎回、テキストや配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で、授業に臨んでいただきます。ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。							
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授業名	音楽療法概論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) ・春学期の授業計画を説明する ・音楽療法士(2種)資格について説明する ・音楽療法で使用する楽器に触れる (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	音楽療法とは何か	(内 容) 音楽療法とは何か、国際的な共通認識を学ぶ。また、日本において音楽療法がどのように認識されているかを知る。その上で、本学で学ぶ音楽療法について理解する。 (必要な準備) テキスト p.i~p.ii 及び p.9~p.17 を読んでおく。
第3回	音楽療法の歴史と発展	(内 容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.1~p.3 を読んでおく。
第4回	音楽療法の4つのモデルと近年の新しいモデルについて	(内 容) 国際的に実践されている行動学的音楽療法・人間学的音楽療法・精神分析的音楽療法及びGuided Imagery and Musicについて概説する。また近年発展してきた音楽中心音楽療法・文化中心音楽療法・神経学的音楽療法についても概説する。 (必要な準備) テキスト p.3~p.5 を読んでおく。
第5回	音楽療法の「音楽」について	(内 容) 音楽療法における「音楽」について学び、一般的に理解されている「音楽」との違いを理解する。特に、「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (必要な準備) テキスト p.5~p.7 を読んでおく。
第6回	ワークショップ : 図形楽譜を使って即興する	(内 容) 図形楽譜を用いて、即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.5~p.7 と前回の授業のノートを読み返しておく。
第7回	発達の援助と音楽療法	(内 容) ニーズや障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.29~p.39 を読んでおく。
第8回	知的障害と音楽療法	(内 容) 知的障害を持つ成人の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第9回	ワークショップ : 絵を演奏する	(内 容) 絵を見ながら、即興的な音楽づくりを行う。 (必要な準備) 第6回の授業で学んだことを復習しておく。
第10回	精神疾患と音楽療法	(内 容) 精神障害を持つ人々の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.17~p.20 を読んでおく。
第11回	高齢者と音楽療法	(内 容) 高齢者の内的ニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.26~p.28 を読んでおく。
第12回	ワークショップ : 物語を演奏する	(内 容) 絵本などの物語を読み、即興的な音楽づくりをする。 (必要な準備) 第9回の授業で学んだことを復習しておく。 好きな絵本を持参する。
第13回	音楽療法の実践形態について	(内 容) 音楽療法の基本的な実践形態である個人療法とグループ療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.14~p.15 及び p.21~p.26 を読んでおく。
第14回	音楽療法の価値について考える	(内 容) ここまでの授業を振り返りつつ、即興的な音楽づくりを媒体にした心理療法である「音楽療法」の価値を改めて考える。 (必要な準備) テキスト p.195~p.202を読んでおく。
第15回	・ワークショップ : 「今」を演奏する ・まとめ	(内 容) ・「今」思いつくままに、即興で音を奏で、音楽づくりをする。 ・4回のワークショップを通して、即興的な音楽づくりが音楽療法の臨床で用いられる意義を考える。 ・春学期全体のまとめをする。 (必要な準備) 春学期の講義で学んだことを、ノートを読み返して復習しておく。

授 業 名	音楽療法各論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Advanced Music Therapy			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生			
授業の概要	国際的に実践・研究の進んでいる音楽療法のうち、特に即興的音楽づくりを媒体とする2つの音楽療法モデルについて、その理論的背景を学ぶ。また、各モデルに依拠した音楽療法の事例購読を通して、音楽療法臨床を具体的に知る。即興的な音楽づくりを体験的に学び、臨床の媒体とする意義を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 即興的音楽づくりを媒体とする音楽療法について、その理論の概要を説明することができる。 2) 即興的音楽づくりを、音楽療法の媒体とする意義を説明することができる。 3) 即興的な音楽づくりを媒体として、創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に演奏中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房							
参 考 書	藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』 ミネルヴァ書房							
留 意 事 項	テキストの指定箇所または配布プリントを読んでおくこと。ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名	音楽療法各論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) ・秋学期の授業計画を説明する ・即興的な音楽づくりについての復習 (必要な準備) 春学期の復習をしておく
第2回	臨床即興について	(内 容) 即興的な音楽づくりを、音楽療法において専門的に用いる「臨床即興」について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.67～p.81 及び p.96～104 を読んでおく。
第3回	ワークショップ : コラージュを演奏する	(内 容) コラージュを作り、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。 (必要な準備) 捨てても良い雑誌を持参する。
第4回	音楽療法の人間性心理学的アプローチについて	(内 容) 人間学的音楽療法の理論的基盤である人間性心理学の概要を学ぶ。また、人間性心理学に依拠した音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第5回	オルフ＝ムジークセラピーについて	(内 容) 人間性心理学的なアプローチの一つであるオルフ＝ムジークセラピーの概要を学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.51～p.65 を読んでおく。
第6回	人間学的音楽療法の事例を読む	(内 容) 人間学的音楽療法の事例を輪読し、考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第7回	人間学的音楽療法の事例を読む(続き)	(内 容) 前回の続き。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第8回	ワークショップ : 音楽を目に見える形で表現する	(内 容) いくつかの時代の音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・製作をする。 (必要な準備) 使用したい素材があれば持参する。
第9回	精神分析理論の概要	(内 容) 精神分析的音楽療法の理論的基盤である、精神分析の諸理論の概要を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	音楽療法の精神分析的アプローチについて	(内 容) 精神分析の理論に依拠した音楽療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p.105～p.127 を読んでおく。
第11回	精神分析的音楽療法の事例を読む	(内 容) 精神分析的音楽療法の事例を輪読し、考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第12回	精神分析的音楽療法の事例を読む(続き)	(内 容) 前回の続き。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第13回	ワークショップ : 絵を演奏する	(内 容) 絵を描き、それを即興的に音楽で表す。 (必要な準備) これまでのワークショップで学んだことを復習しておく。
第14回	ワークショップ : 即興創作と即興演奏	(内 容) クラスを2グループに分け、片方が即興的な音楽づくりをし、もう片方がそれを聞きながら創作をする。 (必要な準備) 前回のワークショップについてのミニレポート
第15回	秋学期のまとめとワークショップ : 年度終わりの即興演奏	(内 容) 秋学期学んだことのまとめと、グループ即興を行う。 (必要な準備) 前回のワークショップについてのミニレポート

授業名	からだのしくみ			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Mechanism of Human Body			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	介護2回生			
授業の概要	<p>人体の構造、機能および疾病についての基礎的事項を講義する。さらに、人体を器官系に分類し、関連する疾病群の解説をする。また、健康を維持するための基礎的注意点についても述べる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 人体の構造と機能の基礎的事項が理解できる。 2) 疾病の原因とその予防法について理解できる。 3) 健康の概念を理解し、生活に生かしていくことができる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	<p>医学入門 土田隆編者 建帛社</p>							
参考書	<p>使用しない</p>							
留意事項	<p>難解な医学用語、内容が多いので、毎回の予習および復習は必要である。</p>							
オフィス アワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							

授 業 名		からだのしくみ
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	身体の基本的構造	(内 容) 細胞の基本構造と種類 (必要な準備) 教科書 p.1-8を一読しておく
第2回	循環器系	(内 容) 心臓の構造と機能、血液およびリンパ液の成分と循環について (必要な準備) 教科書 p.13-16を一読しておく
第3回	循環器系疾患について	(内 容) 心臓と血液および血液の疾患 (必要な準備) 教科書 p.70-75を一読しておく
第4回	消化と吸収	(内 容) 消化と吸収のしくみ (必要な準備) 教科書 p.20-25を一読しておく
第5回	消化器系疾患	(内 容) 消化器系の疾患と症状について (必要な準備) 教科書 p.87-95を一読しておく
第6回	尿の生成と排泄	(内 容) 腎臓の構造と機能、排尿の仕組みについて (必要な準備) 教科書 p.26-28を一読しておく
第7回	腎・泌尿器疾患	(内 容) 腎臓、前立腺の疾患 (必要な準備) 教科書 p.95-97を一読しておく
第8回	呼吸器の構造と役割	(内 容) 呼吸器の構造と機能、呼吸の調節機能について (必要な準備) 教科書 p.17-20を一読しておく
第9回	呼吸器系疾患	(内 容) 呼吸器系の疾患 (必要な準備) 教科書 p.76-86を一読しておく
第10回	脳と神経のしくみ	(内 容) 脳・神経系の構造と機能 (必要な準備) 教科書 p.8-12を一読しておく
第11回	神経疾患	(内 容) 神経疾患の種類と原因について (必要な準備) 教科書 p.56-69を一読しておく
第12回	内分泌系のしくみについて	(内 容) 内分泌系の相互作用 (必要な準備) 教科書 p.29-33を一読しておく
第13回	内分泌・代謝系疾患	(内 容) 代謝疾患の種類と原因 (必要な準備) 教科書 p.98-102を一読しておく
第14回	感染症について	(内 容) 感染症の種類と原因 (必要な準備) 教科書 p.137-145を一読しておく
第15回	健康の概念	(内 容) WHO憲章から健康の定義について (必要な準備) 教科書 p.158-163を一読しておく

授業名	介護技術			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Nursing Care Work Skills			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	高岡 理恵			対象学生	介護2回生			
授業の概要	<p>利用者は各々の生活背景や生活史の違いによってさまざまであり、障がいのある人や高齢者の生活を理解する必要がある。介護の技術のみを習得するのではなく、なぜその方法をとるのかという根拠とともに、介護技術で習得した技術を生かし、食事、排せつ、清潔保持という応用的な介護技術を行う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1)自分が行った介護方法に対して人に根拠を説明できる 2)介護に必要な専門用語が理解できる 3)介護される立場にたった丁寧な介護技術が展開できる 4)利用者理解を行ったうえで、介護技術を提供できる</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	介護福祉士養成施設講座編集委員会「生活支援技術」、中央法規							
参考書	随時、プリントを配布します							
留意事項	実技室に入室するときには「介護技術」と同様、身支度を整えてください							
オフィス アワー	研究室に張出しします							

授 業 名		介 護 技 術
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	科目ガイダンス 感染予防	(内 容) 介護技術の進め方 感染の経路を知ったうえで予防の方法を身につける (必要な準備) テキストでわからない語句や、読み方を調べておく
第2回	食事介護 意義と目的、嚥下のメカニズム	(内 容) ビデオを見ながら嚥下のメカニズムを知る とろみをつけた食事を食べる 脱水、誤嚥の危険性を理解する (必要な準備) テキスト第4章「食事の介護」p188～198を読んでおく
第3回	おいしく食べることを支える介護	(内 容) 食事の工夫、食器の工夫、献立に興味を持ってもらえるような食事を考える 認知・知覚機能が低下している人の介助方法を身につける (必要な準備) テキストp199～210を読んでおく
第4回	利用者の状態・状況に応じた食事介護	(内 容) 感覚機能及び運動機能が低下している人の介助方法を身につける 視覚障がい者への食事介護の実践 片まひ者への食事介護の実践 (必要な準備) テキストp213～220を読んでおく
第5回	清潔保持の介護 理論	(内 容) 入浴の意義と目的を理解する (必要な準備) テキスト第5章「清潔の介護」p222～229を読んでおく
第6回	清潔保持の介護 全身清拭	(内 容) 入浴におけるリスクを考える 体調管理や環境整備をおこなう (必要な準備) テキストp230～235を読んでおく
第7回	清潔保持の介護 洗髪	(内 容) 洗髪を行う上での留意を知る 洗髪の介護を身につける (必要な準備) テキストp236～242を読んでおく
第8回	清潔保持の介護 障害に応じた入浴	(内 容) 様々な入浴形態を知る 入浴を行う上での留意を知る 入浴での配慮を身につける (必要な準備) テキストp243～247を読んでおく
第9回	清潔保持の介護 口腔ケア	(内 容) 口腔のしくみ、唾液の役割を知る ブラッシングの方法を身につける 義歯の取扱いを身につける (必要な準備) テキストp248～255
第10回	清潔保持の介護 足浴・手浴	(内 容) 手浴・足浴の介助方法を身につける 他のスキンシップの方法を知る (必要な準備) テキストp256～268を読んでおく
第11回	排せつ介護 メカニズムと排せつ障害	(内 容) 排せつのメカニズムを知る 排せつ障害を学ぶ 排せつに障害がある人の気持ちを理解する (必要な準備) テキスト第6章「排せつの介護」p270～262を読んでおく
第12回	排せつ介護 気持ち良い排せつを支える介護	(内 容) 様々な福祉用具とおむつの種類を見、選択方法を学ぶ (必要な準備) テキストp263～310を読んでおく
第13回	排せつ介護 安全・的確な排せつの介助の技法	(内 容) おむつ交換、ポータブルトイレの使い方を身につける (必要な準備) テキストp311～331を読んでおく
第14回	実技テスト(事例演習)	(内 容) 事例を読みこみ「その人」に必要な 介護を行う (必要な準備) 今まで学んだ技術の振り返りをしておく
第15回	介技術 のまとめ	(内 容) 事例の振り返りを行う (必要な準備) 実技試験での評価基準を参考にし、復習しておく

実習名	教育実習	対象学生	幼児教育学科2回生
担当者	下温湯 まゆみ・浅田 瞳・武田 康晴・堀出 雅人・石川 千加代・林 静香・藤井 裕子・山部 泰司・乾 眞理子・小川 隆昭・坂口 みゆき・山本 明美		
実習の概要	<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。(6月に2週間、9月に2週間の2回行う。原則として、同一園で2回実習を行う。)</p> <p>教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <p>1. 事前オリエンテーション</p> <p>実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。</p> <p>2. 参加実習</p> <p>担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。</p> <p>3. 部分実習・指導実習(研究実習)</p> <p>実習生が責任をもって指導計画を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習指導」(1回生秋学期、2回生春学期)を必ず履修していること。 ・「教育実習指導」の出席状況および各種レポート等の提出がない場合には、実習を中止することがあるので気をつけること。また、教職課程関係の授業の履修状況においても同様である。 		

実習名	保育実習 a	対象学生	幼児教育学科1回生
担当者	鈴木 えり子・藤井 裕子・武田 康晴・名賀 亨・箱田 成司・日永 よし子・浅田 瞳・乾 眞理子・小川 隆昭・坂口 みゆき・堀出 雅人・山部 泰司・山本 明美		
実習の概要	<p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <p>実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児(利用者)に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。特に保育所実習では部分実習を行うことを目指します。</p> <p>実習先でのオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。</p> <p>実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。</p> <p>保育所実習</p> <p>公立・私立の認可保育所(幼保連携型認定こども園を含む)で行う。</p> <p>実習時期は1回生の2~3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上(10日間以上)</p> <p>通勤による実習</p> <p>実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。</p> <p>施設実習</p> <p>児童福祉法に定められる児童福祉施設等で保育所以外の居住型福祉施設で行う。</p> <p>実習時期は1回生の2~3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上(10日間以上)</p> <p>原則宿泊による(一部のみ通勤)による実習</p> <p>実習先の種別: 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者支援施設等</p> <p>実習先は学校で割り振り配属します。(個人的な事情等については事前に申し出ること配慮します)</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・保育実習指導(1回生春学期・秋学期)を必ず履修していること。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		

実 習 名	保育実習 a	対 象 学 生	幼児教育学科2回生
担 当 者	鈴木 えり子・藤井 裕子・名賀 亨・友本 喜代子・東野 洋子・浅田 瞳・乾 真理子・下温湯 まゆみ・山部 泰司・堀出 雅人・小川 隆昭・坂口 みゆき・山本 明美		
実習の概要	<p>「保育実習」は保育所での実習です。 「保育実習」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的にします。 乳幼児の実態を把握し、保育計画と実践とのかかわりや保育者の援助や対応について体験的に学ぶことを目的にします。 実習内容は保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行うことを最終目標とします。 保育実習に向けての学内授業である「保育実習指導」を必ず履修しておくこと。 実習保育所（園）の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。</p> <p>保育所（園）実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行うこと。「保育実習」の保育所実習先と同様とする（原則）。 実習時期 2回生の8月 実習日数 1日8時間以上、80時間以上（10日間以上）</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習」の実習を終了していること。 ・この科目が単位認定されるには、「保育実習指導」を必ず履修している必要があります。 ・「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		